隱語構成の様式并其語集

隱語構成樣式並に其語集

醫學博士　樋口榮

樋口榮博士は現在關西に於て民間稀に見る篤學の士である。同君は多年我教室に出入し、保護少年乃至犯罪少年に就て研究し、甚だ深き造詣を以て居られるが、此等の研究の餘業として、同君が多年熱心に蒐集せられた犯罪關係の隱語を、今回大阪府刑事課の補助で出版せらるゝ事となつた。

此出版に就ては、最初から私も多少の關係があつて、同君を二三の書店に紹介したけれども、此の如き非採美的な出版は何處も引受けてくれない、私も多少之に就てアセリ氣味であつた所、畏友甘粕辯護士の御盡力によつて、前記の樣な有樣で、世に出る樣になつたのは、非常に喜ばしい事である。

本書の價値に就ては、多少手前味噌になる氣味があるから喋々しないが、我邦に於て此種

の著述が非常に少い時に當り、本書は犯罪學上非常な參考になると思ひ、その出版を祝福するものである。

或は隱語の如き流轉變化の甚しいものを出版した上に、公然のものとなつたらその効果が少なからうと云ふ人もあるだらふが、本書は勿論公衆に販賣する積りで、出版せらるゝものでもなく、或は隱語が假令流轉變化しようとも、隱語史上本書は重要なる役目を演ずるものであると信じて、私は本書に大なる期待をかけて居るものである。

昭和九年十月

京都帝國大學醫學部法醫學教室に於て
醫學博士　小南又一郎　識

序

樋口博士ハ云ハヾ自由研究家的特種ノ學者ニシテ、屢々獨特ノ慧眼的着想ノ下ニ他ノ追從ヲ許サヾルガ如キ研究ニ多大ノ犧牲的努力ヲ拂ハレ、又時ニハ他ノ學者ノ敢行シ得ザルガ如キ諸種ノ行爲ヲモ敢テシテ研究ニ勉メラル。既ニ多數ノ研究業蹟ヲ發表サレ殊ニ法醫學、犯罪學、不良少年保護等ノ方面ニ於テ、學界ノタメ又社會ノタメニ貢献サレシ處少ナカラズシテ、予等ハ諸種ノ點ニ於テ其ノ研究態度ニ感服シ居ル處ナリトス。同博士ハ常ニ諸種ノ研究ニ沒頭サレ居ル傍ラ又隱語ノ如キ複雜ナルモノノ調査ヲモ仕遂ゲラル、眞ニ其ノ研究勢力旺盛ナリト云フベキナリ。本書モ亦同博士ノ特徵ト努力ノ結晶ニ他ナラズシテ、諸種ノ點ニ於テ其ノ特徵ヲ發輝サレ居ル處ナリ。殊ニ輓近文化ノ發達ニ伴ヒ或ハ世人ヲ瞞着セントシ或ハ法網ヲ潜ラントスル手段巧妙ノ度ヲ加ヘ、其ノ間隱語暗號等ノ用キラル、コト愈々盛

ンナルタメ司法關係者等ハ此ノ種ノ良書ヲ渴望シ居リシ處ト信ゼラル。此ノ時ニ當リ茲ニ同博士ニヨリ此ノ書ガ完成サレシハ洵ニ刻下緊切ノ好書ニシテ、斯界ニ稗益スル所蓋シ多大ナリト信ズベキナリ。予ハ同博士ト親交アル關係上茲ニ聊カ蕪辭ヲ述ベテ本書ヲ推奬シ同博士ニ敬意ヲ表ス。

昭和九年初秋

大阪帝國大學教授　中田篤郎

推薦の辭

醫學博士樋口榮氏異常兒童の調査に從事さるゝ事年あり、犯罪の硏査に關し發表されたる所亦尠かならず。此度『隱語集』を發行さる。昭和三年以來蒐集されたるものに係ると云ふ。其集語の多き、其範圍の廣き、發生系統の解説附加されある等、我等刑事警察人の參考となる所蓋し多かるべし。不敏を顧みず、敢て茲に推薦をなす所以なり。

昭和九年盛夏

大阪府刑事課長室にて

網島覺左衛門

隱語ヲ研究スルニ就テノ鄙見

何事ニヨラズ人事ノ秘密ハ常ニ周圍カラ之ヲ窺知セント努力スルモノデアル然シテ其結果ハ必然的ニ成就スルノガ常道デアル「天網恢々粗ニシテ漏サズ」ノ言葉モ矢張リ之カラ起ツタ戒ト思フ。

秘密ヲ嚴守スル筈ノ各國ノ暗號サヘ他國ノ人々ニ依テ釋明セラルルコトガ多イ犯罪者ニ於テモ彼等仲間ノ惡事露顯ヲ防グ爲メ、或ハ又未知ノ仲間ニ通ジンガ爲メ、隱語ナルモノヲ創製シタノハ古イ昔デアル、當時ノ捕吏ハ之ヲ知ツテ彼等ヲ捕縛シタリ、或ハ反社會的行爲ヲ未然ニ防ガフト努力シタコトモ其時代デアル。ソレガ丁度走馬燈ノヤウニ遷リ變ツテ現代ニナツタコトニ不思議ハナイ。

故ニ現代ノ犯罪者ガ常ニ警官ヨリ一歩進ンデ、古イ隱語ノ使用カラ惡事ノ露顯ヲ起サヌヤウ日々新シキ隱語ヲ作ルノデアル。

故ニ警察官ガ如何ニ苦心慘憺シテ一般隱語ヲ蒐集シテモ、字彙ノ編纂ノ終ラヌ先キニ既ニ半バ以上ハ陳舊トナルノデアル。

如斯彼等ノ常手段ヲ知ツタ上カラ之ヲ考ヘルト、徒ラニ在來ノ隱語ヲ暗記スルコトハ寧ロ彼等ノ笑ヒヲ招クモノデ、實際的ニ之ヲ知ランﾄスレバ少ナクトモ隱語ノ構成原則ヲ理解シ、自己ノ才能ト推理力ヲ以テ機ニ臨ミ其語義ヲ解スルコトガ必要デアル。

故ニ余バ本書ヲ公ニスルニ際シ其內容ニ就テハ特ニ、醫學ノ基礎ノ如ク組織學的解剖學的並ニ診斷學的ニ其構成ニ多クノ頁ヲ費シタノデアル。

北攝ノ寓居ニテ

編　者　識　ス

内容に就て

犯罪者と隠語、犯罪者は社會意志に反抗して反社會的の行爲を敢てするのであるから、その行爲に關した一切の意志表示には隠語を以てする事が必要である。

併し犯罪者間に於て、全く同様な隠語を有し、且つそれを通用して居るのではなく、關東には關東に於てのみ、關西には關西に於てのみ通ずるものを持つが如く、其處には矢張り、地理的の差のある事は云ふ迄もない。

然しながら、暗示性に富んだ彼等犯罪者の事であり、且つ又隠語も、根本的の差異でないのであるから、主要なる語彙さへ辨へて居れば、それで何處の地方へ行つても結構通用の出來るものである。

故に犯罪語を地方地方で全く別個のものとして分離して取扱ふ必要はなく、矢張り大体として全國的に通用出來ると見るのが妥當である。

又各地方の犯罪語傳播の中樞は刑務所であつて、偶發性犯罪者である所の放火、傷害、殺人、等の犯罪者も此所で、隠語の教授を受くるのである。

故に犯罪語を使用するものは、露天商人か、累犯者か、或はそれ等に近いものである事が領ける。

犯罪者と身振り語、猶此の隠語と竝行して注意すべき事は、彼等犯罪者の身振り語である。

一般人の身振り語、即ち表情動作は、幼稚であるけれども、犯罪者の身振り語は非常に發達せるもので、一つの表情にも複雑な暗示が含まれて居るものである。

往年著者が、朝鮮の某警察署に於て、身振り語を以て互に意志を通じて居る事を目撃したが、却々複雑な

るものである。
現在此の身振り語の調査が發表の域に達して居らぬ事を殘念に思つて居る。
以下、第一編に於ては、未知の隱語解讀に資せんが爲め、隱語の構成原則に就て、第二編に於ては、犯罪語を中心として各隱語の特徴及び、其等各隱語間の關係に就て述べて見る積りである。

目次

第一編

隱語の構成樣式

隱語、即ち「**カクシコトバ**」は、自己の情意志を完全に對者に傳え、且つ、局外者に對しては全く了解し能はざる言語であれば、隱語の使命は足るわけである。

故に外國語、若しくは古語は其の儘、隱語となる可能性は充分に存する。

之に反し、隱語にして其使命を滿足せぬ如きものは當然一般語と化して仕舞ふ事は明らかである。例へば犯罪語の、**インチキ**（詐欺賭博轉じて好手段の意）**イカサマ**（一般詐欺的行爲の意）等であるが、

これが一般化されて居る現今に於ては、最早隱語とは云へぬ。

又現今中流婦人に用ひられる女詞であるがこれは宮中の女房の使用したる隱語、女房詞から發生したもので、女房詞は隱語（かくしことば）として、充分其使命を果たしたものである。

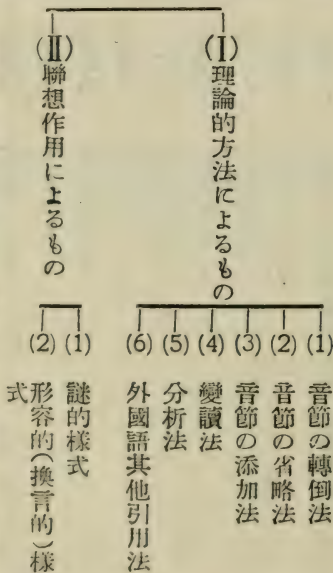
併かるにそれが敷衍されて、現今の女詞になつて見れば最早隱語とは云へぬのである。

（註、女詞には方言（京都附近の影響も可成り大である。
又此の語は標準語に採用されて居る語も尠くない。）

斯樣に局外者の了解し得ぬ言語を以て隱語とするならば、其處に何等かの手段を用ひて隱語を創造くる事が必要である。

此の手段を隱語の構成樣式と呼んで居る。以下其隱語の構成樣式に就て述べて見やう。

隱語をその構成樣式によつて分類すれば次の如くなる。

- (I)理論的方法によるもの
  - (1) 音節の轉倒法
  - (2) 音節の省略法
  - (3) 音節の添加法
  - (4) 變讀法
  - (5) 分析法
  - (6) 外國語其他引用法
- (II)聯想作用によるもの
  - (1) 謎的樣式
  - (2) 形容的（換言的）樣式

第(I)類の理論的方法によるものは、通常語、既製隱語等を基礎としてゐる構成樣式であつて夫等に種々の理

論的方法を講じてつくられたものである。

(1) は通常語及既製隱語の音節を顚倒したるもの、所謂、逆語である。

(2) は通常語及既製隱語の音節の省略したるもの、即ち略語である。

(3) は主として既製隱語に音節を添加するもの、即ち添加語である。

(4) は通常語其他の變讀をするもの

(5) は語句の分析をなすもの

(6) は外國語、方言、古語、等を使用するもの。

等の六種である。

(I)類の (1) 音節の轉倒、によるものは幼稚な構成樣式であるが用ひ方によつては、難解な隱語が出來る。代表的なものを列擧して見れば、

おか　顏を云ふ。

びた　旅を云ふ。

なし　品を云ふ。

こは　箱又は汽車、電車を云ふ。

れつ　連れ、即ち友人、仲間を云ふ。

くや　厄なる事、轉じて總て惡、醜、等の意に使ふ。

じけい　刑事を云ふ。

ばんか　鞄を云ふ。

ぶけい　警部を云ふ。

ぶけほ　警部補を云ふ。

じはん　判事を云ふ。

じけん　檢事を云ふ。

さりく　鎖を云ふ。

すたん　簞笥を云ふ。

ぶせう　勝負、即ち賭博を云ふ。賭博をなす事を「ぶせう ねる」と云ふ。

そくらう　蠟燭を云ふ。

がいきち　氣狂を云ふ。

かいまち　間違を云ふ。

さんたく　澤山なる事を云ふ。

にんやく　役人を云ふ。

さつけい　警察を云ふ。訛つて「さつけ」又は「お

つけ」と云ふ。警察官吏を「おつけふいさん」とも云ふ。

だいきやう　兄弟分を云ふ。

ばいしやう　商賣を云ふ。轉じて自己の商賣即ち「盗棒」を云ふ。

りゆうこう　拘留を云ふ。

じんきやく　客人を云ふ。

かやましい　八釜しいの意にて嚴格なる事、又は嚴格なる官吏を云ふ。

しんとくない「得心無い」事を云ふ。

これ迄擧げたものは皆通常語の顚倒であつたが次に既製隱語の轉換、即ち逆語を擧げて見る。

やさ　さや(鞘)の轉倒にして住居、居宅を云ふ

びころ　ころびの顚倒にして露天商人が大聲にて人を集め、物品を商ふ事を云ふ。

づきさか　さかづき(杯)の轉倒で、親分子分、或は兄弟分の杯(誓)をなす事を云ふ。或は單に杯の意もある。

以上によつて轉倒語の呼吸を、所謂こつを御了解出來た事と思ふ。

次に例題を二三、揭げて讀者諸賢の隱語解讀力の養成に資します。

どや。　べこ(地名)。　どえ(地名)。　ぺか。
わゆび。　つりま。　めんく。　やこん。　なしおと。
(不解の場合は辭書の部參照)

(2)音節の省略法は、前の轉倒語程には用ひられて居らぬ。

例を擧げれば、

さつ　警察を云ふ。

りつ　法律の書籍を云ふ。

なご　女子を云ふ。

フエ　カフエーを云ふ。言はずもがなフェなごとは女給の事。

はくい　舶來の意にて、總て、良、善、美、等の意を含む。

トライ　ストライキの事を云ふ。

ぎる　握るの意で、窃取する事、又は不正手段を云ふ。

こます　ごまかすの意で欺瞞する、誑かす、口說く、等の意。

がいしや　被害者を云ふ。

次に既製隱語の省略には、

どうろく　宿六(やどろく)の略にて主人、夫、の意。

う　き（浮）うきす（浮巣）の略にて船、舟、の意

いそい　いそあらい（磯荒い）の略にて危險なる事を云ふ。

たぎもの　たぎすもの　の畧にて、贓品を云ふ。たぎすは竊盜犯、の意である。

の　び　忍込(しのびこみ)の畧にて忍込竊盜犯を云ふ。

次に例によつて例題を掲ぐれば、

ざか、らく、ごや、はま、（以上地名）

ぱられる（警察へ引致される事にて「〇ッぱられる」の畧）

かまる（逮捕せられる事で「〇かまる」の略）

づ　く（警察官其他に察知せられる事で「〇んづく」の略）

（不解の場合は辭書の部參照）

猶亦、此の方法は、學生語にも多く用ひられるもので例へば、外國語を隱語とする場合に、

エフ（F）（Feminin）の畧にて女性を云ふ。

エツチ（H）（Husband）の略にて夫を云ふ。「ハズ」とも云ふ。

エム（M）（Money,或はMonthly-Water,）の略にて金錢或は月經の事を云ふ。

エス（S）（Sister或はSinger,或はSmo-king）の略で、女生間の同性愛の對照、或は藝者或は、中學生間にて煙草を云ふ。

等の如きものである。

(3)は音節の添加法である。此の方法は隱語の熟語をつくる場合に最も多く用ひられる構成樣式であつて、例へば此處に、しやり（飯又は食物を云ふ）と云ふ隱語がある場合、

あま（甘）**しやり**　菓子を云ふ。

なが（長）**しやり**　饂飩、其他の麵類を云ふ。

ホワイト（白）**しやり**　白飯、即ち米飯を云ふ。

又此處に、びら（衣服を云ふ。らんとも云ふ。）と云ふ隱語がある場合、

かく（角）**びら**　蒲團を云ふ。

うす（薄）**びら**　單衣を云ふ。

あつ（厚）**びら**　袷衣又は綿入れを云ふ。

ちり（塵）**びら**　足袋を云ふ。

おり（折）**びら**　袴を云ふ。

すい（水）**びら**　手拭を云ふ。

はん（半）**びら**　襦袢を云ふ。

ぴらかざる（飾る）着飾る事、盛裝する事を云ふ。

同様に　げそ（足を云ふ。）と云ふ隱語がある場合

げそあつめ（集め）人を集める事。又は雜踏を云ふ

げそをはやめる　急ぐ、足を早める事を云ふ。

げそがつく　足がつく事、即ち犯跡を發覺される事を云ふ。

げそぶくろ（袋）足袋を云ふ。

げそや　履物屋を云ふ。

同様に、

えんこぱん　えんこは手、ぱんは麵包にて、手麵包即ち握飯を云ふ。

猶又語呂の關係で、自然的に添加される場合が尠くない。

ためあらい　「あらため」の意で、身体檢査をされる事を云ふ。同語の轉倒、「ためあら」にいを添加したもの。

さいくい　（臭い）の意で、同語の轉倒「さいく」にいが添加されしもの。

かいぎん　「銀貨の意で、同語の轉倒、「かぎん」にいが添加されしもの。

等は此の例である。

例によつて例題を掲ぐれば、

きす　酒を云ふ。

ようきす。おにきす。あまきす。

（不解の場合は辭書の部參照）

(4) は變讀法である。之は普通語を漢字に當てゝ音讀するもの、或は訓讀するもの、或は音と訓とを混同したるもの、俗に云ふ「重箱讀」或は「湯桶讀」等をなしたるもの等である。

がん　眼を云ふ。

すい　水を云ふ。

がんすい　泪を云ふ。

しや　……身內、のもの、……一派のもの或は何處のもの、等のもの意で、者の音讀で、例へば、どえのしや、はまのしや、らくのしや、ざかのしや、べこのしや、等は夫々、東京の者、横濱の者、京都の者、大阪の者、神戸の者、等の意である又わんのしやとも云ふのがある。これは「椀の者」の意で乞食を云ふ。

しえん　インテリ間の隱語で、煙草を云ふ。紫煙の意である。

ぼくちん　木賃宿を云ふ。

あんぱく 木賃宿を云ふ。「安泊り」の意である。

くじゆう 糞を云ふ。糞を九十に通はせたもの。（八十の如く）

とーろく 十六の意にて小便を云ふ。（四四十六なるより。）

お　め 女學生間にて同性愛の對照を云ふ。

はぼく 植木屋を云ふ。葉木の重箱讀したるもの等、以上は其代表的なものである。

(5)は語句の分析法である。例を擧ぐれば

くの一 女を云ふ。女を分析すれば、「くの一」となる故。

おはな 女學生間にて先生或は、上級生に贔負される事を云ふ。花を分析すれば「ヒィキ」となるから。

じうさんや 櫛屋を云ふ。九四を合すれば十三となるより。又「じうさうや」とも云ふ。

キングポイント（KingPoint）玉の井を云ふ。玉を分析すれば王と丶、即ち、KingとPointである。

（東京不良青少年語）

文久錢 吝嗇家を云ふ。吝を分析すれば文と口になるより。

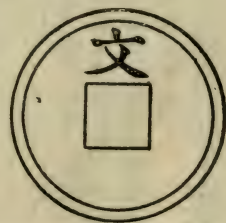
大　悅 大を分析すれば一人となる。一人で悅ぶ即ち手淫を云ふ。（僧侶語）

天　悅 天を分析すれば二人となる。二人で悅ぶ即ち男女交合する事を云ふ。（僧侶語）

まめぴーち 學生語にて頭を云ふ。例へば「彼氏豆頁がいゝからね」の如く頭を分析すれば豆頁となる。

ひこぴーち 同じく學生語にて顔を云ふ。顔の分析

以上の外、僧侶或は、北陸地方の犯罪者間に用ひられてゐる數詞の隱語に、

一を大無人	二を天無人
三を王無棒	四を西無一或は罪無非
五を吾無口	六を立無一
七を切無切	八を木無十或は釜無金

九を鳩無鳥或は丸無點
十を針無金或は干無點又は土無一
と云ふのがあるがこれも分析の一種と見る事が出來る。又隱語ではないが、
禁酒と云ふ事を、
林下ノ祖師現シ二半身ヲ一　水邊ノ尊者隱ス二頭脚ヲ一
と云ふのがある。

(6)外國語、方言、古語、等よりの引用によるものには
犯罪語中には外國語よりの引用は極く僅かで、

ごーる（Gold）　ごーるさくりと云へば金鎖。ごーるまんじゆうと云へば金側時計である。

きすまん（きすMan）きすは酒、まんは Man で酒醉者を云ふ。

びーどろ（Vidro）葡萄牙語 Vidro（硝子）より出たもので、眼を云ふ。硝子は眼の如くきら〱光るところから。

ぴ　い（娼）支那語、娼＝(ぴい)より出たもので、娼婦を云ふ。轉訛して「びり」とも云ふ

はうす（House）ぺーぱー師（贋造紙幣賣買に事寄せて金品を詐取する輩）用語にして、被害者を誘致し、機械其他藥品等の裝置等を見せる家を云ふ。

テケツト（Tecket）入場券を云ふ。（役者用語）

りやんこ（二）支那語、二＝(りやんこ)より出たもので、元來、二本差し、即ち侍の意であつたが、それより轉じて、警察署長、典獄、等を云ふ。

位である。猶、學生語には、

アナウンサー（Announcer）饒舌家を云ふ。

エスケープ（Escape）嫌な學科を無斷欠席する事を云ふ。

エスペラント（Esperanto）通人を云ふ。殊に女色方面に發展する事を云ふ。

ウンシヤン（Un-shön）醜人を云ふ。

カメレオン（Cameleon）氣の變り易い人を云ふ。

サンデークリスチヤン（Sanday-christian）外人と會話する目的で教會へ通ふ人を云ふ。

ジヤズ（Jazz.）喧騷なる人を云ふ。

ジプシイ（Gipsy）度々轉校する人を云ふ。

である。猶、不良青少年隱語には、

ア　ジ（Agitation）の略で搔拂ふ事を云ふ。

アツプ（Up）一寸失敬する事を云ふ。

イーチアザー（Each-other） 交互に鶏姦する事を云ふ。

スタンバイ（Stand-by）見惚れる事を云ふ。

バツクシヤン（Back-shön） 後辨天に同じく、後姿の美しい人を云ふ。

等位である。

其他、古語、方言によるものには、花柳語、役者用語、犯罪語、等に、僅かではあるが見る事が出來る

以上擧げたものは、第(I)類に於ける隠語構成上の基礎樣式であり、且以上の諸例は單一なる樣式により構成せられたものゝみである。が、併し二種或は、それ以上の構成樣式が組合つて出來てゐる隠語が少くない例へば、

ごな（婦女子の事を云ふ。）と云ふ隠語が、あるがこれは、なごの轉倒で、なごは又、「女子」の略語である。

即ちおなご ——→（省略法）なご ——→（轉倒法）ごな。の順に作られたものである。

又**なお**（ごなと同じく婦女子の事を云ふ。）と云ふ隠語があるが、これはなおんの省略で、なおんは又、おんな（女）の轉倒語で、ある。

即ちをんな ——→（轉倒法）なおん ——→（省略法）なおの順に作られたものである。

猶、このなおは又、なおすけ、とも稱する。これはすけ（助）を擬人的に取扱つた、一つの添加語である

又めんくや、と云ふ隠語があるが、

これは、めん（面の音讀にて顔の意）と云ふ隠語とくや（厄の轉倒語にて凡て惡、醜等の意）と云ふ語が連結したもので、

「顔が惡い」の意で、不美人、醜人、等の意である。

等の如くである。斯くの如く、第一類に屬する隠語の解讀に當つては、特に鋭い推理力と、細心なる注意力の要する事は云ふ迄もない事である。

第(II)類の聯想作用に依るものは、(I)と大いに異る構成樣式を持つものであつて、(I)は飽迄も普通語、既製隠語の加工を元とした に反して、(II)は聯想作用によつて生じた觀念を其儘、隠語として使用するものである。故に、(I)類に比して自由な立場に置かれたものであるから、其の構成せられる隠語も、使用者の環境、

思想等を如實にあらはして居て、却々興味のあるものである。

其の樣式を分けて次の二つとする。

(1) 謎的樣式
(2) 換言的（形容的）樣式

(1) の謎的樣式と云ふのは、恰度その樣式が謎の形式に似て居る處からかく名付けたもので、例へば、Aと云ふものゝ隱語を創くらんとするとき、そのAによつて過去の經驗Bが聯想され、そのBによつて、又Cと云ふ經驗が聯想された場合、そのCをAの隱語として使用する。

數式的に現はして見れば、

B＝C＝A
A＝B＝C

の如くで、更に實例を擧げれば、

鯡の隱語を控訴院と稱してゐる、これは、控訴院は第二審を審理するところからで、式解して見ると、

鯡＝二審
二審＝控訴院
控訴院＝鯡

で又、

鯡 ──→ 二審 ──→ 控訴院

の如くである。

以下此の樣式の例を擧げて見れば、

葱の事を神主と云ふ。（僧侶隱語）
葱 ──→ 禰宜 ──→ 神主
となつたものである。

香の物を師直と云ふ。
香の物 ──→ 高師直 ──→ 師直
「こうのもの」と「こうのもろ」の洒落である。

鰹節を卷紙と云ふ。（僧侶隱語）
鰹節 ──→ 缺（書）けば減る ──→ 卷紙。
鰹節、卷紙、ともにかけばへるからである。

無賃乘車（只乘）を薩摩守と云ふ。
只乘 ──→（薩摩守）忠度 ──→ 薩摩守、

無錢飲食の事を「ラヂオ」と云ふ。
無錢（飲食）──→ 無線（電話）──→ ラヂオ、

月賦拂をラムネと云ふ。
月賦 ──→ ゲツプ ──→ ラムネ
ラムネを飲むと「ゲツプ」が出るからである。

采賭博の事を「お大師」と云ふ。

釆賭博 ——→ 二十一（釆の目の合計） ——→ 二十一（弘法大師の命日） ——→「お大師」

釆の目、一、二、三、四、五、六、の合計の二十一を弘法大師の命日などに持つて來るあたり、流石に犯罪者の隱語である。

暗夜の事を「藥師の前」と稱して居る。これは、舊曆の八日前は闇夜で仕事（忍込窃盜）に都合がよいからで、八日は藥師の緣日であるから、即ち、

暗夜 ——→ 八日（藥師の緣日）前 ——→ 藥師の前

又同樣な意味で、暗夜を「地藏の後」と稱して居るこれも亦、舊曆の二十三日以後は暗夜で都合がよいからである。そして二十三日は地藏の緣日であるから。

丁半賭博を「熊坂」と稱して居る。

丁半（賭博） ——→（熊坂）長範 ——→ 熊坂

博奕打が泥棒の親分を引張り出すなどは些か方角違ひのきらひだが、

馬鹿者を「アッタ文」と稱して居る。

「アッタ」は數、八の意である、故に「アッタ文」は八文の意である。

馬鹿者 ——→ 八文（十文に少々足らん） ——→ アッタ文　である。

鼻を三月と云ふ。これは

鼻 ——→ 花（櫻） ——→ 三月

花札にて花、即ち櫻は三月であるから。

鞄を下の關と云ふ。鞄の轉倒語　ばかん　が馬關に通ずるからで、

かばん（鞄） ——→ ばかん（馬關） ——→ 下の關である

臺口の事を「兒雷也」と云ふ。

臺（口） ——→ 臺 ——→ 兒雷也

出獄する事を「退院する」と云ふ。

出獄 ——→ 自由な體になる ——→ 退院　である。

饅頭を新九郎と云ふ。

饅頭 ——→ 心黑 ——→ 新九郎

しんくろ（心が餡で黑いから）を新九郎と擬人的に用ひたもの、

同樣に牡丹餅を新四郎と云ふ。

心が餅で白い故に、心白を新四郎と擬人的に用ひたもので、

牡丹餅 ——→ 心白 ——→ 新四郎

である。

等の如くその形式が謎の樣式になつて居る所が、此の樣式の特徴である。

次は(2)の換言的（形容的）様式である。これは、Aと云ふ隠語を作らんとするとき、そのAによつてBと云ふ過去の經驗が聯想された場合、そのBをAの隠語として使用する

式解すれば、

A＝B

で、AとBとの間になんの仲介もなく、直ちに聯合するものであつて、前の謎的樣式の特別な場合とも見られるものである。（嚴密な意味では謎的樣式であるが）

そして、換言的、或は、形容的と名付けた所以は、作られたる隠語が、その結果から見て、卑近又は卑俗な言語に換えた、或は形容したに外ならぬからである

例へば、

風呂屋の事をザンブリと云ふが、これは、湯に入ると「ザンブリ」と音がするからで、即ち、風呂屋と云ふ言葉を、卑近な言葉、「ザンブリ」に換えたに外ならない。

式解すれば

風呂屋＝ザンブリ

で、前の謎的樣式の如く、三段的でなく、一段的に、短刀直入にやるのが、此の換言的樣式の特色である。

以下此の樣式の例を列擧すれば、

鼻を「三角」と云ふ。鼻が三角なる故、

時計を「饅頭」と云ふ。形が饅頭に似て居る所から

腹を「提灯」と云ふ。形が似て居る所から、

針を「松葉」と云ふ。形狀の類似から、

提灯を「照袋」と云ふ。照らす袋の意である。

又、蠟燭を「竿照」と云ふ。竿の如くで、照らすもの、の意味である。

雪降りを「厚化粧」と云ふ。雪の降り積りたる樣が、厚化粧に似て居る所から、又同樣に霜の降りたる事を「薄化粧」と云ふ。雨降りを「末晴れ（すゑはれ）」と云ふ「末には晴れる」と云ふ意である。

自動車又は自轉車を「はやぐる」と云ふ。「はやく走るくるま」の意で「はやぐる」と云つたもの。

醫師の事を「匙」又は「笹原さん」と云ふ。匙で藥

を調劑し、又鍼醫者の鍼と笹原とが聯合したものである。

煙草の事を「もや」と云ふ。煙草の煙が靄に似て居る所から

酒の事を「きす」と云ふ。きすは好の轉倒語で、酒を好まぬ者はない、皆好だ、との意より出たもので又いたみ（伊丹）とも云ふ。

これは和酒の名釀造地、伊丹を聯想したものである

そして飲酒する事を、「きすひく」或は「いたけづる」と云ふ。が、このいたけづるはいたみのいたを「板」に通はせて、「板削る」と云つたもの。

船又は舟を「浮巣」と云ふ。浮いてゐる巣（家）だから　搜査する事を「がさ」と云ふ。「がさ〳〵」させるからである。

判事の事を「大王」、檢事の事を「閻魔」と云ふ。何れも死後の裁き人を聯想したものである。

辯護士の事を「佛」又は「こまし」と云ふ。佛は、「地獄で佛」の比喩から出たもので、「こまし」は「こます」の名詞化したもので、胡魔化す人と云ふ意である。

又辯護士を「青鬼」、檢事を「赤鬼」とも云ふ。

看守の事を「猿廻し」と云ふ。囚人を猿に見立てたものである。

脫獄する事を「自由廢業」と云ふ。自由に服役を廢すると云ふ意より出たもの。

暴動を「ハッパ」と云ふ。「ハッパ」は火藥爆破の俗稱である。

竊取行爲を「あきないする」と云ふ。

自己の商賣は泥棒だから、竊取する事を、「商ひする」と云つたもの。

裁判所又は警察署を口入屋と云ふ。刑務所を世話して吳れるから

刑務所を、「母屋」又は「本家」或は「六四」と云ふ。これは、何時も「世話になる」と云ふ親しい（？）氣分と、警察の留置場に對して「本家」であり「母屋」であるから又「六四」と云ふのは、刑務所の飯が米六分麥四分であるからで、之に對して、留置場を「假六四」と云ふ。

又留置場を「豚箱」と云ふが、これは、豚小屋の樣に穢ないと云ふ意味である。

二階の事を、「お輕」と云ふ。これは

假名手本忠臣藏七段目に、お輕が二階で延鏡をして

居るから
放火犯を「お七」と云ふ。「八百屋お七」より
財布の事を「與市」と云ふ。與市兵衛の「縞の財布」から出たもの
鐵砲を「定九郎」と云ふ。定九郎が鐵砲で與市兵衛を射つたから
又チーハー賭博の題目記載紙から出たものには、月を月寶（げつぽう）、雷を天申（てんしん）、隱門を吉品（きつぴん）隱莖を元貴（げんき）蛤を合貝（ごうがい）、轉じて密賣春屋を合貝屋と云ふ。靴を九官（きゆうかん）、轉じて靴專門窃盜を、九官引（きゆうかんびき）と云ふ。犬を福孫（ふくそん）と云ふ。轉じて警察官をも云ふ。
等である。

結論

以上によつて隱語の構成樣式の大略を御了解された事と思ふ。
　併しながら以上の分類は、「隱語とは斯樣のものだ」と云ふ事を御了解して戴く爲めに、分けたものであつて、未知の隱語を解讀する際に、一々これに當嵌めてなせと云ふのではなく、
　唯諸賢の推理力を以て、上述の事を參考として、生かして、使用して戴きたい。
　猶、隱語を解讀するに當つて、注意すべき事は、飽迄も隱語使用者の環境、思想、等を充分に考慮に入れて戴きたい。

第二編

現在の隱語

現在使用されて居る隱語を擧げて見れば、
犯罪者及露天商人等に使用されて居る犯罪語、
舞台俳優、並に落語家、等に使用される役者用語
商業者に使用される商用隱語
花柳界、及其の道の通人に用ひられる花柳語
不良青少年に用ひられる不良青少年語
等が其の主なるものである。猶、之等諸隱語と密接なる關係を有する過去の隱語は、
僧侶間に使用されし僧侶隱語、（現今でも少數の僧侶間に用ひられて居る。）
宮中の女房の使用したる女房詞、及びそれが敷衍して廣く中流の婦人に使用される女詞
等がある。又、此の外に男、女、學生語がある。これは、不良青少年語へ可成り大なる影響を與へるものであるから、序に述べる事とする。

又女詞は現今、標準語に採用されて居る位であるから最早、隱語ではない、併しながら、花柳語等への影響を考慮して、參考に迄擧げて置く、

次に之等諸隱語の個々に就て、又其等隱語間の關係に就て述べて見やう。

● 僧侶隱語

此の僧侶隱語は寛永五年、安樂菴策傳の手になつた醒醉笑に

坊主いつも、鮎の名を剃刀とつけて、箱に入れてもとむるを、常の事なれば、小者よく知りたり。ある時彼僧河を渡るに、
鮎の多くありくを見て、小者後より「御坊樣、いつも秘藏して、こなたの入物にある剃刀がありくに、足を切り給ふな」と云ひければ、坊主、今は八月なり、剃刀がいかほどあると錆ようほどに、足は切れまいぞといへり。

昔より八瀬の寺は禁酒なり、寺中に酒を好む僧のたくみて、經箱をさゝせ角をとり、いかにも結構に塗らせ、上に五部の大乘經と書きつけ、それをかよひ

にしけり。
酒をとりて來るに、人「それは」と問へば、「是は五部の大乘經なり、京にいたゞかん事を願ふ檀那あり、其故に折々もちてゆきかよふ」とこたふ。あまり京がよひのしげければ、人あまねく推してけり。
ある時内の者、經箱をもち歸る途中にて酒のにほひをきゝ、飲みたさやるせなし。そと經箱の口をあけて頂戴せり。そろ〳〵寺にかへるに、「それはなんぞ」「常の如く經にて候ふ」といふ。「さらばちこいたゞかん」とて手にとりふりて見「まことにお經やらん、内に五ぶ〳〵といふ聲がする」

とあるから少くともそれ以前に發生したものである事が判る。

大体戰國の末頃と思はれる。次にその主なるものを擧げて見やう。

あ　か（閼伽）　酒を云ふ。
いさん（潙山）　牛肉を云ふ。
うしのつの（牛の角）　鰹節を云ふ。
かうはうのひん（孔方ノ兄）　金錢の事を云ふ。孔の方形なる意であつて、兄は唐音にてひんと云ひ一種の敬語である。犯罪語にて金錢の事をひんと云ふが此の語より出でしものか、

かうやしんぎやう（高野心經）　若僧などゝ男色關係を結ぶ事を云ふ。般若心經に「色即是空、空即是色」とある色を色慾に通はせたもの。
かみそり（剃刀）　鮎を云ふ。
かぼさつ（歌菩薩）　藝者を云ふ。
きよろくむすめ（曲彔娘）　僧侶と通ずる女を云ふ。曲彔とは僧の腰掛の事。
ごまず（護摩酸）　酒を云ふ。
さいどする（濟度する）　婦女子を口說き落す事を云ふ。
じきにく（食肉）　肉を喰ふ事を云ふ。
しつとうのてん（出頭の天）　夫の事を云ふ。天の頭が出れば夫なるより。又此の語は女學生にも用ひられる。
しゆざ（首座）　鯛の事を云ふ。
しろなす（白茄子）　卵の事を云ふ。
せうもん（聲聞）　利己主義者を云ふ。聲聞は自證ので、利他の行をなさぬ故。
ぜんなんし（善男子）　男色關係を結ぶ少年の事を云ふ。
ぜんによ（善女）　情交關係を結ぶ婦女子の事を云ふ
だいえつ（大悅）　手淫の事を云ふ。大を分析すれば一人となる、即ち一人にて悅ぶ意である。

だいこく(大黒) 僧侶の妻又は妾を云ふ。川柳に、「大黒と呼ぶは釋迦も知らぬ智惠」と云ふのがある。

てんえつ(天悅) 情交をなす事を云ふ。天を分析すれば二人、即ち二人にて悅ぶ意。

てんがい(天蓋) 蛸を云ふ。又千手觀音とも云ふ。

ながそで(長袖) 神主を云ふ。
之に反し神主が僧侶をばかみなが(髮長)經をばそめがみ(染紙)佛をばなかご(中子)塔をアララギ、寺をかはらぶき(瓦葺)等と云ふ。

たんぶつ(歎佛) さしみ(刺身)を云ふ。

まきがみ(卷紙) 鰹節を云ふ。書けば(缺けば)減るより。

め　う(妙) 僧侶の妾を云ふ。醒醉笑に
或る檀那寺に參りしばらく雜談し、たちさまに「明日無菜の齋を申さん」と云へば、庫裡からめうが楚忽に出ていひける、「幸の事や明日はお坊樣の精進の日ぢや」とある。又めうは妙で分析すれば少女となる。

とつこ(獨股) 男根を云ふ。獨股杵は金剛針の意味で、諸物を貫く意。

とつこかじ(獨股加持) 情を交す事を云ふ。獨股杵を以て加持祈禱する意。

以上擧げた僧侶隱語を見ると、矢張り文字を辨へたものゝ隱語だけであつて、自ら文理のある事は見逃せぬ事である。

●商用隱語

鈴木煥卿の撈海一得に
「卑賤ノ賈人、價ノ高下ヲ傍人ニ知ラシメザルタメニ、數目字ノ隱語アリテ、開省スル事アタハズ。七ヲさいなんト云、五ヲげんこト云フガ如シ」
とあるが、これを見ても判る樣に、商人仲間で使用される隱語であるから、主として數値に關して居る事は當然と云へやう。

又商用隱語の中で、凡て數値に關して居る隱語を通り附諜と稱して居る。

此の通り附諜を商用隱語の如く觀る人も尠くない。
(通り附諜は商用隱語の一部分である)

併かし商用隱語には他の隱語と同樣、數値に關せぬ

隱語、例へば、物品、動作、人物、等の隱語のある事は論を俟たぬ。

此の數値に關せぬ隱語は辭書の部に委すとして、次に各種の通り附諜を擧げて見やう。

業別／數値	乾物雜穀商	白米商	古着商	海産物商	藝人	荒物商	○魚行商	鹽魚商	料理屋	古本商	△呉服商	陶器商
1	ア	ア	フ	ヤ	ヨ	ツ	サ	ヨ	ネ	オ	元(モト)	分
2	キ	キ	ク	ス	ノ	ル	リ	ワ	コ	コ	千(セン)	厘
3	ナ	ナ	ワ	ク	ナ	カ	ト	ミ	カ	ソ	原(ハラ)	貫
4	イ	イ	キ	ウ	カ	メ	ワ	ナ	ジ	ト	勇(ユウ)	斤
5	タ	ノ	タ	レ	ハ	マ	オ	タ	レ	ノ	吉(ヨシ)	兩
6	カ	メ	リ	ヨ	フ	イ	モ	カ	キ	ホ	大(ダイ)	間
7	ラ	デ	メ	ロ	タ	ア	シ	ラ	ヤ	モ	才(サイ)	丈
8	フ	タ	デ	コ	リ	ソ	ロ	フ	ク	ヨ	末(スエ)	尺
9	ネ	サ	タ	ブ	ヅ	ブ	イ	ネ	ヨ	ロ	平(ヒラ)	寸
10			ヤ		レ					ヲ	川(カワ)	
100												

印	業種	一～五	六～十	備考
○	茶商	ノ　和(ワ)　山(ヤマ)　レ　○(マル)	㊀(ベー)　吉(キチ)　〆(シメ)　申(モウス)	
○	材木商、大工職	本(ホン)　ロ　ツ　ソ　レ	タ　ヨ　山(ヤマ)　キ	
	紙商（關東）	イ　コ　ヨ　キ　久	位　ホ　チ　リ　ク	正
	紙商（關西）	エ　チ　セ　テ　ホ	ウ　折　ヨ　ア　○(トヒ)	ル(ナラビ)
△	木綿商	土(ツチ)　下(シタ)　寺(テラ)　年(トシ)　イ	春(ハル)　ホ　大(ダイ)　久(キユウ)	
○	鰻商	チ　リ　川　月　丁(チヨウ)	天　カ　ツ　○(マル)　チ(チ)○(マル)	
○	川魚商	千(せん)　リ　川　月　長(チヨウ)	天　カ　ツ　丸(マル)	
○	旅館	し横(シヨコ)　い横(イヨコ)　川横(カワヨコ)　月横(ツキヨコ)　万棒(マンボウ)	天棒(テンボウ)　はか横(ハカヨコ)　鳩むかい(ハトムカイ)　うらさ	
○	小間物商	人　平　生　丸　力	モ　ノ　片　リ	
○	僧侶	大無人　天無人　王無棒　西無一羅無非　吾無口	立無一　切無刀　木無十釜無金　鳩無鳥丸無點　土無一千無點針無金	
○	藥、砂糖、繪具商	｜(タニ)　‖(リヤン)　川(サンナ)　メ(スウ)　〥(ウー)	〦(ロマ)　〧(チパ)　〨(パマ)　文(キユ)	
○	荒物、履物、疊職	大(ダイ)　∧(ヤマ)　△(ウロコ)　×(ツヂ)　⊽(カタリ)	⧖(リユウ)　⧖(シヤク)　⧖(ヌゲ)　久(キユー（スケ）)	
△	酒商	ボウズ　リヤン　ウロコ　ツヂ　チテ	リヨウ　チエ　ハン　キヮ	

印	職業	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	
△	干魚商	丁(チョウ)	イ(ニンベン)	△(ウロコ)	非(イゲタ)	メ(ノジ)	｜(ボウ)	ナ(ナ)	ハ(ハン)	久(キュー)		
○	魚商	丁(チョウ)	イ(ニンベン)	△(ウロコ)	だり	メ(ノジ)	ト(ボウ)	な(セイナン)	は(バンドウ)	きわ		
	藝人、理髪師	へい	びき	やま	ささき	かたこ	さなだ	たぬま	やはた	きわ		
○	青物商	よろづ	だり	げた	だう	がれん	いで	せいなん	ばんどう	きわ	ちよう	
○	料理人、妓夫	よろづ	じの字	げた	だり	メ(ノジ)	ろんじ	せいなん	ばんどう	きわ		
△	魚商	そく	ぶり	きり	だり	メ	ろんじ	せいなん	ばんどう	きわ	丁(ちよう)	にんべん けた
○	漬物、青物商	つべ	ぶく	きく	だり	がれん	ろんじ	せいなん	ばんどう	きわ	ごて	
△	車夫、馬車輓	ねじ	じば	やみ	だり	げんこ	ろんじ	せいなん	ばんどう	きわ	ごて	
△	植木商	てき	ばら	うろこ	まや	丁半	ろんじ	せいなん	ばんどう	きわ		
△	車夫	てん	じはせん	やみしう	だれ	げんこ	小六	ほし	ばんどう	きわ		
○	露天商	やり	ふり	かち(ちか)	ため	しづか(おて)(づか)	みづ	おき	あつた	きわ(がけ)(あぶない)	やりな	やりびやく

右の中、○印、△印、以外のもの、殊に初めの方の―アキナイ、云々などの類は使用者の範圍が非常に狹い

もので、従つて夫等は我々にとつて價値の少ないものである。

△印は使用者の範圍が比較的廣く、又〇印は使用者の範圍が可成り廣いものである。故に其の中一二のものに就て述べて見やう。

藥、砂糖、繪具商、雜貨商、の通り附課は前述の如く次表の通りである。

附課	〡	〢	〣	〤	〥	〦	〧	〨	〩
數値	一	二	三	四	五	六	七	八	九

附課	十	り	チ
數値	十	百	千

此の附課は支那商人の用ふる俗字、南京附課を其儘拜借したものであつて、此の附課を用ひて値段等を表わす場合には縦に書き續ければよいのである、例へば〢〥、（二拾五錢或は二拾圓）〡〤〇、（一圓四拾錢）〡〣〧〇、（十三圓七十錢）り〣〇、（百三十圓）千〧〇〇、（千七百圓）等の如くである。（支那商人は縦書でなく、横書である。）

次に我々に最も價値のある、露天商人の通り附課、即ち、犯罪者の通り附課に就て述べて見る。前々表に示した事ではあるが、更に詳細に表にすれば

數	一	二	三	四	五	六	七	八	九
附課	ヤリ	フリ	チカ カチ	タメ	シヅカ ヅカ オテ	ミヅ	オキ	アツタ	キワ ガケ アブナイ

數	一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇
附課	ヤリナ	フリナ	チカナ カチナ	タメナ	ヅカナ オテナ	ミヅナ	オキナ	アツタナ	キワナ ガケナ

數	一〇〇	二〇〇	三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	八〇〇	九〇〇
附課	ヤリ百	フリ百	チカ百 カチ百	タメ百	ヅカ百 オテ百	ミヅ百	オキ百	アツタ百	キワ百 ガケ百 アブナ百

以上の如くである。

猶金額に就ての附課は、

位／數	一	二	三	四	五	六	七	八	九
錢位（百（ひやく）或（錢（せん）））	ヤリ百（ひやく） ヤリ錢（せん）	フリビヤク フリセン	カチビヤク カチセン チカビヤク チカセン	タメビヤク タメセン	シヅカビヤク シヅカセン ヅカビヤク ヅカセン オテビヤク オテセン チコウ	ミヅビヤク ミヅセン	オキビヤク オキセン	アツタビヤク アツタセン	キリビヤク キリセン ガケビヤク ガケセン アブナビヤク アブナセン
拾位（貫（かん））	ヤリ貫（かん）	フリ貫	カチ貫 チカ貫	タメ貫	テブ貫 オテ貫 テブ	ミヅ貫	オキ貫	アツタ貫	キリ貫 ガケ貫 アブナ貫
圓位（兩（りやう））	ハイ兩（りやう）	フリ兩	カチ兩 チカ兩	タメ兩	シヅカ兩 ヅカ兩 オテ兩	ミヅ兩	オキ兩	アツタ兩	キワ兩 ガケ兩 アブナ兩
拾圓位（ナバイ）或（十パイ）	ヤリナバイ ヤリ十パイ 十パイ チギリヨウ	フリナバイ フリ十パイ	カチナバイ カチ十パイ チカナバイ チカ十パイ	タメナバイ タメ十パイ	ヅカナバイ ヅカ十パイ オテナバイ オテ十パイ	ミヅナバイ ミヅ十パイ	オキナバイ オキ十パイ	アツタナバイ アツタ十パイ	キワナバイ キワ十パイ ガケナバイ ガケ十パイ アブナ十パイ
百圓位（百パイ）	ヤリ百パイ 百パイ	フリ百パイ	カチ百パイ チカ百パイ	タメ百パイ	シヅカ百パイ ヅカ百パイ オテ百パイ	ミヅ百パイ	オキ百パイ	アツタ百パイ	キワ百パイ ガケ百パイ アブナ百パイ

である。

又、此の附諜の運用法に就て一言すると、

三圓八十錢ならば、カチ兩アツタ貫
五圓四十錢ならば、ヅカ兩タメ貫
　又は、オテ兩タメ貫
一圓九十錢ならば、ハイ兩ガケ貫
　又は、ハイ兩キワ貫
九圓三十六錢ならば、
　キワ兩カチ貫ミヅ百
　又は、ガケ兩チカ貫ミヅ錢
十圓二十三錢ならば、
　チギ兩フリ貫カチ百
又は、ヤリナバイフリ貫チカ百
又は、十パイフリ貫チカ百
七十二圓十錢ならば、
　オキナフリバイヤリ貫
　又は、オキフリバイヤリ貫

で次は

十五錢、七十五錢、の附諜は、夫々ヤリ貫ヅカ百、オキ貫ヅカ百、と考へられるが、これは駈出（かけだ）し者（一

人前でないもの、素人の域を脱せぬ者の意）の當て推量で、正しくは、ヤリチョウ、オキチョウ、こ稱する。つまり、十五錢、七十五錢等の如く、五錢が端下になる場合には、ヅカ百と云はずしてチョウと稱し、猶拾位の貫を略するのが普通である。即ち

フリチョウ、ミヅチョウ、　オテチョウ、ガケチョウ、等の如くである。又、同様に三圓五拾錢、六圓五拾錢、等の場合も、カチ兩テブ、ミヅ兩テブ、と稱して、拾位の貫を略するのが普通である其の他、一圓をハイ兩、十圓をチギ兩、十五圓をチギチョウ、等と稱する場合がある。又、一圓、二圓、三圓、四圓、……等を簡單に、一パイ（一杯）二ハイ（二杯）三ハイ、四ハイ……等とも稱する。

以上述べた露天商の通り附諜は、云はゞ犯罪語（露店商人語）の「いろは」であるから、これをこり違える如きものは、「駈出し者」こして侮蔑されるのが普通である。

猶、露天商人語（犯罪語）及び花柳語は、廣い意味の商用隱語であるが、これは別に一項を設けて後述する。

●役者用語

役者用語は操り人形師の樂屋詞（せんぼ或はさんしようと稱す）から出たものである。元來此の操り人形師は上代の賤民、河原者（京都鴨川の河原に小屋掛けして居た皮作りであつて、旁ら役者であつた者の稱）傀儡師、（人形使ひ、物眞似、手品使ひ、浮れ女、等の總稱）浮浪民、（野伏、野非人、山家（山窩）、山の者、等を稱され晝間は非人乞食を裝ふて、金品の豊富なる家を物色し、夜間强窃盗又は婦女誘拐等を働らく輩の事）夙の者、（隱坊、墓番の稱）等の中の傀儡師から發達したもので、せんぼも、之等賤民によつて其の大体が創られて居たものと思はれる。（其の證據として犯罪語中の山窩（前述、浮浪民）用語に多くのせんぼを發見する。）そして之が江戸時代（安永——文政）に至つて人形淨留璃の興隆と共に、其の道の通人に好んで用ひられ當時の諸隱語に多大の影響を與へたものである。今其の一部を擧げて見やう。

（式亭三馬作、浮世床、其他から抄錄）。

あ て（當）　飯の菜を云ふ。

いれる(入)　飲む事を云ふ。
うかし(浮)　船を云ふ。
う　き(浮)　船を云ふ。
ゑ　ご　子供又は息を云ふ。
ゑんこー(猿猴)　手を云ふ。
を　か　顔を云ふ。
おきんちや　客を云ふ。きんちやこも云ふ。
おやまこ　數量の三の意。
おゆき(御雪)　女を云ふ。
かたこ　數量五の意。
が　つ　情人。
かまる　行く。來るの意。
かめる　入れる事を云ふ。
が　り　娘を云ふ。嫁をも云ふ。
き　ら(吉良)　香の物を云ふ。きらこうづけのこうづけより來たもの。
き　わ　數量九の意。
きんじゆうろう(金十郎)　馬鹿を云ふ。
ぐ　る　帶を云ふ。
げんしろう(源四郎)　盜賊を云ふ。
こつぱ　眼を云ふ。

さいこー　飯を云ふ。
さ　さ(佐々)　數量四の意。
さゝき(佐々木)　同數量四の意。
さなだ　數量六の意。
さわやま(澤山)　澤山(たくさん)の意。
さ　ぶ(清三郎)　酒を云ふ。さぶろう、せいざ、等とも云ふ。
しこらへ　「拵へ」の意。
しこい　良い事を云ふ。
じ　ば　小便を云ふ。
しぶがら(澁殼)　茶を云ふ。
しやり(舍利)　飯の事を云ふ。(これを砂利と解するは誤りである。)
しんか　身代、我が家。
しんた(晉太)　金錢の事を云ふ。
じんた　味噌汁を云ふ。
じんでん　亭主、夫、を云ふ。
じんば　老婆を云ふ。
すけゑもん(助右衛門)　上等なる事を云ふ。
すけしろう(助四郎)　下等なる事を云ふ。
せいざ(清三)　酒を云ふ。
せぶる　寢る事、泊る事を云ふ。
ぜ　め　自分、私の意。

そくかけ（足掛） 妾を云ふ。
そつた 死去する事を云ふ。
そ る 歸る。行くの意。
たいかう 馬鹿者を云ふ。
たげる 買ふ事を云ふ。
だ れ 頭を云ふ。
ち く 口を云ふ。
つなぐ（繋） 見る事。
つないだ 見た事を云ふ。
つなげぬ 分らぬ事を云ふ。
づ る（弦） 三味線を云ふ。
づるかじり 三味線彈き又は藝者を云ふ。
やんま（山姫） 女郎を云ふ。
や ま（山） 數量三の意。
よ た（與太） 噓言を云ふ。
よりと 年寄り又は親爺を云ふ。
次は役者用語であるが、これは、せんぽの影響が可成り大であつたにも關はらずそれ程にも殘つて居らぬ左にそれを擧げて見る。
あ し 短き事を云ふ。浪花節などで「あしにたのむ」と云へば短く簡單に賴むと云ふ意である
あ な（穴） 芝居小屋の空いてゐる事を云ふ。

いたにつく（板に着く） 役がぴつたりと合ふ事、又は素人ばなれしたる事を云ふ。
いなりまち（稻荷町） 下廻りの俳優。
いれかけ（入掛） 開演中止の事、單にいれとも云ふ
いろもの（色物） 寄席の事を云ふ。
うづら（鶉） 芝居の下棧敷を云ふ。屋根が低く、鶉籠に似たるより。
うまのあし（馬脚） 下廻りの俳優を云ふ。良く馬の脚などになるから
ゑごろ 錢を云ふ。
おいこみ（追込） 大入滿員なる事を云ふ。
おーづめ（大詰） 大團圓の事を云ふ。
かぶり 終演する事を云ふ。
ぎしう（儀祝） 祝儀を云ふ。
き す 酒を云ふ。
きんちや 入場者、客を云ふ。きんとも云ふ。巾着より出でしものか
げんしろう 胡魔かす事、又は頭をはねる事を云ふ
ごにゆーらい（御入來） 浪花節かたりを云ふ。
し か 落語家を云ふ。はなしかのしかからか
しやだれ 藝者を云ふ。しやはげいしやのしやで、だれは女の意。

せ　い（淸）　酒を云ふ。
せ　こ　凡て結果の悪しき事を云ふ。
そ　ぎ　素人美丈夫を云ふ。
だいこん（大根）　技の拙劣なる俳優を云ふ。
たらう（太郎）　金錢を云ふ。晋太郎（しんたろう）の略。
だるま（達摩）　羽織を云ふ。
た　れ　女子、又は女子の陰部を云ふ。
たれぎだ　女義太夫語りを云ふ。
ちようちよう（蝶々）　女郎を云ふ。
ちようまい（蝶舞）　女郎買ひに行く事、遊興登樓する事。
づ　ま　奇術師を云ふ。手づましの略。
てけつ（Ticket）　入場劵を云ふ。
と　ら（虎）　酒に酔ふ事を云ふ。
とんび（鳶）　笛を云ふ。鳶の聲と笛の音の似たるより
にまつめ　色男の役をするものを云ふ。
のせる　食する事を云ふ。
のせもの　食物を云ふ。
はくい　凡て良好なる事を云ふ。
ばらす　終演せし事を云ふ。（犯罪語のばらす「殺人の意」はこの語より出づ。）

ばれる　雨天なる事を云ふ。
ひ　く（引）　飲む事を云ふ。引の音はいん飲の音もいん、之等相通ずる故、（此の語は犯罪語も用ゆ）
ぴつた　下足人を云ふ。
べくない（可内）　家内、即ち妻を云ふ。家内を可内にあてたもの
へ　み　無錢で觀覽する客を云ふ。
ぼうたら（棒鱈）　大根役者と同じく下廻りの俳優を云ふ。
ま　ふ（舞）　損をする事、又は豫定日まで興行の出來ぬ事を云ふ。
めんだい（面大）　長い事を云ふ。浪花節語り等が、めんだいにたのむと云へば長くたのむとの意
もうとる（舞取る）　賭博を開張する事を云ふ。
よすけ　鐘を云ふ。
ろせん　男子の陰部（男根）を云ふ。ろてんとも云ふ
わ　こ　妻を云ふ。

以上の役者（舞台俳優）用語を觀ると。せんぽに比べて、余程現代臭の存する事は爭はれぬ事實である又此語が、可成り、犯罪語に接近してゐる事も注目に價する。

●犯　罪　語

我々が最も關心を有し、興味を有するのは犯罪語である。又、そればかりでなく、犯罪語は實質上にも全蒐集隱語の大部分を占めてゐる重要なものである、で犯罪語と我々が一口に云つてゐるが此の中には

(1)露天商人及び凡ての犯罪者間に共通なるもの
(2)主として露天商人に用ひられるもの
(3)主として犯罪者間に用ひられるもの
(4)一部分の犯罪者間に用ひられるもの
　例へば、掏摸にのみ用ひられるもの、山窩にのみ用ひられるもの、詐欺犯にのみ用ひられるもの、博徒にのみ用ひられるもの、等が此の例である。

等が存する。

今此等の詳細は辭書の部に委すとして、次に其等の代表的なるものを擧げて見やう。
（それ〴〵の隱語の詳説は辭書を參照）

(1)の露天商人及犯罪者間に共通なるものとしては、
（これは犯罪語の大部分を占めてゐる。）

あおたあかもの（靑田赤物）　果物を云ふ。
あおち　風又は羽織を云ふ。
あかがいく（赤行）　火災を云ふ。
あつらん（厚衣）　綿入れを云ふ。らんは凡て衣服の意。
いそい　危險だとの意。
うすらん（薄衣）　單衣を云ふ。
うきす（浮巣）　船を云ふ。
えんこ（猿猴）　手又は指を云ふ。
おかるば（お輕場）　二階座敷を云ふ。
おやひげ（親鬚）　警察署長を云ふ。
かいな　仲居を云ふ。
がせつう　贋造通貨犯を云ふ。がせは贋物の意。
がせびり　密賣淫婦を云ふ。びりは娼婦を云ふ。
がせひん　贋造通貨を云ふ。
が　む　損をせし事を云ふ。がんだと云へば損したとの意である。
が　ん（眼）　眼を云ふ。
かんすい（甘水）　清凉飲料水を云ふ。
からす（烏）　炭又は墨を云ふ。
かんたん（邯鄲）　宿泊する事を云ふ。
き　す　酒を云ふ。
きすひく　飲酒する事を云ふ。
きすずれ　泥醉者を云ふ。

ぐにや（五二屋）　質屋を云ふ。
ぐにうけ（五二受）　質受けする事を云ふ。
ぐにつぐ（五二繼）　質入れする事を云ふ。
げそ　足を云ふ。
げそぶくろ　足袋を云ふ。
ける　逃走或は歩行する事を云ふ。
けんじと　見物人を云ふ。
けんぴ（檢非）　犬を云ふ。
ごろまく（語呂卷）　喧嘩する事を云ふ。
さりく　鎖を云ふ。
さんがつ（三月）　鼻を云ふ。
さんば　婆を云ふ。
しけ　結果の豫期に反せる事を云ふ。轉じて惡しき事を云ふ。
じけい（事刑）　刑事を云ふ。
しけのらん　木綿衣服の意、はくいらん參照。
しやげい（者藝）　藝者を云ふ。
しやり（舍利）　米又は凡ての食物を云ふ。
しやりつぐ（舍利繼）　食物を喫する事を云ふ。又、しやりほわえるとも云ふ。
じんきやく（人客）　客を云ふ。
すえばれ（末晴）　雨天を云ふ。
すえひろ（末廣）　扇を云ふ。

スクリン　アイスクリームを云ふ。
ずる　三味線を云ふ。
ずるかじり　藝者を云ふ。又は三味線彈きを云ふ。
ずんぶり　入浴する事を云ふ。
たかまち（高町）　大緣日を云ふ。
たれる　戀慕せし事を云ふ。
たんかばる　大聲を發する事を云ふ。
てつちる　毆打する事を云ふ。
てらぶくろ（照袋）　提灯を云ふ。
てんがい（天蓋）　帽子又は傘を云ふ。
てんてん　得意の絶頂を表示する感歎詞で普通前額部を叩きつゝ此の語を連呼する。此の語の反語はしけ〳〵である。
どうかつ（動活）　活動寫眞を云ふ。
どうろく（宿六）　主人を云ふ。どうろりとも云ふ。
どじ　芋を云ふ。
ながしやり（長舍利）　麵類を云ふ。
なご（女）　婦女子を云ふ。
なま（生）　現金、金錢を云ふ。
ねす　素人の意。
ねた（種）　種の意で、材料、商品、金錢等の意を含む。

はくい（船來） 凡て良き意。
はくすい（白水） 雪を云ふ。
はくいらん 絹衣類を云ふ。はくい、しけ、しけのらん等参照。
はこ 汽車を云ふ。
はやぐる（早車） 自動車を云ふ。
ひがば 便所を云ふ。
びり 娼妓又は下流藝妓を云ふ。
ひん（兄） 金錢、現金を云ふ。
ひんがまり 金持、金滿家を云ふ。
ぶけい（部警） 警部を云ふ。
まつまい（松前） 昆布を云ふ。
まぐれ（間暮） 夕方、晩を云ふ。
まき（卷） 帶を云ふ。ぐるとも云ふ。
むし（六四） 刑務所を云ふ。
もさきり 掏摸を云ふ。單にもさとも云ふ。
もりかう（蝙蝠） 洋傘を云ふ。
もろなほ（師直） 香の物を云ふ。
もや（靄） 煙草を云ふ。
もやひく（靄引） 喫煙する事を云ふ。
やこん（夜今） 今夜、今晩或は夜の意。
やさ 住居の意。

やえんぼー（野猿坊） 密告者を云ふ。
やじ（爺） 老爺、親爺を云ふ。
やち 女子の陰部を云ふ。
やちへぐ 男女交合する事を云ふ。
よいち（與一） 財布を云ふ。
ようげそ（洋足） 靴を云ふ。
よしこ 男子の陰部。
らん 衣服の總稱。
りゆうこう（留拘） 拘留される事を云ふ。
ろくま（六馬） 易者を云ふ。
ろくやた（六彌太） 豆腐又は豆腐屋を云ふ。
等である。
次に、(2)の露天商人に用ひられるを擧げて見れば、
あかほんながし（赤本流） 讀賣りを云ふ。
おーじめ（大占） 人を集める事を云ふ。
がまとろ 蟇油を云ふ。
ぎしう 將棋を云ふ。
ぐれ 浪花節語りを云ふ。
ケチハン ハンケチを云ふ。
じんしよどく 莫大小類を云ふ。
しんねた 流行品を云ふ。
すこー 香水を云ふ。

すりこ　藥を云ふ。
すれもの　小輕業を云ふ。
ち　か　風船を云ふ。
たかもん　輕業を云ふ。
ちらす　販賣する事を云ふ。
つりま　祭を云ふ。
と　ろ　油、又はクリーム（顏料）
にがもんすりーく　黑燒物を云ふ。
ね　き　飴を云ふ。
のうしやう（腦樟）　樟腦を云ふ。
はぼく　植木を云ふ。
ひつぱりもの（引張物）　中輕業を云ふ。
ひらき　露天藝人を云ふ。
ひらば　緣日を云ふ。
へ　ろ　鍍金せしものを云ふ。
ほうきゆう　灸治器を云ふ。
ぽんいち（日本一）　眼鏡を云ふ。
まつば（松葉）　編物針を云ふ。
むかう　購買する事を云ふ。
むしま　蝮を云ふ。
よなつきなみ（夜月並）　夜店を云ふ。
や　た　膏藥を云ふ。
よこぼく（横木）　齒刷子を云ふ。

り　つ（律）　法律に關する書籍を云ふ。
わゆびじんぞう（輪指人造）　指輪を云ふ。
等である。
次は一般犯罪者に用ひられるものを擧げて見れば、
あかうら（赤裏）　典獄を云ふ。
あきないし　贓物故賣者を云ふ。
いそがしい（急）　警察官に追跡せられる事を云ふ。
いんきよ（隱居）　酒肴の出ぬ事を云ふ。
うたふ（歌）　自白又は泣く事を云ふ。
えりつけ（襟附）　戸を開けたり又錠を外したりする所爲を云ふ。
えんま（閻魔）　檢事を云ふ。
おさにきけ（長聞）　忍込んで家人の寢息きを窺ふ事を云ふ。
おもや（母屋）　酒肴の出る事を云ふ。
おどりこみ（踊込）　强盜、强姦を云ふ。
きりかへし（切返）　贓品を元の場所へ返す事を云ふ
ぎりじん　强盜前科者を云ふ。
きんがちや　警部を云ふ。
けいあん（桂庵）　裁判所を云ふ。
ぐちばる（口張）　自白する事を云ふ。
さきやばい　「行先危險だ」、との意。

しんとくないやちへぐ(心得無谷地剣) 强姦の意。
たいかうき(大閤記) 拘留十日に處せられる事を云ふ。
たいさき 强盗に入る目的の家を云ふ。
だいおう(大王) 判事を云ふ。
たこびら(蛸衣) 獄衣を云ふ。
たんかがかるい 「口が輕い」、又は「自白し易い」の意。
つえをもて(杖持) 「用心せよ」の意。
つきな 刑事、又は被害者の氣附かざる事を云ふ。
つらい 少しも油斷の出來ぬ事を云ふ。
とんねる(隧道) 便所又は糞の汲取口から忍び込む事を云ふ。
ながむしにかまる(長虫(六四)捕) 長期の刑を言渡され入監する事を云ふ。
にほい(匂) 刑事、密告者等の尾行してゐる事。
ねかす(寝) 入質する事を云ふ。又殺害する事をも云ふ。
ほとけ(佛) 辯護士を云ふ。
りやんこ(二本) 典獄を云ふ。
等である。

(4)の部分的の犯罪者間に用ひられるものとしては、

(イ)掏摸犯に用ひられるものを擧げれば
あんま 夜間掏摸せんと外出する事を云ふ。
い わ(岩) 財布を云ふ。
うちば(内場) 内ポケットを云ふ。
おいそり 剃刀を使用して掏摸取る事を云ふ。
かにづかい(蟹使) 鋏を使用して掏摸取る事を云ふ
がんきつい 刑事又は見張人の眼が嚴しくして容易に掏摸る事の出來ぬ狀態を云ふ。
こしもさ(腰袂) 巾着を云ふ。
すいとり(吸取) 掏摸の歩をとる事、即ちうわまえをとる事を云ふ。
じごろ 映畫館内等にて掏摸を働らく事を云ふ。
そとば(外場) 外ポケットを云ふ。そとつぱとも云ふ。
たかまちおふ(高町追) 可成り大きな緣日に出かける事を云ふ。
たぎりだしに行く 掏摸すべく出かける事を云ふ。
た ち(立) 掏摸取る際、被害者と並んで歩みながら掏摸とる事を云ふ。
ちがい(違) 摺れ違ひに掏摸取る事を云ふ。
ちつぱ 内ポケットを云ふ。
ながす(流) 市街を徘徊する事を云ふ。
ならび たち(立)と同意。

ばたつかう 汽車、電車、船の昇降口の混雑中を利用して掏摸を働らく事を云ふ。
ひねり（撚） 時計、メタル等をひねり取る事を云ふ
も　さ 袂を云ふ。
もさたげり 刄物を用ひず、袂内の金品を窃取する事を云ふ。
もんどりきる ちがいと同意で、行違ひに掏摸取る事を云ふ。
ろつぷ 外ポケツトを云ふ。
等である。同様に、
（ロ）山窩の使用するものを擧げれば
お　し（啞） 萬引を云ふ。
かけもそ 土藏の錠を云ふ。
かねす（鍗巣） 寺院を云ふ。
がもん 堀を云ふ。
が　や 山を云ふ。
ぐどう 山窩使用の刄物の總稱。こんたんとも云ふ
けだもの 金庫を云ふ。
け　で ぐどう（こんたん）の內先が鑿様のもの。
けんた 山窩の事を云ふ。
こべる ぐどう（こんたん）の內先が小刀様の如きものを云ふ。
ころた 河原を云ふ。
こんたん ぐどうに同じで、山窩使用の刄物の總稱である。
さくべい（作兵衛） 刑事を云ふ。
ざ　ぶ 百姓を云ふ。
さんしよ 鋸を云ふ。
しくた 衣類を云ふ。べらとも云ふ。
しつぴき 疊針を曲げたるが如きもので合鍵に使用するものを云ふ。
しわい 神社を云ふ。
しんた 金錢を云ふ。
たんこ 刑事を云ふ。
ちよーろく 土藏を云ふ。むすめとも云ふ。
ち　ん 農婦を云ふ。ちん助とも云ふ。
どろむ 忍込む事を云ふ。
とめる 殺人する事を云ふ。
どーろく 農夫を云ふ。
ねこのめ（猫目） 銀貨を云ふ。
ひつじ（羊） 紙幣を云ふ。
べがつく 壁を破る事を云ふ。
へがわ 大便所を云ふ。

べ　こ　錢箱を云ふ。
ぺーちやん　巡査を云ふ。やばとも云ふ。
べ　ら　衣類を云ふ。しくたとも云ふ。
ぼーず　長刀を云ふ。
ほやく　騒拂ふ事を云ふ。
ぼーろく　山小屋を云ふ。
や　ば　巡査を云ふ。ぺーちやんとも云ふ。
ようじ(楊子)　疊針を云ふ。
わらつてる(笑)　合鍵を所持して居らぬ時を云ふ。

等である。右の内、せんぼ及(1)、(2)、(3)等と共通なるものは除去してある。次は、

(八)詐欺犯の用語であるが、これも前述の如く五十音順に排列してもよいのであるが、併しそれよりも一集團のものを一括して述べた方が反つて効果が有ると思ふので、其の代表的なるもの、詐欺賭博、ぺーぱー事件師、土砂流し(お天氣師)等に就て述べて見やう

目切りかつぱ　詐欺賭博の一種で先づ胴親が碁石、銅貨、軸木、小揚枝等、數あるものゝ中若干を握り對者をして、奇數か(半)偶數(丁)かを云ひ當てしめて、賭金の授受をなすものであるが、此の際、胴親が計算上必勝なる數を握る故、對者(張手)の連敗は當然の事である。
此の目切りかつぱは通常二かつぱと稱するものが最も多く行はれて居る。此の二かつぱこは、胴親が無造作に若干數を握りたるが如く裝ひ、其實、必ず奇數を握り、張手が丁(偶數)に張りたる時は、其の証據として手中のものより二個を除き、他を計算す、即ち殘部は奇數(半)となり、親の勝となる。又張手が半(奇數)に張りたる時は其の証として一を除き、他を計算す、即ち殘部は丁なる事自明の理である。故に張手が如何に焦つても連敗を喫する事は當然である。
しかおい(鹿追)　目切りかつぱに託して詐欺をなす方法を云ふ。
さわし(詐話師)　しかおいに同意。(關東地方にて用ゆ)
はなしかけ(話掛)　前記のしかおいをなす際に、公園、名所、舊蹟、等に於て被害者に馴々しく話しかけ、之を豫定の場所へ誘引する方法を云ふ。
ひきだし(引出)　共犯者の一人が地所、鑛山、山林

等の周旋人を装ひ、被害者方へ立越し、賣買に事寄せて、料理屋等へ引出す事を云ふ。

あほり　はなしかけの手段によつて被害者(け、もち)を豫定の場所へ誘引するを云ふ。だき或はおびき(御引)とも云ふ。

ちゆうべい(忠兵衛)　後述のじんだいに忠告をなす役を云ふ。

じんだい(盡大)　大盡の如き所作をなす役を云ふ。

うわ　若し、此の詐欺賭博を被害者が看破したる場合、警官、若しくは附近の博徒の親分の如く装ひ、巧に事件を揉み潰し又一方見張、警戒に任ずる役を云ふ。かげ(陰)とも云ふ。

ひも(紐)　前記ひきだしによる際、鑛山、山林の賣買、周旋人なる如く装ふて被害者を豫定の場所へ誘引する事を云ふ。はなしかけの時のあほりに當る。

すわり(据)　ひもの誘引したる被害者買手と面會し有物件の賣手となる役を云ふ。はなしかたの場合のちうべいに當る。

かりさく(借作)　被害者とすわりとの商談中に尋ね來つて、金借を申込み、次ではなしかけの場合のじんだいの如き役をなすもの。

おゝじか(大鹿)　おゝびき(大引)の率ゆる一黨がなすしかおいを云ふ。

こじか(小鹿)　頭目を持たぬ、烏合の輩のなすしかおい(さわし)を云ふ。

おゝびき(大引)　しかおい仲間の頭目を云ふ。

せんせい(先生)　大引に次ぐ親分株で云はゞ一黨の參謀の如き役で仲間の者が被害者から數回に亘つて詐欺行爲をなす際に仲間を指揮監督する役。

うえうわ(上うわ)　同じく裏面にあつてうわを助ける役を云ふ。

しき(敷)　あほり(だき、をびき)或はひもが被害者(け、もち、むくどり)を誘引する座敷(料理屋)を云ふ。(以上鹿追(詐話師)用語)

ばけし(化師)　これも鹿追ひと同じく詐欺賭博であるが、鹿追ひは、詐欺の手段として賭博を撰んだのであるが、これは、賭博の方法として詐術を用ひる。故にこれは主として博徒の企つる詐欺である。

てらし(寺師)　表面上は賭博の開張者であるが、眞の役目は被害者の誘引並に手合せ中は被害者の仲間の如く見せかけ、其の實、一味の指揮に當る參謀役である。

がうりき(合力)　表面は賭金の張方、寺錢の出し方等を世話する役であるが、其の實は、胴親の傍に坐し、胴親が壺を伏せる際に機敏に之を觀て仲間の者に合圖を以て知らしめる信號役である。

せんせい(先生)　之は胴親の傍に坐して壺の伏せ方を教へるのが眞の役であるが、實は合力と同樣賽の目を素早く盜見するのが役である。

どうおや(胴親)　壺を扱ひつゝ胴親の役目をなす者

きやく(客)　開張中普通の張手の如く裝ふて勝負をなす者を云ふ。

ぎんがた(銀方)　賭博の資金を出す資本主を云ふ。

影法師　開張中は見張り役で、若し被害者が詐欺を看破せし時は刑事又は仲裁役となつて事件の揉みつぶしをなす役。

ひ　も(紐)　被害者を誘引する役。

だゆう(太夫)　骨牌(詐術を施せる)を巧に使ひわくる役。

ぎんがた(銀方)　博徒へ資金を融通する役。

(前、八語は骨子を使用せし時の用語、後三語は骨牌を使用せし時の用語、何れも化師用語)

ひ　も(紐)　被害者を誘出す役目のものを云ふ。又おびき(御引)とも云ふ。

じけんし(事件師)　ひもの誘ひ寄せたる被害者(もち)に面接して巧言を以て被害者を取込む役すわり、せんせい(先生)とも云ふ。

はうす(House)　じけんしの居宅、即ち機械其他藥品の裝置しある家を云ふ(以上ペーパー師用語)

も　ち　數百圓の紙幣の束に裝ひたるものを故意に道路に落し行く役、又後には自らこれを拾得して被害者と共に分配に事寄せて詐欺する役ともなる。

だ　き　被害者を豫定の場所へ誘引し、遺失の僞札束を自ら拾得、或はもちに拾得せしめ、分配に際し被害者を欺罔する役。

うわし(上師)　犯行中は現場を警戒し、又被害者が詐欺なるを看破せし時は刑事、其他の警官を裝ひ、事件を揉み潰す役を云ふ單にうわとも

云ふ。

どさ　假裝の僞紙幣を云ふ。

げんばし（現場師）　もちとだきの總稱。

（以上お天氣師（土砂流し）用語）

以上は詐欺賭博用語、ペーパー師用語、土砂流し用語の代表的なるもので、此種の用語は此の外に種々あるが、又詐欺賭博の解說なども「犯罪搜査法」或は其他に適當なる書がある筈である故、其等の事は省略する。次に、

（二）賭博犯の用語を列擧して見よう。

あげいた（揚板）　賭博開張の現場を云ふ。

あらとり（荒取）　博徒を脅喝して金を取るものを云ふ。

いちき　廻し胴の順を決める事を云ふ。

いちばはじめ（市場初）　賭場開張する事を云ふ。

いんちき　詐欺賭博を云ふ。

いかさまざい　ニセ采（仕掛采の事）を云ふ。

うけつぼ（受壺）　丁半賭博の勝者。

おいめ（追目）　連敗の狀態を云ふ。

おや（親）　賭博の胴元。

おゝびき（大引）　骨牌手合中で最終番の人、びきこも云ふ。

おてん　寺錢、又は回數のしるし石を云ふ。

おちん　賭場で負けし者の金を云ふ。

おけら　賭博に敗けし者を云ふ。

おだいし（御大師）　賭博を云ふ。

さんしたやつこ（三下奴）　博徒の下廻り、又は新米博徒、素人の域を脫せぬ博徒を云ふ。

つけめ（附目）　自分の益になる采の目を云ふ。

てら（寺）　賭博開張者の口錢を云ふ。

ばったつぼ　下手な壺のあけ方。

むしびき（六四引）　骨牌賭博に於て一回每の金勘定

よこあけつぼ（横開壺）　怪しき壺のあけ方を云ふ。

等である。

猶隱語と密接なる關係を有するチーハー賭博の、三十六個の原顆が記載されてある筋紙なるものがある今それを列擧して見れば、

名	讀	意
占魁	チンカイ	百足
榮生	エイシャウ	白鷺
志高	シタカ	蚯蚓
正順	セウジュン	虱
艮玉	ゴンギョク	蝶
上招	ジャウシャウ	遊女
三槐	サンハイ	猿
九官	キユウカン	鴉
板桂	バンケイ	盜人
逢春	ホウシュン	紙幣
月寶	ゲッポウ	月
坤山	コンザン	虎
明珠	メイシュ	酒
合同	ゴウドウ	鳩
合海	ゴウカイ	蛤
大平	タイヘイ	龍

漢雲(カンウン) 牛	火官(ヒーカン) 龜	江桐(ゴウドウ) 船	日山(ニツサン) 烏
福孫(フクソン) 犬	天良(テンリヤウ) 鰻	光明(コウメイ) 馬	井利(イリ) 糞
有利(フリー) 象	元貴(ゲンキ) 陰莖	只得(チヨツタ) 猫	萬金(マンキン) 錢
心得(ビツタ) 鼠	青元(セイゲン) 蜘蛛	茂林(モウリン) 蟲類	元吉(モトキチ) 藝妓
青雲(セイウン) 鶴	吉品(キツピン) 陰門	天申(テンシン) 雷	安士(アンシ) 狐

（筋紙には假名は附してない。）

此のチーハー賭博は、胴親が先づ前表記載の三十六個の原顆中の一個を封印し、當り籤とし、其の當り籤が如何なるものなるやを云ひ當てしめんが爲めに一つの問題謎を作り、其の問題を記載しある、「附和紙」に「筋紙」を添えて、子(張手)へ運送（張手と胴親との間の周旋役）を通じて配布す。張手は其の問題(謎)を考へ、當り籤と思はれる原顆へ印をつけ、賭金と其印をつけたる「筋紙」を運送に返す。

若し其の答が當籤したならば賭金の三十倍を胴親が支拂ひ、其の中、二倍を運送が手數料として取得する故に殘りの二十八倍が張手の所得となる。又當籤せざる時は賭金は其儘沒收されるのである。

次に參考として、二采聲目、三采聲目及びカブの名稱を列擧して見やう。

二采聲目

⚀⚀＝ぴんぞろ或は重一(でっち)
⚂⚀＝さんぴん 或はさんちん
⚄⚀＝ぐいち 或はぐつぴん
⚁⚁＝にぞろ或は重二(ちょうに)
⚃⚁＝しのに
⚁⚅＝にろく
⚃⚂＝しそう
⚂⚅＝さんろく 或はろくさん
⚄⚃＝ぐし或はしんごん
⚀⚁＝ぴんに(一二)
⚃⚀＝しっぴん 或はしっち
⚅⚀＝ろくぴん 或はいちろく
⚁⚂＝さんに
⚄⚁＝ぐに
⚂⚂＝さんぞろ 或は朱三(しゅそう)
⚄⚂＝ぐそう 或はぐさん
⚃⚃＝しぞろ 或は朱四(しゅし)
⚃⚅＝しろく

＝重五(でつく)或はぐぞろ　　＝ごろく或はぐろく

＝重六(てうろく)或はろくぞろ

此の二十一の目の中、九つが半目で残りの十二が丁目である。

三采聲目

＝お供

＝とつぷり

＝狼の足

＝蕎麥蒸籠

＝よかろふ

＝國の守

＝日光

＝胴切り

＝でく四

＝お飾り

＝鍛冶屋の五つ

＝鎹(かすがい)

＝青田

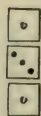
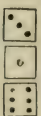
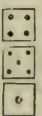
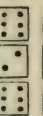
＝山形

＝篠田

＝漣

＝とも待

＝雨降りの洗濯

＝石部

＝蓙の十四

＝新橋

＝横撫

＝お寺の炬燵

＝善光寺

＝劍先

＝間(あいだ)の四

＝ささんご

＝玄德

＝駕籠差し

＝割重箱

＝柏ツ葉

＝靈岸寺

＝大長持

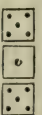
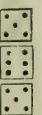
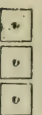
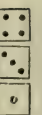
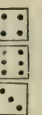
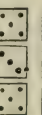
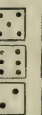
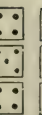
＝花車

＝悴

＝虎の尾

＝耳切り

＝小湊

＝見附の勝手

＝天下一

＝揚六

＝三日坊主

＝四三一

＝土佐の湊

＝どのさん

＝さかり猫

＝男根の天窓

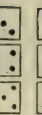
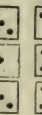
＝おさよ

＝さんかみ

＝彼岸の中日

⚁⚂⚁＝鼠の剣先　　⚁⚃⚅＝にしろく

⚂⚅⚂＝番町侍　　⚄⚁⚄＝でくに

⚅⚄⚅＝大振袖　　⚃⚃⚃＝神田の纒

（此の五十六の目の中二十六が丁で三十が半である）

此の聲目とは壺振りが振出したる目を中盆、（一座の顔役）が讀上げる事で、釆を二個使用したる時の聲目二釆聲目の數は二十一、釆を三個使用したる時三釆聲目は五十六で、夫々前述の如くである。

○カ　ブ　名　稱

〇　ぶつ或はぶた

一　いんけつ

二　に　ぞ

三　さんた

四　しすん

五　ごけ

六　ろつぽう

七　しちけん或は、なき

八　おいちよ

九　か　ぶ

（十以上の數となりたる時は其數の端を數える。）

以上は犯罪語の種々を述べたのであるが、然らば根本問題として、犯罪者と露天商人が何故に同一の隱語を有するかと云ふ問題になる。

これに就て少しく述べて見やう。

露天商人（香具師）中の古老が保存する所の古書に、

○香具商人往來目錄

（前略）

一、寛永二十癸未年家光公樣御時唐人來朝ノ砌リ拾三香具ヘ御茶御菓子店仰付奉差上香具ノ儀蓋ニモ一統御免有之見世先三尺板天幕致シ看板共御捨免有之候事

一、寛永六己年御老中松平伊豆守樣ヘ香具商人共被召出、八香具五商人ノ儀ハ天下一統ニ御免有之見世ハ三尺ニ於テ幕張ノ看板トモ御捨免有之候事右ノ通リ

食來師　傀儡師　鐵物師　合薬師　讀物師

物形師　書物師　辻醫師

右ハ八香具八師ノ面々也

小間物師　賣薬師　煙草賣　見世物　筵張茶屋

右ハ五商人香具ノ面々也

○商　人　帖　頭　衆

一、享保二十卯年十一月十六日江戸香具連中ノ者共大岡越前守樣御番所ヘ召出役筋被仰付候事

一、長崎御奉行細井因幡守樣ヨリ仰聞候趣近年唐物拔荷賣買致候者ハ國所相糺シ御領土並ニ御代官其所ノ役所ヘ預ケ置キ早速江戸表御月番ヘ可訴出候勿論人蔘麝香龍腦其外ノ諸薬種、唐物ノ儀ハ御類長崎證文賣上不相濟賣買致候者ハ早速訴出申候事

（以下略）

享保二十卯年十一月十六日

越前屋庄兵衛
尾上兵左衛門
丸野安太夫

○前略

一、寛延二己巳年四月下總國ニ於テ成田ニ商人出入ノ節關宿御番所ニ於テ御白洲ニ寺社奉行大岡越前守樣御勤番ノ砌リ仲間一統被出召先年ヨリ渡世商賣道八百八品ノ次第詳ニ御答奉申上候御役人中樣誠ニ御滿足ニ被思召被成下置是ヨリ香具商人ノ儀寺社奉行御支配被仰付候事

（以下略）

寛延三午年三月　日

丸野安太夫

等と云ふものが存する。

之等の文書を見ると享保二十年、並に寛延二年に夫々、町奉行、寺社奉行より役筋仰附、所謂十手捕繩を頂戴した事は明らかである。で、當時の香具師は拔荷（密輸入）の内偵、或は幕府の隱密となつて各藩内の實情探査等、其他諸事件の内偵をなしたもので頗る義理堅き人間であつた。

かゝる關係で犯罪者も香具師（即ち露天商人）を警戒し、然して彼等の所作、使用語、等を注意深く觀察し、之を利用して行つたに相違ない。

然るに時勢の推移と共に香具師も墮落し博徒と接近したり、又其群へ投じたりして益々犯罪者の乘ずる所となつて、次第に犯罪者的傾向を帶びて來た。

斯くする中に世は維新となり、新法の發布と共に香具師の役筋は自然消滅し、名稱も露天商人と改稱せられ、世人も不正商人の集團かの如く之を觀たので本格的に犯罪者的傾向を帶び、其結果、露天商人語と犯罪語（もと〳〵同一であつた）と其他の所作例へば仁義等が完全なる融合を見るに至つたと思惟せられるのである。

猶卷末の「香具商人に就いて」を參照。

● 花柳語

此の花柳語は往時の廓詞から出たもので、廓詞の代表的なるものは、京の島原詞と江戸のありんす詞（吉原詞）である。

現時は花柳界及び其道の通人に廣く用ひられるもので、今簡單にそれ等を列擧すれば、

あがりばな（揚花）娼妓が茶の事を云ふ。往時客の

なき時は妓樓内で茶を挽いた故事より、茶と云へば縁起が悪しき故、其の反對の揚り花（へ客がついて花の出る事）と云ひしもの、又藝妓に於てはでばな（出花）と云ふ。これは娼妓と異り客がつけば待合、其他貸座敷へ出て、花がつくの意から。

あげや（揚屋）　貸座敷の事を云ふ。

あたりぼう（當棒）　擂古木を云ふ。

あたりばち（當鉢）　擂鉢を云ふ。

あたりばこ（當箱）　硯箱を云ふ。

あたりめ（當女）　するめを云ふ。

あとくちをかける　甲客と遊んで居る藝妓を乙客が招く事を云ふ。もらい又はおもらいとも云ふ

あいかた　相手の娼妓を云ふ。

あいぼれ（相惚）　刺身を云ふ。

あぶらむし（油虫）　素客又は藝娼妓の情人を云ふ。

ありのみ（有實）　梨を云ふ。梨は無しに通じ縁起が悪しき故其の反語なる有りと云つたもの。

あんどんべや（行燈ベ屋）　遊興費の不足した時に客を押込める狭い室を云ふ。

いちげん（一現）　初めの客を云ふ。

いちげんちやや（一現茶屋）　一現客も馴染客も總て現金制の茶屋即ち貸座敷の事を云ふ。

いつぽん（一本）　水揚げを濟ました一人前の藝者の事を云ふ。

いと（糸）　三味線を云ふ。

うぐいす（鶯）　野菜を云ふ。

うぢ（宇治）　茶を云ふ。

うま（馬）　遊客の勘定が不足した時に客に附けてよこす附男の事を云ふ。

うら（裏）　二度目の客を云ふ。うらをかへす又はうらをつける等と云ふ。

うんしゆうのだんな（溫洲の旦那）　遊興費の盡きた客を云ふ。溫州蜜柑は種（金）がない故、あがりなまず（上り鯰）とも云ふ。

おあいそう（お愛想）　勘定を云ふ。

おかぼれ（岡惚）　情交なくして惚れて居る事、好いて居る事を云ふ。

おしま　米飯を云ふ。

おちやひき（茶挽）　藝娼妓が客なくして遊んで居る事を云ふ。あかりばな参照

おはめ　饒舌の女を云ふ。

おゝてすじ（大手筋）　遊廓の大通り、又は表通りを云ふ。

おゝびき(大引) 東京の吉原に於て午前二時を云ふ十二時を中引(ちゆうびき)と云ふ。

か　げ(陰) 客が藝妓と情を通ずる事を云ふ。又はべつ(別)とも云ふ。別室又は陰にてなす意よりか。

かしをかへる(河岸を換る) 藝娼妓が主家をかへる事を云ふ。

かみばな(紙花) 客が藝妓に若干の金を包み直接與ふ事を云ふ。

かんかんしき(觀艦式) 娼妓の檢診日を云ふ。〇〇が軍艦に似たるより。

きやくいろ(客色) 藝妓の惚れてゐる客又は情人を云ふ。又大盡遊びをする客は つうきやく(通客)平常小使錢を せびりとる 客はなじみのだんな(馴染の旦那)できやくいろは大概藝娼妓の方が會計を受けもつものである。

ぎよく(玉) 線香代、玉代を云ふ。

ぎよく(玉) 卵を云ふ。

きんちやん(巾ちやん) 客を云ふ。巾着樣の略。

くちかける(口掛ける) 藝妓を招く事。

くつわ(忘八) 置屋の主人を云ふ。

くもじ 野菜の漬物を云ふ。

くらかへ(鞍替) 藝娼妓が主家をかへる事を云ふ。しかへ(仕替)とも云ふ。

げんにおろす 娼妓の花代を前拂にする事を云ふ。

こどもや(子供屋) 男色を鬻ぐ美少年を抱えて居る蔭間茶屋の事を云ふ。

さくら(櫻) 馬肉を云ふ。

しげり 遊女と床の中でしめやかに物語りする事を云ふ。

じやうとう(上頭) 藝娼妓が始めて處女を破る事を云ふ。

じんすけ(甚助) 嫉妬心の强い男の事を云ふ。

しんねこ(親猫) 人目を忍んで、待合の四疊半などで好きな藝者としんみり遊ぶ事を云ふ。

すもじ(壽文字) 鮓の事を云ふ。

せんこーだい(線香代) 花代、玉代を云ふ。

たゝみざん(疊算) 藝娼妓の獨占ひの方法で、疊の上へ笄又は煙管を投げ其の足又は吸口から疊の縁迄の目を數えて偶數(丁)ならば凶で奇數(半)ならば吉である。

たまかわ(玉川) 水を云ふ。往時江戸の玉川上水より出たる語。

だるま(達摩) 金の無い客。おあしがないから

ちよんのま(一寸の間) 客が藝娼妓と情を遂げる秘

密室を云ふ。

つんしやん　美人藝者を云ふ。つんは三味線、しやんは美人の意。

でなほり（出直り）　藝妓が客によばれて一座敷（大低二時間）經過後も客の所望によりて其座敷に留まる事を云ふ。

でばな（出花）　藝妓の花代を云ふ。あがりばな參照

とこばな（床花）　遊廓にてお客が娼妓にもてたい爲めにやるチップの事を云ふ。

とほで（遠出）　藝妓が馴染の客に連れられて花街以外に出かける事を云ふ。

なんせん（難船）　花柳病の爲めに陰部を侵される事を云ふ。

はつみせ（初店）　遊廓にて始めて女郎が店へ出る事を云ふ。又つきだし（突出し）とも云ふ。

はてし（果）　藝妓が客と情を交す事を云ふ。

はな（花）　藝妓娼妓に與へる金錢を云ふ。

はんぎよく（半玉）　まだ水揚げをしないでお酌をしたり舞を舞ふたりする藝妓の事を云ふ。

ふ　と（太）　義太夫を云ふ。

べ　つ（別）　客が藝妓と情を交わす事を云ふ。かげ參照。

まくらぎん（枕銀）　藝娼妓の玉代を云ふ。

まだはな　年老ひてもまだ色氣のある女を云ふ。

みかづき（三日月）　遊女が宵の中だけちらりと來て翌朝まで來ぬ事を云ふ。

みづあげ（水揚）　半玉が一本になる事又は新造が初めて客と寢る事を云ふ。

むらさき（紫）　醬油を云ふ。

もらい（貰ひ）　先客と遊んで居る藝娼妓を後客が所望する事を云ふ。

わりかん（割勘）　料理屋又は待合等にて客が勘定を仕拂ふ時、その金額を等分して一人一人に割當る事を云ふ。割當勘定の略。

わるあし（惡足）　遊女が惡い客と深い仲になる事、又娼妓の情夫の事を云ふ。

等である。

以上を見ると、宮女詞（女房詞）の影響もあり又犯罪語、役者川語等へも接近して居る事を見受ける事が出來る。

●女房詞（宮女詞）

この女房詞は僧侶隱語より少しく早く戰國初期、御

土御門帝の頃に發生したもので、皇室の衰微せる時代に賤しきものを供御に供へた事に始まつたものであるが、後代、將軍家其他の公家へも傳つて現今の女詞の源をなして居る。

今其の二三を擧ぐれば、

いしく(石々)　團子を云ふ。
いもじ(い文字)　烏賊を云ふ。
おいたみ(御痛)　鹽を云ふ。
おとう　厠を云ふ。
おなか(御中)　食事する事を云ふ。
くさもの(臭物)　葱を云ふ。
こーばい(紅梅)　このわた(海鼠腸)を云ふ。
こもじ(こ文字)　鯉を云ふ。
こ　ん　魚を云ふ。
こ　ん　牛蒡を云ふ。
さもじ(さ文字)　鯖を云ふ。
するく　鯣を云ふ。
ぞ　ろ　さうめん(素麵)を云ふ。
た　ま(玉)　蒟蒻を云ふ。
たもじ(た文字)　蛸を云ふ。
つくく(搗々)　臼を云ふ。
つめたいぞろ　冷し麥を云ふ。
つめたもの　なます(膾)を云ふ。
てんす　寒天を云ふ。
は　す(蓮)　山芋を云ふ。
はつみ　椎茸を云ふ。
はなだ　なまこを云ふ。
ひともじ(一文字)　葱を云ふ。
ひらめ(平目)　鰈を云ふ。
ふくみ　刺身を云ふ。
ふたもじ(二文字)　韮を云ふ。
ふもじ(ふ文字)　鮒を云ふ。
ま　き(卷)　茅卷を云ふ。
ま　も　芋を云ふ。
やきおいた　燒鹽を云ふ。
やまぶき(山吹)　鮒を云ふ。
わ　ら　蕨を云ふ。
ゑもん(衛門)　柏餅を云ふ。又槲木をも云ふ。
をぼそ(尾細)　鰯を云ふ。

等である。

以上の女房詞を觀るに發生した場所が場所であるだけに、何れをとつて味つて見ても、上品な、優雅な氣が漲つて居る。

花柳語などとは天地霄壤の差である。

次は女房詞が普遍化された女詞であるが、これは現今の中流婦人に廣く用ひられるもので、二三を列擧すれば、

おいた　小兒の惡戯を云ふ。
おかゝ　鰹を云ふ。
おかべ　豆腐を云ふ。
おきぬうつし　きぬた(砧)を云ふ。
おきやく(お客)　月のもの、月經を云ふ。
おこぶし(御拳)　榮螺を云ふ。
おさつ(御薩)　薩摩芋を云ふ。
おじや　雜炊の事を云ふ。
おじやうき(御定器)　椀を云ふ。
おとーし　笊を云ふ。
おとぼし　蠟燭を云ふ。
おなで(御撫)　箒を云ふ。
おぬめり　なまこを云ふ。
おひや(御冷)　水を云ふ。
おひら　鯛を云ふ。
おまな　肴を云ふ。
おまわし(御廻)　擂鉢を云ふ。
おみとり　單衣を云ふ。
おみゝ　雜炊を云ふ。
おめぐり(御巡)　擂古木を云ふ。
おやく(御役)　月經、月のものを云ふ。
おゆるみ(御弛)　杓子を云ふ。
おわたし(御渡)　田樂を云ふ。
おいど(御居處)　臀部を云ふ。
きぬかつぎ　鰯を云ふ。
くもじ(く文字)　漬菜を云ふ。
こがらし(木枯)　擂古木を云ふ。
さいぎやう(西行)　田螺(たにし)を云ふ。
した(舌)　こんにやく(蒟蒻)を云ふ。
しろいと(白糸)　さうめん(素麵)を云ふ。
せきもり(關守)　笊(特に味噌こし)を云ふ。
ひともじ(一文字)　葱を云ふ。
ほそびうめ　のしあわび(伸鮑)。
みかど(三角)　蕎麥を云ふ。
みづのはな(水の花)　鱸を云ふ。
むらさき(紫)　醬油を云ふ。
もみじ(紅葉)　茄子を云ふ。

等で、これも中流婦人の使用語として恥じないだけの氣韻を含んで居る。
此の語は現今標準語に採川されて居るものも尠くない。

又これは女房詞の關係から京阪附近の方言の影響を幾分蒙つて居る。

●學　生　語

これは、學生、生徒が川ひるものであるから外國語流行語等に影響される事が大である。此の學生語を最も多く持つて居るものは、女學生である。

今、學生語の二三を擧げて見ると、

アーク燈(Arc燈)　禿頭先生。

あつかわ(厚顏)　あつかましい人を云ふ。

アナウンサー(Announcer)　何事でも人に告口してあるく人又は饒舌家を云ふ。

あぢさい(紫陽花)　氣の變り易い人を云ふ。紫陽花はよく變色するから。

あんぱん　丸顏の人を云ふ。

あまぐり(甘栗)　女に甘い男を云ふ。

いんばらぺいびー(In腹baby)　姙娠する事を云ふ

いみしん(意味深)　意味深長なる事を云ふ。

いもだわら(芋俵)　肥滿せる婦人を云ふ。

いしんでんしん(以心傳心)　自由結婚を云ふ。

エッチ(H)　Husband(夫)の頭文字にて夫を云ふ

えいせいびじん(衛生美人)　体格がよく、醜なる婦人を云ふ。

エス(S)　Sister(姉妹)の頭文字で「おめ」の別稱、又時にシスとも云ふ。
又Singer(藝者)の頭文字で男學生によく用ひられる。「エスアップ(S-up)に行こう」と云へば「藝者揚げに行こう」の意。又Smoking の頭文字から煙草の意にも用ひられる

エフ(F)　Feminine(女性)の頭文字にて一般女性を云ふ。

エム(M)　Money(金錢)の頭文字より金錢の意又梵語(Mara)の頭文字にて陰莖の意。又Monthly water(月水)の頭文字にて月經を云ふ。

エル(L)　Lover(愛人)の頭文字で愛人を云ふ又Letter(手紙)の頭文字より艶書を云ふ。

エスケープ(Escape)　自分の嫌な學科を無斷缺席する事を云ふ。

エスペラント(Esperanto)　通人を云ふ。エスペラントは世界共通語なる故、エスペルと同詞化して、殊に女色方面に發展する事を云ふ。

えんまちやう(閻魔帳)　先生の採點表を云ふ。

うけとり(受取り)　卒業證書を云ふ。

ウンシヤン(Unshön)　不美人を云ふ。

おはな(御花)　寵愛又は最負にされる事を云ふ。花と云ふ字を分析すれば「ヒイキ」となる故。「Fさんはね T先生のお花よ」と云へば「Fさんは T先生の御氣に入りよ」の意。

お　め(男女)　女學生間の同性愛の事で上級生が下級生を愛する事。エス或はシスとも云ふ。

カメレオン(Cameleon)　氣の變り易い人を云ふ。

がいこうじようず(外交上手)　女學生間にて異性との交際を手際よくやる事を云ふ。

かまきり(蟷螂)　瘦せた人を云ふ。

からたち(枸橘)　女學生間にて肺を患ふて居る人を云ふ。からたちの花言葉、「私は胸を痛めて居ります」より出たもの。

かなぶつさん(金佛樣)　きざな程沈默して居る人を云ふ。

かみざいく(紙細工)　貧相な安っぽい人の事を云ふ

ギロチン(Guillotine.)　意地惡の先生を云ふ。

クロペチヤ　色が黑くてよく喋る女を云ふ。

ごくさいしき(極彩色)　厚化粧を云ふ。

こまちいと(小町糸)　下町風の美人を云ふ。

こんまいか(Comma以下)　頭の足りぬ者、低腦を云ふ。

サンエス　陰氣な人を云ふ。陰氣でインキ（サンエス）とが相通ずるより。

サンデークリスチヤン（Sanday-christian）　外人と會話する目的で教會へ通ふ人を云ふ。

サツカリン(Saccharin)　女に甘い人を云ふ。

サンドウイツチ(Sandwitch)　三角關係を云ふ。

ザンギリ(慚斬)　斷髪を云ふ。

シ　ス　おめを云ふ。おめ、エス參照。

じやうきポンプ(蒸氣喞筒)　鐘が鳴ると直ぐ教室に來る先生を云ふ。

ジヤズ(Jazz.)　喧騒な人を云ふ。

えんどう(鹽豆)　吝嗇家を云ふ。

シヤツポ　當が外れる事を云ふ。

しまづこう(島津公)　芋を云ふ。

じふいちばん(十一番)　Kiss(接吻)の頭字Kはアルフアベツト十一番なるより接吻の意。

ジプシイ(Gipsy)　度々轉校する人を云ふ。

シヤボン　泡を飛ばして話をする人を云ふ。

すゞめ(雀)　お喋りやさんを云ふ。

すつとこ　醜い男を云ふ。

スタシヤン(St-shön)　スタイルの良い人を云ふ。

ず　る　狡猾（ずるい）な事を云ふ。

すいとりし(吸取紙)　人の云ふ事を直ぐ信んずる人

を云ふ。

センチ　憂鬱なる事を云ふ。

タイラント(Tyrant)　威張り散らす人の事を云ふ。

ダンチ　段違ひなる事を云ふ。

ダブル(Duble)　落第する事を云ふ。

ちやがいも(馬鈴薯)　ニキビ面の男學生を云ふ。

ちりめん(縮緬)　老人の事を云ふ。

つんしやん　藝者を云ふ。

ていくうひこう(低空飛行)　ビリで進級又は卒業する事を云ふ。

デコる　お洒落れをする事を云ふ。

テンヤぐみ(天屋組)　ワイ〳〵騒ぎ廻る人達を云ふ

でんとうかいしやしやちよう(電燈會社々長)　禿頭の先生を云ふ。

てんぷら(天麩羅)　元學生で今も通學を裝ふて居るものを云ふ。

トリツク(Trick)　カンニングを云ふ。

とらごぜん(虎御前)　虎の門の姫君の意。

ながす(流)　しなを作つて歩く事を云ふ。

ないむしやう(内務省)　お金のない事を云ふ。

ナフタリン(Naphthalene)　嫌な人を云ふ。

ナイフ　獨身男を云ふ。ワイフが無いの意。

ナツプンサラミ　悪き人、又は穢らわしき人を云ふ

(朝鮮語)

ニコポリスト　誰へでも愛嬌良く應待する人を云ふ

にどびつくり(二度吃驚)　後姿がよくて顔が醜き人を云ふ。

にくたいしやん(肉体Shön)　肉体美人、衛生美人の事を云ふ。

ひなげし(雛罌粟)　無邪氣な人を云ふ。

ひこペーぢ(彦頁)　顔の事を云ふ。

ひろめや(擴屋)　自分の事を吹聴して歩く人を云ふ

はくてう(白鳥)　美しい人で意地悪な人を云ふ。

ベツト(Bet)　愛人又は先生に可愛つて貰ふ人を云ふ。

まつさわむら(松澤村)　犯人の様に騒ぐ人を云ふ。

マアブル(Marble)　肺を患ふ人を云ふ、肺患者は皮膚が大理石の様だと云ふ故。

まめペーぢ(豆頁)　頭を云ふ。

まんかんしよく(滿艦飾)　でこ〳〵と着飾る事を云ふ。でこるに同じ。

マドロス　海軍士官に憧れる事を云ふ。

メーキアツプ(Make-up)　お洒落又はお化粧する事を云ふ。

メリヤス(莫大小)　人の言ひなり次第になる人のことを云ふ。

もくぎよ（木魚） 姙娠せる人を云ふ。

も ち 勿論の略、もちよと云へば勿論よ、と云ふ意。

ラヂオのお化け 新しがりやを云ふ。

らつきやう（薤） 安香水を云ふ。

ヤンキー（Yankee） 米國人、轉じてお轉婆娘を云ふ。

マークする（Markする） 目をつける事を云ふ。

等が主なるもので、此の學生語の特徴は、隱語の生命が非常に短く、併も局部的のものが多い事である。故に隱語の價値としてはあまりないものである。

● 不良青少年語

此の語は隱語中最も複雜な多種の隱語を持つてゐる普通不良少年を大別して軟派、硬派と呼んで居るが、軟派と云ふものは主として女色方面に關してのもの即ちエロ派とでも云ふべきものであり、硬派は騒拂ひ、脅迫、恐喝、等暴力的なるもの、所謂ぐれ即ちテロ派とでも云ふべきものである。

此の二派の使川語は確然たる相違を有して居る。例へば硬派は、犯罪語に影響される事が非常に大であるが、軟派は寧ろ流行語、學生語等に影響される事が大である。

今軟、硬二派の主なるものを擧げて見れば、

硬 派

あうち 羽織を云ふ。

あ か（赤） 燐寸の薬紙を云ふ。軸木の事はぼうず（坊主）と云ふ。

あらめん（新面） 初對面なる事を云ふ。めんぐれ參照。

あみうつ（網打） 非常警戒を云ふ。

○**ア ジ**（Agi） 搔拂ふ事を云ふ。Agitationの略。

あおた（青田） 果實を云ふ。

あさる（漁） 尋ねる事を云ふ。

あたい 高價なる事を云ふ。

あかはしる（赤迸） 出血せる事を云ふ。

○**アップ**（Up） 物品を一寸失敬する事を云ふ。

いんねこ 金の無い事を云ふ。

うましやり（甘舍利） 菓子を云ふ。あましやりの轉化。

うすげそ（薄下足） 草履を云ふ。
○えんこ（園公） 公園を云ふ。
えんこう（猿猴） 手を云ふ。
えんた 煙草を云ふ。もやとも云ふ。
えんこぶくろ（猿猴袋） 手袋を云ふ。
おかるば（お輕場） 二階を云ふ。
おとしまえ（落前） 無錢飲食をなして後の話を甘くつける事を云ふ。
おろく 帶を云ふ。
オリン ヴィオリンの略、轉じて艶歌師を云ふ。
おんとう 唯、無代の意。
おんりやうする 金を借る事を云ふ。
おしやま 藝妓を云ふ。
おてら（照） 燐寸箱を云ふ。
おにがく（鬼角） 蚊張を云ふ。
○おーながし（大流） 團体にて歩く事を云ふ。
かんた 泊る事を云ふ。
かなし（金師） 金庫を云ふ。
かいだいじん 二十歳以上の者を云ふ。
かます 窃取する事を云ふ。へをかますの略。
かまる 逮捕される事を云ふ。つかまるの略。
かりしよく 洋食を云ふ。

かくらん（角らん） 蒲團を云ふ。
がせびり 密賣淫婦を云ふ。
がりこ 子供を云ふ。
がり 新參者を云ふ。
がせ 噓言を云ふ。
がんすいばらす 涙を流す、即ち泣く事を云ふ。
がちや 巡査を云ふ。
がむ 損なる事を云ふ。
がくたい（樂隊） 馬鈴薯、豚肉、葱等の煮付を云ふ
○がちやばこ 留置場を云ふ。
きす 酒を云ふ。
○キング（King） 團長を云ふ。
ぎる 窃取する事を云ふ。
ぎりこのしや 掏摸犯を云ふ。
きすひく 酒を飲む事を云ふ。きすほやくとは云わずほやくを使用するのは食物の場合だけで飲物の場合は必ずひくと云ふ。きすほやくなど〻云ふのはかけだしもの（新參者）の證據である。
きす 空巣を云ふ。
くや（厄） 厄の意で何事によらず結果が豫期に反する事を云ふ。

ぐ　る　帯を云ふ。
ぐれてる　知つて居る事を云ふ。
げんきやう　芝居を云ふ。
げ　ん　中年の主婦を云ふ。
けんじうつ　一仕事する事を云ふ。
げ　そ(下足)　下駄を云ふ。
こます　窃取する事を云ふ。
ころびにゆく　撞球場へ行く事を云ふ。
ごろまく(語呂巻く)　喧嘩を云ふ。
ごなすけばつてゆく　婦女子を誘拐する事を云ふ。
ごんじ(権次)　不良少年を云ふ。
さ　つ(察)　警察署を云ふ。
ざつくばらん　「他人行儀でなく」との意。
しやり(舎利)　飯又は一般食物を云ふ。
し　や(者)　者と云ふ意「てめいどこのしやだ」と云へば、お前は何處の者だとの意で「どえのしや」、「さかのしや」は夫々東京の者、大阪の者の意。
しやでん(車電)　電車を云ふ。
し　け(時化)　厄と同意で、「あいつしけな事をしやがつた」と云へば「彼奴は下手な事をした」との意。又「やこんはしけだごいしやう」と云へば「今夜は(折が)悪いから歸らう」の意である。
じけい(事刑)　刑事を云ふ。
しやうねん(少年)　乾兒を云ふ。
ずらす　逃走する事を云ふ。
すめこ　娘を云ふ。
○**ず　べ**　不良少女を云ふ。
○**せいがく**(生學)　學生を云ふ。
○**ダイヤ**　腕力の強いものを云ふ。
たにす　窃盗をする事を云ふ。
たゝき　恐喝する事を云ふ。
だ　ち(逹)　仲間、友達を云ふ。
○**ちやーちー**　小さい事を云ふ。
○**ちいーでる**　頭割に分配する事を云ふ。
つなぎ(繼)　電話を云ふ。
つまみ(摘)　詐欺を云ふ。
づらかる　逃走する事を云ふ。
とつぽい　大きい事を云ふ。
と　ば　羽織を云ふ。
とんうかまる　無料入場する事を云ふ。
ど　す　短刀を云ふ。
なごたれ　女に脆いものを云ふ。
なしようつ　話會ふ事を云ふ。
ね　き　駄目、又は失敗の意。

ねす　素人を云ふ。ねすつぽとも云ふ。
ねんまん（年萬）　萬年筆を云ふ。
はいぐる　自轉車を云ふ。
ばさ　競賣を云ふ。
ばんこ（番公）　公番を云ふ。
ばたこー　乞食を云ふ。わんのしやとも云ふ。
びりつり　女郎買ひを云ふ。
びたふみ　旅行する事を云ふ。
○ひんぶり　强奪する事を云ふ。へんぶりとも云ふ。
○ヒーコ（珈琲）　コーヒーを云ふ。
びりや　遊女屋を云ふ。
びー　娼妓を云ふ。びりとも云ふ。
フエ　カフエーを云ふ。
ぺしやるな　喋るなの意。
ほうえー　緣日を云ふ。
ぽり〳〵　巡査を云ふ。
ほんけ（本家）　刑務所を云ふ。むしとも云ふ。
ぼうず（坊主）　燐寸の軸木を云ふ。
めんぐれ　知り會ひを云ふ。
○メリケン　眼と眼の間、鼻根部を云ふ。
○メリケンサツク　喧嘩の場合メリケンを毆打せん爲めに用ひるサツクを云ふ。

もん〳〵　入墨を云ふ。
もやひく　喫煙する事を云ふ。
やさ　住居を云ふ。
やちもろ　助平を云ふ。
やー　兇器を云ふ。
やーのむ　兇器を所持して居る事を云ふ。
やんば　母を云ふ。
やえんぼ　密告する事を云ふ。
やちへぐ（谷地剝）　女と關係する事を云ふ。
やんじ　親父を云ふ。
やくじん（厄人）　警官、審判所員、等の如く凡て彼等の嫌惡すべき者の稱。
やばい　危險なるを云ふ。
よこぽく（横木）　齒刷子を云ふ。
よだる　夜遊び、夜更かしを云ふ。
よろく　利益なる事を云ふ。
らつ　顏を云ふ。面（つら）の逆語。
りゆうこう（留拘）　拘留を云ふ。
るふ　古物、古着を云ふ。
わんのしや（椀の者）　乞食を云ふ。

軟　派

あいぼれ（相惚）　魚又は刺身を云ふ。

アレ的　性的魅力のある人を云ふ。「イット」に同じ。

ありがたう(有難う)　婦女誘拐の一法で、目的の女子の前で故意にノート又はハンカチ等を落し、それを注意して呉れた事を、きつかけとして遂に目的を達する事を云ふ。

イーチアザー(Each-other)　交互に鶏姦する事を云ふ。

いし(石)　頭を云ふ。

いたばり(板張り)　不良職工が女工と媾曳する事を云ふ。

イツト(It)　性的魅力のある事を云ふ。クララボウ主演の Itより出たもの、アレ的と同意。

うー(W)　婦人を云ふ。Womanの頭文字。

うなぎ(鰻)　傘を云ふ。ひらいてさす故。

うちこみ(打込)　婦女誘拐の一法で艶書又は名刺等をそ　と袂等に入れて交際の端緒を得る事を云ふ。

えんたろう(圓太郎)　女の無貞操なるを云ふ。轉び易い意よりか。

えつち(H)　鶏姦を云ふ。

おす　おゝ素的の意。

オペラバツク(Opera-bag)　他人におごつて貰ふ事を云ふ。人にぶらさがる故か。

おんこつ　男に惚れられる事を云ふ。

おとり(囮)　不良少女を囮に使つて目的の婦女を誘惑する事を云ふ。

おくり(送り)　巧に機會を捉え「どちらまでですか」「私もそちらへ行くものですお送りしませう」などゝ交際の端緒を得る方法を云ふ。

おいかけ(追駈)　婦女子に尾行して其の住居、氏名等を探る事を云ふ。

おちますよ(落)　櫛、其他髪飾り等の落ちんとして居る事、(又故意に櫛等を落ちさうにして置き)を親切氣に注意して話し掛けの端緒を得る方法を云ふ。(婦女誘拐の一手段)

おたづね(お尋)　婦女誘拐の一法で目的の婦人に、附近の名士、富豪の家を知人でもあるかの如く尋ね婦人の注意を惑かし、交際の端緒を得る方法。

かたり(語)　巧に機會を捉えて話しかける法。(婦女誘拐の一手段)

きつぱらい(切拂)　飲食店、カフェー等で無錢飲食をなし、僞つて仲間同志、喧嘩をなし其のどさくさまぎれに逃げ出す事を云ふ。

キヤブリケース 「悪い」又は「馬鹿」と云ふ意。

クララシヤン 性的魅力のある美人を云ふ。恰度クララボウの如き感んじのする美人。

こめつき(米搗) タイピストを云ふ。こめつきばつたの略。

すみません(濟) 故意に婦女子の足など踏み、或は二階からインクをかけて「これは失禮致しました」などゝ言葉巧に謝罪して、話しかけの緒を作る事を云ふ。(婦女誘拐の一法)

スタート(Start) 目的の女を追かける事を云ふ。

スタンバイ(Stand-by) うつとりする事、又は惚々する事を云ふ。

スベバ 不良少女を云ふ。スベ公とも云ふ。

すペ 素的、すばらしいとの意。

せいがく(生學) 學生を裝ひ、目的の婦女子に近づき巧に交際の端緒を得る方法を云ふ。(婦女誘拐の一法)

セブン(Seven) 質屋を云ふ。

たかり 輕い奪取の意。

たまあさり(玉漁り) 目的の婦女を物色する事を云ふ。

だんじよ(男女) 女學生間の同性愛を云ふ。おめ、シスと同意。

チチナ(Titina) お洒落で浮氣で、性的魅力の女を云ふ。

ちやん〴〵 「非常に」或は「一生懸命に」の意。

つまつき(躓き) 目的の婦人の前で故意に躓き傷などを作り婦人が親切に紙等を呉れた際それを端緒として遂に目的を達する事を云ふ。

でこしやん 醜女を云ふ。

てんしやう 嫌やな、或は助平の意。

とんぼ(蜻蛉) 外交員又は女給を云ふ。

にお 鷄姦の情交を有する二人中の年長者を云ふ

にぎり(握り) 映畫館又は雜踏中に婦女子の手を握り誘惑する事を云ふ。

バツクシヤン(Back-shön) 後辨天を云ふ。

ばら(薔薇) 美人だが付添がある、固い女だとの意。

はつてる 女を待つて居る事を云ふ。

ハンドル(Handle) 婦人の手を握る事を云ふ。

バンド 女學生を云ふ。

ふうちやん 美人を云ふ。

プログラム 婦女誘拐の手段で映畫館、音樂會等で「失禮ですが。プログラムを御借し願いませんか」などゝプログラムに事寄せて、談話の

端緒を得、遂にその目的を達する方法。

ぼたん　男學生を云ふ。

ホワイトネツク (White neck)　密賣淫婦を云ふ。

めんこつ　女に惚れられる事を云ふ。

もさる　掻拂ふ事、盗む事を云ふ。

モーシヨン　目的の婦女に秋波を送つて「御一緒に散歩しませう」などゝなれなれしく交際の端緒を得る方法。

モナトリアム (Moratorium)　金がない、胸が苦しいの意。

もり〳〵　ぢやん〳〵と同意で非常に、或は「一生懸命」にの意。

よた公　不良青少年を云ふ。よたもんとも云ふ。

よたる　遊び廻る事を云ふ。

らりこう　不良乞食を云ふ。

れいやう(齡妙)　美人を云ふ。

ロングシヤン(Long-shōn)　遠見の美人を云ふ。

わらひ(笑)　目的の婦人に微笑を投げそれに應ずる時には、狎々しく話しかけて交際の端緒を得る事を云ふ。（婦女誘拐の一手段）

此の二派の使用語を比較して見れば明らかなる如く硬、軟、兩派とも外國語の影響の存するのは見逃がせぬ事である。（硬派の○印のものは共例）現在は、朝鮮語などの影響は餘りないが將來は朝鮮語、滿洲語等の影響も可成り大になる事と信んずる又、此の不良少年語の觀察に當つては、硬軟兩派とも、

(1)犯罪語　(2)學生語　(3)流行語
(4)外國語　(5)花柳語　(6)女房詞及女詞

等の素養（?）がなければ了解に苦しむ事が多いと思惟する。

又、硬派の使用語は餘り變動しないが軟派の使用語は流行語などの影響によつて絶えず變動(盛衰)があるものである。（原則的なもの、例へば婦女誘拐の手段の用語等は例外である。）

結　論

以上は各隱語の個々に就て述べたのであるが、之等の隱語は、夫等隱語間に如何なる關係が存するか、勿論、夫々の隱語の項に於て述べた事ではあるが、今、それ等を具体的に圖示して見れば、

僧侶隱語 ──→
商用隱語 ──→

で、此の表に就て簡單に說明すれば、
僧侶隱語、並に商用隱語は、其の使用者の範圍が不變化である事を示したもので、
センボは現今、殆ど消滅した形であるが役者用語へ及ぼした影響は可成り大である。
又、犯罪語、其他の諸隱語にも僅かながら影響を及ぼして居る。
廓詞は夫自身が變化して花柳語となつたが、使用者の範圍が不變化である事を示したもの、
又、女房詞が敷衍して女詞となつたのも、圖示せる如くである。
次に不良靑少年語であるが、これも、圖示せる如く硬派は、犯罪語、花柳語、男學生語、等其他のものが混肴したものと觀てよい。
同じく軟派も男、女學生語、花柳語、硬派用語等の混肴によつて構成せられた事を示したものである。
以上によつて簡單ではあるが、各隱語間の關係に就て大略述べ以つて結尾とする。

五十音順引用隱語

あの部

あい　匕首の略。又人を殺傷するに足る刄物、又「あいくす」に同じ。

あい〔間〕　家人不在中（空巣狙犯人用語）

あい〔合〕　鍵、合鍵。「あいす」とも云ふ【大阪】

あい　掏摸犯人。「あいちやん」の略。

あい　數量の九。（支那人用語）

あいかぎ　蝙蝠傘の骨。又「よーし」とも云ふ。【福井地方】

あいかぎをあわす　男女交合を云ふ。

あいきやうしようばい（愛嬌商賣）　藝妓娼妓、料理屋、其他愛嬌がなくては經營の出來ない商賣一般を云ふ。

あいくす　匕首。又人を殺傷するに足る刄物一切を云ふ。

あいこ　放火窃盜。【大阪地方】

あいさま〔兄樣〕　典獄補。【石川地方】

あいさん〔愛樣〕　婦人を云ふ。

あいす　深更師其他が用ゆる合鍵一切。又「あい」とも云ふ。

アイス〔ice〕　高利貸。アイスクリームは氷菓子だから意を高利貸に通わせたもの又冷き意にも通ず。

あいち　小間使、女中、附添婦を云ふ。

あいちろぼつちん　特殊部落民（新平民）

あいちやん　掏摸犯及同犯人を云ふ。

あいてやし　掏摸犯及同犯人を云ふ。

あいばん　手傳人夫の手傳人を云ふ。

あいびき　合鍵、「あいす」に同じ。

あいぼ　賭博犯人及同犯を云ふ。

あいぼれ〔相惚〕　刺身の事。隱語で接吻の事を「さしみ」と云ふ、それで接吻は相思の仲、相惚れでなければ出來得ないから料理の刺身をあいぼれと云ふ。（花柳界）

あいま　九人。（支那人用語）

あいまいや〔曖昧屋〕　密淫賣屋を云ふ。

あいろーつ　日本人　又日本銀貨。（支那人用語）

あいろうつあい　獰帝。（支那人用語）

あいんむ　辯護士。（朝鮮人用語）

あうち　羽織類を云ふ、「だるま」とも云ふ。

あを〔青〕　澤庵を云ふ。

あおい〔葵〕　錢。馬場文助の武藏野俗談（後編）の遊女の相詞又は「かくし詞」中に葵を錢としてある。

あをうら〔青裏〕　刑務所の高等なる官吏。典獄を「あかうら」と云ふ。典獄の佩劍の紐の裏が赤き故。高等なる官吏は佩劍の紐の青き故かく云ふ。【關西地方】

あおおに　胡瓜。「腕だした」とも云ふ。【富山地方】

あをからす〔青烏〕　茄子。【宮崎地方】

あをきゆーべい〔青久兵衞〕　鰍の事。【三重、島根地方】

あおぎた　八月頃の風。（三重南部地方、伊豆地方の船頭の言葉）

あをく　大根、蕪等其他の野菜を云ふ。又福岡地方にては「あをた」と云ふ。岡山地方ではなづけ（菜漬）を「あをた」と云ふ。又「あをたあかもの」の略で果實類をも「あをた」と云ふ。

あおたあかもの　果實類を云ふ。

あをだけのてすり〔青竹の手摺り〕　危險狀態を云ふ。【岩手】　又前科數犯の强かものを云ふ。

あをたゝみ〔青疊〕　裁判所を云ふ。

あをたひろい〔青田拾〕　田畠の作物窃盜者を云ふ。

あおち〔煽〕　疾風。「あおり」とも云ふ。（露天商人間にては風の事）

あおち 雑踏中に人の羽織等を脱がせ窃取する事を云ひ。それより羽織の事をも云ふ。
あおち 雛。（羽ばたきより出づ）
あをちようば〔青帳場〕 裁判所。豫審判檢事介議室。一般事務室を云ふ。
あをてーぶる〔青卓〕 高等官。高等官のテーブルクロースは青色であるから又一般に高等なる官吏（官吏）
あをとり〔青鳥〕 未熟者を云ふ。
あをな〔青菜〕 病弱者。体弱き者を云ふ。俗に「云ふ青菜鹽」より出づ。
あをのこ 遊女。（越後の方言）
あをのれん〔青暖簾〕 部屋持女郎。局女郎の事。其の女郎の居る家に青暖簾がかけてあるから
あをばれ〔青晴〕 好天氣を云ふ。
あをふく〔青服〕 勞働者。機械工などが俗に云ふ菜葉服と云ふ青色の服を着るから
あをやなぎ〔青柳〕 切昆布を云ふ。
あおり 萬引窃盜犯を云ふ。
あおり 人を騙して賭博を勸誘するもの人を煽るの意。（詐欺、賭博犯用語）
あおり 暴風の事を云ふ。

あか 燐寸。正しく云へば燐寸箱の側面にある藥紙を「あか」と云ひ、軸木を「ぼうず」と云ふ。
あか〔閼伽〕 酒。梵語の水より出づ。（僧侶）
あか〔赤〕 血。「あかはしる」と云へば出血の事。「あかやいん」と云へば月經の事を云ふ。
あか 煙を云ふ。【和歌山縣】
あか〔銅〕 あかがね窃盜の略なり、銅及電線其他の金屬を窃盜する者を云ふ。
あか 門戸其他の施錠箇所を焼抜き忍入る窃盜又は强盜を云ふ。
あか 持兇器窃盜を云ふ。
あか〔赤〕 憲兵。（軍帽の周圍の赤き故又、「あかひげ」の略なりとも云ふ）。
あか 被告戒護者。「あかい」とも云ふ。【京阪地方】
あか〔赫〕 太陽を云ふ。
あか〔赤〕 火災。「あかはしる」とも云ふ「あかはしらす」は放火を云ふ。
あか〔赤〕 危險思想を抱いて居るもの。又危險の意をもあらわすを云ふ。
あかい 星月夜。又は月夜を云ふ。
あかいしんによ〔赤い信女〕 未亡人。夫婦の内何れが死んだ時、同一墓石に戒名を刻む時生存してゐる者の方の戒名は二字程朱で書く事になつてゐるから。

あかいしんによのもくぎよこー〔赤い信女の木魚講〕 未亡人が私通して姙娠する事。「木魚講」とは姙娠した事を木魚腹などと云ふそれより意をきかして木魚講などと洒落れて云ふ。
あかいところにまわゐる〔赤い處に廻る〕 犯罪事實の暴露した事。又逮捕される事を云ふ。
あかいぬ〔赤犬〕 放火を云ふ。
あかいぬをけしかける 放火「あかいぬをあわせる」「あかねこをあわせる」に同意。
あかいぬをあわせる 放火を云ふ。
あかいれ〔赤入〕 火鉢を云ふ。
あかいんき 火災を云ふ。
あかうま〔赤馬〕 火災を云ふ。
あかうま〔赤馬〕 銅貨を云ふ。
あかうま〔赤馬〕 蚤。（愛知の方言）又（不良少年語） 不良少年語で虱の事を、「しろうま」又は「はくばのきしゆ（白馬の騎手）とも云ふ
あかうまをけしかける 放火を云ふ。

あかうまとばす（赤馬飛ばす） 放火を云ふ。
あかうめ 火事を云ふ
あかうら（赤裏） 典獄。典獄の佩劍の付け紐の裏が赤き故「あかうら」參照。
あかえぼうし（赤烏帽子） 亭主。夫。亭主の好きな赤烏帽子より出づ
あかおに（赤鬼） 檢事を云ふ。
あかがい（赤貝） 女の陰部。「赤く輝いた」の略なるべし
あかがいた 火災を云ふ。
あかがはいる（赤入） 犯罪事實の發覺。「あかりがいる」に同じ
あかきゆうべい（赤久兵衛） 鰆（さわら）。【三重、靜岡地方】
あがく 會合して密談する事を云ふ。
あがこや 人蔘を云ふ。【福島縣】
あかこうのう（赤行囊） 貴重なる物品を云ふ。郵便物の大切なるものを赤行囊に入れる故。
あかじ 穀類—日本酒一般を云ふ。
あがじ 強盗、竊盗に行く途中警官と出會ふ事を云ふ。
あかしやべ 銅製の十能。（銅（あか）シヤベルの意より出たものか）
あかしんた 銅貨。（「しんた」は山窩語で金の事、銅の金、即ち銅貨）。

あかすこ 金側懷中時計を云ふ。
あかすじ（赤筋） 檢事を云ふ。
あかすか 無駄。駄目と云ふ意。（愛知の方言）
あかたい（赤鯛） 南瓜を云ふ。
あかだいこん（赤大根） 朦朧社會主義者を云ふ（主義者語）
あかだま（赤玉） 月經の事。（日の丸、旗日等とも云ふ）。
あかだま（赤玉） 藥罐を云ふ。
あかだるま（赤達磨） 小豆を云ふ。
あかだれ（赤垂） 男女の情交の深い事。
あかちやん 密告者を云ふ。
あかづら（赤面） 銅貨を云ふ。
あかて（赤手） 強盗犯同犯人を云ふ。
あかとじ 人蔘。「あかとじぼ」も同意。
あかとんぼ（赤蜻蛉） 唐辛子を云ふ。
あかなべ（赤鍋） 好色淫奔なる女（又之は北國地方の方言である）
あかなま 銅貨。（「なま」は金、銅金、即ち銅貨の事）
あかにし（赤螺） 吝嗇家（螺の如く持ちたる金品を放さぬ意より）
あかねこ（赤猫） 火災。放火を云ふ。

あかねこをおわす（赤猫脊負す） 放火を云ふ。【香川縣】
あかねこをはわす（赤猫を這す） 放火を云ふ。【宮城縣】
あかねば（赤粘） 味噌を云ふ。
あかねぶる（赤甜る） 火災。「ねぶる」は方言にて甜るの意、火が赤く家を甜めて居るの意より出づ。【中國地方】
あかのれん（赤暖簾） 安飲食店。繩暖簾など同意。
あかばい（赤蠅） 警視廳のオートバイの事。警視廳のオートバイは赤く塗られてあるより「オート」を略して赤ばいと云ふ。之は高官の護衛又は犯人追跡に用ゆる故轉訛して追跡せらるゝ事をも云ふ。
あかはしる（赤走る） 火災を云ふ。
あかはしる（赤走る） 出血する事を云ふ
あかばと（赤鳩） 鶉豆を云ふ。
あかばら 銅貨。別に一錢二錢の端下金を「ばらせん」と云ふ。その「ばら」と銅（あか）とを結びつけてかく云ふ。
あかひげ（赤髯） 憲兵を云ふ。
あかひげ（赤髯） 外國人を云ふ。
あかびら 獄衣。「びら」は着物の事、故

に「赤びら」の直譯は「赤い着物」又「たこびら」とも云ふ。

あかぼい　看守を云ふ。

あかぼしい　看守を云ふ。

あかほん〔赤本〕　緣日、祭日等に曖昧なる本を賣るもの。又其の本を云ふ。

あかまえだれ〔赤前垂〕　鹽鮭。一般に鹽鮭を店頭に陳列する際赤紙に値を書き附する習あるより。

あかまる〔赤丸〕　火事を云ふ。【長崎縣】

あかまんす　人蔘を云ふ。

あかまんすい　人蔘。「てりまんすい」とも云ふ。【石川縣】

あかむしはふ〔赤虫這〕　火事を云ふ。

あかもん〔赤門〕　稻荷（赤鳥居有るより）

あかもん〔赤門〕　東京帝國大學（通用門が朱塗なる故）「赤門出」と云へば東大卒業生の事、轉じて各地大學卒業生の事をも云ふ。

あかや　好色の男を云ふ。【京都】

あかやいん　月經の事を云ふ。【福岡縣】

あがり〔上り〕　階下に家人不在又は熟睡せる時を窺い二階に忍び入り窃盜を犯す又は玄關においてある衣類、履物類等を窃取する事を云ふ。又「あきすねらい」と同樣の時にも用ひらる。

あがり〔上り〕　目的通りに掏摸を遂行し得た事を云ふ。

あがり〔上り〕　朝方。太陽が上るの意より

あかり　茶。「あかりばな」の略。

あかりがいる〔明入る〕　犯罪事實の發覺を云ふ「あかりがはいる」に同意。

あがりなまず〔上り鯰〕　金錢の盡きた遊湯客（死んだ鯰はぬめりがなくなる所から。花柳界）

あがりばな〔上り花〕　「茶をひく」の茶を忌んで客が來る樣にと「上り花」とつけたもの。又「でばな」とも云ふ。又略して「あがり」とも云ふ。

あがりふみ〔上り踏〕　家人の不在中屋根等より忍込み金品を窃取する事、又晝間窃盜をなす事。【京都】　萬引の事をも云ふ。【大阪】

あがる〔上る〕　下車。上陸する事を云ふ

あがる〔上る〕　犯罪の實行中家人其他に發見せられ逃走するを云ふ。

あかんま　月經の事。（愛知の方言）

あき〔空〕　家人の不在中侵入して金品を窃取する事。「あきすねらい」に同じ。

あきし〔空師〕　「あき」、「あきすねらい」に同じ。又不在の家の事をも云ふ。又不在の家を云ふ。【山口縣】

あきす〔空巣〕　空巣狙の略。「あきすねらい」に同意、又家に人の存否を探る事。

あきすかい〔空巣買〕　略して「すかい」とも云ひ、又「あきす」とも云ふ。【大阪】。

あきすふみ〔空巣踏〕空巣窺に同じ。

あきすねらい〔空巣狙〕　家人不在中に侵入して金品を窃取する事。晝間のあきすねらいを「晝あきし」夜のあきすねらいを「宵あきし」と云ふ。

あきちやん　空巣狙に同じ、略して「あきちや」とも云ふ。

あきない〔商〕　窃盜行爲の總稱、商賣。仕事とも云ふ。

あきないし〔商師〕　强窃盜常習者を云ふ

あきないじようず〔商上手〕　窃盜手段が巧妙で容易に逮捕されないもの、又「しようばいじようず」とも云ふ。

あきのあうぎ〔秋の扇〕　女が男に愛想をつかされる事。漢の班婕妤の「秋扇賦」より。

あきのがつさん〔安藝月山〕錠。【福岡縣】

あきやべー　美しい着物を云ふ。

あく〔開く〕　陳述。自白。口を開くの意。

あくきりゆう〔惡氣流〕　酒癖の惡き男。

あくざい〔惡采〕　仕掛ある采。「にせざい」、「あんいりざい」とも云ひ詐欺賭博に用ゆる。

あくび〔欠伸〕　自白。陳述。「あく」に同じ

あくほう〔惡法〕　治安維持法。治安警察法を云ふ。（勞働知識階級）

あくまたばこ〔惡魔煙草〕　ゴールデンバットの異名。包裝が毒々しく惡魔的な處から、「別に土方煙草」馬方「煙草」とも云ふ。（學生語）

あけ〔明〕　夜明。黎明を云ふ。

あげいた　賭博開張の現場を云ふ。

あけからす〔明鴉〕　眾。單に「からす」とも云ふ。

あけさす　二階。「あかりさす」の意よりか。

あけじよう　殘月を云ふ。

あけちか　大道の風鈴賣を云ふ。

あげつ　煽動する事。御世辭を云ふ事。

あけつき　人を煽動し又は慾情を唆る樣な言語動作を云ふ。「あげつ」に同意。

あけつぼ〔上げ壺〕　詐欺賭博に於ける不正なる壺の伏方を云ふ。

あげてくる　目的通り多量の贓品を得て歸る事を云ふ。

あけどりうち〔曉鳥擊〕　犯人熟睡中を襲って逮捕する事を云ふ。

あけに　午前十時頃を云ふ。【關東地方】

あけば〔明端〕　曉。翌日を云ふ。

あけばねずみ〔明端鼠〕　朝飯前後の忙中を窺って店頭の金品等を窃取する所爲

あけばばらし　住宅の門戸等を切破り忍入る所爲。「あけば（開場）」で「ばらす（「殺す」）又は「切る」の意あるそれより「あけばばらし」門戸を切破る事になる

あけび〔通草〕　眼。（形狀の近似より）

あげまい　窃取せし金額贓物等の多寡を云ふ。

あげまき〔揚卷〕　娼妓を云ふ。

あける〔空る〕　住居移轉、失踪、行方不明等を云ふ。

あげる　窃取せし贓物を持歸る事を云ふ

あこ　口。「たんか」とも「あご」とも云ふ「あご」參照。

あご〔頤〕　食事。食料品。又窃盜、掏摸が仕事の惡事をも云ふ。【關東地方】

あごさし　相手方の計畫の裏を畫く事。

あごたかい〔頤高い〕　雄辯家。（愛知の方言）

あごたゝく〔頤叩く〕　喋る。（愛知の方言）

あごつり〔腮吊〕　賭博に負けて無一物になる事を云ふ。

あことり　警察官の取調。檢事、豫審判事の訊問を云ふ。

あさ　囚人。住居。「やさ」の轉訛。

あさがほ〔朝顏〕　小便器。形狀の類似より。

あさかり〔朝狩〕　朝飯時の繁忙時を窺ひ店頭の物品を窃取する所爲「あけばねずみ」に同意。

あさぎうら〔淺黃裏〕　田舍者。略して「あさぎ」とも云ふ。

あさくさ　囚徒。犯罪常習者を云ふ。

あさくさしき〔淺草式〕　卑猥な色彩で人にエロチックな氣分を與へたりする樣な淺草を動詞的にきかしたもの

あさくさる〔淺草る〕　淺草をぶらつく事。轉じて歡樂を求め歩く事を云ふ。

あさばかせき〔朝端稼〕　早朝の忙中に窃盜をなす事「あけばねずみ」「あさかり」に同意。

あさひ〔朝日〕　唐辛子を云ふ。

あさま〔淺間〕　煙草、淺間山の噴煙より

聯想したものである。石川縣地方にては「おかちゃん」又「喜三郎」とも云ふ。

あさまぐれ〔朝間暮〕 朝。倭詞「夕間暮」に對して創りし語。

あさまわり〔朝廻り〕 早朝市中を歩いて紙屑其他を拾ひあつめる者。「ピンセット」【東京】、「バタヤ、バタ公」【東京】拾ひ屋【大阪】とも云ふ。

あさりふみ 店頭に人影なき時に物品を窃取する事を云ふ。

あさる〔漁〕 探す。少しの金品を窃取する事も云ふ、

あし〔足〕 婦女子。足手纒の意より出づ共謀者。共犯者を云ふ。

あし〔足〕 手足になると云ふ意なり、唯單に「手」とも稱す。

あじ 自分の粗惡なる品物と他の良なる品物とを故意に取替える事、例へば履物、雨傘、外套を履き替さし替たりする事。又別に「搔拂ひ」の事をも云ふ。

あしぐろ〔足黒〕 警察官吏を云ふ。

あしげい〔足藝〕 大根の煮付。下手な役者を「大根」と云ひ又「馬の脚」とも云ふので二つを綜合取捨して作つたもの英語の(agitation)を活用した語、勞働爭議などの際團員に煽動的な言辭を與へ挑戰的氣分を引き立たす事を云ふ。

あすい 犯罪決行の容易なる事。やすい(易い)の轉訛。

あせ〔汗〕 血。神主の忌言葉。

あぜ 馬鹿者、たわけもの。【岐阜縣】

あそび〔遊〕 賭博犯及博徒を云ふ。

あそびじん〔遊人〕 賭博常習者。「あそびて」とも云ふ。

あそびと〔遊人〕 賭博常習者。「あそびじん」に同意。

あたい 强慾慘忍なる性格を云ふ。

あたい 豫期の結果を得るに致らざるときを云ふ。

あたい 怜悧にして用意周到なる人物。

あたい〔價〕 値の高き事。(露天商人語)

あたいじん 詐欺賭博犯人間に用ゆる語にして用意に欺き難き人物を云ふ。

あたいとつぱい 怜悧にして用意周到なる人物、又は邪智に長けたる人物、

あたえよべー〔與へよ病〕 不破雷同的に新思想にかぶれて「婦人參政權を與へよ」「勞働休息日を與へよ」等と叫ぶものを云ふ。

あたたむ〔溫む〕 放火。「あたためる」とも云ふ。

あだち〔安達〕 野原。安達ケ原より出づ

あだちがはらさんだんめ〔安達ケ原三段目〕 飲食物を差入れする事を云ふ。

あだに 隨分と云ふ事。(愛知の方言)

あたぴん 安酒。一杯飲んで直ぐぴんと頭へ來ると云ふ意「のきさめ」とも云ふ。

あたま 金、銀側懷中時計を云ふ。

あたま〔頭〕 署長、典獄、其他上官、人の上位に居るものを云ふ。

あたま〔頭〕 帽子を云ふ。

あたり〔當り〕 窃盜によりて得たる贓物が意外に多額なる場合。「大當り」の意

あたり〔當り〕 窃盜犯人が忍び入らんとする前に先づ室内の様子を窺ふこと又「さわり」、「つき」とも云ふ。【岩手縣】

あたり〔當り〕 關東地方の商家にて「する」の音を忌む習慣がある、例へば「損する」の時、「する」を忌んで損失の反對の商賣繁昌「大當り」の意をとつて「あたり」と云ひ、同様に硯箱を「あたりばこ」、するめを「あたりめ」床屋は頭を剃る、此の剃るを關東地方の言葉で

「する」と云ふ。其れ故に「する（剃る）」を忌んで「あたりや」と云ふ。

あたりまい〔當舞〕　通行人に尾行し其の背後より行過ぐる際に懷中物、其他を竊取するを云ふ。

あたりばこ〔當箱〕　硯箱。「あたり」參照。

あたりめ　鯣。「あたり」參照。

あたん　立腹して物に當る事。愛知の方言）

あち　空を云ふ

あちお　帶を云ふ。【滋賀縣】

あぢさい〔紫陽花〕　冷淡な人。紫陽花の花言葉は冷淡を意味する、「あぢさい」は七色に變化すると云ふ處から。（女學生語）

あつ　袷、綿入一般綿衣類を云ふ。「あつし」の略なるべし。【關西地方】

あつい〔厚〕　竊取せし金品の意外に多額なる事を云ふ。

あついた〔厚板〕　綿入着物。【石川縣】

あつおんい、　家[illegible]消遣、（臺灣人隱語）

あづかり〔預り〕　露天商人間で親分子分の關係なくともこれに準ずるもの。

あつけしやう〔厚化粧〕　雪景色。霜景色を「うすげしやう」と云ふ、

あづけられ　結婚。（東京女學生語）

あツこうらい　疊を云ふ。

あつた　數量の八を云ふ。

あつた　竊取せし貴重の物品を云ふ。

あつたもん〔八文〕　馬鹿。「あつた」は八、故に八文、八文錢―天保錢と聯想したもの。

あつびら〔厚片〕　男女袷衣類を云ふ。

あつべら〔厚片〕　木綿衣類。【關西地方】

あつぽ　糞。「あつぽする」は脱糞の事、又「くじゆうばらす（九十ばらす）」とも云ふ其項參照。

あづま〔東〕　關東の事。「あづまのしや」（東の者）と云へば關東の者、江戸ッ子等を指す。

あつまり〔集〕　多衆集合、宴會、雜踏の場所等を云ふ。囚人が「あつまりだ行こう」と云へば敎誨師の講話を聞きに行く事。

あつらん　袷、綿入、一般木綿衣服「あつ」に同意で又「あつひろ」にも同意。「びら」も「らん」も共に着物、衣類の意で接尾語としてよく用ひられる。「洋らん」は洋服と云ふが如し。

あて　犯罪當時の狀況其他の犯罪事實に關する新聞記事を云ふ。

あて　安全剃刀其他小形の刀類を云ふ。（掏摸犯人所持品）

あて　鑿。一般に犯罪に使用する刄物、及兇器等を云ひ又轉じて强盜犯人、持兇器竊盜犯人等を云ふ。【關東地方】

あて　酒席の料理物。操芝居の樂屋言葉より出づ、樂屋言葉の「あて」は「飯の菜」の意なり。

あて〔當〕　あてごと賭博の略。

あてうま〔當馬〕　「試情馬」とも云ひ。牝馬の發情の有無を檢する時に種馬ならざる他の牡馬を牝馬に近づくれば發情せる時は牝馬は牡馬を慕ふ。此れに使用する牡馬を云ふ。それより轉じて「戀愛」、「同性愛」等の仲介者周旋者等を云ふ。

あてをつかふ〔當を使ふ〕　竊盜犯人、掏摸犯人が刄物を使用する事。例へば竊盜犯人が戶錠等を刄物にて破壞し、掏摸犯人が安全剃刀等にて袂等を切る事を云ふ。

あてがつく〔當が附く〕　强盜犯人が目的の場所を定め犯罪の實行にかゝる事。

あてこみ〔當込〕　强盜犯人が目的の家の

模様を豫測檢分する事を云ふ。
あてちやり　人を殺傷したる兇器等を投棄する事、「あて」は兇器で「ちやり」は關東地方の方言にて「うつちやる」、又「ちやる」と云ふ事は投棄を意味するそれより「ちやり」は投棄の意なり。
あてる〔當る〕　强盜、又は竊盜をなしたる事。【兵庫、和歌山兩地方】
あとい　警察署長を云ふ。
あとおし〔後押し〕　通行人に尾行し其背後より行過ぐる際金品其他を竊取する掏摸を云ふ。
あとさき〔後先〕　カブ賭博の一種。
あとば〔後端〕　背を云ふ。
あとぶつ〔阿堵物〕　金錢の事。（學生語）晋の王衍が錢を見て「擧二阿堵物一去」と云ひし故事より出づ。阿堵物本來の意味は「こんなもの」との意。
あな〔穴〕　女の陰部を云ふ。
あな　遊び場。又は金主を云ふ。
あないち〔穴一〕　路上に小さき穴を掘り手前二米ばかりの所へ横線を引き其の線へ足をつけて銅貨、一文錢等を穴へ入れ、入るか入らぬかによつて勝負をきめるもの子供の賭博なり。「かんきりろくどう、ほんからほ、よせ、けし、ろく」等は皆「あなうち」に類似のものなり。

あなうち〔穴打〕　「あないち」に同じ。
あなうんさー〔Anauncer〕　ラヂオ放送者より思ひついて女學生間にて他人の惡口等を云ふ者。
あなきずむ〔Anarchism〕　音の相通により未婚の若い婦女を云ふ。
あなくま〔穴熊〕　詐欺賭博犯人仲間で賭場の床下に隱れて居て釆を都合のよい様に糸にて引くもの「なが、さんづん」に同じ。
あなし〔穴師〕　西北の風。（中國、近畿の船頭語。）
あなづたい〔穴傳〕　窓口、明取窓、床下等より忍込む竊盜犯人を云ふ。
あなばち〔穴鉢〕　女の陰部。「あなばちわる（穴鉢割る）」は處女と關係する事。
あなほん　「あないち」の一種で穴の周圍に輪を畫きしものを云ふ。
あなわり〔穴割〕　「あなし」に同じく近畿中國の船頭語で西北の風を云ふ。
あに〔兄〕　古い魚を云ふ。（魚屋語）
あにい〔兄〕　刑事を云ふ。

あにき〔兄哥〕　比較的高級なる官吏、又は刑事、巡査等を云ふ
あにがほ〔兄顔〕　兄分株。勢力あるもの。
あにさがほ〔兄様顔〕　高級なる官吏。【富山縣】
あね〔姉〕　藝妓、酌婦。土藏の一番目。
あねいもと〔姉妹〕　一番土藏、二番土藏の事を云ふ。
あねし〔姉師〕　普通竊盜犯が强盜犯前科者に對して多少尊敬の意味をもたせてかく云ふ。
あの　天。空を云ふ。
あのじん　彼の人、あの人。（愛知の方言）
あばい　危險な事「やばい」の轉訛。
あばえる　金錢物品を所持する事。
あひる〔畦蒜〕　密賣淫婦。昔上州の畦蒜地方の女が江戸で賣淫行爲をせしより賣淫婦の事をかく云ふ）
あひる〔家鴨〕　制服巡査を云ふ。
あひる　失職者。又は失職して無經驗の職業をなしてゐる事、又肥滿した下女を云ふ。
あぶ〔虻〕　自分の子。うるさく虻の様に刺される意。「餓鬼」「脛かじり」に同意。
あぶき　目的の場所へ急いで行く事。

あぶす　殺人、傷害、刄物を浴びせかけるの意。

あぶせ　犯罪行爲の邪魔をする飼犬に餌を與へ其の虛を窺つて撲殺する事、又犬殺しが路上の飼犬を撲殺する事をも云ふ。

あぶせる　殺人、傷害等の所爲「あぶす」に同じ。

あぶな　數量の九、「あぶない」に同じ。「あぶない」參照。

あぶない　露店商人、行商人、魚店、青物屋、馬車輓等が金錢又は數量の九を「がけ」又は「きわ」と稱す、九を何故「がけ」とか「きわ」とか云ふ語を用ひたかと云ふと九は基本數字の最後に位するものであるから崖とか際とかと云ふ物の最後を意味したものでそれより崖は一歩辷べらせば命はないから「あぶない」と云ひそれを略して「あぶな」とも云ふ樣になつた。

あぶなえ〔危な繪〕　女の下肢があらにになつて居るとか、其の他卑猥な構圖を描いた頭畫を云ふ。又春畫をも云ふ。或カフェーで十圓のチップを呉れる客を「あぶなえ」と云ふ。（女給語）

あぶら〔油〕　門戸を開き屋内に忍び入らんとして音響を妨ぐ爲に茲に尿を注ぐ所爲を云ふ。

あぶら〔油〕　日射烈しく暑さ甚だしき日など「膏汗の出る日」と云へるより。【關東地方】

あぶら〔油〕　降雨。【京阪地方】

あぶら〔油〕　怠惰者を云ふ。

あぶら〔油〕　鷄姦。「びろーど」又は「きくざら」とも云ふ。「しやくはち」とも云ふ。

あぶらうり〔油賣〕　無職にして賭事に耽けるもの、怠惰者を云ふ。

あぶらか　夫婦同伴者。「あぶらや」とも云ふ。

あぶらげ〔油揚〕　布團を云ふ。

あぶらげとおふ〔油揚豆腐〕　座布團の事。

あぶらむし〔油虫〕　興行物を無賃で觀るもの、又遊廓の素客を云ふ。又他の者の庇護を受けて生活してゐるもの。

あぶる　儲け仕事のない事。又犯罪の實行に着手し意外の障碍に遭ひ豫期の結果を得ざりし時「あぶれる」とも云ふ。

あふりか〔亞弗利加〕　缺席裁判にて判決を言渡される事を云ふ

あほう〔阿呆〕　制服巡査を云ふ。

あほり　四人組でなす詐欺、「鹿追ひ」の仲間の一人で被害者を釣るものを云ふ

あま　贓物の處分を云ふ。

あま　夜半を云ふ。

あま〔甘〕　砂糖、遲鈍者を云ふ。

あま〔支阿媽〕　印度語から出た語、女を罵つて云ふ語、又在支、在日の外人等が女中を云ふ語。

あまあぼ　砂糖「あまつぼ」とも云ふ。

あまい〔甘〕　穩やかな役人を云ふ。又役人の監督が緩やかなこと。嚴格な役人を「しほからい」と云ふ。

あまかえる〔雨蛙〕　心の變り易い男女を云ふ。（雨蛙は保護色であるから）

あまかす〔甘糟〕　社會主義者に彈壓を加える事。（關東震災の時大杉榮夫婦〃甥橘宗一を絞殺した事より）

あまきす　甘酒。「きす」は酒。

あまきり〔天切〕　家屋の屋根を切破り忍込む窃盜犯を云ふ。

あまぐり〔甘栗〕　性質の甘き人。（女學生語）

あましやり　菓子類一切を云ふ。

あましよく〔甘食〕　何時でも仲良く二人

くつきあつている事。二個合せた食麵麭より來た語。
あませ〔天背〕 屋根を云ふ。【宮城縣】
あまちやん 女に甘き男、又遲鈍者を云ふ。
あまちゆう〔甘酎〕 味淋と燒酎との混合したものを云ふ。
あまつぼ 砂糖を云ふ。
あまどじ 甘藷を云ふ。
あまはだ〔海女肌〕 肌衣類一切【大分縣】
あまぼ〔甘坊〕 菓子類一切を云ふ。
あまぼ〔甘坊〕 甘藷。【富山縣】
あまほし 砂糖 【北海道。】
あまり 酢を云ふ。
あみうち〔網打〕 警察の非常警戒を云ふ
あみだ〔阿彌陀〕 笠。〔てんがい〕に同じ（阿彌陀笠より。）
あみだける〔阿彌陀蹴〕 通行中の荷車を追跡して車上の物品を窃取する事。「はちおひ」「とんぼおい」に同じ。
あみだきよう〔阿彌陀經〕 菎蒻を云ふ。
あめ〔飴〕 詐欺賭博其他にて相手を乘氣にさす爲に勝負を故意に負ける事。又甘言を以て人を欺罔する事を云ふ。斯樣な事を「あめをくわす」【關東地方】「あめをねぶらす」と云ふ。【關西地方】
あめりか 缺席裁判にて判決を言渡される事「あふりか」に同意。
あめふり 裁判所、警察署を云ふ。
あめしよん 一寸渡米した人。（渡米して何等得る所なく唯小便だけして來たと云ふ意味のもの）（有識階級者）。
あもかい〔餅買〕 家畜窃盜犯人を云ふ
あやかす 欺す。（愛知縣の方言）
あやつり〔綾釣〕 竹竿に鈎をつけたるものを使用し洗濯物其他屋内の物品を窃取するものを云ふ。
あやふや 入浴を云ふ。【岡山縣】
あら〔缺點〕 監房内の取調。【北海道】
あら 籥を云ふ。
あらあぼ 菜漬を云ふ。【德島縣】
あらいそ〔荒磯〕 看守其他の獄吏の巡視あるを密告し合ふ詞。
あらう〔洗〕 被告の身許調査。又は贓物の所在、犯罪の事實、餘罪調査等を云ふ。
あらう 拾得物を横領する事。「あらしごと」に同じ
あらかせぎ〔荒稼〕 强盜犯の意を云ふ。
あらもの〔荒物〕 密賣淫婦。（滋賀縣彥根附近）
あらし〔荒し〕 博徒其他無賴の徒を云ふ
あらし 露天商人が諸種の贋造物を販賣する事を云ふ。
あらし〔荒し〕 强盜、强姦犯を云ふ。
あらしごと〔荒仕事〕 强盜犯を云ふ。
あらしやば〔荒婆娑〕 新參の俳優。（舞臺俳優語）
あらすか ……でない、否定。（愛知の方言）
あらとり〔荒取〕 賭博開張の現場に於て胴元人其他を脅迫して賭金の一部を要求し、又平素博徒仲間より種々の名目で金品を强要するものを云ふ。
あらとのかけ〔荒砥の缺〕 豆腐を云ふ。
あらばち〔新鉢〕 未だ盜難の被害なき土藏、人家、又は未婚者を云ふ。
あらばち〔新鉢〕 處女の陰部。（愛知の方言）
あらばちわる〔新鉢割る〕 未だ被害なき土藏人家に忍び込む事、又處女と關係する事を云ふ。
あらびや〔亞剌比亞〕 体格巨大の人物。
あらめん〔新面〕 初對面を云ふ。
あららぎ 寺院の塔。往昔の神官の忌言

葉。

ありあけ〔有明〕　十五錢を云ふ。

ありがとう〔有難う〕　不良青年が婦女子を欺く手段の一種でハンカチ、本、其他の持物を目的の婦女子の前で故意に落し、婦女子がそれを好意的に注告してくれるのを端緒として、遂に目的を達する手段を云ふ。

ありつけ　窃盗犯人が忍び入らんとして門戸の施鎚を破壊する所爲を云ふ。

ありのすさびぐみ〔蟻遊組〕　氣まぐれ者

ありのみ〔有の實〕　梨。梨は「無し」に通ずる故それを忌み其の反語「有り」としたもの、河原の蘆は「惡し」に通ずる故其の反語の「良し」をとり「よし」としたる等普通語に於ても其の例多し。

ありひ　一般賭博犯を云ふ。

ありんすことば〔ありんす言葉〕　吉原女郎の使用する軟語を云ふ。「ありますを「ありんす」「します」を「しんす」「しなさいます」を「しなんす」。と語尾を轉れる言葉で諸國より參集せる遊女の方言を統一する爲に作られたもの。

ありんすこく　吉原、「ありんすことば」を使ふ國と云ふ意、「ありんすことば」參照。

ありんす　遊女のことを云ふ。

ありんど〔蟻人〕　蟻。（愛知の方言）

あるいから　窃取する金品を有するの意（朝鮮人隱語）

あるたんちやで　馬賊の小頭、又副參謀の意。（支那人隱語）

あるまち〔探知〕　檢事。（朝鮮人隱語）

あるへいとう〔有平糖〕　ボード錐の類。

あれば　お前の居房。（自分の居房を「これば」と云ふ）

あわおこし〔粟起し〕　殘飯。「おこし」は元殘飯より製せし故なり。

あわき　九錢を云ふ。

あわき〔淡き〕　懷中に金錢の乏しき事。目的とする相手に金品乏しき事。

あわしま　農作物窃盜犯人を云ふ。

あわせがい〔合貝〕　女の陰部を云ふ。

あわせさんびん　海老鎚を云ふ。

あわび　鎚を云ふ。【長崎縣】

あんい　共謀犯人、同類者（朝鮮人隱語）

あんいりざい〔餡入采〕　采の中心に鉛等を入れ、自分の思ふ目が出る樣に仕掛けてあるもの。「一点物、二点物、三点物」を參照せよ。（詐欺賭博者の使用するもの）

あんくわんつ　月影。（支那人隱語）

あんこ〔鮟鱇〕　口。（鮟鱇は口大なりよつてかく云ふ）

あんこ　鷄姦、男子同性間に於ける猥褻行爲を云ふ。

あんこ　外出せず家に隱れる事を云ふ。

あんご〔暗號〕　約束、誓言、又は暗號をも意味する。

あんこのふえ　煙管を云ふ。

あんざん〔安産〕　土藏破りが容易であつた事、困難な事を「なんざん」と云ふ。

あんし　狐を云ふ。

あんじゆさん　尼僧、（愛知の方言）。

あんたー　何か、（千葉の方言）

あんちん（安珍）　女の帶（安珍清姫より）

あんど　土藏破りを云ふ。

あんどんばかま〔行燈袴〕　女學生を云ふ

あんない〔案内〕　提燈を云ふ。

あんにや　遊女を云ふ。（三重の方言）

あんば　老婆を云ふ。

あんばいいてしまつた〔鹽梅行つて仕舞つた〕　殺人既遂を云ふ。

あんばいされる〔鹽梅される〕　捕縛され

る事を云ふ。

あんばいする〔鹽梅する〕 殺人を云ふ。

あんばえる 一般窃盗行爲、【九州地方】文書、貨幣、其他の僞造を云ふ、【山陰地方】 寶買其他一般の贓品の處分を云ふ。「あんばえした」と云へば俗語の「ものにした」と云ふ意がある。それから轉じて窃盗行爲をした事になる。

あんぱく〔安泊〕 木賃宿の事、もくちんほてる(木賃ホテル)」。も同意、

あんぱん 平手にて頰を打つ事「かたばん」とは拳固の事を云ふ。

あんぱんをくう〔餡麵麭を喰ふ〕 軍隊で上級兵が下級兵に對する制裁の一つで平手で頰を打つこと、ピンタから起つた語で上級兵の機嫌を損じて叱かられる事をも云ふ。

あんべる 逮捕引致される事。又拒打される事。【長崎縣】

あんま〔按摩〕 詐欺賭博の共謀犯人。又は一般詐欺的行爲を云ふ。

あんま〔按摩〕 探偵。密告者。暗中捜索する意より出づ。

あんまさん〔按摩さん〕 忍込窃盜、又は夜行列車の掏摸犯人を云ふ。

あんまのしんぺい〔按摩の新平〕 窃取後巡査又は被害者に感知せられる事。

あんまのりくつ〔按摩の理窟〕 あまりひどいと云ふ意。

あんもく〔暗默〕 男女交合を云ふ。

ゐ　の部

ゐあき〔居空〕 家人の在宅中、午睡若しくは他室に居る隙を窺ひ金品を窃取する所爲を云ふ。

いあつ 敬禮。(臺灣人隱語)

いゝしそんりえん 醫師。(臺灣人隱語)

いゝり 糞便。チーハー賭博の題目載紙の文句より來たるもの。

いえうるい 丁半賭博。【埼玉縣】

いえつ 衣服。(支那人隱語)

いか 女給、「いかもの」の略。【關西地方】

いかい 捕繩を云ふ。

いかけ 夫婦同伴者。「おしどり」、「らくだ」に同じ。

いかさま 一般詐欺的行爲を現はす語で例へば「いかさまばくち」と云へば詐欺賭博の事を云ふ。「いかさまざい」は「にせ采」の事なり。詐欺賭博共謀犯人、又詐欺手段を用ひる行商者を云ふ(いんちき參照)

いかさまもの 詐欺賭博犯人を云ふ。

いかすか 不可ないと云ふ意。(愛知の方言)

いかぴんた 番犬の吠ゆるを云ふ。(朝鮮人隱語)

いかもの 下流藝妓、酌婦又は一年未滿の短期刑を受けた事の有る前科者を云ふ。或は關東地方に於ては單に前科者を云ふ。

いかものくい 曖昧な女に關係する淫な男を云ふ。

いかめい 美ましい事を云ふ。(丹波飾磨郡の方言)

いかうぼう 胡瓜を云ふ。

いかれた 先手を打たれた事【關西地方】

いーきー 諸事意の如く行はれ豫期の結果を得たる場合の感動詞を云ふ。

いきすぎ〔行過〕 生意氣。(尾張の方言)

いきたむすめ〔生きた娘〕 鎖輪を施したる土藏の事を云ふ。

いきぼとけ〔生佛〕 囚人の減食處分。

いきもどり〔行戻り〕 鋸を云ふ、

いきよくな　非常なる節儉家を云ふ。
いくじま　密賣淫婦を云ふ。（江島生島より出でしものか）
いくり　詐欺賭博犯人を云ふ。
いけ　窃取したる貴重物、東北地方では財布數を云ふ
いけ　刑務所を云ふ
いけぞこ「池底」　刑務所を云ふ。
いけばち「生鉢」　倉庫、納屋其他の建築物を云ふ、
いけみぐさ「池見草」　容姿麗わしく浮氣な女、俗に云ふ蓮葉女の事を云ふ。
いける　贓物、其他證據物件等を隱匿する事を云ふ【東北地方】
いこう　褌を云ふ。
いごき　地震の事を云ふ。
いこす　戀慕せる相手方に對し其情意ある所を仄めかす總ての言語動作を云ふ
いさぎゆー　……「の中に」と云ふ意。（熊本地方の方言）
いさくぼい　薩摩芋の煮付を云ふ。
いさば　一般窃盜犯を云ふ。
いさばし　窓口などより竹竿などにて衣類其他を窃取する所爲を云ふ。東北地方にて魚を「いさば」と云ふ　魚を釣ると云ふ意より來るものなるべし。關東地方の（蛸つり）に同じ。

いさばや　一般窃盜犯を云ふ。
いさましい「勇ましい」　不良少女を云ふ。
いさみ「勇」　酒を云ふ。（秋田、山形の方言）
いさむ　喫煙する事。「えんたひく、やもひく、もやひく」等皆同じ。
いざり　南瓜。【福岡縣】
いざりばいぼく　薩摩芋を云ふ。
いし「石」　齒牙を云ふ。
いし「石」　白米を云ふ。
いしかけ　下手な碁。（尾張の方言）
いじき　局外者の事、（朝鮮賭博用語）
いしきよ　警察署を云ふ。
いしごや　陶器類を云ふ。
いしのした「石の下」　漬物を云ふ。
いしひく「石引」　事實隱蔽を云ふ。
いしひん「石品」　陶器類を云ふ。
いしへん「石偏」　砂糖、【名古屋】
いしわり「石割」　强盜犯。往時京阪地方に盜賊横行せしかば諸人戸締りを嚴にしたるに石を以て門戸を破り侵入せりよつてかく云ひ傳ふ。
いす　贓物故買者。「いすけ」の略。

いすけ　贓物故買者。大阪では「らまいもの」又は「かいす」と云ふ。
いすくる　金品贈與を云ふ。
いすをさゝる　密告される事、【鳥取縣】
いせおんどにかける「伊勢音頭に懸ける」　警察官の取調に對し事實を枉げて處罰を免れんとする手段を云ふ。
いせまいり「伊勢參り」　男女駈落、逃亡を云ふ。【京都】
いそい　危險が迫つた事。（露天商人語）
いぞい　犯人の所在搜查、又は犯罪事實の訊問等の嚴密なるを云ふ。
いそをつける　門戸の錠を破壞して忍入るを云ふ。
いぞがし　警官又は被害者等が追跡調査中にして犯人の危險狀態にあるを云ふ
いた「伊丹」　酒類。「伊丹」の略なるべし
いた　缺餅（かきもち）又は餅を云ふ。
いた　乞食を云ふ。
いだ　處女を云ふ。
いだいだ　警察署を云ふ。
いたう　刑事、巡査。【關東地方】
いたをけづる　飲酒する事を云ふ
いたくらみ　胡坐する事。（鹿兒島長崎の方言）

いただく　物品買取を云ふ。

いたち〔鼬〕　刑事。「でか、いたら」等皆同じ。

いたづらもの　鼠又は淫奔な者を云ふ。

いたつね　行け。（鹿兒島の方言）

いたのま〔板の間〕　浴場にて竊盜をなす者。「いたばふみ」、「いたのまかせぎ」等皆同じ。

いたば　若き婦人の事を云ふ。

いたばかせぎ〔板場稼〕　浴場にて衣類金錢等を竊取なすもの「いたのま」、いたのまかせぎ」、いたばふみ」等皆同じ。

いたばした〔板場下〕　床下又は地下室の事を云ふ。

いたばしら〔板柱〕　竊盜犯人を云ふ。

いたばふみ〔板場踏〕　「いたばかせぎ」、いたのま」等に同じ。

いーたんかん　千圓。（支那人隱語）

いち〔鶏姦〕　男子同性間の猥褻行爲を云ふ。（東京不良少年）「すまた」、おかま」、えッち」等皆同意。

いち　辯護士又は巡査を云ふ。

いちあさ〔市朝〕　朝市の逆なり。（露天商人用語）

いちをおす〔一を押〕　陰門を云ふ。

いちき　陰門を云ふ。

いちげん〔一現〕　初客。通りがゝりの客を云ふ。（遊廓）

いちにん　婦人を云ふ。【和歌山縣】

いちのさか〔一の坂〕　露を云ふ。

いちのじ〔一の字〕　巡査。棒を携へし時代に起りし語。

いちのじ　錠を云ふ。

いちばはじめ〔市場始め〕　賭場開張する事を云ふ、

いちびる　ふざける、戯れる等を云ふ（尼崎の方言）。

いちべい〔一兵衞〕　一等客車のこと。

いちまいもの〔一枚者〕　單獨强竊盜犯人を云ひ、二人共謀犯を二枚者、三、四人共謀犯を三枚者、四枚者と云ふ。

いちもんめ〔一匁〕　金一圓を云ふ。

いちや　青物、野菜、市場の轉訛。

いちろく〔一六〕　强盜犯の事。强盜犯を別に踊込みと云ふ。それより盆踊に通はせて〔七日〕又は「一六」と云ふ。

いちろく〔一六〕　切戸其他戸締の箇所に施したる「くろゝ」を云ふ。

いちろく〔一六〕　乘るか、そるか、一か八かと云ふ程度の意、

いちろく〔一六〕　質屋。五二屋(ぐにや)とも云ふ「いろくかまた」と云へば入質する事を云ふ

いつ　竊盜犯人を云ふ。

いツか〔一荷〕　金額二圓の意。（北陸、山陰の牛馬仲買人用語）

いつき〔居附〕　自己居住の近所にて竊盜をなす者を云ふ。

いつき〔餌附〕　犯罪遂行の好機會を云ふ「餌附」（えつき）の轉訛ならん。

いツけんもの〔一件者〕　共謀犯人を云ふ【茨城縣】

いツこ　一般竊盜犯を云ふ。

いツこまい　數一個の事を云ふ。【滋賀縣】

いツしく　終始。（兵庫縣美方郡の方言）

いツすん〔一寸〕　今日を云ふ。

いツすんはちぶのかんのんさま（一寸八分の觀音樣）陰門を云ふ。

いツそく〔一束〕　金額百圓の意。

いツちよう　巡査。【島根縣】

いつでち　「這る」と云ふ意。（鹿兒島の方言）

いツてんもの　「ニセ采」の事、仕掛采。「あんいりざい」、とも云ふ。

いつねなんだ　探偵。變裝警察官。（朝鮮

人隱語）

いツばい　金額一圓の意。

いツぺこぺ　彼方此方。（鹿兒島の方言）

いツぽん〔一本〕　衣類枚數の單位。

いツぽんあし〔一本足〕　傘を云ふ。

いツぽん〔一本〕　百圓又は千圓を云ふ。

いツぽんまつ〔一本松〕　巡査派出所を云ふ。

いて　巡査、「いて」は「いてんぽ」の略にして猿と云ふ意。猿を「去る」に通はせ之を厭ふ習ひあるより總て忌避するものをかく云ふ。

いて　錠を云ふ。

いてんぽ　猿を云ふ。

いとり　女を云ふ。【島根縣】

いなか〔田舍〕　下流藝妓又は酌婦を云ふ

いなか　二名以上共謀して世事に疏き田舍人などを欺き其の所持品又は財物などを騙取する所爲を云ふ。之れの手段方法等は種々あり。

いなかし〔田舍師〕　地方の祭禮等を廻つて掏摸其他竊盜を働らく者を云ふ。

いながれ〔居流〕　犯罪實行中の發覺を云ふ。

いなづま〔稻妻〕　看守長を云ふ。

いなづま〔稻妻〕　宿屋荒竊盜「かんたんし」に同じ。

いなづま〔稻妻〕　燈明臺。【鹿兒島縣】

いなづま〔稻妻〕　注意監視中の者が行衛不明になる事を云ふ。

いなづま〔稻妻〕　土藏又は住家の側壁等を破るに用ゆる鐵棒を云ふ。

いなばのまんじゆう〔因幡の饅頭〕　錠を云ふ。【福岡縣】

いなびかり〔電〕　燐寸、附木を云ふ。

いなほり〔居直り〕　竊盜犯實行中被害者に發見せられて暴行脅迫の手段を採る事を云ふ。

いなり〔稻荷〕　豆腐、油揚又は小豆飯、などを云ふ。

いなりし〔稻荷師〕　商店、會社の番頭、事務員になり竊盜詐欺横領をなすもの

いぬ〔犬〕　密告者、諜者を云ふ。

いぬをば〔犬叔母〕　雪を云ふ。

いぬころからどろん　床下又は汚水溝等より忍入る竊盜犯を云ふ。

いぬしかてう〔犬鹿蝶〕　花骨牌の一種。

いぬつり　密賣淫婦を云ふ。

いぬばい　麥飯の事。「くりから」とも云ふ。【島根、香川縣】

いねし　詐欺賭博者を云ふ。

いのしゝ〔猪〕　山林盜伐者、又は他有の山林に入り松茸、筍、木の實等を竊取する者を云ふ。

いのしゝ〔猪〕　陰門を云ふ。

いのすけ〔伊之助〕　柿のことを云ふ。

いのちとり〔命取り〕　美女、美男を云ふ

いぶきかぜ　西北風。（尾張の方言）。いぬゐ（戌亥）の風の轉訛か。

いぶさくいた　鮮語にて「木の葉がある」の意より「女子が居る」と云ふ意なり。（朝鮮人隱語）

いぼがツさん〔疣月山〕　錠の事。【熊本】

いぼがつた　錠の事を云ふ。

いまりもん　人の集まる處。雜踏地を云ふ。

いまわた　人が來訪したるを云ふ。

いもじ〔い文字〕　烏賊の事。（禁中女房詞）

いもひく　恐怖の感「恐れるな」と云ふ事を「いもけな」と云ふ。

いや　品質粗惡なる物品の代稱を云ふ。

いやちやり　ふざける。（淡路の方言）

いやだちもさー　「云つたと申します」と云ふ程の意「いやつた」が「云つた」

「ちやさー」が「申します」

いらこん　一般贓物を云ふ。

いらく　火災を云ふ。

いり　手を云ふ。

いり〔入〕　夕暮(日の入りより)。

いり　鮭を云ふ。

いりがら　焙烙の事。(千葉縣の方言)

いりつき　賊が邸内に忍入らんとして門戸其他を切破る事を云ふ。

いりつけ　犯罪を實行すべき所を云ふ。

いろ〔色〕　土藏の事、類語に「おそめ(お染)」と云へる語ありそれより出でたるものなるべし。

いろあで　看守長を云ふ。

いろいろ　會合して飲食する事を云ふ。

いろくろむすめ〔色黑娘〕　黑壁土藏の事

いろしろむすめ〔色白娘〕　白壁土藏の事

いわ〔岩〕　白米を云ふ。

いわ〔岩〕　財布、蟇口。(掏摸犯人用語)

いわ　金額百圓以上。【關東地方】

いわい〔祝〕　目的の客が乘車する事を云ふ。(列車窃盜犯人用語)

いわがらちやる　掏摸犯人が財布蟇口等を窃取して中の金錢を拔取り容器を投棄するを云ふ。「いわ」は(財布、蟇口)「がら」はから(空)「ちやる」は(投棄)。

いんがのたね〔因果の種〕　不義によつて生れた子を云ふ。

いんきよ〔隱居〕　囚人を云ふ。

いんきよ〔隱居〕　馳走の時酒の出ぬ事を云ふ。出る事を「おもや」と云ふ。

いんきよ　簞笥を云ふ。【宮城縣】

いんこ　手を云ふ。

いんこ〔淫行〕　男女交合。(淫行の意)。

いんこする　掏摸着手の意。

いんこばん　握り飯を云ふ。

いんすい〔淫水〕　精液(尾張の方言)。

いんた　若い婦人の事を云ふ。

いんた　煙草。「えんた」の轉訛。煙の「えん」と「たばこ」の「た」を取捨して「えんた」と云ふ。

いんた　巡査の巡回を云ふ。

いんちき　數人共謀して行ふ詐欺賭博を云ふ。又は單に「虛僞」と云ふ樣な輕い意にも用ひられる「さぎとばく」に同意。

いんちきし　詐欺賭博犯人。「いんちき」參照。

いんてん　砂糖。「いしへん」とも云ふ。

いんな　寺院を云ふ。

いんばこ　刑事を云ふ。

いんぷくりん　二百。二千を云ふ。(朝鮮賭博犯用語)

いんま〔閻魔〕　檢事(閻魔の轉訛なるべし)

いんまい　婦人を云ふ。

いんもくだす　屋内に忍入り財物を搜査するの意。

いんや　巡査を云ふ。

いんや　判事、檢事を云ふ。

う の 部

うー〔W〕　藝娼妓、淫賣婦。(關東不良少年)又一般學生間にては女性を云ふ。(Woman 女性)の頭文字より。

うい―　散在せる仲間を寄せ集めるの意(朝鮮人隱語)

うい―よら　犯人が自己の一味を指稱する語。(朝鮮人隱語)

ういん　疾風を云ふ。

ううる　時間の進みを云ふ。

うえうわ　詐欺賭博に際して被害者より數回に涉つて金錢を卷上げんとする時

裏面に於て間接にうわを助け、被害者の偵察警戒にあたるものを云ふ普通の「うわ」の上なるよりかく云ふ(詐話師ペーパー師共の他詐欺賭博常習者語)
うえしたをつける〔上下附〕 共犯者が互に出會す時刻や場所を約束して置き、落合ひし後行動を定める事を云ふ。
うえた 女給(Waiter 給仕人)の頭文字なり。
うえーつ 彈丸。(支那人隱語)
うえびら 羽織、コート、マントの類。「びら」は衣類。上へ着る着物の意なるべし。
うおー 一般住居。(支那人隱語)
うをのたな〔魚の棚〕 警部を云ふ。
うをみせのねこ〔魚店猫〕 萬引常習者。
うをーらーいーとぺんつ 共犯人が贓物を分配する事。(支那人隱語)
うがい〔鵜飼〕 刑事、巡査を云ふ。
うかす〔浮〕 贓物の返還を云ふ。
うかび〔浮び〕 船。「うきす」とも云ふ。
うかぶ〔浮ぶ〕 犯罪を實行して豫期の結果を得たる事を云ふ。
うき〔浮〕 漁船、其他一般船舶を云ふ。
うき〔浮〕 二階 【九州地方】
うき〔浮〕 洪水を云ふ。
うきし〔浮師〕 船中でする竊盜犯を云ふ
うきしつぽ 船夫を云ふ。
うきす〔浮巢〕 船。(露天商人用語)
うきす〔浮巢〕 船内に於ける掏摸又は竊盜犯「うきすつかい」とも云ふ(刑事語)
うきす〔浮巢〕 乘船することを云ふ。
うきすつかい〔浮巢使〕 船内に於ける掏摸を云ふ。
うきすどめ〔浮巢止〕 洪水其他の爲渡船の通航杜絶せる事を云ふ。
うきすどうろく 船頭。「うきす」は船、「どうろく」は主人又は親分の事、故に船の主人、即ち船頭の事を云ふ。
うきすば〔浮巢場〕 渡船場を云ふ。
うきすふみ〔浮巢踏〕 船員の竊盜又は一般船舶内に於ける竊盜犯、及び水上に浮びる他人所有の竹木類を竊取する事を云ふ。
うきすほつくり 海賊。【茨城縣】
うきすもうけ〔浮巢儲〕 海賊。【大分縣】
うきだから〔浮寶〕 藝妓を云ふ。
うきつき 掏摸を云ふ。
うきつね 一般掏摸犯を云ふ。
うきみ〔浮身〕 遊女の一種にて旅商人などの滯在中妻の如くなりて同棲するもの。「浮身宿」とは「浮身」の居る家を云ふ。(北陸の方言)
うぐいす〔鶯〕 大根、蕪類等を云ふ。
うぐいす〔鶯〕 强姦。「鶯泣かした」と云へるより。(强盜常習犯用語)
うぐいす〔鶯〕 金、又は金側時計の事。「うぐいすのさくりづけもろた」と云へば「金側時計の鎖付を竊取した」と云ふ意。「さくり」鎖、「もろた」が竊取したと云ふ意。又此の外に「まんじゆう、てら、ごーる(Gold 金)」等は皆同意。
うぐらもち 家屋の闕下等を掘りて忍込む竊盜を云ふ。もぐらもち(土龍もち)の轉訛「うんころ」に同じ。
うけ 列車進行中に犯す掏摸を云ふ。
うけおいさぎ〔請負詐欺〕 官公署其他の建築、土木等の請負をなすに入札者間互に落札値段を定めておき競爭して居るが如く見せ、請負人より一定の步合を受けるものを云ふ「談合詐欺」又は「請負談合詐欺」とも云ふ。
うけつかい 列車進行中の掏摸犯人「うけ」に同じ。

うけつね　賭博の總稱を云ふ。
うけつぼ　丁半賭博に勝ちし者を云ふ。
うこく　一般窃盜犯を云ふ。
うさぎ〔兎〕　手提鞄類を云ふ。
うさぎ〔兎〕　骨子使用の賭博の一種。
うさぎ〔兎〕　農作物窃盜犯を云ふ。
うさぎちよぼ〔兎樗蒲〕　樗蒲(ちよぼ)の變態。
うし　揚弓、大弓の際百文を賭くるを云ふ。又熟睡するを云ふ。花柳界では牛太郎(技夫太郎)の事を云ふ。又水牛の角で造った張形を云ふ。
うじ　手を云ふ。
うーしぶた　「笑わすな」と云ふ程の意。(朝鮮詐欺賭博者語)
うしのした〔牛の舌〕　蒟蒻を云ふ。
うしのつの〔牛の角〕　鰹節。(僧侶隱語)又「ふんべつ」とも云ふ。
うしびき〔牛曳〕　窃盜正犯者を目的の場所へ案内する事を云ふ。
うす　通貨僞造行使。詐欺共謀犯人。
うす　絹物衣服を云ふ。
うす〔臼〕　女を云ふ。【大阪】
うすい〔薄〕　低能、又は思慮淺薄な者、それより轉じて窃取容易なる事を云ふ
うすい　寒冷なる氣候を云ふ。

うすげしよう〔薄化粧〕　霜景色を云ふ。「あつげしよう」は雪景色を云ふ。
うすげそ〔薄下足〕　草履「げそ」參照。
うすげり　雪駄。(露天商人語)
うすこうらい〔薄高麗〕　莚、茣蓙の類。
うすだんか〔薄淡呵〕　障子を云ふ。
うすはく〔薄白〕　霜を云ふ。
うすばり〔薄張〕　相場賭博に於いて小金を賭ける事を云ふ。
うすひき〔臼挽〕　雷。臼を挽く際其の音雷鳴に似たり故にかく云ふ。
うすびら〔薄片〕　帷子、衣類、茣蓙。
うすびら〔薄片〕　絹織物。「うすもの、じんきち、おかしま、すへり」等皆同じ。
うすもの〔薄物〕　絹織物。「うすびら」に同じ。
うすらぐ　男女の單衣着物。「うすらん」に同じ。
うすらん　男女の單衣。「うすらぐ」に同じ。
うたなみ〔歌並〕　高貴の人を云ふ
うたろう〔謠ふ〕　原意は「泣く」と云ふ意なれども轉訛して、陳謝する。白狀するの意、總括して云へば「降伏する」の意。

うたわす〔謠わす〕　「うたわせる」とも云ひ、「うたう」の他動詞に使つて、「泣かす」。毆打する。陳謝させる。白狀させるの意。
うち〔内〕　刑務所を云ふ。
うち　乘船、乘車　際、混雜にまぎれて窃盜を働らくものを云ふ。
うち　粥を云ふ。
うぢ〔宇治〕　茶。宇治は茶の名産地なる故。
うぢをひく　〔宇治を引く〕喫茶「うぢをひく」の「ひく」は隱語に於ての動詞として良く用ひられる例へば「もやひく、やもひく、えんたひく」、以上喫煙の事)「きすひく」(酒を飲む事)等なり、食事する事は、「しやりほわえる」と云ふ。「しやり」は米、飯の意にて「ほわえる」が食するの意、「あましやりほわえる」(菓子を食す事、「ながしやりほわえる」(うどんを食する事)等なり。
うちかせぎ〔内稼〕　主に犯人住所の附近に於て犯す窃盜を云ふ。
うちくぎ〔打釘〕　干鰯を云ふ。
うちこみ〔打込〕　共犯人が互に狀況を通謀するを云ふ。又不良少年、青年が隸

日、活動寫眞館等にて若い婦人の袂に手紙や名刺を入れる事。（不良少年語）

うちてら　行燈を云ふ。

うちぬき　正直なる人を云ふ。（播磨國の方言）

うちのどうろく　主人を云ふ。單に「どうろ」又は「うわば」とも云ふ。又夫をも云ふ。

うちのばした　內儀。妻を云ふ。

うちは　洋服の內ポケット「うちばにかまる」は洋服の內ポケットに財布、又は時計其他の物品が存すると云ふ意。

うちばにかまる　內ポケットに存するの意。

うちも　懐を云ふ。

うぢや〔宇治屋〕　茶屋。料理屋を云ふ。

うーちやみーやを　密賣淫婦を云ふ。

うづかい〔鵜使〕　二人共謀して一人が商店々頭にて物品を購賣中他の一人が萬引竊盜を遂行する事を云ふ。

うつし〔寫〕　電信。電話を云ふ。

うつほ〔空穗〕　葱。「ひともじ」に同じ。（女房詞）憲命院宣守の海人藻介に（應永二十七年）「內裏仙洞には一切の食物に異名を付て被レ召事也、一向不ニ存知一者、當座に迷惑すべき者哉飯を供御酒は九献、餅はカチン味噌を、ムシ、葱をウツホ如斯異名を被レ付近頃は將軍家にも女房達皆異名を申すと云々」

うつぽがし　徹夜を云ふ。

うつまつぢー　刑事、私服巡査。（朝鮮人隱語）

うづら〔鶉〕　粟飯を云ふ。

うて　沖荒、海嘯を云ふ。

うで　草履を云ふ。

うで〔腕〕　車掌。腕章より

うでん　蒟蒻。「おでん」（關西にての關東煮）の轉訛にて湯煮たる蒟蒻に味噌を付て食するもの、それより出たるもの。

うとり　巡査。（朝鮮人隱語）

うどんや〔溫鈍屋〕　制服巡査又は愚鈍なるものを云ふ。【京都】

うなぎ〔鰻〕　細帯を云ふ。

うのじ〔兎の字〕　免職される事、免と兎の字の近似より。

うのはな〔卯花〕　降雪。色の近似より。又、豆腐の糟を云ふ。

うばざくら〔姥櫻〕　四十過ぎの女。葉（齒）が落ちて仕舞つて時ならぬのに花を咲かす故。

うばすてやま〔姥捨山〕　女子大學を云ふ學問でもして獨立しなければならない様な美しからぬ女の行く學校の意より

うぶ〔初心〕　初犯者、犯罪行爲の未熟者を云ふ。

うべし　テキヤ仲間の見張人を云ふ。

うま〔馬〕　教習中の巡査、看守「お馬稽古」より出づ。

うま〔甘〕　煙草、「うまい」の略なるべし

うま〔馬〕　日本最古の骨牌「ウンスンカルタ」の騎馬に乘れる人の模様ある札を云ふ。又、「めくりかるた」の青札の拾壹を云ふ。

うま〔馬〕　遊女屋等の附馬を云ふ。

うま〔馬〕　月經帶の事を云ふ。又、「おうま」とも云ふ。「おうま」參照。

うまいもの〔甘物〕　贓物を故買して不當の利を占むる者を云ふ。

うましやり〔甘舍利〕　菓子を云ふ。「しやり」は佛（教）語にての舍利にして佛語に於ては之を佛陀の遺骨、又は佛骨と解す、外米粒の意にも解す、隱語に於て飯又は米を「しやり」と云ふは後者の意より來るものなるべし。「うま」は

「あま」の轉訛にて元は「あましやり」なり「あましやり」參照。
うまたけーき〔馬太Cake〕 駄菓子の事を云ふ駄菓子の駄を分析して馬太とし菓子を英語にての(Cake)となしたるもの
うまのしつぽ〔馬尻尾〕 糸。【長崎縣】
うまのすず〔馬の鈴〕 馬鈴薯、文字の分析より。
うまわたり〔馬渡り〕 門戸、塀等を飛越へて邸内に忍入る所爲を云ふ。
うみ〔海〕 硯を云ふ。
うみせん〔海千〕 客づれのした藝、娼妓を云ふ。「海に千年、山に千年」より出でたるものなるべし。
うむるくいしんばら〔井神見〕 注意。
うめ〔梅〕 衣服の總稱。
うめがえ〔梅ケ枝〕 出刃庖丁又は匕首等の刄物を云ふ。
うめがえ〔梅ケ枝〕 柄杓。(梅ケ枝の手水鉢より)。
うめじるし〔梅印〕 黴毒。黴毒の事を俗に「梅毒」と書く故。
うめばち〔梅鉢〕 强盜犯又は强姦を云ふ
うめぼし〔梅干〕 婆。爺を云ふ。
うめぼしもらひ〔梅干貰〕 强姦を云ふ。

うゆ 詐欺賭博の見張人。「鹿追ひ」參照。
うら〔裏〕 脊を云ふ。
うら〔裏〕 現金を云ふ
うら〔裏〕 物品を賣る事又は買ふ意にも通ず。〔おもて〕參照。
うら〔裏〕 遊廓の言葉にて二度目の登樓を云ふ。「うらを返す」又は「うらをつける」と云ふ。
うらいた〔裏板〕 贓物を隱匿する事。
うらをかへす〔裏を返す〕 二度目の登樓を云ふ。「うら、うらをつける」に同じ
うらをつける〔裏を付ける〕 「うらをかへす」に同じ。
うらかんたん〔裏邯鄲〕 窃盜犯一般、「おもてかんたん」に對する語。
うらざと〔浦里〕 雨降の日又は雪。
うらしこう〔裏四光〕 花骨牌の出來役。
うらしま〔浦島〕 竹竿に釘を曲げたるものを附し格子口、又は窓口等より座敷内の衣類其の他の物品を窃取するもの窃取方法魚を釣るに似たりそれよりかく云ひしものなるべし。
うらしまのかめのり〔浦島の龜乘〕 失踪逃亡を云ふ。
うらしまのたからばこ〔浦島の寶箱〕 共

犯者が互に緘默を守り逮捕せられたる際に於ても事實を絕對に否認し自白せざるを云ふ。自白する事を口を「あく」と云ふ。俗謠に「あけてくやしや玉手箱」と云へる句あり。左句の「あく」に何等かの關係が見出せないだらうか「自白して仕舞へばそれ迄である」と「あけて仕舞へばそれ迄の事」との間に
うらつき〔裏附〕 强盜犯前科者にして現在監視中の者を云ふ。
うらにし 村雨。夕立。等の驟雨の事。
うらのたんか〔裏の啖呵〕 裏口。【福島】
うらばらし 辻占賣を云ふ。
うらもん〔裏門〕 肛門を云ふ。
うらやぶり 假出獄者の違反行爲を云ふ
うり〔瓜〕 女の陰部。破瓜期等の語より來たるものなるべし。
うりぎよく〔賣玉〕 淫賣婦を云ふ。
うりこむ〔賣込〕 刑事、其他の警察官吏の歡心を買わんが爲他人の不正行爲を密告するものを云ふ。
うりな 戀慕の情意を表示する言語、動作を云ふ。
うりびら〔賣片〕 絆纏を云ふ。
うれい〔愁〕 泣く事。「うたふ(歌ふ)。」

とも云ふ。
うれる〔熟れる〕 酩酊の態を云ふ。
うろ 道路。「どうろ」のど音を省略せしもの。
うろく 巡査派出所。徘徊の意よりか
うろく 贓物故買者を云ふ。
うーろー 消滅。(朝鮮人隱語)
うわ 詐欺賭博の見張人。客の動靜外部の警戒に當るものを云ふ。
うわげんひ〔上檢非〕 狆、座敷にて買ふ仔犬を云ふ。
うわねずみ〔上鼠〕 朝飯時分に商店の附近を徘徊して物品の良否をかまわず窃取なすもの。【新潟縣】
うわば〔上場〕 主人、俗語にて地位身分の低きものを「下っ端」などゝ呼ぶ。之に類する語。
うわばけんさい〔上場幻妻〕 家主の妻。
うわみずにする〔上水爲る〕 嘲笑罵倒。【大阪】
うわらん 外套、合羽の類「らん」參照。
うわんくつり 帽子、笠の類。(朝鮮人隱語)
うん 「うんすんかるた」の福の神を云ふ
うんころ 土藏の敷石、住宅の側壁、土藏等を破壞して忍込む窃盗犯を云ふ。

うんしゆう〔雲州〕 蜜柑を云ふ。
うんしゆのだんな〔雲州の旦那〕 種、即ち金錢の盡きた客。雲州蜜柑に種がない故、「あがります」とも云ふ。
うんすけ 丼類器物等其他物件の燒却を云ふ。「うんすく」とも云ふ。
うんすけ〔雲助〕 燒酎。燒酎を入れる壺を雲助と云へるより。
うんすんかるた 最古の骨牌を云ふ。
うんそー〔運送〕 チーハー骨牌の運動者
うんそうや〔運送屋〕 詐欺賭博共謀犯人が被害者即ち客を連れて來る役のものを云ふ。
うんてんし〔運轉士〕 汽車、汽船中に於ての掏摸常習犯者を云ふ「はこのり」に同じ。
うんと 懷中無一物なる事、又はロハ即ち無代價なる事を云ふ。
うんぬ〔云々〕 巧に虛言を構えて人を欺く事を云ふ。

えゑの部

えいすけ 贓物故買者。(强盜隱語)
えいツち〔H〕 夫。(husband 夫)の頭文字より。(女學生語)
えいツち(H)鷄姦。「えす」に同意にして「すまた」又は「もゝずり」と稱するもの
えきし〔易師〕 賣卜者の事。「ろくま」とも云ふ。「ろくま」は露天商人用語。
えきすくふ 肱鐵砲をくふ事。「えきすをくふ」とも云ふ。
えきふく〔役服〕 獄衣。轉じて一般勞働服、事務服の總稱。
えこ 辭の逆語「えこはくい」と云へば辭のよき事又「えことほい」と云へば辭の高き事を云ふ。
えごと〔繪事〕 骨牌賭博の總稱。
えごろ 金錢一般の稱を云ふ。
えさ 背を云ふ。
えさ 飯及食物を云ふ。
えさいかてのむ 農作物窃盜を云ふ。
えーき 緣日、夜店、(尾張の方言)
えす〔S〕 鷄姦。男子同性間に於ける猥褻行爲「おかま」、又は「すまた」に同じ(東京不良少年語)
えす〔S〕 (Sister 姉妹)の頭文字にして女學生間にて「おめ」同志の事を云

ふ時に「しす」と云ふ時もある。
えす〔S〕（Singer 唄女）の頭文字より藝者を云ひ主に男學生間に用ひらる。「おいエスアップ〔S(inger)up〕に行こう」と云へば「藝者買ひに行こう」と云ふ意。
えす〔S〕　獨語（shon 美貌）より美人を云ふ。（學生隱語）
えす〔S〕（Smoking 喫煙）の頭文字で中學生が嚴禁されてゐる喫煙をなす事兩手の食指を重ね合はしてS字形を作り喫煙の暗號とする、
えずい　賢い。（淡路の方言）
えすけーぷ　（Escape 逃走）不良學生等が自己の嫌な學科の時出席しない事、俗に云ふ「さぼる」事を云ふ。
エスペラント　通人。エスペラントは世界の共通語なる故エスペルと動詞化して「きやつのエスペルには閉口するよ」と云へば「彼の女色方面の發展には閉口する」と云ふ意、又「今夜は其の道のエスペルに一任しやうぜ」と云へば其の道の通人に任かせようといふ意。
えた〔穢多〕　牛肉を云ふ。
えだ〔枝〕　娘。【秋田地方】自分の子供。（香具師）
えだ〔枝〕　兄弟、同胞を云ふ。
えだ〔枝〕　下肢を云ふ。
えだびら　子供の服を云ふ。
えちぜん〔越前〕　包莖を云ふ。
えッち〔H〕鷄姦。「えす」に同じにして「すまた、「もゝずり」と稱するものを云ふ。
えッち〔H〕　夫。（husband 夫）の頭文字より女學生間に用ゆ。
えつと　久しく、（尾張の方言）
えッぴふるき　倉庫納屋等其他類似の建築物を云ふ。（支那人隱語）
えて　猿の事を云ふ「えんこう」とも云ふ
えて　前科者を云ふ。
えて　牛。「えんこ」に同じ。
えて　屋根傳に入る竊盜犯。
えて　男の陰部を云ふ。
えてきち　男の陰部。「えて」に同じ。女の陰部を「などのえてきち」又は「などのえて」とも云ふ。
えてまた　猿股を云ふ。
えど〔江戸〕　帆船。（關東地方其の他）
えどきやはん〔江戸脚絆〕　襤褸（ぼろ）汚染せる衣類を云ふ。
えどゆき〔江戸行〕　莨翦を云ふ。
えなまき　叺（かます）の事（長崎、天草の方言）。
えにい　刑事、「あにい（兄哥）」の轉訛ならん。
えび〔蝦〕　錠を云ふ。【福井縣】
えび〔蝦〕　蕃椒（しやうが）を云ふ。
えびすふくむ〔惠比須含〕　笑を含む意にして滿足の意なり。
えびちや〔海老茶〕　海老茶袴の略にして女學生の事。（不良少年用語）
えびつけ　汁の中味を云ふ。
えふ〔F〕　女性美人（Feminine 女性）の頭文字より。（男學生語）。
エム　金錢（Money 金錢）頭文字から。（男學生）　又は男根の事（Membrum 男根）より又梵語の Mara の頭文字なりとも云ふ（學生）。又は月經（Monthly Water 月水）の頭文字より。（女學生）
えめる〔笑める〕　女の陰部を云ふ。
えりをきる〔襟を切る〕　竊盜の目的を以て他人の住居の施錠を破壞する事「えりをつねる、えりをつける」。に同じ
えりをつける　「えりをきる」に同じ。
えりをつねる　「えりをきる」に同じ。
えりか　絹物一切を云ふ。
えりかえ〔襟替〕　藝者が半玉より一本に

なる事、襦袢の赤襟を他の色に替へる故、水揚げの事にも云ふ。

えりつけ〔襟付〕 窃盗の目的にて他家の戸を開ける事「えりつける」とも云ふ。

えりつけ〔襟付〕 目的の家の模様を探る事を云ふ「くどく」、又は「あたりをつける」とも云ふ。

えりまつ 寺院佛堂を云ふ。

える〔L〕 戀文（Letter 手紙）の頭文字より、又戀人をも云ふ（Lover 愛人）の頭文字から。

えれいうさす 他人の犯罪事實を看守等に吹聽するの意。

えん〔猿〕 巡査、刑事の手先、密告者。

えん 鶏を云ふ。

えんをさす 他人の犯罪事實を官吏に密告する事を云ふ。

えんが チョボの別名。賭博用語の「チョボ」參照。

えんかし〔艶歌師〕 緣日等にてヴイオリンを弾き歌本を賣るもの「えんか又はえんかや」等皆同意。

えんきだな〔緣起棚〕 神棚を云ふ。

えんこ 手、指にも通ず、手傳ふと云ふ事を「えんこかす」と云ふ。

えんこ 男女交合を云ふ。

えんこ 合鍵を云ふ。

えんこ 指輪を云ふ。

えんこ 公園の逆語なれども特に淺草公園附近に居る「ぐれ」をも云ふ。

えんこ 河童の事、（四國、島根、山口地方の方言）

えんこー〔猿猴〕 掏摸常習犯人。一般窃盗犯人の意にも通ず、

えんこくりす 所在捜査、證據物件捜査等の犯罪檢擧の手配を云ふ。

えんこだす 懐中品を窃取すべく手を出す事を云ふ。

えんこばん〔猿猴麺麭〕 握飯を云ふ。

えんこひき〔猿猴曳〕 犯罪密告者を云ふ

えんこひき〔猿猴曳〕 門口、其他に装置したる電鈴、呼鈴を云ふ。

えんこぶくろ〔猿猴袋〕 手袋を云ふ。

えんこーぼう 米飯を云ふ。

えんじのす〔燕子の巣〕 無錢宿泊して逃走するを云ふ。

えんじろう〔艶治郎〕 花柳界に精通せる者を云ふ。

えんそ〔煙草〕 煙草。煙草の音「えんそー」の略なるべし。

えんそ 博徒が親分の所へ寄宿するを云ふ又「えんこ」とも云ふ。えんこは米飯の意。

えんぞう 食事する事を云ふ。

えんそうだ 正當なる勞働によつて賃金を得る事。「えんぞむ」に同意。

えんぞむ 正當なる勞働によつて賃金を得る事。所謂「米代儲」の意。

えんた 煙草。「もや、やも、しえん、えんとつ、えんたつ」等皆同意にして「えんた」とは煙草の煙と「たばこ」の「た」とを結合して「えんた」とせしものなるべし。「もや」とは煙草の煙を靄に形容して出來たるものなるべく、「えんとつ」とは其形狀の類似よりかく呼びしもの又「しえん」とは「紫煙」の事にして、此の語は主に學生、有識階級間に使はるゝ又喫煙する事を「もやひく、やもひくえんたひく」と云ふ。

えんたつ〔煙突〕 煙草。又は喫煙の事「えんとつ」の轉訛。「えんた」參照。

えんたつ 鶏を云ふ。

ゑんづけ〔緣附〕 贓物の賣却、其他の處分を云ふ。

えんとつ〔煙突〕 煙草。煙管「えんた」參

照。

えんのこ　懷中時計の總稱。

えんま〔閻魔〕　檢事、又は警察官を云ふ「えんまのてふ」（閻魔廳）は檢事局「おに、あかおに、しかり」等皆同じ。又刑務所をも指す。

えんま〔閻魔〕　釘拔を云ふ轉じて門戶の施錠を破壞するに用ひる器物を云ふ。（閻魔の廳に於て生前嘘言を云ひし者の舌を拔くに用ゆる器物釘拔に似たりと云ふ）

えんぶ　生魚。俗語に生魚を「ぶえん」と云ふ此の語の轉訛なるべし。

お　の　部

おー〔王〕　釆の目の最大なるもの。

おあ　刑事、支那人隱語）

おあいそ〔御愛想〕　料理屋、飲食店にての勘定書を云ふ。【關西方面】

おーあみ〔大網〕　非常警戒を云ふ。

おい〔追〕　通行中の車を追跡して車上の物品を窃取する事。「はちおい」に同じ

おい〔甥〕　看守を云ふ。

おい　自分を云ふ。（鹿兒島の方言）

おいかけ〔追掛〕　立ちん坊。坂の下、橋際、市場、河岸等に立つてゐて重荷の車を後押して賃金を得るもの彼等仲間で定められた仕事の一區間を「一ッぱ」と云ひ「半ッぱ」、「二ッぱ」などと云ふ。仕事を賴む人を「親方」と云ふ。

おいこみ〔追込〕　下等娼妓を云ふ。

おいさんとこ〔伯父樣處〕　警察署を云ふ

おいそれ　鋭利なる刄物。又掏摸が實行するに當り刄物を使用する事を云ふ。

おいとれ　鋭利なる刄物を用ひて鞄の橫腹を切り在中金品を窃取する事、又其犯人を云ふ。

おいた　言語。「おいたく」とも云ふ。

おいたく　言語。「おいた」に同じ。

おいだき〔追抱〕　詐欺賭博の客引人が相手、即ち「けだもの（被害者）」を種々なる甘言を以て欺罔するの所爲を云ふ

おいたみ　鹽。（宮女の詞）。

おいちやん　默りやさん。むつつりやさん等の意。（女學生語）（oyster 牡蠣）より出た語。

おいちよ　かぶ札の八を云ふ。

おいちよかーぶ　骨牌使用の一種にして其賭博に使用する數詞は

一＝いんけつ　二＝にすん（にぞ）
三＝さんた　四＝しすん
五＝ごけ　六＝ろつぽう
七＝しちけん（なゝけん）、（なき）
八＝おいちよ　九＝かぶ

と云ふ。因にこの賭博の名稱なる、「おいちよかぶ」は此の數詞の八、九、を併用せしものなるべし。「おいそれ」に同じ。

おいづる〔追笈〕　掏摸犯が實行するに當り刄物を使用する事を云ふ。又其刄物を云ふ。

おいねし　贓物故買者を云ふ。【靜岡縣】

おいねし　詐話師詐欺（鹿追ひ詐欺）を云ふ。詐話師を參照。

おいぼり　逃走中の犯人を追跡する事。

おいまわし〔追廻〕　雙六の一種を云ふ。

おいめ〔追目〕　丁半賭博に於て釆の目が自分の思ふ樣にならぬ事、轉じて運の惡き事を云ふ。落目、又は目が腐つたとも云ふ。

おいやる　一般詐欺的行爲を云ふ。

おいらん〔花魁〕「ありんす言葉」で「己等樣」の音便で女郎の事。轉じて、「土藏」

の事を云ふ 娘の聯想より）又二階座敷を云ふ（お櫓の聯想より）。又大豆其他の豆類を云ふ（女の陰部との形狀の類似より）

おいれ〔御入れ〕 獸類。檻の中へ「入れ」るより。

おうま 天癸（月經）を云ふ。

おうる 「うんすんかるた」の王。

おえだ〔お枝〕 短刀。匕首など犯行に使用する兇物の類を云ふ。

おえど〔御江戸〕 津輕にて「あまいち」の事を云ふ。

おえる 詐欺の手段として身分や職業、氏名等を僞稱する事を云ふ。

おえん〔御猿〕 月經（天癸）天癸の事を鉛汞水とも猿猴水とも云ふ。其故に〔お鉛〕、又は「お猿」との二說あり。

おか〔岡〕 巡査。（岡引、岡目の略なり）

をか 類の事。「かを」の逆語なり。同意にて「らつ」と云へる隱語あり「つら（面）」の逆語なり。

おか〔岡〕 帝國の事を云ふ。【關東地方】

おかか 官吏に對する賄賂を云ふ。

おかか 鰹節を云ふ。（[illegible]詞）

おかぐら〔御神樂〕 刑事其他取調官吏に拒打せらるゝ事を云ふ。又强盜の事を云ふ。强盜の事を別に踊込と云ふ。それより「神樂踊り」に意を通わせ「お神樂」と云ひしものなるべし。「とん〳〵七月」（盆踊りより）「たゝき、おさえ」等とも云ふ。

おかじ 一般警察官吏を云ふ。

おかじ 不良車夫（おかんに同じ）。

おーかぜ〔大風〕 金額五圓の意。

おかちやん 何時も仲良く、餅の樣にべた〳〵とくつついてゐる若夫婦の事。又女學生語にては仲の良き友人同志の事。又は「おめ」同志の事をも云ふ。

おかてら〔陸照〕 蠟燭を云ふ。

おかびき〔岡引〕 刑事の手先、密告者。

おかぶ 醤油を云ふ。【東北地方】

おかぶみ 郵便局、銀行、會社等の受附口に於て自ら事務員などの風を裝ひ所持の金品を騙取するを云ふ。

おかべ 豆腐。其色白壁に似たるよりか。（女房詞）

おかべ〔御壁〕 倉庫、藏等を云ふ。其形豆腐の如く直方体ながる故か、又は藏は大抵白壁塗なるが故か？

おかべのはな〔お壁の花〕 豆腐の糟。俗に云ふ「おから」の事、花柳界語で（「おから」を「卯の花」と云ふ。その「花」をとりたるものなるべし「おかべ」參照

おかま〔お釜〕 男子同性間に於ける猥褻行爲、男色。鷄姦。往時の隱間（かげま）の事を云ふ。「おかまや」とは隱間の事を云ふ。

おかまほる〔お釜堀る〕 男子同性間に於て醜行爲をなす事、即ち「おかま」をなす事を云ふ。

おかみ 給衣類を云ふ。

おがみ〔お拜み〕 木挽職人（木を挽く時の姿整よりかく聯想したるものか）。

おがみ〔お拜み〕 萱、杉皮等にて葺きたる野小屋の類を云ふ。「木挽職人」が山中などに建てる野小屋などより來るものか。

おーかみ〔狼〕 墮落坊主を云ふ。

おがむ〔お拜む〕 哀訴歎願の意。他人の哀情に訴えて同意を乞ふ事。又は自己の罪過を陳謝するを云ふ。

おがむ〔お拜む〕 忍入つて金錢の所在地を發見した場合を云ふ。（欣喜の狀態なる故）

おがむ〔お拜む〕 人の懷中物を透視する事。「けんじる」とも云ふ。(掏摸用語)

おかもり〔岡盛〕 盛岡市の事。(盛岡の逆語)。

おからし 「あきすねらい」の事。同項參照。

おかる〔お輕〕 二階を云ふ。假名手本忠臣藏七段目に「お輕」が二階に居るより又「おかるま」とも云ふ。「おかる」(二階)より轉じて梯子の意にも通ず。それより此等に梯子をかけ忍入る窃盜犯を云ふ。又婦人の意味をも有す。

おかる〔お輕〕 簪(かんざし)を云ふ。(前項おかる參照)

おかるかい〔お輕買い〕 混雜にまぎれて婦人の笄、簪等を拔き取る掏摸を云ふ

おかるづたい〔お輕傳い〕 屋根傳ひの意(おかる參照)

おかるのぶんこ〔お輕文庫〕 鏡臺を云ふ(おかる參照)

おかるば 寢所。「おかんば」の轉訛ならん。「おかん」は野宿、露宿の意。

おかるま〔お輕間〕 二階の意。(おかる參照)

おがわ〔小川〕 口を云ふ。

おかん 露宿、野宿の意。

おかん 窃取行爲其他の不正行爲をなす不良車夫、婦女誘拐をなすものを特に「げんじや」と云ふ。

おかんすちうゆぢうはいちや 破獄の時機手段等を密議なす事。(朝鮮人隱語)

おかんば 寢所の意 (おかるば參照)

おかんびら 袷衣類を云ふ。【大分縣】

おき〔置〕 停車場、銀行等の待合室に於て他人の鞄、包物等を窃取するを云ふ

おき 數量の七を云ふ。

おきいし〔置石〕 賭博見張人。「がんはり(眼張り)」とも云ふ。

おきかい〔置買〕 人が買物をする傍に居つて物品を窃取なすもの。傍の人を連れの如く裝ふ「萬引」の一種。又は「おき」に同じく停車場、銀行等の待合室にて他人の所持品を窃取するものを云ふ

おきかえ〔置替〕 「おき」に同じく停車場待合室、銀行等にて他人の所持品を窃取なすものを云ふ。

おきがくらい〔沖暗〕 一般に結果の不良を豫期した場合を云ふ。又は先が危險だなどの意もある。

おきし 人が金錢の授受をなす時横合より窃取する掏摸犯を云ふ。

おきひき〔置引〕 「おき、おきかえ」等に同じ。同項參照。

おぎしき〔御儀式〕 停車場を云ふ。

おきす〔置巣〕 洋風建築物一般を云ふ。

おきた 白米。【中國地方】

おきだい〔置臺〕 萬引又は詐欺行爲。

おきながし〔置流〕 列車内掏摸(はこのり)が犯罪實行後次の驛で下車する事

おきば〔置場〕 質屋の事。物を置く意より。

おきひき〔置引〕 停車場、待合室、會社銀行等にて他人の鞄、包物類を窃取するを云ふ。「おき、おきかえ、おきしき」等に同じ。

おきもさ 一時置いてある品物をとる事前項の「おき、おきかへ、おきしき、おきひき」に同様なれども唯其窃取場所等は廣範圍に渉るの差あり。

おきやく〔御客〕 新入囚。(囚人用語)。又は「きやくじん」とも云ふ。

おきやく〔御客〕 月經。(女詞)

おきやさぎ〔置屋詐欺〕 質屋詐欺の事にして(おきや參照)。古物商より殆ど無價値な品物を求めて、それに少し加工

して「これは有名なる藝人の手にかゝるものだが一時融通の爲に入質するのだ」などと言葉巧に述べ經驗の淺い質屋へ特に夜間持ちこみ原價の數倍、數十倍の金額を借り受ける事を云ふ。共犯者には「買出し」「振手」とある。買出しは古物商より堀出して來る役。振手は淺い經驗の質屋をさがし入質する役。堀出物に加工する事で糊をつける事を「べつたり」と云ひ繕ひをする事を「びり」と云ふ。）

おきやん おばづれ女。輕卒な女。

おきよさん 判事を云ふ。

おぎん 贈與又は授受する事を云ふ。

おく〔置く〕 受託金品埒帶逃走犯人。

おくず〔奥巣〕 奥座敷又は母家、本宅等を云ふ。

おくて〔晩稻〕 遲く熟する稻、轉じて女子が年頃になつても色氣のつかぬ事。

おくむそう 錠を云ふ。

おくやま〔奥山〕 昔は淺草觀音の裏手を云つたが現今は六區を云ふ。

おぐら〔土龍〕 住家の側壁、土藏等を損壞し、屋内に忍込む窃盗犯、もぐら（土龍）の轉訛。

おぐらいかも 婦女强姦を云ふ。

おくり〔御庫裡〕 僧侶の妻。庫裡は寺の臺所それ故「おくり（御庫裡）」で「御臺所」即ち奥方。……妻なり（尾張の方言）

おくり〔送〕 不良青少年が婦女子を欺す手段の一種で何かの機會を捉えて行先地などを尋ね私も其附近に行くものです、お送り致しませうなどゝ云つて交際の端緒を得る事を云ふ。

おくり〔送り〕 檢事局送りの略。

おくりだし〔送り出し〕 掏摸犯人間の用語で目指せる人物に尾行し油斷を窺ふの意。

おぐる 叱かる事。（熊本の方言）

をけ 犯罪事實の陳述を云ふ。

をけ〔桶〕 湯屋の脱衙を云ふ。

おけほうめん〔桶放免〕 囚人死亡。棺桶に這入つて放免されると云ふ意よりか

おけやのまえだれ〔桶屋の前垂〕 失望。落膽を云ふ。【關東地方】

おけら 懷中乏しき事。又は目的の相手方に見込みのない事又賭博に負ける事

おげん〔御玄〕 米穀商、又は白米を云ふ

おご 納屋、物置、小屋等を云ふ。

おこば おごに同じく納屋、小屋、物置等を云ふ。

おこーばこ〔御香箱〕 女の陰部を云ふ。

おごる 愚者。又「あさましき」事をも云ふ。（尾張の方言）

おごれん 人の娘を云ふ。【奈良縣】人の妻を云ふ。【北陸地方】

おこわ〔御强〕 醜婦を云ふ。

おさ〔長〕 博徒其他無賴の徒の頭。

おさ〔長〕 强盗犯。普通犯罪者間にて强盗犯は他の窃盗犯等より刑が重き故に窃盗犯等が强盗犯の行爲を慕ひ、尊敬して斯く呼ぶものなるべし。

おーさあばん 拘置監。（支那人隱語）

おさうり 道草をする事。（尾張の方言）

おさえ〔押〕 强姦を云ふ。

おーさか〔大阪〕 日和下駄の事を云ふ。（履物商人隱語）

おーさかのつきみ〔逢坂の月見〕 遠隔の地方へ他出して窃盗を常習とするものを云ふ。【東地北方】

おさと〔お里〕 鮨。淨瑠璃の義經千本櫻鮨屋の段より出づ又は酢の事をも云ふ

おさはくろい 家人就床せりとの意。

おさはひかる 家人未だ就床せずとの意

おざもく 賭博の異名を云ふ。

おじ〔叔父〕 警察署。「おつさんとこ」に同じ。「何時も厄介になる所」「親類に近し」と思考せしめてかく呼びしものなるべし。

おし〔啞〕 萬引を云ふ。

おしえ〔押繪〕 隱居部屋を云ふ。

おしきせ 藥を云ふ。

おーしけ〔大暴風〕 役人の監督嚴しき事を云ふ。

おしこ 隱居。老爺。押込(おしこめ)の略なるべし。

おしこみ〔押込〕 强盜犯を云ふ

おしだし〔押出〕 破獄、脫走の意。

おしち〔お七〕 放火犯、「八百屋お七」より出づ。

おしち〔お七〕 燈油の事。又は点火する事をも云ふ。「お七」(放火犯)の意味の擴大せられたるものなるべし。

おしどり〔鴛鴦〕 仲のよき夫婦。轉じて二人組の諸犯罪者。二人組を云ふ。

おしよくじよろー〔御職女郎〕 同輩頭立ちたる女郎の事を云ふ。(東京遊廓の詞)

おーじめ〔大締〕 露天商人が能書的說明をなして人を集める事を云ふ。「おーじめ」と云ふ語はあまり用ひられず、多くは「じんをしめる(人を締める)」と云ふか或は單に「しめる」と云ひ大聲を發し、「じんをしめて」賣る商品を「ころびねた」と云ふ。

おしもやしき〔御下屋敷〕 便所を云ふ

おしやま 人前をも憚からずに出過ぎる女を云ふ。(東京の方言)

おしやま 藝妓、酌婦を云ふ

おしやか〔御釋迦〕 裸体。裸体になる事を「おしやかに」なると云ふ。

おしろい〔御白粉〕 白壁土藏。又は「いろしろむすめ」とも云ふ。

おしんぞる 數量の五。(朝鮮詐欺賭博犯人用語)

おす おゝ素的の略。(學生語)

おす 强盜を云ふ

おぞい 惡事。又は惡い考えを云ふ。(尾張の方言)。

おぞい 忙わしき事を云ふ。(兵庫縣佐用郡の方言)

おそおたい 恐しいと云ふ事。(遠江の方言)

おそがい 恐しい事。(飛驒、尾張上總の方言)

おそむ 九州地方で目を醒ます事。又尾張の方言で恐しいと云ふ事。

おそめ〔お染〕 東京日本橋警察署を云ふ同署を日本橋久松警察署と云へるより(お染久松より)。【關東地方】

おそめし〔お染師〕 土藏破り。「むすめし」とも云ふ。單に「おそめ」と云へば土藏の事を云ふ。「お染久松藏の中」の詞より出でたるものなるべし。又此の土藏破りの意味を擴大して窃盜の目的を以て門戶其他の施錠を破壞する所爲を云ふ。

おだい 金持の事。(尾張の方言)

おだいし〔御大師〕 骨子賭博。大師の緣日は二十一日で骨牌の目の數を合算すると二十一となる故。

おだいし〔御大師〕 刑事。「かく、だに、うがい、げじやえん、はおり、じけいでか、あぶない、ひげくり、ぼつぷり、そつぺい、おたえじん」等皆同じ。

おたから〔御寶〕 盜賊使用の合鍵一切を云ふ。合鍵は空巢窺ひ、忍込窃盜、土藏破り等にとりて眞に寶なり。

おたち 多衆雜踏の所を云ふ。又其雜踏の地にて掏摸をなすものを云ふ。

おだち　風雨を云ふ。
おたづね〔御尋ね〕　不良青少年が婦女子を誘惑する方法の一種で、店の番などをしてゐる娘に道や番地を尋ね、それを機會に交際の端緒を得る方法を云ふ。
おたてやま　豆腐糟、「おから」の事。
おたな〔お棚〕　萬引の事。「おたなし」の略。
おたなし〔お棚師〕　萬引の事。「まんがい、やき、がぼ、せきや、かい」等皆同じ。
おたびらかく　胡坐(あぐら)をかく。（奈良地方の方言）
おたふく〔御多福〕　南瓜を云ふ。
おたふく〔御多福〕　妻女。「ばした」に同じ。
おーたらい〔大盥〕　受刑を云ふ。
おーだるま〔大達摩〕　馬鈴薯を云ふ。
おーだれ〔大垂〕　男女上衣一般。
おだわら〔小田原〕　提燈。小田原提燈を云ふ。
おち　曇天。雨模様を云ふ。
おち　に棉衣服の一般名稱を云ふ。
おぢ　請方を徘徊[illegible]をなす者を云ふ。
おーち　目積を云ふ。「だるま」とも云ふ

おちぜに〔落錢〕　賭博場に於て敗けた方が出した金額を云ふ。
おちづか　數量の五。露天商人語なれども此の語は余り一般的でなくして普通露天商人間では單に「づか」と云ふ。
おちば〔落葉〕　秋。又は秋風。一葉落ちて天下の秋を知るより出づ。
おちますよ　不良青少年が婦女子を誘惑する方法の一種で婦女子のピン、櫛等の落ちかけてゐるのを親切に注意する風を裝ひ交際の端緒を得るもの。又故意にピン、櫛等を引拔き落ちそうにして置いて注意するのもある。
おちめ〔落目〕　不過零落の境地を云ふ。又は丁半賭博にて自分が丁と賭ければ半と出、半と賭ければ丁と出るが如き不運なるを云ふ。
おちや〔お茶〕　女の陰部を云ふ。
おちやいれ〔お茶入〕　女の陰部を云ふ。
おちやをひく〔お茶を引く〕　賣れない遊女。又は法廷に出されたが裁判所の都合で取調を受けずに再び刑務所へ戻される事を云ふ。
おちやのみともだち〔お茶飲友達〕　老人の男女が關係をする事を云ふ。

おぢやよー　人妻を云ふ。（上總の方言）
おーちよぼ〔大丶〕　犬の事、犬の字を分析せしものを云ふ。
おつ〔落〕　判決確定して入監と定まりし事を云ふ。
おつい〔御對〕　鷄姦。【茨城、千葉縣】
おつき〔御付〕　飼犬を云ふ。
おつけ　一般官吏の總稱。警察官は「くりのおつけ」（苦吏「栗」の味噌汁）刑務所吏員を「六四(むし)のおつけ」六四は刑務所の飯の事にして、米六分麥四分なる故。又裁判所吏員は「おツけふいさん」と云ふ。
おツけいさん　判檢事を云ふ。
おツけふいさん　判檢事の事。「おツけいさん」に同じ。
おツこ　東京下町方面を云ふ。
おツこち〔落〕　男女相愛すること。又は情人の事を云ふ。
おツさん　刑事。「おだいし」參照。
おーづめ〔大詰〕　大便の事。大便をする事を「大詰を切る」と云ひ滯溜して居るもの即ち詰つてゐるものを排出するの意。又小便の事を小詰(こづめ)と云ひ小便をする事を「小詰を切る」と云ふ。又或

る說には詰を爪に通わせ「大爪を切る」と云いしものなるべしと云えるものあるが誤りなるべし。「大詰をかる」「小詰をかる」とも云ふ又、大便の事を「くじゆー（九十）」と云ひ。又小便の事を「じゆうろく」と云ふ。夫々其項を參照。

おつね　凝視する事を云ふ。

おツぶせ　骨牌賭博の略名。

おつぼね〔御局〕　廊下の事を云ふ。

おで　數量の五。此語はあまり使用されない。多くは「づか」を使用する。

おてあてをくふ〔御手當を喰ふ〕　收監される事を云ふ。

おでいり〔お出入り〕　巡査を云ふ。

おてなばい　五十圓の意。

おてもと〔御手元〕　箸を云ふ。（花柳界語）

おてら〔お寺〕　午前十時頃の時刻を云ふ

おーてら〔大照〕　太陽の事。「てら」は「てらす」の意にて一般の灯を云ふ。

おてらまいり〔お寺詣り〕　敎誨師の講演を聞く意。（四人用語）

おてん　一般賭博を云ふ。

おーてんがい〔大天蓋〕　天、空を云ふ。

おてんき〔御天氣〕　警戒又は監視の嚴密な場合を云ふ。

おてんきし〔御天氣師〕　「どしやながし」の一種。詐欺の一種で贋造紙幣の札束などを路傍に落して置き金錢を所持してゐるが如き人物を待ち受けて其人と二人で拾得せしかの如くに裝ひ、札束は其人にあづけすつかり信用させておき「一寸煙草を買たいから財布を貸して吳れ給なんとか云つて其財布を借受けて其儘逃走するを云ふ。「おてんきし」（御天氣師）仲間の主犯を「だき」「だき」を補佐する役を「もち」と云ひ。見張役を「うわ」と云ふ。被害者を「太郎」又は「椋鳥」と云ふ、僞造札束を「どさ」と云ふ。仕事をする際には「だき」一人にてする事もあるが時には共犯でする事もある。其時は共犯の「うわ」、「もち」は大抵白痴、啞者を裝ふのが普通である。

おてんきながし〔御天氣流〕　數人共謀して一人或は二人位、見張をせしめて他は屋內に忍入り窃盜を働くものを云ふ

おてんし　萬引窃盜犯。「あいびき、おたなし」參照。

おてんとさま〔御天道樣〕　五十錢銀貨を云ふ。

おとー　禁中にて厠の事を云ふ。

おとき〔御伽〕　妾の事を云ふ。

おとところし　美女を云ふ。

おとこまえ〔男前〕　鼻を云ふ。【仙台地方】

おとし〔落〕　贓物故買者を云ふ。「おとしや、おとしば」の略。

おとしあな〔陷穽〕　女の陰部を云ふ。

おとしをぬく　通行人の隙を窺ひポケットの金品を窃取するものを云ふ。

おとしがみ〔落紙〕　便所にて使ふ紙の事

おとしこみ〔落込〕　慾心を利用する詐欺例へば「ペーパー師」の如きもの。

おとしば〔落場〕　贓物故賣者を云ふ。

おとしばこ〔落箱〕　賽錢箱、又は賽錢窃盜者を云ふ。

おとしまえ〔落前〕　露天商の「ころび」と稱する商賣にて、大聲を發し能書的說明をして商品を捌く時客の心を讀で値を適宜の所まで落す事を云ふ。これより轉じて不良靑少年等が無錢飲食をして後の始末をする事を「おとしまえをつける」と云ひ。又强盜が金を奪取する際の凄文句、捨台詞等を云ふ。

おとしもの〔落物〕　雨降りを云ふ。

おとしや〔落屋〕 賍物故買者「おとしば」に同じ。

おとす〔落す〕 飼犬を撲殺する事。『「しゆうと（姑）」を「おとし（落す）」て「しごと（仕事）」にかゝらぬとわめきやがるでな』右の文中「しゆうと」は犬の事「おとす」は飼犬撲殺、「しごと」は竊盜行爲の事にて之を當て嵌めて文を讀むと意味明瞭となる。

おとなかい〔音無買〕 店頭のものを竊取する事。「音無買」の意より出でしか。

おとち 末子を云ふ。（兵庫縣美方郡の方言）

おとまへ〔御戸前〕 一般住家の通用門を云ふ。

おとまり〔御泊〕 前日仕入れた魚の賣殘り。（生魚商語）

おともだち〔御友達〕 現金專門の竊盜犯

おとゆび 賭博の總稱。

をとり〔囮〕 不良青少年が婦女子を誘惑する方法の一種で囮として不良少女を使ひ親しくさせ囮の紹介で關係をつけるものを云ふ。

おとり 弟の事を云ふ。（兵庫縣美方郡の方言）

おどりこ〔踊子〕 鮪の事を云ふ。（僧侶の隱語）

おどりこ〔踊込〕 强盜。「おどりこみ」の略なるべし。

おどりこみ〔踊込〕 强盜を云ふ。「とん／＼、おどり子、たゝき、七月」等皆同じ。

おとりさま 共犯者同志が豫め場所時刻等を約し落ち會ふ事を云ふ。

おどりし〔踊師〕 强盜犯人。【關東地方】

おとりたつ〔囮立つ〕 掏摸犯人詐欺犯人等が用ゆる語にして被害者たる目的の人物が立ち去るを云ふ。

おどる〔踊る〕 犯罪實行中被害者に發見されし事を云ふ。それより轉じて周章狼敗する事を云ふ。

おどろ 薪。（兵庫縣但馬郡の方言）

おとわちよー〔音羽町〕 淫賣婦を云ふ。小石川音羽八幡附近に私娼窟、長屋女郎等ありし故、轉じて私娼窟、淫賣婦等を云ふ。

おどん 私。自分。（熊本地方の方言）

おなか〔御中〕 食事する事を云ふ。（女房詞）

おーながし〔大流〕 不良團が總員揃ふて歩く事を云ふ。

おーなぎ〔大凪〕 監督官吏に隙のある事又は監督の緩やかなる事を云ふ。

おなで〔御撫〕 下婢を兼ねたる妾を云ふ。

おなに〔onani〕 手淫を云ふ。羅典語より出づ。（學生語）

おなめ〔御舐〕 戀人。情人等を云ふ。

おに〔鬼〕 檢事、又は巡査等を云ふ。「えんま」參照。

おにがく 蚊帳を云ふ。

おにぎす〔鬼酒〕 燒酎。「きす」は酒の意即ち鬼酒、鬼の如き强き酒と云ふ意なるべし。「きす」參照。

おにころし 大豆の事を云ふ。節分に豆にて鬼を追拂ふより。

おーにし 舊十一月、十二月頃吹く風。（瀨戸内海船員語）

おにば〔鬼齒〕 深更師(ふけし)などが戸を切るに用ゆる鋸の一種を云ふ。

おにびら 蚊帳を云ふ。「おにずら」とも云ふ。

おにふちやにい 一定の住所正業なく諸所を徘徊して强竊盜を働くものを云ふ（朝鮮人隱語）

おのば 病囚室を云ふ。

をば〔叔母〕 看守。「おじ」參照。

おーば 父親を云ふ。

おはきもの〔御履物〕 門前拂にする事。（花柳界用語）

おはぐろ〔鐵漿〕 黑板張の土藏又は黑壁の土藏を云 。

おはぐろつき〔鐵漿附〕 腰板張の土藏。

おばけ〔御化〕 蒟蒻を云ふ。

おばけ〔御化〕 種々の贋造物品を賣る詐欺商人を云ふ。例へば支那人の如く裝ひ巧に物品を賣付けるもの。

おばけ〔お化〕 官名、身分等僞稱し或は官公吏の正服を着服して他人を欺き金品を騙取するを云ふ。

おばけ〔御化〕 娼妓を相手に同衾する事

おはこ 懷中に金錢の乏しき事を云ふ。又目的とする相手方に見込なき事を云ふ「おはま」に同じ。

おはし〔男端〕 男根を云ふ。

おはす 味噌を云ふ。

おはせ 男根を云ふ。

おはち〔御鉢〕 臀部を云ひ又それを廣義に解し女子の陰部を云ふ。「あらばち」＝（新鉢）「あなばち」＝（穴鉢）等共に女の陰部を云ふ。

おはちどり 神官。神主を云ふ。

おはツさん 被告人護送中逃走する事を云ふ「ずらかる、はしる」等同意。

おはツさんさせる 囚人又は留置人に對し逃走を教唆し又は補助する事を云ふ「ずらからせる、はしらせる」等同意。

おはな〔御花〕 最負、寵愛を意味する。「Sさんは先生のお花」と云へば「先生の最負を意味する」元來花と云ふ字を分析すればサイヒとなりヒイキとなる（女學生語）

おはなこま〔御花獨樂〕 八角又は六角の獨樂にて賭博に用ゆるものを云ふ。

おはま 懷中に金錢の乏しき事、又目的となる相手方に見込なき事を云ふ。「おはこ」に同じ。

おはもじ〔御恥文字〕 恥しき事を云ふ。（女房詞）

おはよー 入場券を利用し列車內に立入り混雜にまぎれて竊盜を働らくものを云ふ。

おびをとく〔帶を解く〕 竊盜の目的を以て土藏の側壁を破壞する事を云ふ

おひかり〔お光り〕 憲兵。「おしかり（お叱り）」の轉訛か？或は搜査の嚴重な事を「目が光る」などゝ云ふその「おひかり（お光り）」より來るものか、「あか」參照。

おびき 詐欺賭博、ペーパー師仲間にて被害者となる者を誘引する役。「きやくびき」とも云ふ。

おーびき〔大引〕 詐欺賭博、ペーパー師仲間の頭目者を云ふ。

おびく〔御比丘〕 尼を云ふ。「比丘尼」より出でし語。（尾張の方言）

おーひけ〔大引〕 深夜を云ふ。遊廓にて灯を消す頃を「大引」と云ふそれより出でし語。（午前二時頃の稱）。

おびし〔帶師〕 詐欺的行爲の常習者を云ふ。

おびしたむすめ〔着帶娘〕 周圍の壁に裾張をしたる土藏を云ふ。

おーひめ 臀部を云ふ。「おーひげ（大髭）」の轉訛か？

おびら〔御片〕 一圓、十圓等各種紙幣を云ふ。

おひらき〔御開〕 遊里にて多數會飲をやめて敵娼（あいかた）と共に寢室へ行く事を云ふ。

おひろさん 多衆會合の場所又は繁華な

る市街を云ふ。
おぶ〔御湯〕「いたのまかせぎ」の事。
おぶけ　警部の事を云ふ。けーぶ(警部)の逆語「ぶけ」に敬語「お」をつけて「おぶけ」と云ひしもの。
おふける　追跡のある事。又は逃走する事、高飛する事を云ふ。「どえふける」(東京から逃げる事)「さかふける」(大阪より逃げる事)を云ふ。
おーぶね〔大舟〕　巡査部長を云ふ。
おーぶね〔大舟〕　金額拾圓の意。
おーぶるく　數五百を云ふ。(朝鮮人隠語)
おーぶれ〔大溢〕　多額の金品を窃取せし事を云ふ。おーあぶれ(大溢)の音便ならん。
おーぶん　婦女子。(朝鮮詐欺賭博犯人用語)
おーへい〔横柄〕　長官、又は指揮者。(横柄より)
おーべい〔歐米〕「おーへい」に同じ。
おべゝ　女子の陰部を云ふ。
おべんちよ　手淫。(尾張の方言)
おーぼーづ　博徒にて親分に近きものを云ふ。

おぼせ　陰暦四月頃日和良き日に吹く南風。(伊勢の方言)
おぼそ　鰯。又は帶を云ふ。(女房詞)
おぼぞ　男根を云ふ。
おほめ　野菜類を云ふ。
をま　警部を云ふ。
おまき〔お槇〕　産婆を云ふ。(淡路の方言)
おーまく　澤山。多量の意。(淡路西浦地方の方言)
おまつり〔お祭〕　女子の陰部を云ふ。
おまやー　お前は。汝はの意。(鹿兒島の方言)
おまる　腰部を云ふ。(女房詞)
おまんじゆうになる〔御饅頭成〕　殺害される事。又は死ぬ事を云ふ。死して埋葬され土饅頭になる意なるべし。
おみかぼ　盗癖ある少年を云ふ。
おみつ　淫賣婦を云ふ。
おみまい〔御見舞〕「あきすねらい」に同じ。
おみやぼー　不良少年を云ふ。或は兒童の持物を巧言をもつて詐取するものを云ふ。
おむかざり　嫁の事を云ふ。【仙台地方】

おむし〔御蒸〕　味噌を云ふ。
おーむすび〔大結〕　大便。大便の事を別におーづめ(大詰)と云ふ。詰と結との酷似より。「おーづめ」參照。
おむら〔お紫〕　醤油の事　云ふ別に醤油の事を「むらさき」と云ふ此語の略なるべし。
おむんたいら〔隱退〕　潜伏。(朝鮮詐欺賭博犯用語)
おめ〔男女〕　同志愛の對稱を云ふ男女と「おめかけ(お妾)」の略「おめ」との二説あるが「おめかけ」の略の「おめ」が眞なるべし。
おめか〔御妾〕　妾を云ふ。川柳に一小間物屋「おめか」と帳へ付けておき」
おーめ、こめ〔大目、小目〕　采賭博の一種にて一、二、三を小目、四、五、六を大目と稱し采を一個或は三個を使用する。仕方は「チョボ」と丁半の折衷と見て差支えない。
おも　牛を云ふ。牛の鳴聲「もおー」の逆よりを云ふ。
おもすけ〔重助〕　貴顯紳士又は豪商を云ふ。
おもて〔表〕　物品を購ふ事。(うら參照)

おもてかんたれ　旅館に止宿して深夜他客の熟睡を窺ひ忍入り携帯金品を窃取する事を云ふ。「おもてかんたんし」（表邯鄲師）とも云ふ。關東地方に於ては普通、一般窃盗犯を「うらかんたんし」（裏邯鄲師）と云ふ。「かんたん」及「かんたんし」參照。

おもや〔母家〕　警察署又は警察部或は警視廳等を云ふ。

おもや〔母家〕　馳走の際酒の出る事を云ふ。

おもん〔五門〕　草鞋。朝鮮人の使用する草鞋に紐を通す穴五つあるより。（朝鮮人隱語）

おや〔親〕　賭博の胴元を云ふ。

おや　自分。自身と云ふ意。（鹿兒島の方言）

おやえ〔お八重〕　黴毒を云ふ。八重梅の梅は黴に通ずる故。

おやがたち〔親形〕　兄。（高知縣の方言）

おやく　深夜家人の熟睡中忍込み金品を窃取なすもの深更師（ふけし）に同じ。

おやく〔御役〕　月經を云ふ。（女詞）

おやくそく〔お約束〕　京都の遊廓にての揚代を云ふ。「たまだい、ぎよくだい、はなだい、せんこだい」等皆同意。

おやころし〔親殺〕　賭博を云ふ。

おやしき〔御屋敷〕　刑務所を云ふ。

おやだまかい〔親玉買〕　検束の緩やかなる事を云ふ。

おやぢ〔親爺〕　雷鳴を云ふ。（親爺の小言はがみ／＼と雷の様だから）それより轉じて看守を云ふ。又警察署長を云ふ又横濱附近にては典獄を云ふ。

おやでかをまわす　平手に毆打さる事を云ふ「でつちる」とも云ふ。

おやどり〔親鷄〕　夜明を云ふ。

おやどろ　看守長を云ふ。

おやひげ〔親髭〕　警察署長。（露天商人用語）「りやんこ、おやだま、どーろく、ひげ、たま、くり」等皆同じ。

おやひね　警察署長。「おやひげ」參照。

おやま〔小山〕　娼妓。承應年間江戸に小山次郎三郎と云ふ者操人形、毎に女形を巧に操りし故關西地方に於て娼妓の事を「おやま」と云ふ。

おやまこ　三人の事を云ふ。（センボ）

おやまばらし　藝妓、酌婦等を云ふ。

おやもと〔親元〕　警察署を云ふ。

おやゆび〔親指〕　主人。亭主。情人。監督者等其他長上の者を云ふ。

おゆみ　人妻の事を云ふ。（對馬の方言）

およぐ〔泳〕　故買者に對し直接贓物を交附するの意。

おより〔お寄り〕　掏摸其他窃盜犯人が目的の場所を徘徊する事を云ふ。「およぐ（泳ぐ）」とも云ふ。

おらちやー　私等は。（島根縣の方言）

おーらい　澤山、多量の意。（淡路西浦地方の方言）

おり〔檻〕　監房を云ふ。

おりいた〔折板〕　襟を云ふ。

おりすけ〔折助〕　制服巡査を云ふ。

おりつかい〔降使ひ〕　停車場改札口附近にて着車間際の混雜に乘じてなす掏摸犯を云ふ。

おりは　雙六の變態にて方法の簡單なるものを云ふ。

おりひら〔折平〕　袴を云ふ。

おりまげ〔折髷〕　駕を云ふ。【千葉縣】

おりん　ヴイオリンの「オリン」なり。ヴイオリンを彈き歌本を賣るもの「えんかし」に同じ。

おーりん　賭博の親分。

おるびよん〔向側〕　相手方の意。（朝鮮詐

欺賭博犯)

おるみつちや〔籬の下〕 姦通の意。語意は籬の下と云ふ意で朝鮮人が姦淫私通をなす際、籬の陰にてなす者ある故。(朝鮮人隱語)

おるよぼなつた〔上逆〕 殺人を云ふ。語意は上逆。人間は天より命を賜りたるもの其れを絶てば天へ歸ると云ふ意より出でたるものなるべし。

をれくぎ〔折釘〕 干魚を云ふ。

おろく 櫛、又は女の帶。其他女の所持品等を云ふ。「おろく」は女子に關聯したる語なり。

おろくみち 女の髮を云ふ

おわん〔御椀〕 乞食を云ふ。「わんのしや」(椀の者)とも云ふ。

をん〔牡〕 檢事を云ふ。告訴する權利あるより。

をんがり 「をん」は牡で「がり」は「がりこ」(子供)の略、牡の子供、即ち男兒を云ふ。

おんたい〔御大〕 刑事。「でか」に同じ。

おんち〔音痴〕 馬鹿。頓馬の意。

おんちま 藝妓。酌婦を云ふ。

おんと 只の事を云ふ。

おんとー 正當なる收益を云ふ。

をんなころし〔女殺〕 美男子を云ふ。「ひめころし(姬殺し)」とも云ふ。

おんびよ 衣服着用其他身邊の裝飾。

おんぶちやんい 空巢窺。語意は「ハイカラ」の意。(朝鮮人隱語)

おんまき 監房を云ふ。

おんむんじやくぽんた〔諺文書籍看讀〕 詐欺賭博犯を云ふ。語意は朝鮮文の書物を讀むの意なり。

おんりよう 贓物一切を云ふ。又物品を收受する事「おんりようさせ」は「吳れ」と云ふ意。

おんるんそる 數量の七を云ふ。(朝鮮賭博犯用語)

か の 部

が 虛言を弄して巧に辯疏するを云ふ。

かー 警官、憲兵に對し他人の不正行爲を密告するを云ふ。(台灣人隱語)

かあちやん 甲斐絹類を云ふ。

かありあ 刑務所。【台灣】

かありあていう 典獄。【台灣】

かい〔貝〕 手錠を云ふ。

かい 楠の事。(熊本の方言)

かい〔買〕 單に「かい」と云へば萬引窃盜者の事にして接尾詞として用いられる時例へば「おきかい、おかるかい」等の時の「かい」=(買)は窃取行爲を意味する「かいものにゆく(買物に行く)」と云へば窃盜を爲しに行くの意。

かい〔犬〕 巡査の事。(朝鮮全羅北道鎭安地方)

がいをく〔外屋〕 屋外の逆語にて家の外の事を云ふ

かいき〔械機〕 機械の逆語にて機械の事

かいき 深更師等が用ゆる器具を云ふ。

がいきち 氣狂を云ふ「がいきつ」とも云ふ。

かいぎん 銀貨を云ふ。

かいくり〔買繰〕 列車內掏摸(箱師)が他人の鞄や紙包と自分の用意してゐる古新聞づめのものと掏り替える行爲又は其犯罪實行後踪跡を晦ますを云ふ。

かいと〔寇〕 絹衣類を云ふ。

がいこうじようず〔外交上手〕 女學生語にして男性との交際上手なるを云ふ。

がいし 少年少女誘拐犯を云ふ。「がり

し」の轉訛か。

がいしや 被害者を云ふ。被害者の省略

かいしよにん〔甲斐性人〕「かいしよー」（甲斐性）とは方言にして意地とか度胸とかの意それより轉じて强窃盜累犯者又は巧に法網をくぐり、平常奢侈を極むる者等を云ふ。又は犯罪者仲間の頭目者等、凡て意久地のある者、度胸のある者等を云ふ。

かいす〔買巢〕 贓物故買者。「かふ、いすけ、いすとおし、ふくろ」等皆同意。

かいず 犯罪者の宿屋を云ふ「けいず」とも云ふ。

かいせにん〔甲斐性人〕「かいしようにん」に同じ同項參照。

かいだい 容積の大なる事。俗語の「でつかい」の倒語の轉訛か。

かいだいにん〔大人〕 大人を云ふ。（不良青少年）

かいだし 「おきやさぎ」（置屋詐欺）參照

がいち 通行中摺違ひに他人の懷中物を窃取する事、「ちがい」の倒語。

がいちや 粥汁。茶粥の倒語。

かいちよう〔開張〕 男女交接を云ふ。

かいつ〔蓋子〕 鞍を云ふ、（支那人隱語）

かいつ 受託金品拐帶犯を云ふ。「つかい」＝（使）の倒語。

かいづかい 贓物故賣者を云ふ。

かいつき 袴を云ふ。

かいてんめん〔開點面〕 犯人が窃盜の目的を達し得ずして去るを云ふ。（支那人隱語）

がいとのやぶれ〔外套の破れ〕 昆布の副^{おかず}食物を云ふ。（囚人語）

かいな 仲居の事。仲居の倒語。

かいは 警察署其他の諸役所を云ふ。

かいはい 若い男を云ふ。「かよわい」の轉訛。

かいはもの 賭博者仲間の乾分を云ふ。

かいび 金の性を名乘るものを云ふ。（朝鮮人隱語）。

かいまち 間違ひ又は失敗を云ふ。「まちがい」の倒語。

かいめん 面會、又は面談の意。面會の倒語。

かいもに 手拭を云ふ。

かいものし〔買物師〕 萬引窃盜犯を云ふ

かいもの〔買物〕 共謀して窃盜をなし贓物を殊に現金等を共犯者に無斷にて自己の所有とする事、俗に「上前を刎ねる」又は「ねこばゝをきめこむ」等と同意。

かいものにゆく 萬引に行く事、又は窃取行爲をなすべく外出する事「しようばいにゆく（商賣に行く）」「あきないにゆく（商に行く）」等に同意。

かいよ 賣淫婦を云ふ。

かいわい 若い男、「かいはい」に同じ。

かいん 薄荷行商者。【長野地方】

かう〔買〕 一般窃盜行爲を云ふ。

かう 間諜、警察官、憲兵。【台灣】

かえづかい〔換使〕 贓物故賣者を云ふ。【長野縣】

かえぼし〔替干〕 干物窃盜を云ふ。

かえる〔蛙〕 萱、杉皮類を以て葺きたる野小屋、番小屋の類を云ふ。

かえる〔蛙〕 蟇口を云ふ。蟇口の蟇より蛙を聯想したるもの、又蛙は田、溝等に棲息するより特に田舍者の財布を指す事もある又轉じて一般懷中物を云ふ

かえるのたんか〔蛙啖呵〕 農家にて穀類を購ひそれを自家迄發送せしめ後にその代金を窃取するを云ふ。

かえんし〔歌艷師〕 艷歌師の事を云ふ

かおをへぐ〔顏剝〕 姦通を云ふ。

かおがしら〔顔頭〕 看守長を云ふ。
かおよせ〔顔寄〕 雜炊又は粥を云ふ。種々のものが一緒に炊かれる故。
がかー 一般竊取行爲を云ふ。
かゝいにん 竊盜犯。「窺い人」或は「加害人」の意か。
かがう 竊取行爲を云ふ。「窺ふ」の略。
かゝえ〔抱〕 雜踏の地を徘徊して人の背後より携帶金品を竊取する事を云ふ
かゝえぼーし 腰帶。（關西地方の方言）
かがせ 取調官吏に對して虛僞の事實を陳述なし犯罪事實を否認して處刑を免れんとするが如き所爲を云ふ。
ががつ 搔鉢。（中國四國の方言）
かゞみ〔鏡〕 檢事を云ふ。「閻魔廳に玻璃の鏡」あるより。
かゞみ〔鏡〕 眼を云ふ。
かゞみ〔鏡〕 月を云ふ。「あか、てら、てらし、げつぽう〔月寶〕、げつさん」等皆同意。
かかみ〔鏡〕 面會する事。（囚人語）
かゞみや〔鏡家〕 竊盜者が目星をつけた家の事、かがみ〔眼〕より來る語。
かゞみやま〔鏡山〕 草履を云ふ。
かがり 內戶の錠前を云ふ。

かゝる〔懸る〕 逮捕せらるゝ事、「引懸る」或に「かゝる」繩が「かゝる」等より
かき〔搔〕 犯罪密告者。「裏を搔く」と云ふ意よりか。
かき 官吏に對する贈賄を云ふ。
かぎ〔鍵〕 竊盜行爲、又は手を云ふ。
がき〔書〕 藥書の事。は音の省略。
かきさん 嫁の事。（兵庫縣の方言）
かきす〔搔巢〕 竊盜を云ふ。
かきだし〔搔出し〕 「たこつり」に同じ窓口等より竹竿等にて衣類等を竊取なすもの。
かぎだし〔嗅出〕 列車內掏摸犯が贓物を列車進行中に竊取し之を窓外に投棄し最寄驛に下車して之を探し求める事を云ふ。
かきのは〔柿の葉〕 煎餅を云ふ。形狀の類似より。又「かきもち」の「かき」の意を通はせたものゝ云ふ。
かきぼれ 袴。（朝鮮人隱語）
かきもちやき〔搔餠燒〕 賭博開張する事を云ふ。「ねる、はなみ（花見）てんご」等皆同意。「てんご」は「きんご」（五五）よりか、又は大阪の方言てんご（弄ぶ）の意よりか。

がきやくん 馬鹿と云ふ意（淡路の方言）
かぎん〔貨銀〕 銀貨の事。銀貨の逆語。
かく〔角〕 刑事を云ふ。角袖の略、又「そつぺい、くり、ぼつぷり、ひげ、だいし、でか、あぶま、じけい、はおり、やえん、げし、うがい、だに」等皆同意。
かく〔額〕 共犯者互に贓物を分ける事。「かぶ、かぶわけ、かぶわり」等皆同意。
かく 犯罪の證據となるべき言語動作又は贓物を云ふ。
かく〔角〕 蒲團、風呂敷、桝等を云ふ。何れも方形なる故。
かくいどり〔蚊喰鳥〕 蝙蝠の事。（畿內の方言）
かくきり〔角切〕 窓を云ふ。窓は大抵四角に切つてあるより。
かくさい 僞造紙幣を云ふ。
かくし〔隱し〕 筆筒の事を云ふ。【北陸地方】
かくじやう 挽割麥を云ふ。
かくそで 角袖「かく」參照。
がくたい〔樂隊〕 豚肉と馬鈴薯の副食物（囚人語）
かくづき 現行犯又は贓物の現存に依つて―（準現行犯）逮捕せらるゝ事を云ふ

前項「かく」（犯罪の證據云々）より來る語。

かくひげ〔角髭〕　刑事。「かく、かくそで」に同意、「かく」參照。

かくびら〔角片〕　蒲團又は綿入衣服の一般を云ふ。

かくべい〔角兵衛〕　變裝人物を云ふ。

かぐめ　牛。【熊本地方】。

かくもの〔角物〕　太物類一切を云ふ。

かぐら〔神樂〕　變裝人物。【京阪地方】

かぐら〔神樂〕　强盜犯を云ふ。兇器を携帶して被害者を脅迫せしより刀劍を持して踊る神樂踊りを聯想せしもの。

かぐらでん〔神樂殿〕　絞首場を云ふ

かぐらや〔神樂屋〕　劇場、寄席を云ふ。

かくらん　蒲團、「かく、かくびら」に同意。

かくれ〔隱〕　夕暮、日沒、陽がかくれる故。

がくれ〔隱〕　人を使ふに使方の知らぬ役人を云ふ。がんぐれ（盲人）よりか。

がくれ　暗夜、「がんぐれ」よりか。

かくわらない　事情の判然せざることを云ふ。

かけ　放蕩して資産を蕩盡せし事を云ふ【石川縣】

がけ　數量の九を云ふ。「きわ、あぶない」等何れも同意。

かげ〔陰〕　詐欺賭博、鹿追の中の一役目で又「うわ」とも云ふ。

かけおい〔馳追〕　追跡せらるゝ事を云ふ追駈けの逆語。【東京】

かげきよ〔影淸〕　邸宅などに忍込む際覺知せらるゝを恐れて莚等にて忍口を蔽ふ行爲を云ふ。

かけこみ〔馳込〕　店頭に家人の不在中金品を竊取なすもの馳込は其の形容より來る語。「かつぱらい」に同じ。

かけた　制服巡査を云ふ

かけだし〔馳出〕　隙をねらつて鞄等を竊取逃走する事を云ふ。凡て「かけだし」は「初步」と云ふ意にして「かけだし者」と云へば「新米」の意、其故「忍込み」「あきすねらい」が出來ず「かつぱらい」などの「こそどろ」をなす者、又は其の犯罪を云ふ。

かけつ　俗に云ふ法羅吹に同じ、日常の座談中に誇大的說明をなす者や、虛僞の陳述をなす者を云ふ。

かけつちやむ〔壓房〕　典獄を云ふ。

かけとく　追跡せらるゝ事を云ふ「かけてゆく」とも云ふ。同語の音便。

かけとりにゆく〔掛取りに行く〕　竊盜の目的を以て外出する事を云ひ、「しようばいに行く（商賣に行く）」「あきないにゆく（商に行く）」「しごとにゆく（仕事に行く）」等皆同意。

かげま〔陰間〕　昔男色を賣つた美童で若衆野郎を云ふ。

かげむし〔陰虫〕　戸締、施錠を云ふ。

かけもの〔懸物〕　土藏の錠前を云ふ。

かげやま〔陰山〕　巡査の事を云ふ。

かご〔籠〕　住家を云ふ。

かごう〔閨〕　竊取行爲を云ふ。

かごしま〔鹿兒島〕　薩摩芋を云ふ。

かごぬけ〔籠拔〕　詐欺の一種にて商店、會社等に來たり假構又は實在せる他人名義を以て目的の金品を一定の場所へ持參せしめて相手方を欺罔し金品を騙取して逃走するものを云ふ。此の種の詐欺の手段方法等により、種々名稱を異にする。

かこる　來るを云ふ。【滋賀縣】

かさ〔笠〕　太陽を云ふ。

がさ　一般に搜査せらるゝ事を云ふ轉、

て犯人潜伏中を捜査せらるゝ事、又は諸營業の臨時臨檢を云ひ、又非常警戒を云ふ。

かさ　緩を云ふ。

かざえもん〔風左衛門〕 巡査の事。

がさをいれる〔がさがいる〕捜査の手が廻る事を云ふ。それより轉じて身元調査、贓物の探査等、又は犯罪嫌疑者、賭博開張の疑ある家の家宅捜索等を云ふ。

かさぎ　奥の間、又は床の間を云ふ。

かざくるま〔風車〕 巡査を云ふ。風車の如くぐる〳〵廻るより。

かざな　一般不正行爲。他人に自分の舊惡を披歴する時に用ゆる。

かさね〔累〕 醜女を云ふ。狂言四谷怪談に累と云ふ醜女あるより。

かざはな〔風花〕 豆、麥、蕎麥などの粉を云ふ。

かざぶくろ〔風袋〕 足袋を云ふ。「げそぶくろ、びた」等に同じ。

かし〔菓子〕 店頭に陳列したる商品を窃取する事、「かけだし者が」菓子或は煙草等を竊取なすより。

かし　數量の三。【信越地方】「かち」の轉訛。

がじ　捕縛せられたる時捕繩を切る爲に使用する刄物(長さ一寸二分計り)を云ふ。

かしい　貧困なる者、又は貧窮なる生活狀態を云ふ。

かじか〔河鹿〕 澤庵を云ふ。河鹿は溪流の石の下に棲息し、澤庵も石の下にあるより。

かしちよう　提灯を云ふ。

かしばつる〳〵かんだ　留置處分を云ふ刑田に踏入れたれば容易に脱出出來難きの意なり。

かしもと〔貸元〕 賭場に於て賭金の貸付けをなすものを云ふ。

かしもの〔貸物〕 貸蒲團を云ふ。(京阪地方の方言)。

かじや〔鍛冶屋〕 門戸の施錠の個所を燒抜き忍入る窃盗犯を云ふ。

かしわ〔鷄〕 强盗犯を云ふ。鷄を殺して(絞めて)「かしわ」にするより。

かす　娘。「かる、おかる、ちんまいなご」等皆同意。

がす〔瓦斯〕 月影。(何れも青白光なる故か)

かすがいさま〔鎹様〕 豆腐。「豆腐にかすがい」よりか。

かずき　座敷、又は納屋、物置の類を云ふ。

かすごーさま　豆腐を云ふ。「かすがいさま」の音便。

かすてら　燒豆腐。(囚人語)

かすびくや　下流置屋、又は酌婦等に淫を鬻がしめる下流の飲食店を云ふ。「かす」は下流を表わし「びく」は「びり」と同じく娼婦、淫賣婦を云ふ「や」は屋、即ち下流置屋を云ふ又「かすびりや」とも云ふ。

かすびり　密淫賣婦又は下流の酌婦を云ふ。

かすみ〔霞〕 喫煙を云ふ。「くさひく、もやひく、くもはる、やもひく」等皆同じ。

かすめ〔掠〕 萬引窃盗犯を云ふ。

かずらひげ〔蔓髭〕 檢擧せらるゝを恐れ逃走する事を云ふ「かぜをくふ、ふける」等皆同意。

かすり〔掠〕 一般窃盗犯を云ふ。又、親分株の者が自分の繩張内の浮浪兒、與多者等の稼高の上前(うわまい)を刎ね

る事。
かすわらい〔粕笑〕 面白からざるに笑ふ事（尾張の方言）
かぜ（風） 風俗係専門の巡査、又風俗壞亂の取締りを嚴重にする事を「けいはちふう」又は「けいはちかぜ」（警八風）と云ふ警視廳令第八項に其項あるより來る。
かせ 地震を云ふ。
かせ 警察署を云ふ「足枷手枷」の枷（かせ）より來たる語か。
がせ 「贋物、ごまかし、まやかしもの」等の意、それより轉じて通貨僞造、僞畫、僞書等の詐欺手段より虚言、虚構の意、又「まやかしもの」の意より賣淫婦の意もある。「がせ」が接頭語として用いらるゝ時は凡て「贋」の意。
かぜ〔風〕 警官に追跡せらるゝを云ふ、「きたかぜ」の略。
がせうつ〔贋打〕 僞造紙幣行使を云ふ。
かぜをくふ〔風を喰ふ〕 檢擧に先立ち逃走する事、「かずらひげ」に同じ。
かせぎ〔稼〕 萬引竊盜犯を云ふ。
かせぐ〔稼〕 一般竊取行爲。「かせぎにゆく（稼に行く）」は萬引をなしに行く事であるが、一般には竊取行爲をなしに行く事を云ふ。
かぜくるま〔風車〕 巡査を云ふ。「かざぐるま」の様にぐる〳〵廻るより。
がせこい 虚僞の陳述。を云ふ
がせこわ 入歯。「こわ」は歯「がせ」參照
がせつう 贋造通貨、又通貨僞造犯を云ふ。前者の場合は贋通の意にして後者は「がせの通人」と云ふ意より出づ。
がせな〔贋名〕 僞名を云ふ。
がせねた〔贋種〕 まやかしもの、まやかし商品を云ふ。「がせ、ねた」の「ねた」は種（たね）の意。「がせ」參照。（露天商人語）
がせばい〔贋賣〕 まやかしものを賣り付ける事を云ふ、「ばい」は賣の意。
がせびり 淫賣婦を云ふ「だるま、しろいもじ、いくじま、ばいすけ、びり、びいねこ」等皆同じ。
がせひん 贋造貨幣を云ふ。「がせ」（贋）で「ひん」は貨幣の事を云ふ。
がせんたん 僞造通貨を云ふ。
かた〔型〕 制服巡査を云ふ。
かた〔型〕 兵士及官服を着用せる官吏の總稱を云ふ。
かた〔型〕 族稱身分等を云ふ。
かた〔形〕 人相を云ふ。
かだ 一般詐欺手段を云ふ、「かたる」の音略か。
がた 火災を云ふ。
がた 演劇其他の興行物を云ふ。
がた 女を云ふ。【中國地方】
がた 水車、荷車、又は乘合自動車を云ふ。何れもがた〳〵するより。
かーた 懷中時計を云ふ。（支那人隱語）
かたい〔固〕 犯人が容易に陳述せざるを云ふ。
かたおや〔型親〕 巡査部長を云ふ。「かた（型）」參照。
かたおや〔片親〕 兄哥、兄分と云ふ又一派の親分株をも云ふ。
かたかぶれ 寒冷の氣候を云ふ。
かたぎ 蝗を云ふ。（尾張の方言）
がたこー 乞食を云ふ。塵芥箱の蓋をがた〳〵させるより。其「がた」と尊稱か愛稱かは知らぬが、「公」を加へて「がた公」と云ふ。「がじろう、がたろーわんのしや（椀の者）、はしのしたのしや（橋の下の者）」等皆同意。「がじろう、がたろう」は共に「がたこー」の音便。

かたさき〔肩先〕 頭部を云ふ。

かたびき〔肩引〕 荷車挽を云ふ。

かたまち〔片町〕 電車を云ふ

かため〔片眼〕 月夜。明るく唯一つ光るより。

かたやま〔形山〕 山形市を云ふ。山形の逆語なり。

かたやり 美裝する事（淡路西浦の方言）

かたより 椅子を云ふ。

かたり〔語〕 不良青年が婦女子を誘惑する方法の一種で何かの機會を捉へて話かけ、交際の端緒を得る方法を云ふ。

がたろー〔河太郎〕 河童の事を云ふ。（土佐の方言）又隱語にては「橋の下」「河」河童と聯想して乞食を云ふ、「がたこー」參照。

かち 數量の三を云ふ。

かち〔徒歩〕 巡査、徳川時代の「徒歩、目付」が現今の巡査に當るより。

かぢ 詐欺賭博其犯人にして本犯と被害者との中間にありて被害者たる目的の人物を誘引する者を云ふ。

かぢ 劍を云ふ。「こーやへまいる（高野へ詣る）」參照。

かぢ 捕縛された際など捕繩を切斷する爲に所持せるもの又掏摸犯人の所持せる安全剃刀の刄などを云ふ、又人を拒打することを云ふ。【福井縣】

かち 小部落、又は特殊部落を云ふ。（兵庫縣加西郡の方言）

かぢか〔河鹿〕 澤庵を云ふ。河鹿も溪流の石の下に居り澤庵も石の下にあるより。

かちさいく 看守長を云ふ。

かちびら 婦女子の衣服。「おかるびら、かるびら、などびら」等皆同意。

がちや 巡査、佩劍の音より。

がちや 竹竿に黐を附けて神社佛閣等の賽錢を釣るものを云ふ。

かぢや〔鍛冶屋〕 門戸其他を焼抜き忍入るを得意とする犯人を云ふ

がちやばこ 留置場を云ふ。「ぶたばこ」=（豚箱）とも云ふ。

がちやもん 玩具を云ふ。（露天商人）「がちやもんばい」は玩具商を云ふ。

かちゆめき〔星〕 强窃盗犯人を云ふ。夜間に働くの意よりか。（朝鮮人隱語）

がぢよツた 殺人犯を云ふ（朝鮮人隱語）

がちよー〔鵞鳥〕 口喧かましき監督者。（囚人語）

かつ 數量三の意かち轉訛【東北地方】

かつ〔喝〕 恐喝を云ふ。恐喝の略。

がつ 情人、情婦を云ふ。（長崎縣九山にて女色の事を「がつ」と云ふ）よりか。

かつかい 硯を云ふ。

かづき 裏座敷、納屋類を云ふ。

かつぐ 强姦を云ふ。

かツけ〔脚氣〕 乞食、癩患者を云ふ。

かツこ 澤庵を云ふ。

かつごろー〔勝五郎〕 矢立を云ふ。

かツた 失踪、又は移轉を云ふ。「かわつた」（變つた）の音便か。

かツち 三人連の事を云ふ。

かツちい 癩患者又は乞食を云ふ。

かつなぱい 金額三十圓の意。

かつぱ 胡瓜を云ふ。

かつぱ〔河童〕 詐欺の一種で「おてんきし、どしやながし」に同意で最初、路傍に贋札束（ドサ）を落して置いて金のありそうな通行人を待受けその者と二人で拾ふた樣に見せかけ警察へ行く途中に札束をその者に預けすつかり信用せしめて置いて「一寸煙草を買たいのですが持合せがないから蟇口貸して下さい」などと云つて蟇口ぐるみ金を受取

り共儲逃走する詐欺を云ふ。共犯者中主犯者を「だき」、共犯者を「もち」、被害者を「太郎」又は「椋鳥」、見張役を「うわ」と云ふ。仕事(詐欺)をなす際には「だき」單獨にする場合と「うわ」「もち」を使用してなす場合とある後者の場合は「うわ」は唖者又は白痴を装ふが常である。

かツぱ〔合羽〕 油揚豆腐を云ふ。合羽は油紙を用ひて作るよりか。【名古屋】

かツぱらい〔掻拂〕 店頭の金品を竊取逃走する所爲を云ふ。犯罪者間にては此の掻拂を侮蔑する風がある何故なれば掻拂は「かけだしもの」(〔犯罪〕初心者)にも容易に出來る故、掻拂をなす者はまだ「かけだしもの」で「ふけ」や「あきす」の出來ないものが喰ふに困つて多く食品等を竊取するより。

かツぽー〔割烹〕 酌婦、仲居を云ふ。

かつぽー 拐帯犯人を云ふ。【岡山縣】

かづらぼーひん〔葛棒品〕 山芋を云ふ。

がつんちぶ 簪、耳飾、髪飾等其他の装飾品を竊取する事を云ふ。

がてう〔鵞鳥〕 口喧かましき監督者を云ふ。

かでみち 鐵道線路。「むかでみち(百足道)」の音便。

かと 銅貨を云ふ。

かど 鰕を云ふ。

かとく〔家督〕 食器一切を云ふ。(京阪囚人語)

かどで〔門出〕 昏を云ふ。

かどば 二階建家屋、二階座敷を云ふ。

かとぶ〔蚊飛〕 警戒者が密かに巡視すること。【岩手縣】

かとめ〔蚊止〕 喫煙するを云ふ。

かな 牛蒡を云ふ。

かなかける 捕縛せらるゝ事。【島根縣】

かなかな 美人を云ふ。「なかなかの美人」の「なかなか」の逆語。

かなくつ〔金沓〕 馬肉を云ふ。蹄鐵よりか。

かなし〔金庫〕 金庫破り又は金庫を云ふ

かなだんか〔金啖呵〕 金屬製の扉を云ふ

かなつく 物品の授受又は賣買の意。

かなばさみ〔金鋏〕 盗賊使用の釘拔狀のものを云ふ。

かなんど 制服巡査を云ふ。

かに〔蟹〕 鋏を云ふ。

かにこ 皿を云ふ。(茨城、栃木の方言)

かにす 僧侶を云ふ。「かりす」の音便か「たこ」に同じ。

かにづかい〔蟹使〕 鋏にて袂等を切破る事を云ふ。轉じて刄物を用いる掏摸を云ふ。

かにどん〔蟹殿〕 鋏を云ふ。鹿兒島の方言にて蟹を「かにどん」と云ふそれより來る語か。

かにもじ〔蟹文字〕 英語を云ふ。

かぬ〔肯〕 贓物を云ふ。(支那人隠語)

かね〔鐵漿〕 燒枝、黑塗板の塀、又は黑壁土藏と云ふ。

かね〔金〕 掏摸犯人使用の鋏又は兇器を云ふ。

がね 眼鏡を云ふ。

かねがえし〔金返し〕 通貨僞造行使を云ふ。「かねながし」に同じ。

かねくち〔金口〕 電話機を云ふ。轉じて公衆電話料金竊盗をも云ふ。

かねくひ〔金喰〕 醜女を云ふ。

かねじゆー〔金十〕 針を云ふ。針の字の分析又釘をも云ふ。

がねし 祭日、緣日等にて假設建築物を設けて不當の收利をはかるもの例へば廣告とは似ても似つかぬつまらぬ輕業

ヌは曲馬團等を云ふ。

かねたゝき〔鐘敲〕 持兇器窃盜を云ふ。

かねつけた〔鐵漿附けた〕 土藏破り窃盜の既遂狀態を云ふ。土藏の事を「むすめ（娘）」と云ふ、娘が鐵漿をつければ妻となりたる印で、遂に到るべき所に達したとの意より。

かねつけちようろく〔鐵漿長六〕 黑壁土藏を云ふ。

かねながし〔金流し〕 通貨僞造行使を云ふ「かねかえし」に同じ。

かねばこ〔金箱〕 乘物内掏摸を云ふ。「かねばこし」に同じ。

かねばこし〔金箱師〕 乘物内掏摸を云ふ「かねばこ」に同じ。

がねんぼ 遊女の事、（相豆の方言）

かのじ 娼妓を云ふ。

かはち 口髭を云ふ。

がはん 夜警人を云ふ。

かはん 贓物牙保犯を云ふ。

かばんしやうにん〔鞄商人〕 まやかしものを鞄等に入れて行商する商人例へば支那人の如く變裝して言葉巧に行商するものを云ふ。

かばんほーる 夜警番詰所を云ふ。

かばんや〔鞄屋〕 手術道具等鞄に入れ花柳界等を巡る無免許齒科醫を云ふ。

かび 風體が奇、容貌の醜きものを云ふ（朝鮮人隱語）

かぶ〔株〕 共犯者が贓物を分配する事を云ふ。「かぶわり」、かぶわけ」等に同じ。

かぶ〔株〕 贓物牙保犯を云ふ。

かぶ 骨牌使用賭博の一種を云ふ。「おつちよかぶ」參照。

かぶあわせ〔株合〕 二人共謀して店頭の商品を窃取する事を云ふ。

かぶし〔被覆〕 深夜を云ふ。

かぶす 殺人又は傷人を云ふ。

かぶす 貸與、惠與、給與等一般贈與の意で又捜入する意もある。

かぶせ〔被〕 帽子を云ふ。頭へ「かぶせる」よりか。

かぶつてる 可酷なる處置を云ふ。「ひでえ事かぶらしやがる」と云へば「酷い目にあわした」の意。

かぶてつ 台灣土人用袴を云ふ。（台灣人隱語）

かぶと〔兜〕 頭部及頭髮、又はコップ酒を引掛ける事を云ふ。

がふゆ 好人物。【宮城縣】

かぶらせる〔被〕 殺人傷人行爲を云ふ。

かぶり 死亡又は葬式を云ふ。

かぶり 劇場にて大入滿員、又は閉場直後の混雜時を云ふ轉じて大入又は閉場間際の混雜な時を利用する掏摸を云ふ

かぶり 檢事を云ふ。又惡漢無賴の徒の總稱を云ふ。

かぶり 犯罪の事實を否認し容易に事實を陳述せざるを云ふ。「かぶりをふる」よりか又他人の犯罪を自分が引受ける事を云ふ。

かぶる〔被〕 裁判官を云ふ。「かぶり」參照。

かぶる 窃盜犯人が門塀等を飛越えて住宅内に侵入する事を云ふ。

かぶれ 犯罪實行中外來の障碍により豫測の結果を得ざりし事を云ふ。

かぶれ 疾風を云ふ。【關東地方】

かぶれ 闇夜を云ふ。【京阪地方】

かぶわけ〔株分〕 贓品を分配する事。「かぶ、かぶわり」に同じ。

かぶわり〔株割〕 贓品を分配する事。「かぶ、かぶわけ」に同じ。

がぼ 萬引窃盜を云ふ。「まんがい」（萬買）「かい」（買「おたなし」等同意。

かぽちやしきぶ〔南瓜式部〕 女學生にして容貌の醜なるものを云ふ。
かほる 棚の品物を窃取する事を云ふ。【岩手縣】
かま 拘留處分を云ふ。「かまる」の略。
かま 他人の犯罪行爲を密かに當該官吏に通告する事を云ふ。
かま 藪を云ふ。
かま 火打鎌を云ふ。【埼玉縣】
かま〔鎌〕 他人の犯罪行爲を密かに當該官吏に通告する事を云ふ。
かま〔鎌〕 「かまかける」の略。「かまかける」參照。
かまうつ 贓物の包藏隱匿を云ふ。
かまえる 金品を求むる事。食物を求むる事を「ほわえる」と云ふ。
かまをつく 逃走して潜伏すべき穴をこしらへる事を云ふ。【島根縣】
かまかけ〔鎌掛〕 一般的詐欺手段の總稱
かまかける〔鎌掛〕 脅迫する事。【京都】又は巧妙なる手段を用いて金品を詐取する一般詐欺手段の總稱轉じて取調官吏が犯跡搜査の爲にとる一つの方便を云ふ。「かませる」に同意。
かまぎ 巡査。（朝鮮人隱語）
かまく 巡査。（朝鮮人隱語）
かまくつ 贓物牙保犯を云ふ。
かまこい 潜伏の意。「かくまふ」「かこまい」と轉訛しそれの音節の轉換より來た語か。
かましき〔釜敷〕 帽子を云ふ。【東京】
かます 欺瞞する事、俗に云ふ「一杯喰せる」に同意。又「屁をかます」と云へば窃取行爲を意味する。或は言ふ行ふの意、又は岐阜地方にては巡視を云ふ。
かませ 脅迫、恐喝の一般手段を云ふ。
かませる 巧なる詐言を用いて他人を錯誤せしめる一般的詐欺行爲を云ふ。又は「かまかける」に同じ。
かまだ 警察署を云ふ。
かまだ 一般窃盗犯を云ふ。
かまつた 逮捕せらるゝ意。「つかまつた」の「つ音」の略、轉じて入獄する事を云ふ。「ねる、かまる、むし、四分六」等皆同じ。「かまる」參照。
かまどなし〔竈無〕 貧困者を云ふ。（青森縣の方言）
かまとりかん〔鍋蓋〕 腹部（朝鮮人隱語）
がまとろ 蓖油を云ふ。油は「とろ〳〵」する故。
かまにぼーわら 密かに披見するの意。「とーとるぢまるら」參照。（朝鮮人隱語）
かまぼこ〔蒲鉾〕 窃盗せんが爲に施錠の箇所を燒拔く所爲を云ふ。
かまり 留置場・監房を云ふ。「かまつた」或は「たまり」の轉訛か。
かまりぶるき 倉庫、納屋、其他類似建築物を云ふ。（朝鮮人隱語）
かまる 逮捕せらる意又は引懸ると云ふ意もある「つかまる」の「つ音」の略、「かまつた」に同意。「かまつた」參照。
かまる 家屋に侵入する事を云ふ。
かまる 人が來訪する事を云ふ、轉じて巡視者の來る事を云ふ。
かまる 窃盗犯を云ふ。【福井縣】
かまる 微風を云ふ。
かまるへい 勞働する事。【宮城縣】
がみ 强窃盗犯人を云ふ。
がみ 一般不正行爲を云ふ。
かみ 普通賣買行爲を云ふ。
かみ〔上〕 京都を云ふ上方（かみがた）の意か。
がみ 損害を云ふ「がんだ」と云へば損害をした事を云ふ。例へば「やとんは、や

くな」日や「ふりりよう」の「がみや」。【大阪】「「やこん」は「やく」な日だ「ふりりよう」の「がみ」と來てやがら」。【東京】譯せば何れも「今夜は厄日だ二圓の損をした」との意。「やこん」は（夜今）なり。「やく」は厄なり。

かみ（紙） 紙幣を云ふ、轉じて「紙買いに行く」と云へば竊盜に行く事を云ふ

かみ 見張人のある事又は見張人の居る事。【埼玉縣】

かみうち（紙打） 紙に同じ圓などを書きそれに吹矢又は針等を用いてなす賭博其他これに類似のもの丶總稱。

かみかいにゆく（紙買いに行く） 竊盜をなしに行く事「かいものにゆく」に同じ

かみざいく（紙細工） 輕薄なるものを云ふ。俗に云ふ「おつちよこちよい」なり

かみさし（紙刺し） 金庫破りを云ふ。金庫を破れば紙（紙幣）は取り次第刺し次第の意よりか。

かみし（紙師） 盜賊を云ふ。【岡山縣】「かみ（紙）」參照。

かみそり 錨を云ふ。（僧侶語）

かみそり 足音、人の氣配のする事。（朝鮮詐欺賭博兒）

かみそりをする 屋根より忍入る事を云ふ。【島根縣】

かみつぶし 汽車、電車等の發車、停車間際の混雜に紛れて金品を竊取なすものを云ふ。

かみどや（紙宿） 贓物故買者の宅を云ふかみ「どや」の「どや」は「やど（宿）」の轉語なり。紙宿か「かみ（紙）」及「かみかい」に「ゆく」參照。

かみなが（髮長） 僧侶を云ふ。齋宮の忌言葉の七言の中一つより來たもの。僧侶は剃髮して居るので其反語を用いたもの。尼を女髮長（おんなかみなが）と云ふ。

かみなり（雷） 叱言の事、又は監督者、親爺等を云ふ。

かみなり（雷） 屋根傳ひにて明取窓等より忍込む。竊盜犯を云ふ。

かみなりじる（雷汁） ふぐ（河豚）汁を云ふ。河豚に（喰當りすれば）當れば死ぬ又雷に當れば死ぬ故かく云ふ。（土佐の方言）

かみなりおちる（雷落） 賭場へ警官が踏込む事を云ふ。

がみばる 見張する事、がんばる（眼張）來「がむばる―がみばる」と轉訛せしものか。【大阪】

かみもの 不正行爲を「がみ」と云ひ「もの」は物にて、一般、不正品を指す。例へば贓品、露天商人等の賣る「まやかしもの」等を云ふ。

かみもの 一般詐欺行爲を云ふ。

かみわけ（髮分） 看守を云ふ。

かみん 星、「なち、たまぐれ」とも云ふ。

かむ（噛） 喫煙を云ふ。【京阪】「もや」參照。

がむだ 損失をしたる事、「がみ」を動詞化したるもの。「がみ」がむ（ん）だ。「がんだ」と同音（稍）同義なり。

かむたい 老人の事。（朝鮮人隱語）

かむたい 警部を云ふ。（京城附近の竊盜常習者語）

かむる 竊取を云ふ。【九州】

かめだ 眞面目なる事を云ふ。「まめだ」の轉訛ならん。（淡路西浦地方）

かめとく 贓物の包藏隱匿を云ふ。

かめる 強竊盜の目的を以て邸内に忍入るを云ふ。

かめろ 給與、貸與、惠與等を云ふ。又插入するの意も存する、此の插入する

と云ふ意より未決囚への物品の差入又は入質處分等を云ふ。

かめる 貯蓄する意、轉じて隱匿(贓物等を)する事を云ふ。

かめん 電車を云ふ。「はこ」(箱)とも云ふ。

かも〔鴨〕 履物を云ふ。「かもあし」より轉じて欺き易き人物を云ふ。

かも〔鴨〕 詐欺賭博犯 目的人物を云ふ

かも〔鴨〕 掏摸犯人を云ふ。

かも 夫婦同伴者を云ふ。

かもあし〔鴨足〕 白足袋を云ふ。

かもい 退却を云ふ。

かもい 文字。【東北地方】

かもうり〔鴨瓜〕 霜降りを云ふ。

かもゑ 書籍。「かもじ」より來た語で字を繪にしたるもの。

かもくび 密賣淫婦、又は下流の酌婦を云ふ。

かもじ〔書文字〕 文字、毛筆、書籍等を云ふ。「かもじが明るい」と云へば讀書きの出來る事を云ふ又は掲示を云ふ。

かもじ〔母文字〕 母親を云ふ。(女房詞)

かもじ〔書文字〕 戸籍。【九洲】「かもじ(書文字)」より。

かもした 「かまいた」に同意にして逮捕せらるゝ事を云ふ。

かもじちらし〔書文字散〕 書信文書等の作製を云ふ。

かもづ〔書文字〕 文字、「かもじ」の轉訛【東北地方】

かもづとめ 手帳、商業當座帳の類を云ふ

かもで 奥座敷又は床間を云ふ。【中國地方】

がもん 通用門又は玄關を云ふ。

がや 山嶽を云ふ。「がやこ」とも云ふ。

かやあらし〔萱荒〕 山野に於ける作物の窃盜又は木材盜伐を云ふ。

かやうつ 樹陰等にて假睡する事を云ふ又潜伏する意もあるそれより轉じて贓物を土中其他に隱匿する事を云ふ。

がやこ 山嶽を云ふ。がやに同し。

がやばれ 噴火を云ふ。

かやましい 嚴格なる監督官吏を云ふ。「やかましい」の轉訛。

かやりこじ 俳優其他の諸藝人を云ふ。

かよわいろく 若主人を云ふ「かよわい」は「弱い」又は弱年を意味し「ろく」は「どーろく」の略にして主人の事どーろく(胴六)又は宿六の意なり。

かよごた〔痒〕 失踪。鮮人間にて逃走する事を掻くと云ふ俗語あるよりかく云ふ。(朝鮮人隱語)

から〔殼〕 藥を云ふ。

からあお 漬物類を云ふ。

からい〔辛〕 不能(駄目)なりとの意。「だい」は「からい」と云へば目的とする被害者が注意周到にて犯罪を決行る事不能なりとの意。

がらをひく 窃盜の目的を以て戸、障子を外す事を云ふ。戸は「がら〳〵」と云ふより、戸を「がら」と云ふ。

からかさ〔傘〕 里芋。小芋。其他八ツ頭等を云ふ。それ等の芋の葉が傘に似たるより。又「からかさぼーひん」の略。

からかさぼーひん〔傘棒品〕 里芋。山芋。八ツ頭其他之に類似のものを云ふ。ぼーひんは棒品にして山芋の意なり。

からし〔辛〕 和尙を云ふ。「からかさ」參照。

からしやり 鹽の事を云ふ。「から」はからし(辛)にして「しやり」は舍利にして米粒の事、轉じて一般食物。これより「からしやり」にて辛き食物、即ち鹽となる。

からす〔鴉〕 からすは黑きより「黑」を意味す轉じて夜明、闇夜、墨、炭、黑靴（轉じて一般靴の總稱）等を云ひ又「墨染の袖云々」より僧侶及神官を云ふ。又冬服（黑服）着用の辨官を云ふ。

からす 一般的詐欺行爲を云ふ。

からす 贓物牙保犯を云ふ。【京阪】

がらす〔硝子〕 眼を云ふ。「びーどろ」、「ぎら」、「がん」等皆同じ。

からすごみ 合力強請、物品押買を云ふ。

からすづき〔鴉月〕 闇夜。黑き月なれば闇夜なり「からす」參照。

からすで 施錠の個所を燒拔く事を云ふ

からすのすね〔鴉の臑〕 鯡を云ふ。鴉や鴉の臑が乾鯡に似たるより。

からすば〔鴉場〕 寺院を云ふ。「からす」は僧侶「ば」は場にて場所。それ故僧侶の居る所即ち寺院となる「かりす」參照

からつげき 火災を云ふ。

からつ漬〔辛香〕 漬物類。【九洲地方】

からな 十錢の意。

からはい はいから（流行）の意。「はいから」の倒語。

からばかり 巡査看守を云ふ。體ばかり一人前で何んの役にも立たないの意。

「から」は身體の意で大阪附近の方言。

からばく〔空縛〕 他人の犯罪を誤認せられて處刑せらるゝ事を云ふ。

からひが 鐵砲を云ふ。

からひき 人力車を云ふ。「ころひき」の轉訛同項參照。

からひく 戶、障子を取外して忍込む事を云ふ。

からびら 股引（もゝひき）の類を云ふ。

からぼく 正當犯人をして處罰を免れしめんが爲に自ら其犯罪を申立てる事を云ふ。

がらり 收監される事を云ふ。

かり 闇夜を云ふ。

かり 蒲團を云ふ。

がり 鋸、がり〳〵の略か。又「ゆきもどり」とも云ふ。

かり 男根を云ふ。

かり 安產を云ふ。

がり 子供、幼兒を云ふ。露天商人間に於ては「ごらん」と云ふ。

かり 一般竊盜犯を云ふ。

がり 放火犯を云ふ。

がり 强談威迫の一般的行爲を云ふ。

がり 詐欺賭博に使用する骨牌を云ふ。

かりいるとんだ 一般賣買取引を云ふ。（朝鮮人隱語）

かりうち 楞浦（つぼ）の和名にて「かりた」とも云ふ。

がりをくだす〔幼兒を下す〕 墮胎又は分娩を云ふ「がり」參照。

がりかまり〔幼兒在〕 姙娠を云ふ。「がり」は幼兒、「かまり」は引懸ると云ふ意。「がりかまる」、兒が引懸る即姙娠を云ふ。「かまる」參照。

かりくぎ〔牛飼〕 賭博。（朝鮮人隱語）

がりこ 不良少年。【東京】 乞食にて竊盜をなす者。【關西】

かりこみ〔刈込〕 浮浪人の一齊檢擧を云ふ。

かりしく 捕繩又は拘引される事を云ふ（朝鮮人隱語）

かりす〔刈髮〕 僧侶又は寺院。「かりすい」の略にして隱語にて髮を「すい」と云ふ。「かり」は刈なり、依つて髮を刈る、即ち坊主頭 僧侶なり。又東北地方にて寺院の事を「かりすい」と云ふ此の語の轉訛か。

かりす 巡査を云ふ。

かりすたこ 僧侶。「かゝす」も僧侶で

たこ」は蛸で坊主頭の形容詞。
かりすば　寺院。「かりす」は僧侶「ば」は場にして僧侶の居る所、即ち寺院。
かりだす　犯人が發見され又逮捕せらるゝ事を云ふ。又は贓物の搬出を云ふ。
がりだま　鷄卵を云ふ。
かりちゆん　詐欺行爲（朝鮮人隱語）
かりつらく　富豪家を云ふ（朝鮮人隱語）
かりば　寺院を云ふ「かりすば」の略、同項參照。
かりばた　輕業（かるわざ）。（兵庫縣加東郡の方言）
がりびら　幼兒の衣服を云ふ。
がりぶす　幼年者を云ふ。
がりぼこ　幼年者を云ふ。
がりま　子守女。「がりまもる」の略か。「がり」參照。
がりま　强盜犯を云ふ。又は一般竊盜犯を云ふ「まがり」曲りの轉換か。
がりま　官吏。【岐阜縣】
かりまる　姙娠を云ふ。「がりかまる」の音便同項參照。
かりむし（假六四）　留置場を云ふ。六四（むし）は刑務所の意。
かりもむ　男子同性間の醜行爲、即ち鷄姦を云ふ。【東北】

かりや　取調官吏に對し飽迄も事實を否認し虛僞の陳述をなす事を云ふ。
かりん　五錢を云ふ。
かる（輕）　娘を云ふ。「おかる」の略。同項參照。
かるあゆみ（輕步）　階段を云ふ。「おかるあゆみ」の略。梯子を「おかる」と云ふより。
かるいし（輕石）　あばた面を云ふ。
かるくる　停車場、銀行等の待合室に於て鞄等を竊取たす者を云ふ「おき」（置）に同意立ちん坊を云ふ。
かるこ（輕子）　以前江戶の日本橋、魚河岸などで船から問屋迄の荷役を勤いた者であるが現今では青物市場（やっちゃば）橋詰等にて立ちん坊として荷主の助力をなす者を云ふ。
かるこ（輕籠）　物を運ぶ籠等を云ふ。（泉州の方言）
かるた　箪笥を云ふ。
かるた（加留多）　高野豆腐を云ふ其形加留多札に似たるより。
かるち（太刀魚）　制服巡査を云ふ。佩劍が太刀魚に似たるよりか（朝鮮人隱語）
かるちちやん（太刀魚長）　警察署長又は典獄を云ふ。（朝鮮人隱語）

かるちやんさ（太刀魚商人）　憲兵を云ふ「かるち」參照。（朝鮮人隱語）。
かるぢちやんさこもんい（山秋魚）　冬服着用の巡査を云ふ。黑色の意より。（朝鮮人隱語）
がるま　不正行爲を云ふ。
かれ（枯）　冬を云ふ。
かれこれし（彼是師）　詐欺犯人を云ふ。
かれつぼ（辛壺）　漬物類を云ふ。
かろびら　股引の類を云ふ。
かわ　幼兒を云ふ
かわ　襦袢の類を云ふ。
かわき（乾）　快晴の日を云ふ。
かわげそ（皮下駄）　靴。「げそ」參照。
かわしき　山窩、乞食の建てたる假小屋の類を云ふ。
かわす（買）　贓物故買者に贓物を賣る事を云ふ。
かわず（蛙）　蟇口を云ふ。蟇は蛙に似たる故。
かわずのたんか（蛙の啖呵）　農家にて穀類を購ひそれを自宅迄發送せしめ後其代金を密かに竊取する事を云ふ。
かわながれ（河流）　賭博に敗け無一文と

なる事を云ふ。俗に「河童河流れ」と云へる句より出でたるもなるべし。

かわみそ 蟷螂の事を云ふ（信州の方言）

かわたり 糯袢、類を云ふ。

かん 日影を云ふ。

がん〔眼〕 眼を云ふ。がん（眼）

かん〔貫〕 何「十錢」と云ふ單位十錢の意にして金額十錢の意に非ず故に「やりかん」と云へば十錢、「ふりかん」と云へば二十錢と云ふ、但し五十錢は「てぶかん」と云はず單に「てぶ」と云ふ。

かん 下駄を云ふ。

がん 印、又は瑕の意、賭場に於て「がんをつける」と云へば札に目印をつける不正手段を云ふ。

がん 普通窃盜犯を云ふ。

がん 共犯人と贓物の分配を云ふ。「がんわけ」の略。

がん 強盗犯を云ふ、

がんうん 牛肉を云ふ。「雪駄の皮、松の皮、べこ」等皆同意。

かんきくそさむぼん〔監獄署參奉〕 出獄人を云ふ。參奉は官名にして監獄出身の意。

かんがある〔關係有〕 關係のある事を云ふ。

がんかくし〔眼隱し〕 眼鏡を云ふ。

がんがたかい 刑事の注意周到にして窃取の困難なるを云ふ。【遠江】

かんかんしき〔觀艦式〕 花柳語にして遊廓にて女郎の診察日の事を云ふ、女子の○部を軍艦と云ふよりか。

かんき 佛事を云ふ。（兵庫縣美方郡の方言）

かんぎりく 徒食者を云ふ。（兵庫縣但馬郡の方言）

がんぐ〔頑愚〕 人を識る明なく監督不行屆なる官吏を云ふ。「がんくや、がんぐれ」の略か。

がんくや 盲目者を云ふ。「がん」は眼「くや」は厄の逆語、即ち眼の厄なものゝ意より轉じて按摩を云ふ。

がんぐれ 闇夜。「はんぐり」

がんぐれ 盲目者を云ふ。

がんぐる がん（眼）が「ぐれてゐる」の意起來する事。【宮城縣】

かんこつ〔寒骨〕 貧困者又は衰弱せし者を云ふ。「がんこつ、もらじや」等皆同意。

かんこーつ〔手拘子〕 手の姓を名乘る者を云ふ。（支那人隱語）

かんこーば 厠を云ふ。

かんじ〔間時〕 時間を云ふ。時間の逆語

かんしや 贓物牙保犯を云ふ。

かんじよー 注連縄を云ふ。【長崎縣】

かんしよばん〔姜書房〕 警察官吏を云ふ姜は江に通ず即ち海を渡り來るものの意。元來日本人警官を指稱したる隱語なり。（朝鮮人隱語）

かんじんちやみ 母家を云ふ。

がんすい〔眼水〕 涙を云ふ。

かんすいしよくすい 淸凉飲料水。

かんだ 照降り雨を云ふ。

かんた 雙眼者又は盲目者を云ふ。

かんた 宿泊する事を云ふ。「かんたん」の略か又は山窩語に「けんた」と云ふ同義語あり同語の轉訛か。

かんた〔凝子〕 贓物、（朝鮮人隱語）

かんだ 犯罪の實行中外來障害により豫期の結果を得ざりし事を云ふ。又露天商人間にては賣上げが豫想以下なる事を云ふ。「がむた、がみ」參照。

かんたうつ〔邯鄲打〕 止宿する事を云ふ「かんた」は「かんたん」の意即ち宿泊する事「うつ」は「打」にして「ばくちうち」

の「うち」の如く「爲す」の意。「かんた」「かんたん」に同意同項參照。

かんたツちや　脫糞を云ふ。（朝鮮人隱語）

かんたろー〔堪太郎〕　庖丁、小刀の類を云ふ。

かんたん〔邯鄲〕　盧生が邯鄲の旅店にて粟飯一炊の間に五十年の長き生涯の夢を見たと云ふ故事より宿泊する事、轉じて枕を云ふ又旅館に止宿して客人の金品を窃取する事をも云ふ。又これを「かんたんし」とも云ふ。又「かんたんば」と云へば旅館を云ふ。

かんだん　闇夜を云ふ。

かんたんかえし〔邯鄲返し〕　「かんたん、かんたんかえし」に同意。

かんたんし〔邯鄲師〕　枕さがしを云ふ。「かんたん、かんたんかえし」等に同意又「ふとんかえし」とも云ふ。

かんたんば〔邯鄲場〕　寢室を云ふ轉じて枕頭をも云ふ。「かんたんは」寢む事「ば」は場、即ち寢る場所の事、又旅人宿を云ふ。

かんたんびら　寢衣を云ふ。「びら」參照。

かんちえぬら〔青樓拉〕　贓物が少量なる事を云ふ。（支那人隱語）

かんぢた〔肥滿〕　多額の金品の所持者を云ふ。（朝鮮人隱語）

かんちんこりー　給服を云ふ。（朝鮮人隱語）

かんちんすりー　平常は紳士の風を裝ひ不正行爲を常習となす者を云ふ。（朝鮮人隱語）

かんつ　賣淫婦を云ふ。又は酌婦を云ふ

かんづく〔感付く〕　被害者たる相手方が氣が付き出したる事（掏摸犯常用語）

かんつぼにぎり　酌婦。「かんつ」に同じ

かんづめげいしや　蓄音機を云ふ。

かんつやを〔肯子窰〕　料理店を云ふ。（支那人隱語）

かんでわんづき　兩親。同胞を云ふ。

かんてん〔寒天〕　補裝道路を云ふ。

がんと　木挽職人の用ゆる大形鋸を云ふ

かんなご　蟋蟀を云ふ。（遠江の方言）

かんぬき〔閂〕　待合室、改札口等にて混雜に紛れてなす掏摸犯を云ふ。

かんぬし〔神主〕　葱を云ふ。葱は禰宜に同音なるより。（僧侶の隱語）

かんねり〔廿練〕　菓子類一切を云ふ。「あましやり」に同意。

かんのんさま〔觀音樣〕　虱を云ふ。

かんば〔悍馬〕　禦し難き妻君の事を云ふ

かんはいら〔青海拉〕　贓物多量なる事を云ふ。「かんちえぬら」參照。（支那人隱語）

かんぱち〔勘八〕　嘘言者又は横着物を云ふ。

がんはつてる　見張りをしてゐる事、「がん」は眼、「はつてる」は「張つてる」、即ち見張つてるの意。

がんはり〔眼張り〕　見張番を云ふ、「がんはり居るのか」と云へば見張りは居るのかの意。

がんばる〔頑張る〕　警戒の嚴しき事を云ふ、又見張りの嚴重な事をも云ふ。

かんばん〔看板〕　見張り番を云ふ。

かんばん〔看板〕　交番所又は派出所を云ふ、轉じて同所勤務巡査を云ふ。

かんぴん　燕を云ふ。

かんぶ　牛肉を云ふ。「かんうん」の轉訛か。【北陸地方】又「べこ」雪駄の皮、「松の皮」等皆同じ。

がんぶつ〔贋物〕　諸種の贋造物を犯罪の手段に用ゆるものを云ふ。例へば質屋詐欺（質屋詐欺）、ペーパー師、僞譜

偽書等を云ふ。

かんぺい〔勘平〕 夜更師の一種にて俗に云ふ。「まんりき」又は「こぶり」と稱する器具を用いて施錠を外して忍入るを常とする者を云ふ

かんぺい〔勘平〕 待合室等にて鞄等を切破り在中金品を窃取するものを云ふ。

かんぺい〔勘平〕 罪を云ふ。

かんぺよー〔干瓢〕 淫賣婦を云ふ。【福井地方】

かんぽー〔看部〕 監房を云ふ。

かんぽー 穢多の事を云ふ。かわぽー（皮坊）の轉訛か。（奥羽地方の方言）

かんもどし〔環戻し〕 掏摸仲間に於て懐中時計を窃取なすに鎖は窃取せず茄子環より時計だけ外ずして窃取する法を云ふ。鎖と一緒に窃取する事を「うぐいすのさくりずけもらふ」又「まんじゆーのさくりずけもらふ」と云ふ。前者は金側時計の鎖付きを窃取する事後者は單に時計と鎖を窃取する事、「さくり」は鎖の遺語「うぐいす」は金側懐中時計の事、「まんじゆー」は懐中時計を云ふ。

かんら〔竿子〕 空腹を云ふ。（支那人隠語）

かんらく〔歡樂〕 男女交合を云ふ。

かんらく〔陥落〕 女を口說き落す事を云ふ。

かんらん 蒲團を云ふ。「かんたんらん」の略。

かんりき 下駄を云ふ。

がんわけ 共犯者と賊物の分配をなす事を云ふ。

かんわげ〔緘枉〕 口止金を云ふ。

かんわり〔監割〕 囚人、留置人の脱監、又は脱走を云ふ。

き の 部

ぎ〔妓〕 藝妓を云ふ。

きありー〔堅裂〕 陰門。【臺灣】

きい〔黄〕 典獄を云ふ。

きい〔黄〕 金側懐中時計。貴金屬を云ふ

きいいろせーよつた 嫉妬。羨望を云ふ（朝鮮人隠語）

きいろう 速やかに逃走せよの意。朝鮮人隠語）

きうい〔耳伊〕 耳。（朝鮮人隠語）

きうをすえる〔灸を据える〕 放火犯の事

きうかん〔九官〕 一八（ちーはー）賭博の題目記載紙（ふわがみ）に「きゆかん」が鴉となつて居るより鴉を云ふ、それより轉じて靴又は黒鞄、又一般鞄を云ふ。隠語「からす」参照。

きゆうくつぶくろ〔窮屈袋〕 袴を云ふ。

きうす 栗を云ふ。「きようす」の轉訛か

ぎうじ〔牛耳〕 掏摸犯中の親分株を云ふ

ぎうた〔牛太〕 密賣淫現場の見張り人を云ふ。

ぎうた〔牛太〕 𩑛部を云ふ。「ぶけい、きんがちや」等同意。

ぎうた〔牛太〕 掏摸犯を云ふ。

きうちん 承諾、認知を云ふ。

ぎうにく〔牛肉〕 典獄を云ふ。刑務所にて牛肉の副食物は最上等なる故刑務所の上等官吏即ち典獄を指稱す。

きうべえ〔久平〕 肴又は魚類一般を云ふ

きうべいはちき 漁夫を云ふ。

きえもの 金錢を云ふ。

ぎをがはくい 眼力の敏捷なる事を云ふ「ぎらがたかい」に同じ。

ぎおん〔祇園〕 單衣物を云ふ「ぎおんびら」の略。「ぎおんびら」參照。

ぎおんばやし〔祇園囃〕 目刂魚を云ふ。

ぎおんびら〔祇園片〕 單衣物を云ふ。祇園祭頃に着る衣の意か。（因に祇園祭は三大祭りの隨一と稱される故夏と云へば直ちに之を聯想せしものなるべし）

きが 尿を云ふ。【和歌山縣】

きかい〔絹甲斐〕 甲斐絹を云ふ。甲斐絹の倒語。

ぎがい 密賣淫婦を云ふ。

きがふせる 窃盗の成就する呪を云ふ。夜更師が忍び入る際門口其他に脱糞をなし其上に草履を裏返しにして置く事を云ふ。かくすると番犬が來ても糞の臭氣を嗅げば鼻先に附着して嗅覺を失ひて「わめかない」と云ふ。これは夜更師仲間では窃盗の成功する呪いともなつてゐる。又空巣狙ひでは脱糞をして其上に盥を伏せて置く事又は座敷の眞中へ小便大便等をなす事、又甚しきに至つては飯櫃の中へ大便をなす等の事は空巣狙ひ仲間に於て窃盗の成功する呪ひとなつてゐる。空巣狙ひに於ては前の夜更師と違つて番犬除けより來たものでなく窃盗に入つて大便をしたり又は小便をしたりする樣な心に餘裕があれば、窃盗は必ず成功するものである、飯櫃の中へ脱糞をする事は其家で喫飯をなして後する者が多い。蓋しかゝる行爲をなす者は初犯者には甚だ少く累犯者に多き事は自明の理である。

きく 耳。「きくらげ」の略又は「聞く」よりか。

きく 尻を云ふ。

きくいり 掏摸犯中の親分株を云ふ。「聞く入り」の意よりか。

きくきく 音信文通の事又は共犯者が仲間に對しての合圖、通牒を云ふ。

きくざら〔菊皿〕 鷄姦を云ふ。肛門を「きくらげ」と云へるよりか。

きくづき〔菊月〕 秋を云ふ。「きくび」とも云ふ。

きくのはな〔菊の花〕 太陽を云ふ。

きくのはな〔聞くの花〕 强窃盗犯人が目的の家を豫測檢分するの意。

きくび 菊日舊歷九月の稱

きくら 詐欺賭博犯人用語にして被害者たる目的人物の覺知により不成功に歸したる事を云ふ。

きくら 耳を云ふ「きくらげ」の略。

きくら 共謀して秘密な事をなす意。（露天商人語）

きくらげ〔木海月〕 耳を云ふ。「きくらげ」は耳に似たるより。きくらげは柳、桑等の朽木に生ずる茸の一種なり、又「らげ、たこ」とも云ふ。

きくらげ〔木耳〕 肛門を云ふ。

きくらツぱー 聾者を云ふ。「きくらげ」が「ぱー」なる事、「ぱー」は「べけ」に同意にして。駄目の意。

きくらる 音信する、傳言する意。

ぎくる 掏摸の既遂狀態を云ふ。轉じて一般犯罪の既遂狀態を云ふ。

ぎさ 詐欺を云ふ。詐欺の倒語。

ぎさし〔詐欺師〕 詐欺師を云ふ。（ぎさ）參照

きさぶろー〔喜三郎〕 煙草を云ふ。

きさぶろーいれ〔煙草入〕 煙草入れを云ふ。

きし 酒を云ふ。【東北地方】「きす」の轉訛其項參照。

きじ 窃盗の目的を以て門戸其他の場所を破壊し屋內に忍入る事を云ふ。

ぎし〔技師〕 詐欺賭博仲間に於て不正な

る乎を振る役に當るもの。普通賭博の壺振りに同じ役。又ペーパー師-同項參照 仲間に於て銅版彫刻者を裝ひ相手に(被害者)贋造紙幣製作上の技術等を說明して贋造の可能なることを說明する役を云ふ。

ぎし 一般窃盜犯を云ふ。「ぎりし」の略轉じて窃盜行爲の總稱を云ふ。

ぎし 詐欺的行爲を云ふ、「ぎさし」(詐欺師)の轉訛か。

ぎしう 將棋を云ふ、(露天商人語)

きしさぎ 贓物である處の金品を云ふ、

きしぼしん(鬼子母神) 子供を多く持つ母を云ふ。鬼子母神は印度の女神「訶利帝母神」のことで子が千人あつたと傳へられてゐる。

きす 酒を云ふ。「きす」はすき(好)の倒語にて犯罪者露天商人浮浪者等にて酒を好まないものはないの意より、又金錢と云ふ事もある。酒を飲む事を「きすをひく」と云ふ又「きすをほやく」は「てよーふぐれ」のしてゐない者の云ふ事である。「ほやく」は食べる意なり。酒を食べるとは噴飯の至りである。又「いたをひく」とも「いたをけづる」「きすけづる」等とも云ふ。「いた」はいたみ(伊丹)の略、即ち有名なる清酒の譲造地よりかく云ふ。「いたをけづる」の「けづる」は「いた」を板に通わせ削ると云へしもの。

きす 居酒屋又下等の料理飲食店を云ふ 前項「きす」參照。

きす 金錢の事前々項「きす」參照。

きす 空家又は家人不在の家を云ふ。

きす 空巣狙ひを云ふ。「あきすねらひ」參照。

ぎす 夜更等に使用する繫を云ふ。

きすをひく 酒を飲む事を云ふ。「きす」參照。

きすぐれ 酩酊する事、泥醉者を云ふ。

きすけづる 飲酒を云ふ。「きす」參照。

きすごる 好酒家を云ふ。

きすごろ くだを捲く事を云ふ。

きすすい 飲酒なす事を云ふ[東北地方]

きすすれ 泥醉者を云ふ。

きすにうれる 酩酊。「うれる」は果實の熟する意の「うれる」と同意なり。

きすひく 酒を飲む事。「きす」參照。

きすふみ 空巣狙ひの事。「空巣踏み」の略

きすほやく 「きす」參照。

きすまん(好man) 泥醉者を云ふ。まんは(man)で酒人の意なるべし。

きすむかい 飲酒を云ふ。

きすもつれ 泥醉して呂律が怪しく舌が「もつれる」よりか。

きせ(着) 羽織、外套の類。

きせかえ(着替) 掏摸犯の一種にて市中混雜に紛ぎれて背後より羽織をぬがせ窃取するもの。又「おいはぎ」(剝盜)をも云ふ。

きせるのり(煙管乘) 乘車驛及降車驛夫々を中心として定期乘車券を二枚買求め中間の距離を無賃にて乘車する不正手段を云ふ之は餘り長距離に用いられず又鐵道に限られてゐる樣である。

きた 秋田地方を云ふ「あ音」の省略。

きだ 盜賊使用の繩梯子を云ふ。

ぎた 贓品の多き事を云ふ、

きたかぜ(北風) 刑事、其他警察官に犯人が追跡せらるゝ事を云ふ。

きたし 詐欺犯及同犯人を云ふ、

きたなか 五畝歩の稱、(兵庫縣加古、加東、揖保等の諸郡、方言)

きたまくら(北枕) 詐欺賭博を云ふ。手段を相手方に、破せられた時は北方を

枕として割腹する覺悟ある意味から出た語。

きたやま〔北山〕 空腹の意。

きだるま 櫨の實を云ふ。

ぎち 天氣晴朗なる日。

きちがいみづ〔狂水〕 酒を云ふ。

きちにち〔吉日〕 闇夜、風雨の激しき日等凡て犯行に都合よき日、轉じて曇天を云ふ。

きつい〔嚴〕 酷寒の候を云ふ。

ぎつた 竊取したの意「ぎる」參照。

ぎツてづらす 宿屋荒し、「かんたんし」に同じ。（露天商人語）

きつね〔狐〕 采を三個使用してなす賭博狐樗蒲（きつねちよぼ）の事。三個の采の中當つた采の目が一つあれば胴親より賭けた金の倍額を貰ひ、二つ當れば三倍、三つ當れば四倍を得る方法を云ふ。

きつね〔狐〕 藝妓、娼妓、酌婦を云ふ。狐は騙すと云ふ迷信あるより。

きつね 油揚又は鋏を云ふ。油揚げは狐が好むより。又鋏は、狐に「つままれる」と云ふより。

きつねちよぼ〔狐樗蒲〕 樗蒲（ちよぼ）の變態にして采を三個使用するもの。前項「きつね」參照。

きつねのかわ〔狐の皮〕 獄衣を云ふ。其色狐の皮に似たるより。又「たこびら」とも云ふ。其色「ゆでたこ」の色に似たるより。

きツぴん 陰門を云ふ。一八（ちーはー）賭博の題目記載紙に「きつぴん」は陰門に當つて居るより（博徒用語）。

きツぴん 婦人を云ふ。陰門の連想より

きツぷんど 深夜を云ふ。（朝鮮人隱語）

きづむ 威張く事。（仙臺地方の方言）

ぎてきのしよべん〔欺的の小便〕 酒肴を供して目的人物の歡心を求め詐欺の目的を達せんとする手段を云ふ。

きてん〔氣天〕 天氣を云ふ。天氣の倒語

きてんがまぶい〔氣天眩〕 天氣の好き日。「まぶい」は眩惑するの意。（それより轉じて善良の意）

きなこみ 種々揑造の愁情を訴え他人の合力、喜捨を乞ふ手段を云ふ一泣き込み」の倒語。

きぬびら〔衣片〕 給衣類を云ふ。

きねづみ〔木鼠〕 大工職を云ふ。

きのこかせぎ〔茸稼〕 山林盗伐者、農作物窃盗を云ふ「山荒し」に同じ。

きば 白米を云ふ。

きば 夜明時分を云ふ。明端よりか

きば 男兒を云ふ。（兵庫縣城之崎の方言）

きはい 酷暑を云ふ。

きはちさま〔喜八樣〕 煙草を云ふ。「きはち、きはちさん」等皆同意。

きはん 飯、「きんば」參照。

きひん〔木品〕 椀を云ふ。

きぶし 密賣淫婦。（肥後の方言）

きぶそえきき 通貨。（朝鮮人隱語）

きぶる 一般窃取行爲を云ふ。

ぎぼ 內緣の夫婦を云ふ。

きぼしまんす 蕪を云ふ。

きまツて 出會を約し其場所に待合す事を云ふ。

きまるてん〔木丸天〕 柿を云ふ。

きむすめ〔生娘〕 土藏。「むすめ」を參照

きむすめ〔生娘〕 新築の土藏、又は贓物豐富な土藏を云ふ。

きむちゆり 李の姓を名乘る者を云ふ。（朝鮮人隱語）

きむまのり〔木馬乘〕 下等飲食店を云ふ俗に云ふ居酒屋の事で床几に腰を下して飲酒するより。

きむはんちやんとるこばたふた 賊物故賣者を云ふ。(朝鮮京城不正古物商)

きものば〔着物場〕 監房を云ふ。

きや〔木屋〕 薪炭置小屋其他納屋に類する一般・雑物を云ふ。

きやく〔客〕 旅行する事を云ふ「びた」、(旅の逆語)。「のそきん、たかまちのるけ、、なかしくむ」等皆同意。

きやくいろ〔客情夫〕 藝娼妓の方で惚れてゐる客。「きやくいろ」の事を云ふ。

きやくきやく 手紙が来ること。

きやくきやくすい 手紙、公文書を云ふ

きやくにゆく 收監處分を云ふ。

きやくひき〔客引〕 詐欺賭博犯人、ペーパー師に於て被害者を誘ひ来る者。「尾引」に同じ。

きやくぶん〔客分〕 「かんたんし」に同じ

きやくぶん〔客分〕 商店其他の雇人にて賭博又は横領等の不正行爲をなすものを云ふ。「どろみ、入込み、住込み」等と同意。

きやたつ 脚榻を云ふ。

きやちぶ〔瓦葺家〕 監獄を云ふ。

きやはん〔脚絆〕 山窩の妻女を云ふ。

きやら 長門張煙管を云ふ 。

きやー 客を云ふ。「じん」とも云ふ。(露天商人語)

ぎゆー〔妓夫〕 遊廓の客引男を云ふ。

ぎゆーをすえる〔灸を据える〕 放火する事。又は叱言を云ふ事を云ふ。

きゆーかん〔九官〕 一八(ちーはー)賭博の頭目記載紙(ふわがみ)に「きゆーかん」が鴉となつて居るより鴉を云ふ。轉じて靴、黒鞄等を云ふ。「からす」參照。

きゆーかんびき〔九官引〕 玄關先などにおいてある靴を窃取する犯人を云ふ。「きゆーかん、からす」參照。

きゆーくつぶくろ〔窮屈袋〕 袴を云ふ。

ぎゆーじ〔牛耳〕 掏摸犯人間の親分株を云ふ。

きゆーす 粟を云ふ。「きよーす」に同じ

きゆーすけ〔久助〕 菓子の屑を云ふ又は伍助とも云ふ。

きゆーた〔妓夫太〕 警部。「ぶけい、きんがちや、けいすけ、ひげでか、へいたい、くり」等皆同意。

ぎゆーた〔妓夫太〕 掏摸を云ふ。

ぎゆーた〔妓夫太〕 密賣淫現場の見張人を云ふ。

ぎゆーたろー〔妓夫太郎〕〔牛太郎〕 遊廓の客引を云ふ。

ぎゆーにく〔牛肉〕 典獄を云ふ。刑務所にて副食物中、牛肉が最も上等なる故

きゆーべい〔久兵衞〕 魚類を云ふ。

きゆべいはちき 漁夫を云ふ。

きゆーり〔胡瓜〕 海鼠を云ふ。形狀の類似するより。

きゆーる 窃盗をなす事「ぎる」の轉訛

きよーかぶ〔京かぶ〕 九、十九、廿九を勝目とするかぶを云ふ。

きよーかみ 被害者。【朝鮮】

きよーかみさぶちや 詐欺賭博犯【朝鮮】

きよーかん〔梭監〕 素人(朝鮮北部博徒)

きよく〔局〕 警視廳を云ふ。同廳創立當時は第二局が最も勢力ありしより。【關東】

ぎよく〔玉〕 玉代の略にて藝妓の揚代の事、轉じて女子の事を云ふ。又、卵の事をも云ふ。

ぎよくだい〔玉代〕 藝娼妓の揚代を云ふ「花代、線香代」等皆同じ。

きよじや〔經師屋〕 色魔を云ふ。

きよーす 栗を云ふ。

きよーだい 賭博犯、窃盗犯人中に於て仲間の事を云ふ。

ぎよーとく〔行德〕 鹽を云ふ。

きよどうべんじよ〔共同便所〕 貞操觀念のない女を云ふ。

けよーのしんぶんはなにか〔今日の新聞は何か〕 今日の副食物は何かとの意。（囚人語）

きよふり 三味線を云ふ。

きよーやち 强姦。「やち」は女子の陰部

きよろくむすめ〔曲彔娘〕 僧侶と情を通せし女を云ふ曲彔は僧侶の腰掛けを云ふ。

きよんい〔肩伊〕 年齡。【朝鮮】

ぎら 目。ぎら〳〵するより。

きら 金。きら〳〵するより。

きら 天氣の好き日を云ふ、太陽がきら〳〵輝く故。

ぎらをうつ 凝視する事又は盜見をする事を云ふ。

きらく〔氣樂〕 乞食を云ふ。（上總の方言）

きらしびら 單衣物を云ふ。

きらず〔雪菜花〕 女中詞にて豆腐粕の事それより轉じて雪降りを云ふ。

ぎられ 被害者を云ふ。「ぎられたやつ」＝（盜まれた奴）の略。

ぎり 渦卷を云ふ。（尾張の方言）

きり 地。【中國】

きり〔桐〕 絹布類一切を云ふ。

きり〔切〕 火打石を云ふ。【岡山縣】

きり 物事の終末の意「ぴん」から「きり」迄の「きり」よりか。

きり〔霧〕 夜明け。曉を云ふ。

きり 足。足は一番下部にあるより。「ぴん」から「きり」迄「きり」よりか。

ぎり 詐欺的不正行爲を云ふ。

ぎり 掏摸犯。ぎりしの略。「もさ」とも云ふ。

きりいた〔桐板〕 絹物の衣服を云ふ。

きりうり〔切賣〕 密賣淫婦の事を云ふ。

きりかえし〔切返し〕 停車場待合室又は銀行等にて鞄其他の包物を窃取逃走するものを云ふ。「おき、おきひき、おきかえ、おきしき」に同じ同項參照。

きりかえし〔切返し〕 一旦窃取せしものを元の場所へ密かに返す事を云ふ。

ぎりかえし〔義理返し〕 贓品が警察の手を經て被害者の元へ歸る事を云ふ。

きりぎりす〔螽斯〕 胡瓜を云ふ。胡瓜は螽斯の好食物なる故か。

きりげそ〔桐下足〕 桐下駄の事。「げそ」は下足の略にて下駄の事を云ふ。

きりこし〔切越〕 汽車、電車の乘換地點を云ふ。

ぎりことし 詐欺其他の犯罪常習者を云ふ。「ぎりし、ぎりじん」に同意。

ぎりこのしや 掏摸犯を云ふ。「ぎりこ」は「ぎる」に「公」をつけしもの（がたこー參照）「しや」は者なり。

きりこみ〔切込〕 停車場の切札口を云ふ

きりざい〔桐材〕 絹布を云ふ。

ぎりし 窃盜犯を云ふ。「かんぺい」＝（勘平）「よなし」（夜師）大夫「あきないし」（商師）」等皆同じ。又詐欺犯をも云ふ。

ぎりしや 詐欺犯人及窃盜犯人を云ふ。「しや」は者なり。

きりじよん 不正行爲を云ふ。

ぎりじん 詐欺犯、其他犯罪常習者を云ふ。

ぎりじん 强盜前科者を云ふ。

きりぞく 米を云ふ。

きりは 鷄姦を云ふ。

きりはらい〔切拂〕 数人が共謀して飲食店に入り（殊にカフェー）會飲中に馴合（なれあい）喧嘩をなし其騒ぎに紛れて飲食代を拂はず逃走する方法を云ふ。（關東不良青少年語）

きりばん 梅干を云ふ。

きりまえ 衣裳、服装を云ふ。

きりみせ〔切店〕 往時局女郎と呼ばれた下流娼妓であるが現時は專ら密淫賣婦を云ふ。（關東にては主に玉の井を指稱する）

ぎりも 詐欺犯人を云ふ。

ぎりもどし〔義理戻〕 贓品が警察の手を經て被害者の元へ歸る事。「ぎりかへし」に同じ。

きりもの 衣服一般を云ふ。

きりもれ 賭博を云ふ。

ぎりや 掏摸を云ふ。

ぎる にぎる（握）の略それより他人の者を「にぎる」の意にて一般商取行爲を指稱す。「買ふた、」商（あきない）した、」もろた」等皆同意。

きるく [illegible]を云ふ。

きるむちやツぱうんた 戀慕執着の愛情（朝鮮人隱語）

ぎろ 目を云ふぎろ〳〵するよりか。

ぎろりとり 賭場に於て博徒に金錢を貸與して利を圖る者を云ふ。

きんかくじ、〔金閣寺〕 厠を云ふ「きんかくし」に通わせたもの。

きんかた〔金方〕 贓物故買者を云ふ。

きんがちや 警部以上の警察官を云ふ。警部を「ぶけい（部警」「けいすけ、ひげでか」くり、へいたい」等皆同じ。

ぎんがちや 巡査。「ぎんがちや」は餘り用ひない「がちや」を多く用ゆる。

きんかどしぼ 馬鈴薯を云ふ。

ぎんかなぐ〔銀金具〕 生鯑を云ふ。

ぎんきせる〔銀煙管〕 道樂息子を云ふ。

きんぎよ〔金魚〕 唐辛子を云ふ。【滋賀】

きんぎよ〔金魚〕 火。【四國、中國】

きんぐ〔King〕 英語の王にて團長の意。（不良青少年語）

きんくん〔金勳〕 八八花にて三度連勝せし者を云ふ。

ぎんくん 八八花にて二度連勝せしものを云ふ。

きんご〔[illegible]〕 一五を勝目とする骨牌賭博五一（ごつぴん）とも云ふ。

きんこ〔金庫〕 監獄の意、金庫の意か、又は拘禁の倒語か。

きんざら 金貨、轉じて一般貨幣を云ふ

ぎんざら 銀貨を云ふ。

きんじ 吟味を云ふ。「きんじする」と云へば吟味する事を云ふ。（兵庫縣加西郡の方言）

きんしよー 祭文語りの類。【長野縣】

きんすけ〔金助〕 窃盗犯を云ふ。

きんすじ〔金筋〕 警部以上の警察官。「きんがちや」參照。

きんだい 多額の金錢を所持してゐる見込ある人物を云ふ。（朝鮮賭博犯人）

きんたま〔金玉〕 金時計。（關西掏摸犯）

ぎんだま〔銀玉〕 銀時計。（關西掏摸）

きんたろー〔金太郎〕 詐欺的商行爲者。

きんちやく〔巾着〕 茄子を云ふ形狀の類似より。

きんちや〔巾着〕 客、「きんちやく」の略

きんちやく〔巾着〕 客を云ふ。

きんちやぶ 水を云ふ。

きんちやん〔金巾〕 客を云ふ。

きんつたぎ〔金繼〕 時計の鎖。「さくり」とも云ふ。

きんつば 團子を云ふ。【九州】

きんとき〔金時〕 玄[illegible]先にある[illegible]其他[illegible]

物類を窃取する者を云ふ。

きんとき〔金時〕赤色、小豆。靴、斧を云ふ。

きんときなごや 小豆飯を云ふ。

きんときめし〔金時飯〕小豆飯を云ふ。

きんなか 一反歩。（兵庫縣美嚢郡の方言）

ぎんながし〔銀流〕監督寛慢なる官吏を云ふ。

きんなき 貨幣を云ふ。

きんば 飯を云ふ。

ぎんはり〔銀張〕昔、丁半賭博に十兩以上を賭ける事を云ふ。（十兩だつたら金の大判となる故、銀でなくして金張と云ふても差支へないと思ふが賭博には金即ち金小判を用ひない故銀張と云ふ）

きんぴん 婦人を云ふ。「きつぴん」の音便同語參照。

きんまん〔金饅〕金側時計を云ふ。（關東掏摸）「金の饅頭」の略。

ぎんまん〔銀饅〕銀側時計を云ふ。（關東掏摸）「銀饅頭」の略

ぎんみ〔吟味〕八八花の最勝者を云ふ。

ぎんみばな〔吟味花〕賭金倍額勘定の八八花を云ふ。

きんえんちーりー〔輕難之叔〕看守。（臺灣人隱語）

く の 部

ぐ 財布の在中金額の意。「ぐー」參照。（掏摸犯用語）

ぐい 共犯人仲間を云ふ。【關東地方】

くー 暴風雨を云ふ。

ぐー 汁の實を云ふ。轉じて物品の在中を云ふ。

くいこみ〔喰込〕就縛、拘留を云ふ。「くいこむ」とも云ふ。

くいこむ 「くいこみ」參照。

くいち〔九一〕笑ふ事を云ふ。

くいつき〔喰付〕密告者（いぬ）の來た事を仲間に知らす語を云ふ。

くいやくいや〔耳耳〕集合して密議する事を云ふ。（朝鮮人隱語）

くいら 幾ら、幾何、如何程の意。

ぐうり〔具寶〕贓品の保管をなして其報酬を受けるもの。

くうり 飯を云ふ。（朝鮮詐欺賭博犯語）

くうりかぼり 飯代。【朝鮮人語】

くーうりちや 就寢。（朝鮮詐欺賭博犯語）

くおる 金、銀貨を云ふ。

くかいにん〔苦界人〕受刑者を云ふ。

くぎぬき〔釘抜〕藝妓を云ふ。

くぎぬき〔釘抜〕典獄を云ふ。

くぎぬき〔釘抜〕袷衣類を云ふ。「ぬき」「せらん」に同意。

くくしー〔麵類〕盜賊使用の繩梯子。（朝鮮人隱語）

くこーよー〔苦界窟〕貸座敷曖昧なる料理屋を云ふ。（支那人隱語）

くこん〔九獻〕酒。（女房詞）

くさ〔草〕煙草を云ふ。

くさ〔種〕衣類、物品を云ふ。質種（しちぐさ）の「くさ（種）」より出でし語。

くさ〔草〕淺草を云ふ。淺草の略。

くさあげる 待合はす事。【和歌山縣】

くさをやく〔草を燒く〕喫煙。「もやひく、やもひく、えんたひく、くさひく」等皆同意、同項參照

くさかもや 煙草屋を云ふ。

くさかり 曇天を云ふ。

くさかれ〔草枯〕秋を云ふ。

くささき〔草咲〕春を云ふ。

くさだし　醜婦を云ふ。
くさひく　喫煙。「くさをやく」參照。
くさびら〔草片〕　菅笠を云ふ。
くさみ〔臭〕　葱を云ふ。「かんぬし」に同じ。
くさもち〔臭餅〕〔草餅〕　密淫賣婦を云ふ
くさり〔腐り〕　酢を云ふ。【岐阜縣】
くさる　男女猥らに狎れ合ふ事を云ふ。
ぐざる　叱嘖する事。(尾張の方言)
くされ〔腐れ〕　味噌を云ふ。【宮城岩手】
くし〔串〕　鹽鮭を云ふ。【山形縣】
ぐしん　存知せぬ事。(露天商人用語)
くじゆーばらす〔九十破〕　大便をなす事九十は「くそ」と讀める故。「おーづめ」に同じ。「じゆーろくばら十」參照。
くしよーかい　盗賊同志が途中で出合つた時の合言葉。
ぐしろく〔五四六〕　大目賭博を云ふ。
くすぼり〔燻〕　仲間で最下な者勢力の無い者を云ふ。
くすり〔藥〕　燐寸箱の兩側面に附してゐる燐紙を云ふ。
くずれ　女帶を云ふ。
ぐずん　女帶を云ふ。九寸の轉訛。
くそくい〔糞喰〕　看守を云ふ。

ぐせごと　種々事の意(佐賀の方言)
くだす〔下〕　紙幣入、鞄等の中味だけを拔取る掏摸を云ふ。
くだま〔愚玉〕　阿呆、馬鹿の意。
くだゆー〔九太夫〕　辯護士を云ふ。
くだゆー〔九太夫〕　床下、轉じて地下室を云ふ。又床下より忍込む竊盗犯を云ふ。
くだりむし〔下蟲〕　錠を云ふ。「さがりむし」に同じ。
くだん〔九段〕　土藏塀を云ふ。
くちあける〔口開〕　自白する事を云ふ。【大阪「たんかがかるい」に同じ。
くちいれや〔口入屋〕　檢事、刑事を云ふ奉公先(刑務所)を世話して呉れる故。
くちいれやわるしあしどめ〔口入屋惡足止〕　竊盗をなさんとせしも都合により一時中止する事を云ふ。【大阪】
くちをとる〔口取〕　先方の仲間の樣子を探る爲人を遣る事を云ふ。【東京】
ぐちをねる〔愚痴練〕　自白、陳述を云ふ
くちをはる〔口張〕　自白を云ふ。
くちをわる〔口割〕　自白、白狀を云ふ。
ぐちをわる〔愚痴割〕　自白、白狀。【中國九州】

ぐちがたい〔口堅〕　剛情にして事實を陳述せざることを云ふ。
くちげ　下婢の事を云ふ。(奧州の方言)
ぐちこぼす〔愚痴零〕　錠を外す事【京都】
くちたつ〔口立〕　饒舌家を云ふ。
くちながす〔口流〕　怠ける事を云ふ。
くちばね〔口螺線〕　電信、電話を云ふ。
くつかさね〔沓重〕　姦通せる女を云ふ。
くぢら〔鯨〕　隻眼者又は盲目者を云ふ。
くつしゆー〔麵類〕　捕繩。(朝鮮全羅南道浮浪者)
くづしや〔崩屋〕　高利貸。(博徒)
くツつき〔喰付〕　花骨牌にて同種の札二枚揃を云ふ。
くツつき〔食付〕　洋服を云ふ。
くつにかね　賭博を開張する事を云ふ。
くつはらかちや〔祈禱行〕　强盗。(朝鮮人隱語)
くつひき〔沓引〕　蟇蛙を云ふ。(土佐の方言)
くツぴん〔九一〕　カブ賭博にて九と一の役を云ふ。
くづもと〔屑元〕　警察署を云ふ。
くづれ〔崩〕　地震を云ふ。
くづれる〔崩れる〕　逮捕引致される事を

云ふ。

くーつもーれんづちうらー〔跨與毛 瞼子拉〕 少女誘拐を云ふ。（支那人隱語）

ぐどー 切破りに用ゆる器具又山窩に於ては兇器を云ふ。

ぐどー 器具、道具の事を云ふ。道具の倒語なり。

くどきし 土藏破りを云ふ。「くどく、娘くどき、娘師、しんぞー、おかる、てんきり、じらいや(兒雷也)」等皆同意。

くどく 模樣を窺ふ事、〔えりをつける、あたりをつける〕に同意。

ぐどーぶくろ 門戶、施錠等を破壞なすに使用する器具を入れる袋轉じて大工左官等の道具を入れる袋を云ふ。

ぐどーむし 鉋丁を云ふ。

ぐに〔五二〕 質屋、「ぐ」は五「に」は二にて二數を加へれば七、七は質に通ずる故一六銀行と俗に云へるも同意なり「ぐにや」同意。

ぐにうけ〔五二受〕 質受けを云ふ。

くにをうる〔國賣〕 舊惡や罪惡の露顯する虞あるので密かに遠隔の地へ逃走、所在を晦ます事を云ふ。

ぐにこむ〔五二込〕 質に入れる事を云ふ

ぐにつぐ〔五二貢〕 入質する事を云ふ。

ぐにべた 采を云ふ。采の目の表裏各加へれば一六、二五、三四で各七となる七即ち「ぐに」、それが三つ揃つてゐるより、（べた〳〵）「ぐにべた」と云ひしもの。

ぐにもむ 入質する事を云ふ。

ぐにもん〔五二物〕 入質物を云ふ。

ぐにや〔五二屋〕 質屋を云ふ。

くねり〔曲〕 變屈者を云ふ。

くねり〔曲〕 嚴重な人を云ふ。

くねる 用意の周到なる事を云ふ。

くねる 搜査嚴密なる事を云ふ。

くのいち〔くノ一〕 女子を云ふ。女を分析すれば「く」「ノ」「一」となる故。

くばた〔配〕 目のつく事。【福島縣】

くばてる〔配〕 窃盜に忍入る時見張り番を置く事を云ふ。【茨城縣】

くばる〔配〕 非常警戒線を云ふ。

くばツちやー 變死、病歿を云ふ俗語の「くたばる」よりか。

くびびき〔首引〕 辭書を云ふ。「辭書と首引きと」云へる語あるより。

くびろい〔旬拾〕 「三笠附」の運動役。

ぐひんまつ 豆腐粕を云ふ。

くぼ〔窪〕 女の陰部を云ふ。

くま〔熊〕 黑色、墨を云ふ。

くま 曇り日を云ふ。

くま ほくろを云ふ。

くまがい〔熊谷〕 追跡せらる事。【岩手】

くまがい〔熊谷〕 裁判所を云ふ。

くまがい〔熊谷〕 裁判所に呼出される事を云ふ。【石川縣】

くまさか〔熊坂〕 丁半賭博を云ふ。熊坂長範（丁半）の名より。

くまのゐ〔熊膽〕 茄子の鹽漬と云ふ。色彩形狀の近似より。（囚人語）

くむしろ 衣服を云ふ。（朝鮮人隱語）

くも〔蜘蛛〕 臺所や明窓其他門戶等を破つて忍込む窃盜犯人を云ふ。

くも〔蜘蛛〕 刑事を云ふ。

ぐも 贓物「ぐもの」略(掏摸犯人用語)。同項參照。

くも〔雲〕 煙草を云ふ。

くもじ〔莖文字〕 野菜の漬物を云ふ。

くもすけ〔雲助〕 蒟蒻を云ふ。

くもにかける〔蜘蛛懸〕 强盜犯が被害者を縛り上げ脅迫の上財物の提供を求むる事を云ふ。

ぐもの 贓物を云ふ「ぐー」と同意にて

「ぐ」に「もの」を附せしもの「ぐー」參照
くものす〔蜘蛛巢〕 金網を云ふ。
くもはる〔雲張〕 喫煙。「もやひく」「えんたひく」に同意。「えんたひく」參照。
ぐもみ 贓物牙保者を云ふ。
ぐもん 贓物「ぐもの」の轉訛を云ふ。【九州】
くや〔厄〕 やく〔厄〕「しけ」等と同意にして物事の相齟齬する事、又は悪い等の意、即ち厄の意「くや」は餘り用ひられず「やく、しけ」等が多く用ひられる。
くや〔役〕 役人を云ふ。役の倒語。
くや〔厄〕 警官に叱責、又は尾行される事を云ふ。
くや〔厄〕 懷中無一文なる事を云ふ。
くや〔厄〕 雨天。「すえばれ」とも云ふ。
ぐや〔五屋〕 質屋の事、五二屋（ぐにや）の略。
くや〔厄〕 雷鳴を云ふ。「てんしん（天申）」「たいほー（大砲）」「なり（鳴）」等皆同意
くや 嫉妬。反目。怨恨等の意。
ぐや 密賣淫婦を云ふ。
くやな 雷を云ふ。「くや」參照。
くやのめにおーた〔厄の日に逢ふた〕 可酷い目に會ふ。悪い事に出喰はしたの意。

くゆ 失踪、移轉、旅行の意。「行く」の倒語。
くら〔藏〕 質屋を云ふ。又轉じて銀行をも云ふ。
くら 失踪、行衞不明の意。「くらかえ」の略か或は晦ますの略か。（花柳語）
くらいこみ〔喰込〕 拘留。又は入監の意
くらかえ〔鞍替〕 移轉又は藝娼妓が抱へ主をかへることを云ふ。
くらかま 來訪者がある事を云ふ。
くらかま 約束の場所へ集合する。
ぐらす〔搖〕 地震を云ふ。
くらと 乘車する事。（箱乘り語）
くらみ〔暗〕 星影を云ふ。
ぐられてしまつた 共犯者が最早白狀して仕舞つた事を云ふ。
くらん 女帶を云ふ。
くらん 頭、「頭搖くらん」の洒落よりか
くり〔苦吏〕 警官を云ふ。
くりゐ〔苦吏居〕 警察署を云ふ【名古屋】
くりお 被告人を護送する事、「送り」の轉換。
くりおい〔苦吏追〕 警官が犯人を追跡する事を云ふ。

くりかえ〔操換〕 他の列車へ乘換える事を云ふ。
くりから 麥を云ふ。
くりからなごや 麥飯を云ふ。
くりからめし 麥飯を云ふ。
くりからもん／＼〔倶利伽羅紋々〕 往時博徒等が倶利伽羅不動明王の像を刺青せしよりかく云ふ。
くりきん〔苦吏金〕 警部又は警部補の事
くりぎん〔苦吏銀〕 巡査部長を云ふ。
くりす〔苦吏素〕 巡査を云ふ。
くりちよー〔苦吏長〕 巡査部長を云ふ。
くりのおつけ 警察官吏を云ふ。
くりばん 麥飯を云ふ。
くりひん 麥飯を云ふ。
くりぼー 窃盜犯人を云ふ。
くりん 頭。「くらん」の轉訛の意。
くりん 女の帶を云ふ。「くらん」の轉訛
ぐる〔車〕 人力車を云ふ。車（くるま）の略か。
ぐる 共謀者を云ふ。
ぐる 帶を云ふ。
ぐるをまう 帶に捲付けてある時計を掏取る事を云ふ。【東京】

ぐるをまげる 帶に捲付けてある時計を窃取する事を云ふ。
ぐるたまえ 帶に捲付けてある時計を窃取する事を云ふ。
くるぢ〔屈指〕 金錢の事を云ふ。(朝鮮人隱語)。
くるぼー ボート錐の類を云ふ。
ぐるま 羽織、マントの類を云ふ。
くるまえび〔車蝦〕 車に乘つて街を通行中窃盜の目的場所を見定めるを云ふ。
くるみ 屋敷内に忍入つて家人の寢靜まるのを待ち目的を果たす窃盜犯を云ふ
くるり〔廻り〕 人力車を云ふ。
ぐるわ〔廻〕 指輪を云ふ。
ぐれ 淺草公園を中心として巢喰ふ浮浪青少年の事を云ふこれより轉じて一般不良、浮浪青少年を云ふ。「ぐれ」は「ぐれる」の略で曲る又は結果の不良なる事。或は物事に馴巧なる事を意味する。それより轉じて曲る――無賴漢――一般不良青少年と轉訛したものと解するのが穩當であると思ふ。
ぐれ 物事が妙な工合になつて豫期通り行かぬ事を云ふ。
ぐれ 物事に馴れてゐる事、精通してゐる事を云ふ。

ぐれ 浪花節を云ふ。(露天商人語)
ぐれをほやく 巡査を嘲笑する事を云ふ(山窩)
くれかせぎ〔暮稼〕 日沒時に干物等を窃取する犯人を云ふ。
ぐれさんしよー 隱語の事を云ふ。「せんぼ」參照。
ぐれし 一定の住居なく諸方を徘徊して窃盜を働らくもの「ぐれ」に同じ。
ぐれた 惡事、舊惡の露顯せし事を云ふ
くれてる 熟知してゐる事、精通してゐる事を云ふ。(あいつ「ねす」の癖に「ちよーふぐれ」していやがらあ)と云へば「彼奴は素人の癖に隱語を知つてゐる」の意。
ぐれなす 相反目する事を云ふ。又は怨恨の意。
くればく〔暮場〕 夕暮を云ふ。
ぐれや 遊廓、待合の意「くるわ」の轉訛か。
ぐれる 曲る、又は、結果の不良の意、又は事物に熟知、精通してゐる事の意それより轉じて次第に不良化する事、惡事の露顯する事。等の意もある。

ぐれんたい〔愚連隊〕 諸所をうろつき廻つて暴行、不正行爲をなす不良、浮浪青少年の團體を云ふ。愚連隊は當字で「くれるたい」の轉訛か。
ぐれんちや 窃盜犯人を云ふ。
ぐれんひと 未知の人、面識を有せざる人物の意。「ぐれぬひと」の轉訛。
くろ 黒子(ほくろ)を云ふ。
くろ〔黒〕 鍵かなくて開ける事が出來ぬ事を云ふ。
くろ〔黒〕 袈裟を云ふ。墨染の袖より。
くろ 銅貨を云ふ。
くろ 手袋を云ふ。「てぶくろ」の略。
くろかたくり 囚人押送用馬車を云ふ。「かたくり」は馬車が「かたこと」と音を立てるより。
くろからす〔黒鴉〕 冬服着用巡査。單に「からす」とも云ふ。
くろからす〔黒鴉〕 茄子、又は墨を云ふ
くろ〱〔黒々〕 土工を云ふ。(淡路西浦の方言)
くろげ〔黒毛〕 牛を云ふ。
くろすけ〔九郎助〕 吉原遊廓内にある稲荷神社を云ふ。
くろだい〔黒鯛〕 茄子を云ふ。

くろつむき　茄子を云ふ。
くろどり【黒鳥】　茄子を云ふ。
くろとんび〔黒鳶〕　夜吏師（ふけし）。
くろぬり〔黒塗〕　曇天を云ふ。
くろは〔黒歯〕　土藏破りに成功したる事を云ふ。土藏を娘、土藏を破る事を「口説」くと云ふ。畢竟それの成功したものの意味である。我が國にて往時より結婚の外部表示としては丸髷と鐵漿（おはぐろ）を染める事の二つである、かうした習慣から土藏破りに成功したる事を「くろは」と云ふのである。又「かねつけた」とも云ふ。「むすめ」參照
くろは〔黒歯〕　萬事に豫期の結果を得た事を云ふ。
くろびい　憲兵を云ふ。
くろぶた　露天商人間にて喧嘩の仲直りの爲酒宴を開くを云ふ。
くろぶち〔黒縁〕　玄米。【新潟縣】
くろまんす　牛蒡を云ふ。
くろまんすい　牛蒡を云ふ。
くろわくづき〔黒枠附〕　死亡通知が黒枠で囲んであるよりそれを云ふ。又注意人物、危險人物をも云ふ。
くろんぼー〔黒坊〕　强盗犯人を云ふ。

くろんぼー〔黒坊〕　坑夫を云ふ。
くろーと　板塀を云ふ。【岡山縣】
くろーにん〔苦勞人〕　强窃盗の前科者を云ふ。
くわ〔鍬〕　錠を云ふ。
くわい〔慈姑〕　支那人。【關東州】
くわえる　贓物故買者と犯罪者間の連絡のうまく行つてゐる事を云ふ。
くわえる〔喰へる〕　藝妓が客を連れて來る事を云ふ。
くはせもの　密淫賣婦、又は田舍の酌婦等を云ふ。
くわちやんぼちや　賭場開張する事。（朝鮮人隱語）
くわのすけ〔鍬之助〕　百姓上りの資産家を云ふ。
くわのすじ〔桑の筋〕　百姓上りの資産家「くわのすけ」に同じ。
くんい　强窃盗犯人の見張り人を云ふ。（朝鮮人隱語）
ぐんかん〔軍艦〕　質屋を云ふ。
くんちぶろか〔瓦屋行〕　强窃盗犯人を云ふ。瓦屋は警察監獄の意。（朝鮮人隱語）
ぐんま〔軍馬〕　野菜と豆の煮物を云ふ。（囚人語）

くんまいしや　窃盗其他犯罪常習者を云ふ。
くんもり　結納を云ふ。（兵庫縣揖保郡の方言）

け の 部

け〔毛〕　詐欺賭博犯、ペーパー師、お天氣師等に於て被害者を云ふ。「けだもの」「けだもん」、「けたろー」等の略、「けきやく」、「しかおい」、又は「椋鳥もち（黐）」と云ふ。
けあい〔蹴合〕　男女交合を云ふ。
けあげ〔蹴上〕　詐欺賭博犯に於て目的人物、即ち被害者を誘つて來る共謀犯人を云ふ。
けいあん〔桂庵〕　裁判所を云ふ。「口入屋」とも云ふ。
けいぎん　乞食を云ふ。
げいしゆー〔藝衆〕　藝妓を云ふ。藝妓衆の略。
けいすけ〔警助〕　警部を云ふ。
けいすけ　詐欺賭博犯に於ける被害者を云ふ。

けいちや〔計樣〕 懷中時計を云ふ。「けいちやん」の略。
けいちやん〔計樣〕 懷中時計を云ふ。「しろ、饅頭、すこ、どたまはんすけ」等何れも同意。其の中、「すこ、どたま、はんすけ」は共に頭部の意。
けいづ 社、堂宇を云ふ。
けいづ 贓物故賣犯を云ふ。
けいづかい〔系圖買〕 贓物（賣犯を云ふ
けいづや〔系圖屋〕 贓物故賣犯人を云ふ。
けいどー 賭博開張の現場、私娼窟等へ刑事、巡査等が踏込む事を云ふ。
げいにつく 警官、看守の歡心を買はんが爲め他人の犯罪行爲を密告する事を云ふ。
けいはつぷー〔警八風〕 私娼と同衾してゐる處を警官に踏込まれる事、其他風俗取締りの嚴重なる事を云ふ。警察犯處罰令の第八條を適用すると云ふ意味から、「かぜ」參照。
けいほー〔刑法〕 看守長を云ふ。
けいる〔消える〕 逃走する事を云ふ。「消える」の音轉か。
けえ 强窃盜犯常習者を云ふ。
けおんつーさん〔靑草山〕 喫煙を云ふ。

（支那人隱語）。
けがえし〔毛返〕 壺椀に髮の毛を仕掛けて壺椀を少し動かせば采が轉ぶ樣にしてあるものを云ふ。
けがちい 待ち遠しいとの意。（兵庫縣宍粟郡の方言）
けがれ〔穢〕 巡査を云ふ。「しけ、ひげ、げじ、くり」等皆同意。
げきま 住居を移轉する事。「やさかえ」に同じ。
けきやく〔毛客〕 「け」に同じ。
けぎんちやく〔毛巾着〕 女子の陰部。
けこみ〔蹴込〕 花骨牌の際上札を餘分に取つて素札と交換する事を云ふ。「いんちき」の一種。
けこみ〔蹴込〕 小商人、又は夜更師を云ふ。
けこみ〔蹴込〕 以前は地位のあつた官吏文豪又新聞記者を裝ふて諸所を徘徊する詐欺漢を云ふ。
けさ〔袈裟〕 錠を云ふ。
げさい 茶を云ふ。
けし 穴一賭博に類せしもの「あまいち」參照。
げじ 刑事、看守を云ふ。げじ〳〵の略

「かく、ひげ」とも云ふ。
げじ 深更師、屋尻切等が使用する器具で一端は錐、他端は鑿の形をしたる一見下駄直しの鋲起しに類似せるものを云ふ。轉じて一般窃盜犯に於ては双物の總稱。
けしずみ〔消炭〕 短氣な教師を云ふ。（女學生語）
げじなかせり 破壞逃走の目的にて監房の内部を破壞する事を云ふ。
げじなかせり 毛 を云ふ。
けしねびつ 米櫃を云ふ。（奥羽の方言）
げしはく 掏摸犯等が用ゆる小形の双物を云ふ。特に安全剃刀 細分して指輪帽子等に仕掛 てあるものを指稱す。
げーしゆー〔藝衆〕 藝妓を云ふ。
けじよ〔下女〕 住宅の裏口、切戸、柴折戸を云ふ。
けしよーし〔化粧師〕 婦女誘拐常習者又は色魔を云ふ。
けす 洒。きすの轉訛。
げす〔下司〕 味噌を云ふ。「わーぴん」に同じ。
げすいねずみ〔下水鼠〕 便所汲取口から忍入る窃盜犯を云ふ。

げ〜すけ〔毛助〕 詐欺賭博犯仲間に於いて被害者を云ふ。「け、けいすけ」に同じ。
げすひき 刑事、巡査の補助をなす者、密告者を云ふ。
げすびら 足袋を云ふ。
げずむ 含羞む事、恥らう事を云ふ。（越後の方言）
けせツた〔毛雪駄〕 女子の陰部を云ふ。
げそ〔下足〕 下足の略にて下駄の事を云ふ轉じて足をも云ふ又親分を云ふ。
げそ〔下足〕 逃走する事を云ふ。
げそあつまる〔下足集〕 多勢の人が集つて混雜する事を云ふ。
げそいた〔下足板〕 足駄を云ふ。
げそきる〔下足切〕 逃走行衛不明を云ふ。
げそをすう〔下足吸〕 囚人等が不正事をなしてゐる際見張を頼まれたる隣房の囚人が看守を奸策を用いて牽制する事
げそをはく〔下足履〕 逃走する事を云ふ
げそをはこぶ〔下足運〕 徘徊。歩行。
げそをはやめる〔下足早〕 急いで逃走する事を云ふ。
げそがつく〔下足着〕 犯罪暴露の端緒。

げそた 足袋を云ふ。
げそだい〔下足台〕 足駄を云ふ。
げそづつ〔下足筒〕 股引、脚袢を云ふ。
げそづる 逃走する事を云ふ。「づる」は「づらかる」の意。
げそどこだ〔下足何處〕 「親分は誰だ」との意。乾分は親分の權力内にある故恰も足を預けた樣なものだから。
げそひき〔下足引〕 玄關先、庭先等にて履物類を窃取すること、又逃走する事をも云ふ。
げそひき〔下足引〕 履物を製造する事。
げそぶくろ〔下足袋〕 足袋を云ふ。
げそや〔下足屋〕 履物商、又は下駄の歯入れ、靴直し等を云ふ。
げそる 値段を直切る事を云ふ。
げそろーそく〔下足蠟燭〕 足袋を云ふ。
けた 騷擾なる事。
げた 刑事を云ふ。
げた 麥酒を云ふ。
げたのめ〔下駄の目〕 看守部長又は看守を云ふ。
げたばこ〔下駄箱〕 巡査派出所。交番所を云ふ。

げたむ 嫉妬、怨恨の情狀を云ふ
げため〔下駄目〕 足駄の穴が三つあるもので數量三の意。
けだもの〔獸〕 毛布類を云ふ。
けだもの〔獸〕 詐欺賭博の被害者を云ふ「太郎、け、けきやく」。
けだもの〔獸〕 金庫を云ふ。
けツからかす 蹴倒す事。（尾張の方言）
げツしよ 朝を云ふ。
けつする〔尻擢〕 尾行。追跡の意。「けつ」は尻の意。「する」は擢でなくして……する……、なす等の動詞なり。即ち尻を……する、……の意。
けつねらい〔尻狙〕 空巣狙を云ふ。
けつぱー ヅボンの後ポケットを云ふ單に「ぱー」と云へばポケツトの事を云ふ
けつぱり 逃走、行衛不明。（長野鑛夫）
けつぱる 「夜更師」（ふけし）空巣狙（あきすねらい）等が犯行後直ちに逃走する事を云ふ。
げツぽー〔月寶〕 月を云ふ。チーハー賭博の題目記載紙（附和紙）に月寶は月なる故。又月より轉じて兎を云ふ。又銀貨をも云ふ。（形狀の類似より）
けつぼし 南瓜を云ふ。

けづむ 失敗する事を云ふ。

けづり〔削り〕 飲酒なす事。「きす」參照

けづりをやる 飲酒なす事。「きす」參照

けづりこ〔削粉〕 看守部長以上の監督者を云ふ。

けつわる〔尻割〕 白狀する事を云ふ。

けてん 互に物品を交換する合圖。

けど〔毛唐〕 外國人を云ふ。

けと 短氣なる者を云ふ（兵庫縣川邊郡小田地方の言）

けとばし〔蹴飛〕 馬肉を云ふ。

けなり 麵類を云ふ。【朝鮮】

けなるい 羨やましいとの意。（尾張の方言）

けぬき 袷着物を云ふ。

けぬき 鹽鮭を云ふ。

けぬきむそー〔毛拔無雙〕 錠の事。

けのじ〔獸の字〕 「けだもの」と同意にて詐欺賭博に於ける被害者を云ふ。

けば 太陽を云ふ。

げばー 幼兒を云ふ。「かり」に同じ。

けーはちかぜ〔警八風〕 「けいはつぷー」に同じ。同項並に「かぜ」參照。

げび〔檢非〕 犬、又犬が吠ゆる事。又、一般警官をも云ふ。けんぴ參照。

けぶい〔熛〕 微風を云ふ。

けぶか 舊惡の露顯、又は被害者に發見せらるゝを恐れて通行路を變える事を云ふ。

けぶし 蕪を云ふ。

げぶつ 米櫃を云ふ（河内、和泉の方言）

けまつり〔毛祭〕 娼妓、賣春婦等を揚げて遊興する事を云ふ。

けまん〔毛饅〕 女子の陰部。「けまんじゆー」の略。

けまんじゆー〔毛饅頭〕 女子の陰部の事

けむ〔煙〕 喫煙する事、「くさ、もやひくもや、くさひく」等參照。

けむあらし〔煙嵐〕 喫煙する事。

けむくのんだ 賭博を開張する事。（朝鮮人隱語）

けむし 牛肉を云ふ。

けものへん〔獸偏〕 人眞似をする男、又は愛嬌（あいきやう）のある者を云ふ。又は猿を云ふ。

けやす〔消〕 人を殺すの意【中國、九州】

けやりふる 犯行の發覺を虞れ贓物其他犯罪に直接關係ある器物を棄てる事を云ふ。

けらし 殺害する事を云ふ。「けらした」は殺した。「けらされた」は殺されたの意。「ける」參照。

けらし 賣却する事を云ふ。

けらす 殺害、「けらさす」は殺人教唆を云ふ。

ける〔蹴〕 殺すを云ふ。

ける〔蹴〕 破約する事、蹴飛ばすよりか

ける〔蹴〕 婦女と關係する事を云ふ。

ける〔蹴〕 逃走する事を云ふ。「ふける、だつ、ずら、ずらかる、しける」等皆同じ。

げる 竊盜、まげる（曲）の略か。

けれ〔蹴〕 現場より逃走せよとの意。

げれこみ 他人の妻を云ふ。

けれん 銀行、郵便局等にて預金者、又は預金拂戾人の足等を故意に踏み、其の隙に乘じて金品を竊取逃走する等の如き惡辣なる手段を用ひる犯人を云ふ

けれん 詐欺的行爲を以て金品を竊取する事を云ふ。俗語の「ペテン」に同じ。

けれんし 詐欺的行爲を以て金品を竊取する犯人を云ふ。

けれんもの 田舍廻りの興行物を云ふ。

げろ 「自白せよ」との意。告げろの略か。

けん 丁稚、店員を云ふ。

げん　女房を云ふ(センボ)、又は美装せる婦人。轉じて女子の陰部を云ふ。

げん　夜更師、空巣狙(あきすねらい)等が戸を切るに用ゆる器具を云ふ。

げん　密談する事を云ふ、又は言語の意

けんがある(見が有)　面識のある事を云ふ。「めんぐれ」に同じ。

けんがまわる(見廻)　旧悪が露顕する事又は潜伏場所を發見せらるゝ事を云ふ劔が廻　の意か。

げんき(元氣)　陰莖を云ふ。轉じて牛蒡を云ふ。

げんきよ　鼻を云ふ。

げんきよ　詐欺的行為を云ふ。虚言の轉換。

げんきよー(言狂)　芝居を云ふ。狂言の倒語、又露天商人語にては劇場を云ふ

げんきよーし(言狂師)　興行師又は俳優を云ふ。

げんきよしくしやしや　俳優を云ふ。(露天商人語)

けんぐり　薬種を云ふ。(信濃、薩摩の方言)

げんこ(拳固)　數量五の意、車夫、馬車輓、料理番が用ひるもの。

げんごろー(源五郎)　鮒を云ふ。

げんごろー(源五郎)　牛を云ふ

げんごー　ごーひやく(合百)に同じ。同項參照。

げんさい(幻妻)　婦女誘拐犯を云ふ。

げんさい(幻妻)　妻を云ふ。「げん」は「せんぼ」にて妻の意、「さい」は妻にて何れも妻の意なり。

げんし　婦女誘拐犯人を云ふ。

けんし(間師)　旅商人、興行師の如く装ひ、窃盗其他の不正行為をなす者を云ふ。「世間師」の略か。

けんし(見師)　共犯者が屋内にて犯行中、表にて見張をなす者、「がんはり」に同じ。

けんじ　飽く迄も犯行を否定し刑罰を逃がれんとする所為を云ふ。

げんじ　若き女を云ふ。源氏物語りよりか。

げんじ(源氏)　荷車の後をつけて車上の物品を窃取する事を云ふ。「はちおい、たかまちおい、げんじおい」に同じ。

げんじ(源氏)　人力車、又は不正車夫を云ふ。

げんじおい(源氏追)　げんじに同じ。

げんじし(源氏師)　「げんじおい」をなす者を云ふ。

けんじる　見る、窺ふ事を云ふ。掏摸犯に於ては財布在中の金額を豫測する事を云ふ。

けんずる　秘密厳守する事を云ふ。【鹿兒島】

けんずるはちや　贓物の運搬。(朝鮮人隠語)

げんぞー(源藏)　陰莖を云ふ。

けんた　山間又は河原等に天幕又は小屋を掛け晝間は乞食、洋傘直し煙管の羅宇仕替などして夜間忍入るべき家を物色して窃盗を働らく者を云ふ。「さんか」に同じ。

けんた　淺草公園を中心とする「ぐれ」の一種にて公園内の一部を占め、金品を強要する者を云ふ。

けんだい(見台)　書籍を云ふ。

けんだいくや　本が讀めぬ事、即ち文盲者の事、「けんだいくや」の「くや」は厄の意。

げんちん　住宅の側壁等を破壊して忍入る窃盗犯を云ふ。

けんつれとる　犯罪[illegible]疑者、其他一般學

到不審の者へ警官が尾行する事を云ふ「劍連れとる」の意。

げんでもる　婚約、密通、鷄姦の意。

げんなまし〔現生師〕　現金專門の賊を云ふ。「げんなま」の「たま」は金錢の意。

けんねんし　賭博を云ふ。

けんのじ〔間の字〕「せけんし」「けんし」に同じ、同項參照。

げんのまえ　婦人が帶の間に挾んでゐる財布を掏取る掏摸犯を云ふ。

げんば　大豆を云ふ。

けんぴ〔檢非〕　犯罪密告者其他之に類する者を云ふ。檢非違使よりか又犬をも云ふ。

けんぴ〔檢非〕　見張を云ふ。

けんぴ　煙草を云ふ。

けんぴがまわる〔檢非廻〕　舊惡の露顯する事、又潜伏場所を發見される事を云ふ。

けんぴごろつく　犬が吠える事。「けんぴごろまく」とも云ふ。

けんぴにん〔檢非人〕　密告者、探偵を云ふ。

けんぶくろ　足袋を云ふ。「げそぶくろ」の音轉。

けんぺい　刑事の捜査を補助する者を云ふ。又密告者を云ふ。

けんぺいぼー　赤飯。（囚人語）

けんぺん　稻荷。〔和歌山縣〕

げんまいあたま　情婦。【宮城縣】

げんまいなづな　婦人の帶の間を云ふ。

げんよー　陰莖を云ふ。

こ の 部

ごー　强盜犯を云ふ。

こあか〔小火事〕　施錠の箇所を燒拔く所爲を云ふ。「こあか」の「あか」は火事の意。

ごい〔五位〕　夜逃げ、又は逃走する事。（五位鷺は夜間飛立つより）轉じて一般に立去る、歸るの意。

ごい〔五位〕　夕暮、夜間を云ふ。

ごいさぎ〔五位鷺〕　判事、檢事を云ふ。

ごいした　屋根傳ひに忍入る窃盜犯を云ふ。

ごいした　絕命。【東北】　又は逃走したる事。

ごいすき　撬を云ふ。（福井縣の方言）

ごいた　若　娘、又は嫁を云ふ。

ごいち〔後越〕　新潟地方を云ふ。越後の倒語。

ごいつく　乞食を云ふ。

ごいてん　典獄を云ふ。同語の倒語、獄典の音轉か。

ごいどい　酷著の候を云ふ。

こいめ〔乞目〕　采賭博や雙六等其他「カブ」等に於て自分の欲してゐる目、札の出る事。

こいり〔粉入〕　丁半賭博に於て采の中央に空所を設け、其の中に黑き粉を入れ一、三、五、又は三、四、六の丁、半の何れか一方に穴を穿ち壺に伏せた采を一寸手前へ引き蓙の上へ黑粉の出てるか否かによつて丁半を知る方法、「あんつりざい、いかさまざい」に同じ

ごいる　普通窃盜犯を云ふ。

こうちくん　市場荒し常習者を云ふ。（朝鮮人隱語）

こえまつ〔肥松〕　牛肉を云ふ。

ごえもん〔五右衞門〕　釜を云ふ。

ごえんじゆ　住持、住職を云ふ。（尾張の方言）

こをげ　祭典。（朝鮮詐欺賭博犯用語）

こーがい〔敲開〕 門戸を開く事。（支那人隱語）

こーがい〔笄〕 牛を云ふ。笄をさしたる髮より牛の頭を連想したるもの。

ごーがい〔合貝〕 蛤を云ふ。蛤を分解すれば合貝となるより。

ごーかい〔強海〕 海賊を云ふ。

ごーがいがはいる〔號外這入〕 新入監者のあつた事を云ふ。（囚人語）

こがく 未丁年の男子を云ふ。

こがげ 脚絆足袋の類を云ふ。

こかし 一般に賭博の總稱。又特に采賭博の稱。

こがしら〔小頭〕 巡査部長を云ふ

こがたな〔小刀〕 門戸の施錠の箇所を破壞して屋内に忍入る窃盜犯を云ふ。

こがめ〔小龜〕 鼈（すつぽん）を云ふ。（四國の方言）。

ごからく〔御家族〕 不良青少年團を云ふ「ごかろく」とも云ふ。

こがらし〔木枯〕 擂粉木を云ふ。（女詞）

ごかろく〔御家族〕 不良少、青年團、「御家族」の轉訛で「ごからく」參照。

こかわ 口。（島根地方）

こき 期米相場を利用して少額の金錢を賭ける簡單な賭博で次の相場又は翌日の相場の上騰するか否かに就て勝敗を決するもの。

ごき 椀、茶椀類を云ふ。

こーきんつかい〔公金使〕 銀行、郵便局等にて預金者、預金拂戾人等の足等を踏み其の隙に乘じて金錢を窃取逃走する事を云ふ。「けれん、ぎんこーつかい」等同意。

こく 毆打する事を云ふ

ごくいん〔極印〕 菊石（あばた）を云ふ。

ごくがらす〔獄烏〕 冬服着用の看守。

こくしう〔索麪〕 捕繩。（朝鮮人隱語）

こくしゆうめつちや 毆打（朝鮮人隱語）

こくこもごつた 捕縛引致されることを云ふ。（朝鮮詐欺賭博）

こくたん〔黑檀〕 牛蒡を云ふ。

ごくづくな〔鷄鳴〕 曉を云ふ。（朝鮮人隱語）

ごくどーもの〔極道者〕 博徒、怠惰者を云ふ。

ごくもんだい〔獄門臺〕 枕を云ふ。

こくら 麥を云ふ。

ごくらくまんすい 蓮根を云ふ。

ごくしりよー〔國兩〕 東京兩國附近を云ふ。

ごけ〔御家〕 密賣淫婦。【北海道】

ごけ 「京かぶ」に五を云ふ「おいちよかぶ」參照。

こけた 現行犯にて逮捕せらるを云ふ。「ちやぶる、ねかる、だつまきにあふ」等皆同じ。

こけふみ〔苔踏〕 詐欺賭博を云ふ。又一般詐欺的不正行爲を云ふ。

こける 逮捕收監せらるゝ事、又は拘引せらる事を云ふ。【京阪】

こける 悲境、零落の生活狀態を云ふ。

こーげんし〔廣言師〕 一般詐欺犯人。

こご 大便を云ふ。（淡路の方言）

こごと 風を云ふ。「あおり、あおち、ぜか、さわぎ、おだち」に同意。

こごむい 醫師を云ふ。（朝鮮人隱語）

ごさい 田舍・又は田舍者の意。

ございもの 「ごさい」に同意。

こさくかせぎ〔小作稼〕 夫婦合意の上、妻に被害者たる他の男と關係せしめ、其弱点につけ込んで被害者より金品を強要する事を云ふ。「つゝもたせ、だきこみ」を云ふ

こざんぴん 合鍵を使用して施錠を外す

事を云ふ
こし〔越〕 犯人使用の縄梯子を云ふ。
こし 三越百貨店を云ふ。
ごし 押寶其他金品強請を云ふ
こーし〔孔子〕 書物を云ふ。
こしえかまる 三越百貨店へ這入る事。
こしき 敷物類を云ふ。
こじき〔乞丐〕 薩摩芋を云ふ。「どーじぼ、いざりばいぼく、ぼく」等皆同意。
こしきり〔腰切〕 襦袢の類。「はんびら」とも云ふ。
こしがつよい〔腰强〕 金品の强請。
こしだ 夜半を云ふ。
こーした 妻女を云ふ。
こーじだま〔麴珠〕 珊瑚珠を云ふ。
こーじまた 「こーじだま」に同じ。
こしなす〔腰茄子〕 腰巾着、又は煙草入の類。又煙草入巾着などを掏る掏摸を云ふ。
こしにかゝる 嚴密なる訊問を云ふ
こしべんとー〔腰辨當〕 願事を早く處理して呉れぬ役人又は安月給取りを云ふ
こしもさ〔腰袂〕 巾着、又は煙草入れを云ふ。「こしもさ」の「こしは」腰、「もさ」は袂なり。腰部にて袂の様に金品の在る所の意「もさ」參照又「こしなす」に同意。
こじやり〔小砂利〕 嬰兒を云ふ
ごしよぐるま〔御所車〕 鷄卵を云ふ。又大分地方にては牛を云ふ。
こしよーとんぼ〔小姓蜻蛉〕 赤蜻蛉を云ふ。（越後の方言）
ごじよーはし〔五條橋〕 千切大根を云ふ（囚人語）。
こしよめき 犯罪常習者又は徒食者を云ふ。（朝鮮人隱語）
こーしん 老爺を云ふ。
こーしんさん 囚人が珠數つなぎになる事を云ふ。
ごす 博徒間に於て仲間、又は乾分の意。
ごす 犯罪ノ實行中止の狀態を云ふ。
こすい〔小水〕 小便を云ふ。
こすき 橇を云ふ。（福井地方の方言）
こすけ 窃盜犯人の用ゆる縄梯子を云ふ
こすけ〔五助〕 柿の實を云ふ。
ごすけ〔五助〕 菓子の屑より轉じて一般に不用のもの役に立たざるものゝ意。「きゆーすけ」に同じ。
こすし 小量の意。「少し」の音轉。
こずぼん 襦袢を云ふ。「はんびら」とも云ふ。
こすり 囚人や留置人が監房を破壞して逃走する事を云ふ。
こする 惡口を云ふ事。【京都】
ごすん 男帶を云ふ。
ごーせ 一生懸命の意。（淡路の方言）
こせむかえ〔御前迎〕 嫁入りを云ふ。（薩摩の方言）
こせんびら 羽織、半纏の類を云ふ。
こぞー〔小僧〕 番犬を云ふ。【新潟縣】
ごそー〔護送〕 贓物を運搬する事。
こーそいん〔控訴院〕 鰊を云ふ。二審と鰊の語呂の同じなるより。
こたこあらし 山林盜伐其他山野の作物窃盜者を云ふ。
こたつ〔炬燵〕 寒氣を云ふ
こたま 蛤を云ふ。（上總の方言）
こたま 樹林を云ふ。
こたらい〔小盥〕 拘留處分を云ふ
こだる 金額百圓を云ふ
こたる〔小樽〕 酒類一切を云ふ
こだるま〔小達磨〕 小豆を云ふ。又愛知地方に於ては豌豆を云ふ。
ごち 珊瑚珠を云ふ。
ごち 市場を云ふ。（朝鮮人隱語）

こぢから〔小力〕 看守を云ふ。

こーちくん 市場荒し竊盜犯人を云ふ。（朝鮮寶城郡地方隱語）

こちじろ 處女を云ふ。

こぢば 諸會社、事務室を云ふ。

こちや 便所を云ふ

こちやぴやくき〔座眼〕 賭博常習者を云ふ。（朝鮮人隱語）

こちやまい 飼犬の撲殺又は竊取を云ふ

こちりん 竊盜共謀犯人又は同教唆者。又は盜人宿等の意。（朝鮮人隱語）

こつ〔骨〕 釆を云ふ。釆は多く牛の骨等にて造れる故か。

こつ〔骨〕 齒牙を云ふ。

こつ〔骨〕 頭。【大阪】「すこ、はんすけ、どだま、はだし等」何れも同意。

こーつ〔狗子〕 巡警。（支那人隱語）

こーつ〔叩子〕 裙の短い支那衣服を云ふ（支那人隱語）

ごつー 五圓紙幣を云ふ。

こつくま〔紙高〕 太陽。（朝鮮人隱語）

こつぐろ〔骨黑〕 黑壁土藏を云ふ。「いろくろむすめ」とも云ふ。

ごつさま 他人の妻を云ふ（尾張の方言

こつし〔骨師〕 花柳界等を巡回する無免許の齒科醫を云ふ。

こつしろ〔骨白〕 白壁土藏を云ふ。「いろしろむすめ」とも云ふ。

コツたちや〔花摘〕 骨牌使用の賭博。（朝鮮人隱語）

こつちぴよつた〔花發〕 竊盜犯既遂狀態を云ふ。（朝鮮人隱語）

コツば〔木葉〕 鹽鮭を云ふ。

こつばこ〔骨箱〕 口。（近畿以西）

こつばこはくい 能辯者を云ふ。（近畿以西）

こつばらし 「こつし」に同意。

コツぴよつた〔火發〕 放火なす事を云ふ（朝鮮人隱語）

コツぷく 箱を云ふ。轉じて腹部をも云ふ。

コツぺ 尻を云ふ。（備後の方言）

コツぽり 密賣淫婦を云ふ。

こづま 遊女の馴染客を云ふ。

こづめ〔小詰〕 小便を云ふ。「おーづめ」參照。

こづめをかる 小便に行く事。「おーづめ」參照。

ごてんをばらす 賭博をなす事を云ふ。【福岡縣】

ごと 一般不正行爲を云ふ。「しごと」（仕事）の音略し

ことー 詐欺犯人を云ふ。

ごとー〔後藤〕 大酒豪を云ふ。後藤又兵衛よりか。

こーどー 若嫁を云ふ。「こーとら」とも云ふ。

ごどえむかう 竊取なすべく外出する事「あきないにゆく、しようばいにゆく」等皆同意。

ことかまる 竊取行爲をなすこと又は物品を手に入れるの意。

ことし 詐欺的商行者を云ふ。又詐欺犯人を云ふ。

こーとーないじ〔高等內侍〕 高等密賣淫婦を云ふ。

こーどはら 土藏破りを云ふ。【靜岡】

ことはくい 竊取行爲が容易に出來る事

こども〔子供〕 酒、「きす」に同じ、子供は可愛い者、好きなものなる故か。「きす」參照。

こどものおもちや〔子供玩具〕 大根と豆の煮付の副食物を云ふ。（囚人語）（豆鐵砲に擬せしものか）。

こどろ 看守を云ふ。

こーとろ 月夜を云ふ又は若嫁を云ふ。
こどろく 警察署長、典獄等其他主領者を云ふ。
ことん 「ことし」に同意。
ことんたい〔銃身〕 憲兵を云ふ。（朝鮮人隱語）
こなす 合鍵を用いて錠を開ける事。【三重、靜岡縣】
こなす 女を誘拐する事、「こます」の音轉。
こなす 賣買取引を云ふ
こなす〔小茄子〕 煙草入れ、巾着の類を云ふ。
ごなすけ 女子を云ふ。「なご」（女子の意）の倒語に「なおすけ」の「すけ」を附加せしもの、「なおすけ、なご」等皆同意。
ごにや〔五二屋〕 質屋を云ふ。これは「かけだしもの」の言葉。本當は「ぐにや」なり。
こねぼー〔捏棒〕 箸を云ふ。
こねもん 袖なし衣服を云ふ。「こねむる」とも云ふ。
こねる 賭博を云ふ。【大分縣】
こねる 賭博犯を云ふ。

こねる 飲食。【九州】
こねる 死亡する事を云ふ
このえき 贋造通貨行使犯人を云ふ。
このしろ〔鰶〕 看守。【茨城縣】
こは 汽車、電車等を云ふ。又乘車する事を云ふ。
こは はこ（箱）の轉倒語にて汽車、電車内掏摸犯を云ふ。
こは 礫を云ふ。
こは 刑事、又は一般巡査を云ふ。
こーは 銃器を云ふ。（支那人隱語）
こはい 上等の旅人宿を云ふ。
こーばい〔紅梅〕 「このわた」（海鼠の鹽辛）を云ふ。（女房詞）
こはた 中流以下の旅人宿。はたご（旅籠）の音轉。
こはだい〔箱臺〕 電車を云ふ。「こは」參照。
こはち 黄昏、夕暮を云ふ。
こはば〔箱場〕 停車場を云ふ。はこば（箱場）の音轉。
こはばた 海濱を云ふ。【福岡縣】
こばやし 財布、蟇口を云ふ。
こばん〔小判〕 澤庵漬を云ふ。（囚人語）
こひ 擧動不審者に對して警察官が尾行する事を云ふ。

ごひ 掏摸の目的を以て人の後を秘かに追ふ事を云ふ。
ごび 妾を云ふ。（尾張の方言）
こび〔五火〕 太陽を云ふ。
こびら〔小片〕 襦袢類を云ふ。「はんびら、しりきれ」等皆同意。
こびん 老人を云ふ。
こーひん 丁年以上の者を云ふ。【山口】
こーひん 老爺を云ふ。
こーひんがたんかばる 老人が寢就かずに居る事を云ふ。【九州】
こぶ〔昆布〕 反物を云ふ。
こぶ〔瘤〕 子供を云ふ。
こぶいた〔五分板〕 五圓を云ふ
こぶいたんか 感歎の情を表はす語。
こぶいち〔五部一〕 六部と稱する旅僧を云ふ。又は之に類するものを云ふ。
こーぷかい〔靠不開〕 門戸が閉つて居る事。（支那人隱語）
こふくあきんど〔呉服商人〕 呉服物專門の萬引犯を云ふ。
こぶし〔拳〕 五圓の意。
こぶや 表戸をはづして忍入る竊盜犯を云ふ。

こぶり 合鍵を云ふ。【佐賀縣】又は庖丁【德島縣】 施錠の箇所を切破る刄物一切を云ふ又錠を破る事をも云ふ【山口縣】物を破壞する事。【福岡縣】

こぶれい〔御無禮〕 男女交接する事。(不良青年語)

こべる 犯罪者の用ゆる鑿狀の刄物を云ふ。

こーぼー〔弘法〕 筆硯、筆墨類を云ふ。又賭博をなす事を「弘法を信んずる」と云ふ。采の目の總數は二十一、弘法大師の命日は二十一日なる故、「おだいし」參照。

こーぼー 眉毛を云ふ。

こーぼーくや〔弘法厄〕 惡筆者を云ふ。「くや」は厄の倒語なり「こーぼー」參照

こぼーをぎる 鷄姦。「こぼー」は牛蒡にて陰莖の意。「ぎる」は「にぎる(握る)」の意。「ごぼーのきりくち」又「りしをぎる」とも云ふ「りし」は「しり(尻)」の倒語、即ち尻を握るの意。

ごぼーのきりくち〔牛蒡の切口〕 鷄姦を云ふ。

こーぼーのごみ〔弘法埃〕 孤兒等を使つて筆墨其他日用品等を押賣させ、又孤兒院の維持費などと稱して詐欺的寄附の要求をなす者を云ふ。

こぼれ〔零〕 雨を云ふ。「すえばれ(末晴)」、「しらたき、ぶい」等皆同意。

こま 金錢代用の木札を云ふ。

こま 小間物品一切を云ふ。

ごま〔護摩〕 一般詐欺行爲を云ふ。

こまし〔護摩師〕 辯護士を云ふ。被告の罪惡を「ごまかして」吳れる意よりか

「靑鬼、佛」等皆同意。

こます 「かます」の音便にて窃取する、「ごまかす」、手に入れる等の意。「かます」參照。

こます 毆打する事。【岡山縣】

こます 巧言を用いて婦女子等を誑かす事を云ふ。轉じて一般に人を欺く所爲を云ふ。

こます〔小搾〕 盲人のする賭博の一種を云ふ。

ごまず〔護摩酢〕 酒を云ふ。般若湯に同意。(僧侶隱語)

ごまする 密告する事、關西地方の方言にて「ごまする」は人に阿附する意。刑事等に阿ねて他人の惡事を密告する意より出でしもの。

こませ 一般詐欺手段「かませ」の轉訛。

こませる 一般詐欺手段「かませる」の轉訛。

こませられた 得心させられた。【福島】

こまちむすめ〔小町娘〕 錠を堅く閉ざされてゐる土藏を云ふ。

こまものや〔小間物屋〕 嘔吐せし事を云ふ「よろずや(萬屋)」とも云ふ。種々の食物を列べるよりか。

こまらせる 得心させる。言含めるの意

こみ〔込〕 押賣りをなす事を云ふ。

こみし 犯罪敎唆者。又は犯罪の目的場所を案内するものを云ふ。

ごみし〔塵埃師〕 小間物類を押賣りする者を云ふ。「鹿をごむ、からすをごむ、まつげをごむ」等皆同意。

ごみし〔塵埃師〕 反物、蚊帳等の疵物を行商する者を云ふ。又行商人を裝ひ家人の不在を狙つて金品を窃取なす者を云ふ。

こみせ〔小店〕 露天商人の組合を云ふ。「さんずん」とも云ふ。

ごみせん〔塵埃錢〕 露天商人が店を出した後始末代として徵集せられる金を云ふ。(露天商人語)

ごみせんつー〔毛皮如〕巡査を云ふ。（朝鮮人隠語）

ごみだめ〔塵埃溜〕電車、乗合自動車を云ふ。

こみち〔小徑〕密告者を云ふ。

こみつ 密告者を云ふ。【東北】

ごみとり〔塵埃取〕電車内に於ける掏摸犯を云ふ。

ごみばこ〔塵埃箱〕汽車、電車、乗合自動車を云ふ。

ごみばこし〔塵埃箱師〕汽車、電車、乗合自動車内掏摸犯を云ふ。「はこし」に稍似たるもの。

ごみやる 一般詐欺的行爲を云ふ。「おいやる」に同じ。

ごみめし〔塵埃飯〕ごもく飯を云ふ。轉じて一般鮓司を云ふ。

ごみよけ〔塵埃除〕電車、乗合自動車を云ふ。

こみわる〔込割〕權勢にまかせて脅迫的手段又は詐欺的手段を用いて利益分配に與かる事を云ふ。

こむ〔刀劍〕巡査を云ふ。（朝鮮人隠語）

こむ〔込〕承知、承諾の意「呑込」の略。

こむい 輕罪を云ふ。【岐阜縣】

こむしるにした 巡査が集合せし事を云ふ。（朝鮮人隠語）

こむす 贓物其他證據物品等を隠蔽する事を云ふ。「こむする」とも云ふ。

こむす 庇護する事を云ふ。

こむすび〔小結〕小便を云ふ。小便を小詰（こづめ）と云ふ其詰と結とが酷似してゐるより。「おーむすび」參照。

こむちや 一般警察官を云ふ。〔朝鮮人隠語〕

こむちり 窃盗犯を云ふ。（朝鮮人隠語）

こむちんべえ 窓口を云ふ（朝鮮人隠語）

こむはりあツた 睡眠なす事を云ふ。（朝鮮人隠語）

こむばんいツかん 官公署、刑務所等を云ふ。（朝鮮人隠語）

こむれ 潜伏なす事を云ふ。

こめ〔小目〕采の目の一、二、三を云ふ四、五、六は「おーめ」と云ふ。「おーめ」、「こめ」參照。

こーめい 馬を云ふ。

こめえ 乞丐を云ふ。

こめんぐち〔御免口〕家屋の入口を云ふ又監房の入口をも云ふ。

こも〔菰〕密賣淫婦を云ふ。「こもかぶり」とも云ふ。

こもかぶり〔菰被〕密賣淫婦。「こも」に同じ。

こもーぎー〔黒色〕巡査を云ふ。（朝鮮人隠語）

ごもく〔五目〕刑務所の參觀人を云ふ。

こもくい 巡査を云ふ。（朝鮮人隠語）

ごもし 物品を隠匿する事を云ふ。

こもじ 鯉を云ふ。（女房詞）

こもツてる〔籠〕金錢を所持して居る事を云ふ。

こもり 箸を云ふ。

こもり 晦日を云ふ。「つもごり」の略。（徳島の方言）

こーもり〔蝙蝠〕夕暮を云ふ。轉じて夕暮時家人の隙を窺つて窃盗を働らく者

こーもり 辯護士を云ふ。

こもんたい〔黒竹〕鐵砲を云ふ。（朝鮮人隠語）

こや 「こやてか」の略にて頭部を云ふ。轉じて汁を云ふ。

こや 汽車、電車内掏摸犯を云ふ。

ごや 名古屋市、又は名古屋附近を云ふ「なごや」の略。

こーやくし〔膏藥師〕相場師を云ふ。企

を吸取るが如く得るよりか。
こーやさん〔高野山〕　厠を云ふ。「こーやまえり」参照。
こやすけ〔小屋助〕　博徒其他の親分株を云ふ。
こやつか　頭部を云ふ。【福井縣】
こやてか　頭部を云ふ。
こやば　警察署を云ふ。
こやま〔小山〕　被害高僅少なる盜難事件を云ふ。
こーやまいり〔高野詣〕　厠へ行く事を云ふ紙（糞）を落して來るより。「ぴかばらす」とも云ふ。「おーづめ」参照。
こやんい〔猫〕　警察官吏を云ふ。（朝鮮人隱語）
こやんば　警察署を云ふ。
こゆび　妻、又は情婦を云ふ。「れこ」とも云ふ。
こーらー〔高拉〕　窃取中被害者其他に騒がれ目的を達せず逃走する事。（支那人隱語）
ごらん〔御覽〕　子供。幼少年者を云ふ。
ごらんばい〔御覽賣〕　子供相手の商賣を云ふ。
こり　掌包、雜拼着物一切を云ふ。行李（こーり）よりか。
ごり　衣服を云ふ。（朝鮮人隱語）
こりかちや　共犯者と犯罪實行について相談する事を云ふ。（朝鮮人隱語）
ごーりき〔合力〕　詐欺賭博の助力者。
ごーりき〔合力〕　乞丐を云ふ。又、「さんが」をも云ふ。
ごりと　刑期二年の判決を言渡される事
ごりちつれら　失踪せし事を云ふ。（朝鮮人隱語）
こーりゅー〔行流〕　流行物を云ふ。流行の逆語「かゝはい」に同意。
ごりよん　他人の妻の敬稱。御寮人の轉訛。
ごりんせん〔五厘錢〕　大根の輪斬りを云ふ。
ごーる〔Gold〕　金、又金時計を云ふ。「うぐいすのまんじゅー」、うぐいす、てら」等何れも金時計の意。
ごーるさくり　金鎖りを云ふ。
ころたんぶりざえく　撲殺する事を云ふ（朝鮮人隱語）
ころまつぢーちや　飲食をなす事。（朝鮮人隱語）
ころめ〔子留女〕　姙娠せし女を云ふ。
ころりそえー　尹の姓を名乘る者を云ふ例へば　尹太星の如し。（朝鮮人隱語）
ころん　憲兵。（朝鮮人隱語）
こーれん　煎餅を云ふ。
ごろ　殺人犯、其他の重大犯を云ふ。又は捜査せらるる事を云ふ。
ごろ〔頃〕　若い娘を云ふ。年頃の略か。
ごろ　掏摸犯其他が現行犯にて騒がれる事を云ふ。又東京附近にては被害者が窃取されし事を知つて騒ぎ出す事を云ふ。
ごろ　喧嘩を云ふ。
ころ　人力車、又は一般車の總稱。「ころひき」と云へば車輓、車夫の意。
ごろ　小石を云ふ
ごろ　雷を云ふ。「なり、てんしん」とも云ふ。
ごろー〔五郎〕　啞者を云ふ。
ごろー〔五郎〕　巡査を云ふ。
ごーろー　水争ひを云ふ。
ころおい〔車追〕　人力車、其他車の背後より車上の物品を窃取する事を云ふ。「ころ」は車の意。
ころおき　郵便局、銀行等にて預金者、預金掛戻人等、足等を故意に踏み其虚

に乘じて金錢を謀取逃走するを云ふ。其他之に類する者を云ふ。「けれん」に同意。

ごろをくふ 叱嘖せらるゝ事を云ふ。

ころがし〔轉〕 車の背後に廻り荷物を謀取する事を云ふ。

ころがし〔轉〕 他家の軒下などに積んである物品を謀取する事を云ふ。

ごろかめた 說諭される事を云ふ。

ころく 數量六。「つち」又は「うん」とも云ふ。（京阪神不良車夫）

ごろこしふける 掏摸其他の犯罪者が逮捕せらるゝを恐れて他所へ逃走するを云ふ。

ごろし 詐欺的行爲の總稱。

ころす〔殺〕 入質する事を云ふ。「ぐにこむ、ぐにつぐ、ねかす、まげる」等何れも同意。

ごろた 野宿する事を云ふ。

ごろた 香の物を云ふ。（旅役者用語）

ごろた 河原を云ふ。

ころつく 喧嘩をする。叱嘖するの意。

ごろと 一般窃盜犯を云ふ

ごろになる 警察官の手配及搜查の嚴しき事を云ふ。【長野縣】

ごろになる 喧嘩を云ふ。

ごろば 警察署、官廳を云ふ。

ごろばる 憤怒の極を云ふ。

ころび 露天商人中大聲を發して人を集め商品を賣捌く者を云ふ。これに用ゆる商品を「ころびねた」と云ふ、又「ころび」の反對のものを「ひらび」と云ふ。

ころび〔轉〕 下流藝妓、酌婦、娼婦を云ふ。

ころび 撞球場を云ふ。「ころびにゆく」と云へば球撞きに行くの意。

ころびき 寢息を窺ふ事。【三重縣】

ごろひく 「ごろまく」に同意。

ころぶ〔轉〕 私通する事。又は密賣淫する事を云ふ。

ごろべー〔五郎兵衞〕 昆布類を云ふ。

ごろぼーふり 巡查を云ふ。

ごろまいた 喧嘩爭論を云ふ。

ごろまく 喧嘩爭論を云ふ。「ごろひく」に同意。

ごろも 犯罪密告者を云ふ

ごろり 果實類を云ふ。

ころりん 戸締りの栓を云ふ。

ころんぼ〔轉坊〕 采を二個使用してなす賭博犯を云ふ。又、一般に采を云ふ。

こん 魚を云ふ。（女房詞）

ごん 牛蒡を云ふ。（女房詞）

ごん 品質作良なる事を云ふ。

こんい 牛を云ふ。（朝鮮人隱語）

こんい 警察官を云ふ。（朝鮮人隱語）

こんい 風呂敷を云ふ。（朝鮮人隱語）

こんいかそー〔糞胃下〕 空腹を云ふ。（朝鮮人隱語）

こんきいー〔空氣〕 眼の事（朝鮮人隱語）

ごんきち〔權吉〕 萬引窃盜犯を云ふ。

ごんきよく 絹物衣類一般を云ふ。

こんくるさるべき 空巢狙窃盜犯を云ふ（朝鮮人隱語）

こんけん 牛肉を云ふ。

ごんさい 妾を云ふ。「げんさい」に同意

ごんじ 不良少年を云ふ。

ごんすけ 浮浪窃盜犯を云ふ。【關東】

ごんそーだゆー 犯人使用の綿を云ふ。

こんだり 博徒を云ふ。（朝鮮人隱語）

こんたるき〔大鷄〕 强窃盜犯人の主犯を云ふ。（朝鮮人隱語）

こんちぶるぽんた 土藏破りを云ふ。（朝鮮人隱語）

こんちぶろかつた 引致される事轉じて收監される事を云ふ。（朝鮮人隱語）

こんちゆう　空巣狙ひを云ふ。

こんちよむ　煙草を云ふ。（朝鮮人隠語）

こんとくかちややきげ〔豆餅持參〕　賭博用器具の準備を云ふ。（朝鮮人隠語）

こんないぞり　日本人を云ふ。

こんにちさま〔今日様〕　太陽を云ふ。

こんにやく〔蒟蒻〕　失踪、行方不明。【山形縣】

こんにやく【蒟蒻】　蒲團を云ふ。「かくらん、かくびら」等に同意。

こんにやく〔蒟蒻〕　舌を云ふ。

ごんぱち〔權八〕　食客を云ふ。

こんばぶもご〔豆飯食ふ〕　懲役に服する事。（朝鮮人隠語）

こんはんけもくをら　相手を銃殺すると脅かして金品を捲上る事を云ふ。

こんぴら〔金比羅〕　干鰯を云ふ。【北陸】

こんぴら〔金比羅〕　漬物類を云ふ

こんぴら〔金比羅〕　十日間の拘留處分。金比羅權現は十日に例祭があるより其他、總て數拾十を表わす。

こんぴらさんをまつる〔金比羅様祭〕　拘留處分を受ける事を云ふ

こんぶ　女の帶を云ふ

こんぶ　外套類を云ふ。

こんぶり　蒸物類を云ふ。

ごんべえ〔權兵衛〕　賄賂を收受する事。

ごんぼ　監督紊漫なる官吏を云ふ

ごんぼのきりくち〔牛蒡の切口〕　鷄姦。「ごぼーをぎる」參照。

こんまいか〔Comma 以下〕　天保錢に同意。

こんよく　蝶を云ふ。

こんり　山を云ふ。

さ の 部

さい〔采〕　采賭博に使用するもので俗に「さいころ」と云ひ賽、骰、骨子、骸子、投子、角子、采等と書き何れも「さい」と訓ずる。博徒間には采の目について確乎たる掟がある。一の目の裏は六、二の裏は五、三の裏は四、でなければならぬ又目盛りは⚂でなく⚄。⚁でなく⚀。⚅でなく⚃でなくてはならぬ又采の目を六合に當てゝ一天地六南三北四東五西二と稱してゐる。又賭博の事を「お大師」又は「四十二の物爭ひ」と云ふのは采の目を全部加へれば二十一となつて弘法大師の命日に當る故、又丁半賭博にて采を二個使用する故二個の目を加ふれば四十二となる。

さい〔財〕　財布。蟇口を云ふ。「どーらん」とも云ふ。又掏摸犯人間にては「いわ」とも云ふ。

さいー　雜沓の地を云ふ。（朝鮮人隠語）

さいかち〔細滑〕　男根を云ふ。（僧侶隠語）

さいくい　臭いの意。「くさい」の音便。

さいぐい〔采喰〕　壺の中で二個の采が重なる事を云ふ。

ざいたおとし〔座板落〕　追剝を云ふ。

さいたり　看守を云ふ。

さいつ　小額、少量、又狹苦しい場所等を云ふ。

さいつ〔賽子〕　星又は彈丸を云ふ。（支那人隠語）

さいツて　商人を云ふ。（朝鮮人隠語）

さいどする〔済度為〕　女子を口說く事を云ふ。（僧侶隠語）

さいとばく〔采賭博〕　采を使用してなす賭博を云ふ。「さいぼくち」參照。

さいぼくち〔采博奕〕　采を使用してなす賭博の總稱であるが其の中で采を一個

使用するものに「樗蒲(ちよぼ)」、大目小目」等。二個使用するものに「丁半、兎樗蒲(うさぎちよぼ)」、四下、緩急、四一半、七半、投げ釆」等。三個使用するものに「狐樗蒲(きつねちよぼ)」、よつどー、大目小目」等がある。(「大目小目」は釆を一個又は三個使用する)四個使用するものに「ちーば(又はちいつぱ)」等がある。又天賽と云ふものは釆を五個使用するが其の釆の目は一叉は九ばかりで三面を黒くし殘りの三面は白にし五個の釆を同時に投げてなすものである。又「おつちよこ」と稱してカブ札の一より六迄の札と釆二個を使用してなすものもある。

さいほんびき〔釆本引〕 賭博の一種。

さいまつ〔才松〕 丁稚小僧を云ふ。人に擬せしもの

さいとんい 女兒。(朝鮮人隱語)

さえぎり〔遮り〕 曇天を云ふ。

さを〔竿〕 干餅を云ふ。【山形縣】

さをした 洗濯物を窃取なす事を云ふ。

さおてら〔竿照〕 蠟燭を云ふ。てらは一般燈火の意。

さおにきけ 家人が熟睡してゐるか否かを探る事を云ふ。

さをのはな〔竿の花〕 洗濯物窃盗犯。「さをした」に同意。

さをびらやかす 洗濯物窃盗犯を云ふ。「さをした、さをのはな」に同意。

さか〔阪〕 大阪地方を云ふ。大阪の略。「ざか」とも云ふ。

さか〔堺〕 庖丁、鋸、其他の刄物を云ふ刄物の產地堺の略。

さが 賭博を開張せし事を云ふ。

ざか 大阪地方を云ふ。「さか」に同意。

さかいすじ〔堺筋〕 砂糖を云ふ。

さかさぶくろ 蚊帳を云ふ。

さかさま〔逆樣〕 巡査を云ふ。

さがし〔探〕 空巢狙ひを云ふ。

さがし〔探〕 不良青少年少女が映畫館、緣日等にて美しい對照(相手)を探す事

さがし〔探〕 「まくらさがし、かんたんし」に同意。「枕探し」の略。

さかにん 山窩を云ふ。「さんか」參照。

さかふける 大阪地方より高飛する事を云ふ。「ふける」は逃走するの意。「どえふける、はまふける、べこふける、ごやふける」は夫々東京、横濱、神戶、名古屋を高飛する事を云ふ。

さかべら 出刄庖丁を云ふ。

さがら 掏摸を云ふ。(上總の方言)

さがり〔下り〕 掏摸を云ふ。

さがり〔下〕 明取窓、天窓を云ふ。

さがり〔下〕 乳房を云ふ。又は袖【九州一

さがり〔下り〕 土藏や家屋の屋根を破又は明取窓より忍入る窃盜犯を云ふ。往時は軒先より二十四枚目の瓦を剝ぎ忍入る習ひなりと。「てんつり(天吊り)」「かみなりおとし(雷落し)」「てんぐ(天狗)」「さがりをかう(下り買)」、「さがりぐも(下蜘蛛)」、「さがりぐち(下り口)」等皆同意。

さがりをかう〔下り買ふ〕 前項「さがり」に同意。

さがりぐち〔下り口〕 前項に同じ。

さがりくも〔下蜘蛛〕 前項に同じ。

さがりこぶ〔下瘤〕 呼鈴、其他鳴物の仕掛けある戶を云ふ。

さがりにきく〔下り聞く〕 「あたりをつける、けんじる」に同じく目的の人物が金錢を所持してゐるか否かを確める事。(掏摸犯用語)

さがりむし〔下り虫〕 錠の事を云ふ。

さき〔咲〕 春の事を云ふ。

さき　窃盗常習犯人を云ふ。

さぎ〔鷺〕　夏服着用の巡査を云ふ。

さぎ〔鷺〕　看守を云ふ。【長崎縣】

さぎ　煙草を云ふ。

ざき〔崎〕　岡崎市。【愛知縣】

さぎがけ〔先掛〕　足袋を云ふ。

さぎとばく〔詐欺賭博〕　賭博を手段とする詐欺の總稱にして其の主なるものは「目切カツパ」。又其れを利用してなす鹿追ひ（しかおい）「さわ」とも云ふ）がある、又變化師の詐欺賭博には「マトモ」、及其れを利用してなす「抱き落し」等、又露天商人のなす詐欺賭博類似のものには「菓子割」「水楊浦（みづちよぼ）」四本籤、等がある。「さわしさぎ」、しかおい、さくじ」等參照。

さきば　野菜物を云ふ。

さきひろ〔前弘〕　弘前市附近を云ふ。【青森縣】

さきむら　醤油を云ふ。隱語にて醤油を「むらさき」と云ふ其の語の倒語。

さきやばい　行先は危險だの意。「さきやばいぜ、つえもてよ」は「行先は危險だから用心せよ」との意。「つえもて」は用心せよ、注意せよの意。

ざく　强盗犯を云ふ。

ざく　葱を云ふ。

さくし　萬引犯を云ふ。

さくじ〔作事〕　詐欺賭博犯、ペーパー師等が詐欺を爲す際の種々なる手段を云ふ。今詐欺賭博の作事を例擧すれば、

話かけ　鹿追詐欺に於て、金錢を多く所持し且つ一見して、詐欺に罹り易く見える被害者を神社、佛閣、名所、舊跡等にて物色し巧に之に近づきて話かけ豫定の場所へ誘致する方法。

引出し　前項同様鹿追に於て共犯者の一人が豫め目星を附けし被害者宅へ地所山林、家屋等の賣買周旋人を裝ひ賣買の用件に託して被害者を豫定の場所へ誘致する方法。

ペーパー師の「さくじ」を例擧すれば

賣買　既に僞造した紙幣を僞造者が所持して居るので其の賣買を周旋するからと云つて金錢を受取り、其僞造者には直接面會させず別の仲間の一人が中間へ入り、今僞造主へ會つたら「あれ位の端下金では賣買契約を結べぬから」と云つて居るからあれを内金として置いてもう少し出金を願ふと云つた具合

に金錢を捲上げる方法。

製造　僞造紙幣周旋人を裝える者が相手に銅版、石版其他の僞造機械を見せて不足の機械、彫刻費、藥品費、技師の給料等を詐取する方法。

交換　賣買契約が出來て僞造紙幣と相當金額を授受すべき際、此の場所は危險だから自宅にて渡さうなど丶云つて自己の鞄に僞造紙幣も金錢も一緒に入れて慌てたる様子をして停車場から乘車して被害者の隙を窺つて他の鞄と掏り替える方法。

共乘　被害者に多額の金額を支出する能力なき場合共犯者の一人が自分も共に資金を出すからなど丶云つて金錢を詐取する方法。

藥品　化學の應用により此の藥品さへ使用すれば紙幣の僞造は容易であると云つて相手に其實際を見せ信用させるのであるが、其方法は先づ押入れ等に温湯を入れた箱を備えてそれに模造紙を紙幣大に切り温湯の中へ浸し數分間して取出せば眞物が出來るのである此の場合は仲間の一人が密かに眞物と模造紙とを取換えて置くのである。

デカ　僞造紙幣の引渡等の際容易に解のつかぬ時、又相手方が大勢ペーパー師宅へ押かけた際等に仲間の一人が刑事を装ふて關係者とし追拂ふ方法。「ペーパーさぎ」參照。

さくぞー〔作藏〕　男根の事を云ふ。

さくちやん〔朽木〕　窃盗常習者。（朝鮮）

さくちよー　賢い。（淡路の方言）

さくべい〔作兵衛〕　刑事を云ふ（山窩語）

さくゆーくまんとるよつた　共犯者が互に自分の意思を告げ得た事を云ふ。（朝鮮人隱語）

さくら　詐欺賭博の共謀者（朝鮮人隱語）

さくら　木綿の衣類を云ふ

さくら〔作樂〕　繁華なる場所を云ふ

さくら〔作樂〕　酒類一切を云ふ。

さくら　露天商人等が客の購買慾をそゝる爲に使ふ仲間を云ふ。例へば「ロクマ（易者）」が手相を占ふ時に客を装ふた「さくら」が群集の前にて自己の手相を占ひせしめ一々合鎚を打つて群集を信ぜしむる事等を云ふ。

さくらき　木綿の衣類を云ふ。

さくり　時計の鎖を云ふ。

さぐり〔探り〕　戸を開ける爲めに隙間などにさしこむ金屬製又は竹の箆を云ふ

さぐり〔探〕　宿屋荒しを云ふ。「かんたんし」に同じ。

さぐり　金網を云ふ。「四國」

さぐり〔探〕　闇夜を云ふ。

ざくろ〔柘榴〕　阿呆の事、柘榴が口を開けてゐる處より。

さけ　警察署を云ふ。「警察」の倒語。「察警（さつけー）」の音便より「さけ」となりしもの。

さげ〔下〕　袖のついた衣類を云ふ。

さげした　品質の不良なるを云ふ。

さけつ　警察署「さけ」參照。

さげば〔下場〕　贓物故買者又は贓物隱匿の場所を云ふ。

さける〔裂〕　露顯する事。【島根縣】

ささ〔笹〕　手紙を云ふ

ささかや　妾宅。隱居。別宅等を云ふ。

ささき〔佐々木〕　藝人、理髮業者の用ゆる隱語にて數量の四をあらわす佐々木家の紋は四つ結びなるより。

ささたゝき　芋汁を云ふ

さゝはらさん〔笹原様〕　醫師を云ふ。藪醫者よりの聯想。

さゝやす　庭園の植込み。又樹木を云ふ

さし　質商。古物商等に配布する盜難品の觸書を云ふ。

さし　警察官に密告する事を云ふ。

さし　贓物を云ふ。

さし　單獨犯行の總稱を云ふ

さし　手袋の事を云ふ。

さし　骨牌賭博で二人差向いでする賭博を云ふ。

さし　被害者と面會する事を云ふ。

さし　手袋の事を云ふ。【佐賀縣】

さし　財布。蟇口を云ふ。「どーらん」とも云ふ。

さし　手の事を云ふ。【山口縣】

さじ〔匙〕　醫師を云ふ。

さしいれ〔差入〕　手袋を云ふ。

さしえん　骨牌を云ふ。

ざしき〔座敷〕　監房を云ふ。

ざしきこじき〔座敷乞食〕　紳士の如き風采をして訪問し客の如く装つて面會をなし金品を强要するものを云ふ。

さした　犯罪事實を密告する事【神奈川】

さしごま　巡査を云ふ

さしこみ〔指込〕　カブの變態を云ふ。

さしだし〔差出〕　椀を云ふ。

さしばゝ　墮胎施術者を云ふ。

さしまた　鋲抜を云ふ。
さしこみ　接吻。「あいぼれ」參照。
さす　警察官に密告する事を云ふ。
さす　刀劍、其他の刄物類を云ふ。
さだくろー〔定九郎〕　鐵砲の事を云ふ。
さだくろー〔定　郎〕　傘を云ふ
さだすけ〔定助〕　錠の事を云ふ。
さたるなつた　犯罪事實の發覺。（朝鮮人隱語）
さたん　賭博用具。（朝鮮全羅南道博徒）
さち　牛、馬、豚肉類を云ふ。（朝鮮人隱語）
ざーち　持兇器竊盜又は强盜犯を云ふ。（朝鮮人隱語）
ざちゆー〔座中〕　衝立を云ふ。（豐前の方言）
さつ〔察〕　警察署。「さけ」參照。
さつかりん　女に甘き男を云ふ。
さつけ　警察署。「さけ」參照。
さつばらめく　警官が犯人を追跡する事
さつま〔薩摩〕　砂糖を云ふ。
さつま〔薩摩〕　煙草を云ふ。
さつまいも〔薩摩芋〕　典獄を云ふ。
さつまのかみ〔薩摩守〕　電車、汽車等の無賃乘車を云ふ。薩摩守忠度を只乘に洒落れたもの又無錢飲食の事を「ラジオ」と云ふ。無錢を無線に洒落れたるもの。

さつぼー　飲食店等にて大盡風を吹かせ金錢を費消する者。又、放蕩者をも云ふ。
さで　委託金を持逃げする事を云ふ
さでこみぼー　箸の事を云ふ。
さど〔佐渡〕　金錢。佐渡の金山より。川柳に「男さえ迷わす佐渡の惚れ藥」
さとことば〔里言葉〕　吉原遊廓内で女郎が使ふ言葉。「ありんすことば、おいらん」參照。
さとつり〔里釣〕　諸所を流浪して竊盜を働く者を云ふ。
さとのはなよめ〔里花嫁〕　世事に疎い人物。又田舍者を云ふ。（詐欺賭博隱語）
さとのみ〔里實〕　果實類を云ふ。
さなだ〔眞田〕　數量六の意。センボより來たるもの。又眞田の紋は六文錢なるより。（職人理髮業者隱語）
さに　味噌汁の事を云ふ。【茨城縣】
さぬきめぐり〔讃岐廻〕　骨牌賭博の一種の事を云ふ
さのこーかん　現金專門の竊盜犯「札の交換」の意よりか「げんなまし」とも云ふ。

さびがたな〔錆刀〕　鹽鰯。赤鰯、糠漬の鰯類の事を云ふ
さぶ　百姓。（男）を云ふ
ざぶ　雜沓の場所を云ふ
ざぶ　雜沓の場所にて行違ふ際に竊取する掏摸を云ふ。【關東】
ざぶ　新入監者を云ふ。【石川縣】
ざぶ　巡査以外の官吏。【熊本縣】
ざぶ　空巢狙ひを云ふ。
ざぶ　湯錢を云ふ
さぶけさんがい　迷惑せし事。（栃木の方言）
ざぶたゝき　芋殼を云ふ
ざぶとん〔座蒲團〕　燒豆腐の事を云ふ。
ざぶながし　雜沓の場所にて行違ふ際に竊取する掏摸を云ふ。「ざぶ」に同じ。
ざぶる　數量の三。（朝鮮江原道鐵原地方）
さぶろー〔三郎〕　鼻。三月より來たるものか。
さべ　陰莖の事を云ふ。【關東】
さま〔様〕　情人（主として男性に用ゆ）俗謠に「秋は夜長とおつしやるけれど樣

と寝る夜の短かさよ」
さまいいたむ　墓參りする事。（朝鮮人隱語）
さまいだちや　墳墓發掘する事。（朝鮮人隱語）
さまぢ　老爺。爺樣の倒語。
さまば　老婆。婆樣の倒語。
さまぼー　看守の事を云ふ。
ざみ　刻み煙草。「きざみ」の略。
さみだれつき〔五月雨月〕霜景色。「うすげしょー」參照。又霙の事をも云ふ。
さみんたんさちよー　寒冷。（朝鮮隱語）
さむをかんに　夫婦關係。（朝鮮人隱語）
さむちぼり〔煙草袋口〕厠（朝鮮人隱語）
さむちるでん　附近洞穴。（朝鮮人隱語）
さむょりまりたい〔樫木之頸卷〕犯人が被害者又は警官に追跡せられし時變裝して行衞を晦ます事を云ふ
さむらい〔侍〕錫を云ふ
さむらい　燒豆腐。【關東地方】
さむる　確認なせし事を云ふ
さめる〔醒〕感知を云ふ。
さもじ　鯖を云ふ。（女房詞）
さや〔鞘〕家。住居を云ふ。
さや　酢の事を云ふ。

さーやさーや　强竊盜犯人が現場を逃走する事を云ふ
さら〔皿〕贓物故賣犯の總稱。
さら〔皿〕銅貨の事を云ふ。
さらし　巡査の事を云ふ。【熊本縣】
ざらすべ　詐欺賭博犯の用ゆる仕掛けある札を云ふ。
さらもの　新入監者を云ふ。【關西】「さら」は關西地方の方言にて新しいの意。
さらもの　木綿衣類。【埼玉縣】
さり　贓品を云ふ。
さり　婦人。（朝鮮人隱語）
さりく　時計の鎖。「くさり」の音轉。「さくり」參照。
さる〔猿〕犯罪密告者。「やえん」よりか
さる〔猿〕囚人を云ふ。
さる　密賣淫婦を云ふ。
ざる〔笊〕米穀類を云ふ。
ざる　子供を產まない女を云ふ
ざるを　共犯で竊取せし贓品を他に分配せず一人でせしめる事を云ふ
さるかす　殺人傷害を云ふ
ざるそば〔笊蕎麥〕密賣淫婦を云ふ。
さるのきば〔猿の牙〕米を云ふ。
さるまた〔猿股〕掏摸の手段を云ふ

さるまわし〔猿廻し〕看守を云ふ。
さわ〔詐話〕詐欺賭博犯の一種。
さわぎ〔騷〕風。「あおり、ぜか、こゞと、おだち、あおち」等皆同意。
さわし　一種の詐欺賭博犯人又は詐欺的行爲の常習者を云ふ。「さわしさぎ」參照。
さわしさぎ〔詐話師詐欺〕詐欺賭博の一種で關東並びに東北にては「さわ」と云ひ、關西では「しかおい（鹿追ひ）」名古屋附近にては「おいねし」、九州地方では「いんちきし」と云つて居る。「さわ」と「目切カツパ」とは全々別の詐欺賭博であゝ。試に其差異點を詳述すれば、
目切カツパ　純然たる「目切りカツパ」は胴親が碁石又は燐寸の軸、銅錢等が多數有る中より若干を握り之が奇數か偶數かを云ひ當てるのであるが之を詐欺賭博に用ゆる時は若干握りたる時に（胴親は偶然握りたるが如く裝えども決して偶然に握つたのでなく必ず奇數を握つて居る）張手が一（奇數）に張りたる時は其證據として握りたる數の中より一を除き手中のもの を二つ宛取出せば必ず最後に偶數なる二が出て胴

親の勝に歸すなり。又二（偶數）に張りたる時も前同樣證據として二を除き殘餘を計算すれば最後に奇數なる一が殘る事は數理上當然である故に又もや胴親の勝となる斯樣にして張手が如何に焦せつても勝つ事が出來ないのである。（日切カツパに於て張手が勝てば賭金の五倍を胴親から貰ひ親が勝てば賭金は沒收せらるゝ事になつてゐる）さて「さわ」、又は「鹿追ひ」とは、「さわ」を分けると「話かけ」と「引出」しとの二種になる。

「話かけ」の場合の共犯者の役割は

アホリ　被害者を引出す役。

忠兵衛　被害者に一應忠告する役。

盡大　大盡の轉語にて金滿家等を裝ふもの。

除　犯罪中現場附近に見張を爲し犯罪實行中の警戒をなすと同時に一方被害者に手段を看破せられし時は刑事又は附近の博徒を裝ふて立ち現れ事件を揉み潰す役で其方法は先づ「アホリ」が神社佛閣、名所、舊跡、遊覽地等に至りよき椋鳥（被害者）を物色し、其者に煙草の火、又は其に絶景を賞讃す

るが如く裝ひ巧に近付き話かけ自分け今後某々の遊覽地又は某名所を見物する考へだが貴殿も一緒に行かれてはと勸誘し共方面に向ふ途中共犯の一人である。「忠兵衛」が中途にて現われ是又一見物人の如く裝ひ、「アホリ」と被害者に對して某名所へ參る道を尋ぬれば「アホリ」は我々も其處へ參る故同道してはと云ひて道伴となり三人共某名所へ赴くことゝなり名所附近に至れば丁度食事の時間なれば共に簡單な支度をしてはと「アホリ」が「忠兵衛」に提議すれば、忠兵衛は直ちに贊成する被害者も之に附合すべく餘儀なくされ遂に三人は共犯者等が謀し合はせた料理屋へ登樓し三人が食事の後四方山の話をなしつゝある最中にかねて隣室に待ち受けてゐた「盡大」が雜事に事寄せ話掛け雜談の後「盡大」が實は昨夜某所に於て何某なるものと「日切カツパ」なる賭博をなして數千圓を取られたので今夜は其復讐の爲某所に會合する約束があり又現に賭金數千圓所持してゐると云へば「忠兵衛」は「盡大」に對しそれは詐欺賭博にして君は詐欺に罹つて居るので

とても勝目の見込がないから思ひ止まつた方がよいと忠告すれば容易に「盡大」は信じないので「日切カツパ」の方法を詳細實驗して「盡大」を戒むけれども何頑迷な風を裝えば「忠兵衛」も餘りの事に立腹し果ては口論を初めると云ふ豫定の一幕となる。此の時「忠兵衛」は便所へ行く風を裝つて二人を別室へ招き彼は（盡大の事）あんな奴だから今夜もきつと金を捲上げられるのに相違ないから寧ろ自分達の方に於て之を捲上げてはと提議すれば先刻より「日切カツパ」の方法を實見し胴親の必勝となる理由を解し、「盡大」が餘りに無理解なるを嘲笑して居つた折柄であるから直ちに之に同意する事となり、賭金については各自が互に出し合ひをなすのであるが、「忠兵衛」は先づ先に何百圓あると云つて札束（此の紙幣束は數百枚の紙幣形に裁ちたる紙の上下に眞紙幣を一枚宛置きたるもの）を差出せば「アホリ」も同樣に差出し被害者も出金しもし不足額があれば時計衣類等を出す此所に賭金の出資が成ると「忠兵衛」は座に歸り「盡大」に向ひ其程勝負

したければ我々と一戰してはと云へば「盡大」も求むる處と之に應じ「アホリ」「忠兵衞」「被害者」が胴親となり「盡大」が張手となつて勝負し、被害者を安心せしむる爲に同人に軸木其他を握らせ「盡大」と交戰せしめ、初めの内は廿き勝利を得さしめるが「盡大」が敗戰を重ね胴親の金額が張手の五倍額となりたる時「盡大」は自棄になりたる風を装つて最後の天下分目の一戰をと云ふ事になる此の時「忠兵衞」は被害者に今迄は奇數を持たして居つたが今度は其の中の一本を窃かに拔きとり偶數を握らし其の拔き取りし一本を被害者の背後等に落して置き（數理上必敗の運命となる）勝負すれば胴親の敗北となり、札束は勿論被害者の金錢衣類等も「盡大」に歸有す　被害者が「忠兵衞」に君が偶數を握らせし爲だと喰つてかゝれば「忠　衞」は逆捻的に君が不注意にこんな處へ一本取落したからだと云つて一本落してあつたの示せば、被害者も自己の禍失なりと誤信し「アホリ」「忠兵衞」に陳謝し遂に詐取せらるのである。

引出し　引出しに於ける役割は

〔ヒモ〕　地所鑛山等の賣買周旋人を装ひて被害者を豫定の場所へ誘致する役

〔スワリ〕　豫定の場所にて被害者と會見し物件の買主又は賣主を装ふ役目。

〔借作〕　被害者と「スワリ」と會見中「スワリ」を尋ね來り金借を申込み其金の使途を問はるや「目切カツパ」にて大敗せし故其の復讐戰の資金に用ゆる旨を答へ前記大盡の如く所作する者。

〔ウワ〕　見張役。

で其方法は「ヒモ」が相談し度事ある故何日に何々料理屋にと云つて引出すのである、後の所作は前の「話かけ」に同樣である。詐話師に於ては必しも四人の顏觸れがなくとも出來ぬ事はない、例へば「アホリ」と「忠兵衞」を兼ねた者又「ヒモ」と「スワリ」を兼ねた者を「引忠」と云ふ「引忠」が居れば二人で出來る、又一人でなす「さわ」を「さし」又は「相さし」と云ふ。　詐話師の親分（直接仕事に關係せず萬一乾分が逮捕せられし場合は家族の世話等をするもので乾分の仕事の一割乃至二割を天引する）を「大引」と云ふ。又被害者から數回にわたつて金品を捲上ぐる際金主、又は

相談役と稱して現場へ乘込む者を「先生」と云ふ詐話師仲間の參謀長の如き役なり。又同一被害者から數回に渉つて金を詐取する時に「上ウワ」なる者が「ウワ」を助けて仕事をする。又被害者を「けだもの、け、けきやく、むくどり、もち」等と云ふ。又「アホリ」の事を或る地方に「尾引」と云ふ。又被害者を連込む料理屋等を「しき」と云ふ。

さわり　朝。「あさば、あさまぐれ、げつしよ」等何れも同意。

さわり　辯舌。【石川縣】

さわり〔觸〕　夜警番を云ふ

さわり　多忙なる事。【岩手縣】

さわり　不良青少年が夜汽車、映畫館等にて婦女を誑かす手段の一種にて最初は手などを握り遂に目的を達する方法

さん　簪の事を云ふ

さん　用便する事を云ふ

さん　書翰を云ふ。

さんあ　家人の不在なる事を云ふ

さんえん　骨牌を云ふ。

さんか〔山窩〕　山の麓、河原等に小屋掛けをなして晝間乞丐をなし夜間窃盜を働く者を云ふ。山窩の起源は可成り古

く平安朝の初紀の文献にも「浮浪民は野伏、野非人、山家、山の者と呼ばれ罪を犯して逃亡した者や或は貧乏して已むを得ず浮浪の旅をなすに至つたものである云々」とあるが山家は現今の「山窩」の意であらう。

さんか　若い婦人。【東北】

さんか　銀側時計を云ふ（懐中）。

さんかく〔三角〕　窃盗其他の犯罪人が諸所を流浪する事を云ふ

さんかく〔三角〕　蕎麦を云ふ。蕎麦の實は三角錐なるより。

さんかく〔三角〕　鼻を云ふ。

さんかく　共謀犯人が諜し合はせて高飛びする事を云ふ

さんかつ　暴風雨を云ふ。

さんかつ〔三勝〕　骨牌賭博の一种。三勝半七より。

さんかつ　露店にておでん（關東煮）等を立喰いする事を云ふ。

さんがつ〔三月〕　鼻。（せんぼ）三月は百花が競い咲くより花と鼻の洒落か、又花骨牌の三月が櫻なるよりか。

さんがつ　霧を云ふ。

さんき　猿を云ふ。

さんき　戰亂を云ふ。

さんぎ　味噌を云ふ。

さんぎーち〔散行地〕　料理、待合、藝妓置屋の許可されてゐる土地。

さんくる　夜。（朝鮮人隱語）

さんくろー〔三九郎〕　下流藝妓。【關東】

さんげんぜいちく〔三間筮竹〕　「たこつり」などに用ゆる竹竿を云ふ。

さんこ　亂暴、又は不潔行爲を云ふ。（兵庫縣丹波、飾磨兩郡の方言）

さんざい〔三采〕　采を三つ使用する賭博にて「とーしく」に同じ。

さんざい〔散財〕　死刑を云ふ。

さんしたやつこ　博徒中勢力の無き者。

さんしやみ〔山人蔘〕　僧侶。（朝鮮詐欺賭博犯隱語）

さんしよ　一般窃盗犯又は錠を云ふ。

さんしよ　隱語の事。「せんぼ」又は「ちよーふ」とも云ふ。

さんしよことば　「さんしよ」に同じ。

さんしだま　鋸を云ふ。

さんしよーだゆー　傷害罪を云ふ。

さんしよば　裏戸口。裏口等より忍入ること。【岩手】　庭園。便所。【靜岡】

さんしろー〔三四郎〕　下流の藝妓、酌婦「せんぼ」にて三味線を云ふより。

さんすけ〔三助〕　軒を云ふ。

さんずん〔三寸〕　詐欺賭博犯人が相手にわからぬ様に采を糸で引いて仲間に都合よき目を出す事を云ふ

さんずん〔三寸〕　羽織を云ふ。

さんせい〔山鳥〕　呼子の笛。（朝鮮人隱語）

さんせいてり〔山鳥棲谷〕　窃盗常習者。（朝鮮人隱語）

さんそく〔采石〕　陰部を云ふ。

さんぜんぼー〔三千坊〕　稗を云ふ。

さんだい　寺院。（朝鮮人隱語）

さんたく〔山澤〕　澤山の意。澤山の倒語

さんたくとひ　雜沓の場所を云ふ。「澤山の人」の轉倒語。「さんたく」參照。

さんちん　警察署長を云ふ。

さんちや　漬物類。（朝鮮人隱語）

さんちよーがん〔生死館〕　留置場の事。

さんてんもの〔三点物〕　詐欺賭博用の仕掛け采にて二四六又は五三一の目が特に多く出來る樣に仕掛してあるものを云ふ。

サンドウイツチ〔Sandwich〕　三角關係の中心人物を云ふ。

さんこーとるちくてり〔喪擧臺〕 贓物を運搬する事。(朝鮮人隱語)
さんに 味噌、味噌汁を云ふ。
さんば〔產婆〕 老婆。取り上げ婆より。
さんばい 刑事を云ふ。
さんばし〔棧橋〕 鮭を云ふ。
さんばした 若き人妻を云ふ。
さんぴやくずツばい 骨牌賭博の一種。「さんぴやくずツばり」の轉訛。
さんぴん〔三一〕 錠。又は特殊部落民。【岡山縣】
さんぶり 入浴を云ふ。
さんぶる〔Sample〕 ペーパー師が紙幣の贋造可能なる事を相手に信用さす爲眞紙幣の表裏を上手に剝がしそれを逆に貼りこれは出來損ひだがこの程度なら大丈夫だと云つて欺く材料にする。
さんぷん 美人を云ふ。(東京デパート)
さんぼん〔三本〕 花骨牌の同種札三枚揃ひの役の名。
さんま〔秋刀魚〕 看守、又は洋刀の事を云ふ。秋刀魚は洋刀に似てるより。
さんまい 猿。警部を云ふ。
さんまいめ〔三枚目〕 屋根を破る窃盜犯「さかり」に同意。又道化役者を云ふ。(役者隱語)
さんまえ 墓場。(尾張の方言)
さんもんぐるぶるぎ 寺院佛堂を云ふ。
さんむれ 半纏。(朝鮮人隱語)
さんや 合鍵を云ふ。
さんやぶくろ 門戶其他を切破る爲めに使用する道具を入れてある袋を云ふ。
さんよーかいごつた 憲兵、巡査の來るを知り、現場を逃走する事を云ふ。

し の 部

じ 鼻の事を云ふ。
しあ 自分。「わし」の倒語。
しあんじよ〔思案所〕 便所を云ふ。「しあんどころ」とも云ふ。
しいかん 火災を云ふ。
しいご 幼少年を云ふ。「がり、ごらん」とも云ふ。
しいちはん〔四一半〕 采賭博の一種にて平安朝以後に行われたもの。「七半」に類するもの。「さいばくち」參照。
しいや 贓物故買犯を云ふ。
しいる 出來る。(尼ケ崎市附近の方言)
しいれにゆく〔仕入行〕 窃取なすべく目的地へ赴く事を云ふ
しうばく〔西瓜〕 頭。(朝鮮人隱語)
しうばくばつ〔西瓜畑〕 墓地。澤山ある墓碑を西瓜に例えたもの(朝鮮人隱語)
しうり〔鷲〕 警察署。(朝鮮人隱語)
しお 星月夜を云ふ。
しおー 財布を云ふ。昔、財布は鬱金木綿で作られたものであるが其色が「くちなし色」だから、啞にもぢつて更にそれを轉倒せし語。
しおあまい〔鹽甘〕 監督緩漫なる官吏を云ふ。又は怠惰者を云ふ。
しおからい〔鹽辛〕 監督の嚴重なる官吏又は注意深き人を云ふ。
しおびき〔汐引〕 黄昏を云ふ。
しおまち〔汐待〕 時機、時刻を待つの意より轉じて時間、機會の意。
しおまち〔汐待〕 寢る事を云ふ。
しか〔子菓〕 菓子類を云ふ。
しかおい〔鹿追〕 詐話師詐欺(さわしさぎ 參照。
しかおし 通行人に尾行して油斷を窺つて窃盜を働らく者を云ふ。
しかく〔四角〕 寺院、豆腐、風呂敷を云

ふ。

しがつのはたけ〔四月畑〕 目的の人物が思慮深くして容易に詐欺手段に乗らない事を云ふ

しがね 昆布を云ふ。（北海道松前の方言）

じかぬか〔字乎無乎〕 穴開錢や銅貨等にて表裏の當合をする賭博。

しかば 「ひがば」に同意。同項參照。

しがま 氷柱（つらゝ）を云ふ。（青森縣の方言）

しかま 詐欺賭博犯を云ふ。

しからぼ 鐵砲を云ふ。

じかん 金錢や物品の計算をなす事。

じかんやぶり 規則に違反する事。「監視破り」の意より。

しき〔敷〕 住家。旅館。或は山窩等が蟄居する野小屋の類、詐欺賭博犯が被害者を連れ込む料理屋等、又は賭場をも云ふ。「やしき（屋敷）」の略。

しき 犯人。乞丐を云ふ。【岡山縣】

しぎ 詐欺賭博犯人の中で相手を巧言を以て誑かし「しき（目的の場所）」へ案内する役を云ふ

しきあたり〔敷當り〕 刑事が犯人の所在を搜査する事を云ふ。

しきくら〔敷倉〕 倉庫を云ふ。「しき」參照。

しきざ〔敷座〕 座敷の意。ざしき（座敷）の倒語。

しぎざうち〔敷座打〕 詐欺犯人を云ふ。

しぎざし〔敷座師〕 詐欺犯人を云ふ。

しきしま〔敷島〕 夫より妻の方が學問がありて權勢のある事「歌つくる女は妻にもたぬもの亭主を尻へ敷島の道」よりか。（學生語）

しきいきば 寢所を云ふ。

しぐ 槍を云ふ。

じく 賭博類似の方法（詐欺賭博）にて商賣をなす者。籤の倒語。

しくた 贓物。又は衣服を云ふ。

しくた 小刀の類を云ふ。【熊本縣】

しくたや 古着屋を云ふ。

しくはツた 殺人犯。（朝鮮人隱語）

しくみ 窃盗の目的を以て他人の邸宅に忍入る事を云ふ。

しけ〔暴風雨〕 豫測に反する事、又は都合の惡しき事或 危險なる狀態を云ふ

じけ 刑事を云ふ。「けいじ」の倒語。「じけい」の略。又看守、巡査の意もある。

じけ 檢事。「けんじ」の倒語。「じけん」の略。

じけい 刑事を云ふ。

しけしけ 「危險々々」の意。

しけなやつ 馬鹿な事（逮捕せらるゝ事が目に見えて居る樣）をして逮捕せらるゝ者を云ふ。それより轉じて馬鹿な阿呆な奴等の輕い意もある。

しけのたゝきもの 贓物を云ふ。（露天商人語）

しけのらん 木綿衣類を云ふ。

しげま 藝妓を云ふ。

しげり 藝娼妓等としめやかに物語りなどする事。（花柳語）

しける 「しけ」を動詞に使つたもの「しけ」參照。

じける 物品を惠與せらるゝ事。【岩手】

しげん 檢事、「けんじ」の倒語。

しこ 巡査を云ふ。

しご 時計を云ふ。

しこー〔四光〕 桐、櫻、坊主、松の二十点札四枚合せて取つた時を云ふ。

しこず 人を毆打する事を云ふ

じこど〔地事〕 知人等の家に起居し近邊をあらす事を云ふ。

じごま　探偵小説的の窃盜犯人を云ふ。西洋輸入の活動寫眞「ジゴマ」から出たもの。

じごまる　ジゴマを動詞化したもの「じごま」に同意。

じこらせる　毆打せらる事を云ふ

じごろ　劇場、寄席内の窃盜犯を云ふ。

しころびたー　喧しいとの意。(朝鮮詐欺賭博用語)

しさんきん(持參金)　强窃盜犯人が番犬に吠えられぬ様に握飯、牛肉の煮物等を持つて行く事を云ふ。

しゝうま　靴を穿きたる人が通行せる事

しゝをつかう　破獄、又は抵抗等の非常手段を云ふ。【京都】

しゝをつかむ(猪摑)　官吏に贈賄する事拾圓紙幣に猪の模様あるより。

しゝた(四下)　采賭博の一種を云ふ

しゞみ(蜆)　少女の陰部を云ふ。

しゞみ　半玉の事。一本になつた事を蛤と云ふ。

シスター(Sister)　同性愛の對稱を云ふ。「おめ」、又は「シス」とも云ふ。(女學生語)

した(下)　女子の陰部を云ふ。

した(舌)　蒟蒻を云ふ。(女詞)

した(爲た)　借りる事。【岩手縣】

したどや　(下流の)宿屋を云ふ。

したぬき(舌拔)　釘拔を云ふ。

したば(下場)　女の陰部。下女。若い女を云ふ。

しだんちよー(師團長)　薩摩芋を云ふ。

しちがつ(七月)　强盜犯を云ふ。强盜を別に「踊込」と云へる語あり踊りの月と云ふ意から「とん／＼」、「おさえ」等同意。

しちがつ(七月)　馬鹿者の意。「ぼん(盆)やり」の盆は七月なるより。

しちけん　圍碁將棋に金品を賭ける事。

しちけん(七間)　門を云ふ。

しちすん(七寸)　羽織を云ふ。

しちだんめ(七段目)　二階より忍入る窃盜犯を云ふ。假名手本忠臣藏七段目にお輕が二階で延鏡をしてゐる故。

しちぶをかます　詐欺的方法を用ひて賭博をなす事を云ふ。

しちぶざい(七分采)　丁又は半の目のみ出る様に骨子の一方に鉛を入れたるものを云ふ。然れ共必ず其の仕掛け通りの目が出ない場合が往々にして存する故先づ七分の利があると云ふ意より。「あんいりざい」に同意。

しちふだ(質札)　八百屋の物品を云ふ。種々雜多のものがある故

しづか(靜)　宿屋荒し。「かんたんし」に同意。

しづか(靜)　藝妓を云ふ。靜御前より

しづか　數量の五。多くは略して「づか」と云ふ。(露天商人語)

しづかのはい　胡麻の蠅を云ふ。「四月蠅」の轉訛。

しツく(Sick)　月經を云ふ。(女學生語)

じツた　行違ひを云ふ。【石川縣】

じツてる　金錢を貯蓄してゐる事、又は多額の金錢を所持してゐる事を云ふ。

しツぴき　犯人が施錠の箇所を探ぐる爲めに用ゆる道具を云ふ

しツぴく　鋸を云ふ。

しつれたなんだ(截出)　物品の取引を云ふ。(朝鮮人隱語)

してむせぶた　機敏なる刑事又は巡査を云ふ。(朝鮮人隱語)

してん　天幕を云ふ。

じどーしや(自動車)　贓物の運搬を云ふ

じなみ　穢多。(新潟縣長岡の方言)

しなのや　鎮守の宮を云ふ。

しのび〔忍〕　深夜忍入る窃盗犯を云ふ。

しのび〔忍〕　夕暮を云ふ。【九州】

しのびかんたん〔忍邯鄲〕　波止場や停車場で上陸、下車する者の中、金品を所持して居さうな人物を尾行して同じ宿屋に泊まり夜中に金品を窃取する者を云ふ。

しのびし〔忍び師〕　深夜忍入る窃盗犯人を云ふ。『ふけし、のびし』等同意。

しば〔柴〕　骨牌を云ふ。

しば　賭場開張中、事情によつて一時中止する事を云ふ。

じば　數量の二。（京阪不良車夫）

しばいにゆく〔芝居行く〕　犯人が目的の場所を檢分する事を云ふ

しばかれた　現行犯にて逮捕せらるゝ事又不成功に終る事を云ふ

しばた　他人の妻。又は女賊。「したば」の倒語。

しばれ〔縛〕　巡査を云ふ。【島根縣】

じはん　判事。「はんじ」の倒語。

しはんづら〔師範面〕　醜婦。（學生語）

しふ　多くの贓品を得た事を云ふ。

しぶいたはね〔四分板刎〕　扉を破つて（刎除けて）忍入る窃盗犯を云ふ

しぶる　就床する事を云ふ

しぶる　窃盗の目的を以て施錠の個所を破壞する事を云ふ。

しぶろく〔四分六〕　下級官吏を云ふ。

しべ　男物の古着類を云ふ。

しべ　辯護士。「べんごし」の中二字を略せしものか。

しほん〔四本〕　四つ辻。交叉点を云ふ。

しぼん　曇天を云ふ。【支那人語】

しほんくじ〔四本籤〕　てきや（的屋）と稱する詐欺の一種で竹篦の籤四本を用ひ其一つに一厘錢などを附けそれを引き當てたるものには金時計、反物等を賭金に應じて與えると稱して引かしむる事を云ふ。此の場合四本の籤を二本宛二組になし一方の二本を休み籤と稱して引く事を禁んじ殘りの二本より引かしむるのであるが休み籤の中に當り籤を混じて置く故當る事が無く客は遂に賭金を詐取せらるゝのである。

しま〔島〕　遊廓を云ふ。

しまだ〔島田〕　土藏破りに成功せし事。【山形縣】

しまだまげ〔島田髷〕　贓物の多量なる土藏を云ふ。

しまだむすめ〔島田娘〕　新築の土藏又は財物の豐富なる土藏を云ふ。

しまばらし　現金專門の窃盗犯を云ふ。

しまふく〔島福〕　福島地方を云ふ。

しまらん〔島亂〕　强姦。島田髷が亂れし意よりか。

じみし　戸毎に訪問してまやかし物を賣り歩く者、例へば朝鮮人、支那人の風を裝い怪しげなる言語を以て萬年筆、置物、簪等を賣歩く者を云ふ。

しめ〔締〕　捕繩。其他の戒具を云ふ

しめあげ〔締上げ〕　施錠の個所を破る事

しめてん　豫期の結果を得た事を云ふ。唯單に「てん」とも云ふ。

じめにかゝる　逮捕せらる事を云ふ

しめる〔締〕　威嚇的手段又は逮捕せらるゝ事を云ふ

しめる〔締〕　施錠の個所を破る事。

しめらん　見えない事。（淡路の方言）

しもく　戸を切るに使用する丁字型の器具を云ふ。

しもくてん　三等列車を云ふ。

しものせき〔下の關〕　靴類を云ふ。鞄を別に「ばかん」と云ふ。元下の關を「馬

關(ばかん)」と云ひしより。
しもすぼり　荒淫者を云ふ。
しや(者)　者と云ふ意。例へば「てめいどこのしやだ」「おれかどこのしやだ」は「お前は何處の者だ」との問に對して「自分は東京の者だ」との返事、「さかのしや、べこのしや、はまのしや」は夫々大阪の者、神戸の者、横濱の者の意。又「わんのしゃ」は椀の者即ち乞丐の意「はしのしたのしや(橋の下の者)」も同意。
じや。搔拂ひを云ふ。
しやをら(逍了)　逃亡。【支那人語】
しやか(釋迦)　戒具。手錠を云ふ。
しやか　巡査を云ふ。
しやがいからす　神主を云ふ。
しやき(車汽)　汽車。汽車の倒語。
しやぎなた　醫師を云ふ。
しやく　巡査を云ふ。
じやく　子供を云ふ。
しやくからまんごう　麥飯を云ふ。
しやくはち(尺八)　田舍の商店等にて小錢を入れる爲めに作れる尺八類似のもの。
しやくる　掏摸を云ふ。

しやげい(者藝)　藝妓を云ふ。
しやごま　髷。又は頭髮を云ふ。「入れ毛」の事を「しやぐま」と云ふ。同語の轉訛。
じやこーじか(麝香鹿)　浮浪人【北海道】
しやじ　密賣淫婦を云ふ。
しやしや　手紙。官公文書等を云ふ。
しやしやいくれ　犯罪容疑者を云ふ。
しやしやいり　印半纒を云ふ。
しやしやをはわす　手紙を出す事。
しやしやがはう　手紙が來た事。
しやす　無免許齒科醫を云ふ。
しやツぼん　詐取する事。又は豫期通りに物事が運ぶ事を云ふ。
しやツぼにする　出し拔く事。(尾張の方言)
しやでん(車電)　電車を云ふ。
じやば　夜を云ふ。【福岡縣】
しやはい(社拜)　神社、佛閣等を云ふ。
じやばら(蛇腹)　咽喉。頸を云ふ。
しやぶる　自炊する事。(淡路の方言)
しやべい　藝娼妓を云ふ。
しやま　特殊部落民を云ふ。
しやみさけのあら　「速かに犯行をなせ」との意。(朝鮮人隱語)

じやむし(蛇虫)　被害價格の少き窃盜犯小泥棒の意。
しやも(軍鷄)　藝妓を云ふ。
しやよる(下窰兒)　強盜。(支那人隱語)
しやらだ　合鍵を云ふ。
しやり(舍利)　白米。飯を云ふ。米粒を佛(敎)語にて舍利と云ふより來たる語「あましやり、ながしやり、よーしやり」等は夫々菓子、麵類、洋食、又は食麵麭を云ふ。「しやりほわえる、しやりつく」は共に喫飯の意。
じやり(砂利)　女。子供。足手纒ひの意から。
しやり　強盜を云ふ。
しやりこもどし(舍利子戾)　鎖付の懷中時計を鎖から外ずして窃取する事。
しやりし(砂利師)　強盜を云ふ。
しやりたゝき(砂利敲)　持兇器強盜。
しやりつぐ(舍利繼)　喫飯を云ふ。
しやりとば(舍利止場)　米穀倉庫。米穀商を云ふ。
しやりなか　差入辨當を云ふ。
しやりねかる　空腹を云ふ。
しやりま　下女を云ふ。
しやりほわえる　喫飯の意。

しやん〔項〕 金錢。（支那人隱語）
しやんさい 危險狀態を云ふ。〔九州〕
しやんぴよん〔常平〕 貨幣。「常平通寶」の文字より。（朝鮮人隱語）
じゆーあか〔拾赤〕 拾圓金貨を云ふ。
しゆーいけ 手提鞄の類を云ふ。
じゆーいちがつ〔十一月〕 雨天。花札の十一月（雨）より。
じゆーいちばん〔十一番〕 接吻を云ふ。英語 Kiss のKはアルファベットの十一番にある故。（不良青年）
しゆえほー〔雪花〕 掏摸。【支那人語】
じゆえみすれぬちや 委託金品拐帶逃走（朝鮮人隱語）
じゆーく 牛肉を云ふ。
しゆーげん〔祝言〕 數人共謀の竊盜犯又は犯罪の手段等を議する事を云ふ
じゆーごや〔十五夜〕 豫期の結果を得た事を云ふ
しゆざ〔首座〕 鯛を云ふ。（僧侶隱語）
じゆーしちむすめ〔十七娘〕 金品の豐富なる土藏、又は新築の土藏を云ふ。「じゆーしちはちのむすめ」とも云ふ。「むすめ」參照。
しゆーと〔姑〕 番犬を云ふ。

しゆーとをくどく〔姑口說〕 番犬に餌を與える事を云ふ。
じゆーにごー〔十二合〕 肥滿したる馬、牛を云ふ。（北陸、山陰の博勞語）
じゆーのじ〔十の字〕 錠を云ふ。
じゆーはいぎよー〔自由廢業〕 破獄の事
じゆーはち〔十八〕 新築の土藏。又は財物の豐富なる土藏を云ふ。「むすめ」參照。
じゆーまいもち〔十枚持〕 花骨牌使用の賭博の一種。
じゆーらん 大根。【茨城縣】汁【岐阜縣】
じゆーろく〔十六〕 尿。「四四十六」の四四（しゝ）から出た語。
しゆんかん〔俊寬〕 無期刑を云ふ。俊寬僧侶が硫黃ケ島へ流刑せられた故事から。
しゆんしゆりゆー〔須水流〕 所在を晦ます事を云ふ
しよー 姦夫。情夫を云ふ。
しよー 警察署長。「おやひげ、おやだま」參照。
しよいをまく 人が背負ひしものを竊取する事を云ふ
しよーが 吝嗇なる人を云ふ。

しよーかぐはらし 證據物件と共に逮捕せらるゝ事を云ふ。
しよーがつもち〔正月餅〕 聾者を云ふ。
しよくにん〔職人〕 竊盜常習者を云ふ。
しよくや〔食屋〕 洋食屋を云ふ。
じよーげにまいる〔上下參〕 竊取すべく外出する事を云ふ。
しよしや 娼妓を云ふ。
しよーじん 野猪。又は朝を云ふ。
しよせ 毆打する事を云ふ。
しよーぞく〔裝束〕 莫大小（メリヤス）。
しよつた 阿呆者を云ふ。
しよつこい 「やりで」に同意。
じよてん〔井天〕 頭髮。毆打。「天井」の倒語。
じよーとー〔上頭〕 藝娼妓が處女を破る事を云ふ。
しよーとく 眞實の意。（尾張の方言）
じよーどや〔上宿〕 高等旅館。「どや」は宿の倒語にて「じよー」は上等の意。
しよーねん〔少年〕 男子同性愛の對照を云ふ。美少年の略。（學生語）
しよはい〔諸拜〕 神社。佛閣を云ふ。
しよーばい〔商賣〕 强盜をなす事、又一般竊取行爲をなす事「あきない」參照。

しよーばいぎり　窃盜を云ふ。
しよーひん　拳銃。猫を云ふ。【大阪】
しよーふだ　目印を附けたる札を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
しよーぼん　賭博の開張を云ふ
しよや　夜半。夕暮の事を云ふ。
しよーやし　「しのび、のびし、ふけし」に同じ。
しよやば　人家の裏口又は家の裏側。
しよーゆだる〔醤油樽〕　淫亂なる女。
じよるがぴッぢッた　刑事。密告者を云ふ（朝鮮博徒隱語）
じよろ〔女郎〕　一般詐欺的行爲者を云ふ
しよーろく　犯行を云ふ。
じよーらいした〔上來爲〕「そわかした」に同じ。（僧侶隱語）
しら　女賊。「しらなみ（白浪）」よりか。
じら　窃盜犯。（しらなき）の轉訛か。
じら　狡猾なる事。又盜賊の稱。（中國、四國の方言）
しらいと〔白糸〕　そーめんを云ふ（女詞）
じらいや〔自雷也〕　鞄等窃取する事。「おき」に同意同項參照。
じらいや〔自雷也〕　鐵砲を云ふ。
じらいや〔自雷也〕　蟇口を云ふ。兒雷也に蟇は附物なる故。

じらかし　逃走を云ふ。【岩手縣】
しらをきる　知る振りをする事。又は自白せぬ事を云ふ
しらぎのちーろく〔新着長六〕　新築の土藏又は白壁の土藏。
しらくび〔白首〕　密賣淫婦。首迄こてこてと白粉を塗るより。
しらさぎ〔白鷺〕　詐欺犯人を云ふ
しらさぎ　豆腐の事を云ふ。
しらさぎ〔白鷺〕　夏服着用の巡査。
しらじ　夜半を云ふ。
しらじん　「かけだしもの」に同意。
しらせだな　貧民窟を云ふ。
しらたか〔白鷹〕　夏服着用の巡査。
しらたばれ　霜が降つてゐる朝。「うすげしよう（薄化粧）」に同意。
しらたぼつ　夜明け頃を云ふ。
しらちらんかける　月夜に窃盜を働らく事を云ふ。
しらてら〔白照〕　月夜を云ふ。
しらとり〔白鳥〕　豆腐を云ふ。
しらは〔白歯〕　「しらはむすめ」に同じ。
しらば〔平場〕　掏摸犯が市中を徘徊する事を云ふ。

しらはむすめ〔白歯娘〕　新築の土藏。金品の豐富なる土藏。又は未婚者、未通女を云ふ。
しらびよーし〔白拍子〕　平安朝時代に出來た舞妓であるが賣淫行爲も兼ねて居つたので後世には賣春婦の稱。
しらびら〔白片〕　絹物の衣服を云ふ。
しらべら〔白片〕　「しらびら」に同意。
しりきれ〔尻切〕　襦袢を云ふ。
しりけん　門を云ふ。
しりさがし〔尻探〕　「あきすねらい」に同意。
しりちや　逃走。（朝鮮人隱語）
しりひき　監督緩漫なる看守を云ふ。
しりまくり　土藏の背部の壁を破つて忍入る窃盜犯を云ふ。
しるばい〔絲卷〕　骨牌賭博。（朝鮮人隱語）
しるべ〔知邊〕　犯罪の教唆又は犯罪をなすに適當なる場所へ案內する事を云ふ
しろ〔白〕　晝間。白晝の意より。
しろ〔白〕　普通詐欺犯を云ふ。
しろ〔白〕　銀貨又は銀側時計を云ふ。
しろ〔白〕　蠟燭「へんざり」とも云ふ。
しろ〔白〕　白米。飯（白米の）を云ふ

しろ〔白〕　酷寒。雪の聯想
しろおに〔白鬼〕　密賣淫婦。「しらくび」に同意。
しろおに〔白鬼〕　判事を云ふ。
しろゑぬる〔白塗〕　長箱師（汽車内窃盗犯）が堂々たる紳士の風を裝ふて一等（白切符）で乘廻す事を云ふ。
しろをひく〔白引〕　喫飯（白米の）を云ふ
しろがらす〔白鴉〕　詐欺犯人を云ふ。
しろぎつね〔白狐〕　夏服着用の巡査。
しろく〔四六〕　刑務所を云ふ。囚人が食する飯は米四分、麥六分の割合になつて居るより。
しろく〔四六〕　窃盗犯人を云ふ。
しろぐち〔城口〕　一般住家の表口玄關先等を云ふ。
しろくや〔四六屋〕　刑務所を云ふ。「しろく」に同意。
しろし　紳士、豪商、其他風采の立派なる人物を云ふ。
しろすこ　銀側時計を云ふ。
しろすじ〔白筋〕　脊部を云ふ
しろたび〔白足袋〕　空巣狙ひを云ふ。
しろたま〔白玉〕　銀側時計を云ふ。
しろてん　銀側時計を云ふ。

しろとり〔白鳥〕　教習所を出所したばかりの巡査を云ふ。
しろとんび〔白鳶〕　「あきすねらい」に同じ。
しろぬり〔白塗〕　僧侶を云ふ。
しろみ〔城見〕　表口。玄關を云ふ。
しろもの〔代物〕　贓品を云ふ。又は窃取した衣類等を着用する事を云ふ。
しろもの〔代物〕　男子の陰部。又は情婦情夫を云ふ。
しろもの〔白物〕　豆腐、鹽を云ふ。（女房詞）
しろゆもじ〔白湯文字〕　密賣淫婦。
しろれんが〔白煉瓦〕　豆腐を云ふ。「あかれんが」は鮭なり。（囚人語）
しわ　「わし」の倒語にて己の意。【關西中國、九州】
しわすい　雪。雨天を云ふ。
しん〔新〕　新造の略にて若き婦人を云ふ
しん〔身〕　乾分を云ふ。
しん　賭博の胴親を云ふ。
じん〔人〕　人を云ふ。じんをしめる（人を占める）人を集めるの意。じんきやく（人客）とも云ふ。（露天商人語）
しんか　菓子類を云ふ。

しんかまり　新に入監せしものを云ふ。
しんがもり　「しんかまり」の轉訛せしもの、同項に同意。
じんぎ〔仁義〕　博徒。露天商人、土工等の渡り者、流れ者が互に交わす挨拶を云ふ。
じんきち〔甚吉〕　牛。又は紐附財布の類
しんきやく〔新客〕　被害者。（詐欺賭博犯用語）
しんきよ　「しんきやく」の略。「しんきよ」に同意。
しんぐれ　新しく入つた浮浪少年。
しんげえる　獨逸者。獨逸語の〔Singerin 謌ひ女〕よりか。（學生語）
しんげん〔信玄〕　甲斐絹類を云ふ
しんげんばらす　粥汁を焚く事を云ふ。
しんこ　教習所を出所したばかりの巡査
しんこや　反對者を云ふ。【京都】
しんごろ　通貨の僞造を云ふ。
しんし〔紳士〕　銀座カフェーにてチップに二、三圓與れる客を云ふ。
しんしろ〔心白〕　牡丹餅を云ふ。中心が飯にて白きより。
じんすけ〔甚助〕　荒淫な男を云ふ。
しんすいしき〔進水式〕　藝娼妓が處女を

破る事を云ふ。

しんせき〔親戚〕 賍物故買者を云ふ。

しんせき〔親戚〕 贋物の書畫。（骨董品仲間）

しんぞー〔新造〕 女の陰部。土藏を云ふ

しんぞー 副食物を云ふ。

しんた〔晋太〕 金錢。「じんた」とも云ふ「しんたかめる」は金錢を差入れる事。「しんたいれ」は錢入の意。

しんたい 支那人を云ふ。

じんだい〔盡大〕 詐話師（さわし）詐欺仲間にて大盡の風を裝ふものを云ふ。「さわしさぎ」參照。

しんだむすめ〔死娘〕 施錠がなく。財物の貧弱なる土藏。又、「いんらんむすめ」とも云ふ。

しんちよ 十五日過ぎの月を云ふ。

しんとくない〔心得無〕 「得心が無い」の意。

しんとくないやちをぎる 强姦を云ふ。

しんとくないやちをふく 强姦を云ふ。

しんとくないやちをへぐ 强姦。「やち」は女子の陰部を云ふ。

じんとー〔人唐〕 外國人を云ふ。

じんどー 土藏。又は土藏の窓を云ふ。

じんとー 「しちだんめ、おかる」に同意

しんねこ 藝娼妓等と睦まじくさゞめく事を云ふ。

しんのー〔神農〕 親分。（露天商人語）

しんねた〔新種〕 「ねた」は種にて新種の意より流行物等を云ふ。（露天商人語）

しんぱち〔新八〕 新築又は白壁の土藏を云ふ。

しんばち 老婆を云ふ。

しんはり 「しのび、ふけし、のびし」に同意。

しんぶんみた〔新聞見〕 通信がありし事（長野囚人語）

しんぶんくばり〔新聞配〕 新入監者。

しんぼとけ〔新佛〕 留置場の飯を云ふ。

しんよめ〔新嫁〕 財物が豐富にある事。

しんよめがはくい 忍入る事を云ふ。

しんむま 靴の音がする。【香川縣】

しんるい〔親類〕 警察（東京不良青少年）

すの部

す〔巣〕 住家。或は賍物故買者を云ふ。

すあし〔素足〕 失踪。行衞不明を云ふ。

すあーるーばるにとるいつて〔彈綿〕 急遽逃走。【朝鮮人語】

すい 頭髪。散髪を云ふ。

すい 青菜の類を云ふ。

すい〔水〕 氷。涙。酒。放尿。洪水。或はそれより多くの人が一緒にかたまつて行く形容に使ふ。雨降りをも云ふ。

すい〔水〕 手拭。「すいびら」の略。

ずい 遊興して流連すること。

すいかいん 薄荷の行商人。【長野縣】

すいがばれる〔水暴〕 雨降りを云ふ。

すいがまわる〔水廻〕 雨模様。雨天のことを云ふ。

すいげそ〔水下足〕 雨足駄を云ふ。

すいじ 雨降りを云ふ。

すいしぶり〔水滯〕 風雨を云ふ。

すいしや 制服巡査を云ふ。

すいしよー〔水晶〕 太陽を云ふ。

すいせい〔水精〕 月夜。静かなこと。

すいせん 海を云ふ。

すいた〔好〕 猫を云ふ。博徒間に於て猫の忌言葉。

すいたき〔水瀧〕 雨降りを云ふ。

すいたら〔水垂〕 手拭を云ふ。

すいちよー〔水鳥〕 酒。酒の字は三水扁に酉(鳥)であるより。
すいてき 巡査を云ふ。【宮城縣】
すいてつぽー〔吸鐵砲〕 煙管を云ふ。
すいてん〔水天〕 雨傘を云ふ。
すいとー 掏摸を云ふ。
すいとさ 清凉飲料水。ラムネ、サイダーの類を云ふ。
すいとり〔吸取〕 犯罪行爲の發覺を恐れて主犯者より掏り取つた物品を現場にて受取ること。或は無錢飲食をして逃走すること。
すいとり〔吸取〕 ハンカチーフ。手拭。汚水をふきとるより。
すいは 淨水を云ふ。
すいば〔水場〕 風呂屋。【九州】 炊事場
すいばのかみ〔水場守〕 浴場に於て犯す窃盜常習者。「いたのまかせぎ」に同じ
すいばら 月夜を云ふ。
すいばら〔水暴〕 雨降りを云ふ
すいばらし 頭髮。散髮。或は放尿するを云ふ。
すいばり 月夜を云ふ
すいばり〔水張〕 雨降りを云ふ。
すいばれ 薄情なること(美方郡の方言)

すいばれ〔水暴〕 雨降りを云ふ。
すいばん〔水晩〕 雨降りの夜を云ふ。
すいびら〔水片〕 手拭。略して「すい」ともいふ。
すいまん〔水滿〕 洪水を云ふ。
すいもぐ 惚た人を云ふ。
すいもの〔吸物〕 朵を云ふ
すいもひく 喫煙する事を云ふ。
すいやゑん〔水野猿〕 鼬のこと。【大分】
すいらい〔水雷〕 看守部長を云ふ。
ずゑ 犯罪の證據が發覺したこと。「すゑ」の音訛か。
すゑでら 月夜を云ふ。
すをくむ〔巣組〕 一定の場所を定めて賭場を設けること。(博徒)
すか 掏摸を云ふ。
すかい〔巣買〕 空巣狙ひを云ふ。
すかえ〔巣替〕 逃走を云ふ。
すかし 手桶を云ふ。
すかし〔透〕 障子を云ふ。
すがはら 骨牌を云ふ。
すがもゆき〔巣鴨行〕 「みたはつ」に同じ
すかや 菓子屋。「しかや」の轉訛。
すがら 硝子の事。同語の倒語(香具師)
すからゆく 戸締りを破壞すること。

【京都】
すかり 僧侶。「かりす」の轉換。「かりす」參照。
すかりば 寺院を云ふ。
すぎ〔杉〕 力。(花言葉)
ずき 刑事。巡査を云ふ。
すぎいた〔杉板〕 中等の日本酒。中等の日本酒は杉材の樽に入れる。
すきしや 好色の人物を云ふ。
すきたにのりする〔耕田糊爲〕 强姦。
すく 熟睡を云ふ。
すくりん アイスクリームのこと。(香具師)
すぐれる〔勝〕 正直者を云ふ。
すけ 犯罪行爲中意外な障害に會ふこと或は危險な狀態にあることを感ずる場合。又は沈默を守る誓ひのこと。「しけ」の轉訛を云ふ。
すけ 人が居ないことを云ふ。
すけ〔助〕 密淫賣婦を云ふ。
すけゑ 狡猾なこと。(伊豆の方言)
すけゑ〔助繪〕 春畫を云ふ。
すけゑもん〔祐右衞門〕 貧困者。或は苦勞人。又は面白いこと。(センボ)
すげだ 看守長を云ふ。

すけま〔助馬〕 履物類。或は該物品を專門に盜む窃盜のことを云ふ。
すけまあげ〔助馬揚〕 履物類專門の窃盜
すける 逃亡。行衞不明を云ふ。
すけろく〔助六〕 娼妓。醬油。醬油のことを「紫」といふ、それより助六の鉢卷を聯想したもの。
すこ 頭部。尾張の方言にも頭部のことをいつてゐる。
すこ 懷中時計を云ふ。
すごき〔素扱〕 鋸を云ふ。
すこく 頭部。(尾張の方言)
すこてん 安心の意を云ふ。
すごほり 氷柱を云ふ(會津方面の方言)
すごもり〔巣籠〕 窃盜に忍入るを云ふ。
すこらり 白痴者。大馬鹿を云ふ。
すーじじん 鷄の鳴聲。【朝鮮人語】
すず〔鈴〕 金鎖を云ふ。
すずかけ 好奇心を云ふ。(花言葉)
すずがらぼーひん 馬鈴薯を云ふ。
すすき〔薄〕 勢力。優美なこと。(花言葉)
すずめ〔雀〕 窃盜、日的にて豫め目的の家屋を密に下見すること。或は强盜。
すすや 强盜が被害者の家族の者を殺害强姦を云ふ。

すること。
すーすーよつ〔糖餡〕 深夜。【朝鮮】
すずらん〔鈴蘭〕 希望。幸福。(花言葉)
すだれ〔簾〕 めくりカルタの赤札の十。
すたん 簞笥。同語の轉換。
スタンプ〔Stamp〕 若い男女が交合すること。
すぢ〔筋〕 帶を云ふ。
すぢうち〔筋打〕 地に筋を引く穴一の一種を云ふ。
すぢがみ〔筋紙〕 一八(ちよぼ)賭博の題目記載紙のこと。「ふわ」參照。
すぢもん〔筋者〕 警部以上の警察官。官服の筋より。
すづか 數量の五「しづか」の音訛。五十錢のことを「すづかかん」といふ。同じく「しづかかん」の音訛又五十圓のことを「すづかなばい」といふ。同じく「しづかなばい」の音訛。
すつぱい〔酢味〕 時機が惡いこと。
すつぱん こそ〳〵盜賊を云ふ。
すつぷり 入浴。「すつぽり」ともいふ。
すて 警察署を云ふ。
すてもの〔捨物〕 浴場に於ての窃盜行爲
ステツキ〔Stick〕 牛蒡を云ふ。

すとツペ 警官を云ふ。
ズドン 掏摸の主犯者が分前以上にはねる上前のこと。或は博徒中の頭目が配下の者から利益の一部を取ること。或は逃亡。行衞不明のこと。鐵砲の彈丸に例へて
ストライキ〔Strike〕 共謀でなす動作のことを云ふ。
すなきユー〔砂久〕 食物のまづい下等の宿屋。以前橫濱に砂久といふ雜用宿のありしことより。(力士)
すなはらい〔砂拂〕 蒐弱を云ふ。
すなぶろ〔砂風呂〕 密淫賣窟。保養風呂の一種であるが、內實は女を雇ひ置き醜行爲をなさしめることより。
すねぐろ〔脛黑〕 警察官吏。或は田舍者百姓のことを云ふ。
すーば〔巢場〕 屋內に忍入る窃盜を云ふ
すばちヨー 厠を云ふ。
すはり 南瓜を云ふ。
すひ 手袋を云ふ。
すひかづら 寬大で獻身的な愛情をいふ(花言葉)
ずぶた 銅貨。金銀貨幣。【熊本縣】「つぶた」の音訛か。

すべ　不良少女を云ふ。
すぺい　結果が思はしくないこと。
すべた　娼妓。醜い女。或は足駄を云ふ
すべめ　強盜。強姦を云ふ。
すぺら　手拭。「すいぺら」の略し訛したもの。
すべらし〔辷〕　情を知りて贓物を隱匿してやるものを云ふ。
すべり〔辷〕　辯護士。或は女子の陰部に無毛のものを云ふ。
すべり　薄綠を云ふ。
すぼ　藁などにて、包みに作りたるもの、即ち苞のこと。（四國邊の方言）
ずぼ　僧侶。坊主の音轉。
すぼけ　陰莖を云ふ
ずぼちヨー　鬮を云ふ。
すぼひき　賣引のことを云ふ。
すま　同類。仲間。【岩手縣】
ずま　手品師を云ふ。（香具師）
すまのうら〔須磨浦〕　手淫を云ふ
すみきくん　窃盜。【朝鮮人語】
すみこみ〔住込〕　窃盜や横領の目的にて商店等に住込むこと及其犯人のこと。
すみにする〔炭窯〕　放火を云ふ。
すみれ〔菫〕　誠實なこと。（花言葉）

すむるはんいむ〔二十一文〕　刑事。私服巡査。【朝鮮人語】
すめ　娘。處女。「むすめ」の略。或は土藏。土藏破りのことを云ふ。
すめくら〔素盲〕　骨牌賭博に丁半の片方のみが續出するをいふ。
すめこ　娘を云ふ。
すもーをいかした〔相撲活〕　物事を仕遂げたこと。反對に仕損じたことを「すもーをころした」といふ。
すもーとり〔角力取〕　骨牌賭博を云ふ。
すもとりいた〔角力取板〕　骨牌。「すもーとりたい」ともいふ。
すもの〔素物〕　花札の一點札を云ふ。
すもーのゑ〔相模繪〕　春畫を云ふ。
すもも〔李〕　幼兒を云ふ。
すもも〔杏〕　不敬のこと。（花言葉）
すやく　玄米を云ふ。
すやり〔素鎗〕　葱。或は陰莖のこと。「ぬきみ」ともいふ。
ずら　物品の借受を云ふ。
ずら〔摺〕　無錢飲食。或は破獄逃走。「ずらかる」「ずらす」「ずらく」「ずらん」ともいふ。
ずらかる〔摺〕　贓品を處分すること。

ずらた　制服巡査を云ふ。
ずらまく　危險なること。逃走を云ふ。
すりー　被害者が己の被害を感じること用意ードンーの號令一(わん)、二(つう)、三(すり)の切端詰つた時の感じよりか。
すり〔掏摸〕　他人の油斷せる隙を窺ひ巧みな技術を以て目的の人物より直接金品を掏り取る者。これらには色々の種類あり汽車、電車、汽船、乘合船等の乘物の中に於て專門として掏摸をする者、街路に於て掏り取るを專門とする者。其他種々のことを專門として掏摸を行ふ者がある。汽車、電車等を專門とする者を「箱師」と云ひ、その中で汽車を專門とする者を「長箱師」ともいふ船内を專門とする者を「浮巣つかひ」と云ふ。其他それぞれ「掏摸」以外に名稱がある。技術の方法はそれぞれ異つてゐるが大體刄物器具等を用ふる者は未熟練者で上手な者は使はない。關西地方にて「ちぼ」「巾着切り」といふのは主として街路や混雜した場所に於ての掏摸をいふ。
すりか　飛白の反物。「かすり」の轉換。
すりく　藥。賣藥店。或は夜店などにて

藥品類似のものを賣る商人。〔くすり〕の轉換。

すりこ　藥を云ふ。（香具師）

すりこぎ〔擂粘木〕　性惡の下女を云ふ。

すりばち〔擂鉢〕　饅頭笠。或陰門を云ふ

すりび〔摩火〕　マッチを云ふ。

ズリンブリ　浴場を云ふ。

ずる　褌を云ふ。

するめ〔鯣〕　脚袢の類。或は鍋のこと。

スロップ〔Slop〕　巡査を云ふ。

スン　ウンスンカルタの唐人の模様ある札のことを云ふ

すん　密議。會合を云ふ。

すんきづ　牛。「じんきち」の音訛。

ずんど　玄米。玄米を入れる袋を「ずんど袋」といふそれよりか。

ズンブリ　浴場。入浴。入浴の際の音より。或は錢湯にて自分の衣服と他人の衣服とを殊更に取換へてその中の金品を窃取する者。該時取換へた衣服を目的とする時あり。「いたのまかせぎ」のこと。

ズンブリあらし　「いたのまかせぎ」のことを云ふ。

ズンブル　入浴を云ふ。

ズンボリ　池を云ふ。【福島縣】

せ の 部

せい〔淸〕　酒。「せいざ」の略「センボ」より。

せいうちや〔立〕　殺人。【朝鮮人語】

せいうん　鴨を云ふ。

せいうん〔靑雲〕　喫煙を云ふ。

せいがく〔生學〕　學生を裝ふ不良靑年やテキヤのこと。

せいげん　貧困者を云ふ。

せいざ〔淸三〕　酒。「せいざぶろー」ともいふ。略して單に「せい」ともいふ。（センボ）より。

せいだ　酒。「せいざ」の音訛。

せいたか〔脊高〕　貴顯紳士。風采の立派な紳士風の人物を云ふ。

せいつからす　弱り込むこと。（尾張の方言）

せいひき〔淸引〕　酒を飲むこと。「せいひく」ともいふ。

せいりてきびじん〔生理的美人〕　肉體的に發達してゐる醜婦のことを云ふ。

せうけ　笊のこと。（九州、中國、北陸地方の方言）

せえや　厠を云ふ。

ぜえら　看守を云ふ。

せおいをまく〔脊追捲〕　通行人が脊負つてゐる品物を窃取することをいふ。

ぜか　風。同語の音轉「せお」ともいふ

せかい〔世界〕　太陽。月を云ふ。

せかい〔世界〕　大阪の歡樂地新世界のことを云ふ。

せがれ〔悴〕　陰莖を云ふ。

せき〔席〕　宿屋を云ふ。

せきしよ〔關所〕　警察署を云ふ。

せきだたいふ〔雪駄太夫〕　下駄直し屋のことを云ふ。

せきひき　捜査が嚴密になつて危險切迫したことを云ふ。

せきひん〔赤貧〕　蚤を云ふ。

せきもり　笊。又は味噌こしのこと。（女詞）

せけ　金錢。（朝鮮人語）

せけん　手を云ふ。

せけん〔世間〕　諸方を浮浪徘徊すること

ぜげん〔女衒〕　人身賣買を業とする者。

せけんし〔世間師〕　惡事の巧みなる者。物事によく通じてゐる意より。

せけんし〔世間師〕 諸方を流浪徘徊し詐欺的行爲をなす者を云ふ。
せこ 賭博に負けたことを云ふ。
せご〔迫〕 人家に沿うた小路。或は裏小路。又は貧民街を云ふ。
せこい 困難なこと。苦しいこと。（淡路の方言よりか）
せこつかす 傷害。殺人を云ふ。
せごわれ 券を云ふ。
せこんと 懷中時計。（尾張の方言）
せじ〔世事〕 房事を云ふ。
せせり 犯罪密告者を云ふ。
せたける 食ひ盡すの意。（尾張の方言）
せつ 星を云ふ。
せツこ 繩掛けた荷物を云ふ。
せツた〔雪駄〕 贓物の取引を約束した場合代金を物品取引の後に受渡しすることを云ふ。前金で受渡しするのを「靴」といふ。これは雪駄の裏金が踵の方にあるに反して、靴は主に爪先の方にあるより。
せツたのかわ〔雪駄皮〕 牛肉を云ふ。
せツば 一八賭博の時上札が出てゐることを云ふ。
せツぱつ 茶碗の類。鐵鉢よりか。

せツぱん 雨降りを云ふ。
ぜツぺ 是非の意。（神崎郡の方言）
せと〔瀬戸〕 どんぶり飯を云ふ。
せど〔脊戸〕 住家の裏口より忍入ること
せとものや〔瀬戸物屋〕 賭博を云ふ。
せなき 怠けること。【長野縣】
ぜにあふひ 溫和なこと。（花言葉）
ぜにごけ 勇氣。信頼。秘密。（花言葉）
せはり 錠を云ふ。
せび 靴を云ふ。
せぶり 睡眠を云ふ。
せぶりあがる 起きたこと「せぶりあげた」ともいふ。
せぶりをあげた 睡眠中の者が眼を醒ますことを云ふ。
せぶりがあがる 人を起すこと。起きることを云ふ。
せぶりかめる 睡眠中屋内に忍込むこと
せぶりがわかい 熟睡してゐないこと。
せぶりつき 山間や河原等に住むコソ泥の集りを云ふ。
せぶりもと 熟睡してゐる枕もとを云ふ
せぶる 眠る（香具師）。居眠り。或は虚病を使ふ。（センボより來たるもの）

セブン〔Seven〕 質屋のこと。英語の七（Seven）より「セブン屋」「七つ屋」「一六銀行」ともいふ。
せみ 門戸其他戸締りの箇所を破壞することを云ふ。
せみ 店舗を云ふ。店の音轉
せみ〔蟬〕 甲斐絹類を云ふ。
せーみ〔人蔘〕 詐欺賭博。或は其の犯人【朝鮮人語】
せみとば 商家を云ふ。
せめ 金庫。金入れ箱を云ふ。
セメント〔Cement〕 深夜施錠の箇所を破壞し、屋内に忍入る竊盜を云ふ。
せよい 苦しい境遇の意。（淡路の方言）
せらせ 殺人。傷害を云ふ。
せらん 着物類。或は釘拔のこと。
せる 人。【朝鮮人語】
ぜん 官公吏。【朝鮮人語】
せんか 菓子類を云ふ。
せんをはる〔線張〕 非常警戒を云ふ。
ぜんこーじ〔善光寺〕 團子を云ふ。
せんこふき〔線香吹〕 施錠の箇所を線香の火で燒き取り屋内に忍入ること。及其の竊盜犯人のこと。「ふき」ともいふ

せんじゆかんのん〔千手觀音〕 蛸（僧侶）。或は虱のことを云ふ。

せんす 寺院。寺院には多く泉水があるより泉水の略ではないかといはれてゐる。

せんす 庭口の戸締りを破壞して忍入ることを云ふ。

せんす〔扇子〕 結婚を云ふ。（女學生語）

せんすきり 思慮の乏しい輕卒な者のことを云ふ。

せんずり〔千摺〕 蠟燭を云ふ。

せんせい〔先生〕 共謀贋造紙幣行使の主謀者のこと。或は詐欺賭博の場合詐欺賭博師の相談役と稱して現場に來る者のこと。「さわしさぎ」參照。

せんぞく〔千足〕 煎雜魚を云ふ。

せんだいはぎ〔仙臺萩〕 空腹。歌舞伎の千松より。

ぜんなんし〔善男子〕 男色。（僧侶）女の場合には「ぜんによ」といふ。

せんにかかる〔線懸〕 非常警戒線に遭遇し誰可せられること。或は警官に尾行せられることを云ふ。

ぜんによ〔善女〕 情交關係のある女のこと。（僧侶）男の場合には「ぜんなんし」といふ。

せんば 十能のこと。（土佐、北陸、山陰地方の方言）

せんば〔船場〕 大廈高樓の櫛比してゐる市街のこと。大阪の船場よりか。

せんばし〔船場師〕 香具師を云ふ。

せんだり 遊女のこと。（下田方面の方言）

せんぶり 醫師。藥品。姑。或は茶の事を云ふ。

せんべい〔煎餅〕 雪駄を云ふ。

せんぽ 一種の隱語にして「さんしよ」ともいふ。もと德川時代の中期頃より操り芝居通の間に起り漸時一般的に用ひられてきた。現在犯罪者間に於て隱語として用いられてゐるのもある。左にセンポの主要なるものを列記するが、「」の中は本編中隱語として、編されてあるものである。

◉「あがく」＝口をきく。◉あたま＝二十匁。◉「あて」＝飯の菜。◉「いただく」＝仕損ずること。◉「いも」＝僧侶。◉「いれる」＝飲む。◉うかし＝船。◉「うき」＝船。◉上むきへい＝上着のこと。◉馬を上る＝小言をいふこと。◉うめる＝入れる。◉「ゑご」＝兒童。子息。◉ゑむ＝面白い。◉「ゑんとう」＝手。◉「をか」＝顏のこと。◉おきんちや＝お客をいふ。◉「おしくすり」＝唐辛子。◉おほげん＝小判。◉大づの＝百三十二匁の札錢。◉「おやまこ」＝三三人。三片。◉おゆき＝女。◉からま＝都合よいこと。◉かくやつかい＝とぼしもがらぎ。◉かたこ＝五。五膳。（藝人の通り符牒五の數字に用いられてゐる）。◉かちぐり＝蚊帳をいふ。◉がつ＝情人◉がつり＝人形使ひ。◉がつれ＝連れ。◉「かまる」＝行く。來る。或場合に於て入いることもいふ。◉「かめる」＝入る。入れる。◉「がり」＝娘。嫁。◉がんど＝脇差。◉がんどう＝御屋敷者。侍。◉がんどうまへびき＝武士。◉きいろい＝惡いこと。◉「きくら」＝耳をいふ。◉きたなこ＝心持ち。◉ぎつと＝侍をいふ。◉「行德」＝鹽のこと。◉きら＝香の物。◉きわ＝九。◉金十郎＝馬鹿の意。◉「きんちや」＝お客をいふ。◉「きんちやく」＝お客。◉九月＝耳。◉「ぐる」＝帶。◉けつさつ＝運がわるいこと。◉けまん＝損。◉「源四郎」＝盗人をいふ。◉ご

うざい＝田舎者をいふ。◎ごうま＝金持のこと。◎こがれる＝泣く。◎こげん＝小粒をいふ。◎こげんへい＝金百疋。◎こづの＝百十六匁の札錢をいふ。◎こつぱり＝眼。◎ごろた＝香の物。◎さいこう＝飯をいふ。◎さいこうぼう(さいこぼう)＝米の飯をいふ。◎さいこく＝飯。◎ささ＝四。四個。◎ささき＝四。四個。◎里扶持＝一分と二百文のこと。◎「さなだ」＝六。◎さぶ＝酒をいふ。◎「さぶろう」＝酒。◎左平治＝口。出過ぎること。◎「三月」＝鼻。(花より)◎「三四郎」＝三味線。◎しこい＝良い。◎しこらへ＝拵へ。◎しのぎ＝蛸。僧侶。◎じば＝小便。◎しぶから。じぶだら＝茶をいふ。◎しみけん＝頭。◎しやむ太郎＝みすぼらしいこと。◎「砂利」＝白米。◎白い＝惡い。◎白おやまこ＝南鐐三片。◎しろざ＝鼻。◎しんか＝身代。己が家をいふ。◎「しんた」＝金錢。◎じんだい＝味噌汁。◎じんでん＝主人。亭主。◎じんば＝老婆をいふ。◎すけゑしんでん＝良い男。◎「新右衞門」＝上等なこと。面白いこと。◎助四郎＝下等なこと。◎すそく＝足をいふ。◎せへこぼう＝飯。◎「せい」＝酒。◎「せいざ」＝酒をいふ。◎ぜかす＝やめろ。◎ぜけず＝無。◎ぜけた＝有る。居る。◎「せぶる」＝寢る。日が暮れること。◎ぜめ＝自分。私。◎そくかけ＝姿をいふ。◎そつた＝死。◎そる＝歸る。行く。◎「たいこう」＝馬鹿の意。◎たげる＝買ふ。◎たこ＝足をいふ。◎たしわこと＝下女。◎玉川＝水をいふ。◎太郎＝貨幣。◎太郎四郎＝素人の意。◎たれ＝女の頭。◎「太郎九」＝錢湯。◎たんすふな＝ひつこいこと。◎ちぎ長半＝百五十匁、◎ちく＝口をいふ。◎ちやうけい＝未亡人。◎ぢんたい＝汁。◎つないだ＝見たの意。◎つなぐ＝見る。◎つなげぬ＝分らぬこと。◎つながる＝見る。◎つむじ＝いぢわる(つむじをまげるよりか)。◎「づる」＝三味線。◎づるかぢり＝三味線彈きく藝者。◎てうけい＝煙管。◎手すり＝人形使ひ。◎てつ＝訛ること。◎どうしゆく＝友。◎とくとら＝損料。◎どぜん＝男の頭をいふ。◎とちへもん＝老婆。◎とろけ＝粥。◎どん＝幇間

◎とんぴ＝髮をいふ。◎西の宮＝鯛。(七福神の惠比須さんより)◎「にち」＝太陽。◎にちりん＝火。◎につてん＝炭團。◎ぬま＝七。◎ぬるなべうんこ＝あつかましいこと。◎ねんだい＝長いこと。◎のせもの＝食物。◎のせる＝食ふこと。飲むこと。◎はち＝質。◎はちや＝質屋。◎はつぴ＝羽織。◎はなつえ＝簪のこと。◎はねる＝落る◎半兵衞＝惡いこと。◎半兵衞ひんこう＝惡人。◎ひき＝二つ。◎彥兵衞＝かけ合ひをいふ。◎久松＝小買。◎ひらひら＝空腹。◎ひらめかんむり＝退窟、◎ばり附く＝大入のこと。◎びんこう＝男。◎ふかす＝通ず。◎ぶんすけ＝醉。◎へい(平)＝一つ。百疋。◎へいせいじ＝一杯。◎へげたれ＝たわけこと。◎本直＝廿五匁。卅五匁。◎まがり＝借金をいふ。◎まかる＝行く來る。借る。◎孫右衞門＝煙草。◎孫右衞門入れ＝煙草入れをいふ。◎孫三＝貰ふ。◎又次郎＝請侍。◎まふ＝買ふ。◎まぶい＝美しいこと、◎まへる＝髮を結ぶ。◎まや＝遠い。◎みりつち＝出入がないこと。◎むき＝衣裳。

◉二つ＝二兩。◉もぢる＝食ふ。◉やつかい＝大きいこと。澤山なこと。◉やま＝三つ。◉「やん」＝女郎。◉やんま＝女郎をいふ。◉やんまひ＝女郎買ひ、◉ゆき＝女中をいふ、◉「與太」＝嘘言。◉與太郎＝嘘言。◉よりと＝父親。年寄。◉りやうたつ＝總髮、◉りんだ＝蕎麥をいふ。◉れき＝あれ。彼れ。◉れきま＝あれ。彼れ。◉わく詰め＝にぎやかなこと。◉わこ＝女房。◉わこざ＝女房。◉わりわり＝大入りのこと。

せんぼん〔千本〕　施錠の箇所を線香の火で燒き切り屋内に忍入ること。又其の犯人のこと。「せんこふき」「ふき」ともいふ。

せんまつ〔千松〕　囚人の減食處分。或は空腹のこと。仙臺萩の千松より。

せんみつや〔千三屋〕　嘘言家、本當のことは千に三つ位といふ意「萬三屋」ともいふ。いゝ加減なことを云つて特許品や其他種々の事柄を周旋する者をいふ。

ぜんもん　乞食。物もらひのこと。（九州方面の方言）

せんれい〔洗禮〕　處女を破ぶること。（不良靑年）或は眞人間の者が惡黨の仲間入りをすることを云ふ。

せんろくじゆー〔千六十〕　花カルタ使用法の一種を云ふ。

そ の 部

ぞー〔贓〕　贓品の事を云ふ。

ぞいくらう　犯罪行爲の證據物件が發見されて捕縛されることを云ふ。

ぞいした　舊惡が暴露したことを云ふ。

そーいつぱい〔總一杯〕　花札八十八の三人揃を云ふ。

そーか〔總稼〕　娼妓。淫賣婦。【關西、中國】

ぞーきんをどり〔雜巾踊〕　柔道。（學生）

そく　壯年の男を云ふ。

そく〔足〕　履物。或は履物類を窃取することを云ふ。

そぐ　隱匿物を取出すを云ふ。

そぐ　飼犬。【朝鮮人語】

そくい　飯を云ふ。

そくゑー　軍用銃砲。【朝鮮人語】

そくりよー〔測量〕　調査。搜査。或は内情を偵察することを云ふ。

そくりよーし〔測量師〕　窃盜常習者、或は僧侶、軍人等の服裝を纏ひ、種々の口實を設けて人を欺罔し金品を騙取すること。及其の犯人のこと、

そくろー　蠟燭。同語の轉換。

そけい　賣買。取引を云ふ。

そしよー〔訴訟〕　犯罪事實の否認を云ふ

そしよく　贓物でない物品のことを云ふ

ぞしん　若嫁。斷造の轉換を云ふ。

そそ　女の陰部を云ふ。

そそびんぼー　好色漢を云ふ。

そーだん　合鍵を云ふ。

そで〔袖〕　出入口の扉。裏木戸、柴折戸等。或は刑事。巡査。「角袖」の略。

そでをつける〔袖附〕　窃盜に着手する準備を云ふ。

そでかい〔袖買〕　マント、袖等を利用して金品を窃取する方法。（掏摸）

そでかん　觀音を云ふ。

そてつ〔蘇鐵〕　囚人の雨具。【關東】

そでもの〔袖物〕　袂の附いてゐる着物のことを云ふ。

そでる　睡眠を云ふ。

そとうち〔外内〕　襖、戸障子等の建具類

そとをまう〔外舞〕 自分の住居地以外の場所に於て强竊盜や不正行爲をなすことを云ふ。

そとで〔外出〕 遊廓に行くことを云ふ。

そとパア〔外開〕 洋服の外ポケットのこと。ポケットのことを「パア」といひ内ポケットをうち「パア」といふ。

そとばにまかる〔外場罷〕 囚人が外部で勞役をすることを云ふ。

そとも〔外面〕 掏摸の方法にして、後方より被害者となる目的の人物の足を踏むとか婦人の場合には主に尻などを突つき目的の人物が後を振り向く際に他の仲間が前方から懷中物を竊取する掏摸を云ふ。

そともさ 身體にまとつてゐるもので外部に出てゐる品物のこと。

そなむたん 見張番、監視人。【朝鮮】

そねざき〔曾根崎〕 情死。淨瑠璃曾根崎心中より來たもの。

そは 捕繩。戒具を云ふ。

そは〔蕎麥〕 密淫賣婦を云ふ。

そばきうつ〔蕎麥打〕 男女同衾すること

そーひ 砂糖を云ふ。

そーひん 味噌を云ふ。

ぞーぶ 賭博に負け着物まで賭けた場合のことを云ふ。

そぶつ 遊女のこと。(近江の方言)

そーふん 菜、副食物を云ふ。

そーべえ 刑事。巡査を云ふ。

ぞーぽん 煙管を云ふ。

そみ 味噌、同語の音轉、

ぞめ 煙草を云ふ。

ぞめうつ 煙草を云ふ。

そめがみ〔染紙〕 經典のこと。齋宮の忌言葉より。

そーめん〔素麵〕 巡査。捕繩、或は元結のこと、

そーめんをくう〔素麵食〕 捕縛されることを云ふ。

ぞーもつ〔賊物〕 衣服類を云ふ。

そよ 砂糖を云ふ。

そよくうた 深夜警官の臨檢、搜索を受けたことを云ふ。

そよくうな 臨檢や訊問に際しても、秘密を嚴守せよの意。

そら〔空〕 二階を云ふ。

そらいちうち〔空市打〕 空巢狙ひを云ふ

そり 住家の裏口から忍入ること。裏口から忍入るを「せど」と云ふ。

そり 剃刀。或は掏摸が用ゆる小形の刄物のこと、時には指輪などに仕組んでゐる者もある。

そり 人。【朝鮮人語】

そり 萬引き。掏摸。【朝鮮人語】

そりさらツた 家人が熟睡してゐないこと。【朝鮮人語】

そる 負けることを云ふ。

そる 人。【朝鮮人語】

そるかい〔鳶〕 警官。【朝鮮人語】

そるかぢ〔小牛〕 憲兵。【朝鮮人語】

それしや〔其者〕 博徒。【中國】 或は竊盜常習者のこと。或は藝者。娼妓のことを云ふ。

ぞろ 錫を云ふ。

ぞろ 素麵のこと。(宮女の詞)

そろばんひき〔算盤引〕 數字札を算盤にてかくす賭博のことを云ふ。

ぞーろく〔藏六〕 中年の男子。主人或は龜のことを云ふ。

ソワカした〔娑婆訶爲〕 男女關係の遂行(僧侶)。「上來した」ともいふが主に禪僧間に用ゐられる。經文の中より來たもの。

そん 煙管を云ふ。

そん〔手〕 密淫賣婦。【朝鮮人語】
そんをこむ 監房を云ふ。
そんをした〔損爲〕 逮捕されたこと。
そんこ 窓を云ふ。
そんこむのんだ 賭博の實行中。（賭博）

た の 部

たあー〔踏仔〕 靴。【臺灣人語】
だあーぶ 餘程の意。（尾張の方言）
たありんごあつらう〔塔恣月老〕 智慮淺薄な人物を嘲弄した詞。【臺灣人語】
たい〔鯛〕 肴。或は美裝した婦人のこと華しいよりか、又は被害者のこと。
だい 懷中の金品。又は米穀のこと。
たい 銃器。【朝鮮人語】
だいあがつた〔代擧〕 發見されたこと。或は舊惡が暴露されたことを云ふ。
たいゐん〔退院〕 出獄。反對に入獄するを「入院」といふ。
だいをかむ 窃盜の目的にて豫じめ屋內の模樣などを探ることを云ふ。
だいがあがる〔代擧〕 發見されること。犯罪の證據物件などが發見されること
だいがえし〔代返〕 犯人が被害者に直接贓品を返還することを云ふ。

だいがなる 犯人が被害者や其の他の者などに追跡騷がれることを云ふ。
たいかみ 刑事。私服巡查。【朝鮮人語】
だいがら〔代殼〕 財布、紙入類。或は空財布のことを云ふ。
だいかんじ 制服巡查。【山陰】
だいかんじよ〔代官所〕 刑事。密偵。密告者。或は巡查派出所のことを云ふ。
だいきやく〔臺脚〕 下肢を云ふ。
だいきよー 仲間。同類。兄弟。同語の音轉。
だいく〔大工〕 門戶其他の箇所を破壞して忍入る窃盜のことを云ふ。
だいぐれ 地震。土地崩れを云ふ。
たいこ 馬鹿の意。被害者を侮蔑した詞「センポ」より。
たいこ〔太鼓〕 腹部のこと。主に妊娠してゐる婦人の腹部をいふ。又其の婦人をいふ。
だいこく〔大黑〕 玄米。俵米。耳。又は僧侶の妻をいふ。或は鼠のことを云ふ「鼠に大黑」の語より。
たいこぐも〔太鼓蜘蛛〕 「カンタン師」などが二階の窓や手摺りなどから逃走すること「たいこ」は窃盜の意。「太鼓屋」參照。

たいこのに〔太鼓二〕 めくりカルタのコップの二を云ふ。
たいこのはん〔太鼓飯〕 粟飯を云ふ。
たいこばち 忍耐をしないこと。（兵庫排保郡の方言）
たいこや〔太鼓屋〕 窃盜犯人のこと。窃盜行爲を「トントン」といふことより聯想したもの。
だいごれ 地震。土地崩れを云ふ。
だいころがし〔臺轉〕 氣候のよいとき公園や河原のベンチや芝生などにて居眠りしてゐる人物の懷中物や履物などを窃取する行爲。及犯人のこと。
だいこんめがね〔大根眼鏡〕 新任の巡查や看守のこと。【四國】
だいさき〔台先〕 强窃盜に入る目的の家をいふ。【大阪】 或は被害者のこと。
だいさきのもの〔台先物〕 贓品を云ふ。
たいざん〔大山〕 贓品が澤山にあることを「たいざん」と云ふのはもと「だいざん」（台山）と云つてれを音訛したものか又或一部の者の間にだけ「たいざん」と云

つてゐるのでなからうか。「だいさき」「だいさきのもの」等を參照。
たいしや　强盜を云ふ。【關東】
だいじんぐ〔大神宮〕　鷄。【宮崎縣】
だいじんぐのふだくばり〔大神宮守護札配人〕　贋造紙幣行使犯人のこと。
だいぜん　仙台地方。仙台の轉換。
だいだいむし　かたつむり（蝸牛）のこと（出雲方面の方言）
たいちー　護身用の武器のこと。【支那】
だいつきもの〔臺附者〕　表面は正業を營んで世間體を裝ひ、ひそかに犯す竊盜常習者のことを云ふ。
だいづく〔臺附〕　被害者が已の被害を氣づくことを云ふ。
だいながら〔臺隨〕　停車場、待合室、會社、銀行、郵便局などにて人の油斷を狙ひ、他人が置ける金品等を竊取することを云ふ。
だいのもの〔臺物〕　財布、紙入類を云ふ
たいば〔大場〕　多人數。多勢。
たいばかまる〔太場罷〕　多人數で共謀の强竊盜團のことを云ふ。
たいばつた　決心する。決定する。相談が整ふこと。【京都】

たいへ　厠を云ふ。【九州】
たいへい　兵隊のこと。同語の轉換。
たいほー〔大砲〕　電光。雷鳴を云ふ。
だいまき〔臺卷〕　犯罪行爲實行中、被害者、其他の者に氣ずかれて追跡せられること。現場にて逮捕せられること。或は掏摸が目的の人物を尾行すること「だいまく」と云ふ。
だいまきにあう〔臺卷遭〕　手込にあふこと。或は犯罪實行の現場を捕へられること。
だいまきもの〔臺卷者〕　竊盜犯の前科者のことを云ふ。
だいまち〔臺待〕　掏摸が目的の人物を尾行することを云ふ。
だいまつ〔大松〕　大食の者を嘲る詞。（東京の方言）
だいもの〔臺物〕　贓品。【岡山縣】
だいものし〔臺物師〕　衣類を專門となす竊盜常習者のことを云ふ。
だいものにゆく〔臺物行〕　衣類を盜みに行くを云ふ。
ダイヤ〔Diamond〕　腕力の强い者のこと（不良）。
ダイヤモンド〔Diamond〕　太陽のこと。

たいら　煙草入のことを云ふ。
だいらばつ　食器類を云ふ。
たいれん〔帶連〕　白晝の强盜〔支那人語〕
たいわんじん〔臺灣人〕　氣心の合はない者をいふ。「たいわんもの」ともいふ。
たうさぎ〔田兎〕　農夫。素人を云ふ。
たをさぎ　素人のこと。「たうさぎ」の音訛。【島根縣】
たをし〔倒〕　噴火の事を云ふ
たか〔鷹〕　爪のこと。（信濃方面の方言）或は宵の空巢ねらひのこと。【京阪神】或は强姦を云ふ。
だか　詐欺。【東北】
だか〔高〕　頭部を云ふ。
たかい　少ないこと。或は容易に竊取出來ないこと。その反對を「安い」といふ
たかをつける　頭を下げることを云ふ。
たかがり〔鷹狩〕　空巢ねらひのこと。「たか」ともいふ。
たかき　「だいながら」に同じ。
たがけた〔高下駄〕　土藏。或は敷石のことを云ふ。
たかぞい〔高添〕　神社佛閣の寶物を云ふ
たかだい〔高臺〕　二階の窓などから忍入る竊盜のことを云ふ。

たかてら〔高照〕 蠟燭。或は月をいふ。
たかてん〔高天〕 帽子のこと。或は天窓のことを云ふ。
たかとび〔高飛〕 遠隔の地に逃亡、行衛を晦ますことを云ふ。
たかにゆーどー〔高入道〕 犯罪行爲實行中の見張人のことを云ふ。
たかねをあげる〔高音揚〕 犬が吠えることをいふ。
たかのそらめ〔鷹空目〕 詐欺取財の目的にて豫め相手に相當の利益を與へて安心せしめることを云ふ。
たかのつめ〔鷹爪〕 典獄を云ふ。
たかはり〔高張〕 警察署長。典獄を云ふ
たかばる 犯罪行爲の手段方法を共犯者と凝議することを云ふ。
たかふける〔高走〕 遠方へ逃亡、行衛を晦ますこと。「たかとび」ともいふ。
たかへい〔高塀〕 馬を云ふ。
たかま〔高間〕 二階座敷のことを云ふ。
たかまち〔高市〕 遠方へ旅行すること。或は行衛を晦ますことを云ふ。
たかまち〔高町〕 神社佛閣のこと。或は緣日を云ふ。其他人が多勢集つて雜沓してゐること。及其の場所をいふ。

たかもの〔高物〕 興行物。見世物。
たかものし〔高物師〕 祭典、緣日等を廻歩く曲藝師や興行師をいふ。「たかもん」ともいふ。
たかり〔集〕 人が多勢集つた喧噪な場所をいふ。或は恐喝。又は他人の利益から上前をとることを云ふ。
たかん 口。辯舌。「啖呵」の音轉。
だき〔抱〕 詐欺賭博において被害者となるべき人物を探し、賭場に連れ込む役の者をいふ。抱き込むの意より或は共謀者のうち主犯者となる者のこと。（御天氣師）
だきおとし〔抱落〕 密告。或は「だきこみ」に同じ。
だきこみ〔抱込〕 他人を陷罪せんため取調べに際し共犯關係ある如く虛僞の陳述をなすこと。或は「つつもたせ」に同じ。
たぎず 竊盜を云ふ。
たきだし〔焚出〕 目的の人物の着物や袖などに煙草の吸殼を投込み、狼狽してゐる隙に乘じて金品を掏り取ること。（掏摸）
たぎつ 竊盜。「ぎつた」の轉換。

たきれ 竊盜。【九州】
たく 警官。【朝鮮人語】
たく〔託〕 テキヤの口上。口上を述べることを「タクをツケル」といふ。
たく〔焚〕 騷擾。暴動。又は抗辯する。ケシカケル。怒らす。酒。飲酒する等の事を云ふ。
たぐ 刑事。「たぐり」の略。
だく 他人を罪に陷れること。【京都】
たくいれ〔託入〕 他人の同情を得んためにわざと哀愁悲嘆の情を示すこと。
たくをいれる 虛言をいふこと。或は口上を述べることをいふ。（テキヤ）
たくち 竊盜。【北海道】
たくはち〔托鉢〕 帽子のこと。「たくはつ」ともいふ。
たくばらし 辯護士をいふ。
たくばる 相談。談話を云ふ。
たぐり〔繰〕 刑事。警官。捕繩をたぐるの意からか、或は犯罪事實や被告人の行衛を捜査することを云ふ。
たくわらー 毆打。【朝鮮人語】
たけ 馬鹿。「たはけ」の略か。
たけ〔丈〕 振袖の着物をいふ。
たけぐし〔竹串〕 掏摸犯行に用いる鋏の

ことを云ふ。
たけし 窃盗常習者を云ふ。
たけだし〔焚出〕 煙草の吸殼を目的の人物の着物や袖などに投込み狼狽してゐる隙に乘じて金品を掏り取ること。（掏摸）「たきだし」の音訛。
たけつ 窃盗。【東北】
たげてぎつた 窃盗を云ふ。
たけのこ〔筍〕 共同にて物事をすることのこと。「たけぐし」ともいふ。
たけのふえ〔竹笛〕 掏摸犯行に用いる鋏
たけはり〔竹針〕 門戸其他戸締りの箇所を破壞するに用いる小刀類のこと。
たげぼり 窃取行爲。贓品を云ふ。
たげもの 贓品を云ふ。
たける 金品を窃取すること。或は「たげる」に同じ。
たげる〔猛〕 犬が吠えること。怒ること或は盜難被害を屆出ること。
たこ 耳。「耳に紙魚」より、或は叱責せられること。
たこ〔蛸〕 教誨師。僧侶。或は股引のことを云ふ。
たこ〔蛸〕 侵入するために用いる繩梯子のことを云ふ。

だこ〔蛸〕 非人。乞食。或は「さんか」に同じ。
だこすけ〔蛸助〕 「だこ」に同じ。
たこつり〔蛸釣〕 家人の不在に乘じ窃盜行爲をすること。及其の行爲をするもの即ち「空巣ねらひ」のこと。又は委託金品を横領すること。或は竿の先に針金などをつけ屋内にあるものを門口から窃取すること。及其の犯人のことをいふ。
たこつる〔蛸釣〕 叱責せられること。「たこつられた」「たこ」ともいふ。
たこのす〔蛸巣〕 大根の葉を云ふ。
たこびら〔蛸片〕 獄衣。「赤びら」ともいふ或は脚袢。股引。袴のことを云ふ。
たこま 紋富と稱す賭博のことを云ふ。
ださま 上流階級の妻女をいふ。「旦那樣」の略か。
だし 贓物を云ふ。
だしぐる 褌のこと。【茨城縣】
たしし〔田猪〕 牛をいふ。【岡山縣】
たしち 貧乏なこと。【福島縣】
だしもない 混雜してゐる事（尾張方言）
だしん 金錢のこと。「しんた」の音轉。
たしんた〔臥出〕 毆打。【朝鮮人語】

だず 掏摸をいふ。【關東】
たすけ〔太助〕 生魚商のこと。凡て威勢のよい商人をいふ。「一心太助」の略か
たそ 黄昏を云ふ。
たた 母親のこと。（淡路由良の方言）
たたえ〔漾〕 滿潮を云ふ。
たたき〔叩〕せり賣。或は普通の商家と軒を並べて商賣をなすテキヤの事を云ふ「やきばい」とも云ふ
たたき〔叩〕 強盜。強姦。恐喝。或は人の品物と自分の品物と摩替る事をいふ【大阪】
たたきし〔叩師〕 種々の品物に口上を述べて賣る商人をいふ。それより「テキヤ」のこと。
たたきぜめ〔叩攻〕 強盜。強姦を云ふ。
たたく〔叩〕 脅迫行爲をすること。強窃盜を行ふことを云ふ。
たたまぐれ 月夜を云ふ。
たたみ〔疊〕 移轉。失踪。行衛不明の事
たたむ〔疊〕 殺すの意。
たたる〔祟〕 探索を云ふ。
たち〔立〕 巡査。【神奈川】 又は雜沓してゐる盛り場のこと。或は辻淫賣のこと等を云ふ。

だち　共犯者。仲間。同類のこと。友達の略又「たちばかせぎ」に同じ。或は掏摸のことを云ふ。

たちうを〔太刀魚〕　制服巡査のこと。サーベルの形より「たちを」ともいふ。

たちがれ〔立枯〕　老人のこと。【秋田】

たちきず〔太刀創〕　女の陰部を云ふ。

たちこ〔立子〕　犯罪實行中の見張人のこと。【關東】

たちころび〔立轉、太刀轉〕　押送中犯人が逃走すること。「たち」は「たちうを」（制服巡査）の「たち」ではあるまいか。

たちし〔立師〕　大道に於て商ふ商人のこと。或は掏摸のことを云ふ。

たーちーつ〔大雉子〕　小銃のこと（支那）

たちば〔立場〕　緣日、祭典其他の所にて雜沓してゐること。及其の場所のこと或は該所を專門とする掏摸のこと。「たちばかせぎ」ともいふ。

たちばかせぎ〔立場稼〕　緣日、盛り場等の雜沓した所で働く掏摸のこと。「たちば」ともいふ「たちば」參照。

たちまひ〔立舞〕　服裝。【關東】

たーちやー　竊盜。【朝鮮人語】

だちやかん　駄目の意。（尾張の方言）

だちらおとし　强盜。强姦を云ふ。

たちんぼ〔立坊〕　空巢ねらひ。或は制服巡査のことを云ふ。

たつ　鶴のことを云ふ。

たつ〔龍〕　天窓を破壞し忍入る竊盜のことを云ふ。

だつ　宿屋荒しのこと。【東北】　或は竊盜共犯者をいふ。【九州】

だつ　「いたばかせぎ」に同じ。【東北】「たちばかせぎ」も同じ。【北陸】

だつこ　懷中深く竊取品を隱すこと。（京濱地方沖仲仕）

たつみ〔辰巳〕　東京深川不動明王【關東】

たて　太公望連の賭博をいふ。

だて　汽車、電車等の乘物内にて働く掏摸のことを云ふ。

だて〔立〕　門。戶口を云ふ。

たてをきる〔立切〕　戶締りを破つて屋内に忍入ることを云ふ。

たてば〔立場〕　人力車夫の溜り場。

たてまい　平素相當の正業を營み、世間體を裝ひ、ひそかに竊盜を働くものをいふ。【岡山縣】「だいつきもの」ともいふ。

たてまえ　衣服。【關西】　或は服裝を謂ることを云ふ。

たな〔店〕　萬引のことを云ふ。

たな〔棚〕　質屋。或は風呂屋の番臺をいふ。

たなをうつ〔棚緒打〕　捕縛引致されること。牛馬を繫留する口繩を棚緒といふことより。「たなをおろす」ともいふ。

たなかい〔店買〕　萬引。「たな」ともいふ

たながえし〔店返〕　萬引のことを云ふ。

たなし〔店師〕　百貨店や大きな商店等にて犯す萬引の常習者をいふ。

たなずり〔店掏摸〕　萬引のことを云ふ。

たなつかい〔店使〕　物品購買中の客が携帶せる金品を竊取すること。又其の犯人をいふ。

たなしにばる　捕縛せられずして引致されること。捕縛引致されることを「たなをうつ」といふ。

たなばた　七錢の意。

たなびき〔店引〕　萬引のことを云ふ。

たに〔谷〕　八錢。或は陰門を云ふ。

だに　質屋を云ふ。

たにし〔田螺〕　饒舌家。妾のこと。

たにす　竊盜を云ふ。

たぬき〔狸〕　骨牌賭博の一種を云ふ。

たね〔種〕 手段、方法を云ふ。

たねわり〔種割〕 紋富と稱す賭博の卷紙を割つて見ることをいふ。

たば 懷中時計を云ふ。

たばこ〔煙草〕 火災。「とまり」「とびこみ」に同じ。

たばこのむし〔煙草虫〕 裏口に廻ることをいふ。【滋賀縣】

たび 倉を破つて米穀等を窃取すること

だひよー 氷柱をいふ。（岩手の方言）

だふ 切符。或は汽車、電車や劇場等の出札口をいふ。札の音轉。

たびやくしや〔旅役者〕 大根のこと。

たべる〔食〕 料理屋。飲食店を云ふ。

たぼ 婦人をいふ。或は懷中の金品のことを云ふ。

たま〔玉〕 贓物故買者。【鹿兒島縣】 或は密告者のことを云ふ。

たま〔玉〕 被害者となる目的の人物。（詐欺師）或は金銀寶石類。婦女子のことを云ふ。握飯ともいふ。

—ぶいれ〔玉入〕 刑事や手先の者が監內の樣子を探るために檢擧された風を裝て入監すること。【京都】

たまいれ〔玉入〕 詐欺賭博に際し「オビキ」と稱す共犯者が客を誘引すること

たまげ 聾のことを云ふ。

たまこ〔玉粉〕 霰を云ふ。

たまご〔卵〕 握飯を云ふ。

たまごやき 澤庵漬を云ふ。

たましま〔玉島〕 錠。或は旅館をいふ。

たまちぎる 袂探りの掏摸のこと。【熊本縣】

たまる 宿泊すること。【神奈川】 とまるの音訛か。

たむ 刑事。【臺灣】

ため 嚴重な取調。或は米穀。贓品のことを云ふと

だめ 骨牌を云ふ。

ためあらい 贓品から罪狀を調べること

ためたつた 數量の四の意。

ためとも〔爲朝〕 屑物拾ひのこと。【京濱】「ばた」ともいふ。

たもと〔袂〕 土塀。側壁。或は袂探りの掏摸をいふ。

たもとうつし〔袂移〕 贈賄を云ふ。

たや〔他屋〕 月經を云ふ。（尾張の方言）

たゆー〔太夫〕 強窃盜犯人をいふ。

だよ 秘密の事柄を云ふ。

だら 巾着をいふ。（長崎の方言）

だら 貨幣。或は皮の煙草入をいふ。【廣島縣】

たらいまわし〔盥廻〕 物を賣買するに際し買主方の中に仲間の者をひそかにはいらせておき、安價の物を高價にせり上げさせて多分の利益を得る詐欺のことを云ふ。

だらかし 老女をいふ。

だらけ 愚鈍。馬鹿。（越中の方言）

たらしき 詐欺賭博に用いる仕掛け采のことを云ふ。

たらす〔蕩〕 目的の人物に酒肴を勸めて醉ひ伏せて金品を詐取すること。又は色情を以て其の目的を達することもある。

だらず 愚鈍。馬鹿。（因幡地方の方言）

たらりきはん 粥を云ふ。

たり 臀部を云ふ。

たり シャツ。襦袢を云ふ。

だり 馬鹿の意。

たりをいる 泣言をならべて金品を惠んで貰ふこと。【三重、福岡】

たりをさづける 人を欺くこと。【長野】

たりず 蕎麥。蕎麥屋のことを「たりずや」といふ。

だりびた　左手を云ふ。

たりる〔垂〕　涙。涕泣を云ふ。

だるる　シャツ。襦袢を云ふ。

だるじい　囚人が規則に違反することをいふ。

だるま〔達磨〕　羽織、マント、半纒などの類。或は蠶。大豆のことを云ふ。

だるま〔達磨〕　金錢のないこと。お錢を「足」に通はせて云つたもの。或は殺人「血達磨」の語より。又は密淫賣婦のことを云ふ。

だるまざい〔達磨采〕　或一面にのみ思通りの目が出る様に仕掛ける采のこと（詐欺賭博）

だるまはがし〔達磨剝〕　混雜にまぎれて懷手してゐる人物の着てゐる羽織を窃取することを云ふ。其の犯人も云ふ。「だるまはづし」ともいふ。

たれ　肴を云ふ。

たれ　盜難被害事件をいふ。又其の被害者のことも云ふ。或は被害に氣付きあわてゝ盜難の屆をすることも云ふ。

たれ　利得を云ふ。

たれ〔垂〕　前垂のこと。或は洋服を着た人物。婦女。陰門の事等を云ふ。

だれ　貧しい者が罪を犯したこと【石川】或は共謀者をいふ。【島根縣】

たれき〔垂木〕　箸を云ふ。

たれた〔蕩〕　戀慕。（香具師）

だれたひと〔蕩人〕　面識ある人物。親しい人物。或はいやらしき人物をいふ。

たれち　紙幣。【朝鮮人語】

たろー〔太郎〕　田舍者。又は被害者のこと。上等の意。白米。或は金錢をいふ。

たろく〔太郎九〕　錢湯をいふ。（センボ）

たん　贓物故買者。賄賂。【岡山縣】

たん　婦女子を云ふ。

たん〔短〕　ピストルをいふ。短銃の略。

たんいち〔短一〕　花札の短册一枚と他は素物の役を云ふ。

たんか　詐欺行使手段のため種々の物品を贋造すること。

たんか〔啖呵〕　家屋の出入口をいふ。

たんか〔啖呵〕　たかぶつた言ひ方をいふ口をきくこと爭論。辯解。雜言。或は「テキヤ」などが品物を賣る際述べる口上のことを云ふ。

たんか〔擔架〕　捕縛された犯人達が珠數つなぎになつて引致されることをいふ

たんかいき〔啖呵行〕　裏口から忍入ることを云ふ。

たんかをつくす〔啖呵盡〕　犯罪行爲の手段方法を共犯者と熟議すること。「たんかつくす」ともいふ。

たんかをひく〔啖呵引〕　土藏の施錠を開けること。【長野縣】

たんかをひらく〔啖呵開〕　門其他戸締りの箇所を開けることを云ふ。

たんかがあかない〔啖呵不開〕　戸締りが嚴重で外されないこと。或は容易に白狀をしないこと。【東京】

たんかがもろい〔啖呵脆〕　口が輕いこと脅迫する言葉が優しいこと。

たんかきり〔啖呵切〕　門戸其他戸締りの箇所を破壞し屋内に忍入ること。及其の犯人をいふ。

たんかし〔啖呵師〕　辯護士。或は口上を述べる「テキヤ」をいふ。

たんかしけ〔啖呵暴風雨〕　「口は禍の基なり」言葉を愼しめよとの意。

たんかつー〔啖呵通〕　僞造貨幣のこと。

たんかつき〔啖呵者〕　辯護士。「たんかし」ともいふ。

たんかつり〔啖呵釣〕　窃盜行爲の犯罪者

などが用いる鑿のことを云ふ
たんかつる〔啖呵釣〕 戸締りの脩所を外して忍入ることを云ふ。
たんかばい〔啖呵賣〕 口上を述べて商賣する「テキヤ」のこと。口上を述べない者を「なしおと」といふ。
たんかばる〔啖呵張〕 喧嘩らしく話しをすること。大聲を出すことを云ふ。
たんから 虚僞の陳述。或は詐欺の目的にて虚言を話すことを云ふ。
たんからきり 虚僞の陳述をすること。
たんくつつく 談話すること。【福島】
たんけん〔短劍〕 海軍々人。（女學生）
だんご 窃盜の敎唆を云ふ。
だんご〔團子〕 刑事。或は密淫賣婦。曖昧な料理屋の酌婦、仲居を云ふ。ころぶ意より。
だんじゆーろー〔團十郎〕 めくりカルタの靑札の一、二、十の三枚役をいふ。
たんす〔簞笥〕 監房のことを云ふ
だんそー 相談の事を云ふ
たんだい 頭部をいふ。
たんだん 鷄姦。或は臀部をいふ。
だんだんをふく 鷄姦を云ふ
だんち 八、錢の意。或は段違ひの意。

たんちん 馬鹿者のことを云ふ
たんと 刑事を云ふ
たんとー〔短刀〕 水上巡査。看守。
たんとば〔短鳥羽〕 羽織のこと。
だんな〔旦那〕 金庫を云ふ
たんぶくろ〔短袋〕 洋服類。【關東】
たんぶつ〔嘆佛〕 刺身。（僧侶）嘆佛は佛を讃美した言葉である。
だんぶん 臀部をいふ。
たんぽ 料理物を云ふ
たんぽこ 魚類を云ふ
たんぽぽ〔蒲公英〕 單純な神託。無分別なこと。（花言葉）
たんぽや 飲食店。【東京】
だんまいもの〔段枚者〕 前科者をいふ。【大阪】
だんまり〔默〕 密淫賣婦をいふ。

ち の 部

ちー〔支鷄〕 支那の淫賣婦のことを云ふ
ちい〔小〕 小形の釆のことを云ふ。
ちいつぱ 釆を四つ使用する賭博のこと
ちいのもり 盛飯を云ふ。
ちいば 一定の場所を云ふ。

ちいまう 掏摸が犯行を遂げたこと。及其の犯行現場より逃走すること。
ちいまうがいち 强姦を云ふ
ちいん 事業に失敗したこと。犯人捜査の結果人違ひであつた樣な場合のこと
ちう 住宅。「うち」の音轉。
ちうや〔鼠〕 窃盜を云ふ。
ちゑ 共犯者。一味の徒。【朝鮮人語】
ちゑいつた 捕縛。引致。【朝鮮人語】
ちゑくらべ〔智慧比〕 詐欺犯を云ふ。
ちゑば〔智慧場〕 テーブル。机を云ふ。
ちーゑびかわつた 巡査が來たとの意。【朝鮮人語】
ちをすた 自白したこと。【福島縣】
ぢをひく〔地曳〕 目的家屋の模樣などを下見することを云ふ。
ちか 風船を云ふ。
ちか 數量の三。別項「とーりふちよー」の内「かち」の音轉。
ちが 酒。飲酒を云ふ。
ちがい〔違〕 路上、劇場内、停車場、電車等にて、擦違ふ刹那に金品を窃取する掏摸のこと。或は其行爲。「ちがいをかう〔違買〕」。「ちがいをまう〔違舞〕」「ちがいをまつる〔違祭〕」ともいふ。

ちかずき　女色。【薩摩】或は父母の許可なき妻のこと。【九州、中國】

ちがやゑん　蛇を云ふ。【島根縣】

ちから〔力〕　火繩を云ふ

ちき　看守を云ふ。

ちぎ　數量の十を云ふ。

ちきじ　鷄を云ふ。

ぢきたりす　熱愛なること。〔花言葉〕

ちぎちよー　十五圓の意。

ぢきばなし〔直話〕　門戶、其他の戶締りの箇所を破壞し侵入すること。

ちきや　掏摸を云ふ。

ちぎやり　十一圓の意。

ちぎりよー　十圓の意。

ぢくさげ　自慢げなこと。〔但馬、生野方面の方言〕

ぢくだり　南風をいふ。〔北國の方言〕

ちくのおーて〔竹大手〕　青竹の籬。

ちくぼそ　火繩を云ふ。

ちくれん　老婆を云ふ。

ちくんぼ　耳を云ふ。

ちけれつ　靴類を云ふ。

ちこ〔稚兒〕　掏摸。或は鷄姦相手の年少者のことを云ふ。

ぢご　賣春婦。或は獄衣のこと。刑務所を「ぢごく」といふことより。

ぢごく〔地獄〕　刑務所のこと。或は土地。賣春婦のことを云ふ。

ぢごく〔地獄〕　贓品を地中に埋沒すること。或は夜間窃盜の目的にて家人の隙を窺ひ床下などに侵入潜伏すること。

ぢごくにゆく　土臺下から忍入ること。

ぢさんきん〔持參金〕　犯罪行爲の目的にて住家に侵入せんとする時、犬に吠えられない樣用意して行く餌のこと。

ぢすば　地方の資產家をいふ。

ぢぞー〔地藏〕　だまり者を云ふ。

ぢぞーのうしろ〔地藏後〕　毎月二十日後の夜。「ぢぞーのゝち」ともいふ。

ぢたま〔地玉〕　素人女のことを云ふ。

ちちおや〔父親〕　制服巡査を云ふ。

ちつかい　マッチ。【朝鮮人語】

ぢつかい　市內で働く掏摸のこと【大阪】

ちツくり〔小人〕　不正行爲を警官に密告すること。或は密告者のこと。

ちツぱ　釆を四つ使用する賭博のこと。「ちいつぱ」ともいふ。

チツパー〔一八〕　「ちーはー」に同じ。

ちーでる　頭割に分配すること。〔不良〕

ちなせ　箒のことを云ふ。

ちーはー〔一八〕　支那から來た賭博であつて、俗に「ちーはー賭博」といふ。これに三十六の原顆（ふわ、參照）あり、これに當てたものが賭金の三十倍を得られるがその內賭金の二倍分を「運送屋」といふ役の者に渡す賭博であつて多數の張子を有す。

ちばい　千圓の意。

ちばし　種々の贋造物や疵物などを行商する者「ごみし」「のれんし」に同じ。

ちばり　警官。或はお喋りのこと。

ちび　大人の浮浪者に可愛がられてゐるグレのこと。〔東京浮浪兒〕

ちび　子供。掏摸。或は陰門のこと。

ぢびき〔地曳〕　犯罪の目的場所へ導くもの。「導き」の略か。

ぢびく〔地曳〕　犯罪の教唆。犯罪の目的場所へ導くことを云ふ。

ちふこ　男女交合を云ふ。

ちぶたー　恐懼の動作、表情をいふ。【朝鮮人語】

ちぼ　掏摸。【大阪地方】

ちぼいち　チヨボイチの訛。

ちぼし　掏摸。【大阪地方】

チマ　マッチ。同語の音轉略。

ちま　繁華な場所を目的となす掏摸のこと。町の音轉。
ちまながし〔町流〕　掏摸が目的の人物を物色して街路を徘徊なすこと。「ちま」は町の音轉。
ちみ　道路。市街。「道」の音轉。
ちみたす　詐欺取財を云ふ。
ぢむし〔地虫〕　自分の住居地にて窃盗を常習となす者。これに反して自分の住居地以外の場所にて犯すを「そとをまう」と云ふ
ちむり　喫煙を云ふ。
ぢめ　捕繩。戒具等を云ふ
ちめらる　縛られること。【島根縣】
ちめる　臥せること。【島根縣】
ちめんをいれる　縛ること。【徳島縣】
ちもらい　乞食。非人を云ふ。
ちやいちい　少ない。小さいこと。「チィチャイ」の音轉。
ちやゑびをんた　巡査が來たこと【朝鮮】
ちやか　襦袢を云ふ。
ちやが　刀劍「どす」のこと。或は持兇器强盗。〔大分縣〕
ぢやが　馬鈴薯を云ふ。
ちやくさつい　阿片吸收。【朝鮮人語】

ちやかず　兇器に使ふ刄物を云ふ。
ぢやじ　白痴者。馬鹿を云ふ。
ちやしやみ〔人蔘〕　内地人。【朝鮮人語】
ちやちや　窃盗の目的を達して歸宅するの意。【朝鮮人語】
ちやつ　物事が凡てよくないこと。「しけ」に同じ。【東京】
ちやつ　衣服の事を云ふ。
ちやづき　美男子。【大阪】或は男女情交「いちやづき」の略。
ちやづけ〔茶漬〕　午後二、三時頃。
ちやつた　下流の藝者を云ふ。
ちやびき〔茶挽〕　娼妓。「お茶ひき藝者」等の言葉より。
ちやぶ　飯。或は賣春婦。横濱の飲食店「ちやぶや」より。
ちやぶつく　拘禁。收監を云ふ。
ちやぶや　港灣附近にて外國人や海人を客とする小料理店や賣笑婦宿のこと。支那語から來たものか。
ちやぶり　贓品を投棄すること。【關東】或は拘禁。收監を云ふ。
ちやぼ　飲。飲食することを云ふ。
ちやぼた　拘禁。收監を云ふ。
ちやぼる　委託金品の横領を云ふ。

ちやむ　鷄姦を云ふ。
ぢやむ　住宅。【朝鮮人語】
ちやめ〔茶目〕　單純な毆打行爲を云ふ。
ちやも　玩具「おもちや」の省略音轉。（テキヤ）
ちやら　制服巡査。サーベルの音より。
ちやらふいた　料理屋の酌婦仲居等と淫事關係をすることを云ふ。
ちやらん　女帶を云ふ。
ちやらんけ　インチキ賭博をすること。
ちやり　白米。「じやり」の音訛。【香川】
ちやりこ　客。【兵庫縣】
ちやりふる〔擲振〕　發覺を虞れて犯罪行爲に用いた兇器や窃取品等を途上に投棄することを云ふ。
ちやわん〔茶碗〕　女子の陰部に毛のないこと。「かわらけ」ともいふ。
ちやわんずき〔茶碗好〕　賭博常習者。
ちやん〔父〕　制服巡査。「ちちおや」ともいふ。
ちやん　時計を云ふ。
ちやんいてんんた　警官が來ること。【朝鮮人語】
ちやんさーぱ　朝鮮人を云ふ。
ちやんし〔市場〕　强盗。【朝鮮人語】

ちやんしん〔將身〕 立番してゐるところの巡査のこと。【朝鮮人語】
ちやんちき 窃盜常習者が戸締りの箇所を破るために用ゐる鑿や錐などを入れる袋のこと。一見燧袋に似てゐる。大抵自分が持つてゐるが、時には同伴せる妻子等に持たしめてゐる樣である。「さんやぶくろ」ともいふ。
ぢやんぶろ 賭博を云ふ。
ちやんべく〔散髮〕 刑事。巡査。【朝鮮】
ぢやんぼ 葬式のこと。(下野の方言)
ちやんぽつく 犯行が發覺し收監されること。【京阪】
ぢゆいやぢゆいや〔蠅々〕 一味徒黨の解散。【朝鮮人語】
ちゆゐもんね 强盜。【朝鮮人語】
ちゆーしんぐら〔忠臣藏〕 澤庵漬。「高師直」を「香の物」に音詞を通はせたもの。
ちゆーすけ 鼠。泣き聲より。
ちゆーすけ〔忠助〕 巡査を云ふ。
ちゆたに 監房。(朝鮮博徒)
ちゆーひげ〔忠髯〕 巡査部長を云ふ。
ちゆーひね 巡査部長を云ふ。
ちゆーべゐ〔仲兵衞〕 詐欺賭博共犯者のうち被害者となる目的人物と同類との間を取り持つ役の人物。「さわしさぎ」參照。
ちゆーべゐ〔仲兵衞〕 二等列車を云ふ。
ちゆーやもの〔晝夜者〕 旅興行師であつて犯罪行爲をなす者のことを云ふ。
ちゆり 萬引。【朝鮮人語】
チユーリツプ 名譽。(花言葉)
ちゆーりん 傍らの四人に對して周圍に目配りし、注意せよと促す詞。
ちよ 水の事を云ふ
ちよー 金錢の事を云ふ
ちよー 買手。店頭に立寄る人物のこと
ちよー 半。反對の言葉を使つたもの。(博徒)
ちよー〔丁〕 采の目の偶數にして、賭博を行ふ場合に稱する言葉。
ちよー〔廳〕 警視廳。刑事。巡査等を云ふ【關東】
ちよーあけ 風說などを共犯者に知らすこと。【東京】
ちようら 刑事。私服巡査を云ふ。
ちよか 土瓶をいふ。(薩摩の方言)
ちよき 掏摸。鋏を用ゐた場合の音からか。
ちよーきち〔長吉〕 金錢。(阪神地方)
ちよーぎのよまわり〔張儀夜廻〕 一八賭博の胴元に使嗾せられてゐる人物のことを云ふ。
ちよーすく 高慢振ること。(尾張の方言)
ちよぜんろり 紙幣。【朝鮮人語】
ちよーせんぶち 鮮人を裝ひ品物を賣ること。(テキヤ)
ちよた 詐欺的手段方法を云ふ。
ちよーた〔長太〕 金持。田舍者。被害者馬鹿者。白痴。男等のことを云ふ。
ちよーだい 部屋。(美方郡の方言)
ちよーちん〔提灯〕 强姦。【山陰地方】
ちよーちん〔提灯〕 贓品、兇器等の證據が發見されたこと。或は在監の者が買物をすること。【東京】 或は腹部。主に姙娠の腹部をいふ。【大阪】
ちよーちんばく〔提灯食〕 飮食。食事をすること。「ちよーちんはりかえ」(提灯張替)ともいふ。
ちよーちんやぶれた〔提灯破〕 空腹。「ちよーちんやぶれる」「もさこけ」ともいふ。
ちよつこらもち 相當の資産や平素一定の職業を有しながら、倘竊盜を常習と

なす者のことを云ふ。

ちよツた　猫を云ふ。

ちよつん　月冴へた夜半のことを云ふ。

ちよーど〔丁度〕　金錢の符牒で圓位以下の端錢がないこと。略して「丁」とも云ひ、相場用語で「ドタ」ともいふ。

ちよーばえ　丁半の古語。

ちよーはん〔丁半〕　釆の目の偶數奇數。或は釆を二つ使用する賭博のこと。「丁」は釆の目が偶數のことで「半」は奇數の場合のことであつて手取り早く行はれるため、諸種の賭博に應用せられるが故に一般に賭博のことをいふ。

ちよーひん　鼠の事を云ふ

ちよーふ　商店などにて一般の人に仕入値段や販賣値段を知られない樣に記入する符號のこと「とーりふちよー」參照或はそれより隱語のこと。「符牒」の音轉。

ちよーふ　商賣による利益分配の事。

ちよーふぐれ　隱語に精通してゐること「ちよーふ」參照。

ちよぼいち　骨牌賭博を云ふ

ちよまつ〔長松〕　田舍者。或は被害者のことを云ふ。

ちよーまツた　捕えた事。（淡路の方言）

ちよーもと〔帳元〕　警部。看守長。賭博で云ふ胴元等凡て上に立つ取締り役の人物。【宮城縣】

チヨーヤパバタロ　强奪した品物を逃走中共犯者に渡すことを云ふ。

ちよーら　刑事を云ふ。

ちよりたもと　猫を云ふ。

ちよりるた　素人。（朝鮮博徒）

ちよるかんい　捕繩。【朝鮮人語】

ちよーれん　目刺。鰯を云ふ。

ちよう　手。【九州地方】

ちよーろく〔長六〕　土藏。或は土藏破りのこと。（富山縣）福岡地方では「善光寺師」「手判びき」ともいふ。或は茶碗のこと。【岐阜縣】

ちよーろくをわる〔長六割〕　土藏を破ること。【福岡縣】

ちよーろくがよめいりしてゐる〔長六嫁入焉居〕　土藏に高價な品物や現金等が澤山には入いつてゐること。【福岡】

ちよーろくし〔長六師〕　土藏破り。

ちよーろくにひんがかまる　土藏に金がはいつてゐること。【福岡縣】

ちよんい　警察署長。家主。【朝鮮人語】

ちよんころ　團子を云ふ。

ちよんし〔市場〕　强盜。「ちやんし」ともいふ。【朝鮮人語】

ちよんべゑ　窃盜を云ふ。

ちよんぽ〔青泡〕　警察署。【朝鮮人語】

ちよーんまんぼく〔金滿福〕　殺人。（朝鮮京城）

ちら　非人。乞食を云ふ。

ぢらあける　風說ゝ新聞記事等を材料として事情を探ることを云ふ。

ちらから　燈火を云ふ。

ちらし〔散〕　廣告を配る者を云ふ。

ちらす〔散〕　賣る。贓品を處分する或は物品を人に贈る。又は屋内に人の居らないことを云ふ

ちり　鼠を云ふ。

ちり〔縮〕　老婆。或は縮緬類のこと。「縮緬」の略。

ちりこむ〔散込〕　人にものを貰ふこと。【宮城縣】

ちりちよら　目的の家に忍入るの意。【朝鮮人語】

ちりべら　足袋を云ふ。

ちりめん〔縮緬〕　老婆のこと。皺のよつてゐるところより、これと反對に縮緬

のことを「ばあちやん」といふ。
ちりめんじやこ〔縮緬雑魚〕 幼兒。
ちりも 朝。或は火災のことを云ふ。
ちるはる 鉄。【岩手縣】
ぢるぶん〔七分〕 強盗。【朝鮮人語】
ちん 數量の十。「ちぎ」の音訛。【東京】
ちん 凡て物事がうまくゆかないこと。「しけ」に同じ。【關東】
ちん 飲酒を云ふ。
ちん 眞鍮の煙管。或は百姓女のこと。或は手錠のことを云ふ。
ちん〔狆〕 他人に嫌はれる容貌や性格の持ち主のこと。チンの顔が醜いところより、或は鼻のこと。チンの鼻がペチャンコになつてゐるので特に特徴ある部分より來たもの。
ちんあいをまふ 「ちがい」に同じ。
ちんがい〔賃街〕 汽車。電車を云ふ。
ちんがいみち〔賃街道〕 線路。軌道。
ちんがけ 萬引を云ふ。
ぢんがさ〔陣笠〕 大根を云ふ。
ちんがまり〔賃罷〕 資産家。或は現在多額の金錢を所持してゐる人物のこと。
ちんきち〔賃吉〕 財布のことを云ふ。
ちんけ 片方が盲目の者を云ふ。

ちんけい 贓物の運搬を云ふ。
ちんこー〔狆公〕 私娼のことを云ふ。
ちんこう 犯罪密告者。【九州】 或は田舍料理屋の酌婦。【東北】
ちんころし〔狆殺〕 菓子を云ふ。
ちんさ〔進士〕 深夜の窃盗常習者。【朝鮮人語】
ちんしけ〔賃暴風雨〕 車掌などが來た爲に犯罪行爲の出來ないこと。（箱師）
ちんしてゐる〔座居〕 嚴重に番をしてゐることを云ふ。
ぢんしよどり メリヤス類の事（香具師）
ちんすけ〔狆助〕 婦女子。主として人妻をいふ。百姓女を云ふ。
ちんすけ〔賃助〕 下等の藝者。娼妓。
ちんだい 煙管を云ふ。
ぢんだて〔陣立〕 囚人が外役に就いて辨當の茶を沸すこと。【岡山縣】
ちんつー 十圓。十圓紙幣を云ふ。
ぢんてら プラチナのこと。（香具師）
ちんと 土藏。「じんどー」の音訛【北陸】
ちんぴら〔小片〕 幼年者。或は囚人の減食處分。【大阪】 或は掏摸。【關西】 鶏姦關係を結べる者の中年少者のこと「ちんぺら」ともいふ。

ちんぴん 幼兒を云ふ。【大阪】
ちんふり 下等の藝者を云ふ。
ちんぺい 日本酒を云ふ。
ちんぺら〔小片〕 「ちんぴら」に同じ。
ちんぼつ〔沈沒〕 待合や遊廓等に入り浸ること。或は入質すること。入質したものが流れること。或は藝者や賣春婦になることを云ふ。
ちんまい 若い娘のことを云ふ。

つの部

つー 強窃盜。犯罪常習者を云ふ。
つー 通貨を云ふ。
つーし〔通師〕 ペーパー詐欺師。
つあう〔剿〕 窃盜。【臺灣人語】
つい 盜難に罹つたことを被害者が感づいたことを云ふ。
ついあ 酷暑「あつい」の音轉。
ついけ 曇天。「梅雨氣」の轉訛。
ついこみ 強姦を云ふ。
づいた 氣付く。發見するを云ふ。
つう 紙幣を云ふ。
つう 強盜常習者を云ふ。
つうためのむすめ〔通蓄娘〕 貴重品收納

の土藏。「つう」は現金の意。
つうばり 商店の雇人を云ふ。
つえもて〔杖持〕 周圍に注意警戒せよとの意。
つーをする〔通爲〕 通知する事を云ふ。
つが 僞りの陳述を云ふ。
つかい〔使〕 ペーパー詐欺師の共謀者にて、刑事を裝ふ者。「さくじ」參照。
つかい〔使〕 贓物牙保者を云ふ。
つがいえ〔番繪〕 春畫のことを云ふ。
つかいものをする〔遣物爲〕 住家に忍入る際、飼犬に吠えられない樣に握飯等を與へることと「しゆーとをくどく」ともいう。
づがせ 身分職業氏名等の僞稱。或は虛僞の事實を申立てることを云ふ。
づかとー〔塚徒〕 大阪神戸間の阪神急行電鐵の經營する寶塚少女歌劇團の女優に肩入してこれを追廻はす連中。
つかどうろく 若旦那を云ふ。
つかみ〔摑〕 かつぱらい。或は空巣狙ひ或は鉄。釘抜等を云ふ。
つかみ〔摑〕 共同便所等の中を掻廻し金品を探して拾ふことを云ふ
づかれる〔感付〕 發見される。惡事が露見すること。凡て秘密にしてあることが發覺すること。「感づかれる」の略。「づき」ともいふ。
つき〔月〕 鏡。或は金錢を云ふ
つき〔附〕 錠。或は夫婦同作者。「くつつき」より。又は強窃盜の目的を達するために見張りをすることを云ふ。
つき〔突〕 戸切、土藏破り等に使用する鑿の類。或は押賣りのことを云ふ。
づき 乞食。【福島縣】
づき 「づかれる」に同じ。
づき〔附〕 刑事。巡査を云ふ。
づきがまわる〔附廻〕 「つけがでる」に同じ。「つけがでた」「づきがまわつた」と切迫した時に他の同類に知らす語。
づきさか 兄弟分、親分子分の誓ひ。「さかづき」の轉換。
づきさかをみずにする〔盃水爲〕 兄弟分親分子分の關係を絕つことを云ふ。
つきさがり〔附下〕 屋根を破りて屋内に窃び入ること。「さがり」參照。「さがりぐも」とも云ふ。
づきずら 食逃げを云ふ
つきだし〔突出〕 女郎が初めて店に出ることを云ふ。
つきて〔附手〕 掏摸が目的の人物に附纏ふこと。或は萬引のことを云ふ。
づきな 氣附くこと。潜伏場所を發見されること。「づかれる」に同じ。
つきみそう〔月見草〕 女郎。辻淫賣婦。夜になると化粧をすることより。
つきみそう〔月見草〕 何時も首を垂れた陰氣な人。（花言葉） 或は美人。浮氣なこと。（花言葉）
つきむし〔附虫〕 錠を云ふ。
つきもの〔附物〕 副食物。【關西】
つぎもの〔注物〕 飲食物を云ふ
つく〔附〕 強窃盜の目的を達するために見張りすること。「つき」とも云ひ。掏摸犯の場合には「すいとり」「とりす」とも云ふ。【東京】
つぐ〔注〕 飲食することを云ふ。
つぐ 逃亡。行衛不明を云ふ。
づく〔附〕 氣附かれること。「きづく」の略。
づく 雜巾を云ふ。
つくしこひし 蛁蟟（つくつくぼふし）をいふ。蟬の一種にて、秋の末より冬の初めにかけて日暮に鳴く小さい黑き虫のこと（近江の方言）

つくつく 臼のこと。(宮女の詞)
づくにふ みみづくの様に肥へて憎々しい者のことを云ふ。
つぐむ〔銜〕 警官などから追跡されて一時適當の場所に潜伏すること。
つぐめ 寡婦のこと。(遠江の方言)
つくり 賭博の開張を云ふ。
つくりのしや〔造社〕 大阪市内玉造に住む不良少年團のこと「しや」は團體を意味す。【大阪】
つけ 喫煙を云ふ。
つげ 引致。收監。「損をした」ともいふ【東京】
つげ〔黄楊〕 堅忍。(花言葉)
づけ 殘飯を云ふ。
つけあげ〔附上〕 天麩羅のこと。(京阪の方言)
づけあつめ 飲食店等から殘飯を貰ひ集める者を云ふ。
つけうま〔附馬〕 刑事に尾行されること或は誰可されること。【大阪】
つけがでる〔附出〕 犯罪事實の露顯にて警官が逮捕せんとしてゐること。
つけき〔附木〕 贋造紙幣を云ふ。
つけぎ 掏摸を云ふ。

つけこみ〔附込〕 拘留其他の刑罰に處せられることを云ふ。
つけさげ〔附下〕 掏摸が目的の人物を追ふに親分から乘物賃等を借りること。或は遠方まで目的人物を尾行し目的を達せずして同類の者に金を以て目的權利を讓ることを云ふ
つけむし〔附虫〕 人家より離れてゐる土藏に忍入ることを云ふ。
つけめとる〔附目取〕 强盜が金品を窃取した上更に現場にて婦人の貞操を蹂躙することを云ふ。
つける〔尾〕 尾行することを云ふ。
づける 授ける。同語の略。
つこ 飯のことを云ふ。
づこ 頭部を云ふ。
つごーする 食事をする。
づさ 紙幣。「さつ」の音轉。
つされ 紙幣を云ふ。
つじ〔辻〕 非常警戒線。或は剽盜。「辻强盜」の言葉より
つじぎみ〔辻君〕 人通りの少い道路等で袖を引つぱる淫賣婦のこと。
つじぎり〔辻斬〕 女學生の通學の歸宅の途中を待ちうけて誘惑すること。(不良

青少年)
つじぼうひき〔辻寶引〕 大道に於てなす籤賭博のことを云ふ。
つすみ〔都壽美〕 詐欺賭博に使用する賽のこと。賽の六面中二、四、六の目を盛らずして半のみが出るやうにしてあるもの「すめくら」とも云ふ。
づだ〔頭陀〕 財布。紙入。「頭陀袋」より
つたい〔傳〕 屋根傳ひに忍入る窃盜。「わたりこみ」とも云ふ。
つたいぼう 泥醉してゐる者のこと。(京都の方言)
つち〔土〕 死亡。死人が土に化すより。
つちしよー 玄米。【長崎縣】
つちまく 毆打。喧嘩を云ふ。
つづ 食事をすること。【富山縣】
つつきのこうかん 手提鞄類を窃取することを云ふ。
つツこみ〔突込〕 强姦を云ふ。
つつじ〔躑躅〕 節制。(花言葉)
つつぬけ 全部の意。(尾張の方言)
つつのと 祭典、緣日等に集る多數の群集の總稱を云ふ。
つつはらい 男子の小用するを卑む言葉
つつもたせ〔美人局〕 夫婦同意にて妻を

して他の男と姦通せしめ、夫はそれを材料に姦夫たる男に金品を强要するものである。或は妻をして他の男に様ぜしめその男の金品を窃取して逃亡することを云ふ。

つづら〔葛籠〕 柳行李の類を云ふ。

つづり 詐欺的手段を云ふ。

つて〔傳手〕 窃盗共犯者を云ふ。

ヅドン 破獄。逃走。或は拒絶すること

つなぎ〔繼〕 電信。電話。通信。贈賄。或は囚人に面會することを云ふ。

つなぎば〔繼場〕 窓口。或は囚人面會所

つなぐ〔繼〕 被害者を縛り暴行を加へて脅迫すること。或は初對面の者が交際を結ぶことを云ふ。

つなつき〔綱附〕 詐欺賭博の際、釆に糸をつけ思ひ通りの目を出すこと。

つなびき〔綱引〕 牛馬の窃盗。「ながつなびき」とも云ふ。

つなや〔綱屋〕 藁葺屋。綱を以て暖簾を作りてあるより。

つねん 神社佛閣等に野宿すること。

つの〔角〕 牛。牛肉。或は煙管。「鬼婆は常に煙管をもつてゐるお相場」よりか。或は警察官。「鬼の角」から來たもので恐ろしい意。

つのがまわる〔角廻〕 刑事や巡査が尾行してゐることを云ふ。

つば〔鍔〕 燒麩。或は針のことを云ふ。

つばき〔椿〕 謙譲で卓越してゐること。（花言葉）

つばくら〔燕〕 土藏。燕はよく土藏などに巣を造るより。

つばつき〔唾付〕 娼妓。或は賣春婦。

つばめかへし〔燕返〕 相手を突き倒しその瞬間に金品を窃取して逃げる掏摸のことを云ふ。

つばる 官公吏を云ふ。

つび 陰門。「ちび」とも云ふ。

つぶ 俗にいふ「流し」のことで、金品を乞ふ「グレ」であるが「ケンタ」と違つて一定の場所で貰ふものでない。

つぶ〔粒〕 賭博に使用する釆を云ふ。

つぶ 田螺のこと。（東北の方言）

つぶし 賣春婦。浮浪者を云ふ。

つぶし 膝のこと。（豐前豐後の方言）

つぶた〔粒太〕 銅貨を云ふ。

づべよ 不良少女を云ふ。【關西】

つぼ〔壺〕 「つぼざら」に同じ。

つぼ 教誨師を云ふ。（囚人）

つぼ 警視廳のことを云ふ。

つぼ 田螺のこと。（尾張の方言）

つぼざら〔壺皿〕 釆賭博に使用する椀形の伏せ皿を云ふ。釆を轉がす場合皿の中に入れて結茣蓙の上に伏せて皿共動かすを云ふ。

つぼさる〔壺笊〕 「つぼざら」に同じ。

つぼね〔局〕 女郎。「局女郎」より、或は美装せる婦人を云ふ。

つぼふり〔壺振〕 釆賭博の場合壺に釆を入れて伏せる者のことを云ふ。

つぼや〔壺屋〕 煙草人を云ふ。

つぼやき〔壺燒〕 男女の交合を云ふ。

つぼわん〔壺椀〕 「つぼざら」に同じ。

つま 白米を云ふ。【岩手縣】

つま 握り飯を云ふ。

つま〔褄〕 藝妓。「左褄」の語より。

つまこかし〔妻倒〕 强姦を云ふ。

つまみ 失業者又は白痴を裝ひ、色々の口實を設けて仲間のサクラと話をなし群集の購買心をそゝる香具師のこと。「へたり」とも云ふ。

つまみ〔摘〕 窃盗品を無代にて授受すること。或は詐欺のことを云ふ。

つまみ〔摘〕 癩病患者。乞食等を云ふ。

鼻つまみより。

つまみぐい〔摘食〕 姦通「つまむ」とも云ふ。

つまむ〔摘〕 竊盜。或は姦通を云ふ。

つまり 祭禮。緣日。「まつり」の音轉。

つめ〔詰〕 厠。或は一方にしか出入口のない露路のことを云ふ。

つめたいぞろ 冷麥のこと。（宮女の詞）

づや〔闇屋〕 贓物故買者。「けいづや」の略。

つゆ 鷄姦を云ふ。

つゆ〔露〕 夜明けを云ふ。

つゆぐさ〔露草〕 夜の樂み。（花言葉）

つよぎ 藝妓を云ふ。

つら 現金を云ふ。

づら 逃亡。行衛不明。「づらかる」の略

づらかる 逃亡を云ふ。

づらす 逃走を云ふ。【關西】

つらつら 竊盜の目的を達して逃走することを云ふ。

つらはる 洗面すること。（淡路西浦の方言）

つり〔釣〕 「たこつり」に同じ。所持金。【東京】或は商店内にて購買中の人のことを云ふ。

つり〔吊〕 睾丸。柳行李のことを云ふ。

つりあげ〔吊上〕 住家に忍入るに門戸や扉等を外すことを云ふ。

つりがね〔釣鐘〕 大聲にて話す人。或は大聲で叱る人を云ふ。【石川縣】

つりがねさう〔釣鐘草〕 變らない心。（花言葉）

つりこむ〔釣込〕 娼妓を相手に夜を明かすことを云ふ。

つりま 祭。「まつり」の轉換。

つりゆみ〔吊弓〕 强姦を云ふ。

つる〔鶴〕 若い娘を云ふ。

つる〔釣〕 逮捕されること。或は詐欺的手段で金品を騙取することを云ふ

づる〔弦〕 三味線。（香具師）「センボ」より。

つるつく 住家。【朝鮮人語】

つるて 男子。【朝鮮人語】

つるぶら 蚊帳。吊りぶらさげるより。

つるま 祭。緣日。「祭る」の轉換。

つれ 紙幣を云ふ。

つれこみ〔連込〕 田舍出の女や世事にうとい婦人等に甘言を以て宿屋などに連込み關係をつける。これらのものを常習に客となす宿を連込み宿といふ。

つれこみ〔連込〕 幼兒を連れて社會事業團から來たと稱し金品を强要すること

づれた 地震。震災。或は團隊等が離散すること。「ゝづれた」の略。

つん 耳を云ふ。

つんどくほー〔積讀法〕 書籍を讀まずして買ひ積んで置くこと。（學生の用語。）

づんどびら 褌を云ふ。

づんぶり 入浴すること。或は「いたのまかせぎ」のことを云ふ。

づんぶりかまる 入浴を云ふ。

づんぶりや 風呂屋を云ふ。

つんぼ〔聾〕 石材。庭石を云ふ。

て の 部

て〔手〕 共謀者。【大阪】

であい〔出逢〕 待合室。集會場を云ふ。

でい 奥間。（兵庫縣佐用郡の方言）

テイ〔竹〕 短銃。【朝鮮人語】

ていた 警察官吏を云ふ。

ていツた〔躍〕 逃亡。【朝鮮人語】

ていどう〔定胴〕 胴元が廻り胴でなく一定してゐること。（賭博）

ていら〔偵邏〕 犯人の熟睡中逮捕に向ふ。

ことを云ふ。

ていり〔出入〕 喧嘩。「どろ」「どろまく」と同じ。

てを 横領を云ふ。【關西】

てか 火。禿頭。「テカ〱する」の意。

でか 刑事。巡査を云ふ。

でかがかまつた 警官が逮捕に來たとの意。

でかごろ 警官や看守に叱られること。

てかさく 僞刑事のこと。刑事と詐稱して詐欺恐喝をなすことを云ふ。

でかつける 放火。【北海道】

てかは 刑務所を云ふ。【關西】

てからむ 所持金のないことを云ふ。

てかる 人が來ること。【宮崎縣】品物等を置いて有ること。【島根縣】金錢を強要すること。或はなまける。遊ぶ。だれる等の意。

てき 制服巡査。〔岩手縣〕

テギ〔餅〕 多額の金錢を持つてゐさうな人物。【朝鮮人語】

てき 召使のこと。〔備前の方言〕

できあい〔出來合〕 假合の夫婦を云ふ。

てきき〔手利〕 掏摸を云ふ。

てきし〔的師〕 「テキヤ」に同じ。

テキヤ〔的屋〕 盛り場や緣日等の大道に於て種々のものを賣る商人にして香具師の一種のもの「テキヤ」には必らず「神農」と稱してゐる親分があり。親分から一定の資本金か品物等を借り受けてそれを賣りその步合を貰ふ。或は詐欺賭博の共犯者のことを云ふ。

できぼし〔出來星〕 成金のこと。金持になれば世に表はれるより。

てくだ〔手管〕 手段のことを云ふ。

でくだ 放免。出監を云ふ。

てくる 移轉。テク〱步くの意より。

でくる〔出來〕 成功しつゝあること。思ひ通り行くこと。【東京】

テケツ〔Ticket〕 切符。英語の「テイケツト」の略。

てこ 手。箸。ホーク。或は賭博常習者又は茶碗のことを云ふ。

てこ 男子。或は陰莖を云ふ。

でこねる 死亡を云ふ。【大阪】

でこぼこ 人形。〔尾張の方言〕

てこまわし 强盜を云ふ。

てさき〔手先〕 廻し者。密告者を云ふ。

てし〔手[illegible]〕 カルタ賭博にて同種の札が四枚の手役を云ふ。

でし〔弟子〕 陰莖を云ふ。

てした〔手下〕 警官。「でか」に同じ。

てじま 商人を云ふ。

てしる 毆打を云ふ。

てすと 看守長を云ふ。

でだな〔出店〕 巡査派出所を云ふ。

てちら 炊事を云ふ。

てつ 阿豚を云ふ。

てづ 金錢を云ふ。

てツか〔鐵火〕 一定の職なく諸方を徘徊する無賴漢。或は博徒が己の所持品を形にして金を借ることを云ふ。

てツかうち〔鐵火打〕 博徒を云ふ。

てツかば〔鐵火場〕 賭博開張の現場。「てつか」は無賴漢のことを云ふ。

てツかり 火事場泥棒。或は酷暑。煙花銃器。マッチを云ふ。

てツかり 金物類。或は電燈を云ふ。

てツかりかせぎ 火事場泥棒を云ふ。

てツき 牛乳を云ふ。

てツきた 多額の金錢を所持してゐさうな人物が來たとの意。

てづけ〔手附〕 共犯者が贓品を分配することを云ふ。

てづけ〔手附〕 男女の接吻を云ふ。

でツこ　沖仲仕が運送中の貨物等を窃取し、それを一時水中に隠匿すること。「れつとこ」とも云ふ。（神戸）

でツた　警官が来ることを知らす言葉。

でツち　新規に作ること。俗にいふ「でっちあげる」より。

でツち〔丁稚〕　店先。それより玄關。通用門等の意。

でつち　詰ることを云ふ。（關西）

でつち　喧嘩。毆打を云ふ。

でつちあげる　亂毆することを云ふ。

でつちはくい　喧嘩が上手な事を云ふ。

でツちる　訊問の際事實の申立てを促がすこと。或は毆打する事を云ふ。

でツつる　毆打することを云ふ。

デツテル　婦人の容貌。レーベルの轉訛

てツぺん〔天邊〕　酒精の多い極悪な酒のこと。（駿河の方言）

てツぺんぶくろ〔天邊袋〕　頭巾のこと。（南部の方言）

てツぽう〔鐵砲〕　窃盗に忍入るため施錠の箇所を外すに使用する器具のこと。或は煙管。大豆のことを云ふ。

てツぽうじけんし〔鐵砲事件師〕　官名官職を僞稱し脅迫や詐欺をなす常習者。

てツぽうひき〔鐵砲引〕　通行人の腰に挾める煙管を窃取することを云ふ。

ててぱい　詐欺手段を云ふ。

ててみ　鮮人用の靴。【朝鮮人語】

ててんごー　賭博を云ふ。

てどる　窃盗をなすこと。【福岡】

てどる（手取）　委託金品の横領。或は授受を云ふ。

てなが（手長）　窃盗行爲。それより一般に手癖悪き者。或は土藏破り等に使用する。先の尖りたる鋸を云ふ

てに　安心することを云ふ。

でにようぼう〔出女房〕　旅人宿の女中の事を云ふ。（伊勢の方言）

てのごい　手拭を云ふ。（屋張の方言）

てのすじ〔手筋〕　骨牌賭博を云ふ。

てーはくきよ〔大學校〕　刑務所【朝鮮】

てはたき　施錠を破りて忍入ること。

でばら〔出腹〕　交合を云ふ。

てばり〔手張〕　後拂の約束でする賭博。

でばる　婦女子に對して暴行すること。

でび　陰莖を云ふ。

でひぼ　陰莖を云ふ。

でふ　筆。同語の音轉。（香具師）

てべら　白米を云ふ。

てぼ　女郎買いを云ふ。【關西】

でぼ　敎誨師を云ふ。

てほんひき〔手本引〕　カブ札を用ゐる賭博を云ふ。

てまり〔手鞠〕　贓物。或は小芋のこと。

てみさい〔手目釆〕　贋釆を云ふ。

てめぼくち〔手目博打〕　詐欺賭博の事。

でも　詐欺や窃盗に用ゆる材料。其他犯罪行爲に必要な資金等を云ふ。

でも　暴動、刑事。或は陰莖を云ふ。

てもく　松を云ふ。

でもせ　破獄逃亡を云ふ。

てもる　手に持つ。【富山縣】或は看守のすきを見て物を窃取すること。或は密語すること。【石川縣】

でや　安否を尋ねる言葉。「どうか」を「どうや」と音訛省略したもの、或はそれより對座せる相手方の代稱となる。「お前」「貴様」の代り。

てやき　暗號。符牒を云ふ。

てゆ　未成年囚を云ふ。

てら〔照〕　金貨。金時計。簪。其他一般金製の什器。或は月夜。晴天。光り。輝き。火。燈火。擢付木。火災。火山又は電燈等を云ふ。「てら」は「照す」の

意にて接尾語、接頭語として諸種の言葉を作る。例へば「てらあがる」と云へば「日が上る」との意にて「たかてら」と云へば。「提灯」のことである。

てら〔寺〕　賭博開張者の口錢。或はそれより賭博開張の現場⁅「てらせん」の略。

てらあがる〔照上〕　日の出。朝を云ふ。

てらをあげる〔照上〕　火を點すこと。

【島根縣】　或は放火。「てらをきる」ともいふ。

てらをかける〔照掛〕　放火。或は忍入るため施錠の箇所を燒取ることを云ふ。

てらをはなす〔照放〕　放火を云ふ。

てらかがり　闇夜を云ふ。【福島縣】

てらかがる　火災を云ふ。【島根縣】

てらがきれる　朝。日の出。【宮崎縣】

てらぎり　燐寸を云ふ。

てらこ〔照子〕　煙管。煙草を云ふ。

てらこや〔寺小屋〕　書籍類を云ふ。

てらさかな〔寺肴〕　豆腐を云ふ。

てらさし〔照差〕　小刀、安全剃刀の刄物を指の間に挾み袂やポケット等の上から切り破り中の金品を竊取する掏摸犯を云ふ。

てらし〔照師〕　放火犯人を云ふ。

てらし　火。火災。火藥。放火。燈火。或は月。太陽。夕日を云ふ。

てらし〔寺師〕　詐欺賭博の共犯者を云ふ

でらし　娼妓。【阪神地方】

てらしをはわす〔照這〕　放火。「てらしをかめる」ともいふ。

てらしごや　物置小屋。納屋を云ふ。

てらす〔照〕　煮る。燒く。燃すを云ふ。

でらすこ　金側懷中時計を云ふ。

てらせん〔寺錢〕　「てら」に同じ。

てらつけ〔照附〕　燐寸「てらぎり」ともいふ。

てらにおさめる　贓物を隱匿すること。

てらのぐるわ　金指輪を云ふ。

てらぶくろ〔照袋〕　提灯。「てりぶくろ」ともいふ。

てらまわり〔照廻〕　屋外の置物を竊取する竊盜を云ふ。

てらもの〔照物〕　絹着物を云ふ。

てらん　月を云ふ。

てらツて　硝子を云ふ。【山口縣】

てり〔照〕　火を云ふ。【富山縣】

てりきり〔照切〕　竊盜に忍入らんがために施錠の箇所を燒取ることを云ふ。

てりたか〔照高〕　太陽を云ふ。

てりぶくろ〔照袋〕　提灯。「てらぶくろ」ともいふ。

てりや〔照夜〕　月夜を云ふ。

てる　襦袢を云ふ。

てるくみ　日蔭のこと。（下野、栃木方面の方言）

てるみ　日向のこと。（下野、栃木方面の方言）

てれ　屋根、引窓等を破り忍入る竊盜を云ふ。【長崎縣】

てれ〔照〕　火災を云ふ。

でれすけ　陰莖を云ふ。

でろ　燈火。「てり」の音訛。【香川縣】

てん　共同にて動作を行ふこと。共謀。共犯を云ふ。

てん　看守。巡査を云ふ。

てん　自分が竊取した故に彼には懷中物はないと仲間に通知すること。（掏摸）

てん　旅行を云ふ。【三重縣】

てん　萬事に都合が好いこと。「はくい」ともいふ。得意の絶頂の場合に前額部を自ら叩いて「てんてん」と唱へるその時吾を出して唱へる事もあり。猶自分の意に滿ちたやうな場合に廣く用ゐられている。

てん　取締りの緩漫なることを云ふ。

てん〔天〕　天井。天窓。或は屋根、引窓等を破りて忍入る窃盗。「てれ」ともいふ。

でん　警部以上の警察官を云ふ。

てんいち〔天一〕　安心して實行せよとの意。

てんいろ　賭博を云ふ。

てんえつ〔天悦〕　男女の交合。「天」は二人と書くが故に男女を表はした意。（僧侶）

てんをうつ〔轉打〕　窃取した金品を股に隠すことを云ふ。

てんをちかう　切断することを云ふ。

てんがい〔天蓋〕　帽子。傘、笠の如く凡て頭上より被さるゝもの。蚊帳。太陽或は蛸。（僧侶）とも云ふ「てんがいし」に同じ。

てんがいし〔天蓋師〕　屋根、引窓等を破りて忍入る窃盗。「てんがい」ともいふ。

てんがえる　逃亡。行衛不明を云ふ。

でんがおちた〔電落〕　犯則を認められて叱責されること。【長野縣】

てんかち〔天勝〕　晴天。或は時機が好いから直ちに實行せよの意。又は物事が凡て首尾よく行ったこと「てん」ともいふ。

てんかつ〔天勝〕　大丈夫、【岡山縣】窃盗の既遂、或は帽子。頭。又は虚偽の申立をなして懲罰を免れることを云ふ。

てんかつでいけた〔天勝行〕　都合よく營業願を許可されたことを云ふ。

てんかゆる　逃亡。行衛不明を云ふ。

てんからゆく〔天行〕　屋根、天窓等を破って忍入ること。【京都】

てんかり〔天刈〕　散髪を云ふ。

てんかりや〔天刈屋〕　理髪店を云ふ。

てんかん　眠る事を云ふ。【岩手縣】

てんき〔天氣〕　犯罪行爲に好都合の事。

でんき〔電氣〕　太陽。星。月。光線。或は風呂の湯が熱いこと。【岐阜縣】

てんきがよい〔天氣晴〕　刑事が巡回して居る事を仲間に知らせる言葉を云ふ。

てんきし〔天氣師〕　停車場、待合室等を目的としてゐる掏摸犯を云ふ。

てんきり〔天切〕　窃盗に忍入る目的にて屋根、天窓等を破ること。或は賭博常習者を云ふ。

てんぐ〔天狗〕　「天」に同じ。

てんぐ〔天狗〕　鼻。或は降雨。鯖を云ふ

てんぐ　水天宮。【關東】

てんぐばた〔天狗旗〕　凧。（奥州の方言）

てんごー　賭博。賭博犯人。「きんご」の音訛か或は大阪方面の方言にて弄ぶことを「てんごー」といふ、それよりか。

てんごーし　博徒を云ふ。

でんこ　家出を云ふ。【關西】

てんこばらけつ　不良徒を云ふ。【關西】

でんごろーもち〔傳五郎餅〕　握飯のこと

てんさい　釆賭博の一種にして、釆を五つ使用するものを云ふ。

てんし　強盗、殺傷等に用ゆる刄物のことを云ふ。

てんし〔天師〕　詐欺的不正行爲をなすもの。【東北】

てんしけ　刑事。巡査を云ふ。

てんじよー〔天上〕　好都合だから直ちに實行せよとの意。「てんいち」「てんかっ」「てんかち」に同じ。

てんしん〔天震〕　夕立。降雨。雷。降雨時の形容を云ふ。

てんじん〔天神〕　博徒。勞働者間にて親分株の者を云ふ。

てんじん〔天神〕　梅干。道眞公が梅を愛したことより或は書類の作製　手紙。

書を認めること等。道眞公が能筆であつたことより或は太夫の次位の遊女をいふ。京阪の方言にて、昔揚代二十五文なりしより天神様の命日に因みていふに至れりと。

てんじん〔天神〕　眼。或は贋造紙幣の行使をなすペーパー師同類の内にて刑事を装ふ者。「せんせい」ともいふ。

てんしん〔電信〕　通牒すること。或は電柱を傳ひて屋根に上り窓口より忍入ることを云ふ。

でんしんをかける〔電信架〕　通話することを云ふ。

てんしんかせぎ〔電信稼〕　強窃盜の事。

てんじんさん〔天神様〕　強盜を云ふ。

てんじんぼう〔天神坊〕　梅干を云ふ。

てんす　霽天のこと（宮女の詞。）

てんする　釜を云ふ。

てんすぶくろ　提灯を云ふ。

てんする　共謀にて窃盜の目的を達せんがために見張りをすることを云ふ。

てんた　大丈夫。安全。好都合のこと。

てんだい〔天臺〕　餅を云ふ。

てんだいつき〔天臺附〕　紋付衣服を云ふ

てんだいまい〔天臺米〕　糯米を云ふ。

てんち　窓。（淡路の方言）

てんち　筒袖の着物を云ふ。

てんちようせつ〔天長節〕　袴を云ふ。

てんつり　落し穴を云ふ。

てんづたい〔天傳〕　屋根傳ひに忍入る窃盜を云ふ。

てんてじばり　博徒の親分を云ふ。

てんてん　得意の絶頂に達した時の言葉感歎詞「てん」參照。

でんでん　車夫を云ふ。

てんと　八王子方面の事を云ふ。【東京】

テント〔天幕〕　夜半。（山窩）或は帽子。

てんとー〔天道〕　日中の空巣ねらひのことを云ふ。

てんとーさま〔天道様〕　洗面器。洗面することを云ふ。

てんな　取締りの緩漫なことを云ふ。

てんなもんや　得意の絶頂に達した感歎詞を或者に對してもらす時の言葉「てん」參照。

てんにん〔天人〕　屋外に置いてある物品を窃取することを云ふ。

てんぬき〔天抜〕　「天」に同じ。

てんのー　壯年の男子を云ふ。

てんのうさま〔天王様〕　胡瓜を云ふ。

てんぱく　合羽を云ふ。【廣島縣】

てんはたき〔天拂〕　戸締りの施錠を破りて忍入ることを云ふ。

てんびん〔天秤〕　表戸、雨戸等を取外して忍入ることを云ふ。

てんぶくろ　西瓜を云ふ。

てんぷら〔天麩羅〕　精を云ふ。【廣島縣】或は囚人が改心したる様に見せかけること。表面は親切そうで内心親切でないこと。凡て内容に貧弱であつて表面のみをよく見せることを云ふ。

てんぼー　愚かな者。馬鹿な人。【和歌山】

てんぽーく　警察署を云ふ。

てんまど〔天窓〕　眼を云ふ。

てんや　居酒屋。下等飲食店。或は贓物の運搬を云ふ。

てんりよー　饅。按摩。托鉢僧を云ふ。

てんろく〔天六〕　切戸や其他凡て戸締りの箇所に施したる桟のことを云ふ。

でんわをかける〔電話架〕　密かに話をすることを云ふ。

と の部

と〔戸〕　風の吹く日。風の吹く日は戸が

ガタックより連想したもの。

どー　汽車を云ふ。【東京】

どい　東京。江戸の音轉「どえ」の音訛

といし〔砥石〕　燒豆腐を云ふ。

とーいち〔十一〕　花札の素札と一點札一枚の意。或は情夫のことを云ふ。

といばり　犯罪實行中の見張番を云ふ。

どうげん　放蕩者。（美嚢郡の方言）

どえ　東京。江戸の音轉にして訛つて、「どい」ともいふ。

どーおや〔胴親〕　賭博開張の場合受身となつて多數又は一人を相手に勝負する者。賭博　親のことを云ふ。

どか　制服巡査を云ふ。

どーかい〔道街〕　道。市街。或は街路に於て道行く人に贋造物を賣る詐欺的商人のこと。「どうかいし」ともいふ。

とかいし〔都會師〕　緣日や祭禮のある場所等に於て詐欺的行爲をなして不當の利を得んとする香具師の類。「賑ぎやかな所」に於て爲す故か。

どーかいし〔道街師〕　街路に於て道行く人に贋造物を賣る商人。或は道行く人を相手とする詐欺賭博犯人のこと。

どーかつ　活動寫眞。「活動」の轉換。

とーがらし〔唐辛子〕　幼兒の陰莖。或は犬の陰莖を云ふ。

とかん　看守。【朝鮮】

どかん　鈍感。同語の略を云ふ。

とーかん〔盜汗〕　寢汗のことを云ふ。

とき　刑事。私服巡査を云ふ。

とき　興行物のことを云ふ。

とぎ　阿片。（朝鮮會寧方面）

どきは　諸方を流浪し竊盜を常習となす者を云ふ。

どーきよー、の、うんてい「道鏡雲梯」　詐欺取財の目的にて通貨を僞造なすこと

とく　掏摸の目的人物を云ふ。

どーぐ〔道具〕　詐欺賭博に使用する詐欺道具のことを云ふ。

どくこ　經節を云ふ。（僧侶）

どくざい〔毒釆〕　詐欺賭博に用いる仕掛けある贋釆。「とび釆」「ぐら釆」などともいふ。

どーぐさい〔道具釆〕「どくさい」に同じ

とぐち〔戸口〕　口腔を云ふ。

どくにんじん〔毒人蔘〕　君は私の死を望んでゐるとの意。（花言葉）

とこかえ〔床替〕　遠方へ逃亡すること。行衛不明を云ふ。

とこし〔床師〕　好色家を云ふ。

とこすけ　男を云ふ。

とこだれてゐる　男に戀愛してゐること

とこまえ　立派な男。「とこ」は男のこと

どさ　犯人の潜伏場所や犯行現場等に警官が手入れに來ることを云ふ。

どさ　贋造通貨を云ふ。

どさいれる　强盜を云ふ。

どさをぶちこむ　「どさいれる」「とんとん」に同じ。

どさごみ　三等客車。「どさ」は「雜沓」の轉換音訛。

どさり　京カブの一種。或は骨牌を用ふる賭博のことを云ふ。

とざんうち〔登山打〕　高山植物や藥草を登山歸りに賣るのだと稱して商賣をなす「テキヤ」のことを云ふ。

とさんかち　强盜を云ふ。

とし　故買者。「おとし」の略を云ふ。

とし〔都市〕　繁華な市街を云ふ。

どし　刑事。或は强盜。「おどし」の略、訛つて「とじ」ともいふ。

どし　顏を云ふ。【京阪】

どし〔同志〕　共謀者、共犯者を云ふ

どし　酒。或は衰弱せるもの。【大阪】

どじ　芋類。茄子を云ふ

としがほや　贓物牙保者を云ふ

どーじき〔胴敷〕　賭博開張に座敷を貸す者を云ふ。

とーしく〔十四九〕　釆を三つ使用する賭博を云ふ。

とーして〔通手〕　賣買。贈與を云ふ。

としばらす　殺人を云ふ。

どじぼ　芋を云ふ。

としま〔年增〕　土藏の周圍を燒板で腰張りしたもの。黒壁の土藏。「土藏」のことをむすめといふがそれより聯想したものを云ふ。

どーじま〔堂島〕　梯子を云ふ。

としまうつ　暴動。一揆を云ふ。

どじも　芋を云ふ。

どしもん　犯罪の發覺をおそれて贓物を捨てることを云ふ。

とーしや〔通屋〕　贓物故買者を云ふ。

どしや　銀行。其他銀行類似の金錢を取扱ふ會社のことを云ふ。

どしやながし〔土砂流〕　「おてんきし」に同じ詐欺にして、單獨又は共謀にてなす。一人が贋造の金品を通行人の來る前路上に落しおき、他の同類が通行人と共同で拾ひ、警察へ屆けようとする途中、種々の口實を設け拾得した金品を預けて信用せしめ、通行人の金品を借り受けて逃げる詐欺のことを云ふ。

どしよー　針を云ふ。【福井縣】

どじよー【泥鰌】　官吏。「泥鰌髯」の聯想したもの或は家尻切などが犯行に用ふる小刀類を云ふ。

とーしろ　素人。物事に熟練しない者。「しろーと」の轉換。

とーしろー〔藤四郎〕　新任の看守の事。

とす　贓物故買者。或は窓のことを云ふ

とず　制服巡査を云ふ。

どす　強盜。兇行、恐喝に使用する刀劍類。又一般に刄物のことをいふ。「おどす」の略。

とーす　密談をすること。【石川縣】

とーす〔通〕　贓物を處分することを云ふ

とーすい〔登水〕　サイダ、ラムネ等の飮料水を云ふ。

どすをのむ　兇器刄物を懷中に持つてゐること。「のむ」は所持の意。

とーすけ　額を云ふ。

とすはれ　雪降りを云ふ。

どすびらき　拔劍を云ふ。

どすぼえる　幼兒が泣き叫ぶことを云ふ

どずむ　贓品をかくすこと。【兵庫縣】

とーすや〔通屋〕　贓物故買者を云ふ。

どーぞ　神社、佛閣等を云ふ。

どぞー〔土藏〕　娘。處女。處女の貞操を破るを「土藏をやぶる」といふ。

とだ　戸棚。同語の略

どた　「どす」に同じ

どたま〔頭〕　窃取額の多い窃盜。「あたま」より。

どたりはぢや　窃盜を云ふ。

どたんば　眠る處。最後の處を云ふ。

どち　薩摩芋を云ふ。

とーぢ〔湯治〕　入監。或は「いたのまかせぎ」に同じ。

どちをふむ　計畫行爲中意外の故障に遭ひ狼狽、不成功に終ること。或は該時狼狽をすること。仕損ふこと。

とちかん〔土地關〕　その土地に關係があることを云ふ。

とーぢにいく〔湯治行〕　「とーぢ」に同じ

どちふむ　「どちをふむ」に同じ。

どぢぼ　里芋。薩摩芋を云ふ。

どちぼー　芋。【埼玉縣】

どちみ　飮酒。或は汁の副食物を云ふ。

とちゆーさぎ〔途中詐欺〕 金錢を所持してゐる者を途中に待ち受て種々の口實のもとに横領する詐欺。よくこれ等は銀行員等に化け銀行より金を引出して歸途にある者から種々の口實を設けて引出した金を横領竊取することが多い

どつかいす 詐欺を云ふ。

どツこ〔獨股〕 男根。（僧侶）

どツこいどツこい 廻し取りを云ふ。

どツこかぢ〔獨股加持〕 情交。（僧侶）

どツこいや 旅商人を云ふ。

とツたー 巡査が來ること。【朝鮮】

とツたー 邪智に長じた人物。或は鋭敏活潑。粗暴。短氣を云ふ。

とツぽい 聰明にして容易に手段に乘じない人物。（詐欺賭博）或は頓智に長じ利を見るに鋭敏なること。拔け目のないことを云ふ。

とにぽいくり 拔け目のない注意周到な警官のことを云ふ。

とてき〔賭的〕 めつた弓術の賭事。

とてしやん 非常な美人。「とて」は「とても」の略にして最上の意「しやん」は美人のことを云ふ。

どてしやん 花柳界の女。非常に醜い女のことを云ふ。

どてつ 藝妓を云ふ。

どーてつ〔道鐵〕 汽車。電車。其他軌上の乘物を云ふ。

どてら 主人。或は刑期が滿了して出獄することを云ふ。

とど 典獄。或は强盜。「とんとん」の略したものを云ふ。

とどいツた 地方の金滿家を云ふ。

とどく 典獄。「とど」ともいふ。

とどけしよ〔屆所〕 便所を云ふ。

とーとるぢまるらー 詐欺賭博中騷擾するなの意。【朝鮮人語】

とどろ 雷鳴。轟くの意味を云ふ。

どーとんぼり〔道頓堀〕 雪駄を云ふ。

とーなかい 店員の隙を窺ひ商品を竊取することを云ふ。

どーに〔胴二〕 三人で賭博をする時親の次になる者を云ふ。

どーにあげる 人を毆打することを云ふ

どーねつ〔銅熱〕 電車を云ふ。

どのじんばした 煙草入を云ふ。

とのす 共犯者を云ふ。

とのへくばい 汽車内の掏摸。「はこし」參照。

とは 「さくら」に同じ。

とば 掏摸萬引等をなす際、發見を防ぐために前掛や風呂敷其他の物で手先を蔽ひ、犯行をなすことをいふ。或は「どしやながし」の共犯者のこと。又は服裝。羽織。一般衣服のことを云ふ。

とば 住家。庭。其他凡て場所のこと。「どば」ともいふ。

とば 「ばきり」に同じ。【東京】

とーは 頭。或は同類。（香具師）

どーは 竊盜を云ふ。【關西】

とばうち〔賭場打〕 賭博常習者を云ふ。

どばおい 掏摸の手先になる者。被害者の視線を遮ぎるため共犯者がその補助をすること。「とばかぶせる」ともいふ（掏摸）或は詐欺賭博及その犯人。

とばをきめる 竊盜の目的場所を定めることを云ふ。

とばをつなぐ 竊盜の目的家屋を下見に行くことを云ふ。

とばをふむ 住家に忍入ること。及竊盜をなすこと。高塀などを乘り越すこと

とばかい 竊盜現場に於て贓物故買者が犯人から直接贓物を買ひ取ること。

とばきり 竊盜の補助行爲。及補助者。

とばし 「いたばかせぎ」に同じ。

とばし〔飛〕 高塀などを乗り越すこと。或は密偵を云ふ。

とばす〔飛〕 逃走。【山口縣】

と一はち〔十八〕 土藏破りを云ふ。

とばつき 屋敷内にある土藏のこと。

とばつづき 長屋。或は人家が櫛比してゐることを云ふ。

とばふみ 窃盗に行くこと。或は忍入る術をよく知る頭役のこと。【和歌山】

と一ばへふける 遠方へ逃亡行衛を晦ますことを云ふ。

とばもの 贋造物品を云ふ。

とばよ 馬鹿。（赤穗郡の方言）

とひ 贓物故買者。或は人のこと。同語の音轉を云ふ。

とび 下肢を云ふ。

とび〔飛〕 鐵砲。ピストル。飛道具の略

とび〔鳶〕 干物を窃取する事。【岩手縣】食物其他を掴みとること。【山口縣】空巢ねらひ。屋外の窃盗、子供の持てゐる金品を掠奪するもの、强奪。或は制服の巡査をいふ。

とひがかまる 人が來るとの意。【山口】

とびこし〔飛越〕 猫を云ふ。【岐阜縣】

とびこみ〔飛込〕 窃盜の目的を以て晝間家人の隙を窺ひ屋内に忍入り床下等にかくれること。及其犯人のこと。或は興行場の雜沓にまぎれ無料で入場することを云ふ。

とびさい〔鳶釆〕 詐欺賭博に用いる仕掛けした贋釆のことを云ふ。

とびすけ〔飛助〕 蚤を云ふ。

とひばらし 殺人。殺傷を云ふ。

とひはる 住家に忍入るに立番をつけることを云ふ。【岩手縣】

とびひが 放尿。放屁を云ふ。

とびひん〔飛品〕 蚤。訛つて「とびへん」ともいふ。或は更に音をもぢつて施錠の箇所を破壞するに用ゐる鑿の類をいふ。

とびら〔扉〕 廊下。緣端を云ふ。

どひよ一がまり〔土俵罷〕 米穀を入れる土藏のことを云ふ。

どひよ一やま〔土俵山〕 穀物專門の窃盜が贓物を蓄へてゐることを云ふ。

どびん〔土瓶〕 大きな睾丸のことを云ふ

とぶ〔飛〕 逃走。行衛不明を云ふ。

と一ふ〔豆腐〕 白壁造りの土藏を云ふ。

と一ふうり〔豆腐賣〕 婦女誘拐。或は其犯人を云ふ。

ど一ぶくろ〔胴袋〕 襦袢類を云ふ。

とぶせ 土塀の裾及土臺下等を堀つて屋内に侵入することを云ふ

と一ふぶくろ 袴を云ふ。【茨城縣】

ドブン 風呂。音の相通るより。

とへ 窃盜を云ふ。

とべ 隱匿を云ふ。

どべ 最後。（尾張の方言）

とべあがつた 隱匿した物品が發見されたことを云ふ。

とべい 隱匿を云ふ。

と一べゑ〔藤兵衛〕 窃盜。【島根縣】或は掏摸仲間の呼び言葉。

どべくそ 最後。（尾張の方言）

どべた〔土面〕 密淫賣婦。或は贓物を隱匿すること。犯罪證據物件を湮滅することを云ふ。

と一へばい 列車内にて金品を窃取することを云ふ。【東京】

とべる 隱匿。【滋賀縣穗島】

どへん 巡禮。「遍路」の轉換音訛したもの。或はそれより乞食のことを云ふ。

どぼ 藝妓。仲居女を云ふ。

と一ぼい 目的人物の隙を窺ふも未だ其

機の至らざる狀態をいふ。

とーぼり　蚊帳を云ふ。

とーぼるのまーちや　掏摸。【朝鮮人語】

とま　衣服を云ふ。

どま　窓。「まど」の轉換を云ふ。

とまえ　捕へること。【廣島縣】

とまかぶり〔苫被〕　外套を着てゐる人物

とまぶりや　土藏の窓口より侵入すること。或はその犯人。「窓破り」の音轉。

とまり〔留〕　鶴。【福岡縣】

とまり〔泊〕　竊盜の目的を以て、晝間家人の隙を窺ひ屋內に忍込み適當の場所にかくれ時機を窺つて犯罪行爲をなすこと。或は其犯罪者のこと。「とびこみ」ともいふ。

とまん　將校マントのこと。【關西】

とみ〔富〕　富籤のこと。「富突」「富會」ともいふ。

とーみ〔遠見〕　見張番を云ふ。

とみず〔祗水〕　吸物。或は薄い粥の事。

とみち　飲酒。或は汁の副食物を云ふ。

とみふだ〔富札〕　富籤のことを云ふ。

どーみやく〔動脈〕　僞造通貨。或は汁のことを云ふ。

とーむ　汚穢物を云ふ。

とむる〔留〕　隱すこと。或は贓物を處分することを云ふ。

とめをあげてくる　他の場所に隱匿してある贓物を取出して來ることを云ふ。

とめこむ〔留込〕　隱匿することを云ふ。

とめば〔留場〕　留置場。或は物置小屋のこと。【鹿兒島縣】或は劇場の木戶口にある見張番の場所を云ふ。

とめばちらし〔留場散〕　贓物の運搬。

とめる　着てゐることを云ふ。

どめる〔留〕　贓物を地中に隱匿すること或は逃走、殺人のことを云ふ。

とも　元價。「もと」の音轉。

とーもうち　穴一の種にて田螺の蓋を用ふるものを云ふ。

ともきち　藝妓。一八賭博の題目記載紙に藝妓を「もときち」としてある。それの轉換「ふわ」參照。

どーもと〔胴元〕「どーおや」に同じ。賭博の親のことを云ふ。

どや　宿屋。或は宿泊すること。「宿」の音轉。或は雇人口入所のことを云ふ。

とや　刑務所。或は親分の家のこと。

とや　宿屋荒しを云ふ。

どやあらし〔宿屋荒し〕「かんたんし」に同じ。

とやがえ〔鳥屋替〕　遠隔の地方へ逃亡することを云ふ。

どやかん　宿泊すること。「どやかんたい」ともいふ。

どやきち　旅館を云ふ。

どやし　宿屋荒しの竊盜。「かんたんし」に同じ。

どやつき　團體が分宿することを云ふ。

どやつけ　暴動不逞の者や犯人の住居を探偵することを云ふ。

どやつた　宿泊することを云ふ。

どやづらし　宿泊料を拂はずして逃走すること。「づらし」は「逃げる」の意にして「どや」は「やど」の音轉或は宿屋荒しの竊盜をいふ。

ドヤドヤ　火災。火事場の騷ぎの形容より。

どやにつく　歸宅。宿泊することを云ふ

どやぬけ「どやづらし」に同じ。

どやびり　宿屋の下女のこと。「びり」は尻の意。「どやひる」ともいふ。

とゆ〔樋〕　煙管を云ふ。

とよかわ〔豐川〕　油揚豆腐。豐川稻荷より。

トラ　極端な事を云ふ

どーら　紳士紳商の身形をした風采の立派な者をいふ。

どーらくもの〔道樂者〕　博徒を云ふ

とらごぜん〔虎御前〕　東京虎の門女學校の生徒のことを云ふ。

とらしやん　遠方から見て美しい女のこと。虎の皮は遠方から見ると美しい故

とらつた　旅行。徘徊。【朝鮮人語】

とらのかわ〔虎皮〕　油揚豆腐。燒豆腐。

どらむすめ　錠が施してない土藏のことを云ふ。

とり　鉛筆を云ふ。

とり〔鳥〕　素人。詐欺的手段の被害者となる人物のこと。「むくどり」の略或は田畑の作物を窃取する者を云ふ。

とり〔酉〕　酒類。酒の字のさんずいを取つたもの「とりのみづ」ともいふ

とりゐ〔鳥居〕　絹着物を云ふ。

とりおい　密淫賣婦を云ふ。

とりおい〔鳥追〕　夕暮れ一日の勞働を終へて歸宅することを云ふ。

とりかい〔鳥買〕　卵の買ひ集めに歩く仲買人の風を裝ひ家人の隙を窺つて鷄などの家畜を窃取する常習者のこと。

とりがしめてる　騷がしいこと。多數の人が騷いでゐることを云ふ。

とりこみさぎ〔取込詐欺〕　代金支拂の意志なくして物品を買込む詐欺を云ふ。

とりすい〔取吸〕　犯罪行爲の發覺を恐れて共犯者に窃取品を渡すこと。（掏摸）

とりのしま〔鳥嶋〕　多數の人が集つて騷がしい場所のこと。或は盛り場のこと

とりのみづ〔酉水〕　酒類。酒の字を分析したもの。「三水」「とり」ともいふ。

とーりふちよ〔通符牒〕　各特別の社會間のみ通用しない言葉にして、つまり一般の人物に知られないやうに用いてある言葉である。これは種々の社會例へば小間物屋、古着商、藝人、料理屋、僧侶、宿屋、車夫、其他等にて數量に關して用いられ、それ〲異つてゐる。別項「通り符牒」參照。

とりもち〔取黐〕　「たこつり」に同じ。

どーりよく　夫。男。中年者。「どーろく」の音訛。

ドルばこし〔弗函師〕　金庫破りを云ふ。

どれ　帶を云ふ。

どれあい　野合を云ふ。

どれい　妻の事を云ふ。

どれだ　死亡を云ふ。【宮城縣】

とろ　油。「とろ〲」してゐることより或はそれより粘り氣ある種々の物質。精液のこと香具師では藥の油賣りの事を云ふ其他類似のもの。

とろ　看守を云ふ。

どろ　木綿衣服を云ふ。

どろあらし　しけのこと。海嘯を云ふ。

とろく　人を殺して金を取ること【德島】
　或は民家屋のこと。【朝鮮】

どーろく〔道六〕　主人。男。中年者。或はそれより人の頭となる者の事を云ふ例へば父親。押丁。典獄。其他の事を云ふ。又は掏摸や詐欺等の目的人物其他犯罪行爲の被害者をいふ。訛つて「どーりよく」ともいふ。

どーろくねかり　犯罪行爲現場にて逮捕されることを云ふ。

どーろくびら〔道六片〕　男着物の事を云ふ。

とろちん　憲兵。【朝鮮人語】

とろでら　銀幹を云ふ。

とろぼー　蠟燭。とろ〲した棒の意。「とろ」參照。

とろま　油を云ふ。【岐阜縣】

どろーや　窃盗に忍込む目的にてぶら〳〵と徘徊してゐること。「道路屋」か。【福島縣】

とろろ　强盗を云ふ。

どろむ　侵入。潜伏。或は逃走のことを云ふ。

どろん　逃走。駈け落ちのこと。活動の忍術使ひが消へる時の音より。

どろんこむ　忍込むことを云ふ。

とん　布製の袋のこと。【朝鮮人語】

とんうかまる　諸種の興行場へ無料にて入場することを云ふ。

とんがり　屋根傳ひに忍込む窃盗。「てんがり」に同じ。同語の音訛したもの

とんかちあげ　水車場の穀物等を窃取することを云ふ。

どんかつ　活動寫眞。「活動」の音轉訛したもの。

どんから　水車。精米工場のことを云ふ

とんがり　鼠を云ふ。

とんこり〔背掛〕　襯衣のこと。〔朝鮮〕

どんこんうつ　窃盗の目的を達して、歸途につくことを云ふ。

とんす　强盗。【富山縣】或は共犯者が互にしめし合はせ虚僞の陳述をすること

とんすけをうつ　嘘言をすること【關西】

とんすけはくい　嘘が上手なこと【關西】

どんたく　雨降りを云ふ。

とんたるりよつら〔掛燈〕　逃走。【朝鮮】

とんちうみるよう　密議。【朝鮮】

とんちよん〔銅錢〕　藝娼妓。酌婦【朝鮮】

とんツー　掏摸。とんと突當つて物を窃取し、ツーと逃げるの意より。

とんつろく〔燈頭〕　居酒屋。【朝鮮】

どんてん　逮捕されること。【北陸】

どんでん　通行中突然方向を變更し變つた方面に行くこと。或は引返すこと。又は汽車等の棚にある包や鞄等を竊て古新聞にて用意したるものと掏り替へること。「かいくり」ともいふ。

とんと　鷄姦相手の年少者のこと「稚兒」に同じ。【四國】

とんどいつた　地方の金満家。【朝鮮】

どんどり　賭博犯人。【朝鮮人語】

どんどゐ　談話を一時中止することを云ふ。【石川縣】

とんとん　嘘。話上手。或は頓智、機智に富んでゐることを云ふ。

とんとん　强盗。窃盗を云ふ。

どんどん　家宅捜査。臨檢。或は雷のことを云ふ。

どんどん　あらゆる手段方法を盡しきつたこと。【朝鮮人語】

とんとんいのみるにちや〔同一行動〕　共謀の强盗。【朝鮮人語】

とんとんばい〔頓頓賣〕　頓智をきかしてマヤカシものを賣ることを云ふ。

とんねー　警官が來るの意。【朝鮮人語】

とんねる〔隧道〕　便所の汲取口や汚水溝等のこと。又其處から忍入ること。或は鼻のことを云ふ。

とんねるにはいる〔隧道這入〕　料理屋等にて遊興に耽ることを云ふ。

とんはー〔銅貨〕　「つゝもたせ」のこと。【朝鮮人語】

どんぶり　風呂。入浴。入浴の音より。又「いたのまかせぎ」に同じ。

とんぼ〔蜻蛉〕　荷車の後をつけ車上の物品を窃取すること。「源氏追ひ」「蜂追ひ」に同じ。或は釘のことを云ふ。

とんぼあたま〔蜻蛉頭〕　麥飯を云ふ。

とんぼおい〔蜻蛉追〕　「とんぼ」に同じ。「源氏追ひ」「蜂追ひ」ともいふ。

とんぼり　大阪の道頓堀のことを云ふ。

とんま　强盗を云ふ。

な の 部

なあむ 寺院を云ふ。

ないきたもの〔名入着者〕 印袢纏を着てゐる勞働者。「ない」は「名入り」の略したもの。

ないしよー〔内將〕 女郎屋の女主人。飲食店の女主人のこと。或は遊廓にて帳場及居間を指す場合もある。

ないぢら 家出。旅行。總て家を出ること。【朝鮮】

なう 掏摸が目的人物、被害者以外の者に發見されることを云ふ。

なを 婦人。妻。「女」の略及音轉。

なをこまし 女を手に入れること。又は女を口説こと。或は女を誘拐することを云ふ。

なをしこます 婦女子を誘拐すること。或は女を口說入れたことを云ふ。

なをすけ 婦女子。妻。女親分を云ふ。

なをだれ 好色漢を云ふ。

なをちらし 女を騙して賣ることを云ふ。

なをはくい 美人。「はくい」は良いの意。

なか 典獄。分監長を云ふ。

なか〔中〕 隱してあつた贓物を運ぶこと或は吉原遊廓のこと。【東京】

なが 着物。或は強盜。強姦を云ふ。

なが 詐欺賭博に際して釆に糸をつけて指で引くことを云ふ。

なが〔長〕 長持。同語の省略音轉。

なかゐ 田舍。同語の音轉或は地方へ竊盜に出かけること。(常習者)

なかうど〔仲人〕 檢事を云ふ。

なかをし 女帶を云ふ。

なかをれ〔中折〕 賣價が原價の倍額になること。(商人)

なかくつをはく〔長靴穿〕 上訴することを云ふ【石川縣】

ながくに 捕繩。戒具を云ふ。

なかごらん 十五六才前後の男子。「ごらん」は幼兒のことを云ふ。

ながこーらい〔長高麗〕 薄縁。或は莫蓙

なかさ 巡査。或は看守を云ふ。

なかさし〔中差〕 懷中物を專門にねらふ掏摸のことを云ふ。

なかし 詐欺賭博の見張人を云ふ。

なかし 「いなかし」に同じ。その略。

ながし〔流〕 疾風。或は祭禮、緣日等の雜沓なる場所に於て通行中の人物の懷中物を竊取する掏摸を云ふ。

ながしくむ 遠隔の地方に逃亡すること

ながしこむ〔流込〕 「ながしくむ」に同じ

なかじやく 強盜を云ふ。

ながしやく 蕎麥屋。或は洪水を云ふ。

ながしやり〔長砂利〕 饂飩。蕎麥。素麵或は洪水。刀劍類。強盜等を云ふ。

ながじやりにかまる〔長砂利入〕 強盜に押入ることを云ふ。

ながじやりや〔長砂利屋〕 蕎麥屋を云ふ

ながす〔流〕 歩く。散步。或は犯罪者を竊盜の目的場所へ案內することを云ふ

なかすき 財布、ポケット。鞄類の中の物品金錢を竊取すること。(掏摸)

なかそぎ〔中削〕 詐欺賭博に使用する花札にて、札に細工を施したるもの。

ながたん 鰻の蒲燒を云ふ。

なかちや〔中茶〕 晝食を云ふ。

ながちらし〔長散〕 強盜を云ふ。

なかつき〔中繼〕 晝食を云ふ。

ながつなびき〔長綱引〕 家畜の竊盜。

なかど〔仲人〕 贓物牙保者。或は檢事。「なかうど」ともいふ。

なかぬき〔中拔〕 掏り取つた財布の中より金錢だけを拔き取りその財布を元の

所へ戻し置くこと。内懷中のものを盗む掏摸。「胸當」に似てゐるが窃取することに最も巧みなる者は洋服のボタンを外し又それを元通りに掛けておきその間に懷中物を窃取するものである

ながねす　新任の巡査。「ねす」は素人の意。

ながねんもの〔長年者〕　長期の懲役囚。

ながばこ〔長箱〕　汽車。或は汽車乘客專門の掏摸及窃盗を云ふ。

ながばこし〔長箱師〕　汽車乘客專門の掏摸、窃盗のことを云ふ。

なかぼん〔中盆〕　胴親の補助者を云ふ。

ながむし〔長虫〕　巡査部長。網を云ふ。

ながむしをうつ〔長虫打〕　長期の刑を言ひ渡され入監すること。「うつ」は入監の意。

ながやゑん〔長野猿〕　蛇を云ふ。

ながれがわ〔流川〕　委託金品の橫領。

ながれる〔流〕　時機を失したること。不成功に終つたことを云ふ。

なぎ　橋梁を云ふ。

なきつ　贈賄。「つなぎ」の音轉。

なきツつら〔泣面〕　蜂。「泣面に蜂」より

なきろく〔泣六〕　辯護士を云ふ。

なく〔泣〕　降雨。或は物音を云ふ。

なぐり〔毆〕　減食處分を云ふ。

なげ　帶。「なげし」の省略か。或は板の間を忍込む時音の立たない樣に帶を投げその上を通りしに由來するのか。

なげかみ〔投髮〕　繩梯子を云ふ。

なげこみ　萬引を云ふ。

なげさい〔投采〕　采を二つ使用する賭博にして、采の目の合計が多いものの勝になるものを云ふ。

なげし〔長押〕　帶を云ふ。

なげしとき〔長押解〕　婦人の帶をゆるめ帶の間に挾める金品を窃取なす掏摸を云ふ。

なげす　賭博を云ふ。

なげだし〔投出〕　夜行列車に乘り人の寢鎭るを待って棚の物品を窃取し、列車より投げだし、後で拾ふ窃盗を云ふ。

なげちよーはん〔投丁半〕　采の目を投げてその丁半にて勝負をする賭博のこと關東地方では二つ、關西地方では三つ使用する。

なご　婦女子。「おなご」の略。「なを」ともいふ。

なごぐくる　女帶を云ふ。

なごこまし　女を手に入れること。色魔。

なごこます　「なごこまし」に同じ。

なごし　女帶を云ふ。

なごすけ　婦女子を云ふ。

なごだれ　女にもろいこと。好色漢。

なごはくい　美人を云ふ。

なごや〔名古屋〕　河豚。或は飯。又は女帶。それより男用の角帶のこと。

なし〔品〕　品物。「品」の音轉。それより釘。或は櫛。【福井】　片側が硝子の懷中時計。絹布の着物。或は婦人の頭の飾り物を窃取することを云ふ。

なしをうつ　熟議。密會。合圖。通知。「なし」は「話」の略。

なしをうつ　逮捕を云ふ。

なしをきらす　贓品の賣却を云ふ。

なしおと〔無音〕　露天商人にて口上を述べずして商品を賣る者。「へたり」ともいふ口上を述べる者を「たんかばい」といふ。

なしぐれ　犯行に使用した兇器や贓物が現はれて犯罪が發覺することを云ふ。

なしさき〔品先〕　贓物故買者を云ふ。

なしさま　贓物故買者を云ふ。

なしばれ　「なしぐれ」に同じ。

なじみ〔馴染〕 金満家。所持金を澤山持つてゐる者を云ふ。

なしや 男用の角帶。「なすや」ともいふ

なしよーうつ 話をする事を云ふ。

なしよーはく 嘘言する事を云ふ。

なしわり〔品割〕 犯人捕縛の端緒を得るために刑事が質屋や古着屋を捜査すること。「なし」は「品」の音轉。

なしわれ〔品割〕 「なしぐれ」に同じ。犯罪事實の發覺を云ふ。

なしんと 全部を云ふ。

なす〔茄子〕 財布。巾着。或は時計の鎖

なすかん〔茄子環〕 掏摸が犯行に用ゆる鋏の類を云ふ。

なすかんもどし〔茄子環戻〕 懐中時計の鎖を外し時計のみを窃取する事を云ふ

なすひんもどし〔茄子品戻〕 「なすかんもどし」に同じ。

なすみ メッキした金銀の細工物を賣る香具師。或は一般祭禮、縁日等に街道に於て詐欺的商行爲をなす者を云ふ。

なすもどし〔茄子戻〕 「なすかんもどし」に同じ。

なすや 男用の角帶。「なしや」ともいふ。

なすよー 共謀者の相談に贊成の意を表はす言葉を云ふ。

なすわはづし〔茄子環外〕 「なすかんもどし」に同じ。

なーせる 飲酒。喫飯。「はなーせる」(「人並以上」及「人並に」又は「やれる」の意味)の略。

なた〔店〕 呉服屋などにて萬引をなすこと。或は大規模の商店。【關東】 「たな」の音轉。

なたぎり〔店切〕 萬引專門の者「なた」參照。

なたし〔店師〕 呉服屋等に於ての萬引。或は贓物牙保者を云ふ。

なたづかい〔店使〕 買物をしてゐる客の油斷を窺つてその所持品を窃取する掏摸を云ふ。

なち 星月夜を云ふ。

なつちぽろ〔章魚の足〕 手。【朝鮮人語】

なつぴら〔夏片〕 單衣着物を云ふ。

なつぶとん〔夏布團〕 油揚豆腐を云ふ。

なで〔撫〕 簪。或は姿を云ふ。

なでごて〔撫鏝〕 僧侶。禿頭を云ふ。

なでし 山窩を云ふ。

なでる〔撫〕 毆る。振るを云ふ。

ななさま 太陽を云ふ。

ななつや〔七屋〕 質屋。「一六銀行」「五二屋」ともいふ。

なにわ 鹽を云ふ。

なばた 强盜。【福島縣】

なぶ 掏摸が犯行現場に於て被害者以外の者に發見されること。「なう」ともいふ。

なぶ 僧侶を云ふ。

なべ 婦女子。女給を云ふ。

なへ なぜかの意味。(淡路の方言)

なべかた 「なめかた」に同じ。その轉訛

なへざけもの 絶交された者を云ふ。(宍粟郡の方言)

なべしま〔鍋島〕 長持。簞笥を云ふ。

なべめし〔鍋飯〕 博徒、無頼漢の兄弟分

なま 物品の少くないこと。(美嚢郡の方言)

なま〔生〕 現金を云ふ。

なまがり 質屋。金貸を云ふ。

なまかん〔生館〕 銀行。其他銀行に類似する會社を云ふ。

なまげん〔生現〕 現金を云ふ。

なまし〔生師〕 現金專門の窃盜を云ふ。

なまづ〔鯰〕 地震。或は官吏。髯を云ふ

なまづけ〔鯰毛〕 警官。「鯰髯」より。

なまとば「なまかん」に同じ。

なまはく　多額の金錢を所持せるの意。

なまはこ〔生箱〕金庫を云ふ。

なまひんもどし〔生品戻〕「なすかんもどし」に同じ。

なみ〔浪〕風の音。或は櫛。鹽のこと。

なみだ〔涙〕降雨を云ふ。

なみどん　カフエー等に於て一圓のチツプを置く客のこと。「人並」であるといふところより。（女給）

なみのはな〔浪花〕鹽。それより時機の「しほ」に通はせ機會のこと。機會のよいことを「なみのはなはくい」といひ機會の惡るいことを「なみのはなくや」といふ。

なみのはなたんぼ　魚類の鹽漬「たんぼ」は「たつぼ」の音訛。

なめ　雨を云ふ。

なめかた　錢の表か裏かを言ひ當てることによつて勝負をなす。小賭博或は一般詐欺的行爲の手段を云ふ。

なめす〔鞣〕仕事に精出すこと。或は犯行につとめたが故に人が苦しむために人が苦しめることをいふ。

なめる〔舐〕抜き取ること。又「なかすき」「なかぬき」に同じ。或は馬鹿にすることを云ふ。

ならし〔鳴〕雪駄を云ふ。

ならす〔習〕形容。手眞似を云ふ。

ならつた　主人の不在。【朝鮮人語】

ならび〔並〕「ならびひき」に同じ。

ならび〔並〕人家が立ち並んでゐることで或は繁華な土地の人。又は櫛のこと。

ならびをひく〔並引〕「ならびひき」に同じ。

ならびひき〔並引〕他人と並行して歩きながら懷中物を竊取する掏摸。又電車の車掌臺などにて乘客の懷中物をねらふ。「ならびをひく」「ならび」とも云ふ。

なられた〔被成〕發覺を云ふ。

ならん　味噌汁を云ふ。

なり〔鳴〕雷鳴を云ふ。

なりがかたい〔裴堅〕賭博の上手な者。

なりと　隣。同語の音轉。

なりはりいり〔鳴針入〕詐欺賭博に使用する釆に針を入れた仕掛釆のこと。「音聞」ともいふ。

なりひん〔鳴品〕銃器。或は警鐘。梵鐘太鼓等を云ふ。

なるよら　急な逃走。【朝鮮人語】

なれ〔慣〕怠惰者を云ふ。

なれてる　刄物を云ふ。【茨城縣】

なれは　離れ〳〵の意。

なんきん〔南京〕骨子を使用する賭博の一種。目切カッパに類似してゐる。

なんきんそば〔南蕎麥麥〕千切大根。

なんきんむし〔南京虫〕刑事。巡査。

なんこ〔何個〕「なめかた」に同じ小賭博にして、石で行ふを「石なご」といふ。

なんざん〔難産〕容易に侵入仕難き土藏のこと。或は土藏破りに失敗したこと土藏のことを「むすめ」と云ふ。

なんだ　竊盜常習者。【朝鮮人語】

なんぱ〔軟派〕「硬派」に對する不良青年にして暴力を行はず婦女子を誑す者にて彼等不良青年には婦女子を手に入れるに色々の手段をする。「有り難う」「打込み」「御尋ね」「落ちますよ」「さわり」等々の手段を有す、いづれも其項參照。

なんべら　蚊帳の事を云ふ

に　の　部

にー　男を云ふ。

にい〔兄〕 父親を云ふ。

にいさん 鷄姦相手の中年者を云ふ。

にいやん 舊惡の露顯を云ふ。

におい〔匂〕 掏摸犯人が目的の人物に尾行し隙を伺ふこと。或は擧動不審の者に刑事や巡査が尾行することを云ふ。

にが〔苦〕 刑務所の事務室。【關東】

にかい〔二階〕 粹。粹を他の隱語にて「お輕」といひ、それより二階の「お輕」を連想していつたもの。

にがきす ビール。「きす」は酒のこと。

にがし 山窩や乞食の掘建小屋を云ふ。

にがす 賣ることを云ふ。

にかまつ 面會人が來ることを云ふ。

にかわ〔膠〕 繩を云ふ。【廣島縣】

にぎ 質屋。「ぐに」の音轉を訛つたもの。

にきよく〔二局〕 警視廳のこと。【關東】

にぎり〔握〕 拳銃を云ふ。

にきり〔握〕 活動寫眞館内や電車内にて婦女子の手を知らずに握りし風を爲しそれを交際の端緒としてその目的を達するものである。婦女子を誑す手段にして他に種々の手段を有してゐる。「なふぱ」參照。

にぎりかツぱ〔握河童〕 「なめかた」に同じ。碁石の如きものを用ふることもあり。或は詐欺賭博のことを云ふ。

にく〔二九〕 娘盛りの乙女。「二九十八」より。

にくほや 笑ふことを云ふ。

にさ 荷物を云ふ。

にさい〔二歳〕 鷄姦の相手の中年長者。

にざう 庖丁を云ふ。

にざゑもん〔仁左衞門〕 萬引犯人の見張人。或は從犯者を云ふ。

にざゑもんをつる〔仁左衞門釣〕 贓品の運搬。「せこまわし」ともいふ。【福岡】

にしかた〔西方〕 刑務所。死んだことをお陀佛といふが、それより惡運の盡きたことをいふ故に彌陀の西方淨土を連想したもの。【金澤縣】

にじがたける 朝を云ふ。

にしげい 藝人を云ふ。

にしのくに〔西國〕 「にしかた」に同じ。

にじひく〔虹引〕 共謀者が互に諜しあふことを云ふ。

にしまる 窃盜の前科者。暗號の鍵の形一〇を分解したもの。窃盜行爲或は合鍵を云ふ。

にじゆーあか〔二十赤〕 二十圓金貨。

にじゆーしこー〔二十四孝〕 漬物類。「香の物」の語呂。

にじゆーやき〔二重燒〕 再婚の婦人。

にしん〔二審〕 控訴院を云ふ。

にしん〔鯡〕 看守を云ふ。

にすん〔二寸〕 明日のこと。二日目のこと。今日のことを「一寸」といふ。

にぜ 錢。同語の音轉。

にせん〔二錢〕 下等な淫賣婦のこと。

にだし〔煮出〕 頭を云ふ。

にち〔日〕 太陽。或は日中の空巣狙ひ、

にちたか〔日高〕 太陽を云ふ。

にちまえ〔日前〕 大阪の千日前のこと。【大阪】

にちやま〔日山〕 太陽を云ふ。

にツききめこむ〔仁木極込〕 逃亡。行衞不明を云ふ。

にツさん 脚部を云ふ。

にツさん〔日山〕 太陽を云ふ。

にツちゆー〔日中〕 日中の空巣狙ひ。

にツちゆーをふむ〔日中踏〕 「につツゆー」に同じ。

につちゆーし〔日中師〕 「にツちゆー」に同じ。

にツてん〔日天〕 快晴を云ふ。

にツぱー 看守長を云ふ。

にてんもの〔二點物〕 詐欺賭博に用ふる仕掛け釆にして、特別な二箇所の目がよく出るやうにしてある釆を云ふ。

には 硯箱を云ふ。

にはちめ〔二八女〕 娼師が使用する合鍵のことを云ふ。

にばん〔二番〕 贓物故買者を云ふ。

にぶ〔二歩〕 五十錢を云ふ。

にぶとん 賣春婦。【朝鮮人語】

にほひ〔匂〕 擧動不審な者に警察官が尾行することを云ふ。

にほんぼー〔二本棒〕 女にあまい男。好色漢。或は巡査。看守。又は馬鹿の意。

にまいもの〔二枚者〕 共謀者と共に犯行をなす者。單獨でなすを「いちまいもの」といふ、「いちまいもの」參照。

にもく〔二木〕 箸を云ふ。

にやく 役人。同語の轉換。

にやく〔若〕 男色を提供する者。（僧侶）

にやくそー〔若僧〕 男色を提供する稚子のこと。（僧侶）

にやん 屋根傳ひに忍び入る竊盜のこと猫の泣き聲より。

にらみ〔睨〕 月を云ふ。

にろはく 得意の顏色を云ふ。

にわとり〔鷄〕 時刻。曉け方。神社或は鷄姦のことを云ふ。

にん〔人〕 刑事。或は素人。（テキヤ）

にんころ〔人兒〕 巡査を云ふ。

にんじん〔人蔘〕 憲兵を云ふ。

にんとにぐれる 犯罪實行の歸途共犯者と別れること。「ぐれる」は物事のうまくいかない意。

にんやく〔人役〕 官公吏。警察官。「ざぶ」ともいふ。

にんやくのやさ 警察署。「やさ」は刀劍を入れる鞘の音轉にして「巣」の意に通ず。

にんぴよー 病人。同語の轉換。

ぬの部

ぬいじ 降雨を云ふ。

ぬかじか〔無乎字乎〕 銅錢などを握つて表か裏かを言ひ當てるによつて勝負を決す小賭博「じかぬか」に同じ。

ぬかみそ〔糠味噌〕 妻を云ふ。

ぬかる〔抜〕 捕縄されること。仕そこなふこと。油斷の意。

ぬき 袷著物。【關東】

ぬき 掏摸が袂切り等に使用する刄物。「あて」に同じ。

ぬき〔抜〕 着物以外の物品を竊取することを云ふ。

ぬきみ〔拔身〕 男子の裸體。或は陰莖。

ぬきんで〔拔出〕 詐欺行爲が成功したことを云ふ。

ぬくい 賭博の見張人が怪しい者の來た時に會圖する言葉を云ふ。

ぬくい〔暖〕 多額の現金を所有して居ること。或は所有して居るらしい人物。

ぬくめどり〔溫鳥〕 貞女をいふ。

ぬくめる〔溫〕 放火。「あたたむ」ともいふ。

ぬけ〔拔〕 テキヤにて、方々の處を神出鬼沒に驅廻者。例へば今日は東京、明日は大阪と遠近を問はず驅廻る者のことを云ふ。

ぬけ〔拔〕 空家。家人不在中の家。或は出入口。窓。拔道。或は空巣狙ひのことを云ふ。

ぬけ〔拔〕 危險の切迫したこと。或は忙がしい時のこと。【東北】 失踪。

行衛不明の事を云ふ。

ぬけうち〔拔打〕 賭博類似の商賣をなす「テキヤ」のことを云ふ。

ぬけし〔拔師〕 空巣狙ひ。「ぬけふみ」ともいふ。

ぬけす〔拔巢〕 空家。家人不在中の家。

ぬけびく〔拔比丘〕 密淫賣婦。「びく」ともいふ。

ぬけふみ〔拔踏〕 空巣狙ひを云ふ。

ぬしかん 神主。「神主」の轉換。

ぬず 窃盜の敎唆を云ふ。

ぬすみひき〔盜引〕 窃取品を自分の股にかくすことを云ふ。

ぬの〔布〕 取締りの怠慢なる役人の事注意の行屆かない役人のこと。【石川縣】

ぬめ〔滑〕 錢の裏面の文字がない方をいふ。

ぬめき 敷物。疊。上敷。茣蓙。【大分】

ぬりお〔塗地〕 降雨を云ふ。

ぬりよい〔黃色〕 制服の憲兵【朝鮮北部】

ぬーる 舟。小舟を云ふ。

ぬれ〔濡〕 姦通。强姦を云ふ。

ぬればば〔濡場〕 色つぽい場面。（演劇）

ぬろんいー〔黃色〕 制服の憲兵。【朝鮮】

ぬんすんえー〔二純的〕 看守長。【臺灣】

ぬんどつた 燈火。【朝鮮人語】

ね の 部

ねあわせ〔根合〕 昔殿上人が慰さんだ賭博の一種を云ふ。

ねいり〔根入〕 板塀。籬。墻塀。其他住家の周圍に繞らした塀のことを云ふ。

ネーエム〔Name（ネイム）〕 官職、氏名等を詐稱することを云ふ。

ねか 無い。困るを云ふ。

ねかす〔寢〕 入質。殺人を云ふ。

ねかつかれる 屋内に忍入つた窃盜が家人に氣附かれ騷がれること。「鐘をつかれる」意か。

ねかられた 叱られたこと。說敎されたこと。（香具師）

ねかる〔寢〕 捕縛されたこと。拘留される事を云ふ。

ねき 駄目を云ふ。

ねぎ 飴。飴行商人を「ねきや」といふ。

ねぐさ〔根草〕 看守を云ふ。

ねぐら〔塒〕 酒を云ふ。

ねぐらあらし〔塒荒〕 宿屋荒し。「かんたんし」に同じ。

ねこ〔猫〕 三味線。猫の皮にて作られるより、それより藝妓のこと。「寢妓（ねこ）」とも書くよく目がつくこと。鼻。刑事巡査。警察署。或は落し木を担ね外す道具。病死。又は「猫入らず」を服用して自殺せし者のこと。一般自殺のこともいふ。

ねこいり〔猫入〕 窓。或は屋根を破り忍入る窃盜のことを云ふ。

ねこをだく〔猫抱〕 淸酒釀造元の手傳男がその原料の玄米を窃取すること。或は藝娼妓を揚げることを云ふ。

ねこをなかす〔猫泣〕 田舍から都會に出て來た男女を欺きその所持金品を騙取なすこと。【大阪】

ねこのきんたま〔猫睾丸〕 南瓜を云ふ。

ねこのめ〔猫目〕 懷中時計。或は銀貨のことを云ふ。

ねこばば〔猫糞〕 委託金品を横領費消すること。或は窃盜金品や横領金品を地中に隱匿なすこと。隱匿し知らぬ顏をしてゐるを「ねこばばをきめこむ」といふ。

ねこひく〔猫引〕 女の笑聲。笑顏を云ふ

ねこまたぎ〔猫跨〕 竹輪。蒲鉾を云ふ。

ねごみ〔寢込〕 宿屋荒し。「かんたんし」に同じ。「ねぐらあらし」ともいふ。

ねざこかし 詐欺を云ふ。

ねさす〔寢〕 贓物を隱匿すること。或は殺人をなすこと。「ねむり」は「死亡」の意にして「ねむり」の他動詞である

ねし〔寢師〕 强盜。强姦を云ふ。

ねし 小兒。【島根縣】 或は三味線のこと娼妓より連想したものか。

ねしん 强盜。强姦。「ねし」に同じ。

ねす 物事に熟練してゐない者。素人。或は農夫。人の善良なところから。或は默ること。秘密にする等を云ふ。

ねずをかける 「ねずひく」に同じ。

ねすおき 暴動。一揆を云ふ。

ねすツぽ 素人のことを云ふ。

ねすば〔寢場〕 資産家。名望家。金を休してゐるといふ意からか。

ねずはる 「ねずひく」に同じ。

ねずひく〔鼠引〕 合圖をすること。鼠の泣き聲を眞似て合圖してゐたことより（掏摸）

ねずまき 多くの者に追跡されること。或はその時逮捕されることをいふ。「ねずまきにあう」ともいふ。【山口縣】

ねずみ〔鼠〕 合鍵。破獄逃走を云ふ。

ねずみひき〔鼠引〕 「ねずひく」に同じ。

ねずみとり〔鼠取〕 空巢ねらひを云ふ。

ねずみなき〔鼠泣〕 淫賣窟の女が客を呼ぶに鼠の泣き聲を眞似て合圖することをいふ。

ねずみめくり〔鼠剝〕 屋根を破りて忍入る竊盜のことを云ふ。

ねずり〔寢摺〕 密淫賣婦。酌婦を云ふ。

ねた 品物。商品。詐欺行爲の種。「種」の音轉。或は食物。贋造通貨を云ふ。

ねたあがり 隱匿してあつた物が發見されること。贓物が現はれて犯罪事實が發覺することを云ふ。

ねたぎり 萬引を云ふ。

ねたになる 品物が思ふ樣に賣れて儲かること。（テキヤ）

ねたばい 犯罪に使用する道具を用意することを云ふ。

ねたもと 卸問屋を云ふ。

ねぢ〔捻〕 「なすかんもどし」に同じ。或は屋内に忍入るため施錠の箇所や、棧の下された箇所を破壞するに使用する錐のことを云ふ。

ねち 熱烈に愛し合ふこと。同性愛。「熱」の音訛したもの。（女學生）

ねぢがね〔捻金〕 千切大根を云ふ。

ねぢくる 他人に責任を負はす事を云ふ。

ねちこい くどいことを云ふ。

ねちまき〔捻卷〕 强奪することを云ふ。

ねぢる〔捻〕 逮捕。引致を云ふ。

ねぢる〔捻〕 犯罪事實を云ふ。

ねツちゆう〔熱中〕 戀愛に夢中であること。（女學生）

ねツてつ 餅を云ふ。

ねーと もつと。まだの意。（飾磨郡の方言）

ねね 「ねすば」に同じ。

ねのさき〔子先〕 牛。十二支で丑が子の次に來るとこから。

ねばり〔粘〕 劇場、寄席等や宴會などの終つた時の混雜につけこんで掏摸をすること。「ねばりをつかう」ともいふ。

ねびき〔根引〕 藝娼妓の身受けを云ふ。

ねひこ 彥根地方。彥根の轉換。

ねぶた 醜女を云ふ。

ねま 現金を云ふ。

ねまる 平伏す。詫る。手をつくの意。（遠江の方言）

ねむ　犯罪行爲の目的人物。（掏摸、詐欺賭博犯）
ねむ　敏感なること。（花言葉）
ねむす〔寢〕　殺人を云ふ。
ねむせー　警官。【朝鮮人語】
ねむり〔眠〕　殺人。或は死亡を云ふ。
ねむりぐさ〔眠草〕　鋭敏。微妙なること（花言葉）
ねもち　遊女。（秋田の方言）
ねもの　着物を云ふ。
ねや　屋根。屋根の音轉。
ねらい〔狙〕　左官。壁土の投上げる様より。
ねりし〔練師〕　博徒。或は力士を云ふ。
ねりす〔練〕　賭博を云ふ。
ねりん　博徒を云ふ。
ねる〔練〕　花札を混合さすこと。
ねんぐおさめ〔年貢納〕　收監を云ふ。
ねんたつ　不良徒の初對面の挨拶のこと「仁義」のことを云ふ。
ねんねんこぞー〔鼬小僧〕　屋根傳ひに忍入る窃盜のこと。【東北】
ねんまん　萬年筆。「萬年」の轉換。
ねんもの〔年者〕　一年以上の刑を受けた前科者のことを云ふ。

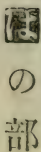
の　の部

のあらし〔野荒〕　農作物の窃盜を云ふ。
のゐ　東京府下玉の井の私娼窟のこと。「玉の井」の省略。（東京不良）
のうぜんかつら〔凌宵花〕　名譽（花言葉）
のうれん〔暖簾〕　萬引を云ふ。
のをしよ　樟腦。同語の轉換。（香具師）
のをす　一定の正業なく諸方を浮浪してゐる者を云ふ。
のをろく　辯護士を云ふ。
のき　狸。「たぬき」の訛略。
のくそち　金滿家。【朝鮮人語】
のくつう　警察署。【朝鮮人語】
のこ　男根を云ふ。
のご〔野兒〕　私生兒を云ふ。
のこがふとい　圖太いこと（尾張の方言）
のこぎり〔鋸〕　賣買。取引を云ふ。
のこくそきゆーべぬ〔鋸屎久兵衛〕　老人の耳が早いこと。【岡山縣】
のこずり　鋸のこと。（上野の方言）
のこりや〔殘屋〕　贓物故買者を云ふ。
のざる〔野猿〕　犯罪密告者。「やゑん」ともいふ。

のし　刑務所を云ふ。【岩手縣】
のしか　口を云ふ。
のしもの〔延物〕　女帶を云ふ。
のす〔延〕　毆る。氣絶さすの意にしてそれより喧嘩のことを云ふ。
のせる〔乘〕　飲食を云ふ。
のぞき〔覗〕　窓口を云ふ。
のぞき〔覗〕　壺のこと。（佐賀の方言）或は猪口のこと。（薩摩の方言）
のぞーし　追ひ剝ぎを云ふ。
のた　萬引を云ふ。
のだいし〔野大師〕　窃盜を云ふ。
ノツク〔Knock〕　妊娠すること。（女學生）
のツけ　最初の意。
のツけり　共謀犯人が贓物の分配をなすことを云ふ。
のツころ　嘘言を云ふ。
のツぽ　蝙蝠傘のことを云ふ。
のづら〔野面〕　僧侶を云ふ。
のてんぱり〔野天張〕　山窩を云ふ。
のばし〔延〕　自分が住んでゐる土地より以外の所に於て窃盜をなすことを云ふ。
のばす〔延〕　殺人。毆る。氣絶さすこと。

のび 竊盜。「しのび」の略。
のび〔延〕 絶命を云ふ。
のび〔野火〕 放火を云ふ。
のびをやる 忍込むことを云ふ。
のびかんたん〔忍邯鄲〕 「かんたん」に同じ。
のびし〔忍師〕 人家に忍入る竊盜のこと
のびし 簞笥や長持等を盜むこと【岩手】
のびる〔延〕 遠隔の土地に逃亡すること
のべ〔延〕 金銀の箔。或は眠る。横臥。
のべ 人家に忍入る竊盜。「しのび」の訛略。
のべ〔延〕 流連して遊興に耽ること。
のべし 人家に忍入る竊盜を云ふ。
のべたんか〔延啖呵〕 鐵扉。家屋の周圍に繞らした鐵柵のことを云ふ。
のべとー〔野邊盜〕 追ひ剝ぎを云ふ。
のべる〔延〕 莫蓙類を云ふ。
のぼし 「のぼん」に同じ。
のぼり〔上〕 家人の隙を窺ひ屋内に忍入ること。【大阪】
のぼり〔昇〕 階段を云ふ。
のぼん〔野盆〕 野原や山間に於て行ふ賭博のことを云ふ。
のみ〔蚤〕 夫より妻の體が大きい夫婦のことをいふ。

のみをやつッけた〔蚤遣付〕 逃走することを云ふ。【長野縣】
のみかた〔鑿方〕 左をいふ。
のみし〔鑿師〕 施錠の箇所を破壞し侵入するを專門とする竊盜常習者を云ふ。
のむ〔呑〕 匕首等を懷中に持つてゐることを云ふ。
のむーんちー〔卷繩〕 刑事。巡査。憲兵。【朝鮮人語】
のらし〔野良師〕 一定の住所なく諸方を徘徊し竊盜、掻拂ひ等を常習となす者。
のり〔糊〕 飯を云ふ。
のりあい〔乘合〕 一人の女を合意の上で多數の男が關係すること。
のりかけ〔乘掛〕 橋を云ふ。
のりき 所持金「しんた」「つり」ともいふ
のりきや 多額の金錢を所持してゐる人物。「のりきん」ともいふ。
のりきれる〔糊切〕 空腹。【大阪】
のりきん 「のりきや」に同じ。
のりきん〔乘金〕 乘車賃。乘船賃を云ふ
のりこし〔乘越〕 門戶や墻壁等を越えて忍入ること。或はその竊盜を云ふ。
のりこみ〔乘込〕 汽車、電車等の込入つた乘物を働き場とする掏摸のこと。或はその動作を云ふ。

のりしろ〔乘代〕 乘車賃。乘船賃を云ふ
のりだし〔乘出〕 船頭や船員の隙を窺ひ船中の貨物を竊取する竊盜のこと。或は船ぐるみ漕ぎ逃げする竊盜を云ふ。
のりのびた〔糊延〕 空腹を云ふ。
のりひん〔乘晋〕 乘車賃。乘船賃を云ふ
のる〔乘〕 遠方に行くことを云ふ。
のるかぢ 憲兵。【朝鮮人語】
のーれん 憲兵。【朝鮮人語】
のーれん〔暖簾〕 萬引を云ふ。
のーれんし〔暖簾師〕 贋造物品等を高價に賣り歩く詐欺的商人を云ふ。
のろし〔烽火〕 共犯者間の合圖を云ふ。
のわ 洪水。それより劇場等のはねた時の雜沓をいふ。「ノアの洪水」より。
のわたり〔野渡〕 强盜を云ふ。
のんだる 血液。【朝鮮人語】
のんと 汽車を云ふ。
のんぼ 殺傷、强盜等に使用した兇物類のことを云ふ。

は の 部

は　風を云ふ。
ば　喫煙を云ふ。
ばー　馬鹿者を云ふ。
ば〔場〕　露天商人が店を出す場所のこと
パー　通貨、文書、印章等の僞造。英語ペーパー(紙)の略「ペーパーし」參照。
パア　ポケットのこと。内ポケットを「うちパア」、外ポケットを「そとパア」といふ。
ばあちやん〔婆様〕　縮緬のこと。皺のよつてゐるところより、これと反對に老婆を「ちりめん」と呼んでゐる。
はい　自白すること。返事の「はい」より。或は實行。又は耳のこと。
はい〔這〕　屋根傳ひに忍入る竊盜を云ふ
ばい〔賣〕　商人。或は淫賣婦のこと。又は竊盜のことを云ふ。
ばい　十圓。(香具師)
パイ　密偵者。「スパイ」の略。
ばい〔拋〕　所持してゐる贓物を棄てることを云ふ。
ばい〔杯〕　金錢を計算する單位。一杯は一圓。三杯は三圓を云ふ。
ばいいち〔杯一〕　飲酒。「一杯」の轉換。
はいいろ〔灰色〕　失戀者のこと。空が灰色に曇ると陰鬱な氣分となるところより(女學生)
ばいう　金滿家を云ふ。
はいおい〔繩追〕　荷車のあとをつけて車上の荷物を竊取することを云ふ。
はいかまつた　人が來ることを云ふ。
はいかまらす　無錢で遊興なす事を云ふ
ばいがよかつた　竊取品が意外に多く手に入つたことを云ふ。
ハイカラ　新築の土藏。或は財物が豐富である土藏のことを云ふ。
ばいきり　掏摸を云ふ。
ばいぎり　共謀で竊取した贓物の一部をその中の一人が横領することを云ふ。
はいぐる　自轉車を云ふ。
パイとー〔パイ公〕　密偵者。「スパイ」の略。
ばいさい　野產物。野菜類を云ふ。
ばいさき〔賣先〕　販賣。販路を云ふ。
ばいさん　裁判。同語の轉換。
ばいし　動作によつて自分の意志を知らすこと。「芝居」の轉換。例へば鼻の下の髯を撫でるやうな風をして警官の來ることを知らしたり。又引致や押送中の被告人に對し右掌を其前額部に押當て、堅く唇を結びたる態を示して自白を極力止めよと知らせるが如きもの。
はいしけ　竊盜を云ふ。
はいしや〔齒醫者〕　破獄を云ふ。
ばいしよう　小兒。【山口縣】
ばいしよーにん〔賣商人〕　竊盜を云ふ。
ばいすけ〔賣助〕　賣春婦を云ふ。
はいた　乞食。非人のこと。(伊勢の方言)
ばいた　淫賣婦。遊女を卑しめていふ言葉。一般の婦女子を卑しめていふこともある。或は老婆を云ふ。
ばいた　薪。(但馬、生野の方言)
ばいた　天秤棒。傷害、强盜等に用いる棍棒のことを云ふ。
はいだし〔這出〕　金持の家へ金錢の强要脅迫等に行くことを云ふ。
はいたたき〔蠅叩〕　學校の成績の甲をいふ。その形より。(學生)　或は三味線のことを云ふ。
ばいち　開けて見ること。
ばいちや〔[illegible]〕　博徒。【朝鮮人語】
ばいづれ　夫婦同作者を云ふ。
ばいてん　雨天を云ふ。

ばいとこ〔賣所〕 店先を云ふ。
ばいにんくい 多數の共謀者を云ふ。
ばいばい 提燈を云ふ。
ばいはる 「ばいぎり」に同じで一時贓物を預つた者が一部竊取すること。
ばいぼせ 賭博開張。【朝鮮人語】
はいゆうー〔入湯〕 浴湯より忍入る竊盜浴場より這入るをもぢつたもの。
はいりよー 一間を云ふ。
パインアツプル〔鳳梨〕 あなたは申分ないとの意。（花言葉）
はう〔這〕 逃走。或は他人の不正を密告すること。【長野縣】
はをそめてたか〔歯染乎〕 土藏に現金がはいつて居たかどうかを聞くこと。
はをりごろ〔羽織轉〕 座敷乞食のこと。紋付羽織などを着て堂々と物乞ひに押しかける者を云ふ。
はか〔墓〕 寺院。【北陸】 或は山。峠。
はか 警察署を云ふ。
ばか〔馬鹿〕 砂糖或は八十八の花合せのこと。「ばかばな」ともいふ。
はかかい 雜沓した場所を稼ぎ場とする掏摸を云ふ。
ばかきり〔馬鹿切〕 掏摸が犯行に使用する刄物のことを云ふ。

ばかし〔化師〕 書、畫、其他種々の贋造物を行使する詐欺常習者のこと。
ばかばな〔馬鹿花〕 八十八の花合せ。「ばか」ともいふ。
ばかやすめ〔馬鹿休〕 減食處分に附されること。（囚人）
はがち 西北の風。（東京の方言）
はかり〔計〕 熟議を云ふ。
ばかん 鞄類。「かばん」の轉換。
はき 庭園の樹木を云ふ。
はぎ〔萩〕 愁思。逡巡。（花言葉）
はきし〔掃師〕 贓物運搬者を云ふ。
ばきり〔場切〕 數人が共謀で商店に行き一人が品物を買つて店員に油斷せしめその間に他の者が店先の商品等を竊取することを云ふ。
はく 酷暑を云ふ。
はく 犯罪行爲に使用した刄物類。
はく 總て物事がよい意味にして種々の言葉として使はれる。「はくい」の略。美貌。美裝。資産家のこともいふ。
はく〔吐〕 一度竊取した物品を被害者に返へすこと。或は白狀すること。
ばく〔博〕 賭博。博徒を云ふ。

ばく〔麥〕 麥飯を云ふ。
ばく 旅人宿の下女。（小田原方面の方言）
ばく〔縛〕 捕縛。同語の略。
ばく 喫飯。「パクツク」の略。
ばくあん 刑務所。【朝鮮人語】
はくい 凡て物事のよい意味にして種々の場合に用いられる。美しいこと。或は資産家。大きいこと。又は時機のよいこと。略して「はく」ともいふ。
はくい 重罪の事を云ふ。
はくい 藝人仲間では客種のよいこと。又入場者の多いこと。香具師仲間では上等品のことをいふ。
はくいとんとんまかる うまいことだますの意。【關西】
はくいなご 美人。「なごはくい」ともいふ。「なごは」女のこと。
はくいらん 絹衣服を云ふ。
はくか〔薄荷〕 道徳。（花言葉）
はくさ〔薬草〕 煙草を云ふ。
はくじん〔白人〕 素人。「くろうと」に對する言葉。
はくすい〔白水〕 雪を云ふ。
はくすいばれ 雪降りを云ふ。

はくつき〔箔付〕 前科者。要視察人。
はくにん お喋りを云ふ。
はくば〔白馬〕 濁酒を云ふ。
はくびら 上等の着物。「はく」はよい事の意で、「びら」は着物のこと。
はくぼく〔白木〕 白米を云ふ。
はくや 詐欺師を云ふ。
はくらす 拘留されることを云ふ。
はくらんかい 職務に忠實な官吏。
はぐり〔剝〕 屋根を破りて忍入ること。
ばくり 不良少年少女等が店先の金品や學生の物などを誤魔化して攫ふこと。又不良青少年が年少者に金錢を强要する事。或は虚僞の申立をする事。
ぱくる〔縛〕 捕縛を云ふ。
ばくる 不良青少年等が金品を强要することを云ふ。
はぐるま〔歯車〕 銀貨を云ふ。
ばくれ 身分職業氏名等を僞稱する詐欺漢を云ふ。
はぐろ〔歯黒〕 娼妓。賣春婦を云ふ。
はけ 犯罪の發覺を恐れ贓物を投げ捨てることを云ふ。
はげ〔禿〕 看守を云ふ。
ばけこみ〔化込〕 宿屋荒し「かんたんし」に同じ、客に化けて泊るより。
ばけし〔化師〕 仕掛ある釆などを使用する詐欺賭博を云ふ。
ばけた 賭博に負けたことを云ふ。
ばけちやん〔化様〕 刑事。變裝より
ばけとり〔化鳥〕 遊女。（加賀の方言）
ばけもの〔化物〕 詐欺賭博。詐欺師等の事を云ふ

はこ〔箱〕 交番所。警察署。制服巡査。或は差入辨當。金庫。汽車。電車。箪笥又は藝者。三味線等のことを云ふ。
ばご 雜談をすることを云ふ。
はごいた〔羽子板〕 好男子。羽子板によく役者の似顔を描いてあることより。それより役者買をする女を「はごいたかい」といふ。
はこおい〔箱追〕 列車内に於ける掏摸のこと。「はこし」ともいふ。
はこをつかう〔箱使〕 汽車、電車等に乗って逃走することを云ふ。
はこづかい〔箱遣〕 列車内に於ける掏摸のことを云ふ。
はこし〔箱師〕 汽車、電車等を稼ぎ場とする掏摸のこと。汽車專門の區別名を「長箱師」といふ。
ばこし〔場越〕 身邊が危險に迫つたのを感じて他に逃亡することを云ふ。
はこつき〔箱附〕 清涼飲料水を云ふ。
はこのり〔箱乘〕 新聞記者が目的人物の乘れる談話を聞取るため、目的人物の乘れる汽車に途中驛から乘り込むことを云ふ
はこのり〔箱乘〕 列車專門の掏摸。
はこば〔箱場〕 巡査派出所。或は停車場のことを云ふ。
はこばい〔箱賣〕 汽車、汽船等の乘物の内に於て商賣をする者を云ふ。
はこばん〔箱番〕 巡査派出所を云ふ。
はこべ 多くの人の集り。即ち集合集會の意。（花言葉）
はこや〔箱屋〕 一八賭博の胴元人。
はごろも〔羽衣〕 羽織を云ふ。
ばさ 數人で共謀し掏摸をすること。或はせり賣りのことを云ふ。
ばさうち せり賣りを云ふ。
はさみ〔鋏〕 生魚。或は掏摸のこと。
はじ ピストル。「はじき」の略。
ばじ 老婆。老爺を云ふ。
はじき〔彈〕 共犯人が贓物を分割すること。【東北】
はじき〔彈〕 ピストル。略して「はじ」と

もいふ。
はじく〔彈〕 逃走することを云ふ。
ばした 年増女。妻。母親。娘。婦女子を卑しめた言葉。
ばしたか 妻。「ばした」に同じ。【關西】
はしでら〔箸照〕 金簪を云ふ。
はしまめ〔箸豆〕 身分の賤しい女と通ずることを云ふ。
はじめ〔初〕 一圓を云ふ。
はしら〔柱〕 敎誨師。牧師を云ふ。
はしり〔走〕 電車。或は密告者を云ふ。
はしりがね〔走金〕 遊女のこと。（志摩鳥羽地方の方言）
はしりこみ〔走込〕 店番の隙を窺ひ店先の金品を走り込みて掻拂ふこと。
はす〔蓮〕 雄辯なること。佛敎。（花言葉）
ばす 警部の事を云ふ。
ばす 深更師。或は施錠の箇所等を切り破るに用ふる薄い刄物のことを云ふ。
パース 財布を云ふ。
はすいけ〔蓮池〕 盥の洗濯物等を窃取することを云ふ。
はすいち〔蓮市〕 「はすいけ」に同じ。
はすばおんな〔蓮葉女〕 旅人宿の下女のこと（京阪地方の方言） 或は浮氣女のこと。遊女。娼妓の類を云ふ。

はぜた〔跳〕 發覺したこと。「ばれた」に同じ。
ばぞく〔馬賊〕 「テキヤ」仲間の間をゆすつて金を要求する者を云ふ。
ばた 暴動。鶏のこと。或は停車場等の雜沓に紛れ込んで仕事をする掏摸のこと。「ばたつく」の略。
ばた 煙草入を云ふ。
ばた 襤褸。紙屑等を拾ひ集めこれによつて生活するルンペン（浮浪者）のこと時には臺所、玄關に於て物品をコソコソ窃取することがある。「ばた公」「ばたや」「拾ひ屋」ともいふ。或は乞食非人のことも云ふ。
はたあきなひ〔旗商〕 米穀の投機取引をなす商人。（大阪の俗言） 昔それ等の商人が相場を日々旗を以て信號せしより。
ばたおい 列車内の掏摸。「はこおい」ともいふ。
はだかむぎ〔裸麥〕 移り氣の意（花言葉）
はだかむし〔裸虫〕 衣類なき人をいふ。
はたき 强盗。〔關西〕 或は辯護士のことを云ふ。

はたご〔旅籠〕 山門、神社、佛閣等に於て非人、乞食が集る所を云ふ。
ばたこ 煙草。同語の轉換。
はたごや〔旅籠屋〕 宿屋に於ての枕探しのこと。【關東】
はだし〔裸足〕 鶏。犬を云ふ。
はたすけ 巡査を云ふ。
はたまぐろ〔畑鮪〕 大根を云ふ。
はたむら 謹嚴なことを云ふ。
ばたや 屑物の立て場を云ふ。
ばたや 屑物拾ひ。（ルンペン）「ばた」參照。
ばたらつこー 掏摸の實行後他の方面に逃げることを云ふ。
ばたり 辻强盗を云ふ。
はち〔銚〕 物置小屋を云ふ。
はち〔鉢〕 酒を盗むことを云ふ。
はち〔蜂〕 警官。或は窓のこと。蜂は窓の邊りによく巣を作ることより。
ばち 詐欺的行爲を云ふ。
はちおい〔蜂追〕 荷車の後をつけ、車上の物品を窃取すること。及其の犯人をいふ。
はちかん お轉婆のこと。（遠江の方言）

はちざゑもん〔八左衞門〕 月經のこと。（陸奥の方言）

はちとばし〔蜂飛〕 窓を云ふ。

はちのしり〔蜂尻〕 島田髷。丸髷。形が似てゐるところより。

はちのす〔蜂巢〕 窓口より忍入る竊盜。「はちす」ともいふ。【中國】

はちのす【蜂巢】 窓。格子戸。或は金網類又は蓮の花が散りたる後の蕚をいふ十分に盛られてない辨當のこと。凡て中味の粗雜なものをいふ。

はちはち〔八八〕 花札を使用する賭博。八十八の略。

はちぼく〔八木〕 米をいふ。同字の分析。

はちまき〔鉢卷〕 官吏。或は看守長をいふ。

はちまきをとく 土藏の壁を破つて忍入ること。及其の犯人をいふ。

はちまきすずめ〔鉢卷雀〕 看守長。

はちまる〔蜂丸〕 「はちおい」に同じ。

ばちもの 耳をいふ。

ばちもの 贋物をいふ。

はーちやん 白痴の者をいふ。（力士）青年寄の娘に「はーちやん」といふ低能兒のあつたことよりといふ。

ばちよー 監守をいふ。

はちりん〔八厘〕 低能なる人物をいふ一錢に足らないの意。「天保錢」ともいふ

パチンコ ピストルを云ふ。

はつ 鮪をいふ。（京阪地方の方言）

はつ 看守長。【神奈川縣】

はつ〔發〕 銃器をいふ。

ばつ〔伐〕 山林盜伐者のことを云ふ。

はつしを〔初潮〕 初めて月經があつたこと。「初花」ともいふ。

ばつた〔張〕 犯罪事實を否認すること。

ばつた 「壺振り」が下手なこと（來賭博）

はつたり 懸引きをいふ。（香具師）

はつたり 恐喝行爲をいふ。

ばつたり 探偵が待ち伏せしてゐること或は叱責せられるをいふ。

ばつたり 追剝ぎ。强盜。或は舊惡が露見するをいふ。

ばツち 物品を開けて見ることをいふ。【東京】

ばつちをはく 逃亡を云ふ。

はつちし 土藏破りをいふ。

ばツちはづし 懷中をねらふ掏摸のこと

はツとは 計畫を云ふ。

はツは 暴動を云ふ。

ぱツぱ 煙草をいふ。煙の上る形容より【關西】

はツぱをかける 無錢飮食を云ふ。

はつみせ〔初店〕 遊廓で女郎が初めて店に出ること。「突出し」ともいふ。

はつむし〔初虫〕 新入監者。或は初犯者のことを云ふ。

はつめき 不正行爲をいふ。

はつものくひ〔初物食〕 新しく珍らしい人物なら誰とでも交際する人物をいふ從つて長くは續かない。

はつよふむ〔初夜踏〕 寢る。或は竊盜行爲をなすことを云ふ。

はづる〔外〕 逃亡。行衞不明を云ふ。

はづれ 場錢を云ふ。

ばで 庖丁。出刄庖丁。「出刄」の音轉。或は犯罪行爲等に用ふる兇器をいふ。

ばてをつかう 劇場、寄席等の終つた時の雜沓に乘じて犯す掏摸行爲をいふ。

ばてばらす 傷害行爲をいふ。

はとば 役所をいふ。

はな〔花〕 寵愛をいふ。或は寵愛されてゐる人物をいふ。俗に云ふヒイキのこと。花の字を分析すれば卄、イ、ヒ、となることより。或は美人のこと。

はな〔花〕 着物をいふ。
はな「鼻」 錠前をいふ。
はなお 若い婦人をいふ。
はなが 詐欺師の一味を云ふ。
はながた〔花形〕 詐欺賭博に際し大盡を裝ふ役割。及其の人物をいふ。「盡大」ともいふ。【九州】「さわしさぎ」參照。
はなくそ〔鼻糞〕 贈賄をいふ。
はなことば〔花言葉〕 感情、思想、意志等を花にたとへて現す言葉にして、花言葉は外國に於て古くより發生し、十九世紀頃のフランスでは軍事秘密通信に用ゐられたと云ひ傳ふ我國では特に女學生間に於て多く感情を表現することに用ゐられてゐる。
はなこふじん〔花子夫人〕 大きな鼻の婦人をいふ。「鼻」を「花」に通はせたもの。
はなせぶる 施錠を破壞すること。「はな」は錠前のことを云ふ。
はなつ 夏季をいふ。
はなでら〔花照〕 マッチのことを云ふ。
はなでんしや〔花電車〕 女學生や若い婦人が多く乘り合はしてゐる電車をいふ
はなとる〔鼻取〕 施錠を破壞すること。「はなをとる」「はなをこなす」「はなせぶる」等とも云ふ。

はななめ〔鼻舐〕 牛。或は牛肉のこと。
はなふだ〔花札〕 賭博に使用する「花カルタ」の札にして、「めくりカルタ」「カブカルタ」「ウンスンカルタ」等の札もいふが、札は各々異つて居り、賭博の方法及名稱も地方によつて異つて居る
はなまえ〔鼻前〕 手錠。戒具。「はな」は錠前のこと「はなまえをとる」「はなまえをこなす」は錠をとること。
はなみ〔花見〕 「花ガルタ」をすること。賭博。或は「花ガルタ」に勝つたこと。
はなよめ〔花嫁〕 茄子のこと。
はなれる〔離〕 死ぬ。【岡山縣】 世を離れるの意か。
ばなん 難波〔地名〕【大阪】 同語の轉換。
はね 鋏をいふ。
はね〔羽根〕 羽織。外套。或はマントの類を云ふ。
はねらん 衣類を云ふ。
はば〔幅〕 合百の一種で「包み」「幅合百」等ともいふ。翌日の前場五節の變動の値幅によつて勝負をする賭博のこと。

ばは 興行場。或はそれより興行館のこと。
ばば 婦女子の古着類をいふ。或は嚴しいことを云ふ。
ははあれ〔母荒〕 地震を云ふ。
ははおや〔母親〕 刑事をいふ。
ははおやがきびしい〔母親嚴〕 土藏に錠が堅くおろされてゐて、「土藏破り」の目的を達せられないことを云ふ。
ははがれひ したびらめをいふ。越前の方言〕
ばばさん〔婆樣〕 縮緬のこと。【關西】「ばあちやん」ともいふ。これと反對に老婆を「ちりめん」と呼んでゐる。皺のよつてゐることろより。
ばばしま 厩だの意。【岐阜縣】
ははた〔巾太〕 土、石などを運ぶを業とするもの。〔信濃の方言〕
ばばなみだ〔婆涙〕 寺院をいふ。
ばばやかましい〔婆喧〕 犬が吠えること
ばばん 規則に違反したこと。【廣島】
ばひ 若い婦人。或は人妻をいふ。
ばひ〔馬皮〕 太鼓を云ふ。或は牛馬のこと。又は荷馬車等の後をつけて車上の物品を窃取すること。及其の犯人をい

ふ。「蜂追ひ」「蜂まる」ともいふ。

ばひた　妻。及一般の婦人。「ばした」の音訛。

はひはち〔灰八〕　淫賣婦のこと。〔長崎の方言〕

ばひま　牛馬の飼主をいふ。

はびら〔薬片〕　紙幣をいふ。【北海道】

ばひん　馬のこと。

ハーフ〔Half〕　半分。或は少し足らない人物。「八厘」に同じ。

はぶ　草履をいふ。〔兵庫縣飾磨郡〕

ばふん　住家に侵入することを云ふ。

はぼく　樹木。或は植木屋のこと。

はほらん　看守をいふ。【宮城縣】

はま〔濱〕　マッチのこと。或は女子の陰部をいふ。

はま　手斧をいふ。

はまいれ　新築の土藏。或は内に金品が豐富にあると思はれる土藏のこと。

はまがり〔双曲〕　鎌のことを云ふ。

はまぎみ〔濱君〕　辻淫賣婦〔阪神の方言〕「辻君」ともいふ。

はまぐり〔蛤〕　水揚がすんで一人前になつた藝妓のこと。或は女子の陰部のこと

はませせり　「濱君」と稱す船乘りを相手となす密淫賣婦を買ふこと。〔京阪地方の方言〕或は物品を買はないこと。

はまねこ〔濱猫〕　カモメをいふ。〔横濱地方の方言〕

はまのしや　大阪市内の北濱〔地名〕及西濱〔地名〕に巣食う不良團の名稱【大阪】

はまほり　窃盜の目的をもつて家人の熟睡を窺ひ忍入ること。及其の犯人。

はまり〔筬〕　井戸のことを云ふ。

はむ〔筬〕　入監すること。或は飲食することを云ふ。

はめ〔筬〕　指輪を云ふ。

はめこみ〔筬込〕　贓品を處分するをいふ

はものあたま〔鱧頭〕　看守をいふ。

はや　ポケットを云ふ。

はや〔早〕　「合百」の一種を云ふ。

はや〔早〕　自動車。自轉車。飛行機或は刑事。窓口を云ふ。

はやかわ〔早川〕　赤褌をいふ。昔早川主馬といふ者が好んで赤褌を締めたことより。

はやがわり〔早變〕　板の間稼をいふ。

はやかん　拾錢を云ふ。

ばやく　官衙をいふ。「役場」の轉換。

はやぐる〔早廻〕　自轉車。自動車の事

はやこと〔早事〕　商ふこと。或は金品を盜むこと。掏摸行爲を云ふ。

はやし〔囃〕　暴動を云ふ。

はやじツぱい　拾錢を云ふ。

はやすけ　砥石をいふ。

はやつ　賭博の一種。

はやてら〔早照〕　マッチのこと。

はやどる　自轉車をいふ。【關西】

はやな　銅貨のことを云ふ。

はやぶさ〔隼〕　刑事をいふ。動作が機敏であることより。

はやみち〔早道〕　窃盜行爲をいふ。金を得るに早道の意か。

はやめる〔早〕　逃走を云ふ。

はやりよう　一圓をいふ。

はら〔腹〕　土藏の横を破り忍入ること。

ばら　銅貨。或は土方をいふ。

ばらをふむ　請負つた仕事を中途で止めることを云ふ。

はらきり〔腹切〕　住宅や土藏などの壁を破壊して忍入ること。及其の窃盜犯人

ばらけつ　年下の不良者をいふ。【不良】

はらこ〔腹兒〕　山窩や乞食間に於て成長した無籍者をいふ。

ばらし　雜巾をいふ。

ばらし〔暴〕　破獄。逃亡。或は兇器。鉈。又は殺傷をいふ。

ばらした　爲した。殺した。傷害を加へた。或は秘密をあばいたことをいふ。

ばらす〔暴〕　殺す。毆打すること。或は物品を破壞する。秘密をあばく。泣く。又は物品を賣却其他處分すること等を云ふ。

ばらながし　「おてんきし」「どしやながし」に同じ。

はらぼん　看守のことを云ふ。

はらます〔孕〕　賭博實行中警官の檢擧に遭ひ、ばら〳〵に逃亡すること。

ばらみ〔風〕　掏摸をいふ。【朝鮮人語】

はらみむすめ〔孕娘〕　金品が豐富に入れてある土藏のこと。「娘」は土藏のこと。

はらむ〔孕〕　金品を多く所有すること。金持。富豪をいふ。或は品物が澤山に土藏の中にあることも云ふ。

はらむら　刑事をいふ。

ぼらり　ぼんやりした人物。馬鹿の意。或は素人で罪を犯したるもののことを云ふ。

はらる　引致を云ふ。

ぱられる　逮捕。引致。「ひつぱられる」の省略。

はらんだ〔孕〕　「はらむ」に同じ。

はり　掠奪をいふ。【朝鮮人語】

はり　馬をいふ。【九州】

はり〔張〕　女を手に入れんと附けねらふこと。或は霜をいふ。

はり〔針〕　時刻。時計の針より。

ばり　降雨。或は密淫賣婦をいふ。

はりいた〔張板〕　「お花こま」の木札六枚をいふ。

はりうつ　飮酒することを云ふ。

はりかた〔張型〕　男根。女子の陰部の形に作りたる淫具を云ふ。

はりがね〔針金〕　强盜。或は素麵切昆布の事をいふ。

ばりす　强盜に押入り被害者を縛り暴行脅迫することを云ふ。

ばりたり　犯人に自白さすため警官が詐言を用いたり、威喝的態度を取ること

はりね　見張番をいふ。

はりばこ〔針箱〕　淫賣婦のこと。【信濃地方】

はりま〔播磨〕　酢をいふ。

はる〔張〕　剛情を張る。或は盜んだところの着物を着ることを云ふ。

はる〔張〕　女學生に口說きよること。（學生）

はる〔張〕　言語を云ふ。

はる　引致「引つぱる」の省略か。

ぱる　巡査。憲兵。【朝鮮人語】

ばる　誘惑すること。「引つぱる」よりか

はるぎよ〔搔〕　窃盜をいふ。【朝鮮人語】

はるのめざめ　春情發動期をいふ。性的に目醒ること。（多く學生間にて用ふ）

はれ　汽車。或は骨牌やトランプで定限以上の數を云ふ。

ばれ　天候の良からぬこと。或は暴動。「あばれる」の省略。

ばれ〔暴〕　逮捕引致。【九州】

ばれる〔暴〕　秘密が發覺すること。或は死亡。又は失策したことをいふ。

はーろく　父親をいふ。

はろはろ　乘合馬車のこと。

はわきぎ　情夫をいふ。

はん〔半〕　奇數のこと。「丁」に對する語

ばん〔番〕　錠前をいふ。

ばんか　手提鞄をいふ。「鞄」の音轉。

ばんかい　田舍者をいふ。

ばんかかい〔鞄買〕　底に仕掛ある鞄を持ち待合室などに於て他人が置きし鞄

の上よりそれを被せ其のまゝ盗み去る掏摸を云ふ。「ばんか」は「鞄」の音轉。

ばんかわり 合鍵を用ひて他人の鞄の中味を窃取すること。及其の犯人をいふ

はんがん〔判官〕 警官、其他官吏の辭職免職をいふ。「忠臣藏」の鹽谷判官切腹の段より。

ばんきり 賭博に際し、その發覺を防ぐため手段方法を講じる者をいふ。或は掏摸。詐欺のことを云ふ。

ばんげ 女の盗賊を云ふ。

ばんけい〔晩景〕 夕方の空巣狙をいふ。「たか」ともいふ。或は窃盗のこと。

ばんけい 自動車のことを云ふ。

はんけちや 正業を有してゐながら時々賭場に來る者をいふ。

ばんけん〔晩健〕 强盗をいふ。【關東】「ビス健」よりか。

ばんけんつき〔番犬附〕 附添人や戀人のある娘をいふ。

はんこ 一定の職なく諸方を徘徊流浪する者。俗にルンペンのことを云ふ。

ばんこ 巡査派出所をいふ。「交番」の轉換、「ばんこー」ともいふ。

はんこん 今晩。或は夜半。「今晩」の轉換。

はんさん 墮胎。(兵庫縣城崎郡)

ばんじ 肌着類。或は勞働服をいふ。「じばん」の轉換。

はんしき 飯をいふ。

はんしや〔反射〕 月夜をいふ。太陽の光線が反射することより。

はんしよ〔判所〕 裁判所をいふ。「裁」を除いた言葉。

ばんしよーづち〔番匠槌〕 木椎の異名。(畿内の方言)

はんしよーどろぼう〔半鐘泥棒〕 背の高い者を嘲つた語。火見櫓のを半鐘盗み得るの意。

ばんしよく〔伴食〕 無能なること。

ばんしん〔番新〕 遊廓に於ける遊女の附き添ひの女をいふ。

ばんすけ 頭部。或は懐中時計のこと。

はんぞー〔伴藏〕 牛馬の仲買人をいふ。

ばんた〔番太〕 物貰ひをいふ。(京都の方言)

ばんた 他人の妻をいふ。【關東】

はんだるま〔半達磨〕 半纏をいふ。「だるま」は羽織の意。

はんちんでんしや〔半賃電車〕 割引電車をいふ。

はんづけ 飯をいふ。

はんて〔判手〕 飯。米のこと。「てはん」の音轉。

はんてびき〔判手引〕 窃盗の目的を達して更に飯を食つて逃げること。及その犯人をいふ。

はんてびき〔判手引〕 穀類。或は穀類の窃盗を云ふ。

はんとば 美裝した婦人をいふ。

はんびら〔半片〕 米、麥が五分五分の飯をいふ。或は糯袢のことを云ふ。

はんべする 窃盗行爲中發見されること

はんべなし 物を盗まれてゐながらさとらないこと。

はんべや 中流以下の旅人宿をいふ。

はんぺや 贓物故買の嫌疑者をいふ。

はんぼ 飲食。或は密淫賣婦をいふ。

はんぼー 防犯係をいふ。「防犯」の音轉【兵庫縣】

はんまたぎ〔半跨〕 半里の意。

ばんめん〔番面〕 見張番をいふ。

はんや 灰小屋をいふ。【丹波地方】

ばんや【番屋】 洋館をいふ。

ひの部

ひ〔灯〕 電燈をいふ。

ビ〔B〕 美しい人物を云ふ。Beauty の頭文字を取れるもの。（學生）

ぴ 藝娼妓をいふ。【關東】

ひあけ〔日明〕 夜明けを云ふ。

ひあらし〔日荒〕 秋冬の風をいふ。（近江の方言）

びい 婦人。女の兒をいふ。

ぴい 女子の陰部の事を云ふ。

ひいた 授受したを云ふ。

ビイドロ 眼。或は官吏をいふ。

ひいひい 當てものを商賣をなす大道商人を云ふ。

ひか 絹の着物。或は星をいふ。又は兇器を以て人を脅迫すること。

ひが 銃器。或は糞のことを云ふ。

ひが 巡査。或は初犯者をいふ。

ひかあな 惡い行爲をすることを云ふ。

ひかい 貧乏人をいふ。或は金のないことを云ふ。

ピカいち〔光一〕 花札上物一枚で他は素物の役。

ひがをばらす 脫糞。屋內に忍入る盜賊が窃盜成就の呪禁に忍入る前入口などに大便をして置く。又大便をして置くと番犬がその臭氣を嗅ぎ嗅覺に異狀を來して怪しい者が來たことを覺り得ないとの考より起つたもの「きがふせる」ともいふ。

ひがかみ 放尿を云ふ。

ひがねす 農夫をいふ。

ひがば 厠のことを云ふ。

ひがばらし 厠に行くことを云ふ。

ひがま 厠のことを云ふ。

ひかり〔光〕 刑事。制服巡査を云ふ。

ぴかり 犯罪行爲の結果が惡るいこと。

ひかる〔光〕 見張人がゐること。或は家人が寢てゐないこと。或は金側の懷中時計をいふ「ひかつてゐる」と云ふのが至當であろう。

ひかわ 俗にいふルンペンのこと。或は貧乏人をいふ。

ひかわい 貧乏人。「かよわい」の意より幼さない者。やせた者。醜いもの。惡いこと。不足。不備。不完全。粗末。惡口すること。無情なこと。哀れな者。

ひき〔引〕 犯罪者を窃盜目的の場所へ案內するもの。又は其の行爲。或は其の犯罪敎唆者をいふ。

ひき〔引〕 詐欺賭博。掏摸の事を云ふ。

ひき〔引〕 裁判所を云ふ。「引出す」の意よりか。

ひき〔引〕 股引。脚袢。「股引」の略。

びき〔引〕詐欺賭博に相手客を「敷」に連れこむこと。及其の者をいふ。「おびき」の略か。

ひきあい〔引合〕 共犯者。或は會合することを云ふ。

ひきまど〔引窓〕 目先がきくこと。或は氣がつくことをいふ。

ひきやく〔飛脚〕 隣りの監房に居る囚人と密そかに話しをすること。（囚人）

ひく 婦女子。（兵庫縣城崎郡の方言）

ひく〔引〕 飲むこと。或は窃取する事をいふ。

びく〔比丘〕 密淫賣婦のこと。「ぬけびく」ともいふ。

びくだい 枕をいふ。「びく」は「首」の音轉。或は眠ることを云ふ。

びくちり 紐附の財布を云ふ。

びくつり 情交關係を結ぶ。

びくに 娘をいふ。（兵庫縣但馬地方の方言）

ぴくにや〔比丘尼屋〕 酌婦、仲居などが密そかに淫をひさぐ飲食店のこと。
ひぐも〔日雲〕 看守の巡視を云ふ。
ひぐれ〔日暮〕 夕方の忙がしい時を見込んで窃取するコツ〳〵泥棒のこと或は其時に忍入り物隅にひそみ家人の寢しずまつた時を待ちそれより犯行なす窃盜のことを云ふ。
ひげ〔髯〕 警察官。嚴格なる官吏をいふ或は危險の狀態にあること。（暗號に髯をさわつて警官の來たことを知らすことがある）
ひげ〔髯〕 窃取し難きこと。
ひげでか 警部をいふ。
ひげとほす〔髯通〕 警官の來たことを通知することを云ふ。
ひげみ〔髯見〕 犯罪行爲の見張番。「ひげ」は警官の意にして、警官が來ないかと見張るの意。
ひこ〔彥〕 土藏破りに用ふる鋸の類をいふ。或は現金のことを云ふ。
ひこ コーヒを云ふ。
ひこーき〔飛行機〕 菜つ葉類をいふ。
ひこぞー〔彥藏〕 貧乏人のことを云ふ。
ひこぞーする〔彥藏爲〕 窃盜をすること

ひこなし〔彥無〕 無一文のこと。
ひこはち 豆藏をいふ。（京阪の方言）
ひこばらし〔彥破〕 懷中の金錢を掏り取ることを云ふ。
ひごろも〔緋衣〕 油揚豆腐をいふ。僧侶が緋の衣を着て精進料理の油揚げを食ふ故か。
ひさ 懷中にある金品をいふ。
ひざくりげ〔膝栗毛〕 諸方を浮浪することを云ふ。
ひさまつ〔久松〕 土藏。或は犯罪の教唆をいふ。或は犯罪者を犯罪の目的場所迄案內することを云ふ。
ひし〔日師〕 日中の空巢ねらひを云ふ。
ひしや 賭博開張を云ふ。
ひしやく〔柄杓〕 遊女をいふ。（羽後國酒田邊の方言）
ビシヤくち 獄舍の戶をいふ。
びじん〔美人〕 金貨をいふ。
びす 金庫のこと。【東北】 或は頭部をいふ。
びすけば 巡査派出所のことを云ふ。
ピストル 强盜をいふ。ピストル强盜守上健次より起りしものか。
ひすなり 掏摸共犯者をいふ。

ひぜんかき〔疥癬患〕・胡瓜のこと。
びた 金錢を云ふ。或は雪駄のこと。
びた 旅行すること。旅商すること。或は諸方を徘徊するをいふ「旅」の音轉。
びた 飛田遊廓をいふ。【大阪】
びた 足袋のこと。同語の音轉。
びたでばいする 地方を徘徊し商賣が窃盜犯罪行爲をすることを云ふ。
びたにのる 遊に出ることを云ふ。
ひたば 緣日。祭典をいふ。
ひだり〔左〕 酒類一切のことを云ふ。
ひだりそて〔左袖〕 犯罪共謀者の年少者をいふ。或は初犯者のことを云ふ。
ひつ 梯子を用ひ屋上を傳ひて忍入るを云ふ。
ひつ〔筆〕 筆。鉛筆のことを云ふ。
ひつ〔櫃〕 金庫をいふ。
ひツかけ〔引掛〕 犯罪行爲に用ふる合鍵をいふ。或は物を窃取すること。
ひツかける〔引掛〕 捕縛すること。或は婦女子を誑すことをいふ。
ひツかり 「しかおい」に同じ。
びツくり 信玄袋のことを云ふ。
ひつじ〔羊〕 紙。紙製の品物。或は幣。頭髮をいふ。

ひつじいれ〔羊入〕 紙入れ。或は財布をいふ。

ひつじしんた〔羊晋太〕 紙幣のこと。

ひつじたんか〔羊啖呵〕 障子。或は襖をいふ。

ひつじつかい〔羊使〕 贋造紙幣を行使すること。及その犯人をいふ。或は贋造紙幣を以て詐欺すること。及其の犯人を云ふ。

ひつじびら〔羊片〕 「ひつじたんか」に同じ。

ひつじへてくる〔羊經來〕 京阪地方に行くこと。京都方面を「上方」といふてゐたことよりその「カミ」を「紙」に通はし更に「羊」とせるもの。

ひつじまわし〔羊廻〕 理髪店をいふ。或は京阪地方を俳徊し窃盗をなす常習者をいふ。「ひつじへてくる」參照。

ひツた 女兒。或は鼠のことを云ふ。

ひツぱり〔引張〕 贓物故買者のこと。或は辻君をいふ。

ひつぺがし 紋富の一名。

ひづみ 片手桶のこと。（上野の方言）

ひで 犯罪者を犯罪の目的場所へ案内する者のこと。或は犯罪敎唆者をいふ。

ひでり 棒の事を云ふ。

ひでる 毆打することを云ふ。

ひでんぼー〔秘傳棒〕 陰莖を云ふ。

ひとうせ〔人失〕 逃走をいふ。

ひとつあゆ 北風をいふ。（北國の方言）

ひとはこ〔一箱〕 千圓。「千兩箱」よりかひとふし 看守長をいふ。

ひとまたぎ〔一跨〕 一里のこと。「半里」を「はんまたぎ」といふ。

ひとまる〔人丸〕 柿をいふ

ひともじ〔一文字〕 葱のことを云ふ。

ひとりや 警察署をいふ。

ひとりわらひ〔獨笑〕 春畫即ち枕繪のことを云ふ。

ひとる 曲ること。（兵庫縣美濃郡の方言）

びーどろ 目をいふ。

ひどろい 眩しいこと。（尾張の方言）

ひな〔雛〕 卵をいふ。

ひなか〔日中〕 日中の空巣ねらひのこと「夕方の空巣ねらひ」を「たか」といふ。

びなら 姦婦。情婦をいふ。

ひね〔古〕 强盜犯人。或は共犯者のこと

ひね〔古〕 警官をいふ。巡査部長を「中ひね」、署長を「親ひね」といふ。

ひねた 刑事のことを云ふ。

ひねもの〔古物〕 一般不正物品をいふ。

ひねり〔捻〕 時計をひねり取ること。或は相撲をいふ。

ひのき〔檜〕 粥をいふ。

ひのきいた〔檜板〕 上等の和酒をいふ。上等の和酒は檜の樽にて釀造するところから 濁酒は「松板」といふ。

ひのきぶたい〔檜舞臺〕 前科數犯を重ねたしたたか者をいふ。或は犯罪常習者のことを云ふ。

ひのまる〔日の丸〕 旗日をいふ。

ひばこ〔火箱〕 マツチをいふ。【關西】

ひばり〔雲雀〕 强窃盜の見張番をいふ。

ひばり〔雲雀〕 歌劇女優をいふ。或は女の獨唱家をいふ。雲雀のごとく獨唱するの意。

ひびく〔響〕 不正行爲を密告すること。

びぴちや 賭博。【朝鮮人語】

びひら〔日平〕 普通の夜店をいふ。（テキヤ）

ひふ 婦女子をいふ。

ひふ〔被布〕 衣服一般を云ふ。

ひぼ〔紐〕 窃盜行爲をいふ。

ひぼだる 半纏のことを云ふ。

ひぼんぎよう〔非梵行〕 情交關係を結ぶこと。（僧侶）
ひまぐれ〔日間暮〕 夕方をいふ。
ひめ 立番してゐる巡査をいふ。
ひめ 蛬をいふ。
ひめ〔姫〕 遊女。淫賣婦をいふ。【京阪地方】
ひめころし〔姫殺〕 土藏破り。或は美男子をいふ。
ひも〔紐〕 贋造紙幣を手段となす詐欺師の共犯者をいふ。
ひもげそ〔紐下足〕 鞋。或は草履をいふ。
びもくんぢるぶん〔血飲七分〕 强盜殺人犯をいふ。【朝鮮人語】
びやくい 銀貨をいふ。
びやくい〔白衣〕 寛大な處分をいふ。「びやくゑ」ともいふ、白衣觀音の慈悲からきた語。
ひやざけ〔冷酒〕 醋寒をいふ。
ひやくつばい 百圓をいふ。
ひやめし〔冷飯〕 二男以下の者をいふ。或は食客のことを云ふ。
ひやめしぞーり〔冷飯草履〕 雨天をいふ
びやんどぬ 竊盜。【朝鮮人語】
びよーゐいゆき〔病院行〕 留置されること。或は入監されること。「入院」ともいふ。
ひようさい 藝妓。仲居をいふ。
ひよーしぎ〔拍子木〕 澤庵漬。或は燒豆腐をいふ。
ひよーたんきり〔瓢簞切〕 竊盜、强盜の目的にて入口を切ることを云ふ。
ひよみのとり〔日讀酉〕 酒のこと。
ぴよりちよ 黎明。【朝鮮人語】
びよんいとつたー 憲兵が來るの意。【朝鮮人語】
ひよんころ 卵をいふ。
ひよんころ 餅をいふ。或は團子のこと。
ひら 金銀側の懷中時計のこと。或は幅子をいふ。
びら〔片〕 衣類一般。或は紙幣のこと。
びら 手掛のこと。或は扉。雨戶の類。「とびら」の略。
ひらき 露天藝人をいふ。（香具師）
ひらく〔開〕 起ること。【石川】 或は宴會などにて「終つた」の語を忌んで終つたことを「ひらく」と云ふ。
ひらこん 金比羅大神宮をいふ。「金比羅」の轉換。
ひらしき〔平敷〕 山、野原などに於て小屋掛にて野宿することを云ふ。
ひらしめ〔平締〕 女帶をいふ。【關東】
ひらつぼ〔平壺〕 詐欺賭博に用ふる仕掛ある壺椀のことを云ふ。
ひらどば 平家建の家。或は門構のある家をいふ。「ひらどま」ともいふ。
ひらば〔平場〕 繁華な市街を徘徊し一定の場所を選定してゐない掏摸のこと。「ざぶ」に類するもので、「箱師」などと區別された名稱。
ひらば〔平場〕 「ひらどま」に同じ。【京阪】
ひらばおい〔平場追〕 一定の場所を選定しない掏摸のこと。「ひらば」に同じ。
ひらばし〔平場師〕 雜沓中にてなす掏摸の意。
びらはくい 衣類が良い。又は美しいとの意。
ひらばつかい〔平場遣〕 「ひらばし」と同意。
ひらばながし 「ひらばし」と同意。
ひらばつば 衣類を竊取する事又は板の間稼の事を云ふ。
ひらび〔平日〕 一定した場所にて物を賣る事。（露天商人語）
ひらび〔平日〕 田舍の祭禮等にてなす掏

摸を云ふ。
ひらまち〔平町〕 掏摸の稼場所を云ふ。叉市街の意。
びらやま〔片山〕 衣類を窃取せし事。
ひらゆたん〔平油單〕 風呂敷を云ふ。〔關西地方の方言〕
びり 娼婦。支那語にて娼婦を「ぴい」と云ふ。その轉訛か叉尻の事を「びり」と云ふよりか。轉じて藝妓・婦女子、下婢、密淫賣婦を云ふ。
びりをける 男女交接する事。「やちける」、びりへぐ、やちへぐ、びりける」等皆同意。
ひりか 飲酒なす事を云ふ。
びりがせ 賣春婦をふ云。
びりかた〔尻方〕 妓樓の主人を云ふ。
びりかます 男女互に淫事に耽ける事を云ふ。
びりかまり 男女交接する事。かけだしもの（犯罪未熟者）は往々にして姙娠せる意の「がりかまり」と混同する事がある。
びりがり 娘を云ふ。
びりかんたん 遊廓にて登樓する事。【關西地方】

びりぐる 女の帯を云ふ。
ぴりけん 娼婦を云ふ。
びりごけ 戀慕の情を表わす事。又は淫亂なる女を云ふ。
びりぞろ 采の目の六揃ひを云ふ。
びりだれ〔尻垂〕 袴を云ふ。
びりちや〔尻様〕 若い娘を云ふ。
びりつき〔尻附〕 衣類を窃取する事。
びりつく〔尻附〕 遊里にて遊興する事。【關東地方】
びりつり〔尻吊〕 娼妓、又は密淫賣婦と關係する事を云ふ。
びりなげし〔尻投師〕 女帯を云ふ。
びりひく〔尻引〕 男女交接する事。
びりもさ 婦人用衣類を窃取せし事。
びりや 妓樓。料理屋。貸座敷を云ふ。又遊里にて遊興なす意。
びりやど 密淫賣婦を云ふ。
ひる〔晝〕 夜中を云ふ。其の反語を云つたもの。
ひる〔蛭〕 强盗、詐欺罪の共犯者を云ふ
びる 藝娼妓。密淫賣婦を云ふ。「びり」の轉訛。
ビル〔Bill〕 接吻。ビールは鳩の嘴の意それより鳩の如く接嘴するとのことから云つたもの。（學生語）

ひるきす 「あきす（空巣）」に同意。
びるくちもう〔唇備〕 關係せし女の所持金品を巧言を以て騙取する事を云ふ。
ぴるたんたー 萬引を云ふ（朝鮮人隱語）
びるつり〔尻吊〕 遊藝人を云ふ。
びるつる 遊藝人を云ふ。
ひるてん 商店等にて店番の不在を窺ひ金品を掻拂ふ事を云ふ。
ひるとんび 晝間の空巣ねらひを云ふ。
びるま〔尻間〕 貸座敷を云ふ。
ひるまい 晝間の空巣狙を云ふ。
ひるわし〔晝鷲〕 晝間の空巣狙ひ。
ひろ 銀時計を云ふ。
ひろいみせ〔拾店〕 親分を持たない素人上りの露天商人を云ふ。露天商人が店を出す場合所場代と云つて間口一間に附若干を親分（其繩張の）に徴收されるのであるが素人上りの商人は隱語（附牒）を知らない爲仲間へ入る事が出來ない爲め皆が取つて仕舞つた殘の場所に店を出すのである。其の代り所場代は拂はない。
ひろしき 内庭から上る上り口を云ふ。（淡路の方言）

ひろじまゆき　死亡せし事を云ふ。
ひろめ　新聞。新聞社を云ふ。
ひわかい　紳士の如き服裝をなす事。
ひん〔晉〕　金錢を云ふ。
ひん　贓品、又は鷄。合鍵を云ふ。
びんあや　若い娘を云ふ。
ぴんをもどす〔品戾〕　時計の鎖。鞄の合鍵等を外す事を云ふ。
ひんがまり　金錢を所持してゐる事。
ピンク〔Pink〕　處女を云ふ。
ひんくや　金錢の無き事を云ふ。
ひんころ　豆類を云ふ。
ぴんころがし〔一轉〕　采の目に一が出た時を云ふ。親の附目なる故。
ひんしき　密告者を云ふ。
ひんしけ　金のなき事を云ふ。「ひんくや」に同意。
しんしぶり　窃盜犯が施錠の箇所を破る事を云ふ。
びんすい　剃刀を云ふ。
ひんせき　金錢の所在を教える事。
ひんたばこ　金庫を云ふ。
ひんだぶくろ　財布を云ふ。
ひんちぼちや　賭博を開張する事【朝鮮】
びんちや〔瓶茶〕　茶瓶。同語の倒語。

びんちやん　主人。主謀者を云ふ。（支那人隱語）
ひんつき　金銜附の同意して要視察人の意。
ひんとく　得心。承知の意。「とくしん」の轉倒語の「しんとく」の轉訛。
ひんどくち　眼を云ふ。
ひんばツたり　金錢を以て女を誘惑する事を云ふ。
ひんひく　通知。案內。警告。看守等の意。
ひんぶりかける　脅迫して金品を奪取する事を云ふ。
ひんぶん　喧嘩を云ふ。「ごろ」に同意。
ひんぼり　金錢の返還を督促せらる事。
ひんやま　多額の金錢を窃取する事。

ふの部

ふ〔夫〕　壯年者を云ふ。
ふ〔符〕　乘車。或は乘船。又は切符類。
ぶ　贓物故買者を云ふ。
ぶ〔負〕　賭博。勝負の省略。
ぶい　暴風雨。或は犯罪共謀者を云ふ。
ふいご〔鞴〕　陰莖。陰門。交接を云ふ。

ぶう　制服巡査を云ふ。
ぶう　賭博の異名を云ふ。
ふうせん〔風船〕　馬鈴薯。里芋を云ふ。
ふうりう〔風流〕　風のこと。（九州地方の方言）
ふうろー〔敷牢〕　入浴。【臺灣】
フヱー　カフヱーの略。
フヱーがまる　カフヱーに這入る。
フヱーなご　女給を云ふ。
フヱーびり　女給を云ふ。
ふかい〔深〕　夜の更行くことを云ふ。
ふがい　制服巡査を云ふ。
ふかく　夜の更行くことを云ふ。
ふかす　喫煙。【關東】
ふき　移轉。失踪。或は賣却。又は隱匿。
ふき〔吹〕　疾風。或は喫煙を云ふ。
ふき〔吹〕　錠前に火氣を吹きつけ燒取つて屋內に忍入る窃盜のこと。老猾なる深更師（深夜に專ら窃盜なす者）は往々德利の底を拔破りその中に炭火を入れ施錠の箇所に差當て、其口より火氣を吹き附け燒拔くを手段とする者より出ず。
ふきかえ〔吹替〕　手札を巧みに取りかへることを云ふ。

ふきだけ〔吹竹〕 葱を云ふ。

ふきよせ〔吹寄〕 粥汁。或は無頼漢の集會所又は一味徒黨が集會すること。

ふく〔吹〕 沖荒。或は男女交合。誘拐した婦女子。又は姦婦と潜伏の所在を晦すことを云ふ。

ふく 金額二錢の意。

ふく〔服〕 反物。吳服の略。或は煙草入轉じて腰下げ巾着の類を云ふ。

ふくし 詐欺賭博師を云ふ。

ふくすけ〔福助〕 團扇を云ふ。

ふくそん〔福孫〕 飼犬。或は一般警察官又は密告者（一八賭博の語に福孫を犬に見做してゐるところより）

ふくたいまてい〔竹節〕 長屋。【朝鮮】

ふくで〔福手〕 鏡餅を云ふ。（信越地方の方言）

ふくてぎ 幼兒。（朝鮮詐欺賭博師用語）

ふくでん〔福田〕 鏡餅をいふ。（關東地方の方言）「ふ で」參照

ふくべ〔瓢〕 腹部を云ふ。

ふくべ 陰門を云ふ。

ふくべパア 陰莖を云ふ。

ふくまご〔服孫〕 制服巡査を云ふ。

ふくみ 刺身をいふ。（宮女の詞）。

ふくもん〔服物〕 吳服物。着物類。

ふくろ〔袋〕 袖袂。袋。蚊帳。或は贓物品。贓物故買者等を云ふ。

ふくろ〔袋〕 行詰りの路次。（關西地方の方言）或は無頼漢の巢窟。又は裏長屋等を云ふ。

ふくろあらい〔袋洗〕 仲間の者相寄りて飲酒歡樂を盡すこと。（山窩）

ふけ〔更〕 深夜。或は强盜。又は深夜專門の竊盜。深夜專門の竊盜を「更師」と云ふその略。

ぶけい 警部。同語の轉換。（香具師）

ふけし〔更師〕 深夜專門に忍入る竊盜をいふ。略して「ふけ」ともいふ。

ふけにん〔更人〕深夜專門の竊盜「ふけし」に同じ。

ぶけほ 警部補。警部補の轉換。

ふける〔更〕 逃走。行くこと。歸る。或は寢る。又は失敗等を云ふ。

ふさい 巾着。財布の類。財布の轉換。

ふさく〔不作〕 洪水を云ふ。

ふし〔節〕 竊盜。或は盜難の被害小額なるをいふ。【關東方面】

ふし〔節〕 竹篦様のものを持つて施錠の箇所を捜し求め、動作を云ふ。

ぶじ〔不時〕 賭博開張の現場にて捕縛せられることを云ふ。

ふしがね〔節金〕 鉋丁を云ふ。

ふしがある〔節有〕 腐敗せる飲食物。

ぶしまいき 煙草入。【朝鮮人語】

ぶしやうする 賭博の開張を云ふ。

ふしやうねる 賭博の開張を云ふ。

ふしやぶり〔節破〕 强竊盜の共犯者。

ぶしよー 博徒。（香具師）

ぶじよー 大丈夫。丈夫の轉換。

ぶしよーし 博徒を云ふ。

ぶしよーする 賭博の開張を云ふ。

ぶしよーねる 賭博する。（香具師）

ぶすけ 竊盜犯人。竊盜共犯者。或は制服巡査。又は醜女等を云ふ。

ぶすけ 容貌醜惡なる少年。（東京地方の不良少年團用語）

ぶすち 制服巡査を云ふ。

ふすべ〔燻〕 施錠の箇所を燒取ること。竊盜の「ふき」に同じ。

ふせ〔伏〕 竊盜。或は賭博。「ふせる」參照。

ぷせき 親。【朝鮮人語】

ぶせふ 勝負を云ふ。

ふせる〔伏〕 賭博をする。釆賭博に於いて壺皿を伏せるより。或は寢ること。
ふそく〔附則〕 看守を云ふ。
ふた〔蓋〕 無双懐中時計を云ふ。
ぶた 十圓紙幣。或はカブ札で十になつたこと。又は物事が意に滿たないこと。
ぶたい〔舞臺〕 家屋を云ふ。
ぶたいをふむ〔舞臺踏〕 住家に侵入して窃盜をすることを云ふ。
ぶたいふみ〔舞臺踏〕 日中家人の隙を窺ひ忍入つて窃盜をすることを云ふ。
ぶたいえかまる〔舞臺入〕 人家に侵入することを云ふ。
ぷーたいれん〔不帶連〕 深夜の強盜。【支那人語】
ふたゑびら〔二重片〕 男女一般の袷着物
ふたゑみの〔二重簑〕 男女一般の袷着物
ふだがかぶる〔札被〕 思つてゐる花札が下になつてゐることを云ふ。
ふたついち〔二つ、一〕 半玉のこと。即ち半分なるがため二つ合はせて一つとなるより。【名古屋地方】
ふだつかみ〔札攫〕 骨牌使用賭博。
ふだつき〔札附〕 注意人物なる前科者。
ぶたばこ〔豚箱〕 留置場。監房を云ふ。

ふだまわし〔札廻〕 贋造紙幣の行使。
ふち〔淵〕 贓物故買者。及故買牙保犯等をいふ。
ぶち〔斑〕 警部を云ふ。
ぶちよー〔符牒〕 利益金の分配(テキヤ)或は一種の隠語を商賣人が客にわからぬやうに使ふ語のこともいふ。
ぶちよーし〔符牒師〕 詐欺的行爲をして商賣をなす者を云ふ。
ふつ 田舍者。(相場客引)
ぶつ〔物〕 贓物。同語の省略。
ブツ 帶の中にある懐中時計の環を外して時計だけ窃取すること。「ぶつッと切り取る」の意より。「ぶッつり」ともいふ。
ふつう 紳士。其他風采の立派なる人物
ふつかすぎ〔二日過〕 麥飯を云ふ。
ぶつくぎり 書籍專門窃盜犯人。【關西】
ぶつた 殺害。(香具師)
ぶつそうづら 醜い顔の女をいふ。(中國邊より九州邊の方言)
ぶツつり 「ブッ」と同じ。
ふでおろし〔筆下〕 物事を初めてする意それより男子が初めて童貞を破ることをいふ。

ふとう〔埠頭〕 女學校や紡績工場の便所をいふ一般婦人の便所をいふ。
ふとん〔布團〕 油揚豆腐を云ふ。
ふとんがえし〔布團返〕 宿屋荒し。「かんたんし」に同じ。
ふな 數量の八の意。
ふながた〔船形〕 着物の裾を云ふ。
ふなくさし 焦げ臭いの意。(陸奥津輕方面の方言)
ふなこぎ〔船漕〕 便所や汚水溜などに盥などを浮べ其上を傳つて屋内に忍入ることを云ふ。
ふなごし〔船越〕 贓物品の運搬。
ふなまんじゆう〔船饅頭〕 船中にて船頭相手に春をひさぐ醜業婦。古くから行はれてゐる。
ぶーにーぢやんたいしやー 詐欺賭博。俗に三枚賭博と稱す。三枚の骨牌を使用する賭博。【朝鮮人語】
ふは 一八賭博に用ゆる題目記載の用紙のこと。或は絹物衣服一般のこと。
ふはつく 軟風を云ふ。
ふはふは 絹着物一般を云ふ。
ふはもの 絹着物一般を云ふ。
ブブ〔水湯〕 種々の手段を用ゐても相手

方にその詐欺的なることを覩破せられたことを云ふ。

ぶほ　警部補。同語の省略。

ふみ　山嶺。【朝鮮人語】

ふみをやる〔文遣〕　土藏破りが錠前に合鍵を用ゆることを云ふ。

ふみすり　溪谷。【朝鮮人語】

ふみつける〔文附〕　犯罪着手の準備。

ふむ〔踏〕　借金を返濟せないこと。或は窃盜に踏み入ることを云ふ。

ブラ　緣日、夜店等の盛り場を步き廻ること「ぶらつく」の略。

ふらし　運搬人を云ふ。

ぶらし　犯人を云ふ。

ブラシ　蒸汽機械。印刷機械。其他諸機械類を云ふ。

ブラツク、ハンド〔black.hand〕　不良少年團映畵「黑手組」より。

ブラツク、リスト〔black.list〕　注意人物。

ぶらてん　僞物。「てんぷら」の轉換。

ブラリ　提燈。或は嬰兒。又は一般店舖。

ふらり　民家。村落を云ふ。

ふらり　退却。歸宅等を云ふ。

ブラリサン　袖。袂を云ふ。

ふらりや　木賃宿。下等旅人宿を云ふ。

ふらりん　男女の袖附着物を云ふ。

ブラン　嬰兒を云ふ。

ふらんねる　賭博を云ふ。

ふり　二。或は二錢。（香具師）

ふり〔古〕　老婆。或は死亡のこと。

ふり　詐欺行爲を云ふ。

ふり〔不利〕　逮捕引致されること。

ぶり　家尻切や、土藏破りが犯行に用ゆる刄物類を云ふ。

ぶり　藥。「せんぶり」の略。

ぶり　制服巡査と云ふ。

ぶりうち　詐欺的行爲者を云ふ。

ぶりうちし　種々の能書等を述べて藥品等を賣る者。（香具師の一種）。

ぶりかん　二十錢。（香具師）

ぶりきがかまツた〔鈲力來〕　事件の勃發に際して警察官が駈つけて來ること。又は非常警戒線の張られたこと。鈲力はサーベルを連想したもの。

ぶりきめがね〔鈲力眼鏡〕　注意不行屆な戒護官吏を云ふ。

ぶりきや〔鈲力屋〕　嚴格なる警察官。堅い意味より。

ふりこし〔振越〕　地方より地方へ流浪して一定したる住居なく窃盜を常習とする者をいふ。

ぶりし　博徒。或は詐欺師のこと。

ふりじツぱい　金額二十圓の意。

ふりせん　二錢を云ふ。

ふりそで〔振袖〕　娘盛りの婦女子。

ふりそでこ〔振袖妓〕　新潟地方で半玉のこと、華やかな振袖を着るより。

ふりぢツぱい　二十圓の意。

ぶりぢよツた〔鼓擊〕　中止。【朝鮮人語】

ぶりづかい　盜賊が門戶を破るために使用する小形の刄物のこと。その刄物のことを「こぶり」といふ。それの略したもの。

ふりば〔古場〕　墓地を云ふ。

ふりばこ　千圓の意。

ぶりひんかまる　金を無心すること。【關西】

ふりぶ　睡眠を云ふ。

ふりほよん　二百圓の意。

ふりもの〔振者〕　香具師を云ふ。

ぶりや　風呂屋。入浴することを「ザンブリ」又は「ズンブリ」と云ふ。その略。

ぶりやする　破ること。破獄。逃亡。

ぶりやばらし　脫監。逃亡を云ふ。

ふりりよー　二圓の意。

ふる　漏ること。（淡路の方言）

ふる（古）　死去を云ふ。

ぶる　寢る。「せぶる」の略。

ブル（bour）　資本家階級。有產階級のこと。資本を獨占し、勞働者を傭ひ入れ、事業をして富を蓄積し、經濟的に優越なる地位を占め居る者。佛語のブルヂョア（bourgeois）の略。一般に云ふ。

ぶる　蒟蒻を云ふ。

ふるが　風雨を云ふ。

ふるくぎ（古釘）　干雑魚を云ふ。

ブルコンイヲンタ　憲兵が來たこと。（朝鮮博徒用語）

ぶるつ　頭部を云ふ。

フルホツタ（黃色）　不成功を豫想せる意【朝鮮人語】

ぶるりむ　酒。【朝鮮人語】

ぶるろッた　多額の金錢を所持していると見込つけた人物。【朝鮮人語】

ふろ（風呂）　刑務所。留置場を云ふ。

プロ（Pro）　娼妓。醜業婦。英語の Prostitute の略。

プロ（Pro）　賃銀勞働者。或は勞働者階級をいふ。佛語のプロレタリヤ Proletariat の略。

ぷろ　鍋を云ふ。

ふろかまり　暴風雨を云ふ。

ふろにはいる（風呂入）　强姦。【關東】

ブロムタクチ（瘋痴）　紙幣。下等社會に於いては一般紙幣を痴と稱す。【朝鮮】

ふろや（風呂屋）　寒氣を云ふ。

ふわ（附和）　支那から來た一八（チーハー）賭博の題目記載紙にて「附和紙」、「筋紙」ともいふ。題目記載三十六の原顋の一例を參照に揭ぐれば、

◎古魁（チンカイ）＝百足。◎良玉（ゴンギョク）＝蝶。◎板桂（バンゲ）＝盜人。◎明珠（メイシ）＝酒。◎榮生（エセイ）＝白鷺。◎蓬春（ホウシン）＝紙幣。◎合同（ゴウドウ）＝鳩。◎三槐（サンパイ）＝猿。◎月寶（ゲツポウ）＝月。◎合海（ゴウカイ）＝蛤。◎上招（ジョウショウ）＝遊女。◎志高（シイコウ）＝蚯蚓。◎正順（セイジュン）＝虱。◎九官（キウクワン）＝鴉。◎坤山（コンサン）＝虎。◎大平（タイヘイ）＝龍。◎漢雲（カンウン）＝牛。◎火官（ヒイカン）＝龜。◎江桐（コウドウ）＝船。◎安士（アンシ）＝狐。◎天申（テンシン）＝雷。◎吉品（キッピン）＝陰門。◎青雲（セイウン）＝鶴。◎元吉（モトキチ）＝藝妓。◎日山（ヒザン）＝鳥。◎福孫（フクソン）＝犬。◎天良（テンリヨウ）＝鰻。◎光明（コウメイ）＝馬。◎井利（イイリ）＝糞。◎有利（アーリ）＝象。◎元貴（ゲンキ）＝陰莖。◎萬金（マンキン）＝錢。◎只得（チッタ）＝猫。◎心得（ピッタ）＝鼠。◎青元（セイゲン）＝蜘蛛。◎茂林（モリン）＝虫類。

以上の原顋の中のものにて直ちに隱語として用いられてゐるもの多し。

フワ　着物。或は風の事を云ふ。

ふわがみ（附和紙）　一八賭博の題目記載紙。「ふわ」と同じ。「ふわ」參照。

フワつく　風を云ふ。

フワフワ　風を云ふ。

フワもの　絹着物を云ふ。

フワもの　種々誇大な說明をして藥品類似のものを賣捌く香具師の一種の者。

ふん　返事。（尾張の方言）

ぶん（聞）　新聞紙。或は新聞社。「新聞」の略。

ぶん（文）　土藏。「ぶんこ」の略。

ふんがえさる（踏返）　警官に捕縛せられ

る事を云ふ。

ぶんかけ 警部以上の警官を云ふ。

ぶんけ〔分家〕 警察署或は刑務所【關西】

ぶんこ〔分子〕 博徒、無頼漢、香具師仲間の子分、其他下廻役等を云ふ。「子分」の轉換。

ぶんこ〔文庫〕 土藏。或は娘を云ふ。

ぶんこのあね〔文庫姉〕 比較的大きな土藏。或は比較的豐富に在庫品のあると思はれる土藏を云ふ。

ぶんこやぶり〔文庫破〕 土藏破り。

ぶんし〔聞紙〕 新聞紙を云ふ。

ぶんしん〔聞新〕 常は新聞賣子の風を裝ひ緣日荒し、又は空巣ねらひ等をなす浮浪兒。（東京淺草浮浪兒間）

ぶんすけ〔文助〕 詐欺賭博の共犯者。

ふんだくり〔踏奪〕 途上にて人を待ち受け携帶してゐる金品を强奪するもの。

ぶんちよー 賭博を云ふ。「追ひ剝ぎ」ともいふ。

ふんどし〔褌〕 贓物牙保者を云ふ。

ふんどしのひも〔褌紐〕 ずいきを云ふ。

ふんどば〔糞土場〕 厠を云ふ。

ぶんなかかツちり ◉ 監督の嚴密なる監視人を云ふ。

ふんばり〔踏張〕 辻淫賣婦。【關東】

ふんばり〔踏張〕 米つきのこと。【岐阜】

ふんべつ〔分別〕 鰹節。（僧侶の用語）

ぶんや 月經。（尾張の方言）

ぶんらく〔文樂〕 藝人間にて女優に鼻下長の客のことを云ふ。

へ の 部

へいぐも〔塀蜘蛛〕 ひそかに巡回することを云ふ。

へいくろー〔平九郎〕 窃盜常習者が窃盜を中止してゐることを云ふ。

へいざぶらう〔平三郎〕 踵をいふ。（安房地方の方言）

へいし 旅館内に他人を誘致して詐欺的賭博をする者を云ふ。

べいせん 煎餅。煎餅の轉換。

へいたいごツこ〔兵隊遊戲〕 丁半賭博。步調の掛聲「お一、二」より思ひつきしもの。

ぺいとば 刑事其他私服巡査を云ふ。

へいらおほ〔黑老虎〕 窃盜常習者【支那】

へうたんやまつじうらうり〔瓢簞山 辻占賣〕 夜警巡査を云ふ。

べえちやん 刑事を云ふ。

へが 糞を云ふ。

べか 壁。或は壁を切破つて窃盜に入ること。壁の逆語。

ぺが 制服巡査。【關東】

べが 掏摸。【關西】

べかをつけた 叱られる。低頭する。或は壁を切破ることを云ふ。

べかこ 破獄脱監を云ふ。

べかす 窃取を云ふ。

べかつけ 壁を切破つて忍込む窃盜。或は謝罪のことを云ふ。

べかつける 降參すること。或は壁を切破つて忍込む窃盜を云ふ。

べかなせる 壁破りの窃盜を云ふ。

べかば 厠を云ふ。

べかはい 貸借りしてゐる家。借家。

べかばらしてかまる〔壁破入〕 壁を切破つて忍込む窃盜を云ふ。

へがばらす 大便をすること。

べかふだ 詐欺賭博に用ゆる仕掛のある僞カルタ札を云ふ。

へぐる〔剝〕 男女交合を云ふ。

へけ 婦女子。【關西】

ぺけ 雨天。或は娼妓、賣春婦。又は外

國人をいふ。

へこ 提燈。(日向地方の方言)

べこ 神戸。同語の逆語を略したるもの。【關西】

べこつく 男女交合。或は腰を掛ける。

べこながす 神戸を荒し廻ること【關西】

へこなす 輕薄のこと。(尾張の方言)

べし 壯年者を云ふ。

ぺしつく 男女交接。【關東】

べしやる〔喋〕 饒舌をすること。

べすけ 制服巡査を云ふ。

べせん かき餠。煎餠を轉換したもの(香具師)

べそ 洋服に附着の釦を云ふ。

へそつく〔臍附〕 飯を食ふことを云ふ。

へた 頭髮を云ふ。

べた 男女衣服一般を云ふ。

べた 女を犯すことを云ふ。

べたちん 木賃宿などに宿ること。

べたつけ 富豪に忍込まんとして門戸、或は側壁などを切破ることを云ふ。

へたり 縁日商人の中にて口上を述べずして商賣をする者を云ふ。

へたり 生業者又は白痴の風を裝ひ、工場閉鎖のため、手當として商品を貰つたなどと口實を設けて仲間のサクラと話しをなし衆集の購買心をそゝつて萬年筆等のものを賣るテキヤ。「つまみ」ともいふ。

べたりゆき 毆打を云ふ。

べつこ〔鼈甲〕 燒豆腐。或は靴のこと。

べつそー 刑務所を云ふ。

べつたう〔別當〕 父をいふ。(佐賀方面の方言)

ペツてん 頭。「てつぺん」の轉換。

べツと 鼻を云ふ。

べつぴん〔別嬪〕 娼妓。或は土藏。

べて 神戸。(香具師)

ぺてん 頭。或は帽子。(香具師)

ぺてん 詐欺的行爲。謀の事を云ふ。

ぺてんし〔頭師〕 詐欺的行爲をなす者。香具師の類もいふ。

ぺてしにかけろ〔頭懸〕 詐欺的行爲によつて人の財物を詐取することを云ふ。

ぺてんばさ 謝罪を云ふ。

へとう 茄子。【山陰】

べにをつけろ〔紅附〕 放火を云ふ。

べにおびかわ〔紅帶皮〕 警部以上の警官

へねる 輕薄的な言語、動作を云ふ。

べの 大阪市内の阿部野のこと。【大阪】

ペーパー〔Paper〕 紙幣を云ふ。

ペーパーさくし〔Paper 作師〕「ペーパーし」と同じ。

ペーパーし〔Paper 師〕 贋造紙幣造幣犯又は行使犯人。或は贋造紙幣を巧妙に作り得ると詐稱し強慾者を瞞着して財物を詐取する詐欺犯人を云ふ。

へばる へたばる。【關東】

べはん 掏摸。或は窃盜等の犯罪實行中被害者が發知せしことをいふ。

へび〔蛇〕 訊問所。執念深いこと。或は帶のこと。細くて長い故。

へへ 女子の陰部を云ふ。

べべ 「へへ」と同じ。(奥羽、越後、尾張方面の方言)

へま 合鍵。或は強盜のことを云ふ。

べむどん 一般巡査。【朝鮮人語】

パヤムヂヤンヲヲンタ〔憲來ル〕 憲兵の補助員が來ること。【朝鮮人語】

べゆー 昨夜。晩。「ゆうべ」の轉換。

へよたん 八の意。【關西】

べら〔片〕 着物。或は簞笥長持。又は蒲團等のことを云ふ。

べら〔片〕 殺傷・使用する刀劍。或は刄物類を云ふ。

べらくら　木綿着物を云ふ。
ペラごろ〔opera 轉〕「ヘラとー」に同じ【大阪】
ヘラとー〔opera 黨〕　歌劇女優の尻ばかり追ひ廻はす不良男子。【大阪】「ペラごろ」ともいふ。
ぺらやす　牛肉を云ふ。
べりし　家屋の側壁を破つて忍入る竊盜犯人を云ふ。
べるちや〔別子〕　刑事。私服巡查。【朝鮮】
へろ　鍍金。（香具師）
べろ　市場の人寄をいふ。【朝鮮人語】
べんか　神社佛閣等を云ふ。
ぺんき　厕を云ふ。
べんくら　詐欺賭博に使用する賽采のことを云ふ。
べんけい〔辨慶〕　强姦。【關東】
べんけい〔辨慶〕　千切大根。或は壘。炭。又は簞笥等のことを云ふ。
べんけいや〔辨慶屋〕　書畫骨董品を賣買する古物屋。昔より辨慶の七ッ道具といつて道具を澤山持ち居りしと言傳へばそれより起りしか。
べんご　差出口。（淡路の方言）
べんし　新任の巡查。或は看守を云ふ。

へんじなし〔返事無〕　强姦を云ふ。
べんしやるもの　諜者。（香具師）
へんず　蠟燭を云ふ。
べんた　詐欺賭博犯人を云ふ。
べんだらし　開門。【朝鮮人語】
べんてん〔辨天〕　火災を云ふ。
ぺんてん　頭を云ふ。
べんどぢ　茄子を云ふ。
べんはれらー　閉門。【朝鮮人語】
へんぶり　威嚇すること。【關西】
へんぼり　威嚇すること。【關西】
ぺんら〔邊了〕　毆打。【支那人語】
べんり　贓物牙保を云ふ。

ほの部

ほー　强姦を云ふ。
ぼ〔暴〕　暴風雨を云ふ。
ぼ　銃砲。【朝鮮人語】
ほあちゆあぬで〔化闒的〕　壁を切破つて竊入る竊盜犯人。【支那人語】
ほあつ〔華粒〕　支那の銀貨。【支那】
ほあんぽあん〔歡々〕　日本紙幣。【支那】
ぼいし　農夫。田舍を云ふ。
ぼいす　警察官を云ふ。

ほいたろ〔陪堂〕　乞食のこと。「ほいと」ともいふ。「ほいたう」は陪堂の宋音。もと禪宗 て僧堂の外堂に陪して食を受けし食客僧を稱してより起る。（中國四國、奧羽、北陸地方の方言）
ほいたをすぼらす　屋内に竊入るに音のせぬ樣に薄緣、莚の類を用ゐること。
ぽいむ〔虎〕　私服密行巡查。【朝鮮人語】
ぽいろ　詐欺賭博者。【朝鮮人語】
ぼうがね〔棒金〕　氷柱をいふ。（下野國の方言）
ぼうかん　監房。同語の轉換。
ほうき〔箒〕　筆。或は片端からあらゆる女と關係する男の事。浮氣者。（花柳）
ほうけい　そうですかの音訛。（兵庫縣加古郡地方の方言）
ほうけん　ねんねこのこと。（兵庫縣但馬の方言）
ほうこ〔奉公〕　入監することを云ふ。
ぼうず〔坊主〕　マッチ。頭の樂りから或は雷。又反對に晴天をいふ。
ぼうず〔坊主〕　刑事。或は刀劍のこと。
ぼうすけ〔棒助〕　制服巡查。或は馬鹿のことを云ふ。
ぼうずり〔棒摺〕　下肢を云ふ。

ぼうすん 紙幣を云ふ。
ぼうだち〔棒立〕 辻淫賣婦を云ふ。
ぼうどー 陰莖。或は船舶の竊盜のこと
ほうばい〔朋輩〕 共犯者。或は博徒の仲間を云ふ。
ぼうふり〔棒振〕 制服巡査。或は下肢のことを云ふ。
ぼうやん 犯罪密告者。諜者。或は猿のことを云ふ。
ほうろぎ なじみの男。情夫を云ふ。
ぼうろく 山番、又は野守の小屋。或は規模小さな納屋。掘建小屋の類。【京阪神地方】
ほうろくもん 「ぼうろく」類の小屋の主或は乞食の頭。【宮城縣】
ほをおろす〔帆卸〕 非常警戒線を云ふ。
ほをか 本帳簿。（香具師）
ほをふんたんちゅ〔無食可食〕 囚人の減食處分。【臺灣人語】
ほをもってかぶせろ〔帆持被〕 絞殺人。
ぼか 骨牌賭博を云ふ。
ほかけ〔帆掛〕 逃亡。行衛不明。「尻に帆をかけて」より。
ほかけふね〔帆掛船〕 嘩を云ふ。
ほかす 打つちやる。捨てること。放下すの意。（關西の方言）
ほがる 蒸し暑い日を云ふ。
ぼく 不正行爲を云ふ。
ぼく〔木〕 薩摩芋。京阪地方では果實類一般のことをいふ。
ぼくをわる〔木割〕 犯罪事實を自白することを云ふ。
ぼくしょうもの〔木性者〕 溫厚な人物。或は意氣地ない人物をいふ。
ぼくせん〔木錢〕 木賃宿。下等の旅人宿。
ぼくちん〔木賃〕 木賃宿。「もくちん」ともいふ。（香具師）
ぼくちんホテル〔木賃 Hotel〕 木賃宿。（香具師）
ぼくつき 眠りをさます。【岩手縣】
ぼくてすり 土方で竊盜を常習とする者【朝鮮人語】
ぼくぴょん〔玉篇〕 骨牌賭博。【朝鮮】
ぼくり 假睡を云ふ。
ぼくわり〔木割〕 犯罪事實の陳述。
ぼけ〔呆氣〕 身分氏名職業等の僞稱。或は事實の否認。虚言等を云ふ。
ポケツ〔Pocket〕 袂探りを專門とする掏摸。【關東】
ほし〔星〕 燈臺。【鹿兒島縣】 或は夜半。又は被告人。犯罪容疑者。
ほし〔星〕 警官。（關西不良團）
ぼーし 帶を云ふ。
ほしえび〔干鰕〕 門番。或は受附。
ほしをつける〔星付〕 目星をつけることそれより目星をつけた人家の樣子、戸締りの樣子を調べること。「あてこみ」に同じ。
ほしがり〔干狩〕 干物を竊取すること。
ほしとり〔星取〕 警部。上司者のこと。
ほしば〔干場〕 質屋。或は入質すること【關西】
ぼす 宿屋荒し「かんたんし」參照。
ポスト〔Post〕 制服立番巡査。立つてゐるところから。
ほせ 笄をいふ。（三河、遠江地方の方言）或は柴のことをいふ（越前地方の方言）
ほそ〔細〕 捕繩。糸類。或は米飯のこと
ほそをり 閨（夜分に寢る部屋、即ち夜殿のこと）のことをいふ。（遠江地方の方言）
ほそくくり〔細縛〕 强盜が被害者の家人を紐、針金等にて縛ることを云ふ。
ほそくちをしめる〔細口締〕 辨當を食すことを云ふ。

ほそたたき〔細叩〕「ほそくくり」と同じ

ほそのタラップ〔細「Trap」〕盗賊が使用する縄梯子のことを云ふ。

ほそびらめ　のしあはびをいふ。

ほそもの〔細物〕婦人の下帯を云ふ。

ほそらん〔細覧〕絹物衣服を云ふ。

ほそわ〔細輪〕路次。或は人家に沿ひたる小路のことを云ふ。

ぼた　袂探りの掏摸を云ふ。

ぼたかい　「ぼたはたき」に同じ。「ぼたはき」ともいふ。

ぼたはたき　袂を矢（掏摸用語にて刄物のこと）にて切り、袂のものを掏りとることをいふ。（掏摸用語）

ぼたもち〔牡丹餅〕柔らかい飯。或は瘤のことを云ふ。

ほたる〔螢〕密淫賣婦。或は火。火縄。又は火縄を使つて施錠の箇所を焼切ることを云ふ。

ほたるや〔螢屋〕曖昧料理店。密かに酌婦等をして淫を鬻め、或は密淫賣の媒合をなす疑ひある料理屋をいふ。

ぼたん　肴。「たつぼ」の音轉音訛。

ぼたん　袂探りの掏摸のことを云ふ。

ぼたん〔牡丹〕博徒の親分株。或は綿入着物。又は警察官のことを云ふ。

ぼたん〔牡丹〕副食物。（香具師）

ぼたんかまり〔牡丹入〕綿入衣服。略して「ぼたん」ともいふ。

ぼたんびら〔牡丹片〕綿入衣服。「ぼたんかまり」又は略して「ぼたん」ともいふ。

ぼち　陰莖。【關西】

ぼち　幕。それより罪を隱すことをいふ又掏摸が犯行の露顯を恐れて手先を「ハンカチ」其他の物で蔽ふことをいふ

ぼち　金銀側懷中時計を云ふ。

ぼちをきる　蟇口、或は懷中時計の環を取り外して竊取すること。或は手先きを布で蔽ふて物品を竊取することをいふ。

ぼちかけ　掏摸が犯行の露顯を恐れて「ハンカチ」又は袖なゝで其手先を蔽ふこと。「ぼち」「ぼちをきる」「まくをきる」ともいふ。

ぼちや　低能兒。無智。無能な者。

ほちよく〔胡笛〕警官。警笛の意より。【朝鮮人語】

ぼつ　客のこと。（香具師）

ぼーつ〔合子〕拳銃。【支那人語】

ぼつ　鷄姦。「ぼんた」ともいふ。

ぼツかい　曉を云ふ。

ぼツかぶせ〔覆被〕待合室等で他人か一時置いた手提鞄などに羽織、マント、其他の布をもつて蔽ひをして竊取すること。「おきひき」同じ。

ぼつくり　竊盜。（掏摸）或は覆面の強盜のことを云ふ。

ぼつくり〔不意〕刑事。「ボツクリ（不意）」に出會ふの意からか。

ほツけぼうず〔法華坊主〕握飯を云ふ。

ぼツけろ　周圍に警戒せよの意。

ぼツこみ〔放込〕錠を云ふ。

ぼツしやり　賭博の開張。或は建物を壞すことを云ふ。

ぼツしやり〔呆砂利〕困窮した生活狀態

ぼツそり　巡視中の巡査。ゆつくり〱巡回することより。「ゆつくり」することをぼつそりと云ふより。

ぼツたくり　巡査。或は掠奪のこと。

ぼツちり　假出獄者が警察にて證印を受けることを云ふ。

ぼツちりやぶり　假出獄者の違犯行爲をいふ。

ぼツつ　鷄姦を云ふ。

ぼッついた　逃亡。或は悪事が露顯したことを云ふ。

ぽつぽー　筒袖の衣類を云ふ。

ほつらいき　空家。【朝鮮人語】

ぼつらく〔沒落〕　方外なものをいふ。（薩摩の方言）

ほて　腹部をいふ（中國、四國の方言）

ほて　手桶類を云ふ。

ぼて　看守長を云ふ。

ほてい〔布袋〕　鞄類を云ふ。

ほとけ〔佛〕　身體。或は睡眠中の人物。死んだも同樣なるから又は詐欺賭博の被害者のことを云ふ。

ほとけさま〔佛樣〕　睡眠中の人物。或は裸體のことを云ふ。

ほところちやん　懐中時計。（香具師）

ほとめく　好遇すること。（上總、筑後邊の方言）

ぼないら　殺人行爲をいふ。【朝鮮人語】

ぼにう　教誨師。（囚人）

ほぬていめ〔渾夫〕　深夜忍込む窃盗のこと。【支那人語】

ほぬんだ　强盗殺人。【朝鮮人語】

ほね〔骨〕　歯牙を云ふ。

ほねし〔骨師〕　大道入歯師を云ふ。

ほねぬき〔骨拔〕　錢湯にて他人の入浴中脱衣箱或は籠より金品だけを窃取するものを云ふ。

ぽねんぐ〔送致〕　殺人。【朝鮮人語】

ほのじ〔惚の字〕　惚れること。戀慕することを云ふ。

ほはい　贓物牙保者。【九州】　或は窃盗のことを云ふ。

ほはえる　窃盗に忍込んで現場にて屋内の飲食物を取りだし飲食をすること。

ぼはくい　銀貨。【朝鮮人語】

ほばくくそ　破獄。【朝鮮人語】

ほはる　善くないこと。（大阪の方言）

ぼひ　細い物類。（香具師）

ほぼ〔捕亡〕　巡査を云ふ。

ぼぼ　女子の陰部のこと。

ぼぼつこ　小兒をいふ。（越後邊の方言）

ぼむくり〔虎穴〕　憲兵隊。（朝鮮咸鏡南道地方）

ほや〔火管〕　筆を云ふ。

ぼや　掏摸。或は小火事のことを云ふ。

ほやき　口。食物。飲食を云ふ。

ぼやき　不平をいふこと。（關西の方言）

ほやきあまい　白狀することを云ふ。

ほやきいれ　口。「ほやき」ともいふ。

ほやきし　飲食物、主に米、酒を目的とする窃盗のこと。或は辯護士のこともいふ。

ほやきだい　食卓を云ふ。

ほやきはし　辯護士を云ふ。

ほやく　飲食をする。或は窃盗。又は茶のことを云ふ。

ほやす　酒を飲むことを云ふ。

ほーら〔合了〕　共謀。團結。【支那人語】

ぼら〔鯔〕　看守長を云ふ。

ぼら　逃亡。行衞不明を云ふ。

ぼらんいとん〔虎の糞〕　憲兵。巡査。或は巡査補助者。【朝鮮人語】

ほり　空腹を感ずることを云ふ。

ぽり　逃亡。行衞不明を云ふ。

ポリ　巡査。英語の「ポリス」巡査の略「ポリポリ」ともいふ。

ほりだしもの〔堀出物〕　贓物。不正品。（故買者）。「ぼりだしもの」とも云ふ。

ほりびき〔堀引〕　萬引を云ふ。

ぼりぼく　果實類の窃盗。（山窩）

ぼりや〔暴利屋〕　不當なる利益を取る商人を云ふ。

ほーりゆーつ〔胡芦子〕　錠。【支那人語】

ほゐたい　巡査。【朝鮮人語】

ぼるどき〔野兎〕 刑事巡査。〔朝鮮〕

ぼれ〔木〕 老爺。或は零落を云ふ。

ほれたこ〔惚兒〕 私生兒。惚れて出來た兒の意か。

ぼろい あばら屋。貧家。或は意外の收穫を云ふ。

ほろおい〔幌追〕 列車內にてつけた〔目星をつけること〕客に尾行し、下車の雜沓に紛れて金品、手荷物等を窃取する掏摸のことを云ふ。

ほろけ〔落〕 賭博に失敗すること【中國】

ほわいと 白木屋に巣組む不良團【關西】

ホワイト〔White〕 賣春婦。「白首」或はホワイト・スレーブといふより〔學生〕

ホワイト・ネツク〔White Neek〕 賣春婦。〔學生〕

ぼん〔盆〕 賭博の開張現場。「盆茣蓙」からか。

ぼんいち 視眼鏡。〔香具師〕

ぼんいわツた 相手が金錢を所持し居る見込のあることをいふ。〔朝鮮博徒〕

ぼんおどり〔盆踊〕 强盜。盆踊りは七月に有るので、「七月」「月七」「一六」ともいふ。

ほんかい〔眞買〕 多額の金錢を所持しゐるらしい人物を云ふ。

ほんがまり〔本入〕 住宅を云ふ。

ぼんぐれ〔眞通〕 强窃盜の前科ある者。

ほんけ〔本家〕 多額の金錢を所持し居る者。或は警察署。刑務所。刑務所のことを「分家」ともいふ。

ほんけせられた 振られたこと。〔京都の方言〕

ぼんござ〔盆茣蓙〕 丁半賭博に壺笊を伏せる座布團のやうなものを云ふ。

ぼんこち〔盆東風〕 陰曆の六月中旬頃に吹く東風。〔伊勢國の方言〕

ぼんしや 石鹼。〔香具師〕

ぼんしん 田舍の紳士を云ふ。

ほんてら 闇夜を云ふ。

ほんてん〔封灯〕 電燈。【臺灣】

ほんと 窃盜常習者を云ふ。

ぼんなか〔盆中〕 仲裁をすること。或は目先を利かすことを云ふ。

ほんば〔橫把〕 强盜。【支那人語】

ほんひき 詐欺賭博を云ふ。

ぼんひき 婦女誘拐犯人を云ふ。

ポンプ〔Pump〕 同性愛。鷄姦。【關東】

ほんま 本眞の意。〔大阪方面の方言〕

ほんま〔本間〕 母家。住宅。【關西】

ほんむし〔本六四〕 刑務所。「むし」參照

ほんやま〔本山〕 鷄姦を云ふ。

ま の 部

まあはい 最早や……。〔尾張の方言〕

まあめ 眉毛。〔尾張の方言〕

まい 婦女子の懷中物を云ふ。

まいあげ〔舞揚〕 地中に隱匿しおきたる贓品を堀出して他に持去ること。

まいき 警部。【朝鮮人語】

まいちん 婦女子を云ふ。

まいとばじ〔舞飛〕 通行人と行違ひに金錢、物品等を窃取する掏摸。「ちがい」とも云ふ。

まいばる〔鷹ノ足〕 窃盜のこと。〔朝鮮靈光郡地方〕

まいばん〔每晚〕 雨降りの日を云ふ。

まいむいぶツなんた 警察官が來たから注意をせよとの意。〔朝鮮北道畿道方面〕

まゐり〔參〕 婦人誘拐を云ふ。

まいんぢやん 果物類。【朝鮮人語】

まう〔舞〕 掏摸をする。或は放火犯人。又は逃亡を云ふ。

まうじや（盲者）　魚。命絶へた魚のこと（僧侶）

まえ（前）　内戸を外して忍入る窃盜。

まえかけをんな（前掛女）　堅固な戸締。

まえだれ（前垂）　土藏の扉を云ふ。

まえば（前歯）　玄關。店頭。入口。

まえばをかぐ（前場嗅）　婦人の帶の間にある物品を窃取することをいふ。

まえまくり（前捲）　土藏の表の戸、壁などを切破つて忍入ることをいふ。土藏の背後から忍入るのを「尻まぐり」と云ふ。

マヲタイワ（茅臺子）　賓局と稱せる賭博の開張。【支那人語】

まをつ（猫子）　歐洲人。（支那人語）

まか　鎌。釜。同語の轉讀、それより鍋のことも云ふ。或は「月夜に釜を拔く」より月夜のことも云ふ。

まがり（曲）　鎌を云ふ。

まき（卷）　兵兒帶を云ふ。

まきあげる（卷上）　取り上げる。强奪することを云ふ。

まきがみ（卷紙）　鰹節を云ふ。

まきしやく（卷尺）　卷餡のこと。「尺八」ともいふ。【關西】

まきどる（卷取（弗））　胴卷の金品を窃取すること。「取る」と「弗」とを通はせしもの。

まきにあわす（卷遭）　强盜が被害者を縛ることを云ふ。

まきむしば　蛇。（香具師）

まきもの（卷物）　呉服類。或は卷餡のことを云ふ。

まきもや　卷煙草。「まき」は卷煙草の「卷」を表はし「もや」は煙の上る形容詞

まきらん　襟卷を云ふ。

まく　誘ひ出して放棄する。【關西】

まく（幕）　夕方。或は垣、板塀等。

まぐ　手に物品を携へてゐることを云ふ或は男女交合のことを云ふ。

まくいればーぱんとんた　强盜强姦。【朝鮮人語】

まくい　味ないことを云ふ。

まくをきる（幕切）　車をやり始めたこと掏摸が汽車内で新聞紙又は袖などをひろげて、相手の目を遮り、その下で手を働かすことを云ふ。「幕を張る」「ちぼ」又は「ぼち」ともいふ。

まくをこえる（幕越）　住家に忍入る際垣根、板塀等を乘り越へることを云ふ。

まくかせぎ（幕稼）　干物等を窃取することを云ふ。

まくこ（幕子）　婦人が共犯者に嬰兒を背負はし女中風をさせ、供の如く裝ひ商店に入り來り品物を買ふ如く店員と話し中、女中風の共犯者に品物を窃取さし、無理に嬰兒を泣かせ、泣くにかこつけて窃盜品を先に持ち逃げさす萬引のことを云ふ。

まくのうち（幕內）　睡眠中。或は辨當のことを云ふ。

まくら　夕方を云ふ。

まくら（枕）　詐欺賭博師が故意に負けること。或は宿屋荒しのこと「かんたんし」と同じ。

まくらぎ（枕木）　澤庵漬を云ふ。

まくらさがし（枕探）　「かんたんし」に同じ略して「まくら」とも云ふ。

まくらばこ（枕箱）　銀行。又は銀行類似の金錢を取扱する會社のことを云ふ。

まくらびき（枕引）　「かんたんし」に同じ

まくり　滿潮の時を云ふ。

まくり（捲）　「いたのまかせぎ」に同じ。

まくるおい　「はちおい」に同じ。「まくる」は「車」の音轉。

まぐれ　夕方「夕間暮」の略。或は夕方の忙がしき時に隙を窺つて忍入る窃盜。
まぐれいぬ〔紛犬〕　田舍者。或は土地不案内の者を云ふ。
まくわ〔眞桑〕　俵入穀物。「まくわうり」の形に似てゐるから
まげる〔曲〕　入質することを云ふ。
まけんし　盜賊に忍入つて金錢の所在を發見したる時を云ふ。
まごびり〔馬子尻〕　賣春婦を云ふ。
まごぶい　賣春婦を云ふ。
まごべゑ〔孫兵衞〕　餅を云ふ。
まごべえば〔孫兵衞場〕　警察署を云ふ。
まごべえちらし〔孫兵衞散〕　餅撒き。
まごへり　餅。〔香具師〕
まとま　小間物店、物品。〔香具師〕
まこや　小間物店。雜貨店を云ふ。
まざ　典獄を云ふ。
まし　縞。同語の音轉
ますぎ　擂粉木(すりこぎ)を云ふ〔津輕地方の方言〕
ますちや　金庫破り。【朝鮮人語】
ませる　白晝を云ふ。
ませびり　賣春婦。【關東】
また〔股〕　猿股。猿を「えて公」と云ふより、「えてまた」とも云ふ。
またぐ〔跨〕　逃走を云ふ。
まち〔待〕　宵の中に住家に忍入り家人の熟睡を待つて犯行する窃盜を云ふ。
まちをきる〔待切〕　窃盜犯人を他人に知らすことを云ふ。
まちたま　懷中時計を云ふ。
まちながし〔町流〕　掏摸犯が繁華な場所を徘徊し物色することを云ふ。
まちば〔待場〕　非常警戒線を云ふ。
まちばにかゝる〔待場懸〕　非常警戒に遭つて逮捕されることを云ふ。
まつ　掏取つた金品を現場で共犯者に交付し犯行を晦ます事を云ふ。
まつ〔松〕　木綿衣類。或は木綿反物。
まついた〔松板〕　濁酒。「いた」は酒のこと。
まつきりぼうず〔松桐坊主〕　花札使用の一種を云ふ。
まツけいつた　强窃盜犯人が使用する合鍵のこと。【朝鮮人語】
まつざい〔松材〕　木綿衣服を云ふ。
まつさん　掏摸常習者。或は捕縛引致されること。「まつちやん」ともいふ。
まツたまツた〔待々〕　密淫賣婦が同類者の見張りをする男を誤つて呼び止めた時に、同類者なることを告げる詞【京阪神地方】
まツちをきる〔燐寸切〕　他人の不正行爲を警官に密告することを云ふ。
マツチばこ〔燐寸函〕　交番所。或は列車
まツちやん　「まつさん」に同じ。
まつのかわ〔松皮〕　牛肉。馬肉を云ふ。
まつば〔松葉〕　二人連れの犯罪者。一人が見張りし一人が忍込む。或は强奪。又は窃盜に忍入る際門戸の錠前を外すために使用する針。或は裁縫針。非常線のことを云ふ。
まつばかかる　非常線に遭遇し引致されることを云ふ。
まつはま　濱松地方を云ふ。
まつばもの〔松葉者〕　夫婦共同の窃盜。或は共同犯罪者のことを云ふ。
まつべゑ〔松兵衞〕　瓜を云ふ。
まつぽ〔眞壺〕　本當の意。
まつまえ〔松前〕　昆布を云ふ。
まてんのしや　大阪市内に天滿と云ふ所ありその天滿にて團結したる不良團を稱して云ふ。「まてん」は天滿の音轉。【大阪】
まど〔窓〕　眼或は月夜を云ふ。

まどがあいてる〔窓開〕 月影が明るい。

まどをあける〔窓開〕 土藏の側壁を切破つて忍込む土藏破りを云ふ。

まどがみきる〔窓見〕 壁を切破ること。

まとし 年増女。年增の音轉。

まな 金貨。類語「たま」の音轉。

まないた〔俎〕「いたのまかせぎ」に同じ「まないたかせぎ」とも云ふ。

まないたかせぎ〔俎稼〕「いたのまかせぎ」に同じ。

まないたのはい〔俎蠅〕 目的の人物を料理屋等に饗應し、飲食の間に詐欺の目的を達することを云ふ。

まなか〔眞中〕 日中を云ふ。

まなこ〔眼〕 窓。「窓」と云つて眼を逆に云ふ場合有り。

マネー〔Money〕 金錢。英語の金錢、學生間に使はれる。近來は獨逸語のゲルト〔Ge'd〕を隱語的に使ふ者が多くある

まのふり〔眞振〕 眞實らしい振舞ひをして犯罪を晦ことを云ふ。

まは 横濱地方。類語「濱」の音轉。

まは 潤を云ふ。

まはか 袴。同語の轉換。

まはしぎ〔廻木〕 揩粉木のことを云ふ。

まひあげ〔舞揚〕 地中に隱匿せる賊物を掘出して移送することを云ふ。

まひげんし 美人。或は美裝せる婦人。

まひとばし〔舞飛〕 掏摸が通行人と行違ひ一時、其人物が携帶せる金品を窃取することを云ふ。

まひん 乞食の徒。或は癩病患者。

まぶ〔眞、美、眩〕 佳良。或は眞實、又は金側時計。又正確なること等を云ふ。

まぶ ほくち。或は關西では金貨のことをいふ。

まぶい〔眩〕 金滿家。或は晴天。又は良いこと等を云ふ。

まぶと 地方の金滿家を云ふ。

まぶびり 娼妓。【關東】

まぼい 澤山物品があること。「まぶい」の音訛したるもの。

まま 土手のこと。（上總信濃の方言）

ままこ〔繼子〕 住宅より離れてある物置土藏の類を云ふ。

まむし〔蝮〕 捕繩。或は火繩。又は盜賊が施錠の個所を燒取るために使用する懷爐灰、竹の皮を以て作られしもの。

まむし〔蝮〕 陰莖を云ふ。

まむしはわし〔蝮道〕 放火。

まめ〔豆〕 ピストルを云ふ。

まめいり〔豆炒〕 雷鳴。或は强姦。

まめをうつ〔豆打〕 賭け碁。或は賭け將棋をすることを云ふ。

まめだら 十錢。二十錢銀貨を云ふ。

まも 芋を云ふ。

まもの〔眞物〕 現金。現金專門窃盜。

まや 煙草を云ふ。

まや 山。同語の音轉。

まーやーさん〔馬牙散〕 米飯。【支那】

まる〔圓〕 貨幣。或は巡査。【關東】

まる〔丸〕 大阪大丸百貨店專門に巣くう不良團。【大阪】

まるがた〔丸形〕 袖を云ふ。

まるきんむし〔丸金虫〕 銀行。又は銀行類似の會社。又は金融會社等を云ふ。

まるく 人力車。「車」の音轉。

まるさい 贋造の貨幣を云ふ。

まるしき〔圓式〕 貨幣を云ふ。

まるてき〔圓的〕 貨幣を云ふ。

まるばん〔板子房〕 留置場。【朝鮮人語】

まるひかり〔全光〕 眞書を云ふ。

まるまげ〔丸髷〕 門戸に施錠なく忍入りやすい住家を云ふ。

まろまる〔○○〕 秘密なこと。新聞、雜

誌などの伏せ字より。

まるむかで〔丸百足〕 小錢を云ふ。

まわしもの〔廻物〕 賍物品。或は手先のことを云ふ。

まわす〔廻〕 贈與を云ふ。

まわりをうつ〔廻打〕 輪姦を云ふ。

まわりばん〔廻番〕 屋外の窃盗のこと。

まわつた〔廻〕 犯罪事實の露顯。「づきがまわる」の略。

まんかい〔萬買〕 萬引を云ふ。

まんきん 金貨。銀貨。或は商取引。

まんげつ〔滿月〕 看守を云ふ。

まんごく〔萬石〕 裁判官を云ふ。

まんさん 蛇を云ふ。

まんし 外套を云ふ。

まんじゆう〔饅頭〕 懷中時計。或は南京錠。又は女子の陰部。密淫賣婦等。

まんじゆうくい〔饅頭食〕 懷中時計を窃盗する掏摸を云ふ。

まんどー〔萬燈〕 月夜を云ふ。

まんぱち〔萬八〕 虛言。萬のうちに八つしか眞實の事を云ない意。或は深きたくみなることを云ふ(尾張の方言)

まんびき〔萬引〕 客の風を裝つて店頭に來り店員其他の隙を窺つて商品を窃取する掏摸。「萬買」とも云ふ。

まんぴん〔萬品〕 古物、諸道具類を賣買する店のことを云ふ。

まんみつや〔萬三屋〕 嘘つき「萬八」と同じ。

まんやいする 窃盜する。【福島縣】

まんやく 白米と云ふ。

まんら〔慢了〕 業務怠慢。或は集合解散【支那人語】

み の 部

み〔身〕 博徒社會にて親分に屬する一類。或は金錢を云ふ。

みー〔密〕 娼妓。【支那人語】

みあがりさしてみる 窃盜に忍入る目的の住家に金錢物品の所在を確しかめる方法手段を云ふ。

みいれ〔身入〕 財布。紙入の類を云ふ。

みか 漁夫を云ふ。

みがき〔磨〕 白米を云ふ。

みがきじやり〔磨砂利〕 白米を云ふ。

みかさづけ〔三笠附〕 前句附が賭博に化したもの。

みかづき〔三日月〕 巡査。或は窃盜が住家に忍入らんが爲に門戸を破壞すること。又は錐。鼻。擲。等を云ふ。

みかど〔三角〕 植物の蕎麥のことをいふ

みかん 姦通を云ふ。

みぎそで〔右袖〕 共犯者の中で一番年長者、或は老練者を云ふ。

みく 犯行に使用する兇器。或は花札の同種を三枚揃へる役のことを云ふ。

みくりふるちや 賭博開張。【朝鮮人語】

みこばらし 婦女子が帶の間に入れて居る金品を狙ふ掏摸を云ふ。

みさん 姦通を云ふ。

みすじ〔三筋〕 三味線を云ふ。

みずてん〔不見轉〕 三流藝者。未調査。未試驗。冒險的などの意を含む。

みせもの〔見世物〕 萬引。窃盜者。

みそさざい 粗忽な人を嘲る意。

みたてやま〔見立山〕 豆腐粕を云ふ。

みたはつ〔三田發〕 東京市電從業員の間にて馬鹿げたこと、氣狂ひじみたこと。或は狂人等のことに使ふ。それは三田から出る電車は大方巢鴨行きで、巢鴨には有名 腦病院があるため。

みだれ 乞食のこと。(大阪の方言)

みちがわるい〔道惡〕 警戒が嚴重なため

に逃走が出來ないことを云ふ。
みぢやち　吸飲。【朝鮮人語】
みちゆき〔道行〕　駈け落ちを云ふ。
みぢんしやり〔微塵砂利〕　挽割麥。略して「微塵」とも云ふ。
みつ　白痴者を云ふ。
みつ〔密〕　春畫を云ふ。
みづあげ〔水揚〕　處女を姦すること。それより土藏破りのこと。土藏を娘といふ。或は婦女子誘拐。又は米穀を船より荷揚げすること。或は又商店にて賣上高の總扣のこと。それより竊盜品の總扣のこと。
みづうかび〔水浮〕　詐欺的行爲をいふ。
みつかん　六十錢。【關西】
みつき〔三月〕　賭博の勝利を云ふ。
みづせん〔水錢〕　六錢。【關西】
みづぢつぱい　六十圓。【關西】
みづちよぼ〔水樗蒲〕　賭博の一種。明礬にて紙に字を書き、それで賭けをなすことを云ふ。
みづてつぽ〔水鐵砲〕　煙管を云ふ。
みづのはな〔水花〕　鱠のことを云ふ。
みづはかえ　手桶を云ふ。
みづはらい〔水拂〕　雨降りを云ふ。

みづびき　賣春婦を云ふ。
みづびたし〔水浸〕　明礬で書いた文字を水に浸して現はすものを云ふ。
みづりよう〔水雨〕　六圓。【關西】
みなみざ〔南座〕　大根を云ふ。
みの　犯罪の實行に着手すること。
みのさき〔巳先〕　馬のこと。十二支より。
みのふとん〔三布團〕　油揚豆腐。
みま　博徒の親分株を云ふ。
みまいにゆく〔見舞行〕　竊盜の目的で行くことを云ふ。
みみず〔蚯蚓〕　捕繩。又は戒具のこと。
みみね　婦人の下帶の事。（上總の方言）
みみばらし〔耳破〕　住家の壁を切破つて竊盜に忍入ることを云ふ。
みもちむすめ〔姙娠娘〕　俗におそめと稱する錠のことを云ふ。
みや〔宮〕　宇都宮地方を云ふ。
みやく〔脈〕　醫者。或は白米のこと。
みやし〔宮師〕　神社佛閣等の寶物類を竊取する者。「寺師」とも云ふ。
みやじま〔宮島〕　神官。神職等にある人を云ふ。嚴島神社より。
みよー〔妙〕　德川時代、寺の隱し妻に廣く用ゐられたり。

みようけん　猫を云ふ。
みよしー〔苗細〕　頭髮のこと。【支那】
みよーじん〔明神〕　星。宵の明神から
みよーひん　猫を云ふ。
みれら　出發の合圖。【朝鮮人語】
みるいちや　逃亡。【朝鮮人語】
みるぴよん〔蜜餠〕　金錢をいふ。【朝鮮】
みるよつた　有る。或は來る。【朝鮮】
みんさい〔眠催〕　催眠術の書物を賣る香具師を云ふ。
みんじやく　盜賊が持つてゐる繩類。
みんぞう　掏摸を云ふ。

む の部

むあーみ　言葉。（朝鮮博徒間用語）
むいさく　寒さを云ふ。
むかいあい〔向合〕　粥汁を云ふ。
むかえる〔迎〕　物を買求めることを云ふ【關西】
むかされ　嫁入りをいふ。（秋田方面の方言）
むかで〔百足〕　汽車。或は家尻切。土藏破りなどに使用する鋸を云ふ。
むかでみち〔百足道〕　鐵道線路。電車線路を云ふ。
むかふ〔向〕　蚊帳を云ふ。

むかふ〔迎〕 物を買求めることを云ふ。
むかふづら〔向面〕 鏡を云ふ
むかんさつ〔無鑑札〕 隱居家。離座敷。
むきまんぢゆう〔剝饅頭〕 金側懷中時計
むくち〔無口〕 鑿を云ふ。
むくどり〔椋鳥〕 詐欺的手段の被害者を犯罪者から指稱て云ふ。或は田舍出の者。素人のことも云ふ。
むくどりをひつかける〔椋鳥引懸〕 世事に慣れない者の金品を捲り取ること。「椋鳥」參照。
むぐる 脫獄。逃亡を云ふ。
むくろ 世話人のこと。（兵庫縣但馬、生野地方の方言）
むごい 可愛いゝの意。（上總、西國の方言）
むこいり〔婿入〕 竊盜をなすため住家に忍入るを云ふ。
むさ 寒さの事を云ふ。
むさ 掏摸。「もさ」の轉訛。【東北】
むさい 不出來。（尾張の方言）
むさし〔武藏〕 京都にて穴一のこと。「穴一」參照。
むさぼらし 橫戀慕を云ふ。
むし〔六四〕 刑務所。刑務所では米、麥四六の割にて飯を焚より

むし〔蟲〕 家族のこと。或は錠前。又は火のことを云ふ。
むし〔虫〕 骨牌賭博の一種を云ふ。
むし 拘留中餘罪を取調べすること。「むしかへす」よりか。
むじ 銀側懷中時計を云ふ。
むしあがり〔六四上〕 出獄。放免。
むしかへす〔蒸返〕 失敗せしことを再度繰返し、豫期の結果を收めたるを云ふ。
むしかまる〔六四入〕 入監を云ふ。
むしくり〔虫繰〕 絹着物を云ふ。
むじな〔狢〕 骨牌を四つ使用する賭博。
むしにかまれた〔虫蛟〕 入監。「六四」を「虫」に通はせたもの。
むしにつく〔六四付〕 拘留。收監。
むしのをつけ 刑務所の官吏を云ふ。
むしばにかまる〔六四場入〕 收監。
むしはら〔六四腹〕 看守を云ふ。
むしふける〔六四逃〕 破獄。逃亡。
むしよ 刑務所。「むしよせば」の略にして、刑務所の省略に非ず刑務所のことを「むしよ」といへるはずつと以前から生ぜり「むしよ」を刑務所の省略と誤信する者は、非常な誤りである。

むしよせば〔六四寄場〕 刑務所。
むしる〔挘〕 帶の間の懷中時計を窃取する掏摸を云ふ。
むじるし〔無印〕 收入のないこと。
むす〔六四〕 刑務所。「むし」の轉訛。【東北地方】
むす 秘密を嚴守することを云ふ。
むすこ〔息子〕 新調なる男衣服。或は陰莖のことを云ふ。
むすめ〔娘〕 土藏。「お染久松藏の中」から聯想したるもの。それより金庫。簞笥。資產家のことを云ふ。或は新調なる女衣服のことも云ふ。
むすめ〔娘〕 年若き新入監者。それより鷄姦の相手となるべき美少年を云ふ。（囚人用語）
むすめ〔娘〕 未丁年者。或は針。又は南瓜のこと。又は上野國の方言にて鼠のことをいふ。
むすめあらし〔娘荒〕 土藏破りの常習者
むすめうんだ〔娘產〕 品物のない土藏。
むすめかまで〔娘鎌手〕 刀を持つこと。
むすめくどく〔娘口說〕 土藏破り。
むすめし〔娘師〕 土藏破りを云ふ。

むすめせぶる　土藏破りを云ふ。

むすめはらむ〔娘孕〕　良品を盜んだこと。或は土藏に金品が豐富にあること

むすめわかい　贓品の惡るいこと。

むせんとーへい　汽車の乘客專務車掌。【名古屋地方】

むつかい　銃器。（朝鮮靈光郡地方）

むづかしい〔難〕　犬が啼くこと。竊盜に忍入り難くいためか。

むつまじからず〔不睦〕　使用出來ないことを云ふ。

むね　教師を云ふ。

むねあて〔胸當〕　懷中の金品を竊取する掏摸。或は腹掛のことを云ふ。

むねはらい〔胸拂〕　飮酒すること。

むねばらし〔胸破〕　勞働者が着てる腹掛に物を入れるところをドンブリと云ふそれを切りて財布を竊取する掏摸のことを云ふ。

む潑　刑事。私服巡査を云ふ。

むぼたり　强盜を云ふ。

むら　貰屋。或は「むらさき」の略にて醬油。又は鰯を云ふ。

むらくも〔叢雲〕　竊盜に忍入るため窓口を破壞することを云ふ。

むらさき〔紫〕　醬油。或は鰯のこと。いづれも色彩の近似によるもの。

むろた　警察署を云ふ。

め の 部

め〔目〕　密告者。或は就縛を云ふ。

め　山林盜伐者を云ふ。

めあー　隙を窺ふこと。（尾張の方言）

めあかし〔目明〕　鷺鳥を云ふ。

めいし　銀貨。或は酒。又は贋造紙幣のことを云ふ。

めいしや〔眼醫者〕　東京日本橋區茅場町にある藥師如來。【東京】　それより掏摸の稼ぎ場所にて藥師堂のある所。

めいど〔冥土〕　東京府下にある龜井戸の私娼窟をいふ。（東京不良）

めいらんふあん〔梅蘭芳〕　梅毒のこと。

めうち〔目打〕　雙六で思ふ目を出したことを云ふ。

めをとうす〔目通〕　「あてこみ」と同じ。

めか　通貨を云ふ。

めがつく〔目付〕　賭博などで勝負が決したことを云ふ。

めがつぶれる〔目閉〕　勝負が失敗に歸したことを云ふ。

めきちや　掠奪をしやうと相談すること【朝鮮人語】

めきりかつぱ〔日切河童〕　詐欺賭博の一種を云ふ。

めくら〔盲〕　闇夜を云ふ。

めぐり〔廻〕　月經を云ふ。

めぐり〔廻〕　擂粉木を云ふ。（出雲　越後の方言）

めこ〔女子〕　女子のこと。女子の陰部の別稱の略。

めさし〔芽差〕　春を云ふ。

めじ　姬路。同語の略。【兵庫縣】

めしもり〔飯盛〕　私娼を云ふ。

めしやよー　尼僧を云ふ。

メス〔Mes〕　刄物。ドイツ語のメスアー（Messer）の略。

めそ　鰻の子。（尾張の方言）

めた　白米。或は登山者が用いる固形したる燃料のことを一般に云ふ。

メタル〔Metal〕　五錢白銅貨を云ふ。

めつけんこぶ　屋内に忍入るに門戸其他の施錠を破壞することをいふ。

めツとつけ　掏摸が目的の人物を尾行するをいふ。

めつた 牛。牛肉。或は兵庫縣地方にて數量の五をいふ。

めど 穴のこと。(關東の方言)

めぬき〔目拔〕 强盜。强姦を云ふ。

めのこ〔目子〕 窃盜に使用する鋸の類。

めひ 女子。「姫」の音轉にしてそれより隱語の「姫」に通ず「姫」參照。

めらう〔女郎〕 若き婦人のことを云ふ。

メリケン 目と目の間を握り拳にて突くこと。ボクシング(拳闘)よりか、(不良)

メリケンザツク 喧嘩などの時メリケンをするに金屬性のものを指につけるもの。「メリケン」參照。(不良)

めるれ〔遜骨〕 骨牌賭博のこと。【朝鮮】

めろんい 憲兵。【朝鮮人語】

めん〔面〕 顏。覆面を云ふ。

めんがある〔面有〕 顏を知つてゐる。顏が賣れてゐる。知人である等を云ふ。

めんかい〔面買〕 警察官が犯人の人相を調べることを云ふ。

めんがり 女兒を云ふ。

めんく 人に物を心算りしてやること。【關西】

めんくや〔面厄〕 醜婦を云ふ。

めんぐれ 知人が有ること。顏が賣れてゐること。面識があること。

めんこ 頭部。或は納屋、物置所等の極めて小さな小屋のこと。それより小さき小屋等に格納せる物件を窃取することも云ふ。

めんさばん 朝鮮の人を云ふ。

めんしけ 醜惡なこと。【關西】

めんす 囚人の飲食用器具。或は容貌のことを云ふ。

めんすくや 醜貌なことを云ふ。

めんせんき〔面洗器〕 洗面器のこと。洗面の音轉、一般に云ふ。

めんち 專門に女着物を窃取する窃盜犯人のことを云ふ。

めんちよー 香具師仲間にて病氣其他の者の爲に、大市などの收入を當にして金錢を贈るために廻す寄附帳を云ふ。

めんちり 老婆。「縮緬」の音轉にして皺のよりしよりか。又反對に「縮緬」のことを「ばあちやん」と云ふ。

めんつく 老婆を云ふ。

めんつなぎ 面會のこと。(香具師)

めんば 非人。乞食。浮浪者を云ふ。

めんはくい 美貌なることを云ふ。

めんほー 出獄。「放免」の音轉。

も の 部

もあ 手段方法を講じて豫期の結果を得たことを云ふ。

もう〔舞〕 逃走を云ふ。

もうけし〔儲師〕 盜人を云ふ。

もうける〔儲〕 窃盜によつて得たる品。

もうじや〔亡者〕 貧弱な者を云ふ。

もうねん 通貨を云ふ。

もうりん 巡査を云ふ。

もうろう〔朦朧〕 賭博。或は町を流してゐる不良車夫。同じく町をうろ〳〵と流してゐる自動車のことを云ふ。

もをか 掏摸常習者を云ふ。

もか 掏摸。或は逮捕引致のこと。

もか 賣春婦。(尾張の方言)

もがくれ〔藻隱〕 犯人が潜伏すること。

もく 煙草のこと。煙の形容「モクモク」よりか、それとも〔雲〕の音轉か。

もく〔木〕 箸を云ふ。

もく〔目〕 眼を云ふ。

もくい 兵士。【朝鮮人語】

もくいかツてた 巡査、來ること【朝鮮】

もくられ　煙草入れを云ふ。
もぐをら　罪狀を陳述すること。【朝鮮】
もくをろかち　飲食物竊取。【朝鮮人語】
もくかまり〔木入〕　材木小屋。薪炭小屋
もくかん　厠。【朝鮮人語】
もくかんり　監房。【朝鮮人語】
もくきくん〔木器軍〕　密偵者。密告者。【朝鮮人語】
もくぎよ〔木魚〕　姙娠したる婦人のこと
もぐしもの　贓物。不正品を云ふ。
もくちぶ〔青泡家〕　警察署。【朝鮮人語】
もくちやく　木賃宿。三流ところの旅人宿を云ふ。
もくてー〔黒棒〕　軍用銃。【朝鮮人語】
もくてらす〔木照〕　喫煙を云ふ。
もくと　煙草。【朝鮮人語】
もくひん〔木品〕　盆。椀を云ふ。
もぐら〔土龍〕　床下から忍び入る泥棒。或は土砂の運搬人夫。破獄すること
もくらん〔木覽〕　綿入衣服を云ふ。
もぐり〔潜〕　劇場寄席等の開場閉場の混雜に紛れて犯す掏摸を云ふ。
もぐる〔潜〕　「もぐり」と同じ。或は他人より金品を强請する者。又は法網を潜つて惡事をなす者を云ふ。
もくろじ〔無樓子〕　眼を云ふ。
もげわつたー　竊取して來いの意【朝鮮】
もさ　掏摸。食事をする。腹部。或は懷中物品。度胸等を云ふ。
もさあわせ　腹を合はせる。意を通じること。共謀すること等を云ふ。
もさいれ　懷中物を云ふ。
もさがこける　空腹を感じること。
もさがない　臆病を云ふ。
もさがまり　姙婦を云ふ。
もさがら　紙入。空財布を云ふ。
もさきり　掏摸。萬引を云ふ。
もさこき　宿屋荒しを云ふ。
もさこけ　空腹。或は懷中物を云ふ。
もさてん　飲食して空腹を滿たること
もさやぶれ　空腹を云ふ。
もじ　細紐類を云ふ。
もじ〔文字〕　贋造紙幣を材料にして他人より金品を詐取すること。例へば不可能なる藥品、機械等にて贋造紙幣が出來ると眞實らしく詐稱し高價に賣買するを云ふ。
もじがえし〔文字返〕　「じかぬか」に同じ
もじながし〔文字流〕　「おてんきし」「どしやながし」に同じ。
もじや〔文字屋〕　質屋を云ふ。
もす　入浴を云ふ。
もず〔百舌鳥〕　世事に疎い田舍者のこと
もそこうー　洋傘。（香具師）
もた　袂の中にある金品。或は掏摸のことを云ふ。
もたせ　「つゝもたせ」に同じ。その略。
もち　博徒の乾分を云ふ。
もち　勿論の意。同語の略
もちけん　詐欺的行爲を云ふ。
もちこける〔持顚〕　委託金橫領を云ふ。
もちづるはいよつた〔墨塗〕　犯罪事實の發覺。【朝鮮人語】
もちづら〔持逃〕　「もちこける」に同じ。
もちふける〔持逃〕　「もちこける」に同じ
もちや　玩具。（香具師）
もぢり〔捻〕　竊盜に使用する種々の合鍵の類を云ふ。
もつき　其儘の意。（兵庫縣養父郡の方言）
もつくちゆーん　憲兵が來ること【朝鮮】
もつこ　洋傘。或は油揚げのこと。
もつさり　ぼんやりしてゐること【關西】
もつとい〔元結〕　藝妓を云ふ。
もと　袂。袂の略。

もとかた〔元方〕 請負師。賭博の胴元。
もとぎ〔本木〕 以前に關係したる相手方の男女を指す。
もときち〔元吉〕 藝妓。一八(チーハー)賭博の題目記載紙の文句より。
もどす〔戻〕 懷中時計を輪環から取外すことを云ふ。
もどる〔戻〕 前科者が逮捕引致されることを云ふ。
もなか〔最中〕 無双懷中時計。菓子のもなかの形に似てゐるため。
もの 着物。【關西】
ものあら 荒物屋「荒物」の轉換。
ものかき 衣服を云ふ。
ものかな 金屬製の器具。金物屋「金物」の轉換
ものさし〔物差〕 萬引を云ふ。
ものし〔物師〕 萬引。窃盜を云ふ。
ものしろや 古物商。「代物屋」の音轉。
もみ〔揉〕 「もみくじ」に同じ。
もみくじ〔揉籤〕 詐欺賭博類似のことをする香具師。一等から五六等迄を記入せる紙を揉んで、その中より客に選り分けさせ、當つたものに約束の賞品を與へるといふ方法にして、この時客の中に「さくら」を使ひ、一、二等といふ様な賞品は皆な「さくら」に當てしめ、衆人の投機心を唆る。略して「もみ」ともいふ。

もみぢ〔紅葉〕 茄子を云ふ。
もみぢ〔紅葉〕 戸締りの箇所に施してある錠前。或は看守を云ふ。
もみわけ〔揉分〕 袂を探る掏摸を云ふ。
もめ 警官が逮捕せんとするを暴行脅迫して抗拒するをいふ。
もも〔桃〕 爆發藥。或は女子の陰部のことをいふ。
ももいろ〔桃色〕 溫和な思想のもの。中間派。赤色は左傾・過激派。白色（黒色）は右傾・保守派を指稱す。
もや〔靄〕 火災。或は薪炭。又は煙草のこと。煙の上る形容よりか。
もやいり 綿入衣服を云ふ。
もやいれ 煙草入を云ふ。
もやす 談話を云ふ。
もやちや〔喰〕 殺人。【朝鮮人語】
もやひく〔靄引〕 喫煙を云ふ。
もやぶくろ〔靄袋〕 煙草入を云ふ。
もらい〔貰〕 或る客に侍れる藝者を時間中にも拘らず他の客が所望して招くことを云ふ。

もらい〔貰〕 意外な利益のあること。或は成功の容易なことを云ふ。
もり 巡査。「もうりん」の略。
もり 袖を云ふ。
もりかかよぶた〔頭痒〕 困却の狀態。【朝鮮人語】
もりこ 蝙蝠傘。蝙蝠の音轉。
もりこひき 蝙蝠傘を窃取すること。
もりのからす〔森烏〕 神官。神職。神社がよく森の中に見受けられるよりか。
もりんと 刑事。「もうりん」より。
もろ〔諸〕 懷中時計を鎖諸共に窃取する掏摸を云ふ。
もろ〔脆〕 好むことを云ふ。
もろい 安々と出來たこと。或は弱いこと。例へば「打つたらもろいこと破れた」は前者を指し。「こんなものもろい」は後者を指す。又好色な者のこともいふ。
もろしろ 地酒。密造せる濁酒を云ふ。
もろなを〔師直〕 香の物を云ふ。
もろにゆく 窃盜犯人。犯罪行動の豫定を決行するをいふ。
もろのを 香の物を云ふ。

もん　巡査部長以上の警察官を云ふ。
もん〔門〕　賣春婦。陰門よりの連想。
もんいた〔皆無〕　貧窮者。【朝鮮人語】
もんうち〔紋打〕　紋形札の穴一。〔穴一〕參照。
もんガタ　犯行に使用する合鍵「ガタもの」の音轉、音訛か。
モンキ〔Monkey〕　人養。猿の尻の色彩の近似より。或は教誨師を云ふ。
もんく　財布類。【朝鮮人語】
もんく　反物類を云ふ。
もんぐり〔坊主〕　日本内地人。【朝鮮】
もんけい　猿。「モンキー」の轉訛。
もんしなどめ〔物品留〕　地中其他の場所に贓品を隱匿することを云ふ。
もんた　反物類。「もんたん」の略。「もんたん」參照。
もんたん　反物類。「反物」の音轉。
もんでら　贓物寄藏。【朝鮮人語】
もんとみ〔紋富〕　紋紙賭博のこと。
もんどりきる〔翻原斗切〕　掏摸が犯行現場を立去り行方を晦ますことを云ふ。
もんばらい〔門拂〕　戸締りの施錠を破壞することを云ふ。
もんばらし〔門暴〕　「もんばらい」に同じ
もんもん〔紋々〕　刺青の事を云ふ。

や の 部

や　嫉妬。或は匕首のことを云ふ。
やー〔壓〕　逮捕せんとしたる官吏に對して抵抗すること。【支那人語】
やあさま　香具師が自分たちをさして稱す言葉を云ふ。
やあちやん　藝妓を云ふ。
やいう　夜間に犯罪行爲をなす掏摸。
やいた　通貨を云ふ。
やいとつき〔灸點附〕　紋附の着物。
やいはり　朝方を云ふ。
やゐん〔野猿〕　猿。或は仲間の犯罪を密告する者。惡賢くてずるい意。又は月經。「やゑん」とも云ふ。
やゐんや〔野猿屋〕　警察署。駐在所。
やうろく　商人を云ふ。
やえーぷみ　襦袢の類。【朝鮮人語】
やゑん〔野猿〕　「やゐん」に同じ。或は巡査のことを云ふ。
やゑんする　密告することを云ふ。
やゑんづたい〔野猿傳〕　屋外の干物を窃取することを云ふ。

やゑんぼう〔野猿坊〕　刑事。或は密告者又は猿のことを云ふ。
やおい　壯健でないこと。〔兵庫縣佐用・宍粟兩郡の方言〕
やをかける　衣服着用の意。
やをちよー〔八百長〕　拵へ相撲のこと。無理に機嫌とりの爲勝負を負けること。或は裏面にカラクリのあること「やをや」とも云ふ。
やをや〔八百屋〕　「やをちよー」に同じ。
やかけ〔矢掛〕　合鍵にて人の鞄を開け、中の金品を盗む泥棒。或は野原などで假眠をしてゐる人の懷中物を窃取する掏摸、「矢使ひ」に同じ。
やり　掏摸、或は木賃宿を云ふ。
やぎいた　建具を云ふ。
やききり〔燒切〕　施錠の個所を燒き拔くことを云ふ。
やきこけた〔八木倒〕　飲食に飽きたこと
やきどや　木賃宿屋。略して「やき」とも云ふ。
やきぬけ〔燒拔〕　施錠の個所。又は戸の薄板等を燒き拔き忍入るを云ふ。
やきひく　娼妓を相手に遊興すること。
やきひばし〔燒火箸〕　人蔘。「やけひば

し」とも云ふ。

やきや　掏摸を云ふ。

やきやり　强窃盗犯人。【朝鮮人語】

やく〔厄〕　物事の悪いこと。「しけ」と同じ。或は捕縄。戒具を云ふ。

やく　雨降り。花合せよりくる或は窃取行爲を云ふ。

やくしのまえ〔藥師前〕　毎月八日前の闇夜を云ふ。

やくしや〔役者〕　變裝。或は窃盗犯人。

やくそく〔約束〕　自分の藝妓に時間中、他の客より貰ひに來られない様に花代より餘分の金錢を出して約束すること

やぐだツた　快心の意。

やくにんさま〔役人様〕　牛蒡。刀劍の形に似たるより

やくばん〔役番〕　錠を云ふ。

やぐら〔谷倉〕　物を貯藏するに造りたる岩穴。（相模、鎌倉の方言）

やくわん〔藥鑵〕　遊女のこと。（松前の方言）、尻が早いの意。

やけ　陰門。「やけく」の略。

やけく　陰門を白ふ。

やけし〔燒師〕　火事場泥棒。「やけばし」に同じ。

やけばし〔燒場師〕　火事場の雜沓に紛れ窃盗をする者。火事場泥棒のこと。

やけひばし〔燒火箸〕　人蔘。「やきひばし」とも云ふ。

やげる　窃取行爲を云ふ。

やけん　「やけし」「やけばし」に同じ。

やけん〔野犬〕　山窩のことを云ふ。

やげん　鷄を云ふ。

やげんがり　卵を云ふ。

やこ　野狐を云ふ。

やごい　夜に乘じて逃亡すること。

やごめ　未亡人。「やもめ」の轉訛か。

やこん　夜。今夜の轉換。

やさ〔鞘〕　住家。屋内。木賃宿。鞘は刀劍の納まる巣といふ考へから生じたるもの。「さや」の轉讀

やさ　屋内に忍び入るを専門とした窃盗或は盗人の自宅のことを云ふ。

やさをかえる〔鞘變〕　移轉。逃亡。

やさすがり　〔穴一〕に同じ。

やさんぶくろ　「さんやぶくろ」に同じ。

やし　香具師と書く。「てきや」とも云ふ詐欺的手段を以て有効無効の商品等を詐賣るもの、或は産地、製造會社等を詐り、マヤカシ物を賣る者。昔野武士等が飢渇を凌ぐために起りしものならん。

やじ　男親分を云ふ。

やしき〔屋敷〕　警察署を云ふ。

やじばこ　陰門を云ふ。

やしま〔八島〕　不良車夫を云ふ。

やしや　屋内に忍び入るを専門としてゐる窃盗。「やさ」の轉訛。

やしや〔夜叉〕　刑事を云ふ。

やしよー〔夜商〕　深夜屋内に忍入り窃盗をする者。「ふけし」に同じ。

やしよーのとばふむ　深夜屋内に忍入つて窃盗行爲をすることを云ふ。

やしよーふむ〔夜商踏〕　深夜屋内に忍入ることを云ふ。

やじり〔鏃〕　倉庫。納屋の類を云ふ。

やじりきり〔屋後切〕　戸締りの個所又は壁の裾など切り破つて忍入る窃盗。

やじりさがし〔屋後探〕　軒下などに積んである炭俵、又はその他何んでも置いてある物を窃取する者を云ふ。

やしん　巡査を云ふ。

やす　詐欺。或は詐欺的賭博犯人。又は果物のことを云ふ。

やす　殺傷。强盗のときに使用する兇物

のこと。
やすい〔易〕 犯罪行爲の仕易いこと。
やせ 背を云ふ。
やせい 月夜を云ふ。
やせり 競賣りをする香具師を云ふ。
やぞー〔彌藏〕 親分。棟領を云ふ。
やた 膏藥。（香具師）
やたてばり〔矢立張〕 雇人が主家の物品を窃取することを云ふ。
やち〔矢血・谷地〕 女陰。月經。婦女子のこと。女陰のことを初め谷地と云ひ月經のことを矢血と云ひしが共に婦女子のことも云ふ。（香具師、賊徒、不良仲間等に廣く使はれてゐる）「しんとくないやちをふく」と云へば强姦のことにして、「しんとくない」は得心のないこと。「やちをふく」は男女交接のことを云ふ。
やぢ 父親。師匠。棟領。親方等凡て目上の者。「おやぢ」の省略。
やちいいた 强姦。「やちへいた」の轉訛【北陸地方】
やちをかめる 交接。【長野縣】
やちをそがしてたんをきる 色仕掛。色車師等。淫行の關係ある婦女子を欺き又は脅迫して金品の提供を求め、不法の利を得るの意。

やちをふいた 强姦を云ふ。
やちをふく 男女交接を云ふ。
やちがくし 腰卷を云ふ。
やちがり 女兒を云ふ。
やちかりす 尼僧を云ふ。
やちぎる〔谷地切〕 男女交接を云ふ。
やちぐれ〔谷地通〕 情交に耽溺すること
やちける〔谷地蹴〕 男女交接すること。多く强姦に似た行爲を云ふ。
やちせめ〔谷地責〕 强姦を云ふ。
やちだれ 女に脆いことを云ふ。
やちつり〔谷地釣〕 「つゝもたせ」に同じ
やちてき〔谷地敵〕 良人を云ふ。
やちばい〔谷地賣〕 賣笑婦。娼妓。
やちはくい 男女交接の快感を云ふ。
やちばこ〔谷地箱〕 陰門を云ふ。
やちばらし 賣春婦。情交に耽溺すること。或は娼妓の置屋。【山口縣】
やちひ〔谷地被〕 婦女子の着物を云ふ。
やちひく 女を買ふ。【大阪】 或は情交したことを云ふ。
やちびら 婦女子の着物。或は腰卷。
やちふいた 强姦。「やちをふいた」の略。

やちふく 男女交接。多くは强姦行爲に使はれる。
やちへがく 强姦を云ふ。
やちへぐ〔谷地剝〕 男女交接すること。或は强姦のことを云ふ。
やちべり 情交することを云ふ。
やちもろ〔谷地脆〕 好色の者。或は人妻。
やちや〔屋茶〕 茶屋。女郎屋。料理屋。酌婦のこと。
やちやなを 飯盛女の意にて密淫賣婦。「なを」は女のこと。
やちやま〔屋茶間〕 貸座敷を云ふ。
やちやり 犯罪證據をかくす爲に兇器を犯罪場所以外の場所、例へば川の中へ投棄することを云ふ。
やちゆーし〔夜中師〕 「ふけし」と同じ。
やちよ 巾着の類。（京阪神地方の掏摸の用語）
やつ 谷のこと。（相模の方言）
やつあし 下肢を云ふ。
やづかい〔矢使〕 雨戸其他戸締りの箇所を破壞することを云ふ。
やつくり 制服着用の官吏を云ふ。
やつけ 殺人。或は傷害を云ふ。
やつこ〔奴〕 鷄姦の相手にて年若の者或は京阪地方の方言にて幇間（たいこも

ち）のことを云ふ。

ヤツさん　客人。（掏摸及詐欺賭博犯人用語）

やつしや　詐欺。或は恐喝のこと。

やつしやつく　横着なるもの。【大分縣】

やつめ〔八目〕　刑事を云ふ。

やど〔宿〕　物品の授受を云ふ。

やどひき〔宿引〕　刑事、巡査、或は贓物故買者を云ふ。

やどひま　相思の男女の一方が相手の家に忍び込んで宿ること。（尾張の方言）

やどろく〔宿六〕　亭主を云ふ。

やな　塗樽のこと。（遠江の方言）

やなぎ〔柳〕　遊興すること。【長野縣】

やなぎにやる　囚人が偶々服役を怠ることをいふ。

やなぎむし　快心の意。

やにてい　不潔なこと。（尾張の方言）

やねいた〔屋根板〕　カルタのこと。或は布團を云ふ。

やねこい　苦しいこと。（兵庫縣印南郡の方言）

やねた　少ない資本でことたりる香具師に適する商品のことを云ふ。

やのすけ〔彌之助〕　釣合人形のこと。（京都の方言）

やーのむ　懐中に匕首を持つこと。

やは　ポケットのことを云ふ。

やば　刑事。「やばい」より來たものにて其の語の略。

やば〔矢場〕　表面大弓場にて內々女を抱え客を引かしむる家を云ふ。

やばい　身の危險なこと。危險な場所のこと。或は犯罪發覺せんとする場合。又は下手をしたこと。刑事のこと大阪地方のこと等を云ふ。

やばいひげ　機敏なる刑事のこと。

やばかいた　不成功を云ふ。

やばかつた　不成功の狀態をいふ。

やばかる　不成功を云ふ。

やばくり　刑事を云ふ。

やはた　客があること。或は娼妓のこと

やばどば　警察署。巡査駐在所。

やばなを　「矢場の女」といふ意にて賣春婦のこと。「矢場」參照。「なを」は女のこと。

やはらか〔柔〕　一定の常職なく賭博を仕事にする無賴漢のことを云ふ。

やはり　餅を云ふ。

やぶ　危險を云ふ。

やぶ　有罪の判決が確定したこと「やふ」とも云ふ。

やぶ〔籔〕　あやふやなこと。或は醫者のこと。「籔井竹庵」より

やぶいちくあん〔籔井竹庵〕　あやふやな醫者のことを云ふ。

やぶしき〔籔敷〕　山窩、乞食其他無宿者等が雨露を凌ぐために籔中に造つた假小屋のことを云ふ。

やぶはらい〔籔拂〕　大きなことを云ふ。【石川縣】

やぶり〔破〕　門戶其他壁等を切破つて忍入る窃盜のことを云ふ。

やぶれしよーじ〔破障子〕　野菜物。

やほい　通行人に掏摸が尾行すること。【石川縣】

やぼくり　刑事。巡査を云ふ。

やほん　書籍。本屋。本屋の轉換

やま〔山〕　監獄。或は贋造通貨。被害者又は氣乘りしてゐる最中のこと。犯罪の實行中のことを云ふ。

やま〔山〕　背部を云ふ。

やまあがる〔山揚〕　犯罪の發覺を云ふ。

やまあらし〔山荒〕　暴動。或は山林盜伐者。或は山林內の果實類を盜む者のこ

とを云ふ。

やまをくむ〔山組〕 團體を組んで犯罪をすることとを云ふ。

やまがた〔山形〕 垣根などを飛び越えて屋内に忍び入ること。「やまごし」とも云ふ。

やまかん 共謀にて窃取したる贓物を分配すること。「やまわけ」に同じ。或は冒險的な仕事。又は詐欺的行爲。

やまごし〔山越〕 「やまがた」に同じ。或は強姦を云ふ。

やまし〔山師〕 鑛山發掘を業とする者であるが、それより轉じて大言壯語をなす詐欺的行爲者を云ふ。

やましお〔山潮〕 山崩れを云ふ。

やまと 街道を云ふ。

やまにのぼる〔山登〕 「やまがた」「やまごし」に同じ。

やまばん〔山番〕 物貰ひのこと。（長崎の方言）

やまぶき〔山吹〕 鮒の異名を云ふ。

やまぶし〔山伏〕 神社、佛閣の備品。或は賽錢、供物等を窃取する者のこと。

やまみにゆく〔山見行〕 窃盗をせんとする目的の家内の狀態等を豫め探つて見ることとを云ふ。

やみ〔闇〕 馬。【東京】

やみにてツぽー〔闇鐵砲〕 昆布と豆の煮付物。【神奈川縣】

やみよ〔闇夜〕 窃盗を云ふ。

やみ 贓物の寄藏を云ふ。

やめつ 非人。乞食を云ふ。

やもめびら〔寡片〕 女の單衣着物。

やゆー 夜路上にて行ふ掏摸を云ふ。

やら 不正行爲を云ふ。

やらい 醜婦を云ふ。

やり 數量の一のこと。（香具師）

やり 直立すること。【東京】 或は立番巡査。又は失敗することを云ふ。

やりえつ〔厩列子〕 强姦。【支那人語】

やりかん 老人。【和歌山縣】 或は十錢のこと。（香具師）

やりこ 刑期が一年のこと。或は一個。

やりし 白米。「砂利」の音轉。

やりちよー 十五錢。（香具師）

やりて 詐欺師。或は檢事。又は共謀で行つた犯罪の罪を一人で引受けること

やりてぶ 十五錢。（香具師）

やりてまふ 共犯者なく、一人で行ふ掏摸のことを云ふ。

やりとり〔遣取〕 鋸。【神奈川縣】 [illegible]

やりのごぼーぬき〔槍牛蒡拔〕 掏摸仲間にて技術の一人前になつた者。

やりはい 數量の一のこと。（香具師）

やりばこ 千圓を云ふ。

やりばん 窃盗行爲中の見張番をすることを云ふ。

やりぽん 百圓を云ふ。

やるがん 假睡（うたたね）を云ふ。

やわい 油斷のならぬこと。拔目がないこと。「やばい」の轉訛。

やん 娼妓を云ふ。

やんくましんた〔藁を燃す〕 喫煙【朝鮮】

やんこ 店主を云ふ。

やんぢ 老爺。父親。「おやぢ」の轉訛。

やんつ 贓物の故買。窃盗を云ふ。

やんつ〔洋子〕 商人。【支那人語】

やんにぬ〔津捻〕 南方。【支那人語】

やんば 老婆。母親。「ばあちやん」の音轉轉訛。

ゆの部

ゆうじ 有のこと。（秩父地方の方言）

ゆうぼう 列車内にて物品を販賣する香

具師のことを云ふ。
ゆうれい〔幽靈〕 辯護士を云ふ。
ゆえまー〔月馬〕 二人の稱。【支那人語】
ゆえまーほーつあぬ〔月馬合串〕 合意姦通。美人局(つつもたせ)。【支那人語】
ゆかせぎ〔湯稼〕「いたのまかせぎ」に同じ。
ゆき 夜明け頃屋内に忍込む窃盜。或は種々手段方法を盡したれども不成功に終つたことを云ふ。
ゆきやのうさぎ〔雪屋兎〕 犯罪行爲の發覺を心配することを云ふ。
ゆす 贓物故買者。或は帶のこと。
ゆすり〔强要〕 强談威迫して金錢の强要を迫ることを云ふ。
ゆだるま〔湯達摩〕 小豆。【岐阜縣】
ゆちやんくん〔遊將軍〕 諸方を徘徊徒食せる無賴の徒。賭博常習者。【朝鮮】
ゆーつ〔又子〕 牛。【支那人語】
ゆつし 祭典、緣日等の大道で演ずる奇術曲藝師を云ふ。
ゆつぺいよう 屋内に押入り放火する。【朝鮮人語】
ゆのもの〔湯物〕 腰卷。（西國の方言）
ゆふ 寺院。或は喫煙。紙入。財布の類を云ふ。

ゆふあき〔夕空〕 黄昏頃家人の不在を窺ひ屋内に忍入る窃盜を云ふ。
ゆふながし〔夕流〕 掏摸其他窃盜犯人が夕闇の路を徘徊し目的の場所、又は人物を物色することを云ふ。
ゆみはり〔弓張〕 賭博開張の現場。
ゆみや〔弓矢〕 嫉視反目を云ふ。
ゆらい 鼻を云ふ。
ゆらのすけ〔由良之助〕 胡椒を云ふ。
ゆりー〔姿勢〕 制服着用を云ふ。
ゆんだ 煙草を云ふ。

よ の 部

よあらし〔夜深〕 夜忍込む窃盜を云ふ。
よい 夜食のこと。（土佐の方言）
よいがまり〔宵入〕 窃盜の目的にて日暮より住家に忍入ることを云ふ。
よいため 强盜。殺人のことを云ふ。
よいち〔與市〕 茄子。財布。或は頭部を云ふ。
よいて 財布。【兵庫縣】
よいど 采ころを三つ使ふ賭博。
よいね〔宵狙〕 宵に家婦達が市場に買物に行つた時をねらふ空巣狙ひのこと

よいのぞき〔宵覗〕 賣春婦。或は日暮時。
よいまつり〔宵祭〕「よいね」に同じ。
よう 逮捕引致することを云ふ。
ようかん〔羊羹〕 懷中時計を云ふ。
ようきす 洋酒を云ふ。
ようげそ〔洋下足〕 靴。（香具師）
ようこう〔洋行〕 入監。留置を云ふ。
ようし〔養子〕 强窃盜に入ること。「婿入り」「嫁入り」とも云ふ。
ようじ〔楊枝〕 施錠を外す器具にして尖端を曲げた針金樣のもの。
ようしやり 洋食を云ふ。
ようだ 詐欺賭博犯人を云ふ。
ようど 成年の男を云ふ。
ようらん 布團。或は洋服を云ふ。
ようろく 犯罪行爲の成就したこと。
よこあけつぼ〔横開壺〕 釆賭博の壺笊を怪しい開け方をすることを云ふ。
よこあな〔横穴〕 住家の側壁を破壞して忍入ることを云ふ。
よこけん 橋を云ふ。
よこぬき〔横拔〕「よこあな」と同じ。
よこばい 腹痛。【關西】
よこばらす〔横暴〕 門を破ること【島根】

よこぶえ〔横笛〕 鯡を云ふ。
よこぼく〔横木〕 歯ブラシ。（香具師）
よこまくら〔横枕〕 胡瓜を云ふ。
よこや〔横家〕 官舎。神官の住宅。
よころく 戸の下部に設けたる猿錠。
よさ 晩。夜。宵を云ふ。
よじ 虱を云ふ。
よしこ 陰茎を云ふ。
よしこびら 褌を云ふ。
よしこごろまく 色情の興奮。「よしこ」は陰茎のこと、「ごろまく」は喧嘩、轉じて暴れることを云ふ。
よじし 裏長屋。貧民窟を云ふ。
よしびら 單衣服を云ふ。
よしべゑ〔山兵衛〕 詐欺師を云ふ。
よしめ 詐欺賭博師を云ふ。
よしあし 骨牌賭博の一種を云ふ。
よすぢ〔四筋〕 警部以上の警察官。
よすみ〔四角〕 風呂屋。【北海道】
よせ 「いたのまかせぎ」と同じ。
よせ 木をたてゝ行ふ穴一の一種。
よせば〔寄場〕 刑務所。或は種々の興行場のことを云ふ。
よせばがえり〔寄場返〕 出獄者を云ふ。
よせばくだり〔寄場下〕 新入監者を云ふ

よそわしい 不潔なこと。【淡路】
よた〔與太〕 不良少年。或は夕方の時。又はセンボでは嘘言のことを云ふ。
よたか〔夜鷹〕 賣春婦を云ふ。
よたガール 不良少女を云ふ。
よたもの〔與太者〕 東京の淺草に巣くう不良少年少女のこと。「はいだし」「かけだし」ともいふ。或は前科者のこと。
よつ〔四〕 風呂敷のこと。「よつで」ともいふ。
よつこ 贓物運搬を云ふ。
よつごろう〔四五郎〕 飼犬。【福岡縣】
よつし 施錠の箇所を破壊すること。
よつで〔四手〕 風呂敷。「よつ」ともいふ
よつにかまる 強姦を云ふ。
よつばるか 久しい意。（山形、秋田の方言）
よつらん〔四寛〕 布團を云ふ。
よてこ 末子のこと。（南部地方の方言）
よど 窃盗常習者を云ふ。
よど〔淀〕 水車。「淀の川瀬の水車」より
よとぎ 通夜。（尾張の方言）
よな 晩。夜。宵。或は鶏。又は夜店のことを云ふ。
よなき〔夜泣〕 「ふけし」、「やしよー」に同じ。

よなし ビールを云ふ。
よなし〔夜師〕 夜間の窃盗。「ふけし」に同じ。
よなば〔夜場〕 深夜を云ふ。
よばい〔夜這〕 窃盗の目的にて深夜屋内に忍入ることを云ふ。
よばいにゆく〔夜這行〕 深夜窃盗に行くことを云ふ。
よひぐらい〔酔食〕 酔つぱらいのこと。（薩摩の方言）
よびだし〔呼出〕 自動電話などで指定の場所へ商品等を持來せしめ種々の口實の下に商品又は釣錢などを騙取する詐欺行爲者を云ふ。
よひとび〔宵鳶〕 宵窃盗を云ふ。
よぶ〔呼〕 萬引を云ふ。
よへいぢ〔與平治〕 茄子。【長野縣】
よほー 布團を云ふ。
よぼ 風呂敷。「よつ」「よつで」ともいふ。
よみ とよみ。同語の略。（香具師）
よみカルタ〔讀歌留多〕 數の順序に札を出す賭博を云ふ。
よめ〔嫁〕 年増女。女。或は男女の密會

男女交接を云ふ。
よめいり〔嫁入〕 嫁入り前の貞操の堅いとのことより、周圍の裾を板張にした土藏をいふ。或は嫁入り道具の一つである箪笥のことを云ふ。
よめがきみ〔嫁が君〕 鼠のこと。（關西一部の方言）
よめご〔嫁御〕 倉庫。【群馬縣】「よめいり」參照。
よめさん〔嫁樣〕 箪笥。「よめいり」參照
より 快晴。「ひより」の省略。
より〔捻〕 繩類を云ふ。
よりとも〔賴朝〕 握飯を云ふ。
よりひ 快晴。「ひより」の音轉。
よりる 逃走すること 【關西】
よるひ 快晴。（香具師）
よろく〔餘錄〕 意外の收入。或は利益。又は質屋のことを云ふ。
よろこび〔喜〕 毆打。加害行爲。
よろしい 骨牌賭博のことを云ふ。
よろしふり 賭博の一種を云ふ。
よんこ 澤山、多量の意。（仙臺の方言）
よんによう 多量の意。（肥前肥後の方言）

ら の 部

ライオン〔Lion〕 鬚髯を蓄へた官吏其他の人物を云ふ。
らいびあ〔來堅〕 喫飯。【臺灣】
らうす 犯罪の實行手段等を通牒密議するを云ふ。
らうばい〔蠟梅〕 仁愛のこと。（花言葉）
らうまいびつ〔粮米櫃〕 米櫃のこと。（仙臺の方言）
らうんやを 貧窮者。貧家。【支那人語】
らをころし〔羅苧殺〕 蓮根を云ふ。
らをひき 犯罪の手引きを爲すこと。【岡山縣】
らかる 逃亡すること。【東京】「ずらかる」の略。
らかん 逃亡することを云ふ。
らかん〔羅漢〕 熟睡。或は熟睡してゐる人物。又は多人數集合すること。【石川】
らきす 母親を云ふ。
らきひ 干魚。「ひらき」の音轉。
らく〔洛〕 京都地方。洛陽より
らぐうと 詐欺賭博に使用なす骨牌。
らくし〔樂師〕 賭博常習者を云ふ。
らくだ〔駱駝〕 背部。或は夫婦同伴にて行くこと。【京都】
らげ 耳。「きくらげ」の略。
らさ 怠慢にして遊惰なることを云ふ。
らさほてる 刑務所のことを云ふ。
らしやくづ〔羅紗屑〕 切昆布を云ふ。
らしやめん〔洋妾〕 外國人を相手となす賣春婦。或は外國人の妾を云ふ。
らす 針のことを云ふ。
らせん 判事を云ふ。
らち 掏摸。或は結果。「らちあけ」參照
らちあけ〔埒明〕 結果をつける意。【京阪地方】
らつ 額。「つら」の音轉。
らつさげ 容貌を云ふ。
ラツパ〔喇叭〕 喫煙。煙管。或は大言壯語をなすことを云ふ。
らつぴら 湯卷。腰卷を云ふ。
らど 旅籠屋。「やど」の音訛。
ラビ 廣告用のチラシ。「ビラ」の音轉。
ラブはんちんぐ 戀を漁り歩くこと。
らほ〔扯戸〕 休憩。中止。【支那人語】
らーほわー〔拉花〕 逃亡。【支那人語】
らーぺんつ〔拉片子〕 贓物分配。【支那】
らむ 波止場、停車場等にて婦人、其他

田舎出の人等を誘拐したり、其他所持金等を傷取するをいふ。

ラムネ　月賦のこと。ラムネを飲むとゲップが出るを月賦に通はせたもの。

らむや　「らむ」に同じ。又「らむ」の犯人。

らや　目的物の現存せることを云ふ。

らり　白痴者を云ふ。

らりこ　淫奔な婦女。或は馬鹿の意。

らりすけ　白痴者。或は馬鹿を云ふ。

らん　着物。接尾語となつて着物の意。

らん　娼妓。花魁（おいらん）の略。

らん〔蘭〕　美女。〔花言葉〕

らんかい　博覽會のこと。〔香具師〕

らんかい　小さな倉庫其他納屋の類。

らんがり　着物を云ふ。

らんご　幼年者のこと「ごらん」とも云ふ

らんごろ　床下より忍入ること。【徳島】

らんさ〔娘師〕　土藏破り。【朝鮮人語】

らんじん　梅干のこと。「天神」を「らんじん」と訛したもの。

らんだ　洋反物類。「オランダ」の略。

らんち　毛布。【關西】

らんつ、あい〔冷子財〕　兵隊。【支那】

らんと　賭博常習者を云ふ。

らんばり〔覽張〕　着物。或は堂々とした服裝を爲すことを云ふ。

らんぼつたり　堂々とした服裝を爲すことを云ふ。

らんびら〔覽片〕　絹物其他上等衣服。

ランプ〔Lamp〕　太陽。月を云ふ。

らんべら〔覽片〕　絹物其他上等衣服。

らんぼうむすこ〔亂暴息子〕　犯罪密告者

らんまえもの　兇賊。【三重、岐阜】

りの部

り　夜半。【朝鮮人語】

りう　數量の六。【支那人語】

りう　拘留處分。「こうりう」の略。

りうこう　「りう」に同じ。

りうこあん　豚。【臺灣】

りうざん〔流產〕　下痢を云ふ。

りうつあうる〔流皂兒〕　片盲目。【支那】

りうふえー　數量の十。【支那人語】

りうーま〔柳馬〕　一人の稱。【支那人語】

りうまー〔劉馬〕　十人の稱。【支那人語】

りうりー〔瑠璃〕　囚人教誨師。【臺灣】

りき　金錢を云ふ。

りきをかむ　委託金品を横領費消する事

りきをふんばいた　金儲を云ふ。

りきがまり　多額の金錢を所持してゐる見込みのある人物を云ふ。

りくぐん〔陸軍〕　男兒が出產の時。〔名古屋地方の方言〕

りけんや〔利權屋〕　特種の權利を得ようとする人のために種々の仲介運動を爲してコンミッションを取る周旋稼業屋のことを云ふ。

りこう〔利巧〕　鼻を云ふ。

りざう　六錢の意。

りしをぎる　鶏姦。【福岡縣】

りしよー　騙取すること。詐欺的行爲。【宮城縣】

りしんごく　捕繩切斷の用意に所持せる刄物。【朝鮮人語】

りす　巡查部長を云ふ。

りた　賭博に勝つた場合をいふ。

りつ〔律〕　法律書のこと。〔香具師〕或は辯護士のことを云ふ。

りつ　犯罪共謀者。或は補助者を云ふ。

りツしんべん〔立心偏〕　情婦。「情」の字の偏を取つて云つたもの。

りな　形容。「なり」の音轉

りは　見張人。「張」の音轉

りひ　禮服着用の人物を云ふ。
りふ〔古〕　古着。「るふ」に同じ。
りやうま〔兩馬〕　女中。【兵庫縣】
りやをれん〔了連〕　黄昏時に犯す强盗。【支那人語】
りやびあたん〔拿壁虫〕　住家の壁、戸等を切破つて忍入る窃盗。【臺灣】
りやんしやん〔亮上〕　放火。【支那人語】
りやんこ〔兩個〕　警察署長。典獄。或は殘飯。乾飯を云ふ。
りやんこつ　看守。【名古屋】
りゆー　拘留處分を云ふ。
りゆーどすい〔龍吐水〕　尿。【宮城縣】
りよー　自己の代稱詞。
りよーあな〔兩穴〕　耳を云ふ。
りよーそで〔兩袖〕　二人共謀の犯罪。
りよーだる　一千圓を云ふ。
りよーていつ〔遼地子〕　掏摸犯。【支那】
りら　友情。（花言葉）
りんき　戸締りの箇所を破壞して忍入る窃盗を云ふ。
りんはつ〔冷把子〕　刑事係。【支那人語】
りんぴよーのしよーべん〔淋病小便〕　丁半賭博。花合。思ふ目が出たいより。

る の部

る〔流〕　通貨を云ふ。
るうれ　火災。「うれる」の轉。
るかかまり　金滿家。【福島縣】
ルビ〔Ruby〕　幼年者。振り假名に使用する七號といふ小活字の名より。
ルビつき〔Ruby 付〕　嬰兒を脊負つてゐる人。子供のある女を云ふ。
ルビー　ビールのこと。ビールの音轉。
るふ　古い。古物を云ふ。
るふて　古着類を云ふ。
るふや　古着屋。古物屋を云ふ。
るまい　温和な巡査「圓い」の音轉。
るや　成年の男子を云ふ。
るよ　夜半。「よる」の音轉。
ルートのさん　三の開平は開き切れぬところより態度や主張のはつきりしない人をいふ。或は封印や〆の代りにも用ゐられる（女學生間にて用いられる。）

れ の部

れ　風。「荒れ」の略。

れいさま　漁夫を云ふ。
れえと　婦女子を云ふ。
れか　刑事。私服巡査。警察署。駐在所。
れこ　情婦。情夫。「これ」の音轉にして小指を示して云ふ。或は陰莖を云ふ。
れじ　陰莖を云ふ。
れす　僞筆の書畫類を云ふ。
れつ　犯罪共謀者。「つれ」の音轉。
レツテル　婦人の容貌を云ふ。
れツとこ　沖仲仕が船舶の貨物等を窃取すること、その時水中に一時埋沒隱匿することあり。
れつわる　破獄脱走。或は其の準備。
れば　賭博使用の骨牌を云ふ。
ればらめら　雨降りを云ふ。
れほ　戀愛の情。「惚れ」の音轉。
れーる　賭物の運搬を云ふ。
れんが〔煉瓦〕　鹽鮭。或は刑務所。【關西】
れんぎ〔蓮木〕　擂粉木のこと。（西國の方言）
れんげ〔蓮華〕　手を云ふ。
れんげさう〔蓮華草〕　外容、品性共に美しきこと（花言葉）
れんけつ〔連結〕　汽車内にて乘客の男女

が視しくなること。（鐵道從業員）

れんこん〔蓮根〕 鼻。【島根・靜岡・和歌山縣】

ろ の 部

ろー〔蠟〕 びん付け。（京都女囚人）

ろー 贓物故買者を云ふ。

ろうそ 老爺を云ふ。

ろうそく〔蠟燭〕 囚人に供給する飯。或は信玄袋のことを云ふ。

ろうそくかける〔蠟燭掛〕 手淫を云ふ。

ろうた 中年以上の男子を云ふ。

ろうば 犯罪者の住宅を云ふ。

ろうやん 白痴者を云ふ。

ろがば 厠を云ふ。

ろく 風呂場。センボの「たろく」の略。

ろく 亭主。男。「どーろく」の略。或は詐欺犯罪者の目的人物を云ふ。

ろく 猿錠。戸の上部に設けたるは「てんろく」下部にあるは「ちろく」「よころく」と云ふ。

ろく〔轆〕 落し錠。【大分縣】

ろく〔六〕 錢を投げる穴一。或は骨牌のことを云ふ。

ろくいち〔六一〕 質屋を云ふ。

ろくいちや〔六一屋〕 質屋を云ふ。

ろくさい〔六采〕 雙六の一名。

ろくさんか 夫婦同伴者を云ふ。

ろくじ〔六字〕 寺院。佛堂。或は死亡。六字の名號「南無阿彌陀佛」より。

ろくじにかへす〔六字返〕 殺人既遂。

ろくぞー〔六造〕 あばた顔の男。或は主人を云ふ。

ろくたん〔六短〕 花札の短册六枚取りの役を云ふ。

ろくぢぞー〔六地藏〕 辻淫賣婦。

ろくツばり 門戸の施錠を破壞せんために犯人が携帶してゐる器具のこと。

ろくつり〔轆吊〕 落し錠を明けること。或は目的の家を見に行くこと【和歌山】

ろくてん〔六天〕 天神橋六丁目の巢。普通一般に「天六」と略して云へるを音轉したもの。（大阪市内）

ろくど 老爺を云ふ。

ろくどー〔六道〕 街路。四辻。「六道の辻」より。

ろくね 平垣のこと。（兵庫縣佐用郡の方言）

ろくぶ〔六部〕 神社佛閣の金品を窃取する者を云ふ。

ろくぶし〔六部師〕 「ろくぶ」に同じ。

ろくぶまち 目的人物の懐中に金錢があると見込をつけたこと。（掏摸）

ろくま 易者。修業者。托鉢僧。

ろくまんつぼ〔六萬壺〕 口を云ふ。

ろくやた〔六彌太〕 大豆。豆腐屋。（香具師）

ろくさほてる 刑務所。留置場。

ろしつ 盛飯を云ふ。

ろた 白痴者を云ふ。

ろつ 合圖を云ふ。

ろツかけ 門戸、施錠等を破壞して屋内に忍入ることを云ふ。

ろツく〔六區〕 賣笑婦。東京淺草公園の裏に銘酒屋と呼ばれた魔窟の地、區割が六區に當つてゐるところから採たつもの「十二階裏」ともいふ。【關東地方】

ろツくてき〔六區的〕 仲居其他雇女に醜業をなさしめて居ると思はれるところの料理屋、飲食店のことを云ふ。

ろつくり 門戸の施錠等を破壞せんために犯人が携帶してゐる器具のこと。「ろくつばり」とも云ふ。

ろツぶく 腹部。或は懐中に所持する金

錢。財布のことを云ふ。
ろツぼ　通貨を云ふ。
ロハ　只、無料のこと。「只」を分析したもの。
ロハイ　ウンスンカルタの龍の繪札のことを云ふ。
ロハだい　公園などのベンチ。只で腰をかけ休息する事が出來るところから。

わ の 部

わ〔輪〕　指輪を云ふ。
わいかそー　可愛想。【茨城縣】
わいこがる　恐怖。「こわがる」の轉換。
わいび　指輪「ゆび」を「いび」と讀んだ「指輪」の轉換。
わいみをうきをうり　警察官吏が日本服を着用して來るを云ふ。【朝鮮人語】
わか〔若〕　新築の建物。白壁の土藏。
わか〔若〕　博徒の乾分を云ふ。
わかいむすこ〔若息子〕　目的の場所に金品のないことを云ふ。
わかがき　僞筆の書畫を云ふ。
わかきち〔若吉〕　博徒の乾分を云ふ。
わかとの〔若殿〕　時刻が早いこと。或は熟睡していないことを云ふ。
わかれ〔分〕　他人より物を貰ふこと。【三重縣】
わかろく〔若六〕　若主人を云ふ。
わく　掏摸共犯者。或は萬引共犯者。
わく〔沸〕　酷暑を云ふ。
わくと　季節を云ふ。
わける〔割〕　犯行の事實が發見されること。或は證據物件の發見。「われる」とも云ふ。
わじるし〔猥印〕　春畫のこと。氣狂をキ印といふやうにいつたもの一部の商人間にて指を輪にしてこれが表象としてゐる。
わすれぐさ　嬌態。（花言葉）
わすれなぐさ〔勿忘草〕　私を忘れないでくれとの意。（花言葉）
わた〔綿〕　雪を云ふ。
わたしば〔渡場〕　警察署。【群馬縣】
わたばれる　降雪。【山口縣】
わたぼうし〔綿帽子〕　火災を云ふ。
わたり〔渡〕　一定の住所なく諸方を徘徊する掏摸のこと。【關西】
わたり〔渡〕　簪。或は通貨。或は襦袢。
わたりをつける〔渡付〕　些細なことを原因にして喧嘩を吹かけること。或は他人から金品を貰ひつゝ諸方を徘徊することを云ふ。
わたりこみ〔渡込〕　屋根傳ひに忍入る窃盜を云ふ。
わたりし〔渡師〕　一定の住所なく諸方を徘徊し、掏摸或は窃盜を常習となす者
わつぱ　懷中時計。或は該品を專門となす掏摸を云ふ。
わつぱ〔輪〕　煙管。或は指輪を云ふ。
わに　地面。【福島】「庭」の音轉。
わに〔鰐〕　他人の妻。或は口のこと。
わーになる〔輪成〕　同類になる。一味になるを云ふ。
わもの　衣服を云ふ。
わや　無駄なこと。或は無茶苦茶のこと（尾張の方言）
わゆび　指輪。同語の轉換
わら〔笑〕　放免を云ふ。
わらび〔蕨〕　繩。或は煙管。
わらび〔蕨〕　空想。或は妖術。（花言葉）
わりごと〔惡事〕　サクラを使つて客の購買欲をそゝる露店商人。或は惡事。
わりりよー　二圓を云ふ。
わる〔割〕　犯行を白狀すること。【靜岡】

わるまち　悪口を云ふ。

われもかう　戀愛の變化。（花言葉）

われる〔割〕「わける」に同じ。犯跡が判ることを云ふ。

わん〔椀〕　骨牌賭博を云ふ。

わんちや　茶碗。同語の轉換。（香具師）

わんのしや〔椀者〕　乞食の徒。【關西】

わんふせ〔椀伏〕　壺伏せのことにて賭博のことを云ふ。

ワンワン　贓物を運搬すること。或は密告者。犬の泣き聲より。

各地方隱語

●北海道隱語

むすめくどく　土藏破りを云ふ。
てふちんやぶる　空腹なる事を云ふ。「もさこけ」とも云ふ。
ぐい　共犯者を云ふ。
ごろくう　叱責せらるゝ事を云ふ。
せぶる　寢る事を云ふ。
づらかる　逃げる事を云ふ。「ふける」とも云ふ。
くらへこむ　處刑される事を云ふ。
つかれ　察知せらるゝ事を云ふ。「やばい」とも云ふ。
はと　接吻を云ふ。
てかをける　放火する事を云ふ。
ほやかす　飲食させる事を云ふ。
おさえる　强盜に押入るを云ふ。
もさ　掏摸を云ふ。
やしやう　強盜犯を云ふ。
けいちやん　時計を云ふ。
てんがい　笠を云ふ。
どす　刀劍を云ふ。
さんしやう　鋸を云ふ。
げじ　[illegible]を云ふ。
かんたん　枕を云ふ。

よすみ　風呂敷を云ふ。
さか　小刀を云ふ。
あわせさんぴん　海老錠を云ふ。
すいびら　手拭を云ふ。
こんぴら　鍋を云ふ。
しやり　白米を云ふ。
づま　握飯を云ふ。
きりしたん　豆腐を云ふ。
ひよんころ　團子を云ふ。
ながしやり　そうめんを云ふ。
あまほう　砂糖を云ふ。
きす　酒を云ふ。
もさ　飯を云ふ。
びら　衣類を云ふ。
きゆうくつ　袴を云ふ。
うわはんびら　羽織を云ふ。
なげし　帶を云ふ。
やちびら　腰卷を云ふ。
こんにやく　蒲團を云ふ。
よしこびら　褌を云ふ。
たこ　頭巾又は股引を云ふ。
げそびら　足袋を云ふ。
どうろく　看守を云ふ。
あら　監內を調査する事を云ふ。
づかれる　密告者を云ふ。

むくどり　田舍者を云ふ。
もちをくり　鼻を云ふ。
めんばゆき　美男子を云ふ。
たんかきる　饒舌家を云ふ。
はくい　善き人を云ふ。
たんか　口を云ふ。「あご」とも云ふ。
さけ　顏を云ふ。「ちや」とも云ふ。
がんくや　盲者を云ふ。
ちんぴら　少年を云ふ。
こやづか　頭を云ふ。「すこ」とも云ふ。
きくらげ　耳を云ふ。
あま　女の事を云ふ。
やつこ　鷄姦する事を云ふ。「ちつゆ」とも云ふ。
てらし　月を云ふ。
てら　火を云ふ。

●茨城縣隱語

ずらかる　逃走する事を云ふ。
もさこけた　空腹になりし事を云ふ。
ほつ　鷄姦する事を云ふ。「ぽんぷ」とも云ふ。
づかれた　惡事を察知せらる事を云ふ。
がんすい「眼水」　泪を云ふ。

をつい　鶏姦を云ふ。
ごろまいた　人と喧嘩をする事。
でつちた　人を殴打せし事を云ふ。
けらした　人を殺したと云ふ意。
けらされた　人に殺されたと云ふ意。
ぼくり　居睡りして居る事を云ふ。
わいこがる　恐怖せし事を云ふ。
ひがをばらしにゆく　大便に行くと云ふ事。
しようすいをばらしにゆく　小便に行くと云ふ事。
がんがはやい　何事にも能く目を付ける事を云ふ。
えんこをだした　手を出したる事を云ふ
たんかがたかい　聲が高いとの意。
わいかそうだ　可愛想だとの意。
おどつた　狼狽せし事を云ふ。
ちがいをまう　行き違ひの際金品を掏摸とる事を云ふ。
そともさ　身體の外にある品を云ふ。例へば煙草入、巾着、時計等なり。
てんじん〔天神〕　書を認す事を云ふ。
たげる　金品を掏る事を云ふ。又は「ぎる」とも云ふ。
ひるとんび　空巣狙ひを云ふ。
のびし　夜間忍入り金品を窃取するものを云ふ。「ぼつくり」とも云ふ。
あらかせぎ〔荒稼〕　强盗犯を云ふ。
ながしやりにかまる　强盗に押入り金品を奪ひ取つたとの意。
のびにかまる　人家に忍入り金品を窃取したとの意。
うきすぼくり　船中にて金品を窃取したとの意。
むすめをくどく〔娘を口説く〕　土藏を破り金品を窃取せし事を云ふ。「すめをふりやする」とも云ふ。
たげて、づらかつた　窃取して其場を去る事を云ふ。
ぶしよする　賭博する事を云ふ。
はいてしまつた　自白せし事を云ふ。
くばつてる　窃盗に忍入る際に、見張りを置きたる事を云ふ。
てらしをかめる　放火せし事を云ふ。
たげる　人の物品を取る事を云ふ。
ひかつてる　「見て居るから要心してせよ」との意。
だれてる　知つて居るとの意。
ぐれた　知られたとの意。
かんたんがへし　「枕さがし」を云ふ。
ずんぶり　入浴場を云ふ。
てらしてしまつた　家屋が燒失せし事。又は放火せし事を云ふ。
ごむす　物品を一時隱匿する事を云ふ。
かめどく　金品を土藏又は箱中、地中へ隱匿してあるとの意。
いつけんもの〔一件物〕　共犯人を云ふ。
つきものがまぶい　食物がうまいとの意
つきものがくやだ　食物がまづいとの意
ひく　飲む事を云ふ。
つく　食事する事を云ふ。
あんへられた　捕縛せられた事を云ふ。
はづる　逃走する事。「づらかる」又は「げそをきる」に同意。
づいた　察知せられし事。「ぐれた」に同意。
ぼつづいた　惡事の露顯したる事を云ふ
こむした　物品を隱匿せし事を云ふ。
ぶりやする　破る事を云ふ。
むしにかまつた　投獄せらる事を云ふ。「しろくにかまつた」に同意。
どすのむ　刀劍を所持して居る事を云ふ
うちばにかまる　刑務所内の仕事に就けられたとの意。
そとばにかまる　刑務所外の仕事に就け

られたとの意。
めんほう　放免になる事を云ふ。
しやい　醫者を云ふ。
にんびやう　病人を云ふ。
たんかがもろい　能辯者を云ふ。
まぶい　總て良き事を云ふ。
くや　總て悪しき事を云ふ。
さんたく　物の多くある事を云ふ。
こすし　物の少なき事を云ふ。
しづかの蠅　胡麻の蠅に同じ。
あいちやん　掏摸を云ふ。「もかし」とも云ふ。
とし　贓物故買者。又は「ずや」とも云ふ
どや　旅館を云ふ。
やちや　妓樓、飲食店等を云ふ。
びりや　貸座敷を云ふ。
たんか　口を利く事を云ふ。
ぶぢようだ　大丈夫だとの意。
きやくきやく　知人からの手紙を云ふ。
とをすけをぐれてる　共犯人の如きものを云ふ。
びか　猫を云ふ。「おひめ」とも云ふ。
やちやなを　飯盛らせと云ふ事。
はくえ　美婦人を云ふ。
てんしんをかける〔電信を架ける〕　隣房と話をなす事。
てんぷら〔天麩羅〕　囚徒中改心なしたるが如く裝ふものを云ふ。
なれてる　怠惰者を云ふ。
ばらし　小刀の類を云ふ。
げそ　履物類を云ふ。
びくだい　枕の事を云ふ。「かんたん」とも云ふ。
十三　櫛を云ふ。
ばつくり　鞄を云ふ。
まんじゆう〔饅頭〕　時計を云ふ。
いんた　莨入れを云ふ。
もくいん　莨入れを云ふ。
てつぽう　煙管を云ふ。「ぞめ」とも云ふ
からす〔烏〕　墨を云ふ。
ひつじ〔羊〕　紙を云ふ。
べんけい　炭を云ふ。
とうぼふー　硯、筆を云ふ。
ひつじいれ〔羊入れ〕　紙入れを云ふ。
つう　金錢を云ふ。又は「べんは」とも云ふ。
よいちべい　財布を云ふ。
もぢり　鍵の事を云ふ。
ひん　錠の事を云ふ。
なす　巾着の事を云ふ。
まうつう　金銀を云ふ。
じらいや　蝦蟇口を云ふ。
あて　掏摸の使用する刄物を云ふ。又は「ぬき」と云ふ。
さだくろう〔定九郎〕　鐵砲を云ふ。又は「ぽつかり」と云ふ。
てんがい〔天蓋〕　笠の事を云ふ。
もさ　懐中物を云ふ。
ほぞ　繩を云ふ。
さくり　鎖を云ふ。
ひん　駄及錠を云ふ。
どす　刄物を云ふ。
さぐり　窃盗犯の所持する内部の錠を外すに用ゆるものを云ふ。
おかる　簪を云ふ。
もさ　懐中物の總稱。
ボツク　書籍を云ふ。
ちなぜ　箒を云ふ。
すい　手拭を云ふ。
しろしやり　白飯を云ふ。
みじんしやり　挽割飯を云ふ。
くされ　味噌の事を云ふ。
さに　汁を云ふ。
あんじん　梅干を云ふ。
しうきん　大根を云ふ。

きす　酒を云ふ。
もろのう　香物を云ふ。
まごべい　餅を云ふ。
どちぼ　薩摩芋を云ふ。
たんぼ　魚類を云ふ。
とろ　油を云ふ。
すい　水を云ふ。
うち　薬を云ふ。
ながたんぼ　鰻を云ふ。
うぢをひく　茶を飲む事を云ふ。
もさこけた　空腹なる事を云ふ。
どち棒　薩摩芋の事を云ふ。
ほそらん　絹服を云ふ。
だるま　羽織を云ふ。
だしぐる　褌の事を云ふ。
うすらん　單物を云ふ。
とおふゞりろ　袴の事を云ふ。
ぐる　帯を云ふ。
げそ　足袋を云ふ。
らん　袷を云ふ。
あつらん　綿入れを云ふ。
かくらん　蒲團を云ふ。
びりもさ　女の服を云ふ。
たこ〔蛸〕　股引を云ふ。
とど　典獄を云ふ。

ぼら　看守長を云ふ。
このしろ　看守を云ふ。「でか」とも云ふ
くり　巡査を云ふ。
でか　探偵、密告者を云ふ。
くりのおつけ　警察官吏の總稱。
むしのおつけ　獄吏の總稱。
をつけふいさん　裁判官吏の總稱。
をつけ　官吏の總稱。
やばえ　視察の敏活なる戒護者を云ふ。
くりにかまる　巡査に逮捕せらる事を云ふ。
でかがひかつてる　看守が見て居るとの意。
つかえる　監督温和なる戒護者。
たからもの　監督嚴重なる戒護者を云ふ
びく　女を云ふ。
びつた　婦人、子供を云ふ。
ひんこと　老爺を云ふ。
なり　老婆を云ふ。
かりす　僧侶を云ふ。
めしやよー　尼を云ふ。
げん　女房を云ふ。
びん　娘を云ふ。
すもる　子供を云ふ。
きくら　耳を云ふ。

がん　眼を云ふ。
さんがつ　鼻を云ふ。
いんこ　手を云ふ。
げそ　足を云ふ。
ぺてん　頭を云ふ。
とうすけ　額を云ふ。
もさ　腹を云ふ。
がり　臀を云ふ。
こうひん　老人を云ふ。
どうろく　中年者を云ふ。
がり　小供を云ふ。
こふひん　老爺、老婆を云ふ。
うきす　船の總稱。
あきす　空家又は留守宅を云ふ。
やさ　住居を云ふ。
べか　壁を云ふ。
しやりくら　米を入れてある藏を云ふ。
つうちかめどくむすめ　金品を蓄へ置く藏を云ふ。
ひがば　便所を云ふ。
どま　窓を云ふ。
うきすば　渡船場を云ふ。
まんどーがでる　月が出る事を云ふ。
まんどー　月夜を云ふ。
すいばれ　雨降りを云ふ。

しわすい　雪の事を云ふ。
ふう　大風の事を云ふ。

●神奈川縣隱語

やみにてつぽう〔暗に鐵砲〕「ひじき」と豆と菜の煮込みを云ふ。
まうた〔舞ふた〕　逃げる事を云ふ。「づらかる」とも云ふ。
むすめくどき〔娘口說き〕　土藏破りを云ふ。
のびし　强盜犯人を云ふ。
かも　掏摸を云ふ。又「もさ」とも云ふ。
ながじらし　强盜犯を云ふ。「とぜ」又は「とん〳〵」とも云ふ。
かゝる　捕縛せられる事を云ふ。又「くづれた」とも云ふ。
ほゝかぶり〔頰冠〕　鷄姦の事を云ふ。
たまる　宿泊する事。「ごかす」とも云ふ
づかれた　犯罪を察知された事を云ふ。
さした　犯罪密告者を云ふ。
ごろ　叱責せられる事を云ふ。
まんじゆー〔饅頭〕　懷中時計を云ふ。
とす　刀劍の事を云ふ。
ほんか　網を云ふ。

いなづま〔稻妻〕　火打石の事を云ふ。
らつぱ〔喇叭〕　煙管を云ふ。
やりとり　鋸を云ふ。
げし　盤を云ふ。
うぐいす〔鶯〕　金又は金色の事を云ふ。
しろ〔白〕　銀又は銀色を云ふ。
なま　現金を云ふ。
えんた　煙草を云ふ。「くさ」とも云ふ。
きす　酒を云ふ。
とろ　油を云ふ。
すいをきた　窃取したる衣服。
おやじ〔親父〕　典獄を云ふ。
いなづま〔稻妻〕　看守長を云ふ。
がちや　看守を云ふ。
でか　警部を云ふ。
たち　巡査を云ふ。
やばい　古參の巡査看守を云ふ。
かまつた　官吏の來監したる事を云ふ。
どうろく　押丁を云ふ。
しゆうと〔舅〕　犬を云ふ。
めあかし〔目明〕　鷲鳥を云ふ。

●靜岡縣隱語

おいねし　賍物故買犯を云ふ。

だれる　知れて居る事を云ふ。
あかうま　放火を云ふ。
いもきく　恐るゝ事を云ふ。
べかつける　降伏する事を云ふ。
どうろく　總て人の長たるものを云ふ。
だん〳〵する　鷄姦をする事を云ふ。
やちをふく　男女交合する事を云ふ。
なしをうつ　通知する事を云ふ。
こつぼこはくに　能辯者を云ふ。
はくひ　善き事。美しき事。多き事。
くや　役に立たないものを云ふ。
すけ　人の居ない事を云ふ。
ひかわひ　少き事、惡き事を云ふ。
けんずい　來る事を云ふ。
どめる　見て居る事を云ふ。
たんかばる　高聲にて話をなすこと。「かんずい」とも云ふ。
ばらす　泣く事を云ふ。
ぶしやう　賭博を云ふ。
ふける　逃走する事を云ふ。
じめる　縛する事を云ふ。
しやめん　放免される事を云ふ。
かまる　投獄される事を云ふ。「むしをうつ」、むしをかむ」とも云ふ。
ねす　素人を云ふ。

せぶる　眠る事を云ふ。
たびあかる　發覺したる事を云ふ。
ほやきがなかわい　今日の食物は粗惡なりとの意。
ばる　言語の事を云ふ。
ごうどはら　土藏を破る事を云ふ。
をとなかい　店頭の物品を竊取する事を云ふ。
わる　自白をする事を云ふ。
ける　逃走する事を云ふ。
やばい　危險なる事を云ふ。
がやうつ　潜伏する事を云ふ。
ばらす　人を殺す事を云ふ。
しちがつ〔七月〕　强盜犯を云ふ。
がみ　竊盜犯を云ふ。
につちゆう〔日中〕　空巣狙ひを云ふ。
しよや　夜間忍入る竊盜犯を云ふ。
ぎりごとし　胡麻の蠅を云ふ。
らんまへもの　兇漢を云ふ。
がさ　捜査さる事を云ふ。
こなす　錠を開く事を云ふ。
ふたふ　自白する事を云ふ。
けいきん　乞食を云ふ。
ごみ　押賣りする事を云ふ。
がんたれ、なれば、ぎつても、よし「暗夜だから强竊盜してもよい」との意。

ばなし　刀劍類を云ふ。
にもく　箸を云ふ。
こうぼう〔弘法〕　筆を云ふ。
さんとう〔三斗〕　櫛を云ふ。
げそ　履物を云ふ。
げじ　鋸を云ふ。
どす　刀劍類を云ふ。
こぶり　小刀類を云ふ。
まさ　刺身庖丁を云ふ。
まさ　庖丁を云ふ。
はな　錠を云ふ。
はうじ　鍵を云ふ。
かんたん　枕を云ふ。
ひんがまり　金庫を云ふ。
てらぶくろ　提燈を云ふ。
もく　箸を云ふ。
がもえ　書籍を云ふ。
かもじ　手拭ひを云ふ。
なみ　櫛を云ふ。
うちてら　行燈を云ふ。
くろ　墨を云ふ。
ほうし　筆を云ふ。
ひつじ〔羊〕　紙を云ふ。
うみ　硯を云ふ。

ごき　椀を云ふ。
てらこ　煙管を云ふ。
なで　箒を云ふ。
まつば　針を云ふ。
ほそ　糸を云ふ。
むこうづら　鏡を云ふ。
なりぴん　鐵砲を云ふ。
てうたん　箪笥を云ふ。
ひんた　金貨を云ふ。
ひん　紙幣を云ふ。
さじ　懷中物を云ふ。
こつ　骨子を云ふ。
れば　骨牌を云ふ。
すいびら　手拭を云ふ。
すちびら　手拭を云ふ。
みづびら　手拭を云ふ。
ほやき　食物を云ふ。
しやり　米飯を云ふ。
くりから　麥飯を云ふ。
だる　豆を云ふ。
どぢぼう　芋を云ふ。
まんぬ　大根を云ふ。
あかまんぬ　人蔘を云ふ。
きす　酒を云ふ。
きゆうべい　魚類を云ふ。

てんがい　蛸を云ふ。
くき　干魚を云ふ。
あかきうべい　鯵を云ふ。
まきがみ　鰹を云ふ。
あかきうべい　鯎を云ふ。
てつぼう　牛蒡を云ふ。
はちのす〔蜂の巣〕　蓮根を云ふ。
むら　醤油を云ふ。
さうひん　味噌を云ふ。
じうらん　汁を云ふ。
ふや　湯呑の事を云ふ。
からつぼ　漬物を云ふ。
づみ　水を云ふ。
ちんだい　餅を云ふ。
いしへん　砂糖を云ふ。
はな　塩を云ふ。
らけひす　漬菜を云ふ。
ぴら　衣服を云ふ。
こずぼん　襦袢を云ふ。
かくらん　蒲團を云ふ。
ほたんがまり　布子を云ふ。
ぬき　袷を云ふ。
たこびら　股引を云ふ。
げそびら　足袋を云ふ。
をりひら　袴を云ふ。

あをち　羽織を云ふ。
ぐる　帯を云ふ。
よしこびら　褌を云ふ。
やちびら　腰巻を云ふ。
をにびら　蚊帳を云ふ。
うすびら　帷子を云ふ。
やちひ　女服を云ふ。
がりひ　小兒服を云ふ。
やちがりひ　女兒服を云ふ。
ふわもの　絹服を云ふ。
さらもの　木綿服を云ふ。
むし　監獄を云ふ。
おーなぎ　官吏の巡回の少なき時を云ふ
いなづま　看守長を云ふ。
がはん　看守、又は押丁を云ふ。
どうろく　典獄を云ふ
かまる　監獄書記を云ふ。
がはんの、どすをぎりて、ばらしてけらん　看守の刀劍を奪つて、之を殺し逃走しやうとの意。
がはんの、ひかわいそうめん、をぎつてじめてける　看守(又は押丁)の捕繩を奪ひ之れを縛して逃走するとの意。
おーしけ　官吏の巡回頻繁なる事を云ふ
がはんがけんじてゐるやばい　「看守が見て居るから危險だ」との意。

ぴーどろ　目を云ふ。
こつばこ　口を云ふ。
れんこん　鼻を云ふ。
きくらげ　耳を云ふ。
いし　歯を云ふ。
こんにやく　舌を云ふ。
えんこう　手を云ふ。
げそ　足を云ふ。
ろつぷく　腹を云ふ。
だんく〵　臀を云ふ。
とび　身體を云ふ。
やち　女を云ふ。
やちがり　女兒を云ふ。
こうひん　老人を云ふ。
がりす　僧侶を云ふ。
やちがりす　尼僧を云ふ。
やち　陰門を云ふ。
よしこ　陰莖を云ふ。
なつとる　馬鹿者を云ふ。
ばした　妻を云ふ。
ねや　屋根を云ふ。
ざんじよば　厠を云ふ。
ふんどうば　獄中の厠を云ふ。
たんか　戸口の事を云ふ。

べか　壁を云ふ。
ふみ　敷居を云ふ。
まく　垣を云ふ。
たて　門を云ふ。
めんこう　窓を云ふ。
てうろく　土藏を云ふ。
もくがまり　納屋を云ふ。
とば　本家を云ふ。「ほんがまり」とも云ふ。
ほやきがまり　米穀庫を云ふ。
そんびんがまり　味噌庫を云ふ。
むすめ　土藏を云ふ。
がんぐれ、暗夜を云ふ。
ぢをてら　月夜を云ふ。

●長野縣隱語

あんべる　毆打する事を云ふ。
もさへくりこむ　袂へ又は懷中へ品物を入れる事を云ふ。
たりをさづける　詐言を用い人を欺く事を云ふ。
のみをやつゝけた　逃走したる事を云ふ
やばい　危險なる事を云ふ。
ぼくになつた　逃走して追跡せらる事を云ふ。
べがをつく　土藏を破る事を云ふ。
たんかをひく　土藏の錠前を開くを云ふ
しけこむ　潜伏する事を云ふ。
とん〳〵　強盜犯を云ふ。
くりぼう　竊盜犯を云ふ。
つらをかう　逃走する事を云ふ。
ふれをねる　賭博をする事を云ふ。
つぐ　物を食する事を云ふ。「つぎた」とも云ふ。
たくをつげる　詐言を用ひる事を云ふ。
やちをかめる　男女交合する事を云ふ。
とろをうる　遊ぶ事を云ふ。
わになれ　皆集まれとの意。
ほたる　火を云ふ。
まつばをもつた　針を隱し持つて居る事を云ふ。
をい　物の大きい事を云ふ。
さいちい　小いさい事を云ふ。
くや　惡しき事を云ふ。
てんじん　書面を云ふ。
うま〔馬〕　監視附きにて刑務所を出る事を云ふ。
おちやひき　法廷にて取調べなく戻りたる事を云ふ。
おやだまかい　檢束の緩かな事
かまつた　捕縛されし事。又は叱責されし事を云ふ。
御手當頂戴　處罰を受ける事を云ふ。
電が落ちた　犯則を認められし事を云ふ
新聞を見た　他より傳言あつた事を云ふ
ずんぶり　湯に入る事を云ふ。
ばれた　惡事の發見されし事を云ふ。
こまする　密告する事を云ふ。「いぬのかわ」とも云ふ。
づら　潜伏し居る事を云ふ。「ふけぼそ」に同じ。
奉公　監獄にて服役する事を云ふ。
馬鹿やすめ　減食處分にせらる事を云ふ
ごろかめた　說諭又は注意をされる事を云ふ。
かまる　人の出入りする事を云ふ。
かんたん　就寢する事を云ふ。
せぶりくあける　目を醒す事を云ふ。
せなき　役業怠慢なる事を云ふ。
げそをきる　外出する事を云ふ。
くらいこむ　拘引される事を云ふ。
はらむ　富有なる家を云ふ。
ふくろ　贓物を云ふ。
かえづかい　贓物を扱ふものを云ふ。

とし　賊物を故買したる事を云ふ。
へかばい　賃貸家の事を云ふ。
ひきまど　日の早き事を云ふ。
えんこー　手の早き事を云ふ。
ひきやく　隣房と話をなす事を云ふ。
ねき　所持金なき事を云ふ。
むすめはらんだ　土藏に物品のある事を云ふ。
むすめうんだ　土藏に物品のなき事。
むしへかまつた　投獄される事を云ふ。
ねかる　縛せられる事を云ふ。
はらみ　土藏に金品のなき事を云ふ。
はねい　好む飲食を云ふ。
ひかわい　好まざる飲食を云ふ。
しやりをつぐ　喫飯する事を云ふ。
おーづめ　大便の事を云ふ。
こづめ　小便を云ふ。
あだちがはらさんだんめ　差入物を云ふ
ぐい　同類を云ふ。
もさこけた　空腹を云ふ。
やちや　料理店の事を云ふ。
かり　貸座敷の事を云ふ。
こけてるし　謝言ふ事を云ふ。
うじき　茶屋の事を云ふ。
もくいれ　煙草入れを云ふ。

さんとう〔三十〕　櫛を云ふ。
ひつじ　白紙の事を云ふ。
よほう　風呂敷の事を云ふ。
てんがい　傘を云ふ。
かんたん　枕を云ふ。
どす　洋刀を云ふ。
はなさお　煙管を云ふ。
ごえもん　釜の事を云ふ。
かんぺい　刃物を云ふ。
あわび　錠を云ふ。
ひねり　合鍵を云ふ。
げじ〳〵　鋸を云ふ。
くるぼう　棒頭錐を云ふ。
どす　脇差しを云ふ。
まつば　針を云ふ。
もーり　釘を云ふ。
ぞめ　煙管を云ふ。
げそ　下駄を云ふ。
みずびら　手拭を云ふ。
なま　現金を云ふ。
ひん　現金を云ふ。
しんた　現金を云ふ。
ろしつ　盛切り飯を云ふ。
ろへいじ　茄子を云ふ。
きんとき　小豆を云ふ。

うまのすゞ〔馬の鈴〕　馬鈴薯を云ふ。
くされ　味噌を云ふ。
こんぺい　大豆を云ふ。「はと」又「ごろ」とも云ふ。
かつぱ　胡瓜を云ふ。「てんー」とも云ふ
まつまいごぼう〔松前牛蒡〕　鯡を云ふ。
ふね〔舟〕　黄瓜を云ふ。
うまのべら　蒟蒻を云ふ。
あさま　煙草を云ふ。「くさ」とも云ふ。
きす　酒を云ふ。
はま　塩を云ふ。
つぎもの　飲食する事を云ふ。
むらさき　醤油を云ふ。
おーだるま　馬鈴薯を云ふ。
こだるま　豌豆を云ふ。
たんざく〔短册〕　餅を云ふ。「てんたい」とも云ふ。
石の下の鯖　菜漬を云ふ。
まつまい　鯡を云ふ。「わりき」とも云ふ
よりとも　握飯を云ふ。
みじん　挽割麦を云ふ。
しやり　米を云ふ。
こばく　麦を云ふ。
もくいん　煙草を云ふ。
しやり　飯を云ふ。「よね」とも云ふ。

とろ　油を云ふ。
びら　衣類を云ふ。
はね　衣類を云ふ。「むしくそ、らんとば」等皆同じ。
あぶらけ　蒲團を云ふ。「かくびら、かくらん」等皆同じ。
ぼたをし　絹衣を云ふ。
だるま　羽織を云ふ。
げそぶくろ　足袋を云ふ。
とば　衣類を云ふ。「びら」とも云ふ。
あつらん　綿入を云ふ。
もさ　衣服の事を云ふ。
うすらん　單物を云ふ。
なげし　帶の事を云ふ。
太刀魚の親玉　看守長以上の司獄官を云ふ。「だんごばち、どうろくのおやだま」等皆同意。
やば　密偵を云ふ。
くそばち　押丁を云ふ。「ねこのしつぽ、いぬのぼうぷら」等皆同意。
けいあん　巡査を云ふ。「やば」とも云ふ
やばのおやだま　警部を云ふ。「ばかのおやだま」とも云ふ。
をしはし　探偵の下使ひを云ふ。
さつけい　警察署を云ふ。

ほんけ〔本家〕　監獄を云ふ。
やば　看守を云ふ。
ぐるこ　巡査、看守、押丁を云ふ。
いぬ　密偵を云ふ。
たちうを〔太刀魚〕　看守を云ふ。「どうろく、はち、いぬ」等皆同意。
やばすけ　看守を云ふ。「ばか」とも云ふ
ばらほん　巡査を云ふ。
いぬ　看守、押丁を云ふ。「はち、おちやひき」等皆おなじ。
とぼい　監督嚴重なる官吏を云ふ。
おやだまがいけない　嚴しき檢事を云ふ
いぬにおはれる　探偵に尾行又は追跡される事を云ふ。
かんがへる　看守、押丁に叱責される事を云ふ。
ねかた　警察署を云ふ。
にやく　役人を云ふ。
さわり　巡視者の事を云ふ。
むしはら　看守を云ふ。
げそつ　押丁を云ふ。
けじらみ〔毛虱〕　巡査を云ふ。「ぼうてき」とも云ふ。
てき　戒護者を云ふ。
よいち　頭を云ふ。

がん　眼を云ふ。
さんがつ　鼻を云ふ。
げそ　足を云ふ。
きくらげ　耳を云ふ。
こつ　口を云ふ。
えんこ　手を云ふ。
もく　目を云ふ。
こつぼこ　口を云ふ。
こつ　齒を云ふ。
いんこ　手を云ふ。
きり　足を云ふ。
かたさき　頭を云ふ。
さんかく　鼻を云ふ。
いはい　頭を云ふ。
ちようずば　尻を云ふ。
きくらげ　尻の穴を云ふ。
いはい　顏の醜き事を云ふ。又「くや」とも云ふ。
しやりこ　老人を云ふ。
びり　婦女を云ふ。「ばく、すだれ」等皆同意。
むすめ　未丁年者を云ふ。
なを　婦人を云ふ。
どうろく　主人を云ふ。
ろく　主人を云ふ。

げん　妻を云ふ。
えだ　娘を云ふ。
おとまえ　入口を云ふ。
むすめ　土藏を云ふ。
をめめ　土藏を云ふ。
こつじろ　白壁土藏を云ふ。
こつぐろ　黒漆喰の土藏を云ふ。
すいばれ　雨降りを云ふ。
きてんがまぶい　晴天を云ふ。
はくすい　降雨を云ふ。
よな　夜間を云ふ。
ませる　晝間を云ふ。
しゆうと　犬を云ふ。
をしやべす　猫を云ふ。

●新潟縣隱語

たいわんじん〔臺灣人〕　仲の善しき者を云ふ。
むすめ〔娘〕　金満家を云ふ。「なじみ」とも云ふ。
はらむ〔胎む〕　倉庫に物を入れる事。
かねをつく　倉庫中稍々空虚となりたるものを云ふ。
べてんし　詐欺犯を云ふ。
きり〔桐〕　事の終結したる事を云ふ。
ぎし　監守者の隙を窺ひ窃取する事を云ふ。
うえはねづみ〔上は鼠〕　朝飯前後に商店の近傍を徘徊して物品を撰ばず窃取する事を云ふ。
とん〱　強盗犯を云ふ。
ずらかる　逃走する事を云ふ。
かり〔狩〕　窃盗する事を云ふ。
のりのびた〔糊延〕　空腹になりたる事を云ふ。
はちのす〔蜂の巣〕　辨當の盛方が充分でないとの意。
のり〔糊〕　飯を云ふ。
くろぶち　玄米を云ふ。
しろぶち　白米を云ふ。
こぞう〔小僧〕　番犬を云ふ。

●愛知縣隱語

たかい　物を少し與へる事を云ふ。
せぶる　寝る事を云ふ。
はぐい　總て物の大なるもの。美なるもの肥えたるものを云ふ。
ひかわい　總て物の小なるもの、醜なるもの、痩せたるものを云ふ。
げそをはやめる　逃走する事を云ふ。
てこ　賭博をなす事を云ふ。
てを　火を云ふ。
にもく　箸を云ふ。
ちんだい　煙管を云ふ。
かんたん　枕を云ふ。
からす　筆の事を云ふ。
ひつじ　紙を云ふ。
せぶる　汁椀を云ふ。
なで　箒を云ふ。
げそ　下駄、草履を云ふ。
ほやく　骨子を云ふ。
ほやく　食物を云ふ。
せいだ　酒を云ふ。又「きす」とも云ふ。
からつぼ　漬物を云ふ。
てんだい　餅を云ふ。
あま　砂糖を云ふ。
どじぼ　芋を云ふ。
なみ　鹽を云ふ。
おーだるま　蠶豆を云ふ。
こだるま　豌豆を云ふ。
けんちんじる　すまし汁を云ふ。
すい　水を云ふ。
たこ　股引を云ふ。

かくびら　葷園を云ふ。「かく」とも云ふ
びら　衣服を云ふ。
すいびら　手拭を云ふ。
よしこびら　褌を云ふ。
にんやく　役人の意にて官公吏を云ふ。
おやじ　監督者を云ふ。
よろづ　看守を云ふ。
しけとる　看守が立聞きして居る事。
はれた　囚人の悪事を察知せずして巡回官吏が立去る事を云ふ。
てこ　押丁を云ふ。

㊂岐阜縣隱語

四つ五つ借りる　大便に行く事。
ふせる　寢る事を云ふ。
ひかわい　不利益なる事を云ふ。
あぜ　馬鹿者と云ふ意。
やわい　油斷ならぬ事。抜目が無との事
むし　火を云ふ。
ばゞしま　嫌だとの意。
げそひき　草履、草鞋を作るものを云ふ
ふんばり　米搗きを云ふ。
さんしよう　隱語を云ふ。
ごめんぐち　監房の人口を云ふ。

ごむい　輕罪と云ふ事。
しけ　風呂の湯のぬるき事を云ふ。
つむ　物事を正直になす事。
はくい　重罪を云ふ。
はむ　投獄される事を云ふ。
てんき　風呂の湯のあつき事を云ふ。
はぜた　發覺せし事を云ふ。
いぬ　密告者を云ふ。
ちようろく　茶碗を云ふ。
にもく　箸の事を云ふ。
ほそ　繩を云ふ。
みづびら　手拭を云ふ。
げそ　草履を云ふ。
ひもげそ　草鞋を云ふ。
ひでり　棒を云ふ。
じうらん　汁を云ふ。
そうひん　味噌を云ふ。
てんだい　餅を云ふ。
だるま　豌豆と云ふ。
どじも　芋を云ふ。
ちよん　酒を云ふ。又は「ひだり」と云ふ
はたけぼう　漬物を云ふ。
はちぼく　米を云ふ。
りじん　挽割麥を云ふ。
さんずい　酒を云ふ。

ぼく　芋を云ふ。
ゆだるま　小豆を云ふ。
まんす　大根を云ふ。
あかまんす　人蔘を云ふ。
くりかう　麥を云ふ。
てん　餅を云ふ。
むらさき　醬油を云ふ。
とろま　油を云ふ。
そうん　味噌を云ふ。
だるま　大豆を云ふ。
よつち　茄子を云ふ。
くろまんす　牛蒡を云ふ。
もさ　飯を云ふ。
くさり　酢を云ふ。
だるま　半纏を云ふ。
はんだるま　襦袢を云ふ。
かくびら　蒲團を云ふ。
よしこびら　褌を云ふ。
なげし　帶を云ふ。
さんづん「三寸」　羽織を云ふ。
たゆ　股引を云ふ。
はをほんざし　看守を云ふ。
三十三十四十升　新任の看守、又は押丁を云ふ。
いぬ　密告者を云ふ。

がりま　官吏を云ふ。
ごろつく　官吏が說諭する事を云ふ。
ぼくらつぐ　免職の事を云ふ。
ふり　死亡せし事を云ふ。
かりす　僧侶を云ふ。
つめ　厠を云ふ。
とびこし　猫を云ふ。
ばひ　馬を云ふ。
けんび　火を云ふ。

●滋賀縣隱語

かとる　來る事を云ふ。
ける　出る事を云ふ。「ふける」とも云ふ
たばこのむし　裏に廻る事を云ふ。
はくい　良き事を云ふ。
しける　嚴なる事を云ふ。
やばいぞ〳〵　危險々々の意。
くま　黑き事を云ふ。
きんとき　赤き事を云ふ。
てらし　燈火を云ふ。
どべる　隱匿する事を云ふ。
どろむ　潛伏する事を云ふ。
てらしてつながれた　燈火で發見され逮捕せられたとの意。
きくらげてつながれた　聞かれたとの意
がさ　調査又は搜査を云ふ。
ぼくわつた　自白せし事を云ふ。
ひかわい　無情者を云ふ。
ざんぶり　入浴する事を云ふ。
いつこすい　數一個と云ふ事。
せぶる　寢る事を云ふ。
こづめをかる　小便に行く事を云ふ。
どべあげた　隱匿物の發見したる事を云ふ。
しんた　錢を云ふ。
ひん　紙幣を云ふ。
ひつじ　紙を云ふ。
こうぼう　筆を云ふ。
からす　墨を云ふ。
ちんだい　煙管を云ふ。
ぼうず　燐寸の軸木を云ふ。
ひん　錠を云ふ。
なぜ　藥の手紙を云ふ。
やねいた　骨牌を云ふ。
たいし　骨子を云ふ。
てつぼつ　椀を云ふ。
にもく　箸を云ふ。
すいびら　手拭を云ふ。
かんたん　枕を云ふ。
もや　煙草を云ふ。
からつぼ　澤庵を云ふ。
きんぎよ　唐辛しを云ふ。
だるま　豆を云ふ。「表具屋の看板」とも云ふ。
あまつぼ　砂糖を云ふ。
てんだい　餅を云ふ。
かんぬし　葱を云ふ。
どろみやく　味噌汁を云ふ。
はんづけ　白飯を云ふ。
すい　水を云ふ。
からくりばん　麥飯を云ふ。
くぎ　雜魚を云ふ。
ぼやきもん　食物を云ふ。
たこびら　股引を云ふ。
こんにやくびら　蒲團を云ふ。
よしこびら　褌を云ふ。
やちびら　腰卷を云ふ。
あちを　帶を云ふ。
いなづま　看守長を云ふ。
しよきん　看守を云ふ。
くろ　押丁を云ふ。
あきいがきた　新任の看守又は押丁を云ふ。
ゆーだち　臨時監房調査を云ふ。

くつてんさんまいり　懲罰監へ、収容さるゝ事を云ふ。
めんす　顔を云ふ。「すめん」とも云ふ。
ひかわいすめん　醜き顔を云ふ。
ちんぴら　幼年者を云ふ。
どろひく　斛を云ふ。
やち　陰門を云ふ。「たつわれ」とも云ふ
まつぼ　肛門を云ふ。
これば　自分の居房を云ふ。
あれば　他人の居房を云ふ。
こだまれか　格子を云ふ。
さんしよば　便所を云ふ。
しや、さんまいり　暗室へ収容されたとの意。
すいばれ　雨降りを云ふ。
とんがり　鼠を云ふ。
とびすけ　蚤を云ふ。

●和歌山縣隱語

とひばる　見張りを云ふ。
まつぼ　「本當に」「誠に」との意。
さんじよば　裏へ廻る事を云ふ。
かまつた　來る事を云ふ。
しめる　縛する事を云ふ。
きが　尿を云ふ。
たかい　少き事を云ふ。
せぶりがあがる　目を覺す事を云ふ。
うます　乘船する事を云ふ。
せぶり　床に就く事を云ふ。
ほんやま　鷄姦する事を云ふ。
せぶり　就寢する事を云ふ。
はくい　大なる事を云ふ。
けんぺん　稻荷を云ふ。
やちや　妓樓、待合等を云ふ。
あか　煙りの事を云ふ。
ほやくする　食事をなす事を云ふ。
あてる　竊盗なすべく外出する事を云ふ
べかつける　壁を破る事を云ふ。
てらかける　燒拔く事を云ふ。
ほいたをすべらす　人の宅に忍び入り足音をせぬ樣にする事を云ふ。
とばをつなぐ　忍び入らんとする家を物色する事を云ふ。
あかうま　放火する事を云ふ。
はしらす　字を書く事を云ふ。
さえにゆく　强盜に行く。「しちがつ」とも云ふ。
ばらす　殺害さるゝを云ふ。
くさあげる　待ち合はす事を云ふ。
きがふせる　忍び入る際脱糞又は放尿をなし其の上に草履を裏向けに載せる事を云ふ。
いづゝにびらさげる　逃げたる人を足縛りにする際、衣を倒にして井戸中に吊す事を云ふ。
やえい　密告する事を云ふ。「やえん」とも云ふ。
どばふみ　老朽なる忍込竊盜犯を云ふ。
ふける　逃げる事を云ふ。
ねずみすびき　犯罪者が出會ひたる際合圖をなす事を云ふ。
はなとる　錠を外す事を云ふ。
いりつける　戸を破る事を云ふ。
ほいたをすべらす　忍入る際莚類を使用する事を云ふ。
いたのま　こそ〳〵泥棒を云ふ。
しんがもり　新入囚を云ふ。
まつさやんかた　掏摸の同類を云ふ。
どす　刀を云ふ。「じやが」とも云ふ。
げり　戸を開くに用ゆる器具を云ふ。
さんぴら　鍵を云ふ。「うじ」とも云ふ。
なべしま　長持を云ふ。
ぶる　人力車を云ふ。
かつごろー　矢立を云ふ。

てらぶく　提燈を云ふ。
さんびらかけてある　錠がしてある事を云ふ。
ひんがもり　金庫を云ふ。
をがみ　宮、社を云ふ。
かもし　手拭を云ふ。
にもく　箸を云ふ。
ずく　布巾を云ふ。
げそ　履物を云ふ。
あかしんた　銅貨を云ふ。
どうじま　梯子を云ふ。
くじばり　釘抜を云ふ。
ため　旅館を云ふ。「とは」とも云ふ。
くさびら　笠を云ふ。
ながれ　蠟燭を云ふ。
さん　櫛を云ふ。「なし」とも云ふ。
すみびら　蓮類を云ふ。
げじ　鋸を云ふ。
なべしむ　煙筒を云ふ。
けいちやん　時計を云ふ。
げし　壁を云ふ。
へんない　鍋、釜の類を云ふ。
なぜ　鼎を云ふ。「よせ」とも云ふ。
こうぼう　筆を云ふ。
ひつじ　紙を云ふ。

ようじ　錠を外すに用ゆる針の如きものを云ふ。
からす　屐を云ふ。
ほそ　糸を云ふ。
かに　鋏を云ふ。
すいびら　手拭を云ふ。「みづびら」とも云ふ。
ぶうてん　味噌を云ふ。
てつぽう　牛蒡を云ふ。
からつぼ　漬物を云ふ。
ずみ　水を云ふ。
ちんだい　餅を云ふ。「ひよんどろ」とも云ふ。
もや　煙草を云ふ。「ばこた」とも云ふ。
てんきち　白飯を云ふ。
いしべん　砂糖を云ふ。
てんじんぼう　梅干を云ふ。
べつさい　菜を云ふ。
どうみやく　汁を云ふ。
しぶり　茶を云ふ。
むらさき　醬油を云ふ。
きんとき　小豆を云ふ。
がいちや　粥を云ふ。
だるま　豆を云ふ。
きす　酒を云ふ。

ふるい　蒟蒻を云ふ。
かるた　高野豆腐を云ふ。「とうふがるた」とも云ふ。
ねじがね　乾大根を云ふ。
まんす　大根を云ふ。
どじぼ　洗芋を云ふ。
かきのは　煎餅を云ふ。
かるか　豆腐を云ふ。
くりから　麥を云ふ。
ばいぼく　芋を云ふ。
けづりや　酒屋を云ふ。
しやり　米を云ふ。
びら　衣服を云ふ。
ぬくめいる　綿入れを云ふ。「ぼたにいる」と云ふ。
またぎ　襌を云ふ。
うす　單衣を云ふ。
けぬき　袷を云ふ。
はんびら　胴着を云ふ。
げそぶくろ　足袋を云ふ。
かりらん　蒲團を云ふ。
をにびら　蚊帳を云ふ。
あかびら　獄衣を云ふ。
ひかり　警部を云ふ。
しいたけ　押丁を云ふ。

かざえもん　巡査を云ふ。「かけた」とも云ふ。
けふのぼんがよい　不規律なる巡査、看守を云ふ。
じやうすけのをやじ　看守長を云ふ。
けふのぼんがわるい　規律正しき看守を云ふ。
しらさぎ　看守を云ふ。
どらろく　典獄を云ふ。
ひらき　警察署を云ふ。
でじぶり　嚴格なる官吏を云ふ。
むし　刑務所を云ふ。
れんこん　鼻を云ふ。
きくらげ　耳を云ふ。
とひ　人を云ふ。
やち　婦人を云ふ。
てんぼう　頑固な人を云ふ。
だらかれ　老女を云ふ。
やりかん　老男を云ふ。
いちにん　女を云ふ。又は「やち」とも云ふ。
どうろく　主人を云ふ。
ちようろく　藏を云ふ。「むすめ」とも云ふ。
とば　家屋を云ふ。
ふんどば　厠を云ふ。
めんこ　窓を云ふ、又は「はちとばし」とも云ふ。
おかる　二階を云ふ。
うすだんか　障子を云ふ。
たて　門を云ふ。
はち　藏を云ふ。
ひがま　便所を云ふ。
すんばた　川を云ふ。
かぶれ　月夜を云ふ。
かぶれがあがる　月が出る事を云ふ。
すいばれ　雨降りを云ふ。

●兵庫縣隱語

あぶらうる　怠る事を云ふ。
ごまする　人の機嫌を取る事を云ふ。
くさをやく〔草を燒く〕　喫煙する事を云ふ。
ぼうず〔坊主〕　燐寸を云ふ。
がんばる　見張りする事を云ふ。
ふうせんにのる〔風船に乘る〕　隙を窺ひ逃走する事を云ふ。
おどりこ〔踊子〕　强盜犯を云ふ。
ぐひ　共犯を云ふ。
あてる　强竊盜犯を云ふ。
やえん　密告する事を云ふ。
ふいご　竊盜に入らんとする際淫時をなし居る時を云ふ。「たをす」とも云ふ。
ちんかつ　逃走する事を云ふ。又は「まく」と云ふ。
たちし　掏摸を云ふ。
やみよ　竊盜する事を云ふ。
とん〳〵ふむ　强盜する事を云ふ。
かまる　入監したる事、又は入監する事を云ふ。
ばらす　殺人をなす事を云ふ。
いす　贓物を隱匿する家を云ふ。
くいこむ　捕縛せられる事を云ふ。
どすむ　贓品を包藏する事を云ふ。
ばらす　贓品を賣却する事を云ふ。
きたやま〔北山〕　空腹を云ふ。
のむ　刀劍類を懷中する事を云ふ。
ちやか　洋刀を云ふ。
どす　刀を云ふ。
こき　椀の事を云ふ。
にもく　箸の意。
ぢようさん〔嬢様〕　櫛の事を云ふ。
てらし〔照〕　蝋燭の事を云ふ。
ぼく　贓品を云ふ。

ほやき　食事する事を云ふ。
とうしやく　汁の事を云ふ。
びらがはくい　美麗なる衣服の事を云ふ
げじ　巡査又は看守。「にほんぼう」とも
云ふ。
みちがわるい〔道が悪い〕　警護厳にして
護送中逃走し得ざりし事を云ふ。
しほからい〔塩辛い〕　監督の厳重なる官
吏を云ふ。
あまい〔甘い〕　監督の緩やかなる官吏。
はつたり　警察官、密告者、其他が待伏
せして居る事を云ふ。
ねこ〔猫〕　警察署を云ふ。
まつぼ　戸板の事を云ふ。
ちようろく　土藏を云ふ。「きむすめ」と
も云ふ。
つめ　同を云ふ。

●岡山縣隱語

てら　打を云ふ。
ひかわい　貧乏なる事。「ひぬき」とも云
ふしき　乞食を云ふ。
ろくぶくがいかわい　裕福なる事を云ふ
あやふや　入浴する事を云ふ。

てんかつ　大丈夫なる事を云ふ。
こづめ　小便を云ふ。
おーづめ　大便を云ふ。
かまる　強竊盜に行く事を云ふ。
なふ　掏摸なる事を察知されし事を云ふ
しようばい　強竊盜をなす事を云ふ。
まふ　逃走する事を云ふ。「ふける」とも
云ふ。
ぎる　竊取したる事を云ふ。「から、あて
る、ほやす」等皆同意。
ぐれた　發覺したる事を云ふ。
くどく　破るゝ事を云ふ。
くがいにん　竊盜犯を云ふ。「やぎり」と
も云ふ。
うきすふみ　船舶専門の竊盜犯を云ふ。
まつさん　掏摸犯を云ふ「さし」とも云ふ
たてまい　外見商業をなし居るが如く装
ひ、陰にて竊盜を働らく者を云ふ。
らをひき　犯罪を容易にならしめる者を
云ふ。
けんぴ　密告者を云ふ。
ぎらうつ　密かに見聞する事を云ふ。
だいがあがる　露見したる事を云ふ。
ふじ　捕縛されし事を云ふ。
ばらす　殺害する事を云ふ。

ぐい　共犯者を云ふ。
とん／＼　強盜犯を云ふ。「おどりこ」と
も云ふ。
わらび　犯罪者を云ふ。
てらをかける　放火する事を云ふ。
やちをふく　男女交合する事を云ふ。
ぶしやう　丁半賭博又は一般賭博を云ふ
「くまさか」とも云ふ。
せぶる　就寝する事を云ふ。「しおまち」
とも云ふ。
こます　毆打する事を云ふ。
せけん／＼　徘徊する事を云ふ。
はちおい　車上の物品を竊取する事を云
ふ。
がいち　擦違いの際、竊取する掏摸を云
ふ。
あかうまをとばす　放火又は物品を燒却
する事を云ふ。
やま　贓品を分配する事を云ふ。
げちがあまい　自白する事を云ふ。
おきひき　店頭の物品を竊取する事を云
ふ。
たん　賭博を云ふ。
かみん　竊盜犯を云ふ。
しんまい　新入監者を云ふ。

かんたんかへし「枕さがし」を云ふ。
とんま 强盗犯を云ふ。
あきすをふむ「あきすねらひ」を云ふ。
のびし 窃盗犯を云ふ。
かつほう 拐帶逃走する事を云ふ。
たかとび 逃走する事を云ふ。
ふじやねる 賭博する事を云ふ。
あかうまをはしらす 放火する事を云ふ
あかうま 出火せし事を云ふ。
ねじまき 奪取する事を云ふ。
ずかれた 發覺せし事を云ふ。
やばい 危險なりとの意。
むすめをくどく 土藏を破る事を云ふ。
むすめがはらんだ 土藏に金品の多くある事を云ふ。
だいもの 贓品を云ふ。「ぐもの」とも云ふ。
どめる 金品を隱匿する事を云ふ。
いす 贓物故買者を云ふ。
ずかれた 察知せられし事を云ふ。
びーどろがくや 目の付かぬ事を云ふ。
しんとく 得心の事を云ふ。
だん／＼する 鷄姦する事を云ふ。
けんじられる 見られし事を云ふ。
がんすい 泪を云ふ。

はくい 富貴又は美麗なる事を云ふ。
さんぴん 特殊部落民を云ふ。
くいこみ 拘留される事を云ふ。
しきぬ 家内を云ふ。
いもをひく 惡しき物を云ふ。
べがをつけた 低頭せし事を云ふ。
こぶり 小刀を云ふ。「ながもの」とも云ふ。
むくち 鑿を云ふ。
ばらし 刀劍類を云ふ。「がた、どす、ちやか」等何れも同意。
ようじ 錠を開く器具を云ふ。
あさ 財布又は紙入れを云ふ。「よいち」とも云ふ。
こき 枕を云ふ。「かんたん」とも云ふ。
もやぶくろ 煙草入れを云ふ。
にもく 箸を云ふ。
ほそ 捕繩を云ふ。「だち、そうめん」等皆同意。
じゆうさん 櫛を云ふ。「なで」とも云ふ。
ぎら 硝子を云ふ。
てんがい 笠を云ふ。
げそだい 下駄。草履を云ふ。
くろ 炭を云ふ。
ひんた 貨幣を云ふ。

たい 金入れ、財布を云ふ。
おでんと 金盥を云ふ。
ぱくた 煙草入れの事を云ふ。
むかうずら 鏡を云ふ。
とうぼう 筆を云ふ。「ほーし」とも云ふ
てつぼう 煙管を云ふ。
さかべら 出刃庖丁を云ふ。
さんしよ 鋸を云ふ。「げじ」とも云ふ。
まつば 針を云ふ。
あいす 鍵を云ふ。
とつ 骨子を云ふ。
ちよたん 簞笥を云ふ。
うみ 硯を云ふ。
さんぴん 錠を云ふ。
はかん 皮包を云ふ。
おぼ 紙を云ふ。「ひつじ」とも云ふ。
さか 刀劍類を云ふ。
でこぼう 笄を云ふ。
からす 墨を云ふ。
まんぢよう 時計を云ふ。
すいびら 手拭を云ふ。
づく 雜巾を云ふ。
なまひんた 金銀貨を云ふ。
ひんた 貨幣を云ふ。
なま 紙幣又は金貨を云ふ。

そうめん　捕縄を云ふ。
づみ　水を云ふ。
うぐいす　梅干を云ふ。
とろ　油を云ふ。
きうべい　魚を云ふ。
そうひん　味噌を云ふ。
むら　醤油を云ふ。
きす　酒の事を云ふ。
じうらん　味噌汁を云ふ。
こんぺいとう　豌豆を云ふ。「だるま、てんとう」等皆同じ。
どぢぼう　薩摩芋を云ふ。
ろつぷく　飯を云ふ。「あたりこ」とも云ふ。
しやち　米飯を云ふ。
子貢の間　牛肉を云ふ。
まんす　大根を云ふ。
てんだい　餅を云ふ。
いしへん　砂糖を云ふ。
あきた　漬菜を云ふ。
うじ　茶を云ふ。「しぶくら」とも云ふ。
もや　煙草を云ふ。「えんた」とも云ふ。
きうべい、いしべの四つ　蒟蒻を云ふ。
あかまんす　人蔘を云ふ。
からつぼふ　香の物を云ふ。

うぐひす　茶を云ふ。
くりかひ　麦飯を云ふ。
きんぎよ　麩を云ふ。
ふき　湯を云ふ。
ずみ　粥を云ふ。
ほやく　喰べる事を云ふ。
やきとれた　食事を云ふ。
さんこ　梅干を云ふ。
すいびら　魚を云ふ。
はな　塩を云ふ。
そひん　味噌を云ふ。
くりから　麦を云ふ。
しやり　米を云ふ。
だるま　豆を云ふ。
とろ　袖を云ふ。
かくらん　蒲団を云ふ。
ぎおんびら　単衣を云ふ。
をいびら　蚊帳を云ふ。
ぼたんびら　綿入れの事を云ふ。
おど　襦袢又は短衣の事を云ふ。
げそびら　足袋を云ふ。
ぐる　帯を云ふ。「なげし」とも云ふ。
しき　莚を云ふ。
さかり　袖を云ふ。
ぼたん　綿を云ふ。

びら　着物を云ふ。
たこびら　股引を云ふ。
よしこびら　褌を云ふ。
やちびら　腰巻を云ふ。
とば　衣服を云ふ。
げそぶくろ　足袋を云ふ。
だるま　羽織を云ふ。
たこ　股引を云ふ。
はんびら　短衣を云ふ。
びら　衣類を云ふ。
おーざる　監督者を云ふ。
みづくるま　巡査を云ふ。「やぱ」とも云ふ。
ほと　看守を云ふ。「から」とも云ふ。
にんやく　役人を云ふ。
かりす　僧侶を云ふ。
どぢよう〔鰌〕　押丁を云ふ。
さる　監督補助者を云ふ。
とてぶつ　看守を云ふ。
ひで　巡査を云ふ。
風車　巡査が巡回する事を云ふ。
はなれる　死亡する事を云ふ。「ぱれる」とも云ふ。
びーどろ　眼を云ふ。「ぎら」とも云ふ。
たかをつける　低頭する事を云ふ。

だか　頭を云ふ。
げぞ　足を云ふ。
のこくぞきゆべい　老人の早耳を云ふ。
がらす　眼を云ふ。
きくらげ　耳を云ふ。
てんぐう　鼻を云ふ。
よしこ　陰莖を云ふ。
どおーろく　亭主を云ふ。
したば　女房を云ふ。
すねくろ　田舍人を云ふ。
ばした　女を云ふ。「やち」とも云ふ。
こうひん　老人を云ふ。
ひり　娘を云ふ。「みつ」とも云ふ。
かい　男の事を云ふ。
まんな　人を云ふ。「とひ」とも云ふ。
なを　女を云ふ。
ちようた　田舍人を云ふ。
ばした　娘を云ふ。
あきす　空家又は留守宅を云ふ。
ちようろく　土藏を云ふ。
くろふと　板塀を云ふ。
うきす　船を云ふ。
くだん　土藏の塀を云ふ。
てらがあがる　月の出る事を云ふ。
あち　天を云ふ。
こんり　山の事を云ふ。
かんぐり　暗夜を云ふ。
すいばら　雨降りを云ふ。
きり　地を云ふ。
もり　木を云ふ。
よめ　犬を云ふ。
やいん　猿を云ふ。
けんぴ　犬を云ふ。
たじし　牛を云ふ。

●廣島縣隱語

しゆとめがおる　犬が居る事を云ふ。
新嫁　藏中に財物の存する事を云ふ。
ぼろ　無益のものを云ふ。
づく　察知されし事を云ふ。
わいておる　財物のある家を云ふ。
さめて居る　財物のなき家を云ふ。
そうめん　捕繩を云ふ。
新嫁がはくい　忍び入る事を云ふ。
がみ　窃盜犯を云ふ。
にんやくが、まどをさげをるゆえ、げぞをはやめて、まう　「役人が睡眠して居るから、其の間に早く逃走する」との意。
やこん、すいばれゆえ、まどをあけて、まふ　今夜は雨降りだから監房を破つて逃走することを云ふ。
まどをあける　藏を破る事を云ふ。
かまる　捕縛される事を云ふ。
ざいたおとし　追剝をなすことを云ふ。
げぞをはやめる　走る事を云ふ。
しごせられる　人に毆打せられた事を云ふ。
ぎる　窃取する事を云ふ。
まぐ　男女交合する事を云ふ。
とんぼにいた　「突然に行つた」との意。
ばはん　犯則したと云ふ意。
せんすらり　他に欺かれ秘密を口外する者を云ふ。
とまへ　捕縛する事を云ふ。
しようろけ　異性の爲めに犯罪をなしたるものを云ふ。
そばをうつ　男女同衾する事を云ふ。
をゝしー　承諾する事を云ふ。
せんみひ　虛言を云ふ事の意。「あてー」とも云ふ。
ひばな　走る事を云ふ。
しごす　毆打する事を云ふ。
ふく　男女交合する事を云ふ。

ぎる　窃取する事を云ふ。
まどがみえる　壁を切り破る事を云ふ。
はつとり　謀略する事を云ふ。
びんひき　告げる事を云ふ。
ひが　糞を云ふ。
だら　皮の煙草入れを云ふ。
にかわ　繩の太きもの。
定助　錠を云ふ。「けさ」とも云ふ。
げじ　鋸を云ふ。
むすめ　金庫を云ふ。
てつぽう　煙管を云ふ。
どす　刀の事を云ふ。
四つ手　風呂敷を云ふ。
てんばり　合羽を云ふ。
びだ　金錢を云ふ。「びん」とも云ふ。
そうめん　捕繩を云ふ。
ぶり　藥を云ふ。
せいざ　酒を云ふ。
てんたい　餅を云ふ。
てんぷら　砂糖を云ふ。
すやり　葱を云ふ。
むらさき　醬油を云ふ。
じやく　米を云ふ。
きうべい　魚を云ふ。
どちごう　芋を云ふ。

もや　煙草を云ふ。
すいびら　手拭を云ふ。
びら　衣類を云ふ。
ばい　衣類を云ふ。
かばん　監督者の迂濶なる事を云ふ。
しける　巡視の頻繁なる事を云ふ。
ないだ　巡視の緩やかなる事を云ふ。
はくい　役人の聞付かざる事を云ふ。
へうたんやまのつじうらうり　夜中立番の巡査を云ふ。
さんがつ　鼻を云ふ。
きくらげ　耳を云ふ。
やち　陰門を云ふ。
ばれた　死亡せし事を云ふ。
がり　小兒を云ふ。
ばひ　妻を云ふ。
とうろく　男を云ふ。
ばつすい　女を云ふ。
つび　陰門を云ふ。「ちび」とも云ふ。
とおふ　倉庫を云ふ。
よこや　神官の居宅を云ふ。
かもでー　奥座敷を云ふ。
かんりやく　瓦葺の家を云ふ。
ふしゆうとめ　犬を云ふ。

●山口縣隱語

ほやく　物を喰べる事を云ふ。
ける　逃走する事を云ふ。
かみしもにまいる　窃盗をなしに外出する事を云ふ。
とんび　食物其他を摑み取る事を云ふ。
ぐい　共犯者を云ふ。
とばす　逃走する事を云ふ。「ける、ふける」等皆同じ。
おかぐら　役人に懲戒さるゝ事を云ふ。
びか　兇器を以て人を脅迫する事を云ふ
すもをころした　失敗したる事を云ふ
なめす　人を苦しめたる事を云ふ。
いす　惡事を密告する事を云ふ。
ばれた　露顯せし事を云ふ。
ざるを　共犯者に分前を渡さぬ事を云ふ
いりをける　扉を外す又は破る事を云ふ
まくをこえる　塀又は柵を越える事を云ふ。
たんかをあげる　人を脅迫する事を云ふ
はなをとる　錠を破る事を云ふ。
こぶる　錠を切り開く事を云ふ。
てらつける　放火する事を云ふ。
ねすまきにあつた　多人數に追捕される

事を云ふ。
めんぐれ　世人に犯罪者なるを知られ其の他に居住し得ざる事を云ふ。
けんじる　戸外から窺い居る事を云ふ。
ぎる　物品を窃取する事を云ふ。
どをろく　自分を云ふ。
なめぬ　仕事に精勵する事を云ふ。
へいぐも　密かに巡回して來る事を云ふ
すもをいかした　成遂げたる事を云ふ
さんしよう　隱語を云ふ。
ぼれた　零落したる事を云ふ。
とは　尻押の事を云ふ。
とひがかまる　人の來たる事を云ふ。
うきすどーろく　船頭を云ふ。
やちばらし　娼妓置屋の事を云ふ。
おに　惡徒を云ふ。
ふける　他へ去る事を云ふ。
どめる　物品を隱匿する事を云ふ。
うきすにのる　乘船する事を云ふ。
まきにあわせる　人を縛する事を云ふ。
ずんぶる　入浴する事を云ふ。
じめられた　捕縛せらるゝ事を云ふ。
かくし　手錠を云ふ「えんこう」とも云ふ
ながむし　綱を云ふ。
おかる　梯子を云ふ。

てこ　箸を云ふ。
てらつて　硝子を云ふ。
どす　刀劍を云ふ。「ちやか」とも云ふ。
ばらし　刄物を云ふ。
こぶり　扉を切るに用ゆる刄物を云ふ。
はな　錠を云ふ。
からす　墨を云ふ。
こうぼう　筆を云ふ。
ひつじ　紙を云ふ。
なで　箒を云ふ。
てつぽう　煙管を云ふ。
つゝみ　風呂敷を云ふ。
すいびら　手拭を云ふ。
てんかつ　帽子を云ふ。
さしいれ　手袋を云ふ。
ほそ　捕繩を云ふ。
ほやく　飲食なす事を云ふ。
きす　酒を云ふ。
くりから　麥を云ふ。
きろべい　魚を云ふ。
しやく　米を云ふ。
はかね　米飯を云ふ。「さるのきば」とも云ふ。
どじぼう　芋を云ふ。
しやり　米を云ふ。

てんだい　餅を云ふ。
ぼうず　握飯を云ふ。「ほけつ」とも云ふ
まんす　大根を云ふ。
あかまんす　人蔘を云ふ。
もや　煙草を云ふ。
きす　酒を云ふ。
めつた　牛肉を云ふ。
はだし　鷄肉を云ふ。
しやり　飯を云ふ。
すい　水を云ふ。
だるま　豆を云ふ。
どち　芋を云ふ。
しゆうらん　汁を云ふ。
はりま　酢を云ふ。
ほつけぼうず　握飯を云ふ。
ほやく　飯を食する事を云ふ。
むらさき　醤油を云ふ。
とろ　油を云ふ。
そうびそ　味噌を云ふ。
きつねのかわ　獄衣を云ふ。
びら　衣服を云ふ。「てんがい」とも云ふ
まむし　帶又は褌を云ふ。
ふわ　絹布を云ふ。

やいん 股引を云ふ。
しや〳〵いり 法被を云ふ。
やちかくし 腰卷を云ふ。
よしこかくし 褌を云ふ。
げそぶくろ 足袋を云ふ。
うすらん 襦袢を云ふ。
ぐり 帶を云ふ。
あをち 羽織を云ふ。
やいん 巡査を云ふ。
はだし 探偵を云ふ。「けんぴ」とも云ふ
やいんづき 巡査が追跡する事を云ふ。
すねぐろ 巡査を云ふ。「あしぐろ」とも云ふ。
にんやく 獄吏を云ふ。
をに 嚴格なる吏員を云ふ。
おぞう 緩やかなる吏員を云ふ。
いそがかまる 役人の來る事を云ふ。
いそがふける 役人が去る事を云ふ。
なまづ 官吏を云ふ。
ばれる 死亡せる事を云ふ。
げそ 足を云ふ。
くろ 頭髪を云ふ。
めん 顔を云ふ。
さし 手を云ふ。
さんがつ 鼻を云ふ。
きくらげ 耳を云ふ。
とつ 齒を云ふ。
ぴーどろ 目を云ふ。
がらす 目を云ふ。
げそ 足を云ふ。
とつぱく 口を云ふ。
こうひん 丁年以上のものを云ふ。
こがく 未丁年者を云ふ。
ばひた 女房を云ふ。
そろろく 亭主を云ふ。
こうひん 老人を云ふ。
がり 子供を云ふ。
やちがれ 娘を云ふ。
ばいしよう 小兒を云ふ。
めす 農夫を云ふ。
どうろく 父親を云ふ。
ばした 母親を云ふ。
ぴり 下婢を云ふ。
げぞう 善人を云ふ。
はくひ 美人を云ふ。
ばあ 不美人を云ふ。
ちようろく 藏を云ふ。
すいばれ 降雨を云ふ。
てら 晴天を云ふ。
わたがばれる 降雪を云ふ。
なみのはなはくい 汐時のよき事を云ふ
なみのはなくや 汐時の惡しき事を云ふ
がんぐれ 曇天を云ふ。
ばひ 牛馬を云ふ。
しかば 馬を云ふ。
はだし 犬を云ふ。
みやうひん・猫を云ふ。
めづた 牛を云ふ。
ひんば 馬を云ふ。
けんぴ 犬を云ふ。「しうとめ」とも云ふ
はだし 鷄を云ふ。
とんがり 鼠を云ふ。

●德島縣隱語

へが 糞を云ふ。
かまる 竊盜すべく忍込む事を云ふ。
だいがあがる 見附ける事を云ふ。
ふける 逃げる事を云ふ。
ふんごろ 緣の下から忍込む事を云ふ。
からすて 戸を燒拔く事を云ふ。
どべる 物品を隱匿する事を云ふ。
かこう 物品を竊取する事を云ふ。
ほやく 食事する事を云ふ。
ねつひく 合圖を云ふ。

かまる　人家に入る事を云ふ。
とろく　殺害して金品を奪ふ事を云ふ。
ふく　女を隱す事を云ふ。
おかるでゆく　二階から他家へ行く事を云ふ。
たんかいをひらいてゆく　戸を開いて行く事を云ふ。
いりつける　窃取なすべく忍込む事を云ふ。
てらなます　放火する事を云ふ。
やちとがりをじめにかける　女と子供を縛る事を云ふ。
どすをのむ　刀を懷中にする事を云ふ。
ものしろかとふて六一にふむ　贓品を入質する事を云ふ。
やばい　人が見に來る事を云ふ。
さんか　山で寢る事を云ふ。
だいあがつた　認められる事を云ふ。
おかる　二階より入る事を云ふ。
しきうつ　橋下又は河原で寢る事を云ふ。
ばらす　賣る事を云ふ。
べかばへばらす　厠へ物を捨てる事を云ふ。
がりをつなぐ　小兒の面を見る事を云ふ
せずておる　寢る事を云ふ。

ちめんを入れる　縛する事を云ふ。
うきすにのる　乘船する事を云ふ。
たんかばとる　起て居る事を云ふ。
ぞてる　寢てる事を云ふ。
やちの家へかまる　女の家へ行く事を云ふ。
けんかい　書籍を云ふ。
むしかむ　入監する事を云ふ。
ひかばい　少い事を云ふ。
へがでもやほやく　厠で煙草を喫する事を云ふ。
ぼろい　多い事を云ふ。
かたん　人を使ふに日の見えぬ役人を云ふ。
をんわろて　地盤、繩張りを云ふ。
なくひん　銃器を云ふ。
ばらし　出刄庖丁を云ふ。
てんがい　笠を云ふ。
かんたん　杭を云ふ。
たんか　戸を云ふ。
ぼろい　良き物品を云ふ。
ひかわい　惡しき品を云ふ。
げそ　下駄を云ふ。
もやいれ　煙草入れを云ふ。
からす　墨を云ふ。

ひんばさ　骨牌札を云ふ。
しんたいれ　財布、錢入れを云ふ。
たかてら　蠟燭を云ふ。
ぞろ　鍋を云ふ。
こぶり　庖丁を云ふ。
がた　鋏を云ふ。
はな　錠を云ふ。
あいぬ　鍵を云ふ。
けいちやん　時計を云ふ。
ばらし　小刀類を云ふ。
さぐり　戸の隙間に入れて施錠を外すに用ゆる竹篦の如きものを云ふ。
げぢ　戸を外すに用ゆる器具を云ふ。
みづてつぼう　煙管を云ふ。
しか　箸を云ふ。
こつ　骨子を云ふ。
ひつじ　紙を云ふ。
すいびら　手拭を云ふ。
しんた　錢を云ふ。
しやりはん　米飯を云ふ。
くりからはん　麥飯を云ふ。
てんがい　餅を云ふ。
だるま　豆を云ふ。
きす　酒を云ふ。
彌助　鮓を云ふ。

むらさき　醤油を云ふ。
そうひん　味噌を云ふ。
あまあぼ　砂糖を云ふ。
きゅうべい　魚を云ふ。
まんす　大根の漬物を云ふ。
あらあぼ　漬菜を云ふ。
くろとり　茄子を云ふ。
じゅうらん　汁を云ふ。
ぼをぶら　南瓜を云ふ。
ばいぼく　薩摩芋を云ふ。
たてばいぼく　里芋を云ふ。
なまこ　黄瓜を云ふ。
ほやてん　汁を云ふ。
ほやきもの　食物を云ふ。
はんぴら　襦袢を云ふ。
ぼたん　綿入を云ふ。
ぐる　帶を云ふ。
げそぶくろ　足袋を云ふ。
きおんびら　單衣を云ふ。
たこびら　股引を云ふ。
よしこびら　褌を云ふ。
をにびら　蚊帳を云ふ。
かくらん　蒲團を云ふ。
うどんや　巡査を云ふ。
つなた　草鞋を云ふ。

いぬ　探偵を云ふ。
やばい　役人の來たる事を云ふ。
にんしんのめかがみ　古手役人を云ふ。
だいこんのめかがみ　新役人を云ふ。
ばらり「役人の馬鹿」と云ふ意。
りやん　士族官吏を云ふ。
たんす　尻を云ふ。
どうろく　男を云ふ。
やち　女を云ふ。
はらり「阿呆」との意。
ねす　素人を云ふ。
をしこ　隱居を云ふ。
へがねす　百姓を云ふ。
うきす　船を云ふ。
さんしよぼ　臺所を云ふ。
おかる　二階を云ふ。
ちようろく　藏を云ふ。「むすめ」とも云ふ。
べか　壁を云ふ。
がぐん　晴夜を云ふ。
すえばん　降雨の夜を云ふ。「しよや」とも云ふ。

●福岡縣隱語

ほやく　食事をなす事を云ふ。
ばらす　殺害する事を云ふ。但し「ばらす」とは物品を捨てる事を云ふ。例へば窃盗を働き贓品を得て其場を去らんとするときに警官に出合ひて之を包藏す事能はざるより捨去る事を云ふ。即ち此の「捨てる」が「切捨る」に轉じたるものなるべし。
このはづきんをかぶらす〔木葉頭巾被〕　人を殺害して土中に埋め其の上に木葉を播散らして置く事を云ふ。
がやうつ　潜伏する事を云ふ。
ける　逃走する事を云ふ。「ふける」、「まう」等とも云ふ。
やばい　危險なる事を云ふ。
りしきる　鷄姦する事を云ふ。
りしをぎりをる　鷄姦して居るとの意。
りしをぎらす　鷄姦をさせるとの意。
やちをふく　男女交合する事を云ふ。
しんとくないやちをぎる　強姦する事を云ふ。「しんとく」は「得心」の音節の轉換なり。
いしわり〔石割〕　強盗犯を云ふ。往時京阪地方に強盗横行せしより各家、戸締を嚴重にせしかば、賊等石にて門戸を

破り侵入したるよりかく云ふ。「かぐらおどり、おどりこみ、しちがつ、がつしち」等皆同意。

ながつなびき　牛馬を窃盗する事を云ふ

ほやきし　窃盗犯を云ふ。「かいしようにん、くかいにん、しのびし」等皆同意。

もさびき　掏摸を云ふ。「ぼちし」とも云ふ。

あきすふみ　「あきすねらひ」に同じ。

あがりふんだ　窃盗をなしたとの意。

まんやいした　窃盗を働らきたる事を云ふ。

ちようろく　土蔵破りを云ふ「きり、ぶんこし」等とも云ふ。

じんどうし　米倉を破り窃取なす者を云ふ。

ぜんこーじびき（善光寺引）　米倉を破り窃取なす事を云ふ。善光寺へ参りがけより戻りの方が有難いと云ふ。何故ならばお手判を受けて帰れる故なり、故に米を「お手判」とも云ふ。

ちようろくにひんがかまつてる　蔵の中に金がはいつて居るの意。

かばん　見張りを云ふ。「けんじる」とも云ふ。

ちようろくをわつたれどもひんはかまらず　蔵は破つたが金は無かつたとの意

ごみし　筆、墨、其他を携へて押賣りをなすものを云ふ。

こつぱこたかいたんかばる　高聲にて話をする事を云ふ。

にくばらす　笑ふ事を云ふ。

ずいこぼした　泣く事を云ふ。「うれえ」とも云ふ。

ごてんをばらす　賭博をなす事を云ふ。

むしにかまる　投獄せらる事を云ふ。

ながむしをうつ　長く在獄する事を云ふ

せぶる　眠る事を云ふ。

はなまへをこなす　施錠を外す事を云ふ「はなまへをどる」とも云ふ。

あかねこばらす　放火する事を云ふ。

じめる　縛する事を云ふ。

高くふけつた　遠く逃げる事を云ふ。

ぎる　奪取する事又は窃取する事を云ふ

ぐちをわつた　自白する事を云ふ。

しらちらんかける　月夜に忍込む事を云ふ。

げそをすふ　隣房にて悪事をなし居る時故意に看守に訴願其他の申立てをなし足止めする事を云ふ。

ちようろくをぎりかまりびらをぎつた　土蔵を破つて衣服を窃取したとの意。

べかをばらしかまる　壁を破つて忍入つたとの意。

こうひんせぶらずぎらずにふける　忍入りたるも老人眠らざる故窃取せず逃走したとの意。

しや〳〵をあんばえる　手紙を認め　事を云ふ。

しや〳〵をはわす　手紙を遣る事を云ふ

しや〳〵がはつた　手紙を遣つたとの意

しや〳〵がほうたことが、ぐれかゝつたから、にんやくにけんじられること、なかれ　手紙を遣つた事が知れかゝつたから役人に目付けられる勿れとの意。

りはがまわつたからやばい　見張りの役人が廻つて居るから危険だとの意。

まはにどめた　濱に潜んだとの意。

じやはいにせぶつた　宮に露宿したとの意。

にざえもんをつる　贓物を運搬する事を云ふ。

ほとけにせぶつた　御堂に寝る事を云ふ

ぎうひき　犯罪場所を教示するものを云ふ。「ぢびき」とも云ふ。

しやとはらまへてふけろう　自分と二人で行こうとの意。
ばられる　腰巡せらる事を云ふ。
つなぎにかまつた　面會に來たと云ふ事を云ふ。
かいめんにかまつてなしをうつた　面會に來て話をしたとの意。
さんしよう　窃盜犯を云ふ。
わらう　放免になる事を云ふ。
かゝる　捕縛せられたる事を云ふ。
ける　逃走する事を云ふ。
こぶる　物を破る事を云ふ。
せぶる　僞病を云ふ。
ひかあな　惡事をなすことを云ふ。
めんぐれ　顏を知つて居る事を云ふ。
てどる　窃盜犯を云ふ。
けんじる　見る事、窺ふ事を云ふ。
たんくつゝく　人と會談する事を云ふ。
うらのたんかよりいる　裏口より忍入る事を云ふ。
ぐどうにてあんばえる　人に負傷さす事を云ふ。
ごいがまり　日暮れに忍入る事を云ふ。
びらやま　衣服を窃取する事を云ふ。
どや　犯罪者、無賴の徒の宿を云ふ。「しきば」とも云ふ。
がむる　窃取する事を云ふ。
てらし　火の事を云ふ。
ひがひつがや　「糞喰へ」との意。
ほうひん　田舍を云ふ。
ならび　町を云ふ。
さんしよう　鋸を云ふ。「けじ、むかで、あさくら、ぞろ」等皆同意。
さぐり　施錠の箇所を搜がすに用ゆる竹箆の如きものを云ふ。
げじ　扉を外すに用ゆる器具にて一方は錐、一方は鑿の如くなりたるものを云ふ。
こぶり　戸を切破る器具を云ふ。
ようじ　施錠を外すに用ゆるものにて其形、楊子に酷似せるものなりと。
てつぽう　突き錠を外すに用ゆる器具を云ふ。
あいす　鍵を云ふ。
かり　合鍵を云ふ。
はな　錠を云ふ。
てらぶくろ　提燈を云ふ。
がち　捕縛せられたる時に捕繩を切りて逃げる爲めに剃刀を一寸二分位に切りて常に所持して居るものを云ふ。殊に褌の中に包藏する事多しと。
くろがらす　墨を云ふ。
しか　筆を云ふ。「ごーぼう」とも云ふ。
ひつじ　紙を云ふ。
うみ　硯を云ふ。
きひん　椀を云ふ。
せきせん　茶椀を云ふ。
にもく　箸を云ふ。「ほく、わたり」とも云ふ。
てつぽう　煙管を云ふ。
こぶり　小刀を云ふ。
ばらし　庖丁を云ふ。
かんたん　枕を云ふ。
なで　箒を云ふ。
まつば　針を云ふ。「むすめ」とも云ふ。
ほそ　糸を云ふ。
そうめん　繩又は元結を云ふ。
げそ　履物を云ふ。
つなぎ　書籍を云ふ。
かもじ　手紙を云ふ。
十三　櫛を云ふ。櫛を九四と書き九と四を合算すれば十三となる故。
てらび　鐵砲を云ふ。「なりびん」とも云ふ。
かりた　簞笥を云ふ。

ながはん　長持を云ふ。
とだ　戸棚を云ふ。
すべり　莚類を云ふ。「ざこ」とも云ふ。
ほした　莚を云ふ。「十八」とも云ふ。
けーと　時計を云ふ。
まんじゆー　懐中時計を云ふ。
かる　梯子を云ふ。
よしつね　釜を云ふ。
べんけい　鍋を云ふ。
ひん　金貨を云ふ。
やへい　紙を云ふ。「ぶんはん」とも云ふ
すぶた　錢を云ふ。
こつ　骨子を云ふ。
しば　骨牌を云ふ。「ひつじ」とも云ふ。
もりこのてんがい　蝙蝠傘を云ふ。
ぐどー袋　「ぐどー」は道具の音節の轉換にて道具袋の事、忍込窃盗に必要なるものを入れたるものを云ふ。
よいちべい　財布を云ふ。
がた　掏摸が所持する小刀を云ふ。
がに　掏摸が所持する鋏を云ふ。
めんす　鏡を云ふ。
すいはらし　剃刀を云ふ。
すりや　鑪を云ふ。
さをてら　蠟燭を云ふ。

ようほう　風呂敷を云ふ。
いかなご　釘を云ふ。
てんがいぼう　箒を云ふ。
おきやく　膳を云ふ。
ひつくり　徳利を云ふ。
てんすい　土瓶、鐵瓶を云ふ。
どんぶり　風呂を云ふ。
にが　賣藥を云ふ。
さんしよちぼ　衣服の裏を云ふ。
しろみ　衣服の表を云ふ。「しろ」とも云ふ。
すいびら　手拭を云ふ。
がつたり　茶碗類を云ふ。
どす　刀劍類を云ふ。
がつてん　算盤を云ふ。「くるま」とも云ふ。
しやりはん　白飯を云ふ。
くりからはん　麥飯を云ふ。
だいこく〔大黑〕　玄米を云ふ。
みがきじやり　白米を云ふ。
きす　酒を云ふ。
むらさき　醬油を云ふ。「ゆうじよ」とも云ふ。
きゆうべい　魚を云ふ。
じうらん　汁を云ふ。「どうしやく」とも云ふ。

づみ　水を云ふ。
かんねつ　湯を云ふ。
そうひん　味噌を云ふ。
てんだい　餅を云ふ。「ねつてつ」とも云ふ。
まんす　大根を云ふ。「こんぴら」とも云ふ。
あかまんす　人蔘を云ふ。
だるま　豆を云ふ。
ろくやた〔六彌太〕　大豆を云ふ。
きんとき　小豆を云ふ。
しろた　豆腐を云ふ。
ろくやた　豆腐を云ふ。
おたてやま　豆腐の糟を云ふ。
とぢぼう　芋を云ふ。「ぼーひん」とも云ふ。
かりす　蛸を云ふ。「ばけ」とも云ふ。
らきい　干魚を云ふ。
をんやます　鰹を云ふ。
てられくゆうべい　燒魚を云ふ。
くろまんす　牛蒡を云ふ。
こんぴらづけ　漬物を云ふ。「つけとれす」とも云ふ。
よこまくら　瓜を云ふ。

たまみづ　西瓜を云ふ。
くろとり　茄子を云ふ。
いざり　南瓜を云ふ。
あてた　茶を云ふ。
すやり　葱を云ふ。
はんさみ　副食物を云ふ。
やさ　酢を云ふ。
もや　煙草を云ふ。
きはん　飯を云ふ。
だらりきはん　粥を云ふ。
きんつば　團子を云ふ。
どひよう　穀物を云ふ。
ぐり　麥を云ふ。
さんかく〔三角〕　蕎麥を云ふ。
かずらぼーひん　琉球芋を云ふ。
じやな　椒を云ふ。
せんぶり　茶を云ふ。
むらさきとり　茄子を云ふ。
かすらまるてん　瓜類を云ふ。
たんぽこ　魚類を云ふ。
さんせんぼう　粟を云ふ。
きまるてん　柿を云ふ。
きだるま　櫨の實を云ふ。
ふわもの　綿物を云ふ。
びら　衣服を云ふ。

とまでもひろいにゆかん　衣服を窃取に行こうとの意。「とま」は苫にて雨露を凌ぐもの故衣類の稱となる。
げんざいもん　婦人用衣服を云ふ。
どうろくもん　男子用衣服を云ふ。
がりひ　兒童服を云ふ。
やちがりひ　女兒服を云ふ。
かくびら　蒲團の事を云ふ。「かくらん」とも云ふ。
そこなし　蚊帳を云ふ。「おにびら」とも云ふ。
けぬき　袷を云ふ。
うすべら　單物を云ふ。
はんびら　襦袢を云ふ。「だはびら」とも云ふ。
たこびら　股引を云ふ。
げそぶくろ　足袋を云ふ。「げそびら」とも云ふ。
七寸　羽織を云ふ。
ぐる　帶を云ふ。「名古屋」とも云ふ。
よしこびら　褌を云ふ。
やちびら　腰卷を云ふ。
ぎおんびら　單物を云ふ。
だるま　半纏を云ふ。
まし　綿を云ふ。

すりか　飛白を云ふ。
てりもの　赤き絹物を云ふ。
だるま　短衣を云ふ。
おがみ　袷を云ふ。
てんじやうびら　蚊帳を云ふ。
にんやく　役人を云ふ。
どうろく　一家の主、長、たるもの丶稱なるより典獄、警察署長等を云ふ。
ちやか　劍を帶る役人即ち警官、看守等を云ふ。
かまる　刑務所書記を云ふ。
いちのじ　巡査を云ふ。「ほつそり」とも云ふ。
にんやくのげそがはやいから、こつちのげそもはやめにやいかん　「役人の足が早いから此方の足も早めねばならん」との意。
にんやくがめんかいにきた　役人が顏を見にきたとの意。
にんやくがかまる　役人が來る事を云ふ
おやじがかまる　典獄が巡回する事を云ふ。
つないだ　巡回の多き事を云ふ。
にんやくをほやかす　一役人に一ぱい喰わす」との意。

●福岡縣

●福岡縣

ちようたのにんやくがかまる　「馬鹿な役人、来た」との意。
このにんやくはねすだ　此の役人は新任だとの意。
あのにんやくはけんじがはくい　「あの役人は眼が早い」との意。
あのにんやくはろつぷくはくい　「あの役人は腹がしつかりして居る」の意。
あのにんやくはきすにふれてゐる　「あの役人は酒に醉つて居る」との意。
ごろこし　官吏を云ふ。
うわごろこし　上級官吏を云ふ。
したばこし　下級官吏を云ふ。
ぴーどろ　目を云ふ。「てんじん」とも云ふ。
こつぱ　口を云ふ。
れんこん　鼻を云ふ。「三月」とも云ふ。
きくらげ　耳を云ふ。
いし　歯を云ふ。
こんにやく　舌を云ふ。
えんこ　手を云ふ。
げそ　足を云ふ。
ろつぷく　腹を云ふ。
りし　尻を云ふ。
めんす　顏を云ふ。

ひでんぼう　淫具を云ふ。「よしこ」とも云ふ。
やち　女陰を云ふ。
ぺてん　頭を云ふ。
げひ　毛を云ふ。髭の音節の轉換なり。
さかり　乳を云ふ。
ねす　素人を云ふ。
ばした　妻を云ふ。「したば」とも云ふ。
なではち　僧侶を云ふ。「かりす」とも云ふ。
やちかりす　尼僧を云ふ。
せんぶり　醫者を云ふ。「さじ」とも云ふ
かりひん　小兒を云ふ。「えごさく」、「えご」とも云ふ。
やち　女を云ふ。
やちかり　女兒を云ふ。
こじ　人を云ふ。
せんぶりこじ　醫者を云ふ。
かやりこじ　俳優を云ふ。
あかやいん　血を云ふ。
をしふんこじ　馬鹿者の事を云ふ。
むすびてとり　相撲取りを云ふ。
うきす　舟を云ふ。
しは　橋を云ふ。
ほんがまり　本家を云ふ。

おこめ　土藏を云ふ。「ぶんこ、ちようろくむすめ」等皆同意。
善光寺がまり　米倉を云ふ。
たんか　戸口を云ふ。
べか　壁を云ふ。
がもん　門を云ふ。「たて」とも云ふ。
はち　藏の窓を云ふ。藏の窓には金網が張つてあるより。
ひかば　厠を云ふ。
しやはい　神社を云ふ。
ほとけ　御堂の類を云ふ。
ぜんす　寺院を云ふ。
けしやうぶんこ　白壁土藏を云ふ。
しやへい　神社を云ふ。
ちくのおーて　籬を云ふ。
かぶれ　晴夜を云ふ。
しらてら　月夜を云ふ。
あらばれ　晴天を云ふ。
すえばれ　雨天を云ふ。
ずみばた　川原を云ふ。
あたち　原を云ふ。
白水　雨を云ふ。
ぼたん　雨を云ふ。
ずんぶり　池を云ふ。
こはばた　海濱を云ふ。

しやば 夜を云ふ。
てらかがり 闇夜を云ふ。
けんび 犬を云ふ。「はだし」とも云ふ。
ばひん 馬を云ふ。
くろげ 牛を云ふ。
ながやえん 蛇を云ふ。
すれやん 鼬を云ふ。
をしやま 猫を云ふ。「ひこべい」とも云ふ。
ちうすけ 鼠を云ふ。
ろわけんび 狆を云ふ。
よつごろう 犬を云ふ。
みのさき〔巳の先〕 馬を云ふ。
ねのさき 牛を云ふ。
とまり 鶏を云ふ。「けいらん」とも云ふ。
やえん 猿を云ふ。

●長崎縣隱語

ける 逃走する事を云ふ。
あかまる〔赤丸〕 火を云ふ。
がち 撃折せる事を云ふ。
をけほうめん〔桶放免〕 在監人の死亡せし事を云ふ。
こづめ〔小詰〕 小便を云ふ。
おうづめ〔大詰〕 大便を云ふ。
ねこ〔猫〕 目の付く事を云ふ。
とんり 目の見えぬ事を云ふ。
てつぽう〔鐵砲〕 煙管を云ふ。
まつば〔松葉〕 針を云ふ。
ほゝき〔箒〕 筆を云ふ。
うまのしりげ〔馬の尻毛〕 毛を云ふ。
ぼーず〔坊主〕 燐寸の軸木を云ふ。
きゆうべい 魚を云ふ。
つちしやう 米の黒き事を云ふ。
しらきのじやう 白き米を云ふ。
もや 煙草を云ふ。
きす 酒を云ふ。
えんま〔閻魔〕 獄吏の總稱。
さぎ〔鷺〕 看守を云ふ。
からす〔烏〕 押丁を云ふ。
おーゆび〔大指〕 上官の事を云ふ。

性的隱語

●性的隠語

あし　婦人を云ふ。
あいさん　婦人を云ふ。
きつびん　婦人を云ふ。（博徒用語）
くのいち　婦人を云ふ。
げん　婦人を云ふ。
たん　婦人を云ふ。
ちんすけ　婦人を云ふ。
びり　婦人を云ふ。
なご　婦人を云ふ。
なを　婦人を云ふ。
なをすけ　婦人を云ふ。
はした　婦人を云ふ。
はつすい　婦人を云ふ。
ぼんた　婦人を云ふ。
まつちん　婦人を云ふ。
めこ　婦人を云ふ。
めひ　婦人を云ふ。
やち　婦人を云ふ。
れえと　婦人を云ふ。
やごめ　未亡人を云ふ。
ふツつう　温順なる婦女を云ふ。
よめ　年増女を云ふ。
ばしく　年増女を云ふ。

ほどし　年増女を云ふ。
くさだし　醜婦を云ふ。
がりかまり　姫婦を云ふ。
びりごけ　淫奔なる婦女を云ふ。
げんまいあたま　姦婦又は情婦を云ふ。
びなら　姦婦又は情婦を云ふ。
まぶ　情夫を云ふ。
しよれ　情夫を云ふ。
ぎぼ　内縁の夫婦を云ふ。
げんさい　妻を云ふ。
とうした　妻を云ふ。
したば　妻を云ふ。
ださま　上流の夫人を云ふ。
きやはん　山窩を云ふ。
かな〳〵　美人を云ふ。
げん　美人を云ふ。
たい　美人を云ふ。
ださま　美人を云ふ。
つぼね　美人を云ふ。
ぼね　美人を云ふ。
はく　美人を云ふ。
はんとり　美人を云ふ。
はくいやち　美人を云ふ。
まひげんじ　美人を云ふ。
いだ　處女を云ふ。

こちじろ　處女を云ふ。
すめ　處女を云ふ。
いたば　若き女を云ふ。
いんた　若き女を云ふ。
どろ　若き女を云ふ。
こいた　若き女を云ふ。
さんか　若き女を云ふ。
しん　若き女を云ふ。
しんすけ　若き女を云ふ。
ちんまい　若き女を云ふ。
つる　若き女を云ふ。
ばび　若き女を云ふ。
びんちや　若き女を云ふ。
めろう　若き女を云ふ。
ごうどう　若嫁を云ふ。
ぞしん　若嫁を云ふ。
ひらつけ　若嫁を云ふ。
あね　藝妓を云ふ。
いかもの　藝妓を云ふ。
いなか　藝妓又は酌婦を云ふ。
をんちま　藝妓又は酌婦を云ふ。
をしやま　藝妓、酌婦を云ふ。
をやまばらし　藝妓又は酌婦を云ふ。
ぎ　藝妓を云ふ。
げいしゆう　藝妓を云ふ。

しやも　藝妓を云ふ。
しげま　藝妓を云ふ。
しやげい　藝妓を云ふ。
しんげえる〔Singer〕　藝妓を云ふ。（學生語）
げる　藝妓を云ふ。（學生語）
ちんすけ　下流藝妓を云ふ。
つま　藝妓を云ふ。
つよぎ　藝妓を云ふ。
どぼ　藝妓、酌婦、仲居を云ふ。
どてつ　藝妓を云ふ。
ともきち　藝妓を云ふ。
ねこ　藝妓を云ふ。
びる　藝妓、酌婦、賣春婦を云ふ。
びるまる　藝妓、酌婦を云ふ。
もときち　藝妓を云ふ。
やあちやん　藝妓を云ふ。
びー〔P〕　藝妓、娼妓、賣春婦を云ふ。
ひようさい　藝娼妓を云ふ。
しやりま　酌婦を云ふ。
ちんころ　田舍の酌婦を云ふ。
かツぽう　酌婦、仲居を云ふ。
やちやなお　仲居を云ふ。
にく　飯盛女を云ふ。
ぴん　飯盛女を云ふ。

ふりそで　飯盛女を云ふ。
あげまき　娼妓を云ふ。
をやま　娼妓を云ふ。
かのじ　娼妓を云ふ。
ころび　娼妓、下流藝妓、賣春婦を云ふ
しやびい　娼妓を云ふ。
しよしや　娼妓を云ふ。
しようしや　娼妓を云ふ。
そうか　娼妓、賣春婦を云ふ。
すべた　娼妓、賣春婦を云ふ。
すけろく　娼妓を云ふ。
はぐろ　娼妓、賣春婦を云ふ。
びり　娼妓を云ふ。
びく　娼妓を云ふ。
てらし　娼妓を云ふ。（阪神地方）
べけ　娼妓を云ふ。
やん　娼妓を云ふ。
らん　娼妓を云ふ。
びりけん　娼妓を云ふ。
びツつり　娼妓、賣春婦を云ふ。
やはた　娼妓を云ふ。
まぶびり　娼妓を云ふ。
いくじま　賣春婦を云ふ。
うー〔W〕　賣春婦、藝娼妓を云ふ。（關東不良少年語）

おみつ　賣春婦を云ふ。
かいよ　賣春婦を云ふ。
かすびり　賣春婦又は下流酌婦を云ふ。
かもくび　賣春婦、下流酌婦を云ふ。
きつね　賣春婦、酌婦を云ふ。
くさもち　賣春婦を云ふ。
ぐや　賣春婦を云ふ。
くわせもの　賣春婦又は下流酌婦を云ふ
ごけ　賣春婦を云ふ。
とも　賣春婦を云ふ。
こもかぶり　賣春婦を云ふ。
ざるそば　賣春婦を云ふ。
しろくび　賣春婦を云ふ。
しやじ　賣春婦を云ふ。
しろゆもじ　賣春婦を云ふ。
すけ　賣春婦を云ふ。
そば　賣春婦を云ふ。
さぼじ　賣春婦を云ふ。
たち　賣春婦を云ふ。
ちやぶ　賣春婦を云ふ。
だんご　賣春婦又は曖昧酌婦を云ふ。
だんまり　賣春婦を云ふ。
ぢごく　賣春婦を云ふ。
つぼつき　賣春婦又娼妓を云ふ。
とべた　賣春婦を云ふ。

にせん　賣春婦を云ふ。
ぬけくび　賣春婦を云ふ。
ばい　賣春婦を云ふ。
はんぼ　賣春婦を云ふ。
ばいすけ　賣春婦を云ふ。
びい　賣春婦を云ふ。
ねずり　賣春婦、又は娼妓を云ふ。
びりつり　賣春婦を云ふ。
ふんばり　辻賣淫婦を云ふ。
べけ　賣春婦を云ふ。
ほたる　辻賣淫婦を云ふ。
ぼうだち　賣春婦を云ふ。
ませびり　賣春婦を云ふ。
ばり　賣春婦をふ云。
まごぶい　賣春婦を云ふ。
みづひき　賣春婦を云ふ。
もん　辻賣淫婦を云ふ。
やち　賣春婦を云ふ。
やちぼらし　賣春婦を云ふ。
よだか　賣春婦を云ふ。
ろくじぞう　辻賣淫婦を云ふ。
やばなを　賣春婦を云ふ。
やちばい　賣春婦を云ふ。
かすびり　賣春婦を云ふ。
かもくび　賣春婦を云ふ。

たるま　賣春婦を云ふ。
（但し以上の賣春婦は密賣淫婦。辻賣淫婦は辻密賣淫婦の事なり）
おばけ　遊廓にて遊興する事を云ふ。
けまつり　右に同じ。
しやぼつり　右に同じ。
ずい　右に同じ。
つりこむ　右に同じ。
とんねるにはいる　右に同じ。
ねごみ　右に同じ。
のべ　右に同じ。
びりつり　右に同じ。
びくつり　右に同じ。
やちばらし　右に同じ。
いこす　戀慕する事を云ふ。
うりな　右に同じ。
たまま　右に同じ。
たれこむ　右に同じ。
でれる　右に同じ。
たかげたはいてくびツたけ　右に同じ。
びりこけ　右に同じ。
むさぼらし　右に同じ。
やちぐれ　右に同じ。
れほ　右に同じ。
げんぞう　陰莖を云ふ。

げんき　陰莖云をふ。
さべ　陰莖を云ふ。
でび　陰莖を云ふ。
てひぼ　陰莖を云ふ。
でも　陰莖を云ふ。
でし　陰莖を云ふ。
でれすけ　陰莖を云ふ。
びでんぼう　陰莖を云ふ。
ふいご　陰莖を云ふ。
ふくべばあ　陰莖を云ふ。
れじ　陰莖を云ふ。
よしこ　陰莖を云ふ。
つり　陰莖を云ふ。
いのしゝ　陰門を云ふ。
きつぴん〔吉品〕　陰門を云ふ。
ふいご　陰門を云ふ。
した　陰門を云ふ。
したくち〔下口〕　陰門を云ふ。
ちび　陰門を云ふ。
つび　陰門を云ふ。
はま　陰門を云ふ。
びい　陰門を云ふ。
びく　陰門を云ふ。
ふくべ　陰門を云ふ。
べべ　陰門を云ふ。

やち　陰門を云ふ。
やげ　陰門を云ふ。
やけく　陰門を云ふ。
やちばこ　陰門を云ふ。
じゆういちばん〔十一番〕　接吻を云ふ。（學生語）
うわくち〔上口〕　接吻を云ふ。
びる〔唇〕　接吻を云ふ。（女學生語）
ます　手淫を云ふ。（學生語）
せんずり〔千摺り〕　手淫を云ふ。
へんずり　手淫を云ふ。
ろーそく〔蠟燭〕　手淫を云ふ。
あんもく〔暗默〕　男女交合する事を云ふ
あいかぎあわす〔合鍵を合す〕　男女交合する事を云ふ。
いんこ　男女交合する事を云ふ。
えんこ　男女交合する事を云ふ。
かんらく　男女交合する事を云ふ。
けあい　男女交合する事を云ふ。
けんでもる　男女交合する事を云ふ。
せんれい　男女交合する事を云ふ。
つぼやき　男女交合する事を云ふ。
どれあい　男女交合する事を云ふ。
びる　男女交合する事を云ふ。
びくひく　男女交合する事を云ふ。

びり　男女交合する事を云ふ。
かまり　男女交合する事を云ふ。
へぐる　男女交合する事を云ふ。
べこつく　男女交合する事を云ふ。
やちをふく　男女交合する事を云ふ。
やちはくい　男女交合する事を云ふ。
よめ　男女交合する事を云ふ。
あんこ　鷄姦する事を云ふ。
いち　鷄姦する事を云ふ。
えつち〔H〕　鷄姦する事を云ふ。（不良少年語）
おめ　鷄姦する事を云ふ。
おかま　鷄姦する事を云ふ。
おかまほり　鷄姦する事を云ふ。
ぎりもむ　鷄姦する事を云ふ。
きくざら　鷄姦する事を云ふ。
りしをぎる　鷄姦する事を云ふ。
どんぼのきりくち　鷄姦する事を云ふ。
したくち　鷄姦する事を云ふ。
だん〳〵ふく　鷄姦する事を云ふ。
だん〳〵する　鷄姦する事を云ふ。
ぼんぶ　鷄姦する事を云ふ。
ぼつ　鷄姦する事を云ふ。
にさい　男子同性間に鷄姦の情交を結べる年長者を云ふ。

とんこ　右に同じく年少者を云ふ。
むすめ　右に同じ。
やつこ　右に同じ。
あらし　强姦する事を云ふ。
うめぼしもらい　强姦する事を云ふ。
おくらいかも　强姦する事を云ふ。
きるく　强姦する事を云ふ。
きやうやち　强姦する事を云ふ。
しまらん　强姦する事を云ふ。
しんとくないやちをへぐ　强姦する事を云ふ。
つツとみ　强姦する事を云ふ。
つまこかし　强姦する事を云ふ。
ほおかぶり　强姦する事を云ふ。
びりをける　强姦する事を云ふ。
ふろにはいる　强姦する事を云ふ。
べんけい　强姦する事を云ふ。
へんじなし　强姦する事を云ふ。
やちへぐ　强姦する事を云ふ。
やちふく　强姦する事を云ふ。
やちぜめ　强姦する事を云ふ。
やちふいた　强姦する事を云ふ。
はう　强姦する事を云ふ。
つつもたせ　女を手先に使ひ之を巧に男子に接近せしめ、遂に關係をなさしめ

て後、女は自分の妻、又は妹なりと称し金品を恐喝する手段を云ふ。
とさくかせぎ　右に同じ。
だきこみ　右に同じ。
もたせ　右に同じ。
やちつり　右に同じ。
えだ　下肢を云ふ。
とび　下肢を云ふ。
やつあし　下肢を云ふ。
おまる　腰部を云ふ。
おろくみち　女の褻を云ふ。
さしばゝ　墮胎施術者を云ふ。
じんばり　好色漢を云ふ。
やちもろい　好色漢を云ふ。

特種隱語

●基数

ル（ハナー） 一
イー（ヅル） 二
サム（ソーツ） 三
サー（ノーツ） 四
オ（ダーソツ） 五
リユク（ヨーソツ） 六
チル（イルコブー） 七
ハル（ヨーダル） 八
クー（アーホブ） 九
シプ（ヨル） 一〇
イーシプ（スームル） 二〇
サムシプ（ソルフン） 三〇
サーシプ（マーフン） 四〇
オシプ（シユーン） 五〇
ニユクシプ（エースン） 六〇
チルシプ（イルフン） 七〇
バルシプ（ヨーツン） 八〇
クーシプ（アーフン） 九〇
イルベーク（ペーク） 一百
イーベーク 二百
オベーク 五百
イルチヨン（チヨン） 一千
マン 萬
オク 億

●四季及年稱・月稱・日稱

ボム 春
ニヨルム 夏
カーウル 秋
キヨーウル 冬
ニヨン（ヘー） 年
イルニヨン 一年
イーニヨン 二年
サムニヨン 三年
サーニヨン 四年
オニヨン 五年
ニユクニヨン 六年
チルニヨン 七年
バルニヨン 八年
クーニヨン 九年
シプニヨン 一〇年
ベークニヨン 百年
チヨンニヨン 千年
マンニヨン 萬年
クムニヨン（オル） 今年
ミヨングニヨン 明年
ネーニヨン 來年
コーニヨン 去年
チヤクニヨン 昨年
メーニヨン 毎年
バンニヨン 半年
ミヨングフネン 明後年
イーツムヘイ 翌年
チヨンニヨン 先年
一昨年
メヘー 幾年
イルウオル 一月
チヨングウオル 正月
イーウオル 二月
サムウオル 三月
サーウオル 四月
オウオル 五月
ニユーウオル 六月
チルウオル 七月
ハルウオル 八月
クーウオル 九月
シーウオル 十月
トングチータル 十一月
ソツタル 十二月
ハンタル 半月
イータル 今月
メーウオル（タルマーター） 毎月

ネーウオル　來月
コーウオル　去月
チヨンウオル　前月
タタル　月々
カイクウオル　客月
チオ　初
ハルンナル　一日
イーヅンナル　二日
サーフンナル　三日
ナーフンナル　四日
タツソツナル　五日
ヨツソツナル　六日
イルエツナル　七日
ヨーツレツナル　八日
アーフレツナル　九日
ヨルフルナル　十日
ヨルハルンナル　十一日
ヨルイーズンナル　十二日
ボルムナル　十五日
スームーナル　二十日
スームータルソーナル　二十五日
クムムナル　三十日
オヌル〔クムイリ〕　今日
ネーイル〔ミヨングイル〕　明日
モーレー〔ミヨングフーイル〕　明後日

クルピー　明後々日
オーネオー　昨日
メーイル　毎日
オーヌイナル　何日
イルカン　近日
クチオクケイ　一昨日
イルチヨン　先日
メツチユンナル　幾日
イータムオイ　後日
ククエオクケ　一昨々日
イーズンナル　翌日
イルヨーイル〔コングイル〕　日曜日
クムナル　晦日

●時稱

オチヨン　午前
オフー　午後
イルミヨー　一秒
イルブン　一分
オブン　五分
シフブン　十分
サムシブブン　三十分
ハンシー　一時
ヅーシー　二時。
シエシー　三時
ネーシー　四時
ターソツシー　五時
ヨーソツシー　六時
イルコブシー　七時
ヨータルシー　八時
アーホプシー　九時
ヨルシー　十時
ヨルハンシー　十一時
ヨルヅーシー　十二時
チヨングオ　正午

●十二支時稱

チユウクチオ　午前一時
チユウクチヨング　同二時
インチヨ　同三時
インチヨング　同四時
ミヨチヨ　同五時
ミヨチヨング　同六時
チンチオ　同　時
チンチヨング　同八時
サーチヨ　同九時
サチヨング　同十時
オチオ　同十一時

オチヨング 午前十二時
ミーチオ 午後一時
ミーチヨング 同二時
ツンチオ 同三時
ツンチヨング 同四時
ユウーチオ 同五時
ユウーチヨング 同六時
シユルチオ 同七時
シユルチヨング 同八時
ヘーチオ 同九時
ヘーチヨング 同十時
チアチオ 同十一時
チアチヨング 同十二時
ミヨツシー 幾時
ムースンシー 何時
シーカク 時間
ナツ 晝
ハム 夜
バムチユウング 夜中
アツチム 朝
チヨウニヨク 夕
セービヨク 未明
ナーリーパリタルテー 曉
チヤムシイ 暫時
テイ 時

●天・地文・氣象

ハーヌル 天
タング 地
ヘー 太陽
タル 月
ビヨル 星
クルム 雲
トングプング 東風
シヨーブング 西風
ナムブング 南風
ポクブング 北風
シユウンブング 順風
ヨクブング 逆風
ムーチーケー 虹
ノル 夕燒
ウーレー 雷
ポンケー 雷光
ソーリー 霜
イースル 露
ヌン 雪
ビー 雨
ノナーキー 夕立
チヤングマー 霖雨
オルム 氷

ムル 水
ヨンクイ 煙
ブル 火
バーター 海
バーターームル 海水
ヘービヨン 海邊
サン 山
シヨム 島
サンクツ 山端
カング 江
ネー 川
オンチヨング 温泉
ポクガー 瀑布
オントク 岸
バーウイー 岩
コケイ 坂
ヅル 野
トル 石
チアイアクトル 礫
フリク 土
モレー 砂
モンチー 塵
ポアングクー 港口
ガイチヨン 溝
ホ 浦

●方位稱

トンピヨヌ〔トンチオク〕東方
ナムピヨヌ〔ナムチオク〕南方
シヨーピヨル〔シヨウチヨク〕西方
ボクピヨヌ〔ボクチヨク〕北方
オルハヌピヨヌ 右方
オイヌピヨヌ 左方
イピヨヌ 此方
チヨーピヨヌ 彼方
クピヨヌ 其方
カオヌトエー 中所
アブ〔チヨヌ〕前
テー〔フー〕後
チアーウー 左右
クヌチヨー 近所
モヌトエー 遠方
カツカーロヌトエー 近キ處

●建築物單語

チブ 家
シヨン 城
シヨンムヌ 城門
ハクキヨ 學校
シヨータング 學堂
チヨンチア 別莊
タム 籬
トルバム 石垣
フクタム 土垣
キル 道
ボテー 砲臺
ベターリ 板橋
イチヨンチブ 二階家
トルターリ 石橋
フクターリ 土橋
ウムル〔セーミ〕井戸
ヌグ 陵
メー〔ブンメヨ〕墓
タブ 塔
チヨルノー 鐵道（鐵路）
チヨルキヨ 鐵橋。
チヨヌシヌ 電信。
ヤンククチブ 西洋館（洋國家）
スンキヨタン 教會堂
フアヌガー 官衙

●國土及都邑單語

クク 國
アクク〔ウリナーラー〕我國
クイクク 貴國
オエークク 外國
タークク 他國
ヤンクク 西洋（洋國）
イルボヌ 日本
チヨーシヨン〔ハヌクク〕朝鮮
チヨンクク 支那
ヨンクク 英吉利（英國）
ボブクク 佛蘭西（法國）
ミクク 亞米利加合衆國（美國）
カククク 各國
ウイクク 伊太利（伊國）
ノークク（アーラーサ）露西亞（露國）
シヨーウル 京城
イヌチヨヌ 仁川
モクボー 木浦
クヌサヌ 群山
プサヌ 釜山
チヌナムポ 鎭南浦
ピヨンヤヌ 平壤
ウイチユー 義州
ア゜ノクカン 鴨綠江
ウオヌサヌ 元山
ヅマヌカン 豆滿江

ナクトンカン　絡東江
シコル　田舍
コウル　郡
ウブヌイ　邑内
ヨクマル　驛
チオヌ　村
ヨルモク　巷
チヨンテイ　市場（場所）
チユウマイ　宿屋（酒幕）
コールーチ　居留地

●金屬及寶石單語

クム　金
ウヌ　銀
チヨル〔シウーシヨイ〕　鐵
クーリー　銅
チユーワシヨク　眞鍮
ベクトン　白銅
シヤンアー　象牙
クムカンシヨク　金剛石
サヌホー　珊瑚
シユウチヨン　水晶
ボムル　寶物

●人族單語

サラム　人
サチフイ〔ナムサ〕　男
ケーチブ（ニヨーイヌ／ニヨピヌネー）　女
アフイ　兒童
チンガー　子供
オリヌノム　幼者
ニヤンバヌ　貴族
シヤンノマ　細民
ベクシヨン　百姓
シヤンコ　商人
ウイーウオヌ　醫師
モクシユウ　大工
ナムクヌ　荷持人
シアククヌ　人夫
テーチヨンシユウ　鍛冶屋
オープー　漁師
ナームークヌ　樵夫
チヤンイヌ　職人
シヨクシユウ　石工
ニーチヤンイー　左官
ホツチムチヤンサ　小商人
チヤンクヌ　市場商人

サーコン　船頭
マープー　馬方
チユン　僧
ピヨンヂヨン　兵士
オーソーシヨークヌノム　愚者
パーシアーキー　馬鹿
シヨキヨン〔チヤンニム〕　盲人
アヌツムパンイー　躄
ホンオーリー　啞者
コプチヤン　傴僂
クイモークヌサラム　聾者
ミツチヌサラム　狂人
カーナンパヌサラム　負困者
プーヂヤー　富豪
オクハヌサラム　惡人
チヤクハヌサラム　善人
ミンチヨブハヌサラム　敏捷ナ人
クプハンサラム　氣ノ短キ人
ヌーリヌサラム　氣ノ長キ人
チヨルムヌサーラム　若人
チヌクー　故舊
トンモ　仲間
ナム　他人
チオイー　自身

●親族單語

ニヤングチン　兩親
プーモ　父母
プーチン　父親
モーチン　母親
ションチォ　先祖
チヨプー　祖父
チオモ　祖母
チアシク　息
タル　娘
チアソン　子孫
ソンチア　孫
チユングソン　曾孫
ヒヨングニム　兄
トングセイング　弟
ヌーニーム　姉
ヌーウイ　妹
ペイクシー（敬詞）長男
チユウングシイ（同）次男
キヨーシー（同）三男
アンヘイング（同）兄弟
シユクプー　叔父
シユクモ　叔母
シーメー　姉妹
チオクカー　甥
チオクカタル　姪
サーウイ　婿
ミヨーヌーリー　嫁
ヤングチア　養子
イルカー　一族

●官位單語

フワングチエー　皇帝
ノワングフー　皇后
インクン〔クンチユウ〕　君主
チユウシヤング　主上
ワングピー　王妃
トングクング　東宮
セーチヤ　世子
ワソシグターチヤ　皇太子
ムンクワン　文官
ムークワン〔ホバング〕　武官
チクサ　勅使
コングサ　公使
プーサ　府使
クンシユウ　郡守
ヒヨンリヨング　縣令
ニヨングサ　領事
トングサ　通辯
リユククン　陸軍
シユウクン〔ヘイクン〕　海軍
テーチヤング　大將
キヨングチアルクワン　警察官
シユンサ　巡査
チアイパンカン　裁判官
パンサ　判事
チヨンニー　廷吏

●身體單語

モーリー　頭
ニーマー　額
オルクル〔ナツ〕　顔
ヌン　眼
ヌアル　眼球
ヌヌムル　淚
ヌヌシオプ　眉
モーリーカーラク　頭髮
クイ　耳
コ　鼻
イプ　口
イプサル　唇
パム　頰

シユウヨム 鬚
セー 舌
ザル 肉
ピヨー 骨
オクケー 肩
ソン〔シユウ〕手
ソンカーラク 指
ソンヅプ 爪
ソンパータク 掌
パル 臂
カースマ〔ヒユウン〕胸
ペー〔ボク〕腹
ホクー 腰
ターリー 足
ムールプ 膝
チユム 唾
タム 汁
ソーリー 聲
ピー 血
インミヨンク 人ノ命
シム〔マウム〕心

●疾病單語

ピヨング 病
アンチル 眼病
ポクトング 腹痛
カムクイ 風邪
ヅートング 頭痛
チヨイチユング 胃病
ヒヨングフイチユング 眩暈
ヨルピヨング 熱病
メートク 梅毒
シユウチル 船酔
チアクングピヨング 子宮病
ヨムピヨング 傳染病
ホングチン 痲疹(ハシカ)
コイチル 虎列刺
オム 疥癬(カイセン)(痺癬(ヒゼン))
モーミー、ホーナンチユング （天刑病） 癩病
ツイヌン 水疱(マメ)
イムチル 淋病
キーチム 咳
ハイフ 咳嗽
ハープーム 欠伸
トーサー 吐瀉
シヨルサー 下痢
ノピヨング 腦病
チヨングシンピヨング 精神病
ペークイルチム 百日咳
クイチヨツ 耳垂

●家宅及家具品單語

チブ〔タイク〕家屋
キーワーチブ 瓦家
チオカーチブ 茅家
コカン 倉（庫間）
パング 部屋
アンパング 奥ノ間
サラング 窓
ターラク 二階
ブーオク 臺所
チヨンバング 店
マータング
オンドル 暖房裝置
チアング 窓
ムン 門
チヤールー 袋
ボチアー 風呂敷
ヅングブル 提燈(テウチン)
ピー 箒
キートング 柱
パラムビヨク 壁
ミーターキー 障子

ハイングナング 廊下
ビヨクチヤング 押入
ヅイカン 便所
チアクサング〔シヨウサン〕 机
チオクチアー 軸物
ヒヨンバン 額
チアーリー 席
コルキー 雜巾
ヅングチアン 行燈
ナンプー ランプ
ソンニヤン 燐寸
タムニヨ 毛布
キヨウイ 椅子
ビングブング 屏風
パル 簾
ノング 籠
ハム 箱
ホアーロ 火鉢
ウーサン 雨傘
ターヤー 盥(タラヒ)
トング 桶
ホアチヨーカーラク 火箸
パンシク 座布團
チヨンチヤング 天井

㊙飲食物及食器單語

チヂー〔バブノ敬稱〕 御飯
パブ 飯
チヨバン 朝飯
チヨムシム 晝飯
チヨーニヨクバブ 夕飯
スール〔チユウ〕 酒
ウムシク 飲食物
チヤンチー 酒宴
タイチヨブ 馳走(チソウ)
バンチヤン 副食物
アンチユウ 肴
チア 茶
タムブオイ 煙草
ヤクチユウ 藥酒
タクチユウ 濁酒(ドブロク)
シヨチユウ 燒酎
ヨツ 飴
トク 餅
クワチア 菓子
クル 蜂蜜
シヨルタング 砂糖
トインチヤング 味噌
カンチヤング 醬油

チヨ 酢
キールム 油
チユウク 粥
サイングシヨン〔グコギー〕 生魚
ソコム 鹽
サル 米
クク 汁
ヅーヅー 豆腐
ククシユウ 素麵(ソウメン)
ヂムチー 漬物
ボーリー 麥
チアプサル 糯米
パツ 小豆
ナムール 蔬菜
カムチヨー 甘藷
ムーウー 大根
カーチー 茄子
ウイ 瓜
マーヌル 大蒜
パー 葱
ミーナーリー 芹
サイングカング 生姜
ホチヨ 胡椒
グルツ 器物
サークイ 陶器

サーパル　鉢
ビヨング　瓶
ニユウーリーピヨング　硝子瓶
ナムピー　鍋
ソツ　釜
ポシーキー　碗
チヨブシー　小皿
サアング
スールチアン　酒杯
チアクワン　藥鑵
チアチヨング　茶碗
チヨーカーラク　箸
スーカーラク　匙

●衣類及同附屬品單語

ウイボク　衣服
ウツオツ　上衣
キヨプオツ　袷衣
ホツオツ　單衣
チヨークーリー　綿入上衣
ヅールーマーキー　羽織
バーチー　袴
バーヌル　針
シル　絲
ソマイ　袖
ヅイ　帶
ニーベル　寢衣
ヨ　蒲團
カツ　笠
サツカツ　菅笠(スゲガサ)
ユーウサム　合羽
カツクン　笠紐
ヤングボク　洋服
ベーチヤ　短衣(チヨツキ)
ナムバーウイ　頭巾
チアンカブ　手袋
モクイチヤング　蚊帳
チユーモーニー　巾着
サムチー　煙草入
ウーサン　雨傘
ヤングウーサン　洋傘
ボシヨン　足袋
シン　木靴
カーチユウシン　靴
モイヅリー　草履
ナーマクソン　下駄
チブシヨクイ　草鞋(ワラジ)

●果實及草木單語

カフシル　果實
ペー　梨
パム　栗
カム　柿
ヌングクム　林檎
コクカム　干柿
オイヤツ　李(スモモ)
サルクー　杏(アンズ)
ボクシングアー　桃
メーシル　梅實
ボト　葡萄
カムチア　蜜柑
テーチユウ　棗(ナツメ)
ホヅー　胡桃(クルミ)
チアツ　松實
アイングト　櫻桃(オウトウ)
ヒーパー　枇杷
ナーム　木
プール　草
ソナームー　松木
ビーナームー　木槿(ムクゲ)
チヨンナームー　檜
チアムナームー　櫟
オトングナームー　桐
ポーブルナームー　柳

ポングナームー 桑
テ 竹
カーチー 枝
プーリー 根
ニプ 葉
ホアチオ 草花
メーホア 梅花
チヤングホウ 薔薇
オホワ 桃花
ニーホワ 梨花
アイングホワ 櫻花
ヘイングホワ 杏花(アンズノハナ)
タクホソ 蓮花
イツカーナームー 杉
モータンホワ 牡丹花
ナンチオ 蘭
チヤクヤク 芍藥
ヒヤングネー 香氣
チヨングチア 種
チヤング 楠
チル 漆
コーチヤ 柚
ヘータングホワ 海棠花
チユウニナームー 椿
タンプーング 楓
バチオ 芭蕉
ヅング 藤
コツポングオーリー 蕾
チアイモク 材木

●水族單語

セインクシヨン 魚
チオケー 貝
オミー 鯛
ニヨンオー 鮭
ソングオー 鱒
テークー 鱈
ユーオー 鮃(ヒラメ)
チヨングオー 鯖
ピーヌル 鱗
ナルクーキ 鰭
カクノー 貝殼
サングオー 鱶
ノングオー 鱸(スズキ)
ノブチー 鰈(カレイ)
パアングオー 鮪
カオリー 蝦
チクチヨイ 蛸
オチユングオー 烏賊
ヘーサム 海參(ナマコ)
ニングオー 鮒
モイオーキー 鯰
クムオー 金魚
ウンクーオー 鮎
チヤングオー 鰻
ミングクー 鰌
コーボク 龜
チアーラー 鼈(スッポン)
コイ 蟹
テヨクオ 蛤
セイングクル 蠣(カキ)
セイングボク 鮑
シヨラー 蠑螺(サザエ)
コレー 鯨
ミヨングテー 明太魚(メンタイ)

●鳥類單語

セイ 鳥
キソ 羽
ヒヨングアーリー 雛
アル 卵
ナーレー 翼
タク 鷄

ビーヅルキー　鳩
チアムサイ　雀
チヨイビー　燕
チブオリー　家鴨
ソルケー　鳶
カーマークイ　烏
マイ　鷹
スーリー　鷲
オリー　鴨
クオング　雉
キーローキ〔アン〕　雁
ハク〔ツールーミー〕　鶴
ロングチアク　孔雀
ウオンオング　鴛鴦(オシドリ)
チヤングトングサイ　杜鵑
アイングムー　鸚鵡
ケーウー　鵞鳥(ガテウ)
コイコリー　鷺
ブーオンクキー　梟
チアルミヨキー　鴎
サンサイ　山鳥

●虫類単語

ボーローチー　蟲
カイコリー　蛙
ミヨ　蟇
ペイヤム　蛇
ポル　蜂
モクイ　蚊
バーリー　蝿
ピヨールーチー〔ピヨイロク〕　蚕
イー　虱
チノイ　百足
ピンテイ　南京虫
チアムチアリー　蜻蛉
カイトングボーリヨー　螢
コームイ　蜘蛛
ヌーオイ　蝨
カイミー　蟻
バクニーブイ　蛾
ナービー　蝶
クートクキー　蚯
バクヒユウ　蚜虫(アブラムシ)

●獣類単語

チユムセング　獣類
トーロク　毛
プール　角
コリー　尾
オークムニー　牙
マルバル　蹄
カルキー　蟹
カーチユク〔ピー〕　皮
シヨ　牛
マル　馬
ヤング　羊
ドヤーチー　豚
サンヤング　山羊
サンブイ　猪
ケー　犬
タワングイー　猫
チウイ　鼠
ナークイ　驢馬
トキー　兎
ウオングスング　猿
ヨーホ　狐
サルキー　狸
ムツソ　犀
トンピー　貂(テン)
コキーリー　象
ボム〔ホラングイ〕　虎
ピヨ　豹
シユウタル　水獺(カワウソ)

サチア　獅子
コム　熊
サーヌム　鹿
イーリー〔サンチー〕　狼
バクチユウ　蝙蝠
ノークーリー　狢(ムジナ)
サクイー　獸類ノ子

●書物及文房具品單語

チアイクザング　机
ピーヨルー　硯
ピヨールーチブ　硯箱
モク　墨
プツ　筆
チアイク　本
チヨングフイ　紙
チユウチー　卷紙
ポプチヨプ　手本
チアクウイ　表紙
オンムン　諺文(朝鮮假名)
カル　詩
ハンムン　漢文
クリム　畫
ピヨンチー　手紙

タブチヤング　返事
イーヤクーチアク　小說
シーホム　試驗
アンキヨング　眼鏡
シーキヨー　時計
シーチヨング　柱時計
プツチアイ　扇
ミーシヨン　團扇(ウチワ)
チーナムチヨル　磁石(指南鐵)
モクブツ　鉛筆
インキー　インク
カル　小刀
ボングヅーチー　狀袋
キヨークツシヨー　教科書
ミユウバン　算盤
ソンムン　新聞
カーウイ　鋏

●單語雜集

トマング　逃亡
チヨイ　除ク
チニンク　減少
インセイキ　吝嗇
チアヨン　自然

ワングネー　往來
ヤーマン　野蠻
ニヨングニー　怜悧
カムキヨク　感激
コングヨン　無駄
ピルヨン　必ズ
クワヨン　誠ニ
セインカング　名譽
ブンチユウ　忙ハシイ
シヨイル　暮ス
バルチヨング　出立
ヨーヘイング　僥倖
ニヨンイル　連日
スイシム　愁フ
ウムシヨング　音聲
シヤングウイ　相談
コンチヤング　健康
ヒヨングホアン　病氣
シルシユウ　失敗
タンチアン　化粧
ウンスー　運命
ターヘング　多幸
チアムホク　慘酷
チヨングシユウ　綺麗
コクチヨング　心配

ミヨルシー 侮蔑
トングヌウー 仲間
モングチヨ 夢
クイアイ 可愛
ノイムル 賄賂
チクブーム 仕事
タブチヤング 返事
コチブ 固執
ワンマン 傲慢
ホアングヌング 粗暴
メングシヨイ 誓フ
チヨンリヤング 錢
ヨブー 富豪
ジヤンクヤク 約束
ミヨングニヨング 命令
ベーヤク 背約
ヤンクチア 様子
トチオク 盗ム
ニヨンシヨイ 歳
オンオー 言語
ピヨンピヨク 偏僻
チユウフー 後カラ
ウオントング 残念
ムンチオイ 吟味
キヨルバク 結ヘ

ヒヨンバル 露顯
ウンシン 身ヲ隱ス
ピヨン 便利
フーホイ 後悔
チヨン〳〵 徐々
チヨングシン 精神
アングホア 禍
マングニヨング 妄耄（オイボレ）
チユウングメー 仲介
バート 波濤
ヨングカムハー 孤兒
シクカル 鉋丁
ビーヌー 石鹼
キヨウイ 椅子
バングシヨク 坐蒲團
ウーチヤング 雨裝
コング 公（アナタ）
クイクン 貴君
ノヒヨング 老兄（アナタ）
タングシンノイ 貴下方（アナタガタ）
チアノイ 御前
チアノイヅル 御前等
ノート 汝モ
ノーヌン 汝ハ
イー 此

チヨイ アノ
ク 其
クロツケー 其様ニ
イロツケー 此様ニ
イコツヌン 此ハ
トヌン 此上ハ
イコツヌル 此レヲ
ワコツヌン 其レハ
クロン 其様ノ
トー 此上
ヨーケー 此處
コーケー 其處
チヨケー 彼處
エーシヨー 此處デ
コクーヌン 其處ハ
エーカー 此處ガ
チヨカー 彼處ガ
クイチヨヌン 彼處ニハ
タールンチー 他ノ所
タールンテーオイ 他ノ處ニ
ヌイ 誰
オーテーニヤ 何處カ
オテーシヨ 何處デ
アムーテラート 何處デモ
オテーロ 何處ニ

ムーオシー　何ガ
ムオーースル　何ヲ
ムーヌン　何ノ
ムオーーシオイ　何デ
オンチヨイ　何時

賭博隱語

賭博用語

あの部

青札　めくり骨牌の同種中の十二枚。
あざ　同　青札の「一」を云ふ。
青二　同　青札の「二」何九迄あり。
青馬　同　青札の「十」を云ふ。
青きり　同　青札の「十二」を云ふ。
青藤　同青札の一、二、十の三枚役を云ふ。
赤札　めくり骨牌の四種中の十二枚。
赤二　同　赤札の「二」何九迄あり。
赤花　同　赤札の七、八、九の三枚役を云ふ、
赤藤　「赤花」に同じ。
青短　花骨牌の牡丹、菊、紅葉の短冊三枚役を云ふ。
赤短　同　松、梅、櫻の短冊三枚役を云ふ
青裏　青短、赤短の兩役を云ふ。
あわせ　めくり骨牌を使ふ事を云ふ。
惡簺　一七采の事を云ふ。
穴一　子供が錢にて行ふ賭博を云ふ。
穴ぽん　穴の廻りに輪を畫く穴一を云ふ
穴簺　詐欺賭博の合圖者を云ふ。
あて　あてごと賭博を云ふ。
あげ壺　不正なる壺の伏せ方を云ふ。
あほり　詐欺賭博仲間の誘拐者を云ふ。
あとさき　花骨牌にて行ふ「カブ」の一種
あげいた　賭博開張の現場を云ふ。
あらとり　博徒を脅喝して金をとる者。

いゐの部

イス　うんすん骨牌の劍を云ふ。
一六勝負　采賭博を云ふ。
石なご　小石にて行ふ子供の賭博を云ふ
意錢　錢を投げる穴一のことを云ふ。
いちき　采振りの順をきめる爲の采振り
一束ゆき　花骨牌の一種を云ふ。
一二四　花骨牌の同種四枚、二枚、一枚。
いんけつ　京カブにて「一」の數を云ふ。
市場始め　賭博開張を云ふ。
いかさま采　ニセ采。「惡簺」に同じ。
いんちき賭博　詐欺賭博のことを云ふ。
いくり　詐欺賭博共犯者を云ふ。
いわし　右に同じ。
犬鹿蝶　猪鹿蝶かく云ふが眞なり。
猪鹿驛　花骨牌使用賭博の一種を云ふ。
居采　前に出た目と同じ目の出る事。
田舍四光　猪鹿蝶にて兩の上札と三光。

うの部

うんすん骨牌　最古の骨牌を云ふ。
ウン　うんすん骨牌の福神を云ふ。
馬　うんすん骨牌の騎馬人の模樣ある札
兎チョボ　樗蒲(ちょぼ)の變態賭博を云ふ。
運送　チーハー賭博の運送者を云ふ。
裏四光　花骨牌の出來役を云ふ。
薄張　相場賭博の小金かけを云ふ。
うけつね　賭博を總稱する隱語を云ふ。
うけ壺　丁半賭博に勝つた人を云ふ。
打子　胴親で者を云ふ。
打返し　骨牌の札を摩換へる詐欺手段
うわ　詐欺賭博の見張人を云ふ。
瓜戦　瓜の種あて賭博を云ふ。

えゑの部

えんが　樗蒲(ちょぼ)の別名。
海老二　めくり骨牌の赤札の「二」。
海老藏　めくり骨牌のあざと海老二と釋迦十の二枚の役を云ふ。
繪事　骨牌使用の賭博を云ふ。

㋔の部

おりは　下端、雙六の變態を云ふ。
追廻し　雙六の變態を云ふ。
追目　丁にはれば半、半にはれば丁と出るやうな運を云ふ。落目とも云ひ、目がくさつたとも云ふ。
オウル　うんすん骨牌の玉を云ふ。
お花こま　八角又は六角の駒で各面に字又は繪が書いてあるもの。
追丁　カブ札の八を云ふ。
親　賭博の胴親を云ふ。
大引　骨牌手合せの「尾季」最終の人。
大ぜり　昔、樗蒲の大賭博を云へり。
大目小目　采の目の四、五、六と一、二、三
大坊主　博徒の親分に近き者を云ふ。
おてん　テラ錢。又は回數のしるし石。
おち錢　賭場で負けし方の金を云ふ。
おけら　賭場で負けし者を云ふ。
お江戸　津輕にて穴一の事を云ふ。
お大師　采賭博の總稱。
おつぶせ　賭博と云ふ事の隱語。
をりは　下端、雙六の簡單方式。
をか取　樗蒲の變態ふ云ふ。

㋕の部

かりうち　樗蒲（支那名）の和名でかりたとも云ふ。
かう　伽烏の昔の名を云ふ。
加賀標　雙六の重五を云ふ。
かんきり　長崎にて穴一を云ふ。
カブ　九を勝目とする賭博を云ふ。
柿戰　柿の種あてを云ふ。
紙打　紙を置き針にて打刺す賭博。
かこい　キンゴ賭博にて十四を云ふ。
上三　めくり骨牌にて青キリ、青馬、釋迦十の三枚役を云ふ。
隱富　富籤の當り番號の當籤を云ふ。
隱し富　許可以外の富突を云ふ。
貸元　賭場の親方、賭金融通者を云ふ。
からふだ　骨牌にて數に入らない札。
からす　花札のから札のみの役を云ふ。
合百　相場の薄張りに似たる事を云ふ。
緩急　樗蒲の變態を云ふ。
合力　詐欺賭博の助成役を云ふ。

㋖の部

きんご　十五を勝目とする骨牌賭博。
狐ホヨボ　樗蒲の變態を云ふ。
京カブ　九、十九、二九を勝目とするカブを云ふ。
きす　江戸にて「穴」を云ふ。「きづ」とも云ふ。
ぎんみ　「八々」花の最勝者吟味役を云ふ
ぎんみ花　元金倍額勘定の「八々」花の事
金勳　「八々」花にて三度續けて勝つた者
銀勳　同二度續けて勝つた者（賞金を得）
銀張　昔、丁半に十兩以上を賭る事。

㋗の部

クル　うんすん骨牌の大鼓札（三巴の札）
唇の二　めくり骨牌の赤札の「二」。
ぐ一　五を「ぐ」と云ふぐ二「ぐ三、ぐしろく（五四六）」の大目賭博を云ふ。
九ツぴん　カブの九と一の札の役を云ふ
熊坂　丁半賭博の事。（昔熊坂長範と云へる賊ありしより）
菓子割り　煎餅、もなか等を割る賭博を云ふ。
句拾ひ　「三笠附」の運動役を云ふ。
くツつき　花骨牌で同種の花二枚揃へ。

け の部

けんねんし　賭博の名。其の方法詳でない、
けし　地に渦巻を畫き「穴一」式の賭博。
源平　二方に別れて戰ふお花鬪を云ふ。
けんとく　富籤に似たる事を云ふ。
毛返し　詐欺賭博者の使用。椀内に毛を引き采を自由な目にする仕掛を云ふ。
蹴込　配分に取つて空札を隱すこと。

こ の部

コン　うんすん骨牌の武人繪札。
コツフ　うんすん骨牌の盃模様のある札
小目　采の目の一、二、三を云ふ「大目小目」參照。
小増　盲人賭博の一種を云ふ。
こま　金錢代用の木札又は碁石を云ふ。
五光　雨入り四光を云ふ。
ころんぼ　采の事を云ふ。
こかし　采賭博の事を云ふ。
こけ　京カブの五を云ふ。
籾入り　黒附入りの一七采を云ふ。

さ の部

さすがり　やさすがり(八道彷成)の略。
さござい　江戸の辻寶引を云ふ。
三から　簺縄六筋中の分銅の付きし縄へ錢を賭けし者の勝となる賭博を云ふ。
三束五十　三十つツぱり、三百つツぱりと共に花骨牌使用の賭博方法を云ふ。
三下奴　博徒の素人臭き者ぺい／＼者を云ふ。
三本　花骨牌の同種札三枚役の名。
指込　カブの變態を云ふ。
讃岐めぐり　花骨牌使用法の一種の事。
采ぐひ　壺の中にて采が重なる事。
さし　骨牌賭博を二人で行ふ事を云ふ。

し の部

七半　平安朝時代に行はれし丁半賭博の一種を云ふ。
四一半　平安朝時代に行はれし丁半賭博の一種で七半に似たるものを云ふ。
釋迦十　めくり骨牌の青札の十を云ふ。
下三　めくり骨牌の青札の一、二、三の三枚役を云ふ。
字廻し　賭博の名。其の方法詳でない。
字かぬか　錢を廻轉させて裏が出るか表が出るかに賭けるもの。「文字返し」とも云ふ。
四ツぴん　カブにて四と一の役を云ふ。
四下　采使用の賭博の一種を云ふ。
しやう札　目印を付けし骨牌の札を云ふ
七分采　鉛入りのニセ采グラ采とも云ふ
十枚持　花骨牌使用語の一種を云ふ。
十五取　右に同じ。
四三　「八々」花の同種三枚と四枚揃の役
四光　花札の松櫻月桐の四枚揃の役。
四本籤　大道などにて行ふ。詐欺賭博を云ふ。
シーシー　右に同じ。

す の部

すかり　樗蒲の一名。
スン　うんすん骨牌の唐人繪札を云ふ。
すだれ　簾。めくり骨牌の赤札の「十」を云ふ。
すぼ引　寶引の事を云ふ。
筋引　地上に筋を引く穴一の變態。

すべた札　數に入らないめくり札。
素物　花札の一點札を云ふ。
素十六　花札の素物十六枚の役の名。
素倒し　花骨牌使用法の一種を云ふ。
素めくら　丁又は半のみの續出を云ふ。
角力取板　骨牌を云ふ。
筋紙　チーハーの用紙を云ふ。
摺鉢とかし　なめかたの別法を云ふ。

セの部

千六十　花骨牌使用法の一種を云ふ。
ぜつ場　「八々」の時上札の場にある時。

ソの部

ソウタ　うんすん骨牌の西洋人繪札。
算盤引(そろばんびき)　數字札を算盤にて隱す賭博。
總一ぱい　花札八十八の三人揃へ

タの部

大黒つき　方法詳かでないが達磨轉しに類似のものか。
大鼓二　めくり骨牌コツフの「二」を云ふ
團十郎　同青札の一、二、十の三枚役。
たこま　紋富を云ふ。
臺付　題付、第付、と云ひ元は「三笠付」と云ふ。(俳句の「前句附」が廢たれてかく卑賤化したるもの)
種わり　紋富の卷紙を割つて見る事。
種あて　果物の種あて競べを云ふ。
たて　魚釣り連中の賭博を云ふ。
短一　花札の短册一枚と外は素物の役。
高目　花札二枚にての勝負、高目勝。
たに　八錢を云ふ。谷を「やつ」に因る

チの部

チョボ一　一六勝負を云ふ。
ちぼいち　樗蒲一(ちよぼいち)の轉訛なり。
長半　采の目の奇數偶數、丁半。
ちい　采の形の小なるものを云ふ。
定胴　廻り胴にあらざる一定の胴元。
チーハー　支那式の賭博を云ふ。
チイツパ　采使用法の一種を云ふ。

ツの部

づく　「うれづく」の略。
辻賓引　大道にての辻賭博を云ふ。
壺椀　專用には籐にて椀形に製せし物、采を茣蓙の上に伏せる物を云ふ。
壺皿　壺椀、壺ザルとも云ひ壺の別名である。
壺振り　采を壺に入れて伏せる役の事。
いかめん　骨牌に爪形などの印を付ける事を云ふ。
附目　自分の得になる樣な采の目を云ふ

テの部

てうばみ　丁半の古語。
てら　賭博開張者の口錢賭博賃の事。「てら錢」とも云ふ。
てんさい　采賭博の一種を云ふ。
天狗賴母子(てんぐたのもし)　富籤の一種で其の簡易なるものを云ふ。
手目バクチ　詐欺賭博の事を云ふ。
手目采　ニセ采を云ふ。
手張(てばり)　賭金を後拂の約束にて張る事
手本引　カブ札使用法の一種を云ふ。
手役　八々花等にて手札が四役をなすことを云ふ。
手四　花札同種四枚の手役を云ふ。

手慰　賭博の總稱を云ふ。
手てんごう　右に同じ。
てつくわ打　バクチ打を云ふ。
てきや　詐欺賭博の共犯者を云ふ。
てらし　右に同じ。

ト の 部

賭的　めつた、弓術の賭けを云ふ。
取引無盡　賭金を取れば退く無盡講。
富　富突、富籤、富會皆同じ。
富札　富籤の札を云ふ。
胴元　胴取、胴親、采の筒を振りしより起りし名賭博の親の事を云ふ。
胴敷　賭場として座敷を貸す者を云ふ。
胴二　骨牌三人手合せの時親の次の者。
十一　花札の空札と十點札一枚の役。
飛込み　花札三本役にて同種四枚取。
どつこい〳〵　廻し取りを云ふ。
とうもいち　紫繩の蓋にてなす穴一を云ふ。
どさ　賭場に網の下りる事を云ふ。（開張中警官の來る事）
どさり　京カブの一式を云ふ。
道具采　細工采とも云ふニセ采の事。

ナ の 部

南助　「菅家後集」に「裸身博奕者道路呼南助」とある。南内藏之助が裸で博奕をなせし故にかく云ふ。
なめかた　錢の表か裏かを云ふ。
なんこ　握りかつぼを云ふ。
なご　石などの略。
仲藏　めくり骨牌の青札の七、八、九の三枚役を云ふ。
投げ采　投げ丁半とも云ふ。
中盆　胴親の助成者を云ふ。
南京　目切カッパ又は采バクチを云ふ。
緡切　錢バクチの一種を云ふ。
鍋形　「字かぬか」の事を云ふ。

ニ の 部

握りカッパ　詐欺賭博のニセ丁半のる。
にツき　子供が木釘にてなす賭博。奥羽地方にては「ねんがり」と云ふ。
二十一　トランプ使用法の一種を云ふ。

ヌ の 部

ぬか字か　「字かぬか」の逆を云へしもの
ぬくい　賭場見張人が警報、危險急報の詞を云ふ。

ネ の 部

根合せ　昔殿上人がやつたバクチを云ふ
寢て居る　最下部にある札の事を云ふ。

ノ の 部

のり弓　昔の射的バクチを云ふ。
のぞむ　切り交ぜた札の上部を云ふ。

ハ の 部

ハウ　うんすん骨牌の花形繪札。
八方こま　「お花こま」の舊名を云ふ。
破魔弓　往古賭博と見て禁ぜられたものを云ふ。
寳引　錢バクチの一種を云ふ。
はぐり　稍々テラ錢に同じ。
ばつそろ　錢二、三枚を繒にて合せたものを云ふ。
ばつた壺　下手な壺の明け方を云ふ。
ばい　貝で造つた獨樂を云ふ。
張板　「お花こま」の時の木札六枚を云ふ

張子　丁半バクチの張手を云ふ。
花札　十二ヶ月の花骨牌を云ふ。
花見　花札あそび又は「花合せ」とも云ふ
馬鹿花　八十八、八十の花合せを云ふ。
はね劍　花札二くつつきと三本役を云ふ
ばれ　きんご、トランプの二十一などで定限より以上の數になつた事を云ふ。
化師　詐欺賭博犯人を云ふ。

㋪の部

ぴん　「一」の事西班牙語より出づ。
ひつぺがし　紋富の一名を云ふ。
ぴん轉し　釆の目の一が出た時は親の附目となる丁半に似たものを云ふ。
ぴりぞろ　釆目の七と揃つた事を云ふ。
ひら壺　椀の中に仕掛あるものを云ふ。
びき　尾季又は引とも書き骨牌手合せの最終の人を云ふ。
光一（ぴかいち）　花札上物一枚と外は空札ばかりからなつてゐる役を云ふ。
屛風札　枕屛風狀に作れるニセ釆を云ふ

㋫の部

札がかぶれる　札が下積になつて居る事
ぶた　カブ札にて十になつた數を云ふ。
ぶつちん　木釘打込の子供バクチ。「にツき、ねんがり」皆同意。
附和紙　チーハーの新題書附を云ふ。
ふきかへ　手札を巧にすり替える事。

㋬の部

ぺか札　詐欺賭博用のニセ骨牌。
ぺんくら　ニセ釆のことを云ふ。
兵隊ごつこ　丁半博奕（ばくち）を云ふお一二の事

㋭の部

盆胡座　丁半賭博の壺伏せ場所を云ふ。
本籤　「三笠附」で云ふ「がんどう」。
本引　手本引と釆本引とある。
棒引　紋富の紋紙へ口數だけ幾つも棒を引かせる事を云ふ。

㋮の部

廻り胴　順次壺を振る事を云ふ。
豆打　賭碁　賭將棋を云ふ。
枕　詐欺賭博師が初め故意に敗ける事。
松、桐、坊主　花札使用法の一種。

㋯の部

三笠附　前句附の博奕（ばくち）化したるもの。
水びたし　明礬で書いた文字。
水チョボ　右に同じ。
三く　花札の同種三枚揃役。

㋰の部

むし　めくり骨牌の「一」のことを云ふ。
むべ山　歌骨牌にての博奕を云ふ。
むさし　京都にて「穴一」を云ふ。
むし引　骨牌博奕一回毎の金勘定。

㋱の部

目勝　めまし、釆博奕の古名。
目打　雙六で思ふ目を振出す事。
めつた的　賭弓の事を云ふ。
めくり骨牌　うんすん骨牌の變態。
目切カッパ　詐欺賭博の一種。

㋲の部

文字返し　「字かぬか」の事を云ふ。

もみ采　二つの采を手で揉ん投でげる事を云ふ。
紋紙　役者の紋を書きし臺紙を云ふ。
紋富　紋紙バクチの事を云ふ。
紋はぎ　紋富の事を云ふ。
紋打　紋形札の「穴一」の事を云ふ。

ヤの部

やさすがり　八道行成穴一をも云ふ。
屋根板　骨牌の事。（骨牌の形狀屋根葺板に近似なる故）

ユの部

弓張り　賭場開張の現場を云ふ。
振出し　旦那バクチの一種を云ふ。

ヨの部

よみ骨牌　數の順序に札を出す博奕の事
よせ　木を立てゝ行ふ「穴一」に似たるものを云ふ。
よいどう　采バクチの一種を云ふ。
よしよし　骨牌バクチの一種を云ふ。
よこあけ壺　怪しい壺の明け方を云ふ。

用心棒　賭場の見張人を云ふ。

ラの部

らくし〔樂師〕　賭博常習者を云ふ。
らぐうと　詐欺賭博のニセ采を云ふ。
ラツキデイツク　寶引に類した西洋流の賭博を云ふ。

リの部

兩面札　詐欺賭博用のニセ采。
淋病小便　骨牌の事を云ふ。

ロの部

六采　「和名抄」に雙六の一名とある。
ロハイ　うんすん骨牌の龍繪札。
ろく　錢を投げる穴一を云ふ。
六短　花札短册六枚取りの役を云ふ。

ワの部

王　采の最も大なるものを云ふ。
椀伏せ　壺伏せの事を云ふ。

山窩隱語

山窩隱語

おし〔啞〕 萬引を云ふ。
かけもそ 土藏の施錠を云ふ。
がさをいれられる 旅館などに泊つて警官などに荷物を調べられる事を云ふ。
かねす 寺院を云ふ。
かまつた 來た(警官など)との意。
がもん 堀。濠を云ふ。
がや 山を云ふ。
ぐどう 山窩使用の刄物の總稱。又は「こんたん」と云ふ。
けだもの 金庫を云ふ。
けーちや 時計を云ふ。
けて 「じどう」又は「こんたん」の内先が鑿様のものを云ふ。
けんた 山窩の事を云ふ。
こぺる 「こんたん」の内先が小刀様のものを云ふ。
ころた 河原を云ふ。
こんたん 「ぐどう」に同意。
さくべい〔作兵衞〕 刑事を云ふ。
さぶ 百姓。農夫を云ふ。
さんか〔山窩〕 「天幕組」又は「けんた」とも云ふ。詳しくは本辭典「さんか」參照
さんしよ 鍋を云ふ。
しくた 衣類「べら」とも云ふ。
しつぴき 疊針を曲げたるが如きもの。(合鍵に代用)
シャル 米を云ふ。
しわい 神社を云ふ。
しんた〔晉太〕 金錢を云ふ。
せぶり 天幕を張り露宿する所を云ふ。又斯様の所に泊る事を「せぶりつき」と云ふ。
せぶる 宿泊する事を云ふ。
たんと 刑事を云ふ。
ちよーろく 土藏を云ふ。「むすめ」とも云ふ。
ちんすけ 百姓の女を云ふ。
ちん 百姓の女を云ふ。
づかれた 見附かつた事を云ふ。
とめる〔止める〕 殺人を云ふ。
どめる 土中へ隱す事を云ふ。
どやつき 旅館に宿泊する事を云ふ。
どーろく 百姓の男を云ふ。
どろむ 忍込む事を云ふ。
なま 金錢を云ふ。
ねこのめ〔猫目〕 銀貨を云ふ。
はくい 良いを云ふ。
ばらす 傷人傷害を云ふ。物を賣却する事を云ふ。
ひつじ〔羊〕 紙幣を云ふ。
べかつく 壁を破る事を云ふ。
へがわ 大便所を云ふ。
べこ 錢箱を云ふ。
ぺーちやん 巡査。「やぱ」とも云ふ。
べら 衣類。「しいた」とも云ふ。
ぼーず 長刀を云ふ。
ほやく 搔拂ふ事を云ふ。
ぼーろく 山小屋を云ふ。
まんじゆー〔饅頭〕 時計を云ふ。
むすめ〔娘〕 土藏「ちよーろく」とも云ふ
もんく 反物を云ふ。
やぱ 巡査。「ペーちやん」に同意。
やわい 危い。危險だとの意。
やんぢ 百姓の爺を云ふ。
やんば 百姓の婆を云ふ。
よーじ〔楊子〕 疊針を云ふ。
よつぱらい 銅貨を云ふ。
わらつてる 鍵の無い事を云ふ。

朝鮮隱語

朝鮮人隱語

あいんむ〔鸚鵡〕 辯護士を云ふ。
あるいから 金品の豐富なる事を云ふ。
あるまち〔探知〕 檢事を云ふ。
いかびんた 犬が吠ゆる事を云ふ。
いじき 第三者が來たとの意。(賭博仲間用語)
いつねなんだ 探偵及び刑事を云ふ。
いつりようちよー 刑事を云ふ。(詐欺賭博犯)
いぶさくいた 女子の居る事を云ふ。鮮語にて「木葉がある」との意より。
いるちやそえー 韓の性を名乘る者を云ふ。
いんぶくりん 二百、又は二千。(賭博常習者用語)
うい― 同類を呼集する時の語。
うい―よら 同類、共犯者を云ふ。
う―しうぶたー 笑止千萬との意。(詐欺賭博犯用語)
うすんせる 數量の四を云ふ。(江原道鐵原地方)
うつまつぢー 刑事、私服巡査を云ふ。
うとり 巡査、巡査補を云ふ。
うむるくいしんばら〔井神見〕 注意する事を云ふ。井神と精神が同音なるより。
うわんくつり 帽子。笠の類を云ふ。
えつびぶるき 倉庫、納屋、其他の類似建築物を云ふ。
かい〔犬〕 巡査を云ふ。(全羅北道鎭安地方)
かいび 金の姓を名乘るものを云ふ。(江原道鐵原地方)
かきぼり 袴を云ふ。
がげつちやむ〔監房〕 典獄を云ふ。
かしばつろつろがかんだ 留置處分を受けたる事を云ふ。
かちゆめき〔星〕 强窃盜犯人を云ふ。夜間に働らくの意より。
かぢよつた〔破壞〕 殺人犯を云ふ。
がつんちぶ 簪、其他の頭髮飾物窃盜犯を云ふ。
かび 風體、容貌の奇異なるものを云ふ怪物と云ふ意にて多く田舍人を云ふ。
かまき 一般巡査を云ふ。(咸鏡南道地方)
かまく 一般巡査を云ふ。
かまにほわーら 密かに披見する事を云ふ。(詐欺賭博犯用語)
かまとりかん〔鍋蓋〕 腹部を云ふ。
かまりぶるぎ 倉庫、納屋其他類似建築物を云ふ。
かみそり 足音、又は人の來る氣配のしたる事を云ふ。
かむたい 警部を云ふ。(京城附近、窃盜常習者用語)
かむたい 老人を云ふ。
かよごた〔痒〕 失踪又は逃走する事を云ふ。
かりいるとんだ 一般賣買取引を云ふ。
かりくぎ〔牛飯〕 賭博を云ふ。
かりしく 捕繩又は拘引される事を云ふ
かりちゆん 一般詐欺行爲を云ふ。
かりつらく 富豪家を云ふ。
かるち〔太刀魚〕 制服巡査を云ふ。
かるちゝやんさ〔太刀魚商人〕 憲兵、一般警察官を云ふ。
かるぢちやんさこもんい 一般巡査を云ふ。朝鮮語にて秋刀魚の意。
かるちゝやん〔太刀魚長〕 警察署長、典獄等を云ふ。
かんをくそさむぼん〔監獄署參奉〕 出獄

人を云ふ。參奉は出身者の意。
かんしょばん〔差書房〕 警察官を云ふ。
かんじんこりー 袷衣を云ふ。
かんじんちやみ 母家を云ふ。
かんたつちや 脫糞する事を云ふ。
かんちだ〔肥滿〕 多額の金品を所持して居る事を云ふ。
かんちんすり 平常は富豪、紳士を裝ひ密かに犯罪をなすものを云ふ。
かんでわんでき 親子兄弟を云ふ。
きいいるせーよつた 嫉妬、羨望の意。
きいろら 速に逃走せよとの意。
きうい〔傾伊〕 耳を云ふ。
ぎしさぎ 贓品を云ふ。
きつぶんとい〔深後〕 夜半を云ふ。太陽が深く沈みたるの意。
きぶそえきき 一般通貨を云ふ。
きむちゆり 李の姓を云ふ。
きむはんちやんとるこばたつた 贓物故買犯を云ふ。（京城附近不正古物商用語）
きやちぶ〔瓦葺家〕 警察署又は刑務所を云ふ。
きよかみ 被害者、又は犯人の目的人物を云ふ。
きよかむざぶちや 詐欺賭博犯を云ふ。
きよーかん〔校監〕 素人を云ふ。
きよんい〔肩伊〕 年齢を云ふ。
きるむちやつぱうんた 戀慕の情を云ふ
くいやくいや〔耳耳〕 一味同類が凝議する事を云ふ。
くうり 飯を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
くうりかぼり 喫飯料の意。
くうりちやー 就寢する事を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
くくしー〔麵類〕 犯罪者使用の繩梯子を云ふ。
くつすこるしちつやた 洪水を云ふ。鼎內の湯のたぎる事を云ふ。
くつしう〔麵類〕 捕繩を云ふ。（全羅南道浮浪者用語）
くつはらかちや〔祈禱に行く〕 强盜犯を云ふ。
くむしう 衣服一切を云ふ。
くもんそえー 徐の姓を云ふ。
くる 飮食する事を云ふ。（江原道鐵原地方）
くるそんた〔屈膝〕 睡眠する事を云ふ。
くるぢ〔屈指〕 金錢を云ふ。
くるまそんたー 喫飯する事を云ふ。
くわちやんぽちや 賭博を開張する事。
くわるい〔括耳〕 豚を云ふ。括耳（ほゝづき）を鳴らす音、豚の鳴聲に似たるより。
くんい 强窃盜犯實行中の見張り番を云ふ。
くんちぶろか〔瓦屋行〕 强窃盜犯罪者を云ふ。「きやちぶ」參照。
けなり 麵類を云ふ。
けむくのんだ 賭博開張する事を云ふ。
けんずるはらや 贓物を運搬する事を云ふ。
こうちくん 市場稼窃盜犯を云ふ。
こをげ 祭典市日。（詐欺賭博犯用語）
こくしう〔素麵〕 捕繩を云ふ。
こくしうめいちや 毆打する事を云ふ。
こくそもごつた 逮捕引致される事を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
こくづくな 拂曉を云ふ。
ここむい 醫師を云ふ。
こさもくい 老婆を云ふ。
こしよめき 强窃盜、其他の犯罪常習者を云ふ。又徒食者をも云ふ。
ごち 市場を云ふ。
こちやびやくき〔座眠〕 賭博常習者を云

ふ。
こちりん　犯罪教唆犯人又は犯罪者を止宿せしめるものを云ふ。
こツくま〔紙鳶〕　太陽を云ふ。
こツたちや〔花摘〕　骨牌使用の賭博の事
ごツぢびよツた〔花發〕　窃盗犯の既遂狀態を云ふ。
こツびよツた〔花發〕　放火を云ふ。
ことんたい〔銃身〕　憲兵を云ふ。
こみせんいー　巡査を云ふ。「毛皮の如し」と云ふ意。
こむ〔刀劍〕　巡査を云ふ。
こむしるにした　巡査の集會を云ふ。
こむちや　一般警察官を云ふ。
こむちり　一般窃盗犯を云ふ。
こむちんべゐ　窓口を云ふ。
こむはりあつた　睡眠狀態を云ふ。
こむばんいつかん　官公署其他の事務所を云ふ。
こもーぎー〔黒色〕　巡査を云ふ。
こもくい　制服巡査を云ふ。
こもんたい〔黒竹〕　鐵砲を云ふ。
こやんい〔猫〕　一般警察官吏を云ふ。
ごり　男女衣服を云ふ。
こりかちや　窃盗共犯者か互に犯罪遂行の手段方法を凝議する事を云ふ。
ごりちつれら　失踪を云ふ。
こるたんぶりざえく　撲殺する事を云ふ
こるまつぢうちや　飲食する事を云ふ。
こるりそえー　尹の姓を云ふ。
こるん　憲兵を云ふ。
ごんい　警察官を云ふ。以上の捕盗制度に於て捕盗軍官を稱せし名稱なり。
ごんい　風呂敷を云ふ。
しんい　牛を云ふ。
こんいかそ〔糞胃下〕　空腹なるを云ふ。
こんきー〔空氣〕　眼光を云ふ。
こんくるさるびさ　空巣狙ひを云ふ。
こんだり　博徒又其他の無賴の徒を云ふ
こんたるき〔大雞〕　强窃盗犯人の主謀者を云ふ。
とんぢぶゐほんた　土藏破り窃盗犯を云ふ。
こんちぶろかつた　收監さるゝ事を云ふ
こんちよむ　煙管を云ふ。
こんとくかちやをけ〔豆餅持參〕　賭博用器具(鬪箋)を準備する事を云ふ。
こんないそり　內地人を云ふ。
こんばぶもご　懲役を云ふ。豆飯を食すとの意。
こんはんけもくをら　相手方を撲殺せん事を以て脅迫する事を云ふ。
さいー　衆人集合せる事を云ふ。
さいつて　商人を云ふ。
さいんとんい　女兒を云ふ。
さくちやん〔朽木〕　窃盗常習者を云ふ。(南鮮地方)
さくゆーくまんとるよつた　共犯者互に凝議する事を云ふ。
さくら　詐欺賭博の共犯者を云ふ。
さじ　魚を云ふ。
さたるなつた　犯罪事實の發覺せし事を云ふ。
さたん〔寺黨〕　賭博器具(鬪箋)を云ふ。(全北博徒用語)
さち　牛、馬、豚肉類を云ふ。
ざーち　棍棒携帶强盗犯を云ふ。
さぶる　數量の三。(江原道鐵原地方)
さまくいだちや　墳墓發掘して金品を窃取する事を云ふ。
さみんたんさちよう　寒冷なる意。
さむをかんに　夫婦關係を云ふ。
さむちぼり〔煙草袋口〕　厠を云ふ。
さむちるでん　附近の洞穴を云ふ。
さむなむまりたい〔樫木の頸卷〕　犯人が

變装をして追跡者の目を眩ます事を云ふ。

さーやさーや 强窃盗犯が現場を逃走する事を云ふ。

さり 婦人を云ふ。

さるてう〔肌掛〕 ヅボン(洋袴)を云ふ。

さーるりぢやー 屋外、又は田野を云ふ

されさすむいるよつた 山林盗伐犯を云ふ。

さんくる〔生栗〕 夜を云ふ。栗と夜とは同訓なるより。

さんさえー 崔の姓を云ふ。

さんしやみ〔山人參〕 僧侶を云ふ。(詐欺賭博犯用語)

さんせい〔山鳥〕 呼子の笛を云ふ。

さんせいてり〔山鳥棲谷〕 窃盗常習者を云ふ。

さんそく〔床石〕 陰部を云ふ。

さんだい 寺院を云ふ。

さんちや 漬物一切を云ふ。

さんちようーすんがん〔生死館〕 留置場を云ふ。

さんとーとるちくてり〔喪擧臺〕 贓品を運搬する事を云ふ。

さんみせん〔團扇〕 背部を云ふ。

さんもんぐりぶるき〔山坊の平家〕 寺院佛堂を云ふ。

さんようかいどつた 憲兵又は警官の來たるを知り現場を逃走する事を云ふ。

しろこむたいちや 自己の宿所を定むるの意。

しろばく〔西瓜〕 頭を云ふ。

しろばくばつ〔西瓜畑〕 墓地を云ふ。

しろまんをんそえー 白の姓を云ふ。

しろり〔鷺〕 一般警察官を云ふ。

しえー 「彼の人を見よ」との意。

しく 帯を云ふ。

しくはいつた 殺人犯を云ふ。

しころぴたー 「喧やかましいとの意」。

しツきよう〔洗滌〕 殺人犯を云ふ。(詐欺賭博犯用語)

しツくほう 虚僞の陳述を云ふ。(賭博常習者用語)

しツくぶーぢや 「彼を殺害せよ」との意

しつれツたなんたつ〔載出〕 物品授受、取引、を云ふ。

してむせぷた 機敏なる警察官を云ふ。

じーば 他人の家族を云ふ。

しむかいちや 就寝する事を云ふ。

しむちよく 刀劍を云ふ。

しやき 栗飯を云ふ。

しやくいくれ 犯罪嫌疑者を云ふ。

しやみさげのあら 「早く賭博をなせ」と云ふ事を同類に知らす詞を云ふ。

しやんぴよん〔常平〕 貨幣を云ふ。「常平通寶」の句より來る。

しゆうん〔坊主〕 燐寸を云ふ。

しゆえみすれぬちや 受託金横領を云ふ

しゆちうりんそえー 韓の姓を云ふ。

しゆんい〔春伊〕 鷄を云ふ。「しゆぴん」に同じ。

しゆんえきるはんだ 憲兵又補助員の歸り來る事を云ふ。

しゆんぎ 巡査を云ふ。(詐欺賭博犯用語)

しゆぴん〔春發〕 鷄鳴曉を云ふ。

しよーちこーとん〔墜落〕 黄昏を云ふ。

じよるがぴつぢツた 密偵者を云ふ。(常習賭博犯用語)

しりちや 逃走潜伏する事を云ふ。

しる〔絲〕 巡査が警戒網を張りたる事を云ふ。

しるをぶちや 逮捕引致せらる事を云ふ

しるぱい〔絲卷〕 骨牌賭博を云ふ。

しるぱつ 飯を云ふ。

しるみつばいちよつた〔繻底穿穴〕 受託金横領費消を云ふ。
しるよつた 主人在宅の意。
しるよつた〔充滿〕 留置處分を云ふ。
しるらんいそえー 孫の姓を云ふ。
しるりつた 金滿家。多額金品所持者を云ふ。
しんぎんた 殺人を云ふ。物を冷却さす意より。（京城附近强盜犯用語）
しんぼんさちぶらき 大丈夫との意。
さあーるーばるにとるいつて〔彈綿〕 急遽逃走する事を云ふ。
すけみぬちよつた 「日沒した」との意。
すーぐじん 鷄鳴を云ふ。
すーすーよつ〔糖飴〕 深夜を云ふ。
すみきくん 普通窃盜犯を云ふ。
すむるはんいむ〔二十一文〕 刑事。私服巡査を云ふ。
せいうちや〔立〕 殺人を云ふ。
せいづてなるよら 「追剝き」をなし被害者を放還するを云ふ。
せいづてばつとら 「追剝ぎ」をなす事を云ふ。
せけ 金錢を云ふ（全羅南道浮浪者用語）
せーじやき 手を云ふ（詐欺賭博犯用語）

せーみ〔人蔘〕 詐欺賭博犯人を云ふ。
せーりよつた 物件隱匿包藏する事を云ふ。（江原道淮陽地方）
せる 人を云ふ。（江原道鐵原地方）
ぜん 一般の官公吏を云ふ。
そいかもんぢた 獰猛慘虐なるを云ふ。
そうこくそえー 申、又は辛の性を云ふ。
そうたたろつた 日沒又は月の落つるを云ふ。
そうたらうら 放火犯を云ふ。
そうばくい〔燭挿置〕 陰莖を云ふ。
そきいろるまつぢうち 等閑にするを云ふ。
そきなくちぶはやー〔中爲國之家〕 空腹なるを云ふ。
そきゆ 貨幣を云ふ。
そく 酒類一般を云ふ。
そぐ 飼犬を云ふ。
そくえー 軍用銃を云ふ。
そくかいそえー 李の姓を云ふ。
そくづろく 酒店を云ふ。
そたるちや〔燭懸〕 放火犯を云ふ。
そだん〔書堂〕 賭博開張の場所を云ふ。
そつかむちるいたんだ〔燭中起火〕 一揆暴動を云ふ。

そツくつ〔醋醬〕 强盜犯を云ふ。
そツくる〔草木切株〕 毛髮を云ふ。
ぞツとい〔燭後〕 夕暮を云ふ。
そないきかをんた 馳走さるゝ事を云ふ
そなむたん 見張り番人、監視者を云ふ松樹の立てるに喩へて云ふ。
うまいぢき〔袖觸〕 掏摸犯を云ふ。
うむなてんた〔舌折〕 言葉又は凝議する事を云ふ。
うよん〔龍〕 馬を云ふ。名馬を龍馬と稱するより。
そり 人を云ふ。
そり 萬引、又は掏摸犯を云ふ。
そり 强盜犯人携帶の捕繩其他紐類を云ふ。
そりかまんた 多數の同類者を云ふ。又同行者をも云ふ。
そりきどツた 官吏を云ふ。
そりさらツた 家人睡眠の淺きを云ふ。
そりゆもくこツた 屋内に忍入りたるも目星しき金品のなき事を云ふ。
そる 人を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
そるいちるよつなぼあら〔血在耶否〕 家人が在宅せるや否を窺ふ事を云ふ。
そるかい〔鳶〕 一般警察官吏を云ふ。

そるかい〔鳶〕 萬引窃盗犯を云ふ。
そるかいがとつた〔鳶揚〕 警官の臨検を云ふ。
そるかみ 風采又は擧動の奇なる人物を云ふ。
そるかみてつた 兵士を云ふ。
そるさはつた〔泄瀉〕 强盗に押入り家人が逃走せし事を云ふ。
そるちう 一般人家を云ふ。
そるみるにんた 多數人集合せし事を云ふ。
そるろくさゆーていつたー 殺人犯を云ふ。
そん〔手〕 密賣淫婦を云ふ。
そんいつこふた 忍込み窃盗が家人に發見せられたる事を云ふ。
そんをこむ 監房を云ふ。
そんかぢ〔小牛〕 憲兵を云ふ。（全羅北道地方）
そんからきた 一般窃盗犯を云ふ。指の長き意より。
そんきたー 目的たる金品の現存せざるを云ふ。
そんこむ〔手筋〕 一般窃盗犯を云ふ。（京城地方）
そんこむのんだ 賭博の開張中を云ふ。
そんこむぱツた〔手筋見〕 骨牌賭博。
そんしつことるかんちやツた 强窃盗前科者で改悛の情顯著なるものを云ふ。「手を洗ふ」の意より。
そんた〔指〕 共犯者の一人が逮捕せられたる時に、同類に逃走せん事を教唆する場合に用ゆ。
そんたんにむベー〔先達主派〕 强窃盗犯人を云ふ。
そんつんうるぽぶちやー 鬪牋を使用し賭博をなす事を云ふ。
そんぴよんちよんえかちや 「回避する」意を云ふ。
そんぴんもくちやー 隱匿又は潜伏する事を云ふ。
たい 銃器を云ふ。
たい 睡眠する事を云ふ。
たいかみ 刑事又は私服巡査を云ふ。
たいけじやん 萬引窃盗犯を云ふ。
たい〳〵らい〳〵もくのんた 强盗犯を云ふ。
たえよくわいた 逮捕引致せられる事を云ふ。
たかり 賭博又は强窃盗常習者中の老巧者を云ふ。
たく 一般警察官を云ふ。古來より廣く一般犯罪者間に用ひられる。
たくきい 手拭を云ふ。
たーくーくまんとるなんた 一般詐欺犯を云ふ。（京城附近犯罪者用語）
たくたくい 窃盗常習者を云ふ。
たくちー 笠、帽子の類を云ふ。
たくちやん 松林又は籔を云ふ。
たくちようちり 毆打する事を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
たくわらー 毆打する事を云ふ。
たーさりちよんてなるりぽないちやー 强窃盗殺人傷害犯又は共犯人を云ふ。
たーさるりかちやー 强盗犯及共犯人を云ふ。
たしんた〔臥出〕 打するを云ふ。
たーちやー 普通窃盗犯を云ふ。
たつとん〔雨斑〕 五錢白銅貨を云ふ。
たつぱし 白銅貨を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
たぶさうちや 窃盗犯を云ふ。
たまる 山獄を云ふ。
たる 水を云ふ。
たるいくんだ 降雨を云ふ。

たるきちやん〔鷄の巢〕 妻を云ふ。
だるくるよ 降雨を云ふ。
だるぐんせえー 內地人を云ふ。(江原道鐵原地方)
たるこんねんだ 渡河する事を云ふ。
たるび 足を云ふ。(詐欺賭博犯用語)
たるびちび 足袋を云ふ。
たるりちろりをんた〔瓢繩來〕 降雨を云ふ。
たるろ 山上を云ふ。
たれち 紙幣を云ふ。
たんぢろ〔圓紐〕 月を云ふ。
たんぶれさーりよつた 物件を包藏隱匿する事を云ふ。(江原道准陽地方)
ちいゆにや〔鼠力〕 小盜賊を云ふ。
ちうい 道路を云ふ。
ちういやちういや 「來い來い」との意又は警官を殺害せんとの意。
ちうきよら〔可殺〕 冷却するの意。
ちうしやむちる 竊取行爲を云ふ。(京城附近竊盜常習者用語)
ちうそる 數量の一を云ふ。(詐欺賭博犯用語)
ちうとん 金額一錢を云ふ。(詐欺賭博犯用語)
ちうや〔鼠〕 竊盜犯人を云ふ。
ぢうや 集會する事を云ふ。
ちえ 共犯者又は同類を云ふ。
ちえつた 逮捕引致さるゝ事を云ふ。猛鳥小鳥を捉え去る意より。
ちーえびかわつた 「巡査が來た」との意
ちつかい 燐寸を云ふ。
ちつくたぷ 市場商人を云ふ。
ちつちついそえー 趙の姓を云ふ。
ちつらー 放火を云ふ。(詐欺賭博犯用語)
ちびんた 掏摸を云ふ。(京城地方)
ちぶあきらつや 强盜共犯者互に凝議する事を云ふ。
ちぶせき〔草鞋〕 一般通貨を云ふ。(詐欺賭博犯用語)
ちぶたー 恐愕の表情又は動作を云ふ。
ちむうるへつた 竊盜犯を云ふ。
ちや〔尺〕 刀を云ふ。其形態度量器に似たるより。
ちやいやちやいや 共謀竊盜犯を云ふ。
ちやうくび〔足皮〕 足を云ふ。
ちやうやばつばたろ 金品を强奪して共犯者に渡す事を云ふ。
ちやうんまんぼく〔全萬福〕 殺人犯を云ふ。(京城附近)
ちやえびをんた 警官の來る事を云ふ。
ちやくさつい 阿片を喫する事を云ふ。
ちやくとちやるー 檢事を云ふ。
ちやしやみ〔人蔘〕 內地人を云ふ。(詐欺賭博犯用語)。
ぢやーそんはーてつぴつた 戰亂の意。
ちやちや 竊盜現場より歸宅するの意。
ちやちやぼら 小刀類を携帶する事を云ふ。
ちやちる 「如何なる人物なるか」との意度量器を以て測る意より出づ。
ちやーてあ〔笛〕 卷煙草を云ふ。
ちやとん〔自灯〕 眼を云ふ。
ちやふそい 客人を云ふ。
ちやふばちよつた 竊盜現場より逃走するを云ふ。
ちやむ 住居を云ふ。
ちやむちり 旅館を云ふ。
ちやむばくあつた 共犯者、又は共謀者は何處に居るかとの意。
ちやるう〔袋〕 豫期の結果を得られざる場合、又は到底成功を豫測し得ざる場合を云ふ。
ちやるばんしんけんや 婦女子を云ふ。

ちやんいてんんた　「警官が來る」との意
ちやんをんそる　數量の二を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
ちやんさかちや〔商賣行〕　掏摸犯が途上を徘徊する事を云ふ。
ちやんし〔市場〕　强盜犯及其犯人を云ふ
ちやんしん〔將身〕　立番巡査を云ふ。
ちやんてよつた　出會の約束を云ふ。
ちやんちばん　目的たる金品の豐富なるを云ふ。
ちやんはぶ〔黍飯〕　刀劍を云ふ。（平安道地方）
ちやんべく〔散髮〕　刑事を云ふ。
ちやんまち　出會ひを云ふ。
ちゆ　太陽を云ふ。
ちゆいや　「戶門を開け」との意。京畿道、忠淸南道地方强盜犯用語）
ぢゆいやぢゆいや〔蠕々〕　一味が密議後開散する事を云ふ。
ちゆえもんね　强盜犯を云ふ。
ちゆくんそる　數量の四を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
ちゆたに　監房を云ふ。（詐欺犯用語）
ちゆに　鷄を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
ちゆにーがぱんだー　鷄鳴の頃、拂曉を云ふ。
ちゆぶた〔寒冷〕　感情、意志を云ふ。
ちゆんびいつた　深夜を云ふ。
ちゆんむんちーむん〔中門大門〕　兄弟姉妹を云ふ。
ちようちよ　拂曉を云ふ。
ちようたらー　逃走出奔に際し、行先其の事情等を同類又は知己に知らす事を云ふ。
ちようひちよんとい〔白紙厲後〕　夜明けに出會ひの約をなしたる事を云ふ。
ぢようぷるぴ　數量四百、又は四千を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
ちよかどろちよた〔蠟燭消滅〕　夕暮を云ふ。
ちよくばる　强の姓を云ふ。
ちよげ〔具〕　符諜、暗號を云ふ。
ちよけちよけんた〔陰莖を握る〕　失敗又は不成功の意。
ちよぜんろり　紙幣を云ふ。（竊盜常習者用語）
ちよそーい　一般通貨を云ふ。
ちよたんだー　放火犯を云ふ。
ちよつき〔胴〕　胴着、短衣を云ふ。
ちよつたいぱつたん〔燭臺下板〕　足袋を云ふ。
ちよとろちよつそ　夕暮を云ふ。
ちよなり　賭博犯を云ふ。「巡査が檢擧する」と云ふ語の音節の轉換なり。
ちよぶさる〔星影〕　粟粒多數の意。
ちよりるた　素人を云ふ。（北鮮地方賭博常習者用語）
ぢよるあんい　銀貨、銅貨を云ふ。
ちよるかんい　捕繩又は腰繩の類を云ふ
ちよるくんた　一般竊盜犯を云ふ。（穩城地方）
ちよんい　警察署長又は店主、又は一家の長を云ふ。日本內地隱語の「どーろく」に相當す。
ちよんそる　數量の六を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
ちよんだい〔靑海苔〕　老齡者を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
ちよんばら　旅館、飲食店等の家人又は客人の就寢を待ち金品を竊取するものを云ふ。
ちよんぶ　警部を云ふ。
ちよんぽ〔靑泡〕　警察署を云ふ。
ちよんりそんる　數量の八を云ふ。（詐欺賭博犯用語）

ぢりけびてん〔釘拔〕 犯罪檢擧せらる事を云ふ。（廣州地方）

ちりちよら 目的たる家へ忍込む意。

ちるてんい 手頸を云ふ。

ちるでんちやり〔七分の價〕 窃盜常習者を云ふ

ちるはよぼるか 共謀して强窃盜に押入る事を凝議する事を云ふ。

ぢるぶん〔七分〕 强窃盜犯及其犯人を云ふ。往時强窃盜犯人を密告せし者は官より其賞として金七分を賜へたるより

ちるよー〔充滿〕物品を所持する事。

ちれきぶるねら 警官に追跡せられ逃走中の共犯人其他同類に知らす場合に用ゆる詞。

ちんをんいるた 素人を云ふ。（北鮮地方賭博犯用語）

ちんさ〔道士〕 忍込窃盜犯人を云ふ。

ちんでー〔長煙管〕 小鉋丁を云ふ。

ぢんぶを〔蒸鮒魚〕 鬪牋賭博を云ふ。

ちんぶーて 錢量百又は千を云ふ。（賭博常習者用語）

つうたーつうたーかまく 巡査來るとの意。

つうろく 旅館を云ふ（詐欺賭博犯用語）

づばり 巡査二名を云ふ。

つるつく 一般住家を云ふ。

つるて 男子を云ふ。（賭博常習者用語）

づんいくはをつたー 酩酊せし事を云ふ

つんくるそえー 朴の姓を云ふ。

つんつろく 酒屋を云ふ。

つんぴよん〔等兵〕 憲兵上等兵を云ふ。

てい〔竹〕 小銃を云ふ。

ていつた〔躍〕 逃走する事を云ふ。

てうとつぢよつた〔後潰〕 强盜に押入り家人が逃走する事を云ふ。

てえびをんた 憲兵の來る事を云ふ。

てーかびー 常習賭博犯を云ふ。（江原道鐵原地方）

てぎ〔餅〕 多額の現金を所持する者を云ふ。

てとり 羽織（朝鮮人）のを云ふ。

てーぢたり〔豚の足〕 拳銃を云ふ。

てついでみ 足袋を云ふ。

てつけぜーん 萬引窃盜犯を云ふ。（咸興地方無賴漢用語）

てつた 「警官が來た」との意。（忠淸北道京畿道强盜犯人用語）

てゝみ 鮮人用靴を云ふ。（詐欺賭博犯用語）

てーはくきよ〔大學校〕 刑務所を云ふ。（北靑地方無賴漢用語）

てもく 松又は松林を云ふ。

とありたら 風呂敷包を開くの意。

といちる〔枡量〕 墻壁を飛越す事を云ふ

とうむ 汚穢物を云ふ。

どうかやふた 一般窃盜犯を云ふ。

とかん 看守を云ふ。

とぎー〔陶器〕 賭博用器具を云ふ。

とぎ 阿片を云ふ。（會寧地方）

どぎーちよむしじやくはせ 賭博開張するの意陶器店を開業する意より。「とぎー」參照。

とく〔餅〕 賭博用器具一切を云ふ。

とくすり 强盜犯を云ふ。鷲の如く强奪するより。

とくそく〔德蓆〕 虛僞の陳述を云ふ。

とさんかちや 强盜犯を云ふ。

とーそる 數量の十を云ふ。（詐欺賭博犯用語）

とそるをんそえー 小使を云ふ。

とたりはぢや 普通窃盜犯を云ふ。

とちやすい 兒童を云ふ。

とーぢよいんた 目的たる金品の現存せざる時を云ふ。

どつくぱーぬれとつ　賣春婦を云ふ。
どつたー　「巡査が來た」との意。
とーとるぢまるらー　詐欺賭博實行中は騒ぐ可からずとの意。（詐欺賭博犯用語）
とぶちん　羽織（朝鮮人の）を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
とーぼるのまーちや　掏摸犯を云ふ。
とーみむいびよつた　早朝の意。
とやちたり〔豚脚〕　拳銃を云ふ。
とらつた　旅行又は徘徊する事を云ふ。
とらんぷたいじやー　詐欺賭博の一種又は詐欺賭博犯を云ふ。
とりかい〔庭打〕　鬪箋（賭博用器具）を云ふ。
とりまかえ　旅館を云ふ。
とる　韓の姓を云ふ。（江原道鐵原地方）
とるい　數量の一を云ふ。（江原道鐵原地方）
とるぱんちゆい　餅を云ふ。
とーれき　田舍、村落を云ふ。
とろく　民家を云ふ。
とろちん　憲兵を云ふ。「とろ」は物の破壞する意、憲は鮮語にて「ふん」と云ひ「ふん」は古きを意味す。古き物は破壞し易きより。
とんこり〔背掛〕　襯衣を云ふ。
とんたるりよつら　逃走する事を云ふ。
とんちうみるよそ　共犯者互に密會をなし凝議する事を云ふ。
とんちよん〔銅貨〕　藝娼妓、酌婦を云ふ
とんつろく　居酒屋を云ふ。
とんどいつた　田舍の金滿家を云ふ。
とんどり　賭博犯を云ふ。
どんどん　豫期の手段方法を爲したるの意。
とん〱いのみるにちや　强盜犯の共犯者を云ふ。
とんねー　警官又は其他の官吏の來る事を云ふ。
とんはー〔銅貝〕　つゝもたせ（合意强姦）を云ふ。內地人隱語、「つゝもたせ」參照。
どんばるうくまん　袂を云ふ。
なあむ　寺院を云ふ。
ないちやんしえ　安の姓を云ふ。
ないちやんそえー　安の姓を云ふ。
ないちよつ　菓子を云ふ。
ないぢら　家出する事を云ふ。
ないばるとんたんた　囚人脫走する事を云ふ。
なつちばる〔章魚の足〕　手を云ふ。
なぬびよにー〔渡來瓶〕　麥酒を云ふ。
なのんそえー　崔の姓を云ふ。
なぶ　僧侶を云ふ。
なぶちやむ　寺院を云ふ。
なべくる　寺院を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
なむあみだぶる〔南無阿彌陀佛〕　不成功なりしを云ふ。
なむそ　言語、發音を云ふ。
なむそんい〔南星〕　牛を云ふ。
なむせんか　小供の泣き叫ぶ事を云ふ。
ならつた　主人が不在なる事を云ふ。
なるとあつた　窃盜に忍込み外來の障礙により豫期の結果を得ざりし事を云ふ
なるよら　急遽逃走する事を云ふ。
にをんでー　棍棒を云ふ。
にぶとんい　賣春婦を云ふ。
ぬりよい〔黃色〕　軍服着用憲兵を云ふ。（北鮮地方）
ぬーる　舟を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
ぬるくんに　牛を云ふ。
ぬろんいー〔黃色〕　軍服着用憲兵を云ふ
ぬんどつた　燈火を云ふ。

ねむせー　一般警察官を云ふ。（江原道伊川地方博徒用語）
ねんい　梶棒を云ふ。
ねんちる　朴の姓を云ふ。（江原道鐵原地方）
のういんちやんさ　畜牛を窃取する者を云ふ。
のくそち　金滿家又は金錢所持者を云ふ
のくつう　警察署を云ふ。
のくばつうもり　巡査を云ふ。
のむーんちー〔卷繩〕　刑事又は憲兵を云ふ。
のるかぢ　憲兵を云ふ。
のるせつき　賭博を云ふ。（咸鏡、沿海地方）
のーれん　憲兵を云ふ。（江原道伊川地方博徒用語）
のろちんそえー　柳の姓を云ふ。
のんだる　血液を云ふ（江原道鐵原地方）
ばあくぶれ　「モルヒネ」を云ふ。
ばあん　土工を云ふ。
ばいをりきんた〔鵝鳥蘭〕　逃走する事を云ふ。
ばいきえむい　米を云ふ。
ばいくたろくるろんた　雪降りを云ふ。

ばいちや〔拔歷〕　賭博犯を云ふ。
ぼいのろむ〔船遊〕　飲食する事を云ふ。船と腹とは同訓なるより。
はいばち　容貌を云ふ。
ばいぼせ　賭博開張する事を云ふ。
はいやぼせ　賭博開張する事を云ふ。
ぼくあん　刑務所を云ふ。
はーこりー〔夏〕　單衣を云ふ。
はーたん　隱居家、又は離座敷を云ふ。
ばちうるたろ〔油果與之〕　捕繩を云ふ。油揚菓子に形狀の似たるより。
はーぢやくーとるつーり　浴場内窃盜犯内地人隱語「いたのまかせぎ」に相當する語。
はなるばむとちよつ　農作物を窃取する事を云ふ。
ばぶちやんす　郡守を云ふ。
ばぶちよら〔炊飲〕　毆打の所爲を云ふ。
ばぶもくちや　拂曉を云ふ。
ばむいしる　强窃盜犯人を云ふ。
ばむそつく　倉庫、納屋等其他類似建築物を云ふ。
ばむそんいん〔夜客〕　强盜犯を云ふ。
はむはくこつぴいよつた　火炎を云ふ。牡丹が花開する意より。

ばらつた　醉態を云ふ。
ばらみ　途上掏摸犯を云ふ。
ばらむいぶんた　犯人の搜査手配を云ふ
ばらむぶろつた　强窃盜未遂の狀態。
はり　掠奪する事を云ふ。
ばりかとつた　一般警察官を云ふ。
ばる　巡査、憲兵、密告者等を云ふ。
はるぎよ　一般窃盜犯を云ふ。
ばるくわい〔八卦〕　骨牌を云ふ。
ばるそち　貧窮者を云ふ。
はるちやんなー〔弓商人〕　畜牛窃取の所爲を云ふ。
ばるば〔踏〕　鞋を穿く事又は逃走準備の意。
ばるり　豚を云ふ。
ばろぶろつた　罪狀を自白する事を云ふ
ぼん　月夜を云ふ。
はんありとくかんよつた　會合して密談する事を云ふ。
はんけてーぼせ　賭博開張する事を云ふ
はんたいもり　一人を云ふ。
はんたんい　刀劍を云ふ。
ばんちやり〔半柄〕　窃盜犯人を云ふ。
ばんちやんくん〔黃將軍〕　憲兵及其補助者を云ふ。

ぱんちより　晝間を云ふ。
ぱんちよるときー〔半跛〕　窃盜犯人を云ふ。
はんとい〔一升〕　一圓の意。
ばんとるけい　眼を云ふ。
はんとんい〔黄童伊〕　憲兵を云ふ。
はんばる　一里を云ふ。
はんばり　二人連れの巡査を云ふ。
ぱんびし　酒席料理品一切を云ふ。
はんぼつく〔一卦〕　五圓を云ふ。
ぱんまいくん〔放賣軍〕　看守を云ふ。
はんまる〔一枡〕　十圓を云ふ。
ひー〔血〕　女子を云ふ。月經より。
ひげはちや　殺害する事を云ふ。
ひーごうんれい　憲兵を云ふ。（詐欺賭博犯）
ひこるね　憲兵を云ふ。赤き帽子を冠れるの意。
ぴたんそえー　南の姓を云ふ。
ひちゑつた　「巡査が來た」との意。（靈光地方）。
ひーちやそく　紀律の嚴なるを云ふ。
ひちよんたい〔横掛竹〕　笠を云ふ。
ひてきぶちんた　强姦を云ふ。
ひびそえー　宋の姓を云ふ。
ひひちや　賭博を云ふ。
ひみ　牛を云ふ。
ひもくんぢるぶん〔血飲七分〕　强盜殺人犯を云ふ。
ぴやくとんかる〔白銅刀〕　警官、憲兵を云ふ。（全羅北道益山地方博徒用語）
ひやつたるくんた　雪降りを云ふ。
ひやら　「警官、又は憲兵の警戒あり注意せよ」との意。
ぴやんどぬ　一般窃盜犯を云ふ。
ひやんめー〔白米〕　卷煙草を云ふ。
ぴよくさーうりぢや　强盜犯を云ふ。
ぴよりちよ　黎明又は拂曉を云ふ。
ひるたんたー　萬引犯を云ふ。又途上掏摸犯をも云ふ。
ぴんあい　金、銀懷中時計を云ふ。
ひんじほんだー　普通賭博を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
ひんちぼちや　賭博開張せんとの意。
ぷあよるはんまり〔鮒十一疋〕　窃盜現場を逃走する事を云ふ。
ぷえつぷる〔猫の角〕　喫煙する事を云ふ。
ふえとり　頸を云ふ。（江原道鐵原地方）
ふえとり　山嶽を云ふ。
ふきいとぺんだー　唄を歌ふ事を云ふ。
ふくたいまてい〔竹節〕　長屋又は家屋の櫛比せる事を云ふ。
ふくてき　幼兒を云ふ。（詐欺賭博犯を云ふ）
ふくとんい　子供を云ふ。
ぷしまいき　煙草入れを云ふ。
ぷせき　籾を云ふ。
ぷちたんい　小銃を云ふ。
ぷーちよー　髮又は鬚を云ふ。
ぷーちゆーかれ〔庖廚の間〕　一般官公署を云ふ。
ぶつちよら　共犯人に對し窃取せよと報らす事を云ふ。（忠淸北道、京畿道、窃盜犯人用語）
ぷつねや　飲食する事を云ふ。
ぷーにーぢやんたいしやー　詐欺賭博を云ふ。
ぷぱんそえー　林の姓を云ふ。
ふみ　山嶽を云ふ。
ふみすり　溪谷を云ふ。
ぷりそえー　尹の姓を云ふ。
ぷりぢよつた〔鼓擊〕　中止の意。往古の戰に敗軍の時は鼓を鳴らし旗を擧げて退却し戰を中止せしより。
ぷるとんいをんた　憲兵が來たとの意。

（賭博常習者用語）

ふーるにんた（流水）　飲酒する事を云ふ

ふるほつた（黄色）　結果の不成功を豫見せる意。

ふるりむ　酒を云ふ。

ぶるろつた　多額の金品を所持し居る如き者を云ふ。

ぶろむたくち（琥珀）　紙幣を云ふ。

ぶん　犯罪者を云ふ。

ぶんい　船舶を云ふ。

ぶんをる　世間の噂の意。

ぶんそる　數量の三を云ふ。（詐欺賭博犯用語）

ぶんた　共犯者を云ふ。

ふんにかちよろちんだ　空腹の意。

ぺいついるほんころ（百日紅花）　褒めらるゝ事、又は嬉しき事を云ふ。

ぺくちやんのむびちやん（穢多）　憲兵又は警察官を云ふ。帶劍を居夫の腰間に挾みたる庖丁に擬せしもの。

ぺーこむちやむむるそい（腹の錠）　懷中時計を云ふ。

ぺーたらー　殺人敎唆を云ふ腹を裂き内臟を出せとの意より。

へーちゆう　婦人を云ふ。（賭博常習者用語）

べつたりくつくりちや　賭博用骨牌を云ふ。

へとくむるちやるねー　坂道を登るの意

ぺむどん　巡査を云ふ。

ぺやむぢやんをきんた（纔來る）　「憲兵補助者が來た」との意。

ぺりとい　曉を云ふ。

ぺるちや（別子）　刑事を云ふ。

ぺろ　市場の人寄せを云ふ。

べんだらー　開門の意。

ぺんでえん　刀劍を云ふ。（詐欺賭博犯用語）

ぺんぬる　骨子を云ふ。

べんはれらー　閉門する事を云ふ。

ほ　一般銃器を云ふ。

ほいむ　刑事又は私服巡査を云ふ。

ほいろ　詐欺賭博犯人を云ふ。

ほうらまいてつた　警官隊の來襲を云ふ

ほーぐ　田舍人を云ふ。（詐欺賭博犯を云ふ）

ほくそんだりかちや　娼妓を相手として遊興する事を云ふ。

ほくてすり　土工にて窃盜を働らく者を云ふ。

ぽくばち（土袴）　强盜犯人を云ふ。（京畿道地方）

ぽくひよん（玉篇）　骨牌使用賭博を云ふ

ほーざ　財布類を云ふ。

ほちよく（胡笛）　巡査を云ふ。

ほつらいき　空屋を云ふ。

ほないら　殺人行爲を云ふ。

ほぬんた　强盜殺人犯を云ふ。

ほねんぐ（送致）　殺人を云ふ。

ほばい　米穀を云ふ。

ほはくい　銀貨を云ふ。

ほばくくそ　破獄する事を云ふ。

ぽむいつぷ（虎の口）　南瓜汁の意。憲兵隊を云ふ。（咸興南道地方）「ぽむくり」とも云ふ。

ぽむくり　憲兵隊を云ふ。（咸興南道地方）

ほらんいとん（虎の糞）　憲兵、巡査、巡査補助者を云ふ。

ほりくるまつちうちや　飲酒する事を云ふ。

ぽるあいしや　刑事を云ふ。（咸興南道地方）

ほるたい（笏太）　巡査を云ふ。

ほるたつた　一般窃取行爲を云ふ。

ほるぢき　酌婦を云ふ。
ほるどき〔野兎〕　刑事を云ふ。
ぽんいわつた　相手方が金品を所持せる事を云ふ。
ほんちよらら　門戸閉鎖する事を云ふ。
ほんちよんされかちや　共犯者と共に目的場所に至るを云ふ。
まいき　警部を云ふ。
まいばる〔鷹の足〕　一般窃取行爲を云ふ（靈光地方）
まいむいぶつなんた　警官の巡回に注意するを云ふ。（忠淸北道、京畿道附近強盜犯用語）
まいんぢやん　果物類一切を云ふ。
まえつとるちるはんだ〔挽臼〕　雷鳴を云ふ。
まくいればーばんとんだ　強盜強姦を云ふ。
まくそー〔幕所〕　旅館を云ふ。
まくちやぶい　鼻を云ふ。摑む意より。
ますちや　金庫破窃盜犯を云ふ。
まつけいつた　犯罪者使用の合鍵を云ふ
まばん　鄭の姓を云ふ。
まま　飯を云ふ。
まもく〔馬木〕　犬を云ふ。

まるばん〔板子房〕　留置場を云ふ。板の間の意より。
まんけんしら　被害者其他の者を縛する事を云ふ。
まんそき　餅を云ふ。
まんなんい　殺人犯を云ふ。
まんとーさく〔將軍石〕　耳を云ふ。
みくりふるちや　賭博開張する事を云ふ
みぢやち　喫飲する事を云ふ。
みやしえ　數量の二を云ふ。（江原道鐵原地方）
みるいちや　逃走する事を云ふ。
みるぴよん〔密餅〕　金錢を云ふ。
みるよつた　有る、又は來るの意。
みれら　出發の合圖を云ふ。
むあーみ　言葉を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
むをつたんだー　放尿脫糞する事を云ふ
むぎた　警察署を云ふ。（江原道鐵原地方）
むつかい　銃器一切を云ふ。（靈光地方窃盜常習者用語）
むつく　警察署を云ふ。
むるいつた　捕捉する事を云ふ。
むるばい〔水派〕　海賊を云ふ。

むるばんいちよめんだー〔水春〕　男女交合せる事を云ふ。
むるみるな　移轉する事を云ふ。
むれむる　絹布衣服を云ふ。
めきちや　「掠奪しやう」との意。
めつとるぢるはぢや　一般窃盜犯を云ふ
めるれ〔選骨〕　骨牌賭博を云ふ。
めろんい　憲兵を云ふ。
めんたいぬかり〔明太魚の目〕　銀貨其他通貨を云ふ。
もくい　兵士を云ふ。
もくいかつてた　巡査の來たる事を云ふ
もくうちづ　喪人を云ふ。
もぐきら　罪狀を自白する事を云ふ。
もぐをろかち　飲食物を窃取する事を云ふ。
もくかん〔風呂場〕　厠を云ふ。
もくかんり〔浴場所〕　監房を云ふ。
もくきぐん〔木器軍〕　密告者、間諜を云ふ。
もくちぶ〔青泡家〕　警察署を云ふ。
もくて〔黒棒〕　軍用銃を云ふ。
もくと〔木刀〕　煙草を云ふ。
もぐり　強窃盜共犯人を云ふ。
もぐんそる　數量の九を云ふ。（詐欺賭

博犯用語）
もごわつた　窃取したとの意。
もちづるはいよつた　犯罪事實の發覺せし事を云ふ。
もとむはちや　飲食する事を云ふ。
もやちや〔唖〕　殺人犯を云ふ。
もりかかよぶた〔頭痒〕　困却の態を云ふ
もんいた〔皆無〕　貧窮者を云ふ。
もんく　藁口、其他財布類を云ふ。
もんぐり〔坊主〕　内地人を云ふ。
もんでら　贓物寄藏を云ふ。
やえーぶみ　襦袢の類を云ふ。
やきやり　强窃盗犯人を云ふ。
やちやんぼちやきしつよつた〔青褓覆面〕　嫉妬怨恨の情、又其れを表わす動作を云ふ。
やつふんこり〔薄衣〕　勞働服を云ふ。
やんくましんた〔藁を燃す〕　喫煙する事を云ふ。
ゆちやんくん　賭博常習者を云ふ。
ゆつぺいよら　「屋内に忍込み放火しやう」との意。
ゆやんいとどく　小泥棒を云ふ。
ゆりー〔妾帶〕　制服着用、又は裝飾化粧する事を云ふ。
ゆりしえ　尹の姓を云ふ。
ようむさき〔夏着〕　藝娼妓、酌婦を云ふ。
ようんれい　兵士を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
よかん〔毛尿缸〕　婦人を云ふ。
よそるゆー　美貌又は美裝せる婦人を云ふ。
よそんよん〔呂宋煙〕　彈丸を云ふ。藥莢を藥卷煙草に例へたるもの。
よぢやんい　一般通貨を云ふ。
よつばんまんい〔飴椎〕　鬪箋賭博を云ふ
よつむだん〔鹽湯〕　看守を云ふ。
よほ〔狐〕　賭博を云ふ。（全羅北道益山地方博徒用語）
よほーけむるよつた　賭博に敗けるを云ふ。
よむらぶ〔閻羅府〕　裁判所を云ふ。
よるよんにやん〔金一圓六十錢〕　眼を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
よんいなるきんた〔鳶が飛ぶ〕　巡査の來るを云ふ。
よんかういた〔龍が鳴く〕　逮捕官吏の來れるの意。
よんするぐぢや〔飴引〕　賭博用器具を云ふ。
よんぢー　宿屋の主人を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
よんちろ　朝鮮酒を云ふ。
よんちろー〔念珠〕　夫婦同伴者又は男女交接する事を云ふ。
よんちうばとんこつ〔臙脂塗所〕　住家を云ふ。
よんちゆーつーろに　住所を移すを云ふ
よんでき　朝鮮酒を云ふ。
よんとくい　麥酒を云ふ。
よんもくくろちぷりうちよーた　罰金刑を云ふ。
らんさ〔娘師〕　土藏破り窃盗犯及犯人を云ふ。
り　夜半を云ふ。
りしんごく　捕繩切斷の用意にて犯人が所持する刄物を云ふ。
りつぽら　宿屋、飲食店等にて家人其他が就寢せしや否を窺ふ事を云ふ。
りよん　馬を云ふ。
ろくさえー　病氣、又は死亡する事を云ふ。（詐欺賭博犯用語）
ろくとー〔綠豆〕　警察官を云ふ。
わいみをうきをうり　警官が日本服を着用し來たれる事を云ふ。

わんぬにー 馬を云ふ。（江原道鐵原地方）

わんむちゆり 三百、又は三千の意。（賭博常習者用語）

台灣及滿洲隱語

臺灣人隱語

あつきんらい〔折鳳梨〕 家禽窃盜を云ふ
いあつ〔悦〕 敬禮を云ふ。
いゝしそんりえん〔醫生糞〕 醫師を云ふ
おあ 刑事を云ふ。
かありあ〔監仔裡仔〕 刑務所を云ふ。
かありあていう〔監仔裡仔長〕 典獄を云ふ。
かう 間諜又は犯罪密告者を云ふ。
かぶてつ〔蛤竹〕 臺灣土人用袴を云ふ。
かんぽー〔看部〕 監房を云ふ。
きありい〔嚟裂〕 陰門を云ふ。
きんらんちーりう〔㹴難之柾〕 看守を云ふ。
しいぬなー 豚を云ふ。
しやうたう〔消解〕 利尿を云ふ。
すうえーちやうりやう〔四的笑聚〕 貸座敷又は曖昧料理屋を云ふ。
だあ〔打〕 答刑を云ふ。
たあー〔踏仔〕 靴を云ふ。
たあーりんごあつらう〔塔無月荖〕 智慮淺薄なる人物の意。
たむ 刑事を云ふ。
ちいあ〔仔蒴〕 刀劍類一切を云ふ。
ちつきうかいほー〔此齣盖好〕 就寢、安眠の意。
つあいきー〔菜旗〕 酒席料理品又は副食物を云ふ。
ていらうちいらう〔天漏井漏〕 逃走。行衛不明を云ふ。
てつがあきい〔竹仔枝〕 箸を云ふ。
てつぱい〔竹筏〕 家鴨を云ふ。
とあてん〔六丁〕 陰莖を云ふ。
とあんとー〔傳道〕 刑務所内の工場擔當看守を云ふ。
にりきろー〔二裡已牢〕 刑務所第二課長を云ふ。
ぬんすんえー〔二純的〕 看守長を云ふ。
ばいひをーあ〔拜葉仔〕 賭博犯を云ふ。
ひあこ〔壁古〕 喫煙する事を云ふ。
ひあこーぶう〔霧古震〕 阿片を吸引する事を云ふ。
ひあさむ〔壁杉〕 飲酒する事を云ふ。
ひあじむくい〔壁王癸〕 水を飲む事を云ふ。
ひあちえんかん〔壁淸江〕 喫茶する事を云ふ。
ひあちやん〔壁將〕 食事する事を云ふ。
ひいすう〔丕四〕 上服を云ふ。
ぴいてんがー〔米田仔〕 巡査を云ふ。
ぶーえー〔母的〕 女囚を云ふ。
ふうろー〔數牢〕 入浴する事を云ふ。
ほをぷんたんちや〔無飯可食〕 囚人の減食處分を云ふ。
ほをろをひよ〔葫蘆葉〕 帽子を云ふ。
ほんてん 〔封灯〕電燈を云ふ。
らいひあ〔來壁〕 食事する事を云ふ。
りうこあん 豚を云ふ。
りうりー〔瑠璃〕 教誨師を云ふ。
りやひあたん〔拿壁虫〕 住家、土藏等の壁を切破り侵入するを云ふ。
れんほえ〔蓮花〕 椀、茶碗の類を云ふ。
ろうつあい〔勞才〕 雜役夫を云ふ。
ろうついき〔勞水記〕 刑務所内掃除夫を云ふ。

支那人隱語

あい〔愛〕 數量の九を云ふ。
あいまー〔愛馬〕 九八の稱を云ふ。
あいろーつ〔愛羅子〕 日本人又は日本銀貨を云ふ。
あいろーつつあい〔愛羅子賊〕 警部を云ふ。

あるたんちやで〔二當家的〕 副參謀、又は馬賊小頭を云ふ。

あんくわんつ〔暗光子〕 月影を云ふ。

いえつ〔葉子〕 一般衣服を云ふ。

いーくをらん〔一鍋亂〕 周姓の意。

いーたんかん〔一湯岡〕 金額千圓の意。

うえーつ〔味子〕 彈丸を云ふ。

うをー〔窩〕 一般住家を云ふ。

うをーらーいーこぺんつ〔我拉一個片子〕 共犯互に贓物を分割する事を云ふ。

うーちやみーやを〔誤者密窰〕 密賣淫婦を云ふ。

うーらー〔烏拉〕 消滅するを云ふ。

かいつ〔蓋子〕 鞍を云ふ。

かいてんめん〔開點面〕 犯人目的を達せずして立去るを云ふ。

かーたー〔疾疽〕 懷中時計を云ふ。

かぬ〔肯〕 贓物を云ふ。

かんこーつ〔干鈎子〕 干の姓の意。

かんちえぬら〔肯檢拉〕 贓物少量の意。

かんつ〔欵子〕 贓物を云ふ。

かんつやを〔肯子窟〕 料理店を云ふ。

かんはいら〔肯海拉〕 贓物多量の意。

かんら〔啃了〕 空腹なるを云ふ。

くうつもーれんづちうらー〔跨子毛 臉子扯〕 少女を誘拐する事を云ふ。

くかうやう〔苦果窰〕 貸席又は曖昧料理屋を云ふ。

くーしやん〔古上〕 寺院を云ふ。

くーてんら〔苦點了〕 死亡する事を云ふ。

くわいぱんつ〔拐捧子〕 上衣を云ふ。

くわうちやんつ〔菜張子〕 中年の婦人を云ふ。

くわんちやん〔閑張〕 蒲團を云ふ。

けをんそーさん〔肯草山〕 喫煙する事を云ふ。

こーかい〔靠開〕 門戸を開く事を云ふ。

こーつ〔狗子〕 巡警を云ふ。

こーつ〔叩子〕 裾の短き支那服を云ふ。

こーぱ〔靠把〕 銃器一般を云ふ。

こーぷーかい〔靠不開〕 門戸を閉じる事を云ふ。

こーらー〔高拉〕 竊盜犯が思はざる障碍により豫期の結果を得ざりし事を云ふ。

さいつ〔賽子〕 星影又は彈丸を云ふ。

しーぱーつ〔十八字〕 李の姓を云ふ。

しほん〔杜棚〕 曇天を云ふ。

しやつ〔沙子〕 粟を云ふ。

しやをら〔逍了〕 所在を晦ます事を云ふ

しやよる〔下窰兒〕 强盜犯を云ふ。

しやん〔項〕金錢を云ふ。

しやんかぬ 飲食する事を云ふ。

しやんちよん〔香正〕 銅貨を云ふ。

しやんつ〔扇子〕 門扉を云ふ。

しやんやをつ〔上窰子〕 防備充分なれば容易に侵し難きの意。

しやんよー〔响窰〕 銃器の用意ある家を云ふ。

しやんらいしゆんらい〔上來水來〕 巡警又は兵士に追跡せらるゝを云ふ。

しゆあんんーめんいえしや〔双皮合藥紗〕 大狹袂を云ふ。

しゆいいん〔水硬〕 「人影を認む」との意

しゆいくわやを〔水果窰〕 共同浴場を云ふ。

しゆいしい〔水席〕 果物を云ふ。

しゆいしやん〔水番〕 夜警番人の存否を探ぐる意。

しゆいもーばー〔水莢泡〕 討伐兵の來着せし事を云ふ。

しゆいゆわふ〔水軟〕 人影を認めずとの意。

しゆえほー〔雪花〕 掏摸犯を云ふ。

しゆんしゆりう〔順水流〕 逃走する事を云ふ。

しゆんしゆんつ〔順水子〕 劉の姓を云ふ

しゆんつあう 卷煙草を吸ふ事を云ふ。

しゆんとん〔動桶〕 沓足袋を云ふ。

しよんしやん〔身章〕 蒲團を云ふ。

しよんてる〔星點兒〕 犬が伏ゆる事を云ふ。

しゆんしゆーつ〔双手子〕 鞭を云ふ。

しん〔新〕 數量の七を云ふ。

しんまー〔神馬〕 六人を云ふ。

しんまー〔新馬〕 新移住者を云ふ。

しーんまー〔與馬〕 七人を云ふ。

すいちよー〔睡覺〕 死亡せし事を云ふ。

せん〔神〕 數量の六を云ふ。

そあちえぬ〔要錢〕 强盜犯を云ふ。

たいちー〔帶刺〕 護身用の武器を云ふ。

たいれん〔帶遵〕 白晝强盜犯を云ふ。

たうべんら〔倒邊了〕 轉居、移轉の意。

たうほあさん〔桃花散〕 高粱飯を云ふ。

たーこやを〔打個窰〕 他人の邸宅に忍込むを云ふ。

たーちーつ〔大雉子〕 小銃を云ふ。

たーとぬほわー〔打灯花〕 深夜忍込竊盜犯を云ふ。

たーん 裾の長き支那衣服を云ふ。

たんがーあん〔談扛〕 言語又は會話する事を云ふ。

たんちやを〔擋橋〕 睡眠する事を云ふ。

ちーいんちえんて〔吃硬錢的〕 强盜犯を云ふ。

ちうにぬ〔繡捻〕 東方を云ふ。

ちうまー 土人、土着人を云ふ。

ちうらー〔扯拉〕 受託金品拐帶犯を云ふ

ちえてい〔且地〕 西方を云ふ。

ちえてんつ〔接天子〕 洋傘を云ふ。

ちえにぬ〔竊捻〕 西方を云ふ。

ちえぬつ〔檢粒〕 一厘錢を云ふ。

ちえんちえんさん〔珍珍散〕 粟飯を云ふ

ちえんまー〔僉嗎〕 倭小なる人物を云ふ

ちーこまー〔幾個馬〕 人數は何人かとの意。

ちーしゆいらー〔起水了〕 警官又は軍隊が來る事を云ふ。

ちーしゆゑほわー〔吃雪花〕 途上掏摸犯を云ふ。

ちーしようほうつーて〔吃小花初的〕 掏摸犯を云ふ。

ちーちえんついっていーぱいつあいて〔吃尖咀子的吃自來的〕 鷄盜人を云ふ

ちーちやんゆあん〔幾丈遠〕 里程を云ふ一丈は十里の意。

ちーちーゆあん〔幾尺遠〕 里程を云ふ。一尺は 里の意。

ちーつぱいしやらいら〔雉子白下來了〕 兵士の銃器を强奪して逃走するを云ふ

ちーつやを〔麵子窑〕 警察署を云ふ。

ちーとん〔止灯〕 眼を射る事を云ふ。

ちーぱいしゆえんでー〔吃白綿的〕 空巣狙ひを云ふ。

ちーひやをつ〔吃漂子〕 船舶内專門の竊盜犯人を云ふ。

ちやうしゆい〔着水〕 警戒の嚴重なるを云ふ。

ちやをちやを〔叫々〕 撲殺する事を云ふ

ちやをほんくわ〔着紅掛〕 呂の姓の意。

ちやーちーあつ〔差加子〕 警察官吏を云ふ。

ちやーほん〔挿棚〕 曇天を云ふ。

ちやら〔夾了〕 殺害する事を云ふ。

ちやん〔章〕 數量の八を云ふ。

ちやんまー〔張馬〕 八人を云ふ。

ちゆあんちーつちゆい〔串雉子去〕 銃器を强奪するの意。

ちゆいかん〔聚岡〕 金額拾圓を云ふ。

ちゆいらー〔聚樂〕 靴を云ふ。

ちゆをこまー〔捉個馬〕 船舶又は積載物

を掠奪する事を云ふ。

ちゆん〔中〕 數量の五を云ふ。

ちゆんかい〔均開〕 贓物の分配を云ふ。

ちよつ〔招子〕 眼を云ふ。

ちよーつ〔跳子〕 陸軍兵を云ふ。

ちよーほ〔扯呼〕 逃走する事を云ふ。

ちよーら〔折了〕 殺害する事を云ふ。

ちより〔車子〕 拳銃を云ふ、

ちーろぬつ〔吃輪子〕 車上の物品を竊取する事を云ふ。

ちーろんて〔吃絨的〕 掏摸犯を云ふ。

ちんちえん〔青錢〕 馬賊を云ふ。

ちんつ〔鏡子〕 窓口を云ふ。

ちんつ〔青子〕 軍刀類を云ふ。

ちんていぬ〔淸天〕 掏摸、萬引、等の晝間竊盜犯を云ふ。

つあい〔財〕 刑事を云ふ。

つあい〔宰〕 數量の四を云ふ。

つあいちんちやんりとーとら〔在青障裡匿着了〕 高粱畑に潜伏するを云ふ。

つあいつ〔宰子〕 彈丸を云ふ。

つあいつひーしやん〔財子皮章〕 官吏の制服を云ふ。

つあいまー〔財上〕 官公吏を云ふ。

つあいやを〔財窑〕 民政署を云ふ。

つあんくわ〔殘菓〕 老婦人を云ふ。

つあんまー〔殘馬〕 老人を云ふ。

つをーまいまい〔做賣賣〕 一般竊盜犯を云ふ。

つをんまー〔中馬〕 五人を云ふ。

つをんよーぱ〔總窰八〕 典獄を云ふ。

つをんつ〔稀子〕 白米を云ふ。

てあをれんるちゆい〔條連兒去〕 夜明け迄に出立する事を云ふ。

ていあうつ〔條子〕 軍用銃を云ふ。

ていあをちんつ〔吊井子〕 屋根を破り侵入する竊盜犯を云ふ。

ていあをつ〔吊子〕 風を云ふ。

ていをーつ〔條子〕 兵隊を云ふ。

ていをーつ〔條子〕 鍵を云ふ。

ていーとー〔堤土〕 靴を云ふ。

ていとる〔堤土兒〕 靴を云ふ。

ていよーつ 菓子を云ふ。

ていれんつ〔地連子〕 馬を云ふ。

ていんしん〔項星〕 深夜忍込竊盜犯又は常習竊盜犯を云ふ。

てやをちようら〔吊着子〕 訴訟なす事を云ふ。

てやをちよら〔吊着拉〕 逮捕引致せらる事を云ふ。

てんてん〔頂天〕 帽子を云ふ。

てんぺんわい〔天邊外〕 郭の姓を云ふ。

とうてい〔島地〕 東方を云ふ。

とーつう〔禿子〕 撲殺する事を云ふ。

とーていあを〔脫條〕 睡眠する事を云ふ。

とーほわつ〔斗花子〕 娘を云ふ。

とんとん〔蹬空〕 洋袴又は支那服袴を云ふ。

とんてん〔通天〕 一般衣服を云ふ。

とんふあんりせん〔東方亮〕 白の姓の意。

とんほわ〔燈火〕 夕暮竊盜犯を云ふ。

とんろーつ〔登樓子〕 趙の姓を云ふ。

なうやを〔納窰〕 住居移轉又は失踪する事を云ふ。

なをもーれんつ〔納毛臉子〕 婦女を强姦するを云ふ。

にやをやを〔鳥窰〕 刑務所を云ふ。

にんかーたー〔擰疙疽〕 施錠を破壞なし忍込む竊盜犯を云ふ。

ねんちようーつ〔念朝子〕 盲目者を云ふ。

ねんとあん〔念團〕 容易に自白せざるを云ふ。

ねんほあつ〔念話子〕 啞者を云ふ。

ねんまーひえぬとー〔寧馬邊施〕 一揆暴動を云ふ。

はいちやーくわんつ〔害來光子〕太陽を云ふ。
ばいちぬつ〔白金子〕雨降りを云ふ。
ばいちぬつ〔白銀子〕雪降りを云ふ。
ばいぬ〔擺銀〕雪降りを云ふ。
はいりやん〔牌亮〕美女を云ふ。
ばいゆー〔把流〕芝居を見物するを云ふ
はいりやんづ〔海亮子〕火災を云ふ。
ばいる〔牌兒〕人質となす事を云ふ。
ばーちやー〔扒架〕質屋を云ふ。
ばーつらー〔拔子拉〕目覺める事を云ふ
ばら〔擺了〕降雨を云ふ。
ばりとうつ〔擺豆子〕降雨を云ふ。
ばいうーねん〔百五年〕金錢を云ふ。
ばんしやん〔盤纒〕帶を云ふ。
ばんとんつーほう〔板橙子後〕張の姓を云ふ。
ひー〔皮〕葉口、財布を云ふ。
ひをつ〔漂子〕船舶を云ふ。
ひーしやん〔皮章〕一般衣服を云ふ。
ひーつ〔皮子〕一般衣服を云ふ。
ひーつ〔皮子〕犬を云ふ。
ひーぼくをちやんつ〔皮把悶章子〕妻女を云ふ。
ひーぼくをちやんつほあ〔皮把悶章子花〕少女を云ふ。
ひやうぼーつ〔瓢把子〕主人又は主謀人馬賊の主魁を云ふ。
ひやうふをんやん〔瓢風揚〕薛の姓を云ふ。
ひやうぺんつ〔飄片子〕雪景色を云ふ。
ひんちやん〔平古〕主人又は主謀者を云ふ。
ひんてい〔丙地〕北方を云ふ。
ふあーつあい〔發財〕共謀犯罪を云ふ。
ふあぬまーつ〔返馬子〕塀等を飛越えて侵入するを云ふ。
ふあんたいしやんで〔放臺上的〕賭博を云ふ。
ふあんちやんつ〔縫張子〕餅を云ふ。
ふをんつ〔風子〕馬を云ふ。
ぶーたいれん〔不帶連〕深夜强盜犯を云ふ。
ぶーつしやん〔傅子山〕醉態を云ふ。
ぶーふーとん〔打々登〕高の姓を云ふ。
ふわとー〔撥持〕手を云ふ。
へいらをほ〔黒老虎〕窃盜常習者を云ふ
ぺぬほーさん〔本火山〕飲酒する事を云ふ。
ぺんら〔邊了〕毆打する事を云ふ。
ほあいえつ〔花葉子〕トランプ賭博を云ふ。
ほあちゆあぬで〔化閘的〕壁を破つて忍込む窃盜犯を云ふ。
ほあつ〔華粒〕支那銀貨を云ふ。
ほあんほあん〔歡々〕日本紙幣を云ふ。
ほーこやを〔破個砦〕一般窃取行爲を云ふ。
ほーしえんひー〔護身疋〕拳銃を云ふ。
ほちしーてぬ〔昏寔天〕夜半を云ふ。
ほーちゆあぬつ〔糯悶子〕强窃盜犯人を云ふ。
ほーつ〔合子〕拳銃を云ふ。
ほーていようつ〔護條子〕拳銃を云ふ。
ほーとーつ〔虎頭子〕王の姓を云ふ。
ほーにん〔合捻〕召集するを云ふ。
ほぬていぬ〔渾天〕深夜忍込窃盜犯人を云ふ。
ほーりゆーつ〔胡芦子〕錠を云ふ。
ほーら〔合了〕共謀團結するを云ふ。
ほわちろ〔花初〕銀を云ふ。
ほんちえん〔紅錢〕馬賊同類者を云ふ。
ほんぽ〔横把〕强盜犯を云ふ。
ほんほーしやん〔奔火山〕飲酒するを云ふ。

まをたいわ〔茅臺子〕 寶局と稱する賭博を開張する事を云ふ。
まをつ〔猫子〕 歐米人を云ふ。
まーやーさん〔馬牙散〕 米飯を云ふ。
まんてんしやん〔滿天佝〕 雷の姓を云ふ
まんら〔慢了〕 業務怠慢、又は解散するを云ふ。
みー〔窑〕 娼妓を云ふ。
みよしー〔苗絲〕 頭髮を云ふ。
やー〔壓〕 逮捕官吏に對し暴行脅迫の意
やうつまいつ〔藥子碼子〕 二人を云ふ。
やーれんつちゆい〔軋連子去〕 乘馬にて進むを云ふ。
やーりえつ〔壓列子〕 婦女を強姦する事
やんちえんちゆい〔窰尖居〕 一般民家を云ふ。
やんつ〔洋子〕 商人を云ふ。
やんてい〔陽地〕 南方を云ふ。
やんにぬ〔津捻〕 南方を云ふ。
ゆえまー〔月馬〕 二人を云ふ。
ゆえまーほーつあぬ〔月馬合串〕 合意姦通するを云ふ。日本人隱語「つゝもたせ」參照。
ゆーつ〔又子〕 牛を云ふ。
ゆわんしやんゆわん〔寃上寃〕 冋の姓を云ふ。
ゆんてんらーとう〔攤點拉多〕 馬賊又は海賊の頭目を云ふ。
よー〔藥〕 數量の二を云ふ。
よーしやんとんつ〔捶山動子〕 手槍の穗先を云ふ。
らうほーしやんちゆん〔老和佝撞〕 鐘の姓を云ふ。
らうんやを〔冷窑〕 貧窮者を云ふ。
らーしえん〔拉線〕 目的地に向つて出發する事を云ふ。
らーしやぬつ〔拉扇子〕 門戸其他の施錠を破壞する事を云ふ。
らぬいえつ〔藍葉子〕 支那骨牌を云ふ。
らほ〔扯戸〕 休憩又は進行を中止する事を云ふ。
らーほぱー〔拉平罷〕 現場を退却するを云ふ。
らーほわー〔拉花〕 逃走又は失踪するを云ふ。
らーぺんつ〔拉片子〕 贓物を分配するを云ふ。
らーるーしゆい〔拉露水〕 未明に犯す窃盜犯人を云ふ。
らんつつあい〔冷子財〕 兵隊を云ふ。
りう〔六〕 數量の一を云ふ。
りうかん〔六岡〕 金額一圓を云ふ。
りうつ〔流子〕 風を云ふ。
りうつ〔柳子〕 風を云ふ。
りうつあうる〔流皂兒〕 雙眼者を云ふ。
りうーてまーつ〔六的碼子〕 一人を云ふ
りうふえー〔六丕〕 數量の十を云ふ。
りうふえいかん〔六丕岡〕金額百圓を云ふ
りうふえーつ〔六丕粒〕 金額一錢を云ふ
りうーま〔柳馬〕 一人を云ふ。
りうまー〔劉馬〕 十人を云ふ。
りえにぬ〔列捻〕 北方を云ふ。
りやをれん〔了連〕 夕暮の窃盜犯を云ふ
りやんしやん〔亮上〕 放火するを云ふ。
りやんつ〔栗揚子〕 豚饅頭を云ふ。
りよーしゆいでれん〔料水的人〕 夜警番又は警守を云ふ。
りよーていつ〔遼地子〕 掏摸犯を云ふ。
りんはつ〔冷把子〕 刑事を云ふ。
れい〔雷〕 北方を云ふ。
れうれんるほいらい〔料連兒回來〕 夜中歸るを云ふ 。
ろしゆい〔馬水〕 未明に犯す窃盜犯を云ふ。
ろーつつあい〔羅子賊〕 巡査を云ふ。

ろーやを〔熱窰〕　金滿家を云ふ。
ろんつ〔籠子〕　荷車を云ふ。
ろんてぬ〔籠點〕　一般竊盜犯を云ふ。
わーさんうえー〔座山窩〕　王の姓を云ふ
わてい〔窪地〕　西方を云ふ。
わん〔王〕　數量の三を云ふ。
わんさんぺい〔脫三張〕　孫の姓を云ふ
わんてまーつ〔王的碼子〕　三人を云ふ。
わんまー〔旺馬〕　三人を云ふ。

香具師の文献

香具師の起源は詳ではないが、上古、唐民の多く渡來して藥草、香具品類を露天を設けて鬻ぎしものが、香具師の鼻祖と思はれる。以後藥草の販賣は當時の賤民、河原者(かはらもの)、傀儡師(くぐつし)、等の手にうつり、

降つて足利季世、所謂戰國の世に食祿に離れし浪士或は野武士が衣食に窮せる餘り、半ば強制的に、路上に於て藥草、香具品類を販賣し、自ら(野師)香具師と稱した。

これが、即ち現今の香具師(露天商人)の源流である以下古老の保存する所の香具師の文献を年代順に列擧して愚考を加へて見やう。

○香具商人往來目錄

人皇三十四代推古天皇ノ(三十三代ナレドモ原文ノ儘揭載セリ)ノ御宇辛酉年聖德太子三十四歲ノ御時山城國四條川原ニテ千葉京咏ト云フ人、紅洞御居一夜ニ二人ノ御男子ヲ御產有之其砌リ清水ニ遊有御好早道ノ者ヘ被仰付其節商人清水瀧參リ水ヲ汲奉捧其時二人ノ御男子ヲ魏鏡アル御名ヲ賣買ト號シ給フ、故ニ兄ニハ十一ヲ掛賣ト讀弟ハ買ト云フ諸商賣香具二字ヲ給リ香具商人ト爲而諸國盛場罷出商賣仕見世一間四方往來道通賣買ニテ一尺二尺ト相定メ天秤棒ハ五尺八寸從是裏道小道作馬道或ハ耕作道迄御用捨被成下渡商人往來端入トナリ依而書付不持香具商人ノ店宿儀堅延行仕候樣仲間相定候事

一、先年香具商人ノ御上樣御用ヲ達事天智天皇ノ御宇八年延行者小角始而大和國葛城山ヲ開カレ候時三代目千葉京咏御供仕惡魔除ノ爲トテ被所持候杖ヲ願我荷物ヲ兩掛シテかつぎ熊野道ニ來ル行者分レノ時荷物ヲ取分ケ六尺二寸ノ金剛杖ヲ四寸切ル錫杖ヲ捻ニ仕給フ殘リ五尺八寸ヲ天秤棒ニ與レ給フ、兩ノ端ニ留ヲ打タセ此所ニ天神ヲ祭リ戈智斗ル商賣物試ニ金剛ノ靈德有香具商人在ル諸國盛場ヘ罷出商賣仕見世

一間四方往來通常滯一尺二尺ト相定天秤棒ヲ手形ニ仕國々御城下往來筋裏道小道作場道迄三尺見世場所ハ六尺四方御容免御用捨被成下御關所御番所橫川ノ渡場迄差構ナク帶刀御赦免被成下是日本國中可被通者也

一、人皇三十九代天智天皇（三十八代ナレドモ原文ノマヽ揭載セリ）御宇內大臣大職冠鎌足公親王ノ御時諸國神社御建立有之香具商人ニ御供米ノ儀被仰付候ニ付傀儡師二人罷在御用ニ達候香具見世繪圖形被仰付候事

一、天喜三年八幡太郎源義家公樣奥洲ニ御下奥ノ砌リ鐵物師ニ廻リ道御案內ノ儀被仰付候事

一、文錄元辰年大閤秀吉公樣朝鮮國御追討ノ砌リ肥前名古屋ヨリ御渡海節合藥師ニ御案內ノ儀被仰付候事

一、同二巳年秀吉公樣國々へ天王祭禮被仰付鐵物師ニ繪圖形被仰付候事

一、慶長十三申年秀頼公樣ヨリ國々へ諸見世物師御免ノ事

一、慶長五庚子年家康公樣關ケ原御陣ニ數百人奉供蒸菓子御茶ノ外煙草奉献差上候事

一、慶長九甲辰年下野國日光山へ御案內ノ儀小間物賣ニ被仰付候事

一、右香具商人ノ儀ハ惠美須仲間前ト有之儀、元和四午年四月十七日

一、東照宮樣御參回御法事ノ砌リ國中ノ香具商人ハ辻醫師ト稱へ御寺社へ下ゲ被仰付候事

一、寛永二十癸年家光公樣御時唐人來朝ノ砌リ拾三香具へ御茶菓子店仰付奉差上香具ノ儀蓋ニモ一統御免有之見世先三尺板天幕致シ看板共御捨免有之候事

一、寛永六巳年御老中松平伊豆守樣へ香具商人共被召出、八香具五商人ノ儀ハ天下一統ニ御免有之見世ハ三尺ニ於テ幕張ノ看板トモ御捨免有之候事右ノ通リ

食來師、傀儡師、鐵物師、讀物師、合藥師、物形師書物師、辻醫師

右ハ八香具八師ノ面々也

小間物師、賣藥師、煙草師、見世物、筵張茶屋

右ハ五商人香具ノ面々也。

○香具商人連中へ仰付候御注意ノ事

一、享保三戌年四月十六日香具商人連中へ岡大越前守様御番所へ被召出一々御尋ノ趣キ其砌、越前屋庄兵衛尾上兵左衛門、丸野安太夫右三人ヲ香具商人ト申事一々明白ニ申開依テ御上様ヨリ香具商人ノ儀ハ嚴敷御吟味無之然ル上ハ銘々國所誰、帳下商人誰ト申慥ニ成書付所持仕渡世商可致筈所如何相心得候哉其儀モ無之近年ハ不道ナル香具商人罷出所々ノ盛場ニ不道成ル香具商人仕リ或ル者ハ宿小屋ヲ荒シ所商人様ノ御酒ヲ呑或者ハ喧嘩口論致シ所々ノ世話ニ相成リ商人ノ道ニ無之候若シ無據掛合入亂紀相分兼候節ハ張頭ノ以テ江戸表行司取次御月番所へ可訴出候事

一、右之通リ可相心得申候御公儀様被遊仰付候御法度儀ハ不及申諸藥種ノ拔荷賣買不致國々城下揚場御武家方ニ無禮無之樣又高位御屋敷方へ推賣推買致間敷候若シ左樣商人共見附次第道具品々迄取上國所ヲ相紀シ親子方へ追返シ可申候若シ聞込無之者ハ早速可出訴候又諸所盛場ニ商賣罷出候テモ仕舞次第取計致候人數ヲ相改宿所罷宿可申候事

一、香具商人仲間內病氣又ハ變死等有之候節ハ隣村ノ者共ハ不及申遠村迄モ及沙汰御當人大切ニ取扱ヒ若シ大病ニモ相見へ候ヘバ醫者ヲ相頼ミ藥用大切ノ事ニ候萬一病死ノ爲候節ハ仲間相談ノ上寺ヲ頼ミ取扱可申候後ニ其者ノ國所へ沙汰ニ可及申候

右條々堅ク相守リ可申候事

一、大岡越前守様御奉行所ニ於テ拾三香具御改逸々申開仕リ依テ右ノ通渡仰候

一、御上様思召相計此上ハ香具商人ノ事ハ東叡山御宮様ノ御抱ノ百姓御定被遊依之諸國へ商渡世ニ罷出候節ハ御年貢足合罷出候趣具ニ被仰聞勿體モ其時從

○御宮様御勅言御免書ノ寫

一、本宮王東叡山御宮様御實之百姓日本國中神社佛閣實菊桐ノ御紋御免ノモノ也
國々御城下帶刀弘メ藥赦免是日本國中關所番所并ニ横川ノ渡場等構無之可被通者也

殿寶院宮　　香具商人

前書ノ通リ
御上樣ヨリ香具商人ノ譯御尋ノ砌リ拙者共三人罷出
具奉申上候

享保三戌年七月

越前屋庄兵衛
尾上兵左衛門
丸野安太夫

一、御公儀樣御法度ノ儀不及申香具商人ノ儀難有思召叶

一、東叡山御宮樣召抱ノ程香具商人一同難有相守可申候

一、御奉行大岡越前守樣逸々御改被下成難有思召叶拾三香具御定被下置候儀堅ク相守可申候也

一、寛延二巳巳年四月下總國ニ於テ成田ニ商人出入ノ節關宿御番所ニ於テ御白洲ニ寺社奉行大岡越前守樣御勤番ノ砌リ仲間一統被召出先年ヨリ渡世商賣道八百八品ノ次第詳ニ御答奉申上候御役人中樣誠ニ御滿足被思召被成下置是ヨリ香具商人ノ儀寺社奉行御支配被仰付候事

一、從御公儀樣仰付候御法度ノ儀ハ急度相守可申親孝行仕下ヲ憐ミ上ヲ敬ヒ候事

一、拾三香具他出ノ砌急度心懸他出國掛之商人其他ニオイテ大病相煩ヒ其所ノ香具申合セ手當大切ニ致シ若又病死ニ及候ハヾ御役人ハ不及申前書ノ通リ香具商人共手寺ヘ相願葬可申候右有合荷物諸品等ハ取置御寺院ヘ預置尤モ病中死後迄ノ諸掛リ商人仲間ヨリ急度不都合ナキ樣相嗜可申候事

一、商賣出先ノ定又ハ小宿ノ長座致シ大酒人ニ難題申掛又ハ口論ニ及ビ候共所々厄介ニ相成ザル樣急度嗜可申候事

一、商賣出先ニ不限大ニ下値ナス如仲間一統申合セ無體ニ賣取候ハ禁可申候若シ違背ノ輩ハ其ノ親方ニ懸合ヒ賣買ノ筋急度相糺可申候事

一、商賣出先ノ小宿ニ於テ諸勝負致間敷候事右三條ハ今般寺社御奉行樣ヨリ仰付箇條ノ表相守可申候若違亂於有之ハ仲間デ不及申其筋ヘ訴ヘ可申就テハ銘々渡世向無怠漫出精稼業大切ニ相守リ仲間ノ趣意定ノ通リ是又相守可申事

寛延三午年三月　日　　丸野安太夫

○香具商人諸書

越後國蒲原郡本郷村出入一件ノ事

一、享保二十卯年六月十七日ヨリ同二十七日迄越後國蒲原郡本郷村市立申候ニ付江戸芝田町三丁目越後屋庄兵衛弟喜平衛ト申者香具賣薬見世出候處村ノ若者大勢集リ店荷物ヲ踏碎其上喜平衛打擲シ候ニ付名主方ニ早速相届候處一向取上ヶ不申候故宿所平六預ケ御役所ニ御訴訟奉申上候處一向埒明不明候ニ付無是非八月三日江戸表へ罷越町奉行所大岡越前守様御番所へ申上候庄兵衛被召出遂ニ御吟味ノ上御聞濟被下置同六日又庄兵衛被召出被仰出候ハ今日ハ八ツ刻御老中御月番本多中務大輔様ヨリ御尋判頂戴被給被仰付候間龍ノ口御評定所へ罷出候處漸ニ晝七ツ刻迄ニ御尋判頂戴仕候同七日江戸表出立同十日ニ本郷村ノ宿平六方へ參リ喜平衛ニ逢ヒ江戸表ノ儀委細ニ物語リ翌十一日宿平六喜平衛同道ニテ喜平衛ハ駕籠デ來リ柴田御成下長岡養庵ト申醫師ニ付被成候ニ付同十五日江戸表へ着相手方定右衛門信濃守様ヨリ與力一騎同心四人付外名主組頭人組差添定右衛門ヲ盜丸駕籠ニ乘リ同十八日江戸表へ差仕リ直ニ傳馬町ニ入牢被仰付候

御勤役御連

御老中

松平右近將監様
酒井讃岐守様
松平右近太夫様
松平伊豆守様
本多中務大輔様

御勘定御奉行

油田丹波守様
神谷下野守様

町御奉行

大岡越前守様
稲生下野守様

同八月十八日御奉行大岡越前守様御番所へ喜兵衛願書趣乍恐御訴訟申上候

一、當卯六月十七日ヨリ二十七日迄越後國蒲原郡本郷

村ニ毎月市立候ニ付同所市左衛門ト申者見世先ヲ借リ私香具賣薬仕候處同十九日晝九ツ刻同村定右衛門ト申者私見世先ヘ來リ薬買度由申候間何程入用ニ候得バ定右衛門申ニハ薬五服買度由被申候付薬相渡得バ請取何ノ無援持歸リ候間五服代金錢百六文相拂呉候ト申候得バ定右衛門申候ニハ是迄我等買申候代錢取覺無御座候ト申候間私申ニハ然ラバ其元ハ何人ニテ候ヤ於市場人ニ物貰候ハ番人非人ノ類ノ外覺ナク御座候ト申候得バ彼ノ者大イニ立腹致シ我等非人ト申ス自分相立不申ト飛然店踏碎候間市場騒動仕候處又々村内若者大勢集リ薬箱踏碎其上私等ヲ殊ノ外打擲身骨不叶由ヲ申向後薬商難成親父弟妻子父母モ及渇命候付非難ノ餘無之是非恐多クモ御訴訟奉申上候間格別ノ御是非ヲ以テ相手定右衛門被召出右之仕末譯柄被聞召御吟味被爲遊被下置候ハヽ莫大ノ御是非ト難有仕合ニ奉存候　以上

芝田町三丁目駿河屋金右衛門店
庄兵衛弟
訴訟人　喜平衛

享保二十年卯八月十八日

大岡越前守

御番所

御役所

右願書奉差上候處來二十一日朝五ツ刻御定所ヘ右ノ訴狀持參仕可由被仰付候故早朝ニ相添罷出候處相手定右衛門被召出御吟味始候

當六月十七日ヨリ二十七日迄本郷村ニ市立候ニ付永市ニ御座候得バ村内若者打寄店場所ノ儀モ首尾能ク相濟候ニ付皆々集リ祝ノ酒騒候處私ハ其節殊ノ外酒ニ騒醉候故宿元ヘ可歸ト存市中ヲ罷通候殊ノ外人立賑々敷相見ヘ候故私立寄候ヘバ彼喜平衛香具賣薬致シ罷在候故私儀何心ナク薬買申候處彼者申ニハ何程入用ニ候哉ト申故四五服貰ハント挨拶致シ其節薬代拂候樣覺候間薬請取可歸ト存候所彼喜兵衛申候ニハ斯ル市中場所ニテ其樣ニ物貰ヒニハ非人類穢多抔ト申候故彼ト少々口論ニ及ビ候處村内若者大勢集リ致打擲其上荷物踏ミ碎ク樣ニモ喜平衛御願申上候併シ其際夢中ノ樣ニテ少々覺有之候ハ村ノ若者ニテ

權兵衞淸左衞門ト申者共場ニ居合セ候樣ニモ風聞ニ覺居候故右兩人被召出御吟味被仰付被下置候ハヽ乍恐口上ニテ委細奉申上候昨日獄屋ニテ嚴重御尋ノ上有躰奉申上候通リ毛頭相違御座ナク候。　以上

越後國蒲原郡本鄕村
溝口信濃守樣領分
百　姓
相　手　　　定右衞門

右ハ定右衞門奉申上候通リ私共一統奉承知依ツテ奧書連印仕奉差上候
以上
淺右衞門
喜平次
大兵衞
八右衞門
淸　助

御評定所
御奉行所樣
御　役　所

右定右衞門訴人ニ又候權兵衞淸右衞門兩名ノ者彼ノ兩人ノ訴人ニテ都合五十七人江戸表へ被召出御吟味方殘手鎖被仰付宿御預ニ相成其後再ビ御吟味ノ處定右衞門長ロ入牢致候故病氣ニ付御公儀樣ヨリ御療治被成下搗御吟味延引被下成候終定右衞門病死致シ此一際ニ付訴答共ナキ由濟ロ證文奉差上其通双一札ノ爲取替證文相濟五十七人ノ若者手鎖御赦免被成下越後國ノ者共不殘過料被仰付候

過　料
一、錢三貫文　　本鄕村庄屋　　淺右衞門
一、同二貫文　　組頭　　吉兵衞
一、同二貫文　　五人組　　喜平次
　　　　　　淸　助
　　　　　　八右衞門
一、同二貫文　　五十七人　　若　者

於御評定所
右ノ趣ニテ御暇被下置越後ノ國ノ者共致歸國候ニ付向後不服ナク相濟候得バ例年通リ香具無滯被持參致仰付候段難有御請申上候
以上

依ツテ只今ニ至リ例年六月十七日ヨリ二十六日迄

本郷村ニ於テ香具商賣仕候
其後越前守樣御番所ヘ喜平衛被召出療治金拾貫匁
被下置其砌香具連中者共國々遠路ノ儀又十三香具
ノ件逐々御尋被遊候處右三人罷出越前屋庄兵衛、
丸野屋安兵衛門、尾上屋六左衛門ト申者罷出早速
致言上候

享保二十卯年十一月十六日

○商人帖頭衆

一、享保二十卯年十一月十六日江戸香具連中ノ者共大
岡越前守樣御番所ヘ召出役筋被仰付候事

一、長崎御奉行細井因幡守樣ヨリ仰聞候趣近年唐物拔
荷賣買致候者ハ國所相糺御領土并ニ御代官其所ノ役
所ヘ預ケ置キ早速江戸表御月番ヘ可訴出候勿論人蔘
麝香龍腦其外ノ諸藥種唐物ノ儀ハ御類長崎証文賣上
不相濟賣買致候者ハ早速訴出申候事

一、右ノ通リ銘々皆相守リ可申候其砌リ遠路ノ儀十三
香具ノ譯ハ逸々御尋被遊候右三人ノ者具奉申上其時
拾三香具ト定別ル八師ト申事御尋ニ付

一、居合拔曲鞠獨樂廻シ此三組ハ愛敬藝術ヲ以テ人ヲ
寄セ藥歯磨反魂丹賣候故藥香具ト奉申上候

一、覗見世物輕業之芝居役者身振聲色是ハ愛敬人ヲ寄
セ藥歯磨賣ル香具ト奉申上候

一、大勢引連レ賣通商人ハ盛場ニテ見世賣藥國々御城
下町在方迄妙藥ヲ弘メ取次目ノ前中壹分萬金丹越中
富山反魂丹小田原外郎楊枝脇香匂隱シ懷中掛ノ香袋
賣故賣藥香具ト奉申上候

一、辻療治膏藥賣又ハ歌本又ハ按摩導引ト申シ療治讀
本歌本ハ人ヲ立テ愛敬ニ藥歯磨ヲ賣故香具商人ト奉
申上候

一、火燈火口ヲ賣ル者旅人道中ニテ脚氣又ハ低痘足痛
ニテ難儀節途中ニテ火口燈口付灸ヲ致シ其時早速痛
苦ヲ退クメ元來火口ハ越前ノ國ヨリ始マリ京都ハ者
荷屋大阪ニテハ寺田屋江戸表ハ芝神前桝屋是三箇所
ニテ賣初諸國ヘ諸人助藥ト相成故香具商人ト奉申上
候

一、鐵物金物ヲ賣者狹毛拔金銀打針其外品々外科ニテ
用フル金物ヲ商賣致候故是モ香具商人ト奉申上候

一、七味唐辛南蠻椒商人罌粟胡麻山椒氣根ノ藥トナル
蕃椒ハ疾毒ヲ退諸人藥ト成故是等モ香具商人ト奉申
上候

一、石臼目立ノ儀ハ先年諸藥種ヲ粉ニシテ丸藥仕諸病
ニ用ユル時天地陰陽和合ヲ元トシテ用故是ハ香具商
人老體ニテ世渡兼候モノ御年貢足ニ合セ隱居商賣ニ
仕リ候ト奉申上候是ヲ八香具ト申事八師銘々ナリ

一、小間物香具ト申事ハ櫛ハ髮ノ毛亂頭ノ執ヲトリ幷
ニ熱氣ヲサマシ紅ハ口中ノ惡敷匂ヲ退キ白粉ハ顏ノ
腫物ヲ退色艷ノ藥トナル故香具ト奉申上候

一、蒸物茶水ヲ賣香具ト申者旅人道中ニテ空腹ヲ助ケ
故是モ香具ニ候砂糖菓子ハ諸病人不食ノ者ニ用ヒ小
兒ハ腹中ト成故香具仲間ト奉申上候

一、梨子蜜柑賣者病人ノ力ト成腹中ノ熱氣ヲ拂藥トナ
リ又白酒賣儀ハ白糀ト寒晒ノ餅米ノ製法ニテ大人小
人トモ腹中ノ藥ト成故香具ト奉申上候

一、香具商人ノ天秤棒種木ノ譯ハ如何御尋ニ付越前屋
庄兵衛御答申上此儀ハ先年山城國四條川原千葉京咏
ト云フ人始而木曾山ヲ延行者御供砌惡魔除ノ爲途中
ニテ笈荷ヲタノマレ我荷ト兩掛ニテ金剛杖カツギ信
濃路ニ來ル行者ニ別レシ時笈荷ヲ取分給フ此所ニ笈
荷塚アリ六尺二寸金剛杖四寸切テ錫杖ノ捻ニ仕給ツ
殘リ五尺八寸ヲ商人天秤棒被下給フ兩端ニ留ヲ打シ
足所ニ不掛ノ爲天神祭才智ヲ計リ商物金剛靈德ノ故
國々山神社佛閣御城下町在方法會開帳ノ盛場迄無滯
秤手形ト仕リ世渡商賣仕御關所御番所又ハ横川渡場
迄右ノ通リ商賣仕候事

享保二十卯年十一月十六日

越前屋庄兵衛
尾上兵左衛門
丸野安太夫

拾參香具ヨリ相定

一、居合拔　一、曲鞠　一、唄
一、覗　一、輕業
右二組ハ香具看板出シ藥齒磨賣ヲ愛敬見世物藥商人
ト唱

一、懷中掛香具
江戸萬屋舖ニ上リ香具商人ノ事

一、諸國妙藥取賣

右者同ジク前ヨリ申者萬金丹越中富山反魂丹小田原齒磨揚子ノ取合ト申事

一、大勢引連江戸表、京大阪、田舍津々浦々ニ賣通商人ト申ハ右ハ諸國ヘ賣弘メ國ヘ出シ申候

一、辻療治膏藥辻醫師外科右ハ賣藥商人香具仲間ト唱候也

其外小間物紙屋火打火口賣砂糖漬賣不正ノ筋在之候ニ付其仰越前屋庄兵衛丸野屋安右衛門尾上屋六左衛門罷出御吟味始マル

一、蜜柑梨子砂糖賣商人町奉行大岡越前守樣御尋被遊候ハ砂糖菓子賣香具仲間ト申如何ノ御案當御座候處丸野屋安右衛門御答申上候ニ付テハ蜜柑ハ引キタル風ヲ發散イタシ梨子ハ疲勞ノ藥故即チ賣藥香具仲間ト奉申上候

一、小間物

同越前守樣御尋被遊候ニ付櫛并ニ喜世留煙草入ノ類商賣人ヲ賣藥香具ト申ハ如何ト御尋有之候處尾上屋六左衛門罷出御答申上候右商人ハ紅白粉ヲ賣升故ニ紅白粉ハ口中ノ熱ヲ取白粉ハ顏ノ面圖ノ藥故即チ賣藥仲間ト唱申候

一、江戸升屋京ニテ吉久大阪ニテ明球ト申ハ同越前守樣御尋候ハ鐵物火口賣商人ヲ賣藥香具仲間ト御尋有之候處越前屋庄兵衛罷出御答申上候是ハ先年越前國ヨリ出蓬艾火口賣商人道中ニテ脚氣底豆惣テ足ノ痛有節右蓬艾火口ヲ以テ灸ヲ致シ候故ニ早速ニ痛去候故即チ仲間拾三組ニ極ル

一、南御番所大岡越前守樣ヨリ香具十三仲間ノ一御尋御座候處右通御答申候

記錄ノ留

十一月十八日庄兵衛、安右衛門、六左衛門三人ノ者共南御番所ヘ被召御尋被遊候ニハ其方共道中ノ内商賣ニ罷出ノ者共ニ被仰渡子細有之候間明後五ツ刻御評定所ヘ罷出ベク被仰付候間二十日早朝ヨリ香具連中ノ者不殘御評定所ヘ相出候處

御趣

一、此度從長崎御奉行細井因幡守樣注進ノ旨ヲ來拔衛

致賣買ノ者數多有之ニヨリ右樣ノ族ヲ其方見付次第其者ノ國所ヲ記シ御領者御代官收額者地頭ノ役所願置早速ニ御月番所迄可訴出者也
一、人參、虎膽、麝香、龍腦
其他諸藥唐物ノ儀ハ御印無之又ハ長崎賣上証不濟諸藥種致賣買者有之候ハヾ御番所へ可訴候者爲其日本國中市場人候處自由負不得其者

享保二十年十一月二十一日

南町奉行

大岡越前守

香具商人中

一、御公儀ヨリ被居候趣キ堅ク相守唐物拔荷物人蔘虎膽龍腦賣買致候者見付候へバ其國所相記シ其所ノ役所へ御訴へ可申上候

以上

先年ヨリ相傳被下置者也

大岡越前守樣ニ於テ御白洲御定被下置御記錄ノ由諸書相渡差遣申候然ル上ハ萬一左樣者見付候へバ早速御月番御役所へ訴へ可申上者也

諸國香具商人中ニ相渡置五ヶ條定

一、御公儀樣御法渡ノ品賣買致間敷事
一、親分方へ一年ニ一度ヅヽ急度立寄候事
一、會合ノ節不參ノ者ハ仲間附合致間敷事
一、仲間ハ規定相背キ候者ハ商人不及申同宿成共致間敷事
一、旅先ニテ病氣ノ者有之候節ハ朋友相集リ介抱致スベキ候事

右之條々堅ク相守可者也

文久三年亥十月改之

爰ニ下谷緣日商始記

寶永二年池之端辨財天御堂造營ノ際寬永寺ノ宮樣御出產ノ諸人參詣群集ス其時人谷村ニ住植木屋市五郎ナル者飴菓子ヲ路上ニナラベテ營業ス折柄俄ニ大雨在之市五郎ナル者大イニ困苦ス恐多モ宮樣ノ御目ニ止リ何者ナルヤト御尋有之御庭掃除出入町人市五郎ト申上ニ不便ト御思召長柄傘ヲ拜領仰付ラレタリ宜至極ト頂戴致シ露店營業ノ節ハ相用ヘル事今𠂤是ナリ寶永酉年ヨリ明治十七年迄百八十年ノ間相續ス

以上

守貞漫稿（喜田川舍山著）よりの拔書

『矢師商人、一種の名製藥を賣るは專ら此の黨とするよしなれど、此の黨に非るものあり。此の小賣の內種々あり、路上の商人多し、

齒拔きも此の一種也、大阪の松井喜三郎、江戶は長井兵助、玄水等最も名あり、喜三郎と兵助とは人集めに筥三方を積み累ね、其上に立つて太刀を拔き或は居合の學びをなし、玄水は獨樂を廻して人を集め、齒磨粉及齒藥を賣り、齒療入齒もなす也、其他能辯を以て或は有能、或は無能の藥を賣り、或は邊土遠國の人に扮して國產と稱して種々を賣るの類其他種々限りなし專ら出し見世、大道見世、床見世の類也此の矢師仲間三都各國ともに有之。

文久三年此の黨の者に遇つて其大略を聞き以て追書す。矢師は假名にして本字野士也。字の如く野武士等飢渴を凌ぐ便りに賣藥せしを始めとす。今は十三種の名目にて大凡賣藥香具を專らとす。名は十三なれどもその品甚だ多く齒磨は齒の藥なり、紅は脣藥、白粉は顏藥、艾は途中急病に供す。因之燧石、燧鐵も賣之、於之大概賣藥香具を路傍に賣るは必ず矢師の黨也。三都定まる所なく、其老巧の者に從ひ業之す。則ち親分子分と云ふ。

京師江戶、大阪江戶、煉藥三臟圓店主吉野五運、江戶同本町四丁目酢屋平兵衛、相州小田原驛虎屋うゐらうと云ふ賣藥店勅許八棟造り日本一野士と云へり（或人云ふ關東の長、よ洲きさい村竹澤政五郎、關西には三島驛吉五郎追考すべし）

今世御免歌舞技の外おでゝこ芝居と云ふ者皆此の矢師の有にして、其の一座の主たる者香具師某と書く、香具を賣るに人愛を招く術に手跡すと云ふ主趣也。

萬の見世物も準之必ず矢師の有とす。

——鼠取藥、赤蛙の製藥、弄物、蕃薮、粉艾賣等介矢師也』

（右の文献の內、最後の「守貞漫稿よりの拔書」を除いて、他は全部某香具師の長老が保存せし所のものである。）

以上の文献を瞥見して、守貞漫稿にある如く、香具師の起源に就て

「野武士等飢渇を凌ぐ便りに賣藥せしを始めとす」。

こ速斷して仕舞ふ事は早計と云はねばならぬ。

殊に上代に於ける賤民が前述文献中に香具師として取扱はれて居る事を見ればである。

此處で一寸上代の賤民に就て述べて見るが、

上代以來の賤民の種類は大寶律令による五賤民、宮戸、家人、官奴婢、私奴婢、及び陵戸、等の外に河原者、傀儡子、産所、夙の者、浮浪民、等があつた。

河原者は山城國鴨川河原に小屋掛けしてゐた浮浪民若しくは皮革を晒した皮作りであつて專ら役者であつた。

傀儡子は人形使ひ、手品使ひ、物眞似、浮れ女、等であり、

産所は穢れた産小屋に住みついて村人の爲めに人の嫌やがる仕事をなしたもので、

夙の者は陵番、隱坊、である。

浮浪民は野伏、野非人、山家(山窩)山の者、等と呼ばれるもので、罪を犯して逃亡したものや、生計に窮して自ら共群に投じたもの等である。

(之等賤民は、センボ、役者用語、犯罪語、殊に山窩用語、等に密接なる關係を有するものである。)

右の賤民中、傀儡子が前述文献(香具商人往來目錄)に存んする事を見れば、香具師の起源が戰國時代以前である事が領かれる。

又後述の神農に關する事より推して見ても前述の如く、唐、三韓、等からの渡來せし民が路傍に於て藥草等を販賣せしが後に夫等が賤民の手に遷つたものと思考するも信をおくに足るべきものと思ふのである。

然しながら現今の露天商人(香具師)の發展に就ては矢張り、戰國季世の野武士、即ち野士(やし)の影響が大である事は爭へぬ事である。

畢竟、當時の野武士等が衣食に窮せる餘り野生の藥草等を採取して鬻いだのであるが、後には製藥、軍中に用ひし膏藥の類(たぐひ)、をも鬻ぐに至り、其後販賣品の增加と共に、次第に商人的傾向を帶び、以後、從來の香具師(賤民)、並に、當時前身武士ならざるも野士に扮せしもの等が一丸となつて此の職業が發展して行つたのである。

然しながら、「前身は武士であつた」と云ふ観念に培はれて一種の氣骨、氣風を生じた、即ち、これが、後年幕府の隱密等となり大いに活躍せし因もこゝに存して居るものと思ふのである。

寛永年間に於ける香具師の種類は

(1)食來師 (2)傀儡師 (3)鐵物師 (4)讀物師
(5)合藥師 (6)物形師 (7)書物師 (8)辻醫師
(9)小間物師 (10)賣藥師 (11)煙草賣 (12)見世物
(13)筵張茶屋

等、以上の十三種である。然るに降つて、約百年後の享保年間に至つては

(1)居合拔 (2)曲鞠 (3)獨樂廻
(4)覗見世、輕業ノ芝居役者、身振り聲色
(5)賣通商人 (6)辻療治、膏藥賣(按摩導引)
(7)火口火燧賣 (8)鐵物、金物賣 (9)七味唐辛賣
(10)石臼目立 (11)小間物香具
(12)蒸物茶水賣、砂糖菓子賣
(13)梨子蜜柑賣、白酒賣

等となり、十三香具とは名ばかりとなつた。

又文久年間には、

「今は十三種の名目にて大凡、賣藥香具を專らとす。名は十三なれどもその品甚だ多く齒磨は齒の藥なり、紅は唇藥、白粉は顏藥、艾は途中急病に供す。因之燧石燧鐵も賣之」

とある。

此の頃から香具師の品性が下落し初め、遂に今日に至つては、商品(ネタ)は彼是の差別なく、比較的目新しい所謂尖端的な、そして暴利を貪る事の出來るものなれば、何品でも、ネタとしてゐる。

故に世人は彼是香具師を奸商の集團かの如くに見て居る、然るに其の半面に於て彼等の辯舌に、手段に、惑わされて不正品を易々と購はされて居る處を見ると滑稽を通り越し、寧ろ憐愍の情を催さゞるを得ぬものである。

然しながら露天商人が全部不正商人の如く思推するのは誤りである。

露天商人中「アヅカリ」と稱するものがある。此の「アヅカリ」と云ふのは、

素人が露天商をなす際に、法規上は正規の手續を取つたからと云つても、自分勝手に路傍に店を出す事は出來ぬ。

若し、そんな事でもすれば、其の道の、うゐさかになんとか言草をつけられてヨロク(利益金)をせびり取られる事必定である。

それ故、自己の商賣を安全に守り、且つ香具師の如き危險極まる所作を好まざるものは表面だけでも、何々一家の身内、又は何々一家、某親分、子分等と稱せん爲めに、心からではないが、親子のヅキサカ(盟約)をせねばならぬ。

かゝる意味合より出來た子分が即ち「アヅカリ」と稱するものである。

此の「アヅカリ」は露天商中比較的善良な方で、多くはコミセ(後述參照)を主として居る。

此の「アヅカリ」を他の露天商人は輕侮して「あいつらは香具師ぢやねえ」と稱し、香具師と云へば、「アヅカリ」を含まぬ露天商人の事を指してゐる。

然しながら香具師も「アヅカリ」も別に取立てゝ區別する程の事もないのであるが、傳統を尊ぶ彼等であるから其處に大いなる區別が必要なのであらう。

「神農に非ざれば香具師に非ず」

此の言はよく其の間の消息を物語つてゐるものと思ふ

註 本書に於ては煩を避けて香具師も露天商人も同一と看做して編述した。

神農と香具師

露天商人間に、いや、香具師間に、「神農」なる語がよく用ひられる。曰く「神農會」曰く「神農道」曰く……

此の神農と云ふ事は彼等の一つの道德であり、精神であるのであるが、然らば、一休この神農とは何か、先づ此の神農なる語の解釋から始めて行かねばならぬ

この神農は、支那太古傳說時代の皇帝、神農氏の事で、民に農耕を教え、醫藥を製し、交易の道をひらいた人である。

本草綱目に、

『神農本草經 掌禹錫曰 舊說本草經三卷神農所作而不經見漢書藝文志亦無錄焉漢平帝紀云元始五年擧

天下通知方術本草所在軺傳遣詣京師樓護傳誦護少誦醫經本草方術數十萬言本草名蓋見于此唐李世勣等以梁七錄載神農本草三卷推以爲始又疑所載郡縣有後漢地名似張機華佗輩所爲皆不然也

按淮南子云神農嘗百草之滋味一日而七十毒由是醫方興焉蓋上世未着文字師學相傳謂之本草兩漢以來名醫益衆張華輩始因古學附似新說通爲編述本草繇是見于經錄也』と、

右によると神農氏は百草の滋味を嘗めて一日に七十の毒を發見したと云ふのであるが當時は文字がない爲めに代々口傳によつて傳えたものを後代の研究家が文書に編述したこの事である。

又茅窻漫錄に

神農祭幷醫祖神　　とある。

私の家は數代醫を業として居る。祖父の代頃には正月に、床に神農の軸を掛け鏡餅をそなへた事を今に記憶してゐる。

その神農の像は、表髮に、頭部の左右兩端に角を生やし、口に藥草？を咬へた姿であつた。今日に於ても、神農祭は各地に於て（冬至の日に）擧行されて居る樣である。

何は兎もあれ、神農氏が藥草、（醫藥）の神として後世其道の研究家から尊敬せられた事は事實である。

又香具師に於ても、賣藥を業とした以上、やはり神農氏を守護神として尊崇せし事は當然と云はねばならぬ

前にかへつて、然らば、此の藥草の神、醫藥の神と現代香具師の稱する處の神農との間に如何なる關係が存するか、

それには次の文が、それ等の關係を明白に物語つてゐる。

『宣　言

「昭和神農實業組合」なる我等同志の大同團結を組織す。

我等は皇室を神こ仰ぎ奉る傳統的國民精神を生命となし、國體の精華たる家族愛の信念を高調せんとするものなり。

時代の趨勢は、徒らに新を追ひ、奇を衒ひ、利己にのみ汲々として、我が傳統の美風を輕んぜんとす。こ

れ嘆くべく憂ふべく、是れを剪除せずんば皇家百年の禍を遺さん。

我等は此の浮華輕佻を排し、質實剛健なる第一歩を强く印せんが爲めに、我等の不文律たる「友達は五本の指」なる信念を團結の本義となし基礎となす。

此の神農道たる一大家族に在りては、豈一個人の專壇を容さんや、共に憂患に當り共に團体の隆昌と事業の伸長を期せんとす。

我等の一切は悉く此れ家族愛精神の爆發に依つて活動す、我等は、我等の團結力を以て確固不拔の社會的地位を獲得し、進んで社會公供に盡瘁せんと欲するものなり。

此の志操を與にする者の協力に依つて、共存共榮のモットーを高く揭げての進出は、これ男子の痛快事に非ずして何ぞ、敢て滿天下の士に宣す。」

此の昭和神農實業組合は近年、京濱地方の有志によつて組織されしものであつて、會長は、飯島一家の大親分、倉持忠助氏である。

これより先に、大日本神農會なるものが存するが、これは現今、有名無實のものであつて、支部は各所に存在してゐるが、これと云つて別に事業らしきものをなして居らぬ。

又、同組合の會長、倉持氏の「神農道の提唱」と云ふ一文を拔萃して見る。

『太古悠久の昔、愛と體驗とを象徵して、全人類に君臨したる神農皇帝の餘榮を體し、錯綜として極り無き現代に、家族愛の信念と共存共榮のモットーを高くかゝげて進出する我等の大同團結は「友達は五本の指」なる不文律に依り契結せる一大家族である。』

以上の文によつて凡そ了解せられし事と思ふが、香具師の謂ふ所の「神農」とは全く彼等仲間の道德であり、彼等の傳統的精神であつて何等有形のものを指してゐるのでない事が頷づかれる。

畢竟彼等仲間の友義、掟、（諸國香具商人中ニ相渡置五ケ條定、並に其外の前述文獻參照）等が、彼等の守護神である所の神農と云ふ、神と云ふ觀念と融合し猶其れが三百年の日子を閱する間に、凝り固つて、彼等の云ふ所の、不文律、「友達は五本の指」と云ふ確

固不抜の精神を築き上げたのである。

約言すれば彼等の傳統的精神、即ち相互扶助觀念、これが卽ち「神農」である。

此處に於て再び

「神農に非ざれば香具師に非ず」

をよく玩味すれば「アヅカリ」を侮蔑する心理が了解出來る事と思ふ。

蛇足を加へれば、つまり親分子分の緣、又は兄弟分の緣を持つてゐるもので、然もそれが表面だけの「ヅキサカ」でなく、一朝事ある場合には、命をも投出して助合ふと云ふが如き强固な相互扶助の精神、即ち彼等の云ふ所の「友達は五本の指」と云ふ精神（神農）を持つて居なければ香具師とは云へぬと云ふ意である。

（註、一人前の香具師となるにはこの精神も必要であるけれども、又、香具師的手腕も大いに必要である。）

○露天商の分類

露天商を其販賣手段によつて次の三種に分類する。

(1)口上を述べて商ふもの。

(2)口上を述べず、唯商品を羅列して商ひするもの。

(3)前二種に含まれざる特殊のもの。

以下、これによつて述べて見る。

(1) 口上を述べて商ふもの、

これは、香具師間に於て「たんかばい（啖呵賣）」と稱せられるもので、其の中、比較的廣く場所を占有してなすものが、「おーじめ（大占め）」で場所は、おーじめ程もなく、且つ、台附き（商品を載せる台）のものは、「ころび」又は「さんずん」（ずんさんとも云ふ）と稱せられる。

次に其等の例に就て述べて見やう。

（イ） おーじめに屬するもの

ミンサイ（眠催） これは街頭に於て催眠術、或は氣合術の極意を傳授すると稱し、サクラを使ひ、或は簡單な物理學、化學を應用して、衆人を瞞着し、その極意書なるものを高價に賣付ける香具師の事である。

リツシ（律師） これは法科の大學生を裝ひ、法學智識普及の爲め、某大學より派遣されたもので、など〻稱し法律に關する「リフレット」の如きものを高價に

履ぐもの

トザンウチ（登山打） 登山服、金剛、杖卷ゲートル、採集箱を着用して『諸君！ 諸君の中で病氣に困つてゐるものはないか若しそうゆう人があるならば、

先づ藥草を喰へ！

（此處で松葉などをばり〳〵と喰ふ）

毛唐が毛唐の體に合ふ樣に造つた藥が、どうして、我が天孫民族、大和民族の體に適するか、日本人には古來幾多の先輩によつて硏究され、發見された藥草がある。

この藥草こそ日本人に、ぴつたりと合ふ藥だ。

毛唐の作つた藥で治らぬ病氣があるならば、迷わずに、先づ藥草を喰へ』と巧に衆人を感服せしめ、次で「私は御覽の通り年中、山から山へと步き廻る者ですが、こゝへ並べた此の草は……」と藥草、毒草、の說明をなし、最後に、

『私が以上述べましたのは藥草の大体である。又時間の關係で皆樣に御了解の出來る迄述べ得られなかつた點もある。

然しながら幸ひ、今此處に、私及私達一派の者が藥草園を經營致しまして、硏究した結果を懇切叮寧に記述したものを持つて居る。

勿論部數に制限がありますので唯方へでもと申すわけには參りませんが、御希望の方にだけ、實費を以てお頒ち致します。

又、こんな難病は如何なる藥草を服用すればよいかと云ふ樣な人の爲めに、當藥草園（こんなものは實在せぬ）への問合用紙をお添へ致しまして、唯の二圓、醫師に一回診察して貰つてもこれだけの金はとられる。診察料だけで病氣が治る。

これこそ、我々貧民の福音でなくてなんだ』

などゝ言葉巧に、小冊子を高價に賣付けるものである。

ガマトロ（蟇油） 素朴な身成りをし、且つ方言を巧に使用して――

この藥は蟇（又は蝮）を蒸燒になせし際に、釜の底に極く少量出來るもので、それが永年月の間にこれだけ（所持せる器「多くは壺」を見せる）溜つたのを今度私が

見物方々當地へ參り、病氣で困つて居られる方々にお頒ちしやうと思つて持つて參つたものでこゝにもあるかしこにもある、と云ふ樣なものではございません」などゝ云つて、安價な練藥を、小貝に入れ、それを三十錢、或は五十錢等と法外の値段にて鬻ぐものである

猶此の外に、ムシマ(蝮)と稱するものがある。これは、アルコール、水、色素、等の混合物を前述の如き筆法で高價に賣付けるものである。

前述の如きものは、おーじめの代表的のものであるが、變態的のものには、艶歌師(カエンシ)、或はモミ(揉錢)と稱するものがある。このモミは純然たる賭博行爲で、一等から六等位迄あつて、籤一回の賭金を拾錢或は五十錢、一圓等に分ち、賞品はその一回の賭金高によつて、金側懷中時計、反物一反、或は金指環、帶止、等其他となし、多くのサクラを使用し、又詐術を用ひて賭金を偏取するもので一寸四方位の紙に等級を記し、それを引かせるのである。又これと類似した諸行爲を、總括してワリゴトと稱してゐる。

(ロ)ころび、或はさんずんに屬するもの

ころび　これは露天商人間に於て最もありふれた商ひ方法である。

今其等を列擧して見る。

タヽキ　大聲を發し威勢よくバナ、を賣るもの。

ボンシヤ　賣殘り、又は仕損じの石鹼を二束三文に購ひ、これを故意に焦し、如何にも火災に會ふた如く裝ふて、「石鹼工場が火災に罹つたので、其の仕末品である。本來ならば一個四十錢乃至八十錢もする高級石鹼であるが、火災に罹つた事と、今後の御愛用を願ふ爲めに、特に廉賣する」と稱し、二十錢乃至三十錢位に賣付けるもの。

スリク　(インク消し)漂白粉に水を加へたものを小壜に入れ、これを、新發明の專賣特許品で、在來のインク消等と全く異るものである。などゝ稱して一壜十錢二十錢に賣付けるもの。

(スリクは元來は藥の意であるけれども此の場合はインク消を意味す。)

ルフテ　古着類を商ふものを云ふ。

クロトリ　黑子(ホクロ)取り藥を商ふもの。

ヅマシ　手品を使ひ其の種と稱するものを商ふもの

モリコウ（蝙蝠）　つぎだらけの洋傘、或は極く低級品を高價に賣付けるもの。（附寫眞參照）

モノカナ（金物）　拂下げになつた軍刀を以て造つた庖丁、或は鋸、鉈、釿、等と稱して鬻ぐもの。

コツシ（骨師）　齒拔藥を賣るもの。

猶此の外、聯珠、將棋、新案玩具、メリヤス類、等を賣るもの、其外種々存する。

(2)　口上を述べず、商品を羅列して商ひするもの

是は、なしおと（無音）　こみせ（小店）と稱せられるもので、其の種類も非常に多い。列擧すれば

アカホン（繪本賣）、ヨコボク（齒刷子賣）、スエヒロ（扇子及團扇賣）、ガキ（繪葉書賣）、ハボク（植木屋）、スイリコー（氷水屋）、スクリン（アイスクリーム賣）、カヽスイ又はイロスイ（淸涼飲料水）、ロツプク（袋物）、コハン（活字・印判賣）、ヤホン（古雜誌・古本賣）、ネキ（飴賣）、チカ（風船賣）、モチヤ（玩具賣）、ワユビ（指環賣）、ジンレキ（端切賣）、ヒツジノロツプク（封筒賣り）、スコー（香水賣）、等其他種々存するが以上擧げたものは、その大体である。

(3)　特殊なるもの

これは前二種に含まれざるものを一括したものである。

たかもの　（輕業・見世物・其他興行物）、

このたかものは興行物の中でも比較的大規模なるものを稱するもので、小規模のものは「ずれもの」、中規模のものは「ひつぱりもの」と稱する。

註、地方によつては、たかもん、ひつぱりもん、すれもん等とも稱する。

ろくま（易者）　この易者は、小は、街頭に立つて、「觀相料は拾錢です、此の繁雜なる世の中にあつて、自己を知る、と云ふ事は最も大切な事です。どうです一つ……」などと云ふものから、大は、堂々と邸宅を構へ、新聞雜誌（殊に婦人雜誌）等を利用して大宣傳をなし、書生（其の實は子分、若しくは弟分）を數人も置くと云ふ豪勢なものに至る迄、凡て香具師である。

大も、小も、其の手段には、些も變りはない、觀相料拾錢と云ふのは客を釣る手段に外ならぬ、つまり客

をうまく、持上げて置いて、こゝまで觀るのが捨錢でと稱し、其後は腕次第で幾何にでもなる。又運命鑑定書と稱して法外の料金をとるものである。

ヤサゴミ(行商)　これは支那人、朝鮮人を裝ふて、太物、或は其他小間物を鬻ぐもので、行商者中、眞物(ほんもの)の支那人は極く僅かである。

チバシ、或は**ゴミシ**、**ノレンシ**(暖簾師)　これは、一つの詐欺手段で、例を以て示せば、卵の腐敗せるものを、殆ど無價値で買受け、これを箱に詰め、上部には、上等の卵をつめて、巧に相當な値で賣却する事を云ふ。又、新開業の小間物屋等を見つけ出し、初め、仲間のものが次々に、その小間物屋に現われ、「××クリームはありませんか」と云つて、店主をして、此の××クリームは可成り賣れると思はしめ次で、其後十日程の後、仲間の一人が、××クリーム店舗の販賣擴張員と稱してその小間物屋に赴き其の小賣方を懇請する。一方店主に於ては渡りに舟と早速承諾する。此處に於て、契約金又は手附金と稱して金錢を偏取するものである。

以上の諸例によつて香具師の販賣手段、(生活の爲めの手段)が如何に廣範なるものかゞ御了解出來た事と思ふ。

露店商人及犯罪者常用隱語

露天商人及犯罪者常用隠語

露天商人及犯罪者の常用隠語を次に擧げて見る。

〰〰〰より前のものは、犯罪者及び露天商人共通の犯罪語で、以後は犯罪者間のみに通ずるものである。

この常用隠語は辭書の部と重複するのでわざと解說を略してある。猶詳細は辭書の部を參照せられたい。

あ之部

あいつき じんき(仁義、順義)と稱せられるもの。(雜錄參照)又、關西にてはやいつきと云ふ。
あおたあかもの 野菜、果物を云ふ。
あおち 風、又は羽織を云ふ。
あかゞいく 火災が起る。
あかほんながし 繪本賣を云ふ。
あげつ 煽てる、お世辭を云ふ意。
あけば 翌日又は曉を云ふ。
あたい 物價の高い事を云ふ。
あつたもん(八文) 馬鹿、天保錢の意。
あつらん 袷を云ふ。
あましやり 菓子を云ふ。
あらねた 新商品、流行品を云ふ。
あらめん 初對面を云ふ。

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

あいち 附添婦、小間使ひを云ふ。
あいちやん 掏摸を云ふ。
あかうら 典獄を云ふ。
あかおに 檢事を云ふ。じけんとも云ふ。
あかひげ 憲兵を云ふ。
あきないし 窃盜犯人を云ふ。
あきないした 窃取したの意。もろた、もらつた、ぎつた、かうた、等皆同じ。
あさまぐれ 朝、曉を云ふ。
あたい 用意周到なる人物を云ふ。
あつげしやう 雪を云ふ。はくすいとも云ふ。
あてこみ 强窃盜犯を云ふ。

い之部

いかさま 不正手段、詐欺を云ふ。

いそい　危險、やばいとも云ふ。
いんちき　いかさまに同じ。
いた（伊丹）　和酒を云ふ。
いたけづる　飮酒する事を云ふ。
いたば　浴場竊盜を云ふ。
いたのまかせぎ　いたばに同じ。單にいたのまとも云ふ。
いわがら　竊取し、中味を拔きたる財布を云ふ。
いんた　煙草を云ふ。
いんこ　男女交合を云ふ。

う　之　部

う　え　見張り番を云ふ。うべに同じ。
うきす　舟、船を云ふ。
うすげそ　雪駄を云ふ。
うたふ　詫びる、白狀する、泣くの意。
う　べ　うえて同じ。
うんと　無料、又は無料で興行物を觀覽する事。
うきすふみ　船中竊盜を云ふ。
うきすづかい　船中竊盜を云ふ。
うすげしやう　霜を云ふ。
うすびら　絹衣服を云ふ。
うすもの　馬鹿、白痴の意。
う　ち　茶を云ふ。
うちや　お茶屋を云ふ。
うどんや　巡査を云ふ。（關東地方）

え　之　部

え　だ　若い娘を云ふ。
えてまた　猿股を云ふ。
えんこ　手、或は指を云ふ。
えんこづける　手渡しする。手を握る、手を觸れる
えんこばらす　手を切る。
え　こ　聲を云ふ。
えことほい　聲が高い事を云ふ。
えこはくい　聲の良い事を云ふ。
え　び　錠を云ふ。
えりつけ　物事の手始め、轉じて竊盜の豫備行爲（入るべき家の下檢分、或は戶を開ける、錠を外す）を云ふ。
えんこ　公園を云ふ。
えんこばん　握飯を云ふ。

えんこぶくろ　手袋を云ふ。
えんま　検事を云ふ。じはんとも云ふ。

お　之　部

おいたく　客を煽動し唆かす事。轉じて人を煽動する事をも云ふ。
おいたくをうつ　客を唆かして、購買せしむる事。又人を煽て上げて手中に丸め込む事を云ふ。
おかるば　二階を云ふ。おかるまとも云ふ。
おぎつい　鐵面皮を云ふ。
おーじめ　人を集め長廣舌を振つて商品を賣捌くものを云ふ。
おとしこみ　貪慾者の猫ばゞ心理を利用してなす詐欺手段で、おてんきし即ちどしやながしは其適例である。
おとしまへ　たんかばいで長廣舌を振ひ、人を集め最後に其の商品の値を次第に下げて行く事である。このおとしまいの如何によつて其香具師の手腕が判るものである。それより轉じて最後の解決、大團圓、などの意が含まれてゐる。
おやひね　警察署長を云ふ。
おんりやう　借金する事を云ふ。
おか　顔を云ふ。
おかま　鷄姦を云ふ。
おさえ　强盗を云ふ。おどりこみ、とん〳〵、しちがつ等とも云ふ。
おし　萬引犯を云ふ。おたなし、まんがい等とも云ふ。
おしち　放火、又は放火犯を云ふ。
おたなし　萬引を云ふ。
おにぎす　燒酎を云ふ。
おとしまえ　强盗が脅迫する際の凄文句を云ふ。
おんりやう　無理に借る事、貰ふ事を云ふ。

か　之　部

かいな　仲居を云ふ。
がいね　願ひ、賴みとの意。
かえん　艶歌師を云ふ。
がき　葉書、或は繪葉書を云ふ。
かく　刑事を云ふ。
かくらん　蒲團を云ふ。
がさ　捜査を云ふ。
がせ　僞、贋、不正、嘘等の意。

がせつう　贋造紙貨幣を云ふ。
がせな　僞名の意。
がせねた　不正商品、見かけ倒しの品を云ふ。
がせのわつぱ　摸造貴金屬の指環を云ふ。わゆびじんぞうとも云ふ。
がせびり　密賣淫婦を云ふ。
がせみつ　春畫らしく思はせて、まやかしものを賣るもの。
かます　詐る、欺く、詐欺等の意。
かまる　待合す、逮捕さる事を云ふ。
がまとろ　墓洲賣を云ふ。
が　み　損失を云ふ。「やこんは、よろくどころかおき兩のがみだ」は「今夜は儲けるどころか七圓の損失だ」との意。がんだとも云ふ。
からす　炭、墨を云ふ。
からはい　ハイカラ、流行を云ふ。
かりす　寺、僧、禿頭を云ふ。
が　り　子供(女兒)を云ふ。又ごらんは男女兒を云ふ。
かりむし　留置場を云ふ。
かわなり　影響を云ふ。
がん　眼を云ふ。
がんすい　涙、或は目藥を云ふ。
かんすい　清涼飲料水を云ふ。
かんたん　寢る。旅館に宿泊する事を云ふ。
かうた　窃取せし事を云ふ(關西地方)。もろた、あきないした、ぎつた、かつたとも云ふ。
かつた　窃取せし事を云ふ(關東地方)。かうたに同じ。
かぶわけ　贓品を分配する事を云ふ。
かねぐち　電話を云ふ。
かみなりおとし　天窓より入る窃盜犯を云ふ。
がりま　子守女を云ふ。
がんぐれ　暗夜、又は盲者を云ふ。
かんた　寢る、宿泊する事を云ふ。
かんたん　かんたに同じ。
かんたんし　宿屋荒しを云ふ。

き之部

きうべい　肴を云ふ。
きえもの　賃金を云ふ。
きくら　耳、聽く、秘密事の意。
ぎ　さ　詐欺を云ふ。

ぎしや 主義者の意で、共産主義者、社會主義者を云ふ。
ぎしゆ ぎしやに同じ。
ぎしゆう 將棊を云ふ。
き す 酒を云ふ。
きすぐれ 泥醉者を云ふ。
きすこうじやう 喧嘩を吹掛けて酒にありつく事を云ふ。
きすもつれ 泥醉者を云ふ。
きすば 酒宴を云ふ。
きすひく 飲酒なす事を云ふ。
きやー 客を云ふ。又じんごも云ふ。
ぎよく 卵を云ふ。
ぎられもの 取られたもの（金錢を）、即ち客、轉じて被害者を云ふ。
ぎりひん 贓品を云ふ。
ぎ る 取上げる。沒收する。竊取するの意。
ぎおんびら 單衣を云ふ。
きくらつぱー 聾者を云ふ。
き す あきすねらひを云ふ。
きつぴん 女子の陰部を云ふ。やちとも云ふ。

ぎ ら 眼を云ふ。
ぎらがたかい 眼識の鋭き事を云ふ。
きりかへし 竊取せし物品を元の場所へ返す事を云ふ。
ぎりごとし 常習詐欺犯を云ふ。
きるく 强姦を云ふ。しんとくないやちをへぐ、きやうやち、やちせめ等皆同じ。

く 之 部

くいら 幾ら、如何程の意。
くすぼり 一人前でない者、新米を云ふ。犯罪者間にては一木立のうるさい方を云ふ事あり。
ぐにうけ 質受けする事を云ふ。
ぐにこむ 入質する事を云ふ。
ぐにつぐ 入質する事を云ふ。
ぐにもむ 入質する事を云ふ。
ぐにや 質屋を云ふ。
く や 厄、惡、不況の意。しけに同じ。
ぐらす 知らす、發くの意。
ぐられてしまつた 知られて仕舞つた、白狀されてしまつたの意。
く り 巡査又は刑事を云ふ。

くりかえ 換える事を云ふ。
ぐ　る 帶を云ふ。なげしとも云ふ。
ぐれた 知られた、判つたの意。
ぐれてゐる 知られてゐる。
ぐれぬ 知られぬ、知れぬの意。
くろぷた 香具師間の喧嘩仲裁法を云ふ。

くじゆうばらす 大便をする事を云ふ。
ぐ　ち 口を云ふ。
ぐちばる 自白する事を云ふ。
くちいれや 警察署を云ふ。にんやくのやさとも云ふ。
くのいち 女を云ふ。なほすけ、なご等と同じ。
く　や 厄、失敗の意。
くやのめにあふた 失敗せし事を云ふ。
くりから 麥を云ふ。
ぐ　れ 浮浪窃盜犯を云ふ。

け　之　部

げ　そ 足、下駄を云ふ。
げそをあづける 親分の家に寄遇する事、又は親分子分の緣を結ぶ事を云ふ。
げそをもつ 親分を持つと云ふ意。
げそぶくろ 足袋を云ふ。ちりびらに同じ。
けちはん ハンカチーフを云ふ。
けづむ 仕損じ、失敗の意。
けづんだ 失敗した、仕損じたの意。
け　る 歩く。逃走する事を云ふ。
けんじと 見物人、又は野次馬等を云ふ。
けんじた 見た、見てたの意。
けんじる 見る事、轉じて人の懷中物を透視する事をも云ふ。
げんじや 車夫、又は婦女誘拐等をなす不正車夫をも云ふ。

けんぴ 犬を云ふ。しゆうととも云ふ。
けいあん 裁判所、檢事局を云ふ。
けいちやん 時計を云ふ。
げんき 陰莖を云ふ。
け　さ 錠を云ふ。さんぴんとも云ふ。
けつする 警官が尾行して居る事を云ふ。にほひとも云ふ。
げつぽう 月を云ふ。げつさんとも云ふ。
けづりをやる 飲酒する事を云ふ。

こ之部

ごい 歸る。行く事を云ふ。たろうに同じ。

ござい 田舍者を云ふ。

こつ サクラを云ふ。又齒の事を云ふ。

こつし 大道人齒師を云ふ。

ごと 犯罪行爲を云ふ。

こは 籍を云ふ。

こはし 列車内の商人、同じく掏摸を云ふ。

こはん 印、判を云ふ。

こます 瞞す、誑かす、口說く、胡麻化す、等の意

こみ 合同で商賣し、利益は平等に分配する事を云ふ。又は窃取した金額を平等に分配する事を云ふ。

ごみ 不正行商人を云ふ。朝鮮、支那人を裝ふもの最も多し。

ごみ 窃取する、隱す、包む等其他不正手段の意も含む。ごむとも云ふ。

こみうち こみに同じ。

こみせ 口上なしの露店を云ふ。

ころび たんかばいの一種。さんずんに同じ。

ごろ 喧嘩を云ふ。

ごろまく 喧嘩をする事を云ふ。

こびら 襦袢を云ふ。はんびらとも云ふ。

こまし 辯護士を云ふ。前項こます參照。

こーりゆう 流行を云ふ。からはい參照。

ころや 車夫を云ふ。

ころひき 車夫を云ふ。

ごろ 年頃の娘を云ふ。

ごとかまる 仕事にありつく。即ち犯罪する事を云ふ。

ごとはくい 犯罪が巧妙に行ける事を云ふ。

こはゞ 停車場を云ふ。

さ之部

さじ 醫師を云ふ。

さつ 警察署を云ふ。

さりく 鎖を云ふ。

さんかく 鼻を云ふ。

さんがつ 鼻を云ふ。

さんずん たんかばいの一種。ころびに同じ。

さんたく 澤山、多數なる事を云ふ。

さんたくとひ 雜杳を云ふ。

さきやばい　行先危險だとの意。
さんぴん　錠を云ふ。
ざんぶり　入浴する事を云ふ。
さゝ　竊取せしものが皆書類のみなる事を云ふ。轉じて書類をも云ふ。しよ〳〵に同じ。

し　之　部

じく　錢を云ふ。
しけ(時化)　悪い、不況、厄の意。やく、くやに同じ。
じけい　刑事を云ふ。
しけのねた　贓品を云ふ。たぎもの、たきすものとも云ふ。
しけのめにあつた　酷いめにあつたの意。くやのめにあつたとも云ふ。
しや(者)　何々身内、何々一派、何所其處の者、等の意で例へば、まつまいのじや、ばくらうのしや、どえのしや、ざかのしや、べこのしや、は夫々東京露天商松前屋一家の身内、同じく大阪博勞一派の者、東京の者、大阪の者、神戸の者の意である。
しやげい　藝者を云ふ。
しやてい　弟分を云ふ。
しやり　米飯、轉じて一般食物を云ふ。
しやりつぐ　喫飯する事を云ふ。
しやりねかる　空腹なる事を云ふ。
しやりほやく　喫飯する事を云ふ。
しやりほわえる　喫飯する事を云ふ。
しやりま　女中を云ふ。
じゆうろくばらす　小便する事を云ふ。とーろくばらすに同じ。
じよきん　近所界隈の意。
しよない　秘密、内密の意。
しよば　商賣をなす場所、仕事(犯罪)をなす場所を云ふ。
しんうち　商賣人、又は主任を云ふ。
しんか　菓子を云ふ。あましやりに同じ。
じんきやく　客を云ふ。
じんをしめる　人を集める事を云ふ。略してじんしめとも云ふ。
しやでん　電車を云ふ。
じんてら　プラチナを云ふ。
しんねた　流行品、新商品の意。

じんまぶ　純金を云ふ。
しうと　犬を云ふ。けんびとも云ふ。
しおまち　機會を狙ふ事、又は人を待合はす事を云ふ。
しかり　検事を云ふ。じけん、あかおに等とも云ふ
しけくらひ　失敗せし事、豫期に反せる事を云ふ。
しちがつ　强盜を云ふ。おどりこみ、たゝき、とんとん等とも云ふ。
しようじよう　梅干を云ふ。
しようばいにん　犯罪者を云ふ。
しんしろ　牡丹餅を云ふ。
しんくろ　饅頭を云ふ。
しんた　金錢を云ふ。
しんとくないやちへぐ　强姦を云ふ。きるく参照。
じんばり　好色漢を云ふ。

す 之 部

すい　雨を云ふ。
すいばれ　雨降りを云ふ。
すいばらす　放尿する事を云ふ。
すいびら　手拭を云ふ。すびらとも云ふ。
すいりこー　氷水を云ふ。
すえひろ　扇子、團扇を云ふ。
すがら　硝子を云ふ。
すがらひつ　硝子ペンを云ふ。
すくりん　アイスクリームを云ふ。
すこー　香水を云ふ。
ずまし　手品師を云ふ。
すめ　娘を云ふ。えだ、ごろとも云ふ。
すやい　安い、易い事を云ふ。
ずらかる　逃げる、逃走する事を云ふ。
すりく　藥を云ふ。
ずる　三味線を云ふ。
ずるかじり　三味線彈き、即ち藝者を云ふ。
ずるをかじる　三味線をひく事を云ふ。
ずんぶり　浴場を云ふ。
すこ　頭を云ふ。はんすけとも云ふ。
すびら　手拭を云ふ。すいびらの略。
すたん　簞笥を云ふ。
すみこみ　商店等に住込んで横領、拐帶逃走をなす事を云ふ。

せ 之 部

せいがく 學生を云ふ。
せいがくがせ 僞學生を云ふ。
せぶる 寢る。宿泊するの意。
せぶりあげた 眼をさましたの意。
せぶりあがり 目をさますの意。
せ　み 露店を云ふ。
せみをたす 露店をだす事を云ふ。
せみとば 普通の商家を云ふ。

せつたのかわ 牛肉を云ふ。べことも云ふ。
せぶりかめる 就寢中忍込む事、或は就寢中窃取する事を云ふ。
せぶりがわかい まだ眼を覺して居る事を云ふ。
せぶりがたかい 睡眠の淺き事を云ふ。
せぶりもと 枕元を云ふ。
せんずり 蠟燭を云ふ。
せぶりわかい 睡眠の淺き事を云ふ。
せんずり 手淫を云ふ。

そ　之　部

ぞうろく 中年の男子を云ふ。
そつぺい 刑事を云ふ。
そ　で 刑事を云ふ。
そでつけ 犯罪豫備行爲を云ふ。えりつけに同じ、同項參照。
そーめん 捕繩を云ふ。
そーめんくう 逮捕せられる事を云ふ。

た　之　部

だいきやう 兄弟分を云ふ。
だいへい 軍人、兵士を云ふ。
たかまち 祭日を云ふ。
たかもの 比較的大規模の天幕興行物を云ふ。
たぎす 窃盗犯を云ふ。
だぎすもの 贓品を云ふ。
た　く 口上を云ふ。
たゝき 糶賣を云ふ。
だ　ち 友達を云ふ。れつとも云ふ。
だ　ふ 愚人、馬鹿、間抜けの意。
だれた 說諭される事、ねかれたとも云ふ。
たれた 惚れた事を云ふ。
たれる 惚れる事を云ふ。
たろう 田舍者を云ふ。
たんかばい 大聲を發し長廣舌を振ひ人を集めて商

品を賣捌く露店商を云ふ。
たんかばつたり　大聲を發し嚇かして購はせる事を云ふ。轉じて嚇かす事を云ふ。
たんかばる　大聲を出す事を云ふ。

だいおう　判事を云ふ。
たかまちおい　夜店荒しを云ふ。
たこつり　窓などから室内の衣服其他を竹等にて引掛け、竊取する事を云ふ。
たこびら　獄衣を云ふ。
たこ　教誨師を云ふ。
たなし　萬引竊盗犯を云ふ。
たてまい　[illegible]装を云ふ。
たまびら　猿股を云ふ。
ためあらい　身体検査を云ふ。
たんかゞかるい　口が輕いの意で、自白し易い人は、饒舌家の意である。
たんか　口、言葉の意。
たんかし　辯護士、こまし参照。

ち之部

ちか　ゴム風船を云ふ。
ちぎり　鉛台に金鍍金の指環、わゆびじんぞうとも云ふ。
ちやりする　捨てる事を云ふ。
ちゆうひね　巡査部長を云ふ。
ちよた　白痴、馬鹿の意。ちよーたとも云ふ。
ちよーふ　分配する事を云ふ。
ちらす　賣却する事を云ふ。

ちやいする　捨てる事を云ふ。
ちやうちん　腹を云ふ。
ちやうちんのはりかえ　喫飯する事を云ふ。單にはりかえとも云ふ。
ちようちんやぶれる　空腹なる事を云ふ。
ちやうふぐれ　隱語を知つてろ、隱語通の事を云ふ
ちよた　野郎の意。
ちんぴら　子供、不良少年の意。ごらん、がりこも云ふ。

つ之部

つう　紙幣を云ふ。
づきさか　盃を云ふ。轉じて親分子分の緣、兄弟分の緣を云ふ。

づきさかする 緣を結ぶの意。前項參照。
づきさかをみづにする さかづきを水に流すの意で緣を切る。契を切るの意。
つきづら 食逃げ、無錢飮食するを云ふ。
つなぎ 電話を云ふ。かねぐちとも云ふ。
づまし 手品師を云ふ。
つりま 祭日を云ふ。
づんぶり 浴場、風呂を云ふ。
つえをもて 用心せよとの意。
づかれた 犯跡を察知せられた事を云ふ。
づきがまわる 逮捕の手が廻る事を云ふ。
づたい 屋根傳ひ窃盜犯を云ふ。
つなや 蕎麥屋を云ふ。そーめん、うどんや參照。

て 之 部

でいり 鬪爭、確執を云ふ。ごろの大規模なるもの例へば親分と親分の喧嘩の如きもの。
てつかり 灯、燐寸、電燈、金物を云ふ。
でつちあげる 毆打する、亂打するの意。
でつちる 毆打するの意。
で　ふ 筆を云ふ。
てらぶくろ 提燈を云ふ。
て　ん 上々吉の意。
てん〱 得意の絕頂なる事を云ふ。
てんがい 笠、帽子類を云ふ。
で　か 刑事を云ふ。
でかゞづいてゐる 刑事が尾行してゐる事を云ふ。
て　ら 灯、電燈、燐寸を云ふ。
てんしん 雷を云ふ。
てんつり 天窓より入る窃盜犯を云ふ。
でんこ 家出したもの、浮浪者等を云ふ。
でれすけ 陰莖を云ふ。

と 之 部

どうかい 往復する事を云ふ。
どうかつ 活動寫眞を云ふ。とんかつに同じ。
とざんうち 藥草の効能書を賣るもの。
ど　じ 芋を云ふ。
とつぽい 大きい、太い、廣いの意。
と　ひ 人を云ふ。
とひがさんたくでる 人の澤山出る意で雜沓を云ふ
とまん マントを云ふ。
と　も 原價、原料代、食事代を云ふ。

どや　宿屋、旅館を云ふ。
どやひん　宿賃、宿泊料を云ふ。
とろ　油、脂を云ふ。
どーろり　典獄を云ふ。りやんこ〳〵とも云ふ。
とろぼう　蠑燭を云ふ。
とん〳〵　巧く胡麻化す事を云ふ。
どたろ　田舎者を云ふ。たろう参照。
どべる　贓品其他を隠匿する事を云ふ。
どべあげ　隠匿しある贓品を運搬する事を云ふ。わん〳〵、まいあけ等とも云ふ。
とーろくばらす　小便する事を云ふ。じゆうろくばらすに同じ。
とんすけをうつ　嘘言を云ふの意。
とんすけはくい　嘘言の巧妙なる事を云ふ。前項とん〳〵参照。
とんとん　強盗を云ふ。おどりこみ、しちがつ等とも云ふ。
とんねる　便所或はその汲取口から侵入する窃盗犯を云ふ。

な之部

なお　婦女を云ふ。
なおこまし　女をたらす事を云ふ。
ながしやり　うどん、そば、其他の麺類を云ふ。
なき　願、頼、愚痴を云ふ。
なきを入れる　愚痴をこぼす事、又は無理に頼みたほす事を云ふ。
なぐりこみ　闖入する事を云ふ。
なご　婦女を云ふ。なおに同じ。
なごこまし　女たらし、なおこましに同じ。
なしおと　柔順なる事、又露店商の中口上を述べないもの、即ちこみせを云ふ。
なしをうつ　話する、囁く、密議するの意。
なしんと　總て、皆んなの意。
なま　現金を云ふ。げんなまとも云ふ。
なみんと　皆と一諸に、大勢で一諸にの意。
なり　噂を云ふ。
なりと　隣家を云ふ。
なおすけ　婦女を云ふ。なご、なおに同じ。
なかつぎ　晝食を云ふ。
ながむしかまる　長期刑の判決ありし事。
なげし　帯を云ふ。

なしぐれ　入質した贓品が判明せし事を云ふ。
なしわり　警官が贓品を質屋其他で捜し出す事を云ふ。
なしわれ　なしぐれに同じく贓品を入質、或は賣却した事が判明せし意。
なみのはなくや　よい犯罪の機會を得ぬ事を云ふ。
なみのはなはくい　犯罪の好機會を云ふ。

に之部

にい　父親を云ふ。
につさん　太陽を云ふ。
にほい　尾行者を云ふ。

ぬ之部

ぬしかん　神主を云ふ。
ぬけし　空巣狙ひを云ふ。
ぬけば　留守の家を云ふ。
ぬれ　姦通の意。

ね之部

ねか　無い或は困却するの意。
ねかれた　説諭される事を云ふ。
ねき　飴を云ふ。
ねきすい　水飴を云ふ。
ねす　素人を云ふ。
ねた　品、材料、種の意。
ねたもと　卸元を云ふ。
ねむる　死ぬ事を云ふ。
ねむらす　殺害する事を云ふ。
ねんまん　萬年筆を云ふ。
ねかす　物品を入質する事を云ふ。
ねかつかれる　忍込んだ窃盗が家人に發見される事を云ふ。
ねたあがり　賣却、或は入質して、處分した贓品が警官によつて發見されし事を云ふ。なしぐれ、なしわれに同じ、同項參照。
ねたぎり　萬引を云ふ。おたなし、たたなし、に同じ

の之部

のりきん　乘車賃を云ふ。
のりきれる　空腹なる事を云ふ。
のりひん　乘車賃を云ふ。

のりしろ 乘車賃を云ふ。
の　ご 私生兒を云ふ。
のばす 氣絶さす、或は殺害するの意。
の　び 忍込窃盗を云ふ。
のびし 忍込窃盗犯人を云ふ。
のんと 汽車を云ふ。

は　之　部

ば　い 商賣、又は犯罪を云ふ。
ばいさき 販路を云ふ。
ばいさん 裁判を云ふ。
ばいしけ 商賣不況、又は犯罪の結果豫期に反せる事を云ふ。
ばいにん 商賣人を云ふ。
はくい 美、良、吉等の意。
はくいぼつ 好い客、金の持つてゐる客、又は多額の金錢を所持してゐる者を云ふ。
ばした 妻を云ふ。
はじき 射的を云ふ。
はづれ 場錢、所場代と云ひ、露店の使用料金の事を云ふ。
ば　ひ 馬を云ふ。
はぼく 植木を云ふ。
はやぐる 自轉車、又は自動車を云ふ。
はやば 早めにの意、「あけばははやばにごいしやう。」は、明日は早めに歸ろうの意。
ぱられる 逮捕せられる事を云ふ。
はこのり 列車内の掏摸を云ふ。
はこば 停車場を云ふ。
はつむし 初めて刑務所へ收容される事を云ふ。
は　な 錠を云ふ。
はんすけ 頭、或は懷中時計を云ふ。
はんびら 襦袢を云ふ。

ひ　之　部

ひがば 厠を云ふ。
ひ　く 飲む事を云ふ。
び　た 旅行を云ふ。
ぴたにのる 旅行する事を云ふ。びたふむとも云ふ
ひつじ 紙を云ふ。
ひつじまき 髮結ひを云ふ。
ひつじのろつぷく 封筒を云ふ。
ひつぱりもの 中規模の興行物を云ふ。
ひ　ね 巡査を云ふ。

びら 衣服の總稱。
ひらび 普通の日、平日の意。
ひらば 毎日出る露店場所を云ふ。
びりつり 女郎買ひを云ふ。
び り 娼妓を云ふ。
びりや 妓樓を云ふ。
ぴ ん 現金を云ふ。なまに同じ。
ひんがまり 金持、金滿家を云ふ。
ひんくや 貧乏人を云ふ。
ひんねか 貧困者、貧民、又は懷中無一文なる事を云ふ。
ひんばつたり 金持らしく見せかけ、女の虚榮心を利用して遂に之を誑かす事を云ふ。女をたらす一方法。ものしなこまし參照。
ひんぶり 無理に金を借りる事、轉じて金を強奪する事を云ふ。へんぶり參照。
ぴーどろ 眼を云ふ。
ひらめ 新聞を云ふ。

ふ之部

ふ え カフエーを云ふ。
ふえなご 女給を云ふ。
ぶけい 警部を云ふ。
ぶけほ 警部補を云ふ。
ぶしやう 賭博を云ふ。
ぶしやうねる 賭博をなす事を云ふ。
ぶんしん 新聞を云ふ。或は書。
ふいご 陰莖及陰門、又は交合する事を云ふ。
ふ け 夜更け、忍込竊盜を云ふ。
ふける 逃走する事を云ふ。略してけるとも云ふ。
ふけに行く 忍込竊盜に行く事を云ふ。

へ之部

ぺしやる 喋る事を云ふ。
ぺしやるもの 饒舌家を云ふ。ぺしやりもんとも云ふ。
ぺせん 煎餅を云ふ。
ぺてん 頭、或は帽子、笠を云ふ。
ぺてんぼう 馬鹿、間拔けの意。
へ ろ 鍍金せしものを云ふ。
ぺがをつけた 叱かられる、低頭する、又は壁を破る事を云ふ。
ぺかつけ 壁を破る事を云ふ。又謝罪する事をも云

ふ。

へがば 厠、便所を云ふ。

へがばらす 大便する事を云ふ。くじゆうばらすとも云ふ。

べ こ 牛肉を云ふ。

べこつく 男女交合する事を云ふ。

へんずり 蠟燭を云ふ。又手淫をも云ふ。せんずりに同じ。

へんぶり 無理に金を借る事、即ち强奪する事を云ふ。

ほ 之 部

ほうえい 緣日を云ふ。寶永年間、江戸上野の辨財天より始められたるより。

ぽうか 奉願帳を云ふ。めんちやうとも云ふ。

ぽ つ 客を云ふ。

ぽつちり 小さい事を云ふ。

ほつとで 田舍者を云ふ。

ぼ ひ 紐を云ふ。

ほやく 喰ふ事を云ふ。

ぼんしや 石驗を云ふ。

ほんむし 刑務所を云ふ。かりむし參照。

ほとけ 辯護士を云ふ。こまし參照。

ぼろい 豫想外の收穫(贓品)ありし事を云ふ。

ほわえる 喰ふ事を云ふ。

ほんけ 刑務所を云ふ。

ま 之 部

まえば 前こ云ふ意。

ま き 帶を云ふ。

まきらん 襟卷を云ふ。

まきむし 蛇を云ふ。

まぐれ 夕方を云ふ。

まこま 小間物、まこやまは小間物屋を云ふ。

ま た 猿股を云ふ。

まつさん 掏摸を云ふ。

まつば 針又は編物針を云ふ。

まつぽう 巡査を云ふ。ひねこも云ふ。

まつまひ 昆布を云ふ。

まはか 袴を云ふ。おりひらとも云ふ。

ま ぶ 眞實、衷心の意。

ま ぶ 情婦、情夫を云ふ。眞實に愛すと云ふ意よりか。

まいあげ 隱匿しある贓物を運搬する事を云ふ。わん〳〵、とべあげに同じ、同項參照。
まんじゆう 時計を云ふ。
ま　く 同行者、或は監視者、尾行者の眼を晦まして何れかへ逃走する事を云ふ。

み　之　部

みうち 親分の配下に屬するものゝ總稱。一家、者（しや）等と同じ。
みんさい 催眠術或は氣合術の極意書と稱するものを長廣舌を振つて賣捌くものを云ふ。
みまいに行く 窃盗に行く事を云ふ。
みーてんか 金を持つてゐるかの意。

む　之　部

むかえる 購ふ事を云ふ。
むかう 購ふ事を云ふ。
むされる 留置される事を云ふ。
む　し 刑務所を云ふ。
むしにかまる 入獄せる事を云ふ。
むしま 蝮の油と稱するものを賣るもの。
むしよせば 刑務所を云ふ。
むかで 汽車を云ふ。
むこいり 窃盗に入る事を云ふ。
むしあかり 放免を云ふ。
むしにつく 收監せられる事を云ふ。
むしにん 囚人を云ふ。
むしのをつけ 刑務所官吏を云ふ。
むしふける 脫獄、破獄を云ふ。
むすめ 土藏を云ふ。おそめとも云ふ。
むすめくどき 土藏破りを云ふ。
むすめし 土藏破りを云ふ。

め　之　部

め　ん 顏を云ふ。
めんくや 顏の醜き事を云ふ。
めんち 縮緬を云ふ。
めんちやう 大市等に於て仲間の病氣、其他を救助する爲めに寄附金を募るもので一種の奉願帳である。ぽうかとも云ふ。
めんつなぎ 面會、接見の意。
めんはくい 美人を云ふ。

めんかい　刑事及其他の警官が、犯人の人相を調べる事を云ふ。
めんく　工面する事を云ふ。
めんぐれ　顔なじみの意。
めんち　女物專門の竊盜犯を云ふ。前項めんち參照
めんほう　放免になる事を云ふ。

も　之　部

も　く　煙草を云ふ。
もくいれ　煙草入れを云ふ。
も　さ　度胸、膽、意氣、腹の意。
もさがない　度胸がない、膽玉がない、太腹でない臆病な等の意。
もさこけ　空腹なる事を云ふ。
もさかまり　孕む、姙娠する事、又姙婦をも云ふ。
もさぎり　掏摸を云ふ。
もさたてる　立腹する事を云ふ。
もさやぶれる　空腹なる事を云ふ。
もちづら　拐帶逃走する事を云ふ。
もちや　玩具を云ふ。
ものかな　金物を云ふ。
ものしなこまし　品物を與へたり、見せたりして、女を誑かす事を云ふ。ひんばつたり參照。
も　み　路上に於て行ふいんちき賭博の一種でもみくじの略。
も　や　煙草を云ふ。
もやつれ　煙草入れを云ふ。
もやひく　喫煙する事を云ふ。
も　ろ　好き、……狂、英語の Mania＝狂、に相當するものである。
もんたん　反物を云ひ、もんたんやは呉服屋の意である。
もうりん　巡査を云ふ。
も　さ　袂を云ふ。又掏摸をも云ふ。
もさたぎす　掏摸を云ふ。
もさたげり　掏摸を云ふ。
もろた　竊取せし事を云ふ。かうた、あきないした等に同じ。

や　之　部

や　匕首、兇器を云ふ。
やえんぼう　密告、又は密告者を云ふ。
や　く　厄、下等、惡、醜等の意。
やこん　今夜と云ふ意。

やさ　住居を云ふ。
やさごみ　行商者を云ふ。
やせり　不正行爲で糶賣を云ふ。
やた　膏藥を云ふ。
やぢ　老爺、親爺を云ふ。
やち　陰門を云ふ。
やちば　同衾、交合を云ふ。
やちびら　腰卷を云ふ。
やちへぐ　交合なす事を云ふ。
やちもろ　好色漢、助平を云ふ。
やねた　香具師の商品に適して居るものを云ふ。
やのむ　兇器を所持してゐる事を云ふ。
やばい　危險の意。いそいに同じ。同項參照。
やんじ　爺、又は父を云ふ。
やんば　婆、又は母を云ふ。
やくしのまえ　八日前の暗夜を云ふ。
やばかつた　不成功に終つた事を云ふ。

よ 之 部

よいち　財布、蟇口、胴卷を云ふ。
ようきす　洋酒を云ふ。
ようげそ　靴を云ふ。
ようしやり　洋食を云ふ。
ようふみ　洋文、歐文を云ふ。
ようらん　洋服を云ふ。
よこぼく　齒刷子を云ふ。
よさ　夜、晩の意。
よしこ　陰莖を云ふ。げんきとも云ふ。
よたもの　前科者を云ふ。
よつにかまる　强姦する事を云ふ。
よな　夜、晩の意。
よなつきなみ　夜店を云ふ。
よろく　儲け高を云ふ。
よろくした　意外の收獲で利益になつた事を云ふ。
よいのぞき　夕方を云ふ。
よしこびら　褌を云ふ。
よせば　刑務所を云ふ。
よなし　窃盗を云ふ。

ら 之 部

らつ　顏を云ふ。
らつた　惚れたの意。
らつて　惚れての意。
らつぱ　大言壯語、常に虚言を云ふ。

らび 廣告、ビラを云ふ。
らりこ 愚人若しくは淫婦を云ふ。
らん 衣服を云ふ。
らんはり 衣服を云ふ。
らんばつたり 高價衣服を纏ふたり、又は與へたりして、女をたぶらかす方法を云ふ。ものしなこましの一種、同項及び、ひんばつたり参照
らげ 耳を云ふ。

り之部

りし 尻、臀を云ふ。
りしをぎる 鷄姦を云ふ。
りき 金錢を云ふ。
りきをかむ 委託金の横領費消を云ふ。
りつ 法律に關する書籍、又はそれを賣捌く香具師を云ふ。
りやんこ 典獄、警察署長を云ふ。
りゆーこう 拘留を云ふ。かりむしとも云ふ。

る之部

ルビー ビールを云ふ。
るふ 古物、古着を云ふ。るふてとも云ふ。

れ之部

れつ 友達、仲間を云ふ。
れつてる 額を云ふ。
れんが 刑務所を云ふ。「あかれんが」の略。
れんこん 鼻を云ふ。さんかく、さんがつに同じ。

ろ之部

ろうた 客を云ふ。
ろく 主人を云ふ。又は中年の男を云ふ。
ろくいち 質屋を云ふ。
ろくま 易者を云ふ。
ろくやた 豆腐屋を云ふ。
ろつ 合圖を云ふ。
ろつぷく 袋物、又は腹を云ふ。
ろくじ 死亡、又は寺院、佛堂を云ふ。
ろくじにかへす 殺害する事を云ふ。
ろーそく 手淫を云ふ。
ろーそくかける 手淫をなす事を云ふ。
ろつぷるきひてる 金錢を所持して居る事を云ふ。

わ　之　部

わゆび　指環を云ふ。
わゆびじんぞー　鉛台に金着せの指環を云ふ。
わりごと　悪事、犯罪を云ふ。
わいこがる　恐怖する事、臆する事を云ふ。
わいび　指環を云ふ。
わかろく　若主人を云ふ。
わたり　挨拶を云ふ。
わでん　電話を云ふ。つなぎとも云ふ。
わつぱ　指環を云ふ。わいび、わゆび等に同じ。
わるまけ　悪口、誹謗を云ふ。
わるまけをきる　悪口する、誹謗するの意。
わんのしや　乞食を云ふ。
わんちや　茶椀を云ふ。

麻雀

麻雀に就て

近來、麻雀の流行は著しいものがある。麻雀が流行し初めたのは、大正の初期であつたと思ふ。當時は高尚なる遊戲器具として支那から輸入されたのであるが、近時は一種の賭博器具の觀がある。故に之が取締りの任にある諸賢は、常識として、麻雀に就て知る必要がある。

以下麻雀に關して大略述べる事とする。

麻雀は一名「碰和」とも云ひ、北京語で正式に讀むと、マーチウエ、マーチャオ、と云ふ。上海では、モージャン、廣東ではマーチオと云ふのである。

麻雀と云ふ名稱は馬弔から轉じたもので、麻雀、即ち、麻や雀とは何の關係もないのである。

何んとなれば、馬弔牌の文錢は麻雀牌の筒子に當り萬貫は萬子に當り、索子は索子であるので、多くの人の云ふ如く麻雀の駒を搔き混ぜるごき、雀の鳴く聲に似て居る音がするから、麻雀と云ふのであるなどゝは信んずるに足りぬ憶說である。

又馬弔から轉化したと云ふ說に就ては左の樣な文献がある。

最初麻雀には、中、白、發、東、南、西、北、の駒はなく、萬子、索子、筒子、の一〇八枚であつた。即ち水滸傳梁山伯の一〇八名の勇士を一名宛描いたものであつたが、清朝の頃、揚州の鹽商人間に非常に流行した。

其の當時、陶文毅と云ふ官吏が之を憂ひ、駒に水滸傳山賊の畫像が寫してあることを不都合として、其の行使を禁止した。

處が、鹽商人等は之れに反抗し、宋江の代りに陶文毅の似顏を入れ、山賊の代りに、陶一派の者の似顏を入れて皮肉つたのである。

次に長髮賊の亂の時、軍中で麻雀が流行したが、其の時の麻雀は矢張り鹽商人が用ひたのと同じく、一〇八枚であつたと云ふ事である。

其後、天化、王化、東、南、西、北、等の名札を加へたが、當時も麻雀とは云はず、馬弔と云ふたそうで

ある。

其後浙江の寧波に入つて、筒、索、萬、中、發、白東、南、西、北、の駒を入れて駒數を百三十六としたのであるが、其後次第に複雜化して現今の麻雀となつたのである。

北　西　南　東

白　發　中

筒子

索子

万子

九万　八万　七万　六万　伍万　四万　三万　二万　一万

麻雀の札數は前にも述べた如く、百三十六枚で次の札が四枚宛揃ふて居る。

中、發、白、東、南、西、北

一万、二万、三万、四万、五万、六万、七万、八万、九万

一索、二索、三索、四索、五索、六索、七索、八索、九索

一筒、二筒、三筒、四筒、五筒、六筒、七筒、八筒、九筒

此の麻雀は四人を定員として遊戯をするのであるが、五人でも出來るのである。

麻雀は百三十六札中、七種の役札がある。役札は總數、二十八枚で、之れを風子及中發、白に別けるのである。

風子は、東、南、西、北、の四種で、親は常に東風親の右が南風、親の向ひが西風、次ぎが北風となるのである。恰度方位に反對と見れば間違ひがない。

次に南風を門風と云つて若し之れが一組三枚取れば得點を倍とする。是れを一飜(イーフアン)と云ふ又門風でなく他人の風、即ち字(ツー)であれば特權はないのである。然し、連風(リエンフオン)と云ふ規定によつた場合は別である。

麻雀は四廻りで勝負を決するのである。そして、第一回に東莊、第二回に南莊とし、東莊に東風を取り、南莊に南風を取れば、之れも、一飜(イーフオン)とし、若し同時に

門風であれば兩風と稱する。
東、南、西、北は昔は公、候、將、相、と云つたそうである。
中發白、紅中、發射(金儲)白板の三種は誰れが取つても皆一飜する役札である。又普通の札は筒子、索子、萬子、の三種に分けてある。筒子は圖示せる如く、渦紋に似たる圓を描いたもので之を餅とも云ふ。
索子は長方形の棒の形をして居る之れは績を表はしたもので條子とも云ふ。

麻雀用語解

麻　雀—マーチウエ、マーチヤオ。
(別名)　モーヂヤン。マーチオ。碰和。
馬弔牌—麻雀の古名(馬弔と麻雀とは大分異なるが)
筒　子—麻雀の普通の札で、
一筒、二筒、三筒、四筒、五筒、六筒、七筒、八筒、九筒、
萬　子—之も筒子同樣で、
一万、二万、三万、四万、五万、六万、七万、八万、九万、

索　子
一索、二索、三索、四索、五索、六索、七索、八索、九索
兩翼胴尾
麻雀の說明に用ひたる駒の名で、麻雀の名の起源につき駒を掻き集める時、雀の鳴き聲に似た音がすると云ふから、それに對して「兩翼胴尾の駒あり」と云ふのである。
杯
中、駒の名。最初の麻雀(即ち馬弔)には無し。
發　右に同じ。
白　右に同じ。
東　右に同じ。
南　右に同じ。
西　右に同じ。
北　右に同じ。
風　子
東南西北の四種の總稱で、日本で云ふ親が、東風即ち莊家で、その右に南風、向ひが西風、左が北風の順である。

一翻（イーフウン）—南風（門風）を一組三枚とれば得點を倍とする事を云ふ。
門　風—南風を云ふ。
連風（リエンフォン）—規定によつて設けたる役の一種で、一翻（イーフウン）に類するもの。
東　莊
南　莊
公、候、將、相、昔東南西北、のなきとき此の公候將相を用ひた。
紅　中—金儲けの意で、役札である。
發　射—金儲けの意で役札である。
白　板—役札である。
績——索子にある細長き棒を云ふ。
條—子索子の別名、
二、六、十、（過肩）　振り出し
三、七、十一、（疊天）　振り出し
四、八、十二、（落底）　振り出し
五九—在手。
莊家—東風。

下家—南風。
對家—西風。
上家—北風。
散家—南風、西風、北風の總稱。
王牌—尾から數へて七番迄を云ふ。
落底—東風の持駒を左へ送つて、南風の駒が東風へ來る事。
順子—駒の性質の同じものが三枚揃ふたときを云ふ（中、發、白、東、南、西、北、の駒には順子も塔子もない。）
塔子—駒の性質の同じものが二枚揃ふたときを云ふ
碰（ポン）及び克（コ）—中、東、三万、五筒、等の駒三枚一組にせるもの〻稱で、克は手持の場合に揃ふた事を云ひ、　は他人の捨てた駒を拾ふて一組となした場合を云ふ。地方によりて、倆又は對とも云ふ。（碰（ポン）とは行き遇ふ意味である。）
麻雀頭—又は雀頭—駒の名。
槓子—克（コ）の事を北京では槓子と云ふ。
明槓—手に槓子即ち克（コ）がある場合、碰をやつて、性

質の同じものが四枚となる事を云ふ。
暗槓－自分で、同一の駒四枚取つて來た時を云ふ。
開槓、明槓、暗槓、の爲め一枚不足して上れぬとき、最後の場所から一枚とつて補ふ事を云ふ。
吃－食ふ意味である。
單弔－自分に麻雀、叉雀頭と云ふ同一の駒二枚揃つて居らぬ時に外の四組が吃か碰に依つて全部出來て仕舞つて、手持ちの隱し駒が一枚になつた時を云ふ。
公牌－一や九、或は役札の如きものの總稱である。
王　牌－七對を云ふ。
倒　牌－撒き直しを請求する事を云ふ。
一槓七－數え方(呼び名)
兩槓八－右に同じ。
三槓九－右に同じ。
四槓算了－右に同じ。
算　了－勘定なし。
一圈－各自が、一回宛莊家を勤める事を云ふ。
和了－最後七對を殘して、未だ上るものなきとき、無勝負とする事を云ふ。

四圈－一廻りを一圈、四圈にて勝負を決す。
邊張－一二、八九の搭子を持つて、三及び七を待つ樣な場合を云ふ。
嵌張叉は挾－中待ち、即ち一、三の搭子を持つて二を待つ樣な場合を云ふ。
單弔－麻雀となる一枚を持つて之と同一の駒を待つて居る場合を云ふ。
兩碰－二つの對子を持ち、何れかゞ碰すれば上る樣な場合を云ふ。
自摸－自合で場から取つて來て上つた場合を云ふ。
副底－上つた者には其の得點の外に上り點として、和料、賀禮を附す。即ち副底、賀禮、和料の內一つにて上れば他の二つは上り點として之に附隨する
和料－副底に同じ。
賀禮－副底に同じ。
么二－莊家は收支必ず倍額で、各得點の差額に對し倍額計算で收支する事を云ふ。
二四－莊家、四倍を支拂ふ事を云ふ。
么半－散家が半分支拂ふ定めのときは莊家は得點だ

け收支す。

滿槓—滿點の意である。

天副—莊家が最初、二十四枚取つて已に出來上つて居るもの、又は莊家が棄てた駒で上つたもの。

地副—最初莊家が棄てゝ一廻りせぬうちに上つたもの。

三元—中、發、白の三組を有して上つたものを云ふ

四　喜—滿槓。

三槓子—一飜。

四槓子—滿槓。

十三么九—滿槓。

么　九—一飜。

清一色—三飜。

九連寶燈—滿槓。

混一色—一飜。

對對副—一飜。

手　副—一飜。

槓子開花—開槓して後部より取りたる駒にて上りたるものを云ふ。

海底撈月—王牌とならんとしつゝある際、最後の一枚を自模して上つた場合を云ふ。

十五張滿天飛、或は、十六張不出門、最後より二枚目の駒は滿天飛と云ひ、之を取つたのも持ちの駒を一枚棄てる事を云ふ。

槍槓

嵌張或は邊張又は强槓。已に碰した駒と同一の駒を後に更に一枚取り來つて、之を明槓とし、其の一枚にて將に開槓にて上らんとするとき、之を奪ひ取つて上る事を云ふ。又之を金錢奪取とも云ふ

　但し之れは明槓に限り、暗槓には取れぬ事になつて居る。併し處によつては、邊張、嵌張の場合の如く、一枚のみの駒を待つて居る場合には取れる事に決める處もある。五筒の開花。一筒の撈月兩索の槍槓を滿槓とする處がある、之れは五筒は花の形、一筒は月の形、兩索は槓の形である處から云ひ出したものである。

麻雀と八八花の役の比較

（麻雀）	（八八）
天胡	一、二、四、
地胡	ピカ一
如一百胡	ゼツ
連風	ゼツ
作莊	ミヅテン
下莊	シバリ
王牌	フケ
三元	四光
四喜	五光
清一色	赤丹
混一色	青丹
平胡	素十六
對々胡	クッツキ
十三么九	七丹
么九	七十
三暗槓	三本
四暗槓	二タ三本

跋

本著は

「隱語、夫自体が、恒定的な存在でない。即ち、今日の隱語は必ずしも、明日の隱語でない」と云ふ編者の卑見より、過去に於て使用せられし隱語は勿論、現在使用せらるゝ諸隱語を基礎として、比較し、解剖し、歸納的に、夫等隱語間に存在する構成原則——隱語作製の樣式とも稱すべきもの——を闡明し、之に依つて、現在使用せらるゝ未知の隱語解讀には勿論、將來生れ出づべき新隱語の解讀にも資せんとするものである。

幸ひ、讀者諸彦も此點を諒とせられ、徒らに、一語一句を暗記するの繁を輟め、それらを味了し、推理し、其奥底に横はる構成原則を悟り、及んでは、隱語使用者の心理狀態をも察知し、犯罪搜査上に、卑益を擧げ得らるゝならば、編者の最も欣快とする處である。

猶、亦、他日改版の機を得ば、心理學的、並に犯罪學的見地より、之れが開發を期し居る次第である。

終りに臨み、本書を編するに當り、大阪府立修德館唐田教諭の御厚意と平間君の助力とを深謝す。

猶、本書上梓に當つて、大阪府刑事課長綱島覺左衛門氏、並に課員諸氏、法學士甘糟勇雄氏の御高配を忝うしたることを茲に謹んで深謝す。

昭和甲戌初秋

樋　口　榮

昭和十年六月一日印刷
昭和十年六月十日發行

〔非賣品〕

著者　樋口榮

發行兼印刷者　大阪府警察部警務課　田守丑松

印刷所　大阪府廳內　財團法人大阪府警察官吏遺家族救護會印刷部

發行所　大阪府警察部內　警察協會大阪支部